

第3章 遺物

第1節 陶磁器類

1. 総説

本地点では遺物収納箱にして約1000箱の陶磁器類が検出されている。そのうちの2/3が遺構出土のものであり、やはり同じくらいの数が17世紀後半～18世紀初頭の遺物である。その他の遺物は18世紀後葉～19世紀中葉のものが大部分である。厩になっていた18世紀前・中葉の遺物はほとんど出土していない。

本報告ではこれらの遺物の中でも一括性を重視し、遺物の量の比較的まとまっている遺構を中心に挙げた。その基準としては原則として実測可能遺物が100点以上あるもの、他に特色ある出方をしているもの、時期が限定できるものなどによって22遺構を抽出した（以下主要遺構という）。その他の遺構・包含層出土の遺物は目ぼしいものだけ選び出し、主要遺構の後に掲載してある。

主要遺構の時期（以下本節内で「○号遺構」と書いてある場合は、その遺構から出土した一括遺物の年代ということである。これはその遺構の廃棄年代でもある）は、遺構の生活面Ⅰ～Ⅸ期に対応する。本地点では遺構の保存状況がよかったためまずは層位を優先した。ただしⅠ・Ⅲ期については同一面上であっても遺物に新旧の関係がみられるため、陶磁器類独自に小文字のアルファベットをふって細分した。細分に際しては、陶磁器類の中で最も研究の進んでいる肥前磁器をもとに、焼塩壺の出土状況も加味した。主要遺構の時期区分は下記の通りである。

Ⅰ a 期	309号遺構	532号遺構
Ⅰ b 期	255b号遺構	270号遺構 617号遺構 618号遺構 678号遺構 802号遺構
Ⅱ 期	276号遺構	
Ⅲ a 期	255a号遺構	886号遺構
Ⅲ b 期	391号遺構	395号遺構
Ⅲ c 期	252号遺構	271号遺構 537号遺構 焼土溜り
Ⅳ 期	416号遺構	
Ⅶ 期	233号遺構	245号遺構

VIII 期 1号遺構

IX 期 49号遺構

I a 期の肥前磁器は、肥前磁器編年のII—2期にあたる¹⁾。532号遺構では「みなと藤左衛門」銘の焼塩壺(身AIa類)がまとまって出土している。この刻印は承応三(1654)年までとされるものである。肥前磁器編年とあわせて1630～1650年代の年代観があたえられる。

I b 期からIII b 期までは肥前磁器編年III期に属する遺構である。焼塩壺は1重か2重杵の「天下一堺見なと藤左衛門」(身AIb・c類)である。焼塩壺は身AIa類のすぐ後から延宝七(1679)年に使用されていたとされる。肥前磁器は678号遺構が高台無釉の碗がまだみられることにより1650～1680年代とおさえるが、他の255b・270・617・618・802号遺構は長吉谷窯タイプの碗を主体とすることから1660～1680年代とする。

I 期の遺構は遺構の規模が大きいのということもあるが、大量に遺物を出土する遺構が存在する。532号遺構・678号遺構は本地点中最も多くの遺物を出土した遺構である。

II期も肥前磁器編年III期で、焼塩壺もI b 期と同様である(ただし身AIb類と身AIc類が共伴)。I b 期同様1660～1680年代という年代観があたえられるが、陶器(特に瀬戸・美濃)とかかわらけ・焙烙にも画期が見い出せるものであり、I b 期と同時期とするには問題がある。これ以上年代を限定することは困難であるが、この年代観の中で開きがあると考えられる。

III a 期の255a号遺構は肥前磁器はII期とほぼ同じであるが、焼塩壺は輪積タイプのもの(身AI類)と板作りのもの(身B類)が共伴している。身B類は後述の391号遺構での共伴関係により延宝六(1679)年あるいはそれに近い年代まで上限が求められているものである。肥前磁器の年代観は1660～1680年代と前段階と同じになるが、ここでは焼塩壺の共伴関係をより新しい様相と捉えておくことにする。とはいってものさして年代差はないものと考えたい。886号遺構は資料の少ないくらいはあるが、肥前磁器の年代は三弁花の小鉢(第170図7)があることにより1660～1690年代としておく。焼塩壺は1重杵の「天下一堺見なと藤左衛門」(身AIc類)であるから、下限は肥前磁器の方がさがる。

III b 期は磁器碗がI b 期と同様のタイプが全くみられないこと、「宣明年製」銘の碗(第146図5)、渦福銘の小鉢(第146図15)等から、1670年代～18世紀初頭の年代観をあたえておくことにする。焼塩壺は輪積成形の「天下一御壺塩師堺見なと伊織」(身AId類)と板作りの2重杵「泉州麻生」(身BIa類)が共伴する。この組合わせの共伴関係は文献上からも妥当性のあるもので、出土量的にもしっかりしている。395号遺構については肥前磁器も焼塩壺も出土しておらず、焙烙とかかわらけの形態から時期を類推した。また395・391号遺構とも遺構自体はさほど離れてはおらず、明確なプランがなく廃棄されたような状況を呈しており、標高もそれほどの差はない。

III c 期は肥前磁器編年のIV期にあたるが、後述するように火災による一括廃棄遺物と思われ、1690～1703年の年代をあたえることができる。焼塩壺は(537号遺構しか出土していないが)「御塩壺師堺湊伊織」(板作り成形。身BIII類)で天和二(1682)年以降とされる刻印である。

本期に属する252・271・537号遺構・焼土溜りは遺物はどれも被熱をうけた痕が明瞭に残っている。特に537号遺構は同一文様・器形の皿や蓋が数点～10数点まとまって出土している。252号遺構も碗・皿等数枚揃っていたり、重なって溶着した状態で検出されている。これらの出土状況をみると火災等の災害を容易に想定できるものである。「加賀藩史料」によると、この遺物に見合う火災の記録は天和二(1682)年に類焼の記事と元禄一六(1703)年の類焼の記事が考えられるが、肥前磁器の前述の新しい展開がみられるのは17世紀末～18世紀初頭とされており、元禄一六(1703)年の火災の方が妥当であろう²⁾。

なお537号遺構と焼土溜りの関係は、537号遺構の覆土直上の焼土が焼土溜りで、その焼土は一部537号遺構の覆土最上層にも落ち込んでいたという。また遺物の中には同器形のもの(第161図9と第175図1・2の瓶、第162図4と第174図4の壺)が存在する。これらのことから両遺構の遺物は同一時期のものとして差し支えなかろう。器種組成も両遺構とも磁器の皿・蓋物・瓶等がまとまっており、特異な面をもつものである。

IV期以降については肥前磁器の器種組成の偏りが大きく、また焼塩壺も破片しか出土していないためこれから年代観を示すことは難しいので、遺構の切り合い・層位、絵図との対比によってその年代観を決定した。

VI期は肥前磁器はくらわんか手の碗とコンニャク版を施した同じくくらわんか手の皿が伴出する。VII期にはコンニャク版はみられないことと、遺構の先後関係により18世紀第3四半期と考えておく。この時期より徳利の量の急増がみられ、416号遺構もその例外ではない。

VII期は「寛政七年 二月吉(十?)日」の墨書のある灰釉丸碗が存在すること、またVIII期の梅之御殿直前の遺構と考えられることから下限を享和元(1802)年とおけよう。VII期の233・245号遺構はそれぞれ独立した遺構であるが、同じような組成をもち、この2遺構と106・115号遺構(遺構・包含層出土遺物の方に一部の遺物は掲載)の間には多くの接合関係がみられた。陶器碗、瓦質・土師質土器の火鉢(小形のもの)等には個人所有を示すと考えられる墨書のあるものが多量に検出されている。絵図によるとこの時期は厩になっており、厩に見合う遺構も検出されている。墨書にも「厩」と書かれた陶器碗もある。これらを考えあわせると233・245号遺構は厩の仕事に従事していた人達が使用していたものの可能性が強い。

VIII期の1号遺構は梅之御殿の絵図に記載のある溝(排水溝?)の覆土中より出土した遺物である。磁器の大皿・鉢が多く、碗・小皿が少ないなどやや特異な構成であるが、遺構の性格からも梅之御殿廃絶時の遺物と考えてよいであろう。梅之御殿は文政八(1825)年には存在なかつ

たとされており、1号遺構の遺物は19世紀第1四半期におさまるものと考えられる。

IX期は時期的には梅之御殿以降で幕末の米蔵以前（49号遺構これと切り合い関係にある）にあたる。この年代を限定できうる遺物として再興九谷の民山窯の製品（第199図9）がある。この開窯時期は文政四（1822）年～天保一五（1844）年とされる。また陶器餌入れの「縄（印）」は最後の前田藩主慶寧の「印」とされるが³⁹、慶寧の生年は文政一三（1830）年である。さらに瀬戸・美濃産の磁器がまとまって出土しているが、これは前のVIII期では全くみられないものである。製品として一定量が流通するようになるまである程度の時間差は考えなくてはいけないであろう。このようにみても、IX期の49号遺構は1830年代以降が無難なところであろうか。下限は遺構の方から検討されている文久年間（1861年）以前としておく。

本報告では図版化に際しては残存率が1/2以上で口縁部から底部まで残っているものを原則として選んだ。ただし遺物によって適宜基準は変えており、破片実測したものもある。同一遺構内で同一文様・器形のものが複数ある場合、実測したものは磁器の場合は1個体、その他のものは随意判断した。遺構番号は原則として注記番号と同じであるが、一部相違するものがあり、これは挿図を組む時に統合している。統合した遺構は以下の通りである（左端が最終遺構名）。

276号遺構＝331号遺構

391号遺構＝308号遺構

618号遺構＝679号遺構

678号遺構＝608号遺構＝835号遺構

また255a号遺構と255b号遺構は試掘溝を入れた後に別遺構であることが判明したが、試掘時の遺物は255号遺構として取り上げたため両遺構の遺物が混在している。このため試掘時の遺物は観察表に「255号遺構出土」と明記した（ただし組成の表中では255号遺構の遺物は255a号遺構の中に含めてある）。

個々の遺物に関しては観察表を作成した。観察表の項目についての諸注意は以下の通りである。

(1) 遺物の色調は「新版 標準土色帖」 農林省農林水産技術会議事務局監修 財団法人日本色彩研究所色票監修を使用した、適宜これ以外の色も使っている。

(2) 胎土中の粒子の大きさも上記の「新版標準土色帖」による。

礫 2 mm以上

粗砂 2～0.2mm

細砂 0.2～0.02mm

ただし礫の場合大きさが無限大なので（ ）内に粒径を表示した。

(3) 主要遺構以外の遺構・包含層出土のものは遺構名と時期（包含層のものは時期のみ）を表示したが、遺物量自体が少ない遺構は年代決定が難しいものも多く、また包含層の遺物も層位を細かくみてゆくことは極めて困難であるため、これらはあくまで目安と考えていただきたい。なお以下の各説内では時期的にしっかりしている遺構のみ時期・遺構名の表示をした。

(鈴木裕子)

註

- 1) 以下「肥前磁器編年」と書かれている場合は、大橋康二1989cによる。
- 2) 本遺跡の中央診療棟地点では天和二（1682）年に推定される火災はあっても、元禄の火災をうけた一括遺物はないとのこと（堀内秀樹，成瀬晃司氏の教示による）。また理学部7号館地点では天和・元禄のそれぞれの火災によると考えられる一括遺物が出土している。本地点の場合は天和の火災によると思われる顕著な出土遺物はない。
- 3) (2)陶器の項参照。

2. 各論

(1) 磁器

本地点出土の磁器は最も新しい時期に瀬戸・美濃産と再興九谷窯のものがみられるが、それ以外はすべて肥前磁器である（なお舶載磁器は別項を設けたのでそちらを参照されたい）。以下生産地ごとに概観してゆく。

肥前 肥前磁器は現在陶磁器類の中で最も編年研究が進んでいるものである。大橋康二氏の一連の研究により近世は5期に分けられており、本稿も特にⅠ～Ⅲ期に関しては層位から先後関係をつかむことができないので、この編年を基本に年代観をだした。

本地点で最も古い肥前磁器の一群を検出する遺構は532号遺構である。碗の器形は体部上位が直立し、高台幅・器壁が厚い。第63図11・12は高台無釉のもの、第63図3・7は高台部に鉄釉をかけているもの、第63図8・9は高台無釉の青磁染付碗で、見込に笹文・花卉文が描かれる。第64図1は体部が直線的に開き、黄味を帯びた貫入の入る釉がかかる染付碗（呉須はにじむ）で、百間窯のものと思われる。小杯にも高台無釉のもの（第64図8）がみられる。

皿は小皿が多いが、高台径と口径の比率が1：2～2.7で、高台径の小さいものがほとんどである。一部には第66図1・2・11のように蛇ノ目高台のものもある。

なお309号遺構にも高台無釉の碗が出土しており（第60図1・2）、532号遺構とほぼ同時期と思われる。大皿は胎土が灰白色を呈する鏝縁や折縁の、山辺田窯址群タイプのものである。第62図1は緑と紫で上絵付した古九谷様式の中皿である。

これらの肥前磁器は猿川・窯ノ辻・天狗谷・山辺田・百間窯等に類例がみられるもので肥前磁器編年¹⁾のⅡ－2期にあたる。

次のⅢ期に属する遺構は数が多い。該当するものは255a・255b・270・276・391・617・618・678・802・886号遺構である。ただ本地点ではこれらの遺構を遺構検出面によって分けており、それによると（古）Ⅰ期255b・270・617・618・678・802号遺構，Ⅱ期276号遺構，（新）Ⅲ期255a・391・886号遺構となる。

碗・小杯類は前段階まで釉は生がけが多かったのに対し、この段階では素焼きが施されるものがほとんどである。しかもⅡ期以降になると生がけのものはみられなくなる。前段階のものに比して器厚が薄くなり、高台が低くなる。碗の器形は体部が開き加減で立ち上がる丸碗が主流になる。この碗を文様から細別してゆくと、見込に文様を描いたり（第79図4・6・8，第83図3，第91図1・10，第123図5・10・11・16，第138図2），高台内の1重圈線に「太明」（第91図3，第123図6），または変形文字を描くもの（第79図4・7・8，第83図3，第90図7，第119図3。また圈線がないもの第79図5，第83図4，第90図11，第138図5）から、見込に文様を施さず、高台内に2重圈線を書くもの（第123図11～13，第138図1，第146図3・4）への変遷が伺える。この高台内に2重圈線を描く碗は、純白な胎土で釉調も緻密である。文様も細密に描かれており、Ⅱ期からⅢ期前半にみられる（肥前磁器編年Ⅲ期後半，長吉谷窯後期併行にあたろう）。また銘に関しては「宣明年製」（第90図4・5，第123図10，第138図2・3，第146図5）は1660～80年代とされるもので、本地点でもⅢ期の遺構内のみ認められるものである。「宣徳年製」（第79図2・6・9，第123図3・10・13，第124図2，小杯の第79図13・14，第92図13）「製」（第118図6）はともに17世紀後半に存在する銘とされるが、これらも同様である。

小杯も碗と同じような変遷を辿るが高台無釉のものは碗よりも時期が下っても存在する（第170図3）。

第170図7の小鉢は体部外面に縁取りした中をダミでうめる唐草文を描き、見込に三弁花を施す上質品である。高台内には「宣嘉年製」の銘がわかる。これは柿右衛門A窯と南川原窯ノ辻窯から発見されており1880～90年代頃と考えられる²⁾。見込に四弁花、高台内の渦福銘の第146図15もほぼ時期であろう。

小皿は一部に前時期の様相を残す高台径と口径比の差の大きいものも存在するが（第55図4，第92図15，第125図2），高台径・口径が1：1.8～2のものが多くなる。肥前陶器の銅緑釉輪沱皿からの影響と思われる高台径が小さく、見込を蛇ノ目釉ハギし、青磁釉をかけるものもみられる（第97図17，第124図11。第125図3は高台径が大きい皿であるが見込蛇ノ目釉ハギで、その上に上絵付を施したもの）。

この他成形技法では高台内にハリ支えがみられるようになる。製品そのものも灰白色の胎土

で雑に文様に描くものと、白色の胎土で丁寧に文様を描くものと少なくとも分けられるようである。ハリ支えが後者の方に多いのも注目してよい。釉かけの方法も判断し難いものもあるが、後者のものは確実に素焼きが施されている。

大皿類は前段階にひき続き山辺田窯址群タイプの皿が678号遺構で大量に出土している(第95図, 第96図1・2, 第97図1・2, 第98図1・2, 第99図1・2, 第100図1・2, 第103図1・2。他に第56図1・2; 270号遺構)。これらの皿は高台径が口径に比べて小さく、釉は生がけのものである。一方第84図, 第104図1は高台径の比率が大きく素焼きされ、高台内にハリ支え痕があるものである。第107図1はその中間形態で生がけでハリ支え痕が残るものである(なおこれは高台内の1重圏線内の2重圏線と銘から古九谷様式とされる)。第147図3も灰白色の胎土で釉は生がけ、高台内にハリ支えがある色絵の芙蓉手の大皿である。第125図4(写真40-2 a・bもこれと同一個体であろう)は灰白色の胎土の山辺田窯址群タイプの皿の体部片である。黒で文様を描いた後に、黄色の上絵付で充填している古九谷様式のもの(この276号遺構ではこの他柿右衛門様式の上絵付の碗<第124図1>も共伴している)。青磁の中・大皿は高台内を蛇ノ目釉ハギして、その部分に鉄釉を塗るもの(第52図1)や蛇ノ目高台のもの(第57図2, 第104図2)がある。青磁は香炉にも蛇ノ目高台がみられる(第132図10, 第148図4, 第172図5)。

徳利は底部を挟り込むもの(第66図6, 第120図3; 532号遺構)から高台を作り出すもの(第125図7)へと推移する。

この外の器種としては、678号遺構で色絵の鶏型香合が出土している(口絵10-上)。頭部が欠損しているが鶏が羽根を広げた姿を形どっている。身は上から見ると長楕円形をしている。この種の型物はこの時期に多くみられる。

この時期を代表する肥前の窯址は長吉谷窯と柿右衛門窯(第94図1の鉢, 第170図7の小鉢)で前述のようにそれらの窯址の製品と思われるものも多い。

肥前磁器編年IV期にあたる遺構はⅢ期から続くものとして252号遺構・271号遺構・537号遺構・焼土溜り(Ⅲc期), 最後期として416号遺構(Ⅵ期)がある。

本地点Ⅲc期にみられる丸碗は前段階の器形を受け継ぎ、高台内に1重圏線を描くもの(第132図1・2), または1重圏線内に「太明年製」と書かれるものが現われる(第143図1・2・4, 第172図2)。丸碗でも灰白色の胎土で雑に絵が描かれるもの(第157図2・3)もある。これは「くらわんか手」のはしりといえよう。第172図1は高台内1重圏線内に渦福が書かれる碗で、京焼の影響と思われる低い高台に腰の張る器形のもの。また碗の蓋の出現(第132図8・9, 第157図10)も注目してよい事実である。

小杯は器形的には端反りのもので、碗と同様に高台内に1重圏線もしくは「太明年製」と施される(第157図6~9)。

皿類はハリ支えが一般的にみられるようになる。高台内には1重圈線が書かれるものが多い。第159図1・4は器壁がやや厚く、粗放な絵付で「くらわんか手」の皿の初現のものとして捉えられよう。第157図12, 第160図3は体部中位に段をもつ独得の器形のもので当該期のみみられる。大皿は数は少ないが、素焼きされるものである(第134図1・2)。第134図1は第158図5や第160図3の小皿と同様に縁取りした中をダミで埋める唐草文が描かれている。

この他に当期は蓋物・壺が蓋とセットで大量に出土している。また大形の瓶もまとまって検出されている。

装飾技法としてはコンニャク版が出現する。これは碗・小杯・小皿・蓋・蓋物に施される。第157図10, 第158図3・4はその出現期と考えられる丁寧な作りものである。型紙摺の碗(第157図1)もあるが、これは肥前磁器編年Ⅲ期末の391号遺構第147図4の手塩皿にもみられ、コンニャク版に先行する可能性がある。小・中皿の見込に施される五弁花(コンニャク版のものもある)も量的には目立つものである。

これらⅢc期の遺構はいずれも被熱しており火災等による一括廃棄と考えられ、下限は同一時期に求められる(元禄一六<1703>年の火災にあたると思われる)。

Ⅳ期の416号遺構は、見込コンニャク版の五弁花の小皿と体部に草花文を描く碗(第177図1・2)があり、どちらも灰白色の胎土で器厚の厚い「くらわんか手」のものである。肥前磁器編年のⅣ期の最終期にあたろう。

Ⅶ期の233号遺構・245号遺構の碗は第172図1の系譜上にあると思われる。高台が低く、強く腰が張り体部が直立するものである(第182図4・5, 第186図1・2)。ただ見込に絵や五弁花を描いたり、口縁部内面に四方嚢文を施すのは新しい要素である。

小皿は蛇ノ目凹形高台のものが大部分であるが、第182図1のように見込を蛇ノ目釉ハギした「くらわんか手」の皿もある。当期は層位からも肥前磁器編年Ⅴ期の初頭とされる。

Ⅷ期の1号遺構は大皿が多く出土している。本期は梅之御殿廃絶時の遺物と考えられ、肥前磁器編年Ⅴ期中ばに位置する。

Ⅸ期の49号遺構の碗は高台高が低く、高台径が小さいもの(第189図7)である。他に蓋物の蓋と型打の水滴がある。時期的には肥前磁器編年Ⅴ期後半といえる。

このように本地点での生活面は大まかには肥前磁器編年と同じ流れがみられるものであるが、問題点は17世紀後半～18世紀初頭(Ⅰ～Ⅲ期)と18世紀後葉以降(Ⅵ～Ⅸ期)に分けられよう。前者に関しては本地点では遺構の数も多く、肥前磁器編年も細分されていることから問題点の抽出が比較的容易である。肥前磁器編年Ⅲ期の遺構を本地点では生活面から大きく3期に分けることができる(Ⅰb・Ⅱ・Ⅲa.b期)。ただしⅢc期の遺構のように火災によって廃絶時期が限定されるものではなく、ある程度の時間幅はとらざるを得ないものである。また肥前の磁器

編年は17世紀代はほぼ20年単位で編年がなされているが、遺構一括資料としてみた場合、遺物が伝世しているのか、その時点まで生産していた判断が難しいという事実もある。

この他成作技法では釉の生がけ製品から素焼き製品への交替がみられる。これは概して碗類が早く、すでにⅠb期で大部分が素焼き製品に変わっているが、大皿は生がけ製品が遅くまで残り、素焼き製品が普及するのはⅢc期（17世紀末～18世紀初頭）となるようである。

さらにこれとも関連するが、「上質品」と「粗製品」の初現の問題がある。「上質品」を純白な胎土で丁寧な絵付をするもの、「粗製品」を灰白色の胎土で、器厚が厚く雑に文様を描くものとすれば、Ⅱ期に「粗製品」のはしりと思われる小皿があり（第124図6、第125図2）、Ⅲc期には碗・小皿がみられる（この段階のものは「くわらんか手」の範疇に含めてよいであろう）。Ⅱ～Ⅲ期は碗にはあまり「粗製品」はない。このような「粗製品」は生産地の方でもあまり出土しておらず、今後の窯址調査に期待するものである。

18世紀後葉以降に関しては、本地点では出土量が少なく器種に偏りが目立ち、肥前磁器編年と対応することができないものがほとんどである。ただし層位的には肥前磁器編年より年代幅が短かくおさえられるものであり、遺構一括資料を呈示するだけに留めておく。

瀬戸・美濃 Ⅸ期49号遺構のみで検出されている。第199図10は、文様を筋彫りしその上に呉須で絵付する瀬戸・美濃独得のものである。第199図5・8は、薄手で文様も細密なものである。

再興九谷窯 Ⅸ期の49号遺構から民山窯のものが出土している（第199図9。高台内に「民山」銘あり）。民山窯は文政五（1822）年開窯、弘化元（1844）年廃窯とされる³⁾。胎土は灰白色で半磁胎のもので、赤を基調とした細密な上絵付で内外面が埋められる。

（鈴木裕子・渡辺ますみ）

註

- 1) 大橋康二1989cによる。
- 2) 大橋康二1989aによる。
- 3) 「世界陶磁全集9 江戸(4)」1983年による。

(2) 陶器

本地点で実測図を掲載した主要遺構出土の陶器は約350点である。生産地別に分けると肥前65点、瀬戸・美濃240点、志戸呂18点、信楽4点、京焼系20点、備前7点、丹波1点、不明4点となる。

本項では生産地別に大まかな変遷を述べた後、器能面にみられる本遺跡の特徴についてふれることにする。

なお陶器の名称については、主要生産地である肥前、瀬戸・美濃ともにここ数年でかなり研究に進展をみせてきており、本稿もこれに従った。ただし適当な名称がない場合は本地点独自に名称を付した。その場合は「 」付きで表わしている。

肥前 まず呉器手碗があげられる。腰が張り体部が直線的に立ち上がる碗で、高台は内側の傾斜が緩やかなものが多く断面は三角形もしくは台形を呈し、全面に透明感のある灰釉がかけられる。胎土は肌色から黄味がかかった灰白色で、緻密なものも、ざっくりしたものもある。結果的には胎土の色がほぼ釉の色になる(全面に細かい貫入が入る)。やや小ぶりのものと大ぶりのものがある。出土している遺構はⅠb期の270号遺構(第57図10)、618号遺構(第83図14)を初め、276号遺構(第126図3～6)、255a号遺構(第139図10・11)、886号遺構(第170図9・10)、252号遺構(第136図2)、271号遺構(第144図2)、537号遺構(第164図3～5)と、Ⅰ～Ⅲ期に渡って目立った器形変化もなく一定量の出土がみられるものである。この他にⅠb期では広義の呉器手碗の範中に入れてよいと思われる第83図13、第105図11、第120図6がある。前二者は体部外面に鉄で圈線が描かれている。胎土はにぶい橙色でざっくりしており、全面にこれも透明感のある灰釉がかけられる。第105図11は高台径が大きく高台の断面は三角形で、他のものと違っており時期的なことを考慮すると、古い段階のものの可能性もある。

また第57図8は器厚が薄く、明緑灰色の灰釉総がけ、第105図10は全面透明釉のもの(胎土は褐灰色で器面はオリブ褐色)である。Ⅱ期の276号遺構の第126図11は大ぶりのロクロ目の顕著なもの。体部外面下位にはケズリが入り、透明釉が高台部を除いた部位にかかる(器面はにぶい黄橙色)。Ⅲ期の呉器手碗は(種類に限定されるが、Ⅰb・Ⅱ期のものはバラエティーがある。これは他の碗についても同様で、京焼の影響が大きいと思われる第57図9・11、第105図9の鉄釉碗等はこれより新しい遺構ではみないものである。

さらに京焼風碗も目立つ。これは腰が強く張り体部がほぼ直線的に立ち上がるか、もしくは天目形で、高台内は外側より浅く、中央部に円圈をもち、「清水」「小松吉」「木下弥」等の刻印を施す。体部外面には鉄か呉須で概ねパターンが決まった楼閣山水文を描く。胎土は淡黄色～灰白色で緻密なもの粉っぽいものがあるが、高台部周辺を除いて透明釉を施す(全面に細かい貫入入る)。京焼風碗にあたるものは678号遺構の第106図3、276号遺構の第126図8・10・12・13、255a号遺構第139図5～8、886号遺構の第170図11、391号遺構の第151図5である。このうち第139図7は色絵で花鳥文を描くものである。この他主要遺構外で、白い粉質の胎土で鳥を描くもの(第206図4)、見込に判読不能の文字を書くもの(第206図6)もある。

この京焼風のもの碗の他に、皿(第144図4・5;271号遺構)、鉢(第151図6;391号遺構、第144図6;271号遺構)、香炉(第136図5;252号遺構)もあり、いずれも見込・体部に楼閣山水文を描くが、刻印のないものもある(第144図6)。こうしてみると京焼風の製品は呉器

手碗と同じくⅠb期～Ⅲ期に安定した出土量をみている。

これらのもの以外には、内面に象眼が施される三島手碗(第106図2, 第152図2), 刷毛目碗(第139図9, 第164図2)があるが、量的には少ない。

皿は碗に比べると数は少ないが、小皿・大皿が主である。小皿は見込蛇ノ目釉剥ぎで内面銅緑釉のもの(第140図9・10; 255a号遺構, 第136図8・9; 252号遺構, 第152図5; 395号遺構)がⅢ期に、大皿はⅠ～Ⅲ期にみられるものである。Ⅰa期532号遺構の第67図18・19は折縁の淡黄色の貫入の入る透明釉を全面に施釉したものである。Ⅲ期の第140図11(255a号遺構), 第136図11(252号遺構)は内面刷毛目文の上に鉄釉・銅緑釉の流しがけの溝縁皿, 同じく溝縁皿の第137図1(252号遺構)は内面に鉄絵を描くものである。

碗・皿以外では貯蔵具(壺・甕)が出土している。Ⅰa期532号遺構の三耳壺(第69図1)はこの遺構のみで認められるもので、以降大形の肥前の壺はない。第152図1は水甕であるが、第136図10は小形の壺である。

このように肥前陶器はⅠ～Ⅲ期を中心に展開しており、Ⅳ～Ⅸ期ではほとんど検出されなくなっている。

瀬戸・美濃 碗類は種類が豊富で、かつⅠ～Ⅲ期とⅥ～Ⅷ期は様相ががらりと変わる。

まず天目碗である。中世からの系譜をふむ削り出し輪高台(高台の内側は外側より浅い)で鉄釉施釉のものは²⁾、532号遺構(第67図4), 618号遺構(第83図11), 678号遺構(第105図6・7), 802号遺構(第120図5), 276号遺構(第126図7)で出土している。また同じ天目碗でも大きく体部が開き、削り出し高台だが内側の挟り込みが「ハ」の字状で浅いもの(高台部周囲は銹釉を施釉³⁾)が618号遺構(第83図12)から、白天目が532号遺構(第67図8)から検出される。

532号遺構の第67図3・7は長石釉総がけ(厚く半透明)のものである。どちらも高台は高く、高台内は体部の高さまで削られる。第67図7のような高台作りは瀬戸・美濃製品ではあまりみられないものである。

丸碗は、第105図8(678号遺構)と第126図1(276号遺構)で鉄釉がけのものがⅠb・Ⅱ期にあり、灰釉がけのものはⅡ期の第126図2のもの(276号遺構)を初現とする。Ⅲc期には第144図3のもの(271号遺構)もあり、Ⅵ・Ⅶ期では量的に急増するが、この時期には少ない。Ⅱ・Ⅲc期の製品は口径に比して高台径が大きく、腰はあまり張らない。鉄釉丸碗より大ぶりで異系統であろう。灰釉丸碗はⅥ期の416号遺構で6個体(第177図5～9・12)が検出されている。これらは灰色・緑灰色・淡黄色を呈する灰釉がかかる。器形は腰部が張り、体部はほぼ直線的に立ち上がるか若干内湾する。なおこの丸碗とほぼ同じ器形だが、体部外面に横位の沈線が2本入り、体部外面の灰釉の上に鉄釉の斑点を散らすものもほぼ同量の出土量をみる(以後「灰釉有段丸碗」とする。第177図10・11・14・18)。量的な傾向はⅦ期に至っても継承され

る。遺構の特殊性は考慮に入れるとしても、かなりの量が出土している。灰釉丸碗は233号遺構では第182図9～15、第183図1～11、245号遺構では第187図1～14、第188図1であるが、大ぶりのもの、小ぶりのもの、体部がほぼ直線的に立ち上がるもの、やや内湾するもの、高台内が平らなもの、中央部が円錐状に尖るものがあり、その中でもバラエティに富んでいる。「灰釉有段丸碗」は233号遺構の第183図12～15、245号遺構第186図9～11である。416号遺構でも同様であるが、高台内側は灰釉丸碗に比べて削り込みの角度が浅く、断面をみると高台内側が緩い角度のものがほとんどである。第183図11（233号遺構）は染付丸碗（文様は不明）、第182図8は腰が張る灰釉総がけのもので、京焼の影響の強いものと思われるが、これも染付丸碗に含められよう。

この他Ⅶ期の遺構からは以下のような多彩な碗類が出土している。

丸碗は体部がほぼ垂直にのびるものであるが、柳茶碗に代表される碗類は体部が内湾しながら開くタイプである。主に灰色の灰釉がかけられ、体部外面には鉄で柳文が描かれる（第184図4～6、第188図4～7）。第184図7・8は白泥で刷毛目文を施し、その上に灰釉がけする刷毛目碗も同様の器形である。

鎧茶碗は柳茶碗・刷毛目碗より体部の立ち上がりの角度が急になり、畳付以外全面に施釉されるものである。体部外面には回転押印文がみられる。この器形は第184図10も同じであるが、これは口縁部に呉須釉を施すもの。また第188図3は口縁部に呉須釉と鉄釉を流しがけするもの。これは第186図7と同じ器形で「灰釉有段丸碗」であるが口縁部に前述の釉がかかる。

この他に体部外面中位に数条の沈線が巡り、体部外面下半が鉄釉、内面と体部外面に灰釉を施す腰鎗碗（第182図7）、体部中位に稜があり、体部上半が直線的に立ち上がるせんじ（第188図13）、体部に数箇所窪みがあり、鉄釉がかけられる拳骨碗（第183図16、第188図10・11、第197図2）がみられる。拳骨碗は幅広の畳付に刻印の押されるものもある（第188図10）。時期的には前後するがⅢa期の255a号遺構でも畳付の幅が広くそこに刻印の押される碗が出土している（第139図4）。

小杯はⅠ期の532号遺構で1個体のみ検出されている（第67図5）。これは長石釉がかけられるものである。

皿類は小皿と中皿があり、小皿が主体を占める。その展開の中心はⅠ～Ⅲb期で、Ⅵ～Ⅸ期ではみられないものである。

小皿ではまず菊皿があげられる。内面は型打で、工具によって口唇部は花卉状に、体部外面には鎗が入れられる。Ⅰa期の第62図2・3（309号遺構）第67図12（532号遺構）、Ⅰb期の第118図8（255b号遺構）、第57図12・13（270号遺構）は付高台のもので高台部が高く、その断面形は長方形を呈す。高台内外はナデによって整形される。一方第126図22（276号遺構）、第152

図4(395号遺構)は、削り出し高台と思われ、高台は低く高台内は浅い。高台は断面が三角形である。高台内外はロクロケズリによって整形される。菊花の形状をみてみると、I a期のものは型打がしっかりしており、花卉もきちんと半円形をなしているが、II・III a期のものは、型打が浅くなり、花卉は口唇部に切り込みを入れるだけになってゆく。体部外面の鑄は細く雑に入るものである。

反り皿は体部の立ち上がり際に鋭い稜をもち、体部は外湾するもの。高台は削り出しで低い。灰釉総がけであるが高台内は無釉部が残るものもある。見込と高台内に目痕が3箇所(もしくは4箇所)残る。これはI a期第67図10・11(532号遺構)、I b期の第57図16~18(270号遺構)にみられるのみである⁹⁾。

丸皿は志野丸皿と灰釉丸皿がある。志野丸皿は見込と高台内に3箇所の目痕がある。高台は削り出しである。I a期の第67図14(532号遺構)、I b期の第83図15(618号遺構)とII期の第126図21(276号遺構)にみられるだけで量的には少ない。見込に鉄で絵が描かれる鉄絵皿はI b期の678号遺構、II期の276号遺構からの出土をみる。どちらも古いものは体部に丸味があり器高が高く、新しいものは体部が外側へ開く傾向がある。なお第67図9(532号遺構I b期)は灰釉総がけであるが器形的には志野丸皿と同様である。灰釉丸皿は見込に重ね焼きの痕が残り、高台内とその周囲が無釉のもの。I a期が初現であるが、これは高台が高くその断面が長方形である⁷⁾(第67図16; 532号遺構)。II期のものは削り出し高台で、高台の断面は三角形が多い(第126図14~16; 276号遺構)。III b期の製品は高台径が小さく高台の断面は三角形であるが、高台中央部が円錐形に突出する(第152図3; 395号遺構)。

輪禿皿はI・II期で出土しており、皿類の中で最も多く検出されているものである。I a期(第67図13; 532号遺構)、I b期(第118図7; 255b号遺構、第57図14・15; 270号遺構、第106図5~9; 678号遺構)のものは、折縁になっており、口唇部がつまみ上げられて沈線が入るのが多い。体部は深く、高台は高く断面は台形を呈する。II期の第126図17~19(276号遺構)のものは体部は外反りで、高台は削り出し、高台の断面は三角形で、これは新しい様相と考えられる(ただしIII a期の第140図7; 255a号遺構は形態的には古い様相をもつ)。

これらの断面三角形を呈する削り出し高台は、II期の菊皿・灰釉丸皿にもみられるもので皿類の画期といえる。

中・大皿は量的に少ないが、I a期の第67図17(532号遺構)の中皿は体部は折縁で、口縁部の形状は第67図13の輪禿皿に似る、削り出し高台のものである。同時期の第68図1は葉の形に型打し、内面に呉須で漢字を書くものである。

徳利は本地点では数種類の存在が認められる。鉄釉がけの「舟徳利」(首部が短かく、胴部は砲弾形)はI a期の532号遺構にあり(第68図11)、III b期の第151図2(391号遺構)にもみら

れるが、これと交替するように灰釉がけ（底部周囲は釉ふきとりで、灰釉の上に緑釉斑）の徳利 B⁹⁾（第140図3；255a号遺構）と飴釉の上に主部はうのふ釉がけで胴部は下ぶくれの徳利 A'（第140図6；255a号遺構）が現われる。III c 期には徳利 A（A'のなで肩のもの。胴部は下ぶくれにならない）が認められる（第145図6・7；271号遺構，第164図9；537号遺構）。VI期には A（もしくは A'）がみられるが，III c 期では横に突出していた口唇部は外側に折り返しとなり，肩部が張り胴部はずん胴になっている。釉も黄釉か灰釉である（第178図6～11；416号遺構）。VII期には B があるが，これも口縁部が折り返しとなり，III a 期と違って底部周囲は無釉になる（第184図15・16；233号遺構，第189図5・6；245号遺構）。VIII期には A・B・C ともみられるが，どれも VII 期より肩が張るものである（第197図7～13；1号遺構）。A の口縁部の折り返しは断面三角形を呈する。IX 期も形態的にはさほどの変化は認められないようである。なお徳利は III c 期以降は著しい量の増加が認められる器種である。

片口は腰が張り，体部が垂直に立ち上がる角形のもの（片口 I）と，腰があまり張らず内湾しながら立ち上がる丸形のもの（片口 II）がある。片口 I は I b 期（第83図16；618号遺構）と III a 期（第140図2；391号遺構）にみられ，片口 II は，後出で II 期（第128図3；276号遺構）と III c 期（第145図3；271号遺構，第166図7；537号遺構）で出土しているどれも鉄釉がけのものである。

香炉はほぼ全時期を通じてみられるものである。小形のもの（香炉 I），大形のもの（香炉 II），偏平で袴腰形のもの（香炉 III）に大別される⁹⁾。香炉 III は I a 期の532号遺構のみで検出されている（第68図3）。香炉 II は I a 期532号遺構，I b 期の第106図11（678号遺構）のものは器高が高く，III a 期の第140図1（255a号遺構），III b 期第136図7（252号遺構。これは御深井釉で摺絵を施す）のものは器高が低い¹⁰⁾。香炉 I は III c 期に半菊文の彫り込みが施されるものがある（第145図4；271号遺構）。これは IX 期の49号遺構のもの（第199図14・15）に系譜的にはつながると考えられる。また足は III 期まではみられる。足そのものの形は縦長の I 期と横長の II・III 期と違いがある。

この他特徴的な器種を2，3あげると，まず茶入れがある。I b 期の802号遺構から肩衝形のもので検出されており（第120図8），この種の製品の蓋が III c 期の第164図1（537号遺構）にみられる。IX 期49号遺構の餌入れ（第199図17～29）は14個体が一括出土しているものである。

また全体を通してみると小皿がなくなるのが III b 期，徳利の出現が III c 期で以後は出土量が増加する。灰釉丸碗は II 期にみられ，VI・VII 期に急増するものである。また VI 期には仏花器・仏飯具・半胴甕と，片口土鍋という陶器の煮沸具が現われる。VII 期には土瓶が，VIII 期にはさらに器種が増加し，土鍋・植木鉢・水甕・石皿等がみられるようになる。このように瀬戸・美濃の製品は播鉢を含めて，器種の多様さとその量の多さにおいて他の生産地に抜きん出るものが

ある。

最後に写真のみ掲載してある遺物についてふれておく。写真51—11は532号遺構出土の織部の鉢(向付)。にぶい赤褐色と灰白色の土の練り込み。内面は粗い布目痕が残っている。内面と体部外面に鉄で文様が描かれ、長石釉・緑釉がかけられる。同12も同遺構検出の鉄絵を描く変形皿と思われる。胎土は灰白色の粗いもので、長石釉が内面にはかけられ、鉄で条線・梅花を描いている。アーチ形の貼付の足が1個残っている。

織部は図示したものが1点(第207図3)の他に、270号遺構から総織部の折縁の小皿の破片、391号遺構から底部片が出土している。また志野折縁皿片が678号遺構より、碁笥底の皿の破片が270号遺構より検出されている。

志戸呂 にぶい赤褐色～にぶい橙色か灰色を呈する混入物のほとんどない緻密な胎土のもので、器種は徳利と灯明具((6)灯明具の項参照)がある。徳利はI a期第68図12(532号遺構)のものが最も古い。これは口縁部が張り出し、口唇部が直立するもので、胴部はかなり張ると思われる。II期以降に認められる徳利は砲弾形を呈する器形で、胴部は銹釉を施した後に首部に鉄釉系の釉がかけられる。これはIII c期の第165図1～4、第166図1～6(537号遺構)とVI期の第178図13、第179図1～6(416号遺構)にまとまった出土量をみるものである¹¹⁾。新しくなるにつれて横に突出する口縁部が折り返しに、胴部上位から中位が張り出し、底部際に横位のケズリが入るという変化がみられる。また胎土の色も明るくなる(にぶい橙色)傾向がある。

ここで注目すべき点はI a期の徳利が瀬戸・美濃産のものにも同種のものが存在することと口縁部形態の変化がこれも瀬戸・美濃の徳利Aと同様であるということである。特に後者は時期的にもほぼ一致している。

信楽 四耳壺がみられる。これは腰白壺とよばれるもので、灰白色で長石粒を大量に含む磁器質の胎土のものである。III b・c期(第136図12；252号遺構、第167図1・2；537号遺構)とVIII期(第196図2；1号遺構)にみられるが、古いものは胴部上位に、新しいものは胴部中位に最大径がある。

京焼系 京焼に関しては現状では窯址の発掘が行われておらず、また製品そのものも不明な部分が多いため京焼系で一括した。この京焼系のものは胎土はバラエティーに富んでいるが成形技法・器形・釉等から一群のまとまりとして捉えることができる。

器種は碗がほとんどであるが他に鉢(向付)がある。

本地点ではI b期からIII c期までの製品とVII・VIII期の製品に大きく分けて考えた。前者のものは胎土・器形・器種に特徴がある。第136図1・6(252号遺構)は明褐灰色の緻密で混入物のない胎土のもの。第106図1(678号遺構)、第126図9(276号遺構)、第136図3・4(252号遺構)第206図4は灰白色で混入物のない緻密な胎土。第206図11～13は浅黄色の胎土で灰釉は

刷毛塗りである。器形も独得なものでたとえば碗では、体部の立ち上がり際にくっきりした稜をもつもの（小杉碗形。第136図1）、体部に窪みのあるもの（第126図9）、体部が大きく開くもの（第136図3・4、第206図14）がある。高台は京焼風の肥前のものに比べて体部と同じ高さまで削られていて、高台径も小さい。器厚も薄く仕上げられる。高台内に刻印が施されるものも多いようである¹²⁾。絵付は鉄と呉須併用のものが多いが、色絵の碗もあり（第206図12）これには金彩も使われている。

VII期以降のものは小杉碗¹³⁾が主である。体部の立ち上がり際に鋭い稜があり、体部外面に呉須と鉄で小杉文が描かれる（第184図11～14；233号遺構、第189図1～3；245号遺構、第197図3；1号遺構図3）。第184図1（233号遺構）、第188図15・16（245号遺構）は透明釉と鉄釉のかけ分け碗、第188図12・14（245号遺構）は長石釉がけの碗である。これらは浅黄色で混入物がないう緻密な胎土のもの。第198図6（1号遺構）、第205図8は文様に白泥を使用している。これは少なくともIII期までのものにはみられない新しい手法といえる。

備前 量的にはわずかであるが、瓶と甕・小壺・鉢がある。瓶の中でIII c 期の271号遺構（第145図5）と焼土溜り（第176図2）出土のものは緻密で堅緻な胎土のいわゆる献上手のものである。

生産地不明 第120図7（802号遺構）は器厚が厚い抹茶碗と思われる器形のもの、第200図9（49号遺構）は素焼きのものに白・黒・緑の絵具で絵付し、透明釉が施されていたと思われるもの。器形的には白山四丁目遺跡に類例がある¹⁴⁾。第207図2と同様に軟質陶器とされるものである。ただし、前者は非在地系のもの、後者は在地系のものと思われる。第207図4は、茶道具と推測されるもので他に類例をみない。

次に陶器の器能に起因する各種の使用痕について述べることにする。

徳利の釘書・墨書について 近年江戸遺跡では瀬戸・美濃産の灰釉徳利（徳利A・B類）にみられる釘書に関する論考が幾つか発表され、徳利の器能ひいては生産流通に及ぶ問題までが論じられている¹⁵⁾。本項ではそれらの研究をうけて当地点で検出された釘書についてふれる。なお主要遺構外の遺構出土のもので字が欠損していないものを第206図に呈示した。

また瀬戸・美濃の灰釉徳利と同様の記号が志戸呂産の徳利に墨書でみられる。両者とも液体を入れる、しかも消耗品的に扱われた製品であり、この墨書は瀬戸・美濃産の徳利と意味するところは同じと考えられるものである。炆器質の志戸呂の胎土では釘書をすると割れる恐れがあったからであろう。

本地点で釘書きが最初にみられるのはIII期で、第209図1は「㊦」同図2は「山」、同図3は「小二」、同図7は「ハヤ」とあり、すべてベタ¹⁶⁾である。VI期の第178図10は「山本」と読めてベタ、第209図4は「久〇」（と読んでおく）、同図6は「久上七」で点刻である。このうちの「久

○」はⅦ期の第189図6・7（点刻）にも施されるものである。第184図16は判読不能であるが、同図15は線刻で「山川」と読める。他には第189図8が「いせや」、同図10が「𠂔」である（どちらも点刻）。Ⅷ期では第197図8が「ハ上」、同図10は破片資料より「𠂔」と思われる。Ⅸ期は第200図5が「大」、第209図5が「ハ半」である。Ⅷ・Ⅸ期のものは欠損して判読不能のものも含めてすべて点刻である。釘書の技法はベタ→線刻→点刻とされており¹⁷⁾、これは本地点でも首肯されるものである。

小林謙一1989はこの釘書を酒屋の屋号としており、とすれば本遺跡理学部7号棟地点で「久○」が最も多く、また「𠂔」「大」「ハ半」がみられることは同じ加賀藩邸内にある遺跡としてこの説を指示しうることもなろう¹⁸⁾。

一方志戸呂の徳利に書かれる墨書はⅢc期にみられる（第165図1。ただし判読不能）。Ⅵ期のものの底部には「久○」と書かれる（第179図3～6）。これは瀬戸・美濃の徳利と同じ記号である。ただ志戸呂の場合、胴部に底部とは違う文字・記号が1、2箇所施される場合が多いようである¹⁹⁾。今後の類例の増加を待ちたい。

また徳利の墨書に関してⅢa期の瀬戸・美濃産の（最も古い灰釉徳利（第140図3；255a号遺構）の底部に墨書がみられる。このことから釘書より墨書の方が先出の可能性のあることを記しておく。

その他の墨書・刻書について まとまっているものとして416号遺構（Ⅵ期）、233・245号遺構（Ⅶ期）と49号遺構Ⅸ期があげられる。

416号遺構は灰釉碗（第177図9・12・13）・半胴甕（第178図4）・蓋物（第177図16）に墨書がみられる。どれも意味不明であるが、碗の高台内に施されるものは233・245号遺構の例からすると、個人の所有を示すといえそうである（特に第177図12は花押？）。第177図16の蓋物は唐草文が描かれる。同じ蓋物で「徳」と書かれるもの（第207図1）があり、用途を考慮するとこれも個人所有を示すものであろうか。

233・245号遺構の碗の高台内（豊付）に墨書が施されるものの中には、「勘一」とあるもの（第187図7）、「文蔵」（第188図1）がある。また233・245号遺構と一連のものと思われる106号遺構でも「半左衛門」と花押（第205図6）、「宇右衛門」（第205図7）と書かれる碗があり、これらの墨書は個人名と考えられる。第187図12は花押に「仁印」とある。この「仁印」も個人名を表わすものと思われる（後述）。さらに第182図14の「厩紋右」は「厩」の「紋右衛門？」等の人名を容易に推定できよう。これは第182図15の「厩紋」も同様である。こうしてみると、第182図10・11、第183図12、第184図11、第187図9・13、第188図14の高台内に1文字が書かれる碗は個人名から1字とったものであろう。判読不能や意味不明の文字も個人の所有を示すと考えてよさそうである。

それと前出の「厩紋右」の「厩」,「厩方」の「厩」,第187図12の「厩方」の「厩」(「厩方」の意味は不明。あるいは役職名か)は絵図の示す通り本地点が厩だったことを実証する一つの証拠でもある。つまりこれらの墨書碗は厩で働いていた人達が使用していたものとする事が可能である。

また233・245号遺構(関連遺構として106号遺構)では碗のみならず,陶器蓋物(第207図1),瓦質・土師質土器の火鉢(第190図6・8,8は刻書。第213図1にも刻書)にも同様の墨書が施されている。火鉢は手焙りともいわれる小形のものである。これらの中で第207図1の蓋物の底部に書かれる「徳」の字は,第188図14の碗の字によく似ており,これでセット関係も考えられよう(碗の第182図10と第187図13の「本」の字も崩し方が似ている)。

以上の意味以外の墨書が第188図11にみられる。「寛政七 文蔵 二月吉(十?)日」と畳付にあるもので,「文蔵」は前述のように人名と思われる。「寛政七」は寛政七(1896)年で間違いなからう。この拳骨碗は第183図16と第188図10と同種の製品で一括資料として齟齬はない。しかもⅦ期の245号遺構と233号遺構は同時期で,層位的にも寛政七年を含むものである。

49号遺構の墨書陶器は餌入れと捏鉢の底部に書かれるものである。

第200図2の捏鉢には「纏印 松の間溜り三ツの内」とある。「松の間溜り」「三ツの内」は意味不明,「纏印」は成尊閣所蔵の伝世品から前田藩の最後の藩主慶寧の「お印」とされる²⁰⁾。「お印」は大名華族の間の習慣で,その個人の所有のものにつけられていたニックネームである²¹⁾。餌入れ(第199図16)に「御鳥御用」とあり,これもその傍証とならう。同時にこの墨書は餌入れの器能の傍証ともなっている。餌入れはその大きさからニワトリなどの家禽ではなく,もっと小形の飼鳥と思われる²²⁾。また水入れとしても利用されたことは想像がつくものである。慶寧がかわいがっていた小鳥だったのであろうか。なお慶寧は天保元(1830)年に生まれて,慶応二(1866)年に第14代藩主となっている。層位的にみても「纏(印)」の墨書は妥当なものである。

さらに築山から畳付に墨書のある捏鉢が2点出土している。第207図8は「梅御殿 福印 御」,第208図1は「梅殿 福印 膳所」とある。「梅御殿」「梅殿」は享和二(1802)年に造営された梅之御殿で間違いなからう。「福印」については梅之御殿は当主(当時12代斉広)の先々代の夫人の寿光院のために造られており,当主を指すのではなく寿光院を示すとも考えられる²³⁾。「膳所」は調理関係の部屋であろう。築山の下から梅之御殿の礎石は検出されており,これらの遺物は梅之御殿廃棄時のものと思われる。

第207図2は,円筒形の花生と思われるもの。胎土は在地系土器に似るが,形態は他に類例をみないものである。体部に焼成前の刻書で「寛政十一末 五月」と書かれる。寛政十一年は己未の年で1899年にあたる。「幽泉」は雅号と思われ,恐らく製作者の名であろう。単独出土。

このようにみてみると、陶器の墨書はⅠ～Ⅲ期よりⅥ期以降が圧倒的に多く、また大方は個人名を表わしている。これは瓦質・土師質土器に付される文字の性格と類似しており、墨書かわらけの文字とは性格を異にしている。さらに徳利のものとも相違する。それぞれの器種に応じた使い分けが行われていたことが推測できよう。

こと陶器の墨書、特に碗に関しては個人の主張、市民階級の台頭が考えられる。同時に文化水準の向上という指摘も見逃せない²⁴⁾。

使用痕・二次加工痕のある陶器について 使用痕として顕著なものは碗の見込と体部に残る線状の擦痕である。方向・程度は観察表を参照願いたい。概ね見込が回るような、体部内面が横方向(つまり回るような)、体部外面が不定方向のことが多い²⁵⁾これは碗を洗う時につく痕であろう。天目碗の見込の擦痕は茶筌の痕であろうか。ただし釉によっては擦痕の残りにくい製品もあり、擦痕のあるなしによって使用期間の長さを速断するのは危険と思われる。

香炉の口唇部には敲打痕がみられる。顕著なものもそうでないものもあるが、第68図5を除いた香炉すべてに認められる(第68図3～5, 第106図11, 第140図1, 第145図4, 第199図14・15), 第68図5は体部上半部を打ち欠いた後再利用しているものである。使用痕の形状・部位、また香炉の器形は瓦質・土師質土器の火鉢(手焙り)に似ている。火鉢の敲打痕はキセルによるもので、灰落としに転用しているとの指摘があり²⁶⁾、ここではそれを指示しておきたい。

第120図5は天目碗の口唇部が磨滅しているもの。本来の器能以外の使用痕と考えられるがその用途は不明。

瀬戸・美濃の灰釉徳利(第178図11, 第197図10・12, 第200図3), 第176図3の四耳壺の口唇部の磨滅は使用によるものであろう。どちらも中身が入っている状態では蓋が想定できる。

一方二次加工痕がある製品は、まず第139図12の壺は上半部を落として、2箇所切り込みをいれるものである。灰落としに転用したものか。第179図3は底部に穴が開けられる。植木鉢としての再利用が考えられよう²⁷⁾。第197図14は灰釉徳利の肩部より上を欠いたもの。内面には全面に鉄分が付着しており、歯黒壺にしたものであろうか。

(鈴木裕子)

註

- 1) 肥前陶器に関しては大橋康二1989b, 瀬戸・美濃陶器については藤澤良祐1989 VI. 本業焼の諸段階による。
- 2) 藤澤良祐1989 IV. 本業焼の諸段階の天目Ⅰにあたる。
- 3) 藤澤良祐1989 IV. 本業焼の諸段階の天目Ⅱにあたる。室町D窯に類例がある。
- 4) 藤澤良祐1989 IV. 本業焼の諸段階の丸碗Ⅱにあたる。
- 5) この碗は体部に数箇所凹みがあり、体部外面下半が錆釉、その他に灰釉を施するもので、京焼の影響が大いと思われる。

- 6) 255a号遺構のものは255b号遺構の混入と考えられる。
- 7) 高台は貼付か削り出し高台か不明。
- 8) 徳利に関しては藤澤良祐1989 IV、本業焼の諸段階では本地点で出土しているタイプがないものもあるため、長佐古真也1988の分類によった。
- 9) 藤澤良祐1989の分類に属さないもの(第68図4・6, 第178図2, 第189図4)があることを記しておく。
- 10) 器高が高いものから低いものへの変遷も仮定できよう。
- 11) 本遺跡の理学部7号館地点では19世紀代の出土例はないとされる。本地点の破片数でも同様の結果がでている。
- 12) 肥前産の京焼風陶器も含めて、刻印が付されるのはI b～III c期であることをつけ加えておく。
- 13) 小杉碗は信楽の窯址からの表採品があるが、胎土は第184図1, 第188図12・14～16と似ており、信楽・京焼の実態が不明である現在分類の基準が曖昧である。よって本稿では「京焼系」とし、観察表には小杉碗のみ(信楽?)とした。
- 14) 「白山四丁目遺跡」p. 80第55図16。ただしこれは陶器(京焼)である。
- 15) 長佐古真也1988, 秋元智也子1989, 小林謙一1989等。
- 16) 技法のバリエーションは長佐古真也1988に準ずる。
- 17) 長佐古真也1988による。
- 18) 本遺跡病院地点でも「久〇」「Ⅲ」が最も多い釘書きであるとのこと。松下理恵氏の教示による。
- 19) 旧芝離宮庭園遺跡に類例がある。
- 20) 成尊閣館長佐藤満雄氏の御教示による。
- 21) 西田泰民1988, 蜂須加年子1957による。
- 22) 小林克1988によると江戸時代後期に小鳥を飼うことが流行したという。
- 23) ただし第187図12は使用人が使ったと思しき灰釉丸碗に「仁印」とあり、「お印」を使えた身分については検討の余地がある。
- 24) 小林謙一1989による。
- 25) 磁器の碗・皿も同様。
- 26) 小林謙一1986aによる。
- 27) 本地点では、瀬戸・美濃の灰釉徳利や半胴壺の底部に穿孔する例がみられる。理学部7号館地点でも同様の指摘がある(秋元智也子1989)。

(3) 擂鉢

本地点出土の擂鉢は、その2/3近くが、I～III期に属する遺構、またはそれに比定される包含層から出土している。すなわち、下限が18世紀初頭までにおさまるものが半分以上を占めており、他の陶磁器と同じようなあり方を示している。一方、残り1/3はほとんど18世紀中頃～19世紀前半の資料であるが、I～III期に比べ遺構出土の一括資料に乏しくなる。

出土資料は、胎土・成形方法・器形の違いからA～Dの4類に大別した。これはほぼ生産地ごとの分類にあたる。

A類 観察表に「信楽系」と記載されているものである。白色粒・透明粒(長石粒・石英粒)を多く含む灰色～燈色の胎土でロクロ輪積成形¹⁾のもの。

B類 観察表に「瀬戸・美濃」と記載されているものである。ややパサパサしている灰白色～淡黄色の胎土でロクロ水挽き成形と思われるもの。銹釉・鉄釉・柿釉が施される。

C類 観察表に「備前系」と記載されているものである。無釉・焼締めの赤褐色系の胎土でロクロ輪積成形のもの。

D類 A～C類以外の生産地で出土量が少ないもの、または生産地不明のものを一括した。

なおこれらの量的な推移は第1表または「3. 組成」の項を参照されたい。

以下、製作技術と口縁部形態に注目し、細分を行った。

A類は製作技法の違いから2つに分かれる。

AⅠ類 ロクロ輪積成形で、その後ナデが施されるが、ナデが弱く体部外面に成形時の指頭痕がみられるもの。

AⅡ類 ロクロ輪積成形で、その後の強い横位のナデによって顕著なロクロ目を残すもの。

さらに口縁部形態と照らし合わせて次のようになる（第27表）。

AⅠa類 体部から口唇部端面まで外面ラインが直線的であり、内面は横位のナデの強弱と境目の浅い凹線によって、口縁部と体部が区別される。口唇部端面はほぼ平らで、外縁帯は意識されていない。532号遺構（Ⅰa期）出土の第70図1・2・4、第71図1、270号遺構（Ⅰb期）出土の第58図2、617号遺構（Ⅰb期）出土の第80図8・9、618号遺構（Ⅰb期）出土の第85図2、678号遺構（Ⅰb期）出土の第107図3、276号遺構（Ⅱ期）出土の第127図2、255a号遺構（Ⅲa期）出土の第141図1が該当資料である。この中で532号遺構でみられた口縁部内側の肥厚と（口縁部・体部の）境目の凹線は、時期が下るとみられなくなる。

AⅠb類 口縁部外面に縁帯をもつものであり、縁帯の形状により3つに分けた。

AⅠb類は、本地点において出土量が最も多いものである。AⅠa類の532号遺構出土のタイプが変化するものと思われ、その口唇端面が縁帯を意識した作りとなる。体部から口縁部の立ち上がりは、内面が直線的で、外面が突出する断面三角形を呈するものが多い。該当するものは、309号遺構（Ⅰa期）出土の第62図5、532号遺構（Ⅰa期）出土の第70図3、第71図2、270号遺構（Ⅰb期）出土の第58図1、617号遺構（Ⅰb期）出土の第80図7、618号遺構（Ⅰb期）出土の第85図1、678号遺構（Ⅰb期）出土の第107図4・5、第108図1～4、第109図3、110図1～4、276号遺構（Ⅱ期）出土の第127図1・6・7、255a号遺構（Ⅲa期）出土の第141図2～4、391号遺構（Ⅲb期）出土の第151図7・8、537号遺構（Ⅲc期）出土の第167図3である。ただ、この中で第107図4・5は細分される可能性がある。

AⅠb₂類は、折返し、または貼付により少し厚みをつけた縁帯をもつもので、そこに横位の太くて浅い沈線が巡る。体部から口縁部への器形は、縁帯のつくあたりが指ナデに伴い、やや急な立ち上がりをみせる。実測図掲載資料では、309号遺構（Ⅰa期）出土の第62図6、678号遺構（Ⅰb期）出土の第107図2がこれにあたる。本類は、京都の同志社大学キャンパス内遺跡²⁾や東京の喜多見氏陣屋跡遺跡³⁾からも出土しており、出土状況・共伴遺物などから、17世紀前半

第1表 播鉢生産地別集計表

		瀬戸・美濃		信楽系		備前系		その他・不明		計
		破片数	%	破片数	%	破片数	%	破片数	%	
I 期	255b号遺構	2	28.6	5	71.4					7
	270号遺構	22	28.2	54	69.2			2	2.6	78
	309号遺構	1	4.2	23	95.8					24
	532号遺構	61	27.5	141	63.5	3	1.4	17	7.6	222
	617号遺構	4	7.8	47	92.2					51
	618号遺構	1	9.1	10	90.9					11
	678号遺構	85	30.6	192	69.1			1	0.3	278
	802号遺構			16	100.0					16
II 期	276号遺構	37	40.7	54	59.3					91
III 期	252号遺構	32	72.7	8	18.2	4	9.1			44
	255a号遺構	36	39.6	55	60.4					91
	271号遺構	8	25.0	24	75.0					32
	391号遺構	19	24.4	58	74.4	1	1.2			78
	395号遺構	2	20.0	8	80.0					10
	537号遺構	25	86.2	4	13.8					29
	886号遺構			56	100.0					56
	焼土溜り									
VI 期	416号遺構	9	31.0	5	17.2	15	51.8			29
VII 期	233号遺構	5	26.3	3	15.8	11	57.9			19
	245号遺構			5	33.3	10	66.7			15
VIII 期	1号遺構	5	31.2	3	18.8	8	50.0			16
IX 期	49号遺構	3	14.3	7	33.3	11	52.4			21
計		357	29.3	778	63.9	60	4.9	23	1.9	1218

255a号遺構は255号遺構を含む

から後半中葉くらいに消長がおさまるものと思われる。

A I b₃類は、口縁部外面に2本の沈線が巡る縁帯をもち、それが直立しているものである。口唇部端に平坦な面がみられる。532号遺構（I a 期）出土の第69図4，617号遺構（I b 期）出土の第80図11，678号遺構（I b 期）出土の第109図3，276号遺構（II 期）出土の第127図3・4，886号遺構（III a 期）出土の第171図6～8が該当する。

A I c類 体部から口縁部への立ち上がりは直線的で、口唇部は丸棒状を呈し、内面の口唇部直下に1本の沈線を巡らせている。532号遺構（I a 期）出土の第69図7，678号遺構（I b 期）出土の第107図1が該当する。これらは、先の4類でみられた資料よりは胎土に含む白色粒、透明粒の量が若干少なく、色調もやや異なる点があるが、後述する生産地同定の問題もあるため、あえて「信楽系」として分類した。

A II a₁類 内面口唇直下に先の尖った凸帯をもつものである。口縁部から体部にかけて内湾している。532号遺構（I a 期）出土の第69図6が該当する。

A II a₂類 内側へ突出した玉縁の口縁部をもつものである。276号遺構（II 期）出土の第127図5，255a号遺構（III a 期）出土の第141図5の他に第210図21が該当する。

A II a₃類 肥厚した口縁部が内湾するもので、252号遺構（III b 期）出土の第137図3が該当す

る。

次にB類であるが、瀬戸・美濃に関しては、生産地の方で窯出土資料による編年作業が整理されてきており、それに照らし合わせて分類した。

BI類は口縁部が体部の立ち上がりの延長上もしくは外側に開くものであり、BII類は口縁部が内側に折り返されるものである⁴⁾。量的にはBI類が圧倒的に多く、口縁部形態もさらにいくつかに分けられる。

BIa類は縁帯の作出を意識していないもの、またBIb類は縁帯の作出を意識しているものとし、それぞれさらに細分した。

BIa₁類 体部から口縁部にかけて直線的に開き、口唇部は丸味をおびる。口唇部内側は突出するもので、532号遺構（Ia期）出土の第69図9がこれに該当する。本類はIa期で1点しか検出されておらず、形態的には古い様相を示すものであろう。

BIa₂類 口縁部内側に小突起あるいはそれに近い稜線が巡るものである。該当するのは532号遺構（Ia期）出土の第71図3・4、678号遺構（Ib期）出土の第111図3である。

BIb₁類 口縁部内側に稜線がみられるという点ではBIa₂類と共通するが、口縁部端をやや肥厚させ、縁帯を意識しているものである。617号遺構（Ib期）出土の第80図10、678号遺構（Ib期）出土の第111図1・4、255a号遺構（IIIa期）出土の第141図6・7が該当する。

BIb₂類 BIb₁類よりさらに縁帯を意識したものであり、垂直方向に端部の出っ張りがみられるものである。270号遺構（Ib期）出土の第58図3、678号遺構（Ib期）出土の第111図2・5・6が該当する。

BIb₃類 口縁部は完全に外側への折返しになり、縁帯を作出しているものである。252号遺構（IIIb期）出土の第137図4・5、537号遺構（IIIc期）出土の第167図4が該当する。

BI類には、BIa₁・BIa₂→BIb₁→BIb₂→BIb₃という変遷が認められる。

BII類は口縁部を内側に折り返すもの。第145図8がこれにあたる。












ここでA・B類に関して気づいた点を記しておく。

まずA・B類ともに口縁部が直線的にのびるもの（A Ia・A Ic・BIa類）から縁帯をもつものへの推移が伺える。その交替の時期は17世紀中葉（Ib期）と思われる。この時点で備前（C類）にはすでに縁帯があり、この影響とも考えられるものである。これ以降は縁帯をもつものが主流になることからこれが播鉢全体の動向とみた方がよさそうである。

また口縁部形態が玉縁のものや内側へ突出するものは、小形のものに多いという点が指摘できる。

さらに古い段階（Ia・Ib期）においては、口縁部形態がバラエティーに富んでいる。特にIa期の532号遺構は生産地不明のもの（複数の生産地を示唆する）が多く出土しており、こ

第2表 槽鉢 I ~ III 期口縁部形態変遷表

	A				B			
	Ala	Alb	Alc	AlIa	Bla	BIIb	BII	
I 期	 +	 +	 +	 +	 +	 +	 +	
II 期	+	+	+	 +		 -	 +	
III 期	+	+	+	+		+	+	
		+	-			+	+	 +

破片資料を含む

の時期の播鉢の様相を如実に現わしているといえる。

C類は備前系を一括した。第69図3(532号遺構)は備前の製品である。備前特有の片口部を突出させて、上からみると卵形になるもの。播目は縦位に施され、見込は斜格子状につけられるようである。体部にはロクロ目が顕著に残る。

この他上記のものを除いた備前系はすべて堺播鉢の範中に含まれるものである⁵⁾(第137図2;252号遺構,第185図13~16;233号遺構,第190図1;245号遺構,第201図;49号遺構)。これらは縁帯下端が尖り、内面の沈線も深くはっきりしているものが多い。堺播鉢のⅠ・Ⅱ類に該当すると思われる製品である⁶⁾。本地点の遺物の出土状況からするとその時期はⅥ期(18世紀第3四半期)以降と考えられる。また片口にみられる刻印は㊦・㊧・㊨の堺播鉢で確認されているものの他に㊩がある。

第137図2(252号遺構)は他のものが播目を施した後に口縁部をヨコナデ整形するのに対し、口縁部のヨコナデ整形の後で播目が施される。播目の幅は狭く、間隔があいている。縁帯の突出は緩やかで、口縁部内面の凸帯も張り出しが少ない。これはより古い形態を呈するものであり、遺構も17世紀末~18世紀初頭とされており時期的にも遡るものである⁷⁾。

備前系の播鉢は532号遺構で確認された後、次に出現するのが17世紀末~18世紀初頭で約半世紀間本地点では検出をみない。これは生産地側の事情を反映していると思われる。

D類のうち、生産地不明のものについて若干触れておく。

532号遺構(Ⅰa期)出土の第69図8は、ロクロ水挽きで底部に回転糸切り痕がみられる。胎土は混入物がなく砂質ではあるが緻密な土である。

532号遺構(Ⅰa期)出土の第69図5,678号遺構(Ⅰb期)出土の第106図12・13,第109図1は越前と思われるもので、口唇部は平らに調整されている。胎土が緻密で粘土質のもので体部にはロクロ目が顕著である。

第210図18は削り出し高台の小形のもの。類例から鳥の餌を播るための播鉢、餌播と思われる⁸⁾。

第210図20・22は台付播鉢(台部は貼付)である。20は信楽系,22は生産地不明であるが、台付播鉢の出現の実態は明らかにされておらず、時期の把握とともに注意される資料である。

以上、本地点出土播鉢をA~D類に分類しその様相を概観したが、最後に生産地同定の問題に触れることにする。

生産地同定は、生産地での窯資料をもとにして胎土や製作技術、形態などによって行われている。しかし、窯資料は消費地でみられる製品を網羅してはおらず、また信楽のように窯址の発掘調査がほとんど行われていない生産地もある。実際は明確な分類基準(共通認識)が設けられないままに分けられているのが現状である⁹⁾。

今回A類としたものは、近年AⅠ類が「丹波」、AⅡ類が「信楽」とされることが多いものであるが、少なくとも報告書を見る限りでは生産地が相違するほどの大きな差異とは思えない。これは本地点でも同じで、これ以上分けることはしなかった。今後資料が増加している消費地での積極的な検討が望まれるものである¹⁰⁾。

(渡辺ますみ・鈴木裕子)

註

- 1) 道具としてのロクロと回転台は、その違いがはっきりしておらず混乱を招くおそれがあるため、ここでは両者を「ロクロ」で統一し、成形技法名で使用する場合は「ロクロ使用での」という意味をもたせることにした。
- 2) 同志社大学校地学術委員会 1978「同志社キャンパス内出土の遺構と遺物」同志社校地内埋蔵文化財調査報告書資料編Ⅱ
- 3) 世田谷区教育委員会・喜多見陣屋遺跡調査会 1989「喜多見陣屋遺跡Ⅰ」
- 4) 藤澤良祐1988編年Ⅰ類・Ⅱ類が本地点でのBⅠ・BⅡ類にあたる。
- 5) 白神典之1988による。
- 6) 本地点では白神典之1988によるⅠ・Ⅱ類を分離する好例に恵まれなかった。その分類の基準の一つである口縁部形態がかなりバラエティーに富んでいるというのが実感である。
- 7) 中央診療棟地点F34-11遺構では本資料と同様の形態で、口唇部と外縁帯直下に重ね焼きの痕が残り、底部外面に窯印のあるものが出土している。時期は18世紀初頭が下限とされる。堀内秀樹氏の教示による。
- 8) 瀬戸市歴史民俗資料館1987「研究紀要Ⅵ」の勇右衛門窯に器形は多少違うがやはり小形の播鉢が出土しており、名称はここからとった。
- 9) その意味において本地点で信楽系(A類)としたものも、何をもって「信楽」としているのかというと、長石粒を多く含む胎土からそう呼んでいるのに過ぎない。
- 10) たとえばA類の窯詰めの方法は内面の体部下位が色が変わっている場合が多く、ここに数cmの窯道具をいくつか置き、積み重ねたと推測できる(これはB類も同様。ただし小形の場合は窯詰めは違う方法をとるようである)。C類は備前のものでは直重ね積み、堺では焼台を使う。とすればAⅠ類とAⅡ類で産地が違うならば窯詰め方法はどうかという疑問は湧く。また本地点のA類(ということは東京の近世遺跡ではということにもなるが)は、関西の近世遺跡で「信楽」といわれているものと形態が相違する。

(4) 焼塩壺

本項では焼塩壺およびその形態に類似する土器について述べるものである。あわせて製作方法、出土状況についてもふれたい。

1) 分類

まず身であるが、これは成形技法から3種類に大別した。

身AⅠ類 手づくね成形で、筒形のもの。胎土中には粗砂を多く含み、断面は縞状を呈するものが多い。外面は橙色で、内面は二次燃成をうけてピンク色・灰白色を呈する。

また本種には体部外面に4種類の刻印があり、ここでは形態による分類に加味して、4種に分類した。aは器高が11.4~12.7cm(平均11.0cm)と、最も高い一群で、口縁部外面には指頭

第3表 焼塩壺集計表

		輪積成形			板づくり成形							口 成 形 身 蓋	判別不能 その他 身 蓋	計
		身 A I	蓋 A	身 A II	身 B I	蓋 B I	蓋 B II	身 B III	蓋 B III	身 B IV	蓋 C			
I 期	255b号遺構	4												4
	270号遺構	19	9									2		30
	309号遺構	8	17										1	26
	532号遺構	151	37	2								1	8	199
	617号遺構	17	5							2	1		1	26
	618号遺構									1	2			3
	678号遺構	69	18									2	1	90
	802号遺構	105	60	17						40	16			238
II 期	276号遺構	17	3	1										21
III 期	252号遺構	1												1
	255a号遺構	22	5	2	2	2	1						1	35
	271号遺構													
	391号遺構	57	28		9	2								96
	395号遺構													
	537号遺構							2	3					5
	886号遺構 焼土溜り	27	12											39
VI 期	416号遺構													
VII 期	233号遺構	1										2		3
	245号遺構	3	1		1	2								7
VIII 期	1号遺構	1			1	1						1	1	5
IX 期	49号遺構	2	1									1		4
計		504	196	22	13	7	1	2	3	43	19	9	1	832

255a号遺構は255号遺構を含む。数字は破片数。

痕がよく残り、この結果口縁部は緩い「く」の字形になる。体部外面には縦位のタタキの痕が残っているものが大部分である。刻印は2重枠内に「ミなと藤左衛門」、bは2重枠内に「天下一堺見なと藤左衛門」の刻印を、cは1重枠内にbと同じ押印のあるものである。b・cは口縁部に指頭痕の残るものとそれが明瞭でないものがある。この傾向は体部外面のタタキの痕も同様である。器高はbが9.4～11.2cmで平均10.3cm、cが9.8～10.5cm（平均10.2cm）とバラつきが多い。dは平均器高が9.9cmで（個体間の偏倚も少ない）、ほぼ円筒形を呈するもの。口縁部はごく緩い「く」の字状。一重枠内に「天下一御壺塩師堺見なと伊織」の刻印が押される。

aは532号遺構から出土しており（第72図1～6）、bは617号遺構（第81図2～4）、678号遺構（第112図2～10）、255b号遺構（第118図13）、802号遺構（第121図1～8）、276号遺構（第128図5・7）、cは678号遺構（第112図11）、276号遺構（第128図4・6）、886号遺構（第170図13～16）、dは391号遺構（第148図7～14）から検出されている。

また本類は刻印部分が残存していないと細分不能ということになるが、A I類が出土している遺構を掲げておけば270号遺構（1個体は刻印のごく一部が残っており、これはb種か）の4個体（第58図4～7）、225a号遺構の1個体（第142図2）がこれにあたる。

身A II類 手づくね成形で肩から口縁部にかけてすばまり、口縁部の立ち上がりが高いもの。

胎土は浅黄橙色で、混入物が少なく粉質である。二次焼成痕はない。802号遺構（第120図9）、276号遺構（第128図11）から出土している2個体のみである。

身B類 板作りで、底部に粘土塊をつめるもの。蓋受けのあるⅠ～Ⅲ類と蓋受けのないⅣ類に細分される。

Ⅰa類 底部から口縁部にかけてやや広がる逆台錐形を呈す。口縁部は口唇部を頂点とする断面三角形である。体部内面には、①縦位の上半は合わせ目になっている縫目痕が2本つくものと（第226図3）、②縦位の太めの縫目痕が3本つくもの（第226図4）の2種類がある。またどちらも底体部際に横位の縫目痕がみられ、体部外面には2重枠内に「泉州麻生」の押印がある。前者は391号遺構（第149図7～10）、後者も同遺構（第149図2～6、11・12は残存部位が少なく刻印が残っていないだけと思われる）から出土している。

Ⅰb類 器形はⅠa類に類似するが口唇部は平らである。体部内面には刺子状の粗い布目痕がつき（第226図5）、体部外面には2重枠の内枠隅2段角内に「泉州麻生」の刻印があるもの（刻印の字はBⅠa類より大きい）。内面は二次焼成でピンク色になる。これは162号遺構（第209図9）検出のものがある。

Ⅱ類 Ⅰa類に類似するが、小ぶりで体部内面に縦位の縫目を2本、底体部際に横位の縫目痕を残すものである（第226図7）。刻印はなく、胎土はⅠa類より粉質である。内面は2次焼成をうけてピンク色を呈す。701号遺構より1個体のみ出土（第209図8）。

Ⅲ類 器形はⅠ・Ⅱ類より円筒形に近く、肩部には丸味があり、口唇部は平らである。体部端部には、輪状の粘土紐が入れられ底部を作り出す。体部内面は布目痕が残る（第226図6）。外面には1重枠内に「御壺塩師堺湊伊織」の刻印があるが、字はうすくて不明瞭である。胎土は灰白色で砂っぽい。外面にぶい橙色で、内面は2次焼成をうけてピンク色になっている。537号遺構出土のもの（第168図1・2）が本類に該当する。

Ⅳ類 これは現時点では本遺跡のみでしか類例をみない。筒形を呈するが、底部際はかなりの丸味をもつ。内側は逆台錐状で、口縁部は内割ぎ状になり、断面は三角形である。体部外面下位に陽刻で「い津ミつた花塩屋」の刻印が押される。体部内面には平織状の布痕が残るが、①粗いもの（第226図1）—617号遺構（第81図6）、802号遺構（第120図10）出土のもの、と②細かいもの（第226図2）—617号遺構（第81図5）802号遺構（第120図11）の2種類がある。胎土はにぶい橙色で、断面は縞状になる部分もある。

C類 ロクロ水挽き成形のもの。全形は不明であるが、底部には回転糸切り痕があり、内面にはロクロ目が顕著である。底部は部厚く、二次焼成痕はない。胎土は橙色を呈し、かなり砂っぽい²⁾。本類は第209図10の1個体のみ出土である³⁾。

一方蓋は次の6種類に概ね分けられる。

A類 手づくね成形のものである。天井部は平らで、体部は外反する。天井部外面は未調整と思われやや凹凸がある。内面には細かい平織状の布目痕が残るものがあるが、大方はナデによって消される。体部内外面は横位のナデが施される。出土遺構としては、270号遺構(第58図8), 309号遺構(第60図6～10), 532号遺構(第73図5～13), 617号遺構(第81図7), 678号遺構(第113図1～5), 802号遺構(第121図9～22), 276号遺構(第128図12～14), 255a号遺構(第142図4), 391号遺構(第149図13～16), 886号遺構(第171図1～5)がある。

B類 天井部が平坦で体部がほぼ直立するもの。口唇部は平らである。

I類 天井部と体部の境がくっきりした稜をもつものである。内面には平織状の細かい布目痕が残るが体部内外面の横位のナデ調整によって消されている部分もある。天井部外面不定方向の雑なナデ。胎土は浅黄橙色を呈する。本類に該当するものは第149図1・7・18(391号遺構), 第142図6(255a号遺構)がある。

II類 I類とほぼ同様な形態・整形方法をもつものであるが、ひと回り小さく、また胎土は橙色である。体部はやや外反するか、もしくは直立する。255a号遺構出土のもの(第142図5)は前者のタイプ、701号遺構出土のもの(第209図11)は後者のタイプといえよう。

III類 天井部と体部の境の稜が丸味をおびるもので、内面全面に細かい平織状の布目痕を残している(体部の内面はI・II類と違って未調整)。粉っぽい胎土のものである。537号遺構の(第168図3・4)がこれにあたる。

C類 形態はA類に似るが、天井部はほぼ平らで、体部は口唇部にかけて厚さを減じる。体部内外面横位のナデ、内面も雑なナデ調整が施される。天井部外面は未調整ではなく、何らかの調整が行われているものと考えられる。胎土は淡橙色を呈し、粉質である。617号遺構(第81図8), 802号遺構(第121図24～27)から出土。

D類 天井部外面に陽刻で「いつみや宗左衛門」の刻印のあるもの。天井部の破片で器形も不明ではあるが、この刻印を有するものは他遺跡では検出されておらず、別類として分けた。内面は不定方向のナデ調整。胎土は淡橙色で粉質である。802号遺構(第121図23)から検出されている1点のみ。

E類 かえし部がなく、身の口縁部にはまる凸部のあるものである。上面に陽刻で「イツミ花焼塩ツタ」の刻印がある。255a号遺構第142図の3がこれにあたる。

F類 E類と同様の形態のものであるが、小形で、上面に1重の沈線が巡る。また2重枠内に「なんばん(後は欠損)」の刻印が押されている。胎土は灰白色、粉質で軟質である。包含層より1点出土(第209図12)。

以上実測可能個体を分類してきた訳だが、この他にも図示できえなかった遺物の中には体部を内側に押し花形を呈するもの(胎土は灰白色で二次焼成痕はない³⁾)、手づくね成形で口縁部

から肩部にかけてなで肩になるもの⁴⁾(胎土は灰白色で粉質。口縁部は横ナデ整形)もあることを付記しておく。

2) 身の成形方法

ここでは主要な身の成形方法について述べ、次項の基礎資料としたい。

まず身AⅠ類である。本類は体部下半と上半を接合する。接合部内面は指頭による横位のナデツケ。内面には細かい布目痕がついており、これは接合時には消されていることから、体部上・下半それぞれの成形時につけられたものと考えられる。体部下半成形時には内型使用の可能性も想定されるがこの点は保留としておきたい(ただし底・体部は一体成形であろう)。さらに体部外面には5単位もしくは6単位で一周する縦位のタタキが施される。口縁部端部は内側に折り曲げ指で挟む。この後、口縁部内面・体部外面は横位のナデによって仕上げられる。口縁部外面の指頭痕、体部外面のタタキが残るものもある。

身AⅡ類は身A問類とほぼ同様と思われるが、口縁部も輪積とし、体部上・下と口縁部の各部を接合した可能性がある。体部内面上半・口縁部外面横位のナデ、体部外面はナデ調整。

身BⅠa・Ⅱ類 B類は基本的に成形はロクロにつながる芯棒を使用しているもので、これに板状の粘土を巻きつけて器形を形作る。この過程において本類では問題点が2つ指摘される。1つは正位で成形されたのか逆位で成形されたのかということ、1つは底部の作り方もしくはどの段階で作られるのかということである。現時点ではどちらにも明瞭な解答は出せないが⁵⁾、後者について中央部に穴はあるものの底部は確かにある点がBⅠb類とは相違する。

板状粘土を巻いた後、体部横位のロクロナデもしくはケズリで調整。この時口縁部の段も工具によって成形される(第149図2・3・12は工具による横位のナデが体部上半に残っている)。さらに芯棒が抜かれ、口縁部・口唇部が横ナデによって仕上げられる。内面には縫目痕が残っているが、これは芯棒の回りに巻かれていたものの痕で、ややガサついており、獣皮等が想定できる。底部の穴は上方から粘土塊をつめ、工具で押し、これを塞ぐ。

身BⅠb類 前述したように本類はBⅠa類と同様の成形方法によって作られているが、はっきりした底部は作り出されておらず、断面を観察すると体部端部がやや突出しているにすぎない。必然的に底部の穴は大きくなり、上方から工具によってつめられる粘土塊も大きい(粘土塊の内面側には使われた工具の平織状の布目痕が残る)。

身BⅢ類 これは底部にその代替として紐状の粘土を入れる点がBⅠ・Ⅱ類と相違する。紐状粘土の内面側には体部と同じ刺子状の布目痕が残っていることから、体部成形時にはすでに巻かれていたと考えたい。この後しばらく時間がたってから⁶⁾、上方から底部に粘土塊が入れられる(工具による押圧はBⅠ・Ⅱ類と同じ。粘土塊の内面側には平織状の布目痕が残る)。

身BⅣ類 本類はBⅠ～Ⅲ類と器形自体が違うものであるが、芯棒に板状粘土を巻きつけるま

では、BI・II類と同様である。ただ底部の穴の大きさはBI・II類よりさらに小さい。底部の作り出し方もBIa・II類と同じく不明である（断面の観察からは看取できない）。体部外面縦位のタタキの後⁷⁾、指頭による調整（あるいはこの整形は逆の順番か）。さらに口縁部を雑な横位のナデによって仕上げる。底部の穴は下方から粘土を指でつめて塞ぐ（底部外面は未調整。砂が付着しているものもある）。

3) 出土状況および共伴関係

本遺跡では遺構内からまとまった個体数が検出されている例が多い。たとえば532号遺構で身A Ia類が16個体（以下図示されているもの1個を1個体とする）、蓋A類が9個体、678号遺構で身A Ib類が9個体、蓋A類が5個体、802号遺構で身A Ib類8個体、蓋A類が14個体、391号遺構で身A Id類が9個体、身B Ia類が10個体、886号遺構で身Ic類が4個体と蓋A類が5個体等である。刻印のある部分が残存しておらず細分できない個体もあるが、これらも形態的には同一遺構内の他の刻印のあるものと変わらないもので、その範中に含まれよう。

次に身と蓋との関係であるが、まず身A I類のみが出土している遺構は、蓋A類しか検出されていないことから、身A I類は蓋A類と組になるものである（270・532・687・886号遺構）。身B Ia類は391号遺構の共伴関係から蓋A類を除外した蓋B I類と組になろう。身B II類は同じ遺構から蓋B II類が出土しており、口径も合うことから組になると考えられる。身B III類は537号遺構から検出されている蓋B III類と組合わせになる。身B IV類は617・802号遺構での蓋A類・身A I類との共伴関係から蓋C類が該当しよう。なお蓋D類は胎土・調整が蓋C類に類似しているが、他に類例がなく、また身とは違う刻印をもつことからここでは身B IV類との組合わせは積極的には指示しない。

この他身A II・B IIb・C類、蓋E・F類にはそれぞれ組となる蓋・身は検出されていない。次に身・蓋同志の共伴関係は下記ようになる。

身	— A Ib類+A Ic類——678号遺構
	— A Ib類+A Ic類+A II類——276号遺構
	— A Ib類+A II類+B IV類——802号遺構
	— A Ib類+B IV類——617号遺構
	— A Id類+B Ia類——391号遺構
	— A類+B Ia類+B II類——701号遺構 ⁸⁾
蓋	— A類+C類——617号遺構
	— A類+C類+D類——802号遺構
	— A類+B I類——391号遺構
	— A類+B II類+E類（+身A類）——255a号遺構

└ B I 類+B II 類——701号遺構⁹⁾

特に802・391号遺構の共伴例は同一種類のものが数多く出土しており、好資料となり得るのである。

4) まとめ

現在焼塩壺は考古学的資料としてその編年観が呈示されているが(渡辺1984・1985)、本項では当遺跡出土の資料と鑑みて問題提起をしたい。対象とするのは成作技法からその変遷が捉えやすい身の方が中心である。

まず身A I 類である。これは口縁部に指頭痕があり、体部外面に縦位のタタキ痕を残すものから、それらが無い方向へ向かうことが形態的に明らかである。すなわち身A I a類→A I b類・A I c類→A I d類となる¹⁰⁾。

またB類は底部作りに注目すれば、底部を体部と一体に作り出し¹¹⁾。底部の穴の小さいもの(B I a類・B II 類・B IV 類)より、体部から明確な底部を作り出していない(B I b類)、もしくは体部に底部を接合するもの(B III 類)——そしてこれらは底部の穴が前者より大きい——の方が後出とみてとれよう。この中でもB IV 類は円筒形の器形、口縁部内面が内削ぎ状、体部外面に縦位の工具痕が残る等の点はA I 類の板作り成形、また底部にはB類中一番小さい穴が開けられている点はB I a・II類のそれぞれの特徴を具備しており、両者の中間形態と考えられる。

従来渡辺氏の諸研究によるとA I 類(渡辺氏分類A類。以下氏の分類はカッコ内に表記)からB III 類(B類)へと変遷し、B III 類(B類)からB I a.b類(H類)が派生したとされるが、本遺跡ではB IV 類→B I a・II類→B I b・III類として捉えられるものである¹²⁾。

次に年代観であるが、これも渡辺氏の研究により、A I 類は刻印の変化からA I a類は上限は16世紀中葉(天文年中)、下限は承応三(1654)年、A I b.c類はそれから延宝七(1679)年、A I d類は天和二(1682)年までとする。同じメーカーの系列と考えられるB III 類は天和二(1682)年以降(下限は不明)とされる¹³⁾。一方「泉州麻生」の刻印をもつB I a.b類は延宝(1673～80)年間に創業と伝える。

今、本遺跡の出土例ではこの年代観を直截的に実証しうる資料はないが、A I a類を検出した532号遺構は肥前磁器から1630～50年代とされており、B III 類を出土した537号遺構は17世紀末～18世紀初頭(肥前磁器による)に位置づけられる。年代的にはその間にあたるA I b.c類は、A I b類とA I c類の共伴する678号遺構とA I b類とB IV 類を出土する617号遺構、A I b類とA II 類・B IV 類を検出した802号遺構がI b期、A I b類とA I c類・A II 類が出土する276号遺構がII期、A I c類が単独に検出されている886号遺構がIII b期である¹⁴⁾。またA I d類とB I a類が共伴している391号遺構(III b期)はA I d類の前の形態であるA I c類とB I a類との、あるいはA I d類とB IV 類との共伴関係をも示唆しており¹⁵⁾、それはかつA I d類とB I a類の文献上からの年

代の妥当性を一つ実証したことにもあろう。

なお身C類についてであるが、本類に関しては当遺跡でも数が少なく不明瞭な部分が多いことは否めないが、第3表のI期のロクロ整形のものは身C類である。図示し得たC類の出土した遺構はI期に位置づけられる。ただし2次焼成痕がなく、底部が部厚い等焼塩壺として分類することにも疑義があるといえる。

さらに蓋類については前項で共伴関係を示しており、それは身の年代観に一致すると考えてよい。ただ蓋E類を出土している255a号遺構はIII a期とされている。

最後に今後の問題点としては、蓋A類の細分化の可能性（あるいは器高によってそれは可能か）、また製作技法の解明、はっきりした共伴関係を捉えること等があり、これらはより多くの個体資料の綿密な観察、また質・量ともに良好な資料を蓄積することが必要であろう。また実年代の限定できる資料との対比・比較により、既存の編年観を補強また批判してゆくことが急務と思われる。

註

- 1) 製作技法・形態的にはb類とc類は分け難いものであるが、それぞれ単独出土の遺構があることからとりあえず、こう分けた。
- 2) 「郵政省飯倉分館構内遺跡」1986 港区麻布台一丁目遺跡調査会のp. 68, S101に類似する。
- 3) 渡辺誠氏分類（1984・1985）のK類にあたる。
- 4) 同じ東京大学本郷構内の遺跡で病院地区中央診療棟地点の「池」遺構から同様のものが出土している。
- 5) 前者について筆者は底部外面が未調整であること（砂の付着している個体もある）、また口縁部には調整が入ること等を考慮して、少なくとも板状粘土を巻いて体部外面の整形を施す時点では正位で置かれていたと考えた。
- 6) 本類はこの粘土塊のみがはずれる場合が多く、また粘土塊の内面の布目痕に接触している部分に、内面の布目痕がボジになって残っているのが観察できる。
- 7) 幅1.5cmで個体により比較的明瞭なものとそうでないものがある。
- 8) 身A類（外面が荒れていて刻印不明）、身B I a類、蓋B I 類は図示し得なかったが共伴関係はここに掲げておく。
- 9) 8)と同じ。
- 10) 身A I a類を出土する532号遺構は、共伴陶磁器類は最も古い様相を呈している。
- 11) 前述したように、そう看取できるもの。
- 12) B I a類→B I b・II類の流れは大塚1988でも指摘がある。
- 13) 南川1974はA I b.c類からA I d類への変化を承応四（1655）年か明暦二（1656）年から明暦三（1657）年か明暦四（1658）年とし、二者のほぼ並行関係を指示している。しかしこの説はA I 類の形態の変遷、また本遺跡での出土例等からもとり難い。ここで氏の説は「和泉国村々名所旧跡附」延宝九（1681）年の中の「（天下一の号を承った）又其式年の後に禁中様江指上げ其時伊織と解明する也（傍点筆者）。」「江戸時代に於ける泉地方の農事調査書」元禄元（1688）年？書写の中の「…其時天下一御赦免也…二年目に禁中へ被差上其時伊織と言う名を被下さる（傍点筆者）」に依っている。一方渡辺氏の編年は「堺鑑」貞享元（1684）年を典拠としている。筆者を含めて「堺鑑」の記述が正しいとするならば、南川氏の根拠をした2つの文献中の「其式年の後」「二年目」というのは「其式拾年の後」「二拾年目」の誤りではないか。そうすれば年代は「堺鑑」にほぼ一致してくることにな

る。

14) 大塚1988によるとA I b類とA I c類は型式学的にみて時期差があるのではないかという指摘があるが、本遺跡では実証できなかった。

15) 東京大学本郷構内の遺跡では病院地区中央診療棟地点F34—11号土杭でB I b類とB III類の共伴が認められる。

付記

本稿を脱稿した後に、309号遺構で「ミなと藤左衛門」銘の刻印のある焼塩壺があることを確認した。これは身A I a類にあたり、532号遺構と同じである。出土肥前磁器からも、I a期とされているものである。

(5) かわらけ

本項で述べるかわらけとは素焼き(土師質)の皿形の土器であるが、素焼きでそれに似かよった器形のもの、器能的に類似すると思われるものも含めて図示した。その他には良好な遺構一括遺物を選んだ。

ここでまずかわらけを器形・成形技法から大きく3つに分類し、遺構ごとに変遷を追うこと

第4表 かわらけ集計表

		ロクロ水挽き成形		精製形		手づくね成形		耳かわらけ		その他		計
		破片数	%	破片数	%	破片数	%	破片数	%	破片数	%	
I 期	255b号遺構	86	100.0									86
	270号遺構	643	95.6			27	4.0			3	0.4	676
	309号遺構	314	79.8	3	0.8	73	18.6	3	0.8			393
	532号遺構	3,695	94.1	9	0.2	223	5.7					3,927
	617号遺構	380	86.8	56	12.8	1	0.2	1	0.2			438
	618号遺構	908	88.1	112	10.9	8	0.8	2	0.2			1,030
	678号遺構	915	88.6	95	9.2	19	1.8	3	0.3	1	0.1	1,034
	802号遺構	480	92.6	34	6.6			4	0.8			518
II 期	276号遺構	1,222	99.7	1	0.1	1	0.1			1	0.1	1,226
III 期	252号遺構	159	97.0	5	3.0							164
	255a号遺構	1,156	98.0	5	0.4	13	1.1			6	0.5	1,186
	271号遺構	2	100.0									2
	391号遺構	885	69.5	385	30.3			2	0.2			1,272
	395号遺構	846	95.6	38	4.3	1	0.1					885
	537号遺構	357	100.0									357
	886号遺構	79	85.9	13	14.1							92
	焼土溜り											
VI 期	416号遺構	172	98.9							2	1.1	176
VII 期	233号遺構	9	100.0									9
	245号遺構	17	100.0									17
VIII 期	1号遺構	53	84.1	9	14.3	1	1.6					63
IX 期	49号遺構	45	90.0			5	10.0					50
計		12,414	91.5	765	5.6	372	2.7	15	0.1	13	0.1	13,601

255a号遺構は255号遺構を含む

にする。なお遺構の年代観に関しては現状ではかわらけは出すことができないので、遺構・遺物（肥前磁器と焼塩壺による）の年代を援用した。

A類 手づくね成形のものである¹⁾。I a期の532号遺構に5点(第74図1～5)、I b期の678号遺構に2点(第114図18・19)出土している。第74図5は粉質で混入物の少ない粘土質の胎土で、内面の底体部際に沈線が巡るものである。他のものは、口唇部内側がつまみ上げたようになっていたり、沈線が回るものが多い。これらは粗砂を多く含む胎土をもつ。他に主要遺構以外で図示した遺物は448号遺構のもの(第210図10)がある。これは体部が比厚し、口唇部内側と体部内面中位に沈線が巡るもので、胎土はにぶい赤褐色を呈し、粗砂を多く含有する。この遺構は観察表ではIII期となっているが、BII類でも古い段階と思われるかわらけ、また播鉢もA I a類のものが伴出しており、I期まで遡りうる可能性が大きい。527号遺構出土のもの(第210図11・12)は他にもA類が数個体出土しているのみで遺物からも時期を決定することはできない。ただ底体部内面に沈線が回るものと、口唇部内面に沈線が入るものの共伴は532号遺構と同じであるから、同時期もしくはそれに近い時期を想定できよう。

さらに破片資料をみると(第4表)、かわらけの中での割合は309号遺構が最も高く、数が一番多いのは532号遺構である。270号遺構もまとまっているといえようか。II期以降の遺構は量的にも少なかったり、検出されなかったりしており、混入の可能性もある。A類はI期のみとほぼいい状況になっている。

B類 ロクロ水挽き成形だけで器形を作り出すもの。底部は回転糸切りのままで、右回転糸切りのものをI類、左回転糸切りのものをII類とする。

B I類はI a期の532号遺構で最も多く出土している。第75図48、第76図15・21・26・29・31・38は、体部が直線的もしくは外反り気味に立ち上がり、口唇部が角ばっている。外面の体部の立ち上がり際は丸味を帯びる。胎土は橙色を呈するもので、1087号遺構出土のもの(第210図6・7)と同じ器形である²⁾。この器形のかわらけはこれより新しい時期の遺構では検出されておらず、1087号遺構は532号遺構併行か先行すると思われる。第74図17・25、第75図5・28も橙色の特徴的な胎土で、口唇部が角ばるものであるが、体部は直線的に開き、体部外面に顕著なロクロ目を残すものが多いかわらけである。体部は薄手のものが多い。これらの他の8個体は、厚ぼったく角ばった口唇部をもつもの(第74図18)、外削ぎ状の口縁部をもつもの(第74図9・14)、比較的大きな底部から短かい体部が立ち上がるもの(第74図6・11)、小さい底部から大きく外側へ開く体部をもつもの(第74図12)等多様な器形のものが存在する。

この他には309号遺構で5個体出土しているもの(第60図12・13・15～17、これらはいずれもよく似た器形をしている)が、橙色の胎土で角ばる口唇部のものである。体部外面下位に稜が巡り、ほぼ直線的に体部が開く。

I b 期の遺構では678号遺構の第113図20・28も同様であり、532号遺構・1087号遺構からの系譜が考えられよう。第86図2・5・7・8（618号遺構）は橙色の胎土で、底部が突出し、口唇部が角ばり気味のものである。体部は直線的に開くが、体部中位が厚くなる傾向がある。第86図11は口径がひと回り大きく、器形に歪みがあるものの系統的には同じであろう。これらと同形態のかわらけは920号遺構（第210図1～4）から検出されている。この遺構の遺物は前者と同器形のものが第210図1以外に5個体、後者と同器形のものが第210図4以外に2個体あるが、第210図3はBII類で532号遺構の第74図8に突出した底部からやや丸味を帯びて立ち上がる器形が類似する。また粗砂・赤色粗砂を大量に含有する胎土も同様である。第210図3もBII類であるがこれも第74図10（532号遺構）に類似する胎土（粗砂・赤色粗砂を大量に含む）・器形（大きい底径から体部はほぼ直線的に開きながら立ち上がるが、体部は・短かく器高は低い。器厚が厚い）である（920号遺構では他に後者が2個体出土している）。このように考えると920号遺構はI a 期とI b 期の間に位置づけられる。

618号遺構の第86図12～14は口唇部が角ばるものの胎土はにぶい橙色を呈する。また第82図9（617号遺構）・第112図3（802号遺構）のように器形はBII類と同様であるが、回転糸切りの方向だけが相違するものが出現してくる（胎土もBII類と同じくにぶい橙色を呈する）。逆に胎土は橙色で、器形はBII類に似ているものもある（第112図1；802号遺構）。なお橙色の胎土のものはこの期を最後にみられなくなる。BI類の数自体もI a 期の532号遺構と比べると減っている。

これ以降のBI類はII期の276号遺構の3個体（第128図22・38、第129図6）があるが、どれもBII類と器形・胎土ともに類似するものである。IIIa期の255a号遺構に1個体（第142図7）、IIIb期の391号遺構にも1個体（第149図20）みられるものの、これより新しい時期の遺構では検出されていない。

BII類は、かわらけの中では最も出土量が多いもので、図示したかわらけの中で約90%を占めている。

まずI a 期の532号遺構を概観する。なおこの遺構はかわらけの実測可能個体が一番多かった遺構である。基本的な器形は体部は中位でやや屈曲し、口唇部はつまみ上げたようになり（比厚する個体もある）、内側に沈線が入る。もしくは体部は外湾しながら開くものもある。底部は平らか、中央部がやや外側へ突出する。糸切り痕は体部際まで残り、体部と底部の境にはくっきりした稜をもつものもある。胎土は浅黄橙色を呈するものが多い。これらの他には体部がやや内湾しながら開き、底径が小さいものがある（糸切り部が台状にやや突出するものも多い）。胎土は浅黄橙色で、第74図4・16・33・35・42・45がこれにあたる。第74図36・37は同じ浅黄橙色でも内面の底体部の境がはっきりせず、底部から体部へと緩やかに立ち上がるものである。

第74図27, 第75図2・3・19, 第76図36は橙色の胎土で体部はやや急に立ち上がり, 器高が高いものである。糸切り痕は低い台状になり, 体部の立ち上がり際は横に張り出す。

I b期ではI a期に多くみられた口唇部に沈線が入り, 体部が外湾するものの数が減り, かわって体部がほぼ直線的もしくは若干内湾しながら立ち上がるものが主流になる。たとえば前者は第113図34 (678号遺構) 等である。また第59図11・13 (270号遺構) は器厚, 特に体部が薄く直線的に開くもの, 第113図38 (678号遺構) は体部外面下半から底部にロクロケズリを施すものとバラつきはみられるものの, その偏倚はI a期より少ない。さらに橙色の胎土のものはI a期に比べて器形的な特徴もなく, また色そのものもI a期ほどの違いはなくなり, 見分けがつきにくい。その中で618号遺構が他の遺構より均一度が高いのは墨書かわらけが多く出土していることに原因があると思われる。

II期の276号遺構では体部がやや内湾しながら, または直線的に開くものがほとんどになる。底径はI a期より確実に小さくなり, 底部内面の体部際に膨みをもつものが目立つようになる。この結果体部と底部の見分けがはっきりつくものが多くなる。さらにI a期より個体差がなくなる。

III a・b期は, 体部内面下位に膨みと底部が上げ底気味になるものが増加する。この傾向はIII c期にも継続助長されるものである。体部はほぼ直線的に開くものがほとんどになる。各個体の特徴は均質化し, 大きさだけが相違するという感が強い。なお器厚はI期～III期にかけて徐々に薄くなりこの期が最も薄くなる傾向がある。

IV期以降のものは特徴的にはIII c期のものとかわらない。特に内面の体部と底部の膨みは口径が相違しても残る特徴であるが, かわらけの数自体が激減しており, 細かく比較対照する資料を欠くものである。

これらのBI・II類の器形的な変遷をまとめて述べるならば, 外湾する体部より, 丸味を帯びる段階を経て, 直線的に開くものへ, 突出気味の底部より, 上げ底気味の底部へ, 内面の体底部の膨みのないものからあるものへの推移が伺えよう³⁾。

さらにもう一つふれておかねばならないのはI b期を中心にみられる特殊な回転糸切り痕の存在である。これはI a期にもII・III a期にもあるが, 量的にはI b期が最も多いものである。BI類のものもBII類のものもあるが, ここでまとめてふれておくことにする (拓影図は第227図参照)。特殊回転糸切りと看取されるものは底部に方向の違う2種類の糸切り痕が残っているもので, 糸切りの方向は内側と外側で相違する場合が多い。この特殊回転糸切りは第227図1～5のように一方のひねり止めの部分から沈線 (糸の痕と思われる) が伸びて底部際にもう一つのひねり止めもしくは扇形の糸痕が残るものである (仮にこれを特殊糸切りaとしておく)。もう一つは第227図6～11, 15・16にみられるひねり止めが底部の中心近く (離し糸切り痕と同

じ⁴⁾にあるものである。第227図13・14はそのバリエーションと考える（これらを特殊糸切りbとしておく）。aはBⅠ類にしか認められず、bはBⅠ・BⅡ類両方に観察される⁵⁾。この特殊回転糸切りはⅠa期の532号遺構で2個体（第76図31・35）、309号遺構で3個体（第60図13・15・16）Ⅰb期の618号遺構で6個体（第86図16・19・32、第88図1～3）、678号遺構で2個体（第113図29・35）、Ⅱ期の276号遺構で1個体（第129図21）Ⅲa期の255a号遺構で1個体（第142図23）、Ⅲb期の391号遺構で1個体（第149図20）が検出されており、それ以降はない。

C類 ロクロ水挽き成形の精製形である⁶⁾。器厚が薄く、体部は内湾しながら開くものである。胎土はB類より密で、粗砂をあまり含まない精選された土である。底部が黒色処理される個体が多い。

これは成形技法はロクロ水挽き成形で器形を挽き出した後に、回転糸切りで切り離す⁷⁾。しばらく時間がおかれた後、体底部外面にロクロを使用した調整が施される。この調整は器面の乾燥具合によってケズリ・ナデ（あるいはミガキも考えられよう）のいずれかになる。体部外面の調整は口唇部直下から施されるものが多い。内面から口唇部は水挽き時のロクロナデ調整のままと思われる。一部には水挽きの後、底部周囲にケズリがみられるだけのものもある（第114図14・15）。

このC類はⅠa期第76図40（532号遺構）、第60図29（309号遺構）にすでにみられる。前者は口唇部内側に弱い沈線の巡る大ぶりのものである。また器厚はこれ以降のものに比べて厚い。

Ⅰb期は第82図24～29（617号遺構）、第89図2～10（618号遺構）、第114図11～16（678号遺構）、第22図18・19（802号遺構）、Ⅲa期の第142図33（255a号遺構）、Ⅲb期の第150図20～23（391号遺構）で検出されている。これまでさほど器形の変化はみられない。さらにⅧ期の1号遺構に至って1個体が検出されている（第198図10）。これはⅢ期までのものと比べて器厚が厚くなり、器高が高くなる。口径はひと回り小さくなり（10.5cm）、胎土は橙色で粉質のものである。Ⅵ・Ⅶ期には認められないが、系統的には同じものと考えてよからう。

以上、A～C類の本地点での推移をみてきた訳であるが、これらのかかわりけの大まかな流れを追ってみれば次のようになる。Ⅰa期ではA～C類が共存するが、Ⅰb期でA類は姿を消し、BⅠ類もほとんどなくなる。そしてこの時期にBⅠ類・BⅡ類ともに特殊回転糸切りのものが多く現われることは注目してよい⁸⁾。Ⅱ期以降も残るのはBⅡ類とC類である。C類はⅥ・Ⅶ期には検出されていないが、Ⅷ期には出土しており、量的には少ないながらも一定量の供給はあったと考えられる。BⅡ類はかわりけの主流となるもののⅥ期以降はかわりけの数自体が減じるため本地点ではその流れは不明瞭となる。

それとかわりけの寸法についてここでふれておく。本地点ではⅠ期～Ⅲ期のかわりけの口径の中心は4寸～4寸5分（11.3～14.2cm）のものである（A・B・C類を含む）。各期ごとの全

かわらけ数の中でこれらが占める率はⅠa期82%，Ⅰb期72%，Ⅱ期70%，Ⅲa期80%，Ⅲb期68%，Ⅲc期52%でⅠ～Ⅲ期の平均は70%である。少なくともこの時期の間ではかわらけの口径にはあまり変化はない。Ⅵ期以降に関しては、比較検討するには資料数が少なすぎるが、18世紀に入るとかわらけが小形化するとの指摘があることを記しておく⁹⁾。本地点においてⅦ期になって今までなかったほぼ1寸、1寸5分に相当すると思われるかわらけ(第198図7・8)が検出されていることはこの指摘を肯定するものであろう(第210図14のかわらけはⅨ期の築山出土のもので口径はほぼ1寸5分に当たる)。

つぎにA～C類以外のものについて記す。

まず耳かわらけがⅠb期の618号遺構(第89図11)、678号遺構(第114図17)からロクロ水挽き成形のものが、Ⅰa期の309号遺構(第60図11)から手づくね成形のものが出土している。またⅡb期の391号遺構(第150図25)からはロクロ水挽き成形のものがみられる。これらはみな皿形のものの体部を内側に曲げて作られている。ロクロ水挽き成形のものはどれもほぼ同じ大きさであることからある種の規格が存在した可能性もある。

この他に391号遺構の第150図24は胎土が灰白色で体部下半から底部を黒色処理したものである。体部内面に沈線が巡っており、墨書があることから、特別な用途が考えられる。これは255a号遺構の第142図34についてもいえ、内面が赤彩、底部周囲がロクロケズリされるものである。第210図15は成形方法はC類と同じである。ただ底部外面に工具による渦巻が施される。精製形と考えられるもののB類の精製形と考えられるC類とは異系統であろう¹⁰⁾。

さらに小片で実測図を掲載しえなかったがⅠb期の遺構からは金箔かわらけが検出されている。270号遺構が3点でB類2点、C類が1点、618号遺構で1点(B類)、802号遺構で1点(耳かわらけ)である。金塗りの部分は内外面に施されるものが多いが、剥落している部分もある。

これまではかわらけの形態を中心に本地点の推移をみてきた。次に器能的な面について述べておく。

一般にかわらけは口唇部に煤が付着しているものが多くあり、灯明具としての器能をもつ一方で墨書されるものが存在し(特異な出方をする場合もある)、儀式的な事柄に使用されたという器能が示唆されている。前者について本地点で口唇部に煤が付着している個体(多少にかかわらず付着しているものをすべて含む)の割合はⅠ～Ⅲ期で平均64%である。B類だけでなくC類・A類にもみられるものである。体部が全周している個体は少ないので、実数をもっと増えたと考えられる。ただし墨書のあるものにはまず煤の付着はなく(第112図17、第189図12は例外)、ここに器能的な差異が明確になっている。

墨書のあるかわらけについてはⅠb期の618号遺構とⅡb期の395号遺構でまとまった資料が出土している。618号遺構は2寸5分(6.8～9.7cm)と4寸・4寸5分(11.3～14.2cm)の口径

のもの31個体に認められる。体部外面の数文字書かれるパターンが多い。文字ははっきり読めるものはあるものの(第87図20の「大」)、ほとんどは読めても意味不明である。ただ第87図17・21の「めい御ちや」「すい御ちや」の「ちや」は本遺跡理学部7号館地点2号土杭でも「ちやー」「ちやナ」等「ちや」の後に数字が書かれるものが出土しており、时期的にもほぼ同じと考えられることから注目されるところではある。一方395号遺構はかわらけが数点ずつ重なって検出された特異な遺構である。墨書のないものとあるものを比べると墨書のあるものが5割強で全部で102点が出土している。墨書は底部外面か体部外面に書かれ、日付が1個もしくは3個書かれるものが多い。読めても、これもまた意味不明な墨書があるのは618号遺構と同様である。この2遺構の墨書かわらけに特徴的なことは、使用痕がほとんどみられないことと比較的器形のばらつきが少ないことがあげられる。おそらくは墨書をされてまもなく廃棄されたのであろうし、一括購入も考えられる。墨書に関しては今後の好資料の増加を待ちたい。

最後に底部に穿孔のあるかわらけにふれておく。これはⅠa～Ⅲc期の第60図12・13・15～17(309号遺構)、第82図25(617号遺構)、第89図6(618号遺構)、第113図9(678号遺構)、第149図36(391号遺構)、第152図7・11・14・22・23・25(395号遺構)、第168図11(537号遺構)に1個から数個認められるもので、すべて焼成後穿孔である。底部の中央部に3～7mm大の円形または方形の穴が1個開けられる。口唇部・穴の内面の周囲に煤が付着するものがあり、墨書はない(309号遺構のものは墨書があるものが存在するが、他のものに比して穴が小さく、中央部からはずれた部分に2個開けられているものもあり例外と考える)ので、灯明具の一種と思われる。ただ焼成後に穿孔していることからそれほどの需要はなかったといえよう。第210図14はⅨ期のものであるが焼成前穿孔であるので、焼成後穿孔より焼成前穿孔の方が後出の可能性あることを指摘しておきたい。

(鈴木裕子)

註

- 1) 島田貞彦1946、横田洋三1984によると手づくねかわらけの製作方法は粘土塊を肘に軽く打ちつけて皿状にし、さらに円型(木製の円盤)を押しつけてのぼし、最後に木製工具によって内面調整と沈線を施すとある。なお、本地点出土の内面の体底部際に沈線が巡るタイプのものは横田洋三1984のB4タイプに器形的には類似していることをつけ加えておく。
- 2) 1087号遺構はこれと同じ器形のものが他に12個体出土している。
- 3) 一般にかわらけは底径・口径比、 $\tan\alpha$ 等により変遷が語られる場合も多いが、本地点では計算値では並んでこなかった。これは同一遺構内でも器形にかなりのバラエティがあるためと思われる。
- 4) 小川貴司1976による。
- 5) ここでは2種に分けたが、かわらけを1個作るためにそれほど複雑な工程を経て粘土塊から切り離したとは考えられず、ロクロの回転速度、職人のクセ、糸を引くタイミング等の微妙な条件によって糸切り痕の残りが変わることは容易に想像がつくものでこの分類もかなり流動的である。

- 6) 上田真1987では「上製かわらけ」としている。
- 7) 678号遺構第114図14は、底部に回転糸切り痕を残している。拓影図211図20を参照。
- 8) 本遺跡病院地点でも同様の結果が出ている。
- 9) 羽生淳子1989による。
- 10) このかわらけに対しては上田真1987による分析がある。また本遺跡病院地点でも出土例がある。
- 11) 東京大学理学部調査室 1989 『東京大学本郷構内の遺跡 理学部7号館地点』

(6) 土器灯明具・透明釉施釉土師質灯明具・陶器灯明具

本項では土器の灯明具を中心に陶器灯明具も同時に取り扱う。なお瓦灯に関しては形態上の差が大きいため、最後に一括して記載した。

まず瓦灯を除いた灯明具で図示し得たものは13点で、その内訳は土師質の受付き灯明皿が1点(第180図10)、同ひょうそく2点(第180図11, 第198図14)、透明釉施釉の土師質灯明皿が1点(第200図6)、同受付き灯明皿が4点(185図8・9, 第198図11・12)、同有脚受付き灯明皿が3点(第198図13, 第200図7・8)、同ひょうそくが2点(第198図15・16)、陶器灯明具は灯明皿が1点(第198図3)、受付き灯明皿が2点(第185図7, 第198図2)である。

土師質灯明具のひょうそくは底部に回転糸切り痕をもつもので、灯芯立て部は上方から工具をさし込み側面に切り込みを入れ、この中の粘土を折り取る。灯芯立て部の口唇部には煤が付着している。受付き灯明皿も底部に回転糸切り痕をもつ。第180図10はところどころに銀彩⁹⁾が残っており、もともとは全面に施されていたものと思われる。有脚受付き灯明皿は脚部内面とその周辺部は無釉。脚部内面は工具をさし込み放射状に中の粘土を折り取っている。受付のもの受けの高さは第180図10, 第185図8・9が高く、第198図11~13, 第200図7・8が低い。後者の断面をみると三角形になっている。切り込みはすべて逆アーチ状である。これら土師質のものと透明釉を施したものは同じ器種でも器形に差異がある。たとえば第198図14のひょうそくは体部は直線的に外反するが、同図15・16の場合は内湾しながら立ち上がっており、体部自体の高さも高い。また第200図6の灯明皿にはかわらけの内面にみられる体底部境の凹みと盛り上がりがなく、体部から底部へはスムーズに立ち上がる。かわらけに透明釉を施釉しただけではなく、最初から灯明具としての作りが伺える。

陶器の灯明具は第185図7, 第198図2が志戸呂産のもの、第198図3が瀬戸・美濃の製品である。どれも鉄釉系の釉がかけられている。第198図2の志戸呂産の灯明具は受部が高く、そこに横長の穴が開けられる点が他の受付き灯明皿と相違する。また受部に穿孔するものは志戸呂以外に類例をみないものである。

一方出土状況を遺構ごとにみてゆくと、VI期の416号遺構から2点、VII期の233号遺構が3点、VIII期の1号遺構が8点、IX期の49号遺構が3点であり、遺物の総数の中でその占める割合はご

く少ないといえる。またいずれも18世紀後葉以降の遺構である。特に透明釉を施釉したものは233号遺構より新しい遺構から検出されている（組成からも同様の結果が出ている。第8表参照）。

次に瓦灯であるが、これは量的には多くなく、器形復元できる個体数も少ない。

実測図掲載資料のうち、蓋はⅠ期の第59図20（270号遺構）、第73図18（532号遺構）、Ⅱ期の第130図8（276号遺構）、他に第219図4、また身はⅡ期の第130図5・6（276号遺構）の他に第219図3がある。

蓋は、手づくねか型作りかはっきりしない受皿部とロクロ輪積で成形された体部を接着させている。このときの体部は接着部である天井部が作られておらず、ちょうど穴があいているような状態で、そこに受皿部の下方が埋めこまれている。その後、指によるナデが施され、さらに外面はミガキがなされる。第130図8は受皿部をもたないものであるが、製作技法が瓦灯の蓋と同じという点と窓がつくという点より、瓦灯と扱えた。これの天井部は開口部を粘土塊で塞ぐという方法がとられており、前述の受皿部をもつものと同じ製作技法である。外面のミガキは丁寧で光沢がみられる。

身の成形は、基本的にはロクロ輪積成形であるが、突起部は成形済みの粘土板接着、受皿部は、手づくねもしくは型作りの皿+円筒状粘土の接着が行われている。なお、第130図5にはこの接着の際のねじり痕がみられる。

また、第218図3の刻書については同じ本遺跡の理学部7号館地点²⁾出土遺物に類例があり、時期的にも17世紀後半という点で一致し注目される。

瓦灯について少ない資料ながら時期的な外観を行うならば、他の瓦質・土師質土器にその傾向が伺えるように17世紀中葉のものはそれ以降のものに比べて器厚が厚く、大きめのものが多い。また、土師質の出現は瓦質の出現より後出と考えられるようである。

（鈴木裕子・渡辺ますみ）

註

- 1) 瓦質・土師質土器にも同様のものがみられるが基本的には残りは悪い。厳密に言えば、すべてが同じ顔料を使用しているのかも不明であり、どのような意図のもとに施されたのかも不明であるが、本報告では「銀彩」で統一した（観察表も同様）。
- 2) 東京大学理学部遺跡調査室 1989 『東京大学本郷構内の遺跡 理学部7号館地点』

(7) 焙烙

焙烙は一般に食物を煎る素焼きの調理具とされるが、その形態について明確な基準はない。

概して直径25～40cm位の皿状のもの、あるいはそれに近い底の浅い器状のものを指しているようである。本稿ではそれらを焙烙として取り扱うことにした。以下、主要遺構出土資料を中心に本地点での様相を概観してゆくことにする。

なお、実測図の左下にある円は、内耳が2個以上残存しているものや刻印のあるものについて、その平面的位置を示したものである。

本地点出土の焙烙は、ほとんどが江戸在地産と思われるやや軟質で粉質の胎土をもつ土器である（これ以外のものは別記）。

これらは、体部と底部の区別がはっきりしている平底のもの（A類）、同じく丸底のもの（B類）、体部と底部の区別がはっきりしないもの（C類）に分けられ、前2者はさらに内耳がつくものと（A1・B1類）とつかないもの（A2・B2類）に分けられる。

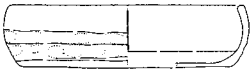

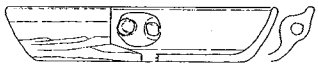

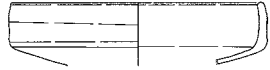






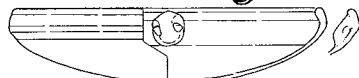

A類に属するものは、第212図6～8である。6は瓦質、7・8は土師質であるが、いずれもロクロ紐作り成形で体部内外面は横位のナデが施されており、内耳は団子状粘土を貼りつけ、指で穴を開ける。内耳のついている部分は外側に突出している。体部下位、底体部際それぞれ特徴的で、6は指によるナデツケ、7は未調整、8はミガキがみられるが「体部内外面横位のナデ」後の作業内容として把えられ、製作工程は基本的に同じといえる。なお、7は底部が残っており、外面にスグレ状痕が残っている。第212図9はその形態が第212図6～8によく似ていることから、内耳のつく可能性がある。

A2類に属するものは、第122図21である。残存部が1/4という点から断定はできないが、体部がかなり内湾している形態を考えて内耳がつかないものとした。体部外面下半に（ロクロ輪積）成形時の指頭痕が残る。底部外面にはスグレ状痕がみられる。

B1類に属するものは、I期の270号遺構（第59図18）、678号遺構（第115図8、9）、II期の276号遺構（第130図3）、III期の255a号遺構（第140図12～4）、391号遺構（第151図9・10）、395号遺構（第156図8）、444号遺構（第212図1）、VI期の416号遺構（第180図12～14）、429号遺構（第212図3）、VII期の233号遺構（第185図11・12）で出土しており、他に第212図2・4がある。B2類に属するものは、II期の276号遺構（第130図2、4）、III期の395号遺構（第156図7）、VII期の245号遺構（第190図11）で出土している。

B1・B2類は、内耳の有無以外は基本的に同じ製作技法・工程をとっており、型づくりした粘土板の底部にロクロを利用して体部になる粘土紐を接着していく方法で、底部にはちぢれ目がみられる。底体部の接合部を中心に横位のケズリが施され、さらに横位のロクロナデで仕上げられるが、このときナデが及ばなかった体部外面下位にケズリ痕が残ることになる。内耳はこの成形の後つけられる。B1類の内耳は円板状粘土を貼付け、左右から棒状工具を突き刺して開けられており、内耳の内部が空洞になっているのがわかる例も多い（第59図18、第115図8・

第5表 焙烙A・B類変遷表

I a 期	 A2 第122図21	 A1 第212図7  第212図5
I b 期		 B1 a 第115図8
II 期	 第130図2	 第130図3
III 期	 第156図7	 第212図1  第140図14  第151図9
VI 期	 第190図11	 第180図13
VII 期		 第185図12 スケールは1/8

9, 第151図10, 第156図8, 第180図12~14, 第185図11・12, 第212図1, 写真67—4)。

C類に属するものは, 第130図1 (276号遺構) である。ロクロ紐作り成形で, 一部残存している底部の外面にちぢれ目がみられる点はB類と共通しているが, 断面が半球に近い器形は他の遺跡でも類例はなく特殊である。この外面には煤が大量に付着しており, A・B類とは使用形態が異なったことも考えられる。

これらが本地点の焙烙の大部分を占めるものである。次に出土状況と変遷を検討する。

A類の類例としては, 白山四丁目遺跡¹⁾, 御殿前遺跡²⁾, 東京大学構内遺跡理学部7号館地点³⁾出土のものがあげられる。いずれも17世紀と捉えられてはいるが, より細かい絶対年代が与えられるのは理学部7号館地点の2号土坑である。それによれば, 本地点の532号遺構と同じような内容の出土遺物をみる。またA1類に属する第212図8は同一個体と思われる破片が532号遺構から出土しており, A1類とB1類が共伴をみないことと合わせて考えると, A1類の存在はI a期におさまる可能性がある。

A2類に属するものは1点のみであり, 他遺跡での類例も知らないが, 同じI b期の678号遺構に内耳がつく丸底のものが, またほぼ同時期に比定される理学部7号館地点1号土坑に内耳がついていない丸底のものが, それぞれみられることより, A2類とB類は時期的に重なる部分があるのかもしれない。ただその場合でもA類の末期に近い時期であろう。

B類は江戸市中の遺跡で広くみられる丸底のものである。このB類をさらに器高に対する体部高が $1/2$ 以上のもの(a), $1/2$ 未満のもの(b)に分けるとB1a・B2a類はIII期まで, B1b・B2b類はVI・VII期となり, 新しいものは体部高が低くなることが指摘できる。

この推移を細かくみてゆくと, B1a類では体部の傾きが外傾→直立→弱い内傾という変化を捉えることができる⁵⁾。また内耳も円板状粘土貼付けであるが, 時期が下るにしたがって小形になってくる。

このB1a類での変化はそのままB1b類へ引き継がれ体部はさらに内側へ内湾する。ただし内耳の大きさには変わらないようである。B1b類では体部高が減じる分, 内耳が底にかかって付いてしまうことになり, また体部外面のナデが及ばなかった部分に残るケズリ痕も前段階よりは下方にみられることになる。

B2a類の変化をみると, 体部の傾きがB1類と異なり, 古い時期の方がより内傾気味であり, 時期が下るにしたがってそれが緩和されてきて, III期ではB1b類と同じ器形になっている。

次に江戸在地産製品に含めなかったものについて触れる。

第212図5は硬質瓦質であり, いわゆる江戸在地のものとは胎土が異なる。耳が体部内におさまらず底にかかっているところから, 17世紀代のものであると思われる。

第212図10は, 体部下半に最大径をもち, 体部が内傾する深めの皿状のものである。胎土はや

や硬質で橙色を呈し、搬入品と思われる。体部外面下半に斜位の平行タタキ目がみられ、口縁部には雑な横ナデが施される⁹⁾。

以上本地点出土の焙烙を主要遺構を中心に概観してきたが、最後にいくつかの問題点をあげ、今後の課題としたい。

まず発生と系統に関して、A類の位置づけが問題となろう。

A類とB類の関係において、A類がB類より先出することはすでに述べたとおりである。系統的な視点では、体部の傾きや内耳の外見などのようにB類がA類の形態的特徴を引き継ぐ面と、逆に平底（スダレ状痕）→丸底（ちぢれ目⁷⁾）、団子状粘土貼付の内耳→円板状粘土貼付の内耳という技術的变化がみられる。そしてこの変化は17世紀の半ばと考えられる。

また現時点では、前述したように江戸市中はA・B類によって占められているが、近郊では平底で橋状の内耳をもつ瓦質のもの（第212図5のタイプ）が多いとされる。後者は中世からの系譜を追えるものであるが、前者は近世になって出現すると考えられるものである。ただ両者ともその系譜・分布はともに不分明な部分が多く、また両者の関係にも注意すべきであろう。

次に使用形態に関わる問題であるが、内耳の機能について若干触れてみたい。

内耳は時期が下るにしたがって小形化するとともにそれを有する焙烙も量的に少なくなっていき、遂には消滅するという指摘がある⁹⁾吊り下げる機能が不要になってゆくとも解釈されており、イロリ文化からカマド文化への変化がその背景としてあげられている⁹⁾。本地点の様相を破片数によって示すと、例えば678号遺構（I b期）、276号遺構（II期）、391号遺構（III c期）、416号遺構（VI期）の〔内耳のない口縁・体部片数〕：〔内耳のある口縁・体部片数〕は、それぞれ16：5，61：13，41：8，19：12となる。これを個体におきかえた場合、内耳を有する焙烙が極端に少なくなるともいえない状況であろう。

また、内耳の使用痕については、あまり顕著にはみられないが、第185図11や写真67—2のように内耳の欠損部を穿孔して利用した痕跡のみられるものがあり、やはり内耳は吊り下げるものとして機能していたと考える。

本地点出土資料は決して多いとはいえないが、江戸の様相の一端として重要な、また興味深い情報を提供している。今後の資料の増加、知見の展開によって、漠然としていた焙烙像が明らかにされよう。

（渡辺ますみ）

註

- 1) 白山四丁目遺跡調査会 1981 「白山四丁目遺跡」
- 2) 東京都北区教育委員会 1988 「御殿前遺跡」

- 3) 東京大学理学部遺跡調査室 1989 「東京大学本郷構内の遺跡 理学部 7 号館地点」東京大学遺跡調査室発掘調査報告書 1
- 4) 特に肥前磁器をみると「初期伊万里」の特徴をもつ小皿や高台無釉の碗が出土しており、同じ時期と考えられる。
- 5) 第130図3には内耳がないが、同一個体と思われる破片に内耳についていた痕跡がみられたためB1類に含めた。
- 6) この資料は堺環濠都市遺跡SKT14地点SF001（堺市教育委員会 1984 「堺市文化財調査報告第20集」）から出土している「土塀」に類似する。年代は17世紀中頃とされる。
- 7) 底部のスグレ状痕からちぢれ目への変化は他の瓦質・土師質土器についてもいえる（(8)瓦質・土師質土器の項参照）。
- 8) 小林謙一1986aによる。
- 9) 辻真人1988による。

(8) 瓦質・土師質土器

本項では、焼塩壺・かわらけ・焙烙・灯明具を除く素焼き製品を瓦質・土師質土器として取り扱う。

本地点出土の瓦質・土師質土器は、17世紀代の資料としては比較的まとまっており、遺構出土一括資料の好資料といえる。ただ出土量自体は多くなく(第8表)、図示した器形復元可能な個体資料は器種に偏りがみられるため、17世紀代の主要遺構については組成表を作成した(第6表)。挿図と合わせて参照されたい。

出土資料は多種多様な器種にわたっているので、本報告では形態から火鉢・焔炉・その他の3つに大別した。







1) 火鉢

基本的な形態としては上方へ向って開口されているので、観察表に火鉢・壺と記載しているのを当該資料としている。これらはさらに5種類に分類される。

A類は「丸火鉢」「手焙り」とよばれる体部がやや外側へ開く鉢形のものである。本地点で一番出土量の多い器種で、形態の特徴から3つに分かれる。

A I類は体部が外へ開きながら立ち上がり、口縁部がほぼ直立するもので、口縁部形態を中心に2分できる。aは口縁部内側端が突出するもので、体部は直線的に立ち上がる。瓦質は第115図2・3；678号遺構（I b期）、第130図10；276号遺構（II期）、第140図16；255a号遺構・第117図9；886号遺構（III a期）で、土師質は第59図21；270号遺構（I b期）、第169図1；537号遺構（III c期）、第185図20；233号遺構・第190図3～6；245号遺構（以上VII期）、他に第213図5、第215図1、第216図1がある。bは口縁部内側端の突出がみられないもので、体部下半部が丸味をおびている。瓦質は第73図15・16；532号遺構（I a期）、第85図5；618号遺構（I b期）、第130図8・9・11；276号遺構（II期）、第140図17；255a号遺構（III a期）、第214図

第6表 I～III期遺構出土瓦質・土師質土器の組成表

器種													
	火鉢 A	火鉢 B	火鉢 C	火鉢 D	火鉢 E	火鉢 F	火鉢 G	火鉢 H	火鉢 I	火鉢 J	火鉢 K	火鉢 L	
小林分類1986	鉢A属Iーイ	箱形属I	—	鉢A属Iーロ	鉢C属Vーニ	鉢A属Iーロ	鉢C属Vーニ	鉢A属Iーロ	鉢C属Vーニ	鉢A属Iーロ	鉢C属Vーニ	鉢A属Iーロ	ちーちどれ目 スースダレ状痕 (1)一破片点数1点
小川分類1988	①aロ	①c	①d	①bイ	②b	①bイ	②b	①bイ	②b	①bイ	②b	①bイ	
材質	瓦質	土師質	瓦質	土師質	瓦質	土師質	瓦質	土師質	瓦質	土師質	瓦質	土師質	瓦質
532号遺構	I a期	○ス	○ス	○ス	○ス	○ス	○ス	○ス	○ス	○ス	○ス	○ス	破片資料の中の円形の底部のものは、ち どれ目。
270号遺構	I b期	○	○ち	○ス	○ス	○ス	○ス	○ス	○ス	○ス	○ス	○ス	破片資料の中の円形の底部のものは、ち どれ目。
618号遺構	I b期	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	破片資料の中の円形の底部のものは、ち どれ目。
678号遺構	I b期	○スち	○	○ス	○ス	○ス	○ス	○ス	○ス	○ス	○ス	○ス	破片資料の中の円形の底部のものは、ち どれ目。
276号遺構	II期	○ス	○	○スち	○ス	○ス	○ス	○ス	○ス	○ス	○ス	○ス	破片資料の中の円形の底部のものは、ち どれ目。風炉（瓦質）あり。
255a号遺構	III a期	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	破片資料の中の円形の底部のものは、ち どれ目。
886号遺構	III a期	○ち	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	破片資料の中の円形の底部のものは、ち どれ目。
252号遺構	III c期			○	○	○	○	○	○	○	○	○	破片資料の中の円形の底部のものは、ち どれ目。風炉（土師質）あり。
537号遺構	III c期	○ち											破片資料の中の円形の底部のものはち れ目。

1, 土師質は第213図6があたる。

時期的にみてみるとAⅠa類はⅠb期からⅦ期まで存在するが、Ⅰb類はⅠa期からⅢc期までしかみられない。これよりAⅠb類はAⅠa類より先出であり、古い時期の要素と考えられよう³⁾。

また材質別の動向は瓦質は17世紀代(Ⅰ～Ⅲ期)におさまるが、土師質は18世紀末(Ⅶ期)までみられる。それに対応するように量的にも瓦質主体から土師質主体という推移がみられる。この交代の時期は17世紀末頃と考えるが、本地点での18世紀前半の資料の欠如を鑑みると、他遺跡での事例を照し合わせる必要がある。

AⅠ類の製作方法はロクロ輪積成形の後、底部部接合部や口縁部を中心に工具(木口状工具が多い)によるナデ整形がなされ、さらに体部外面に丁寧なナデ、あるいは雑なミガキが施される。この最後の調整は概して瓦質製品にはミガキが、土師質製品にはナデが多い²⁾。

AⅡ類は体部はほぼ直線的に立ち上がり、口縁部が内湾するもの。AⅠ類と比べると口径の割には器高が高い。成形はAⅠ類と同じくロクロ輪積成形で内面に指頭痕が残る。また口縁部外面と体部の底部際には強い横方向のナデがみられる。これに該当するものは第180図16・17(416号遺構)、第213図4(429号遺構)で、いずれもⅥ期に属するものである⁴⁾。

AⅡ類には瓦質がみられず、存在も比較的短かい期間に限られるようであり、特異な一群といえる。

AⅢ類は体部が丸味をもって立ち上がり、口縁部が内湾するものである。第185図17・18・21(233号遺構)、第190図7～10(245号遺構)、第213図1・2がこれにあたる。体部外面の口唇部直下に横位の沈線が1本巡り、その下に蓆目・斜格子・曲線・半菊文等の回転押圧文が施される。

本類はロクロ輪積成形のものが多くと思われるが⁵⁾、AⅠ類の瓦質のもの(17世紀代)よりロクロ目が顕著にみられる。材質は瓦質のみが存在する。

そしてA類の時期的な推移は概ねAⅠa.b類→AⅡ類→AⅢ類と考えられるものである。

B類は「角火鉢」といわれるものである。本類に属するものは第73図17(532号遺構)(Ⅰa期)、第115図7(678号遺構)(Ⅰb期)、第131図4・5(276号遺構)(Ⅱ期)、第213図7、第214図2で、すべて瓦質である。土師質は破片資料に数点みただけである。

成形は粘土板を組み合わせて作る粘土板成形であり、接合部を中心に内面は指によるナデ、外面は面取りのなケズリが行われている。この内外面の調整は古い時期に顕著にみられる。底部外面にはスグレ状痕・蓆状痕・板状痕がみられるが、ちぢれ目は少ない。

C類も「角火鉢」であるが、口縁部に鐺がつき、器高が高いものである。足はつかない。

本類も粘土板成形で、体部は未調整あるいは雑なナデ調整であるが、鐺部は丁寧なナデ調整

がなされる。第215図2（瓦質）と第216図3（土師質）が該当する。

D類は「火消し壺」の一種だと思われるが口がすばまる独特の口縁部をもつ。ロクロ輪積成形で手かけ状の円錐台形の粘土塊が体部外面に一对つく。第115図4・5（678号遺構）がこれにあたる。

E類は「その他」で、出土点数の少ないものや特殊な器形のものを一括する。

第212図11は最大径を体部下位にもつ壺形のもの。第131図1（276号遺構）も同様のものだろうか。同じ壺形でも第73図14（532号遺構）と第140図18（255a号遺構）は口縁部が垂直に立ち上がるものである。後者は押圧文による装飾が施されており、時期的なことを考え合わせると興味深い。

第212図12は形態的には火鉢に含まれるものであるが、彩色が施してあり、口唇部の磨滅が全くみられないなど、大きさ、形態が似ていても口唇部に顕著な磨滅痕の残る第185図19（233号遺構）とは用途が相違する可能性はある（ちなみに後者は「灰落とし」とされるものである）。

第213図3も形態的には火鉢A類に類似するが、器高が浅めで押圧文を施す。ただ火鉢A類と同様に口唇部が磨滅しており、器能は共通するものがあるかもしれない。また文様は時期的には回転押圧文出現以前の可能性が強く、それとの関係が注目される。

第216図2は胎土が灰白色で粗く、非在地のものと思われる。口縁部外面の格子目状タタキ目や体部外面の平行タタキ目、板状で折返しのは関西の技術であろう⁶⁾。

2) 焜炉

上方への開口と窓がみられるものであり、本地点ではいくつかの種類がある。

第217図1・2、第218図1・2は「舟カマド」とされるもので口縁部から切り込む窓をもつ円筒形の本体と火口部である箱形の突出部をもつ。円筒形の体部はロクロ輪積成形、火口部は板土板成形である。体部内外面はナデが施されるが、内面の接合部は木口状工具によるもので、火鉢と同じ製作技法である。第217図2のように体部内面に突起がつくものもある。

第85図4（618号遺構）は下半が欠損しているため全体像を知り得ないが、上方への開口と窓をもつということで焜炉の一種とした。第169図2（537号遺構）は上方への開口と2つの窓がつく大形の焜炉である。第131図2・3（276号遺構）も焜炉であろう。郵政省飯倉分館構内遺跡に類例がみられる⁷⁾。

3) その他

第59図19（270号遺構）、第115図1（678号遺構）、第190図2（245号遺構）は蓋である。前2者は円形で、従来「焙烙の蓋」とされてきたものであり⁸⁾、ロクロ輪積成形で作られた天井部・体部につまみが貼り付けられる。後者は一部欠損しているが、土師質の方形の蓋である。これについては、同じような方形の蓋が郵政省飯倉分館構内遺跡⁹⁾や新宿区三栄町遺跡¹⁰⁾から出土し

ているが、セットになる身や使用形態など不明である。

第212図14は粘土板成形で内側にしきりの痕が認められる。類例としては感応寺址遺跡のものがある¹¹⁾。

第201図2(49号遺構)は瓦質の、第212図12は土師質の植木鉢である。時期的にはほぼ同じであるが、瓦質と土師質で口縁部形態が違っている。第201図4(49号遺構)はしきりのある鉢で盆栽用か。とすると第201図5(49号遺構)もそう捉えられそうである。

以上の瓦質・土師質土器の全体の様相を概観すると、17世紀中葉～後葉にかけてと、18世紀前半、18世紀後葉に画期がみられる。17世紀中葉～後葉にかけては製品の薄手化と器種の増加(特に焔炉類)がみられる。またこの時期は瓦質製品が多い。18世紀前半の変化は土師質製品の増加と回転押印文の出現である。18世紀後葉には、小型製品の大量生産が可能になっており、技術的にロクロ(回転台)の回転力の強化・ロクロ水挽き成形が行われるようになっていくと思われる。

最後に瓦質、土師質製品の刻書・墨書・使用痕について記しておく。刻書・墨書は416号遺構の火鉢AII類(第180図17)と233・245号遺構の火鉢AI類の小形のもの(第190図3～6)、火鉢AIII類(第185図17・18・21, 第190図7～10)にみられる。第180図17は「諸道」、第190図6には「□左衛門」、8には「十蔵」と人名が書かれている。この種の火鉢に刻書があるものは郵政省飯蔵分館構内遺跡でも報告例があり¹²⁾、同遺跡の瓦質・土師質土器を分析した小林謙一氏は個人所有を示すものとしている¹³⁾。本地点でも233・245号遺構はやはり個人名を表わすと思われる墨書のある陶器が大量に出土しており、それとも関連性がある(2)陶器の項参照)。その他233・245号遺構と一連のもので、ほぼ同時期の第213図1にも「三右衛門」の刻書がある。

また使用痕として火鉢AI～AIII類の口唇部の磨滅と煤の付着があげられる。顕著なものは第185図21(233号遺構)、第190図8(245号遺構)のように原形を留めていない。これはキセルの敲打痕とされており¹⁴⁾、本遺跡でもこれを積極的に否定する資料はないものである。

瓦質・土師質土器の今後の問題点としては多種多様な器形の把握を新しい資料の増加によって進めると同時に、名称(現在は器能的な側面からつけられている場合が多い)の統一をはかることが必要であろう。また瓦質・土師質の材質そのものの共通認識を得た上での系統の把握、成形技法の解明、さらに最近着目されてきた「銀彩¹⁵⁾」の器能・消長等があげられよう。

(渡辺ますみ・鈴木裕子)

註

- 1) 火鉢が「暖房具」という機能をもつとき、ここで規定した器形との対応がうまくいかないものがでてくるであろうが、ここでは機能よりは形態を特徴づける名称として使っている。

- 2) 瓦質製品にみるミガキは概して雑であり、装飾効果を第一目的としているとは思われず、還元炎焼成に対する前作業として行われていると考えられる。
- 3) 底部外面のステグレ状痕は古い要素として扱っているが、このステグレ状痕がA I b類に多いことは対応関係において注意されるところである。
- 4) 本遺跡中央診療棟地点でも1720～1760年代とされるE 24—1遺構から同種のものが出土している。小川望氏の教示による。
- 5) 内面にわずかに凹凸がみられるものがあり、これは輪積成形時の指頭痕と思われる。ただこの痕は回転力の強いロクロによるナデ（ロクロ目）によって消されている。また底部はちぢれ目のものがほとんどで、これがロクロ輪積成形の根拠になっている。ただし第190図7は底部に回転糸切り痕を残しており、ロクロ輪積成形とするには問題がある。
- 6) 堺環濠都市遺跡SKT57（堺市教育委員会1986『堺市文化財調査報告第30集』）に形態的に類似するものがある。
- 7) 港区麻布台1丁目遺跡調査会 1986『麻布台1丁目 郵政省飯倉分館構内遺跡』
- 8) 製作技法的には火鉢・焔炉類と同じである。がっしりした作りで重たく（一方焙烙の器厚は薄い）、またサイズ的にも蓋の方がずっと小さいこと等から「焙烙の蓋」とするには無理があろう。
- 9) 7)と同じ。
- 10) 東京都新宿区教育委員会 1988『三栄町遺跡』
- 11) 小田原市教育委員会 1982『感応寺址』では香炉としている。
- 12) 7)と同じ。
- 13) 小林謙一1986bによる。
- 14) 小林謙一1986aによる。
- 15) 本遺跡の理学部7号館地点で初めて報告された（山口1989）。瓦質・土師質にかかわらず、また器種の区別なく（灯明具にも存在する。（6）土師質灯明具・透明釉施土師質灯明具・陶器灯明具の項参照）施されていたようである。ただし遺存状況が非常に悪く、ごく一部にしか残っていないものがほとんどである。

(9) 舶載磁器¹⁾

本地点では主要遺構内出土の舶載磁器だけでも800片以上を数えており、I期の遺構がその90%を占めている（とはいえ各遺構の遺物総数の中では多くても数%、少ない遺構では1%を割っている。第7表参照）。器種は碗・小杯・皿が多く、他に蓋物がある。染付が大部分であるが、色絵・瑠璃釉・黄釉・呉須手・白磁・青磁等がある。これらは時期的には明末清初のもものがほとんどである。

本報告では近世遺跡での舶載磁器の出土量の少なさを鑑みてできるだけ多くの個体を図示した。また量の多い532号遺構・678号遺構は図示し得なかったものを写真図版の方に記載した（写真73～75、第35・36表も参照のこと）。

明末清初 まず碗はほぼ直立する高台部から体部下位に丸味をもってやや開き気味に立ち上がるものが主流である（532号遺構第77図1～4・6・7）。第77図2は見込に「博古斎」と書くもので明崇禎時代のものとされる²⁾。第116図7（678号遺構）は見込と体部外面に人物文を描く饅頭心のもの、第116図9（678号遺構）、第77図11（532号遺構）は高台内が丸く盛り上がり、

体部が開く蓮子碗の系統と思われるもの。これらは16世紀末ころに出現するとされる前述の碗より器形的には先出のものである。碗（618号遺構；第89図13）・小杯（532号遺構；第77図15）は疊付を幅広くとり、疊付から高台内を無釉にするもの。532号遺構第77図9の皿，16・17の小杯の疊付の幅はやや狭いが同様に高台内を無釉とするものである。

小杯は532号遺構で端反りのものがまとまって出土している。この他に第125図8（276号遺構）は高台内に「竹石居」銘が入る。これは清康熙時代のもものとされる³⁾。第150図26（391号遺構），写真73-7～11（532号遺構）の小杯はペンシルドローイングのものである。写真75-1（678号遺構）は，口縁部に透しが入る小杯。ヨーロッパではこの種のものの内側にその器形にあわせた金属容器をはめこむものである。

皿は折縁のものが目立つ。第78図8は見込に樹下人物文を描く。第89図16（618号遺構）は山水文が，第135図4（252号遺構）は水鳥文が描かれるものである。第221図3・5，第222図14・15も同様の器形である（第222図15はマゲ姿がモチーフになっているところが興味深い）。この他に初期の肥前磁器のように高台径の小さい第78図4（532号遺構），第221図20・第222図4・第223図9のような皿もある。第82図31は碁笥底の皿。第220図1～3も碁笥底であるが，碗と思われる。1は半磁胎で灰褐色の胎土のもの，2は白磁で草花文筋彫，3も半磁胎で色絵で草

第7表 船載磁器器種別集計表

		碗		皿		杯		その他		器種不明		計
		破片数	%	破片数	%	破片数	%	破片数	%	破片数	%	
I 期	255b号遺構							3	100			3
	270号遺構	5	10.6	16	34.1	10	21.3	4	8.5	12	25.5	47
	309号遺構	1	33.3	1	33.3	1	33.3					3
	532号遺構	67	16.0	154	36.9	101	24.2	26	6.2	70	16.7	418
	617号遺構			1	50.0			1	50.0			2
	618号遺構	5	14.7	20	58.9	7	20.6	1	2.9	1	2.9	34
	678号遺構	26	11.9	104	47.7	34	15.6	17	7.8	37	17.0	218
	802号遺構	2	40.0	2	40.0					1	20.0	5
II 期	276号遺構			4	80.0	1	20.0					5
III 期	252号遺構			15	93.7	1	6.3					16
	255a号遺構	1	6.3	8	49.9					7	43.8	16
	271号遺構											
	391号遺構			1	12.5	5	62.5			2	25.0	8
	395号遺構											
	537号遺構											
	886号遺構 焼土溜り											
VI 期	416号遺構	12	33.3							2	66.7	3
VII 期	233号遺構											
	245号遺構	1	33.3	1	33.3	1	33.3					3
VIII 期	1号遺構	1	25.0	2	50.0			1	25.0			4
IX 期	49号遺構	3	8.3	12	33.3	6	16.7	9	25.0	6	16.7	36
計		113	13.8	341	41.6	167	20.3	62	7.5	13.8	6.8	819

255a号遺構は255号遺構を含む

文を描くものである。

写真74—10 (532号遺構)、第223図5は内外面瑠璃釉で口銹の皿、第220図4は外面のみ瑠璃釉の小杯である。第78図14、写真74—13・写真75—18・19はおそらく同一器形・文様の黄釉の鉢。緑・紫釉で瑞獸文(筋彫)を絵付する。写真75—17は同じく黄釉であるが紫・青・緑釉で絵付するもの。鉢のような器形であろうか。第116図14 (678号遺構)は紫釉の、第223図7はうす黄緑釉の単彩の皿である。どちらも高台の高さは低い。単82図30 (617号遺構)は色絵の上に金彩の残るいわゆる「金欄手」のもの。第78図16 (532号遺構)と第225図10は面盆の底部と口縁部片で同一個体であろうか。器形は八角形で口唇部は花卉状、口縁部は鐺状に外側に折れ曲るものである。第116図23 (678号遺構)の鉢は色絵・染付とも細密な描写で丁寧な作りのものである。口絵6—2は黄釉紅彩牡丹唐草文瓢形瓶の胴部片である⁴⁾。

これらの他に「古染付」と「祥瑞」が本地点では出土している。前者は17世紀前葉、後者は17世紀中葉に日本からの注文によって作られたとされるものである。現在両者とも明確な定義がなく特に「古染付」をここで胎土は磁胎であるが粗く、器壁が厚めで、口禿・虫食いが生じているものとすれば、第77図12 (532号遺構)の高台内が無釉で体部が直線的に開く碗、写真74—8・9の型打の皿(同左)、第116図21 (678号遺構)の蓋、第200図10 (49号遺構)の器種不明のものの高台、第224図9・10・23、第225図2・5・9の型打皿・蓋・筒形の容器がこれに該当しよう。皿は型打ちで変形皿が多い。第118図2 (255b号遺構)はおそらく獅子形のつまみがつく色絵の蓋、口絵7—1は色絵型打角皿の体部片である。これは「南京色絵」の部類に入るものである。

第220図17は第220図15・16が体部になると思われる鉢(杯?)である。体部外面には丸文、内面は松竹梅文、見込に菊花文が彩やかなコバルトブルーの呉須で描かれる。高台内には「五良大甫呉祥瑞造」の銘が入る⁵⁾。

第89図14 (618号遺構)、第116図13・18、第223図8・9は「色絵祥瑞」の皿である。これらは見込に祥瑞特有の幾何学文を呉須と色絵で施し、中に丸文を配す。体部内面は幾何学文と草花文(?)を交互に描いている。体部外面は花唐草と思われ、高台内には2重圈線が書かれている。

今まで染付の器形を中心にみてきたが、次に文様についてふれておく。最も多い部類に入る文様は草花文で、他に人物文・竜文・花虫文・芙蓉手等がある。草花文の中でも菊花文・捻花文は量が多いものである。技法的には第78図4 (532号遺構)は吹墨によるし、第116図15・19、第223図1、第224図5は吹墨を施し、墨弾きで文様を白抜きにしている。初期の肥前磁器(1650年代～60年代頃)にもこの手法が取り入れられている。第78図2・3、写真74—5は呉須で描いた絵の上から釘状の工具で筋彫りを施すものであるが、技法的には墨弾きより先出と考えら

れる⁶⁾。また筋彫りで文様を表現するもの（白磁。532号遺構の第78図7の皿，第220図21の皿），筋彫りと染付を併用するもの（第220図4・7，第222図16・17），第222図2・13は型打ち（陽刻）で文様を施す白磁の皿である。さらに色絵の多さも目立つ。

一方，第77図8（532号遺構），第116図10・12（678号遺構），第219図5の碗は，白い磁質の緻密な胎土の前述の染付と違って，半磁胎疊付に削りが入らず砂が付着する粗製品である。第77図8・第116図12は釉自体が白濁しており，焼成も悪いのかもしれない（270号遺構の第57図7もその可能性あり）。高台作りは違うが第219図1の碗もここに分類してよからう。

第78図10（532号遺構），第224図7・8の皿は呉須手の染付である。半磁胎で疊付から高台内には砂が多く付着する。釉は厚くかけられ，絵付はやや沈んだ調子になっている。第78図11・12，写真74—15・23（532号遺構），第117図3・第118図1（678号遺構），第225図11は呉須赤絵の鉢である。第118図1はよく使いこまれて高台付近の砂がとれている。第117図2（678号遺構）は青呉須の大皿。見込に竜文，体部内外に魚と異形の草花文を3単位で巡らす。第117図1は呉須手の白磁皿である。

これらの他には青磁がごく少数ながら存在する。写真75—12（678号遺構）は青磁碗。見込に印花文を施す。高台内は無釉で体部外面は蓮弁が入る。写真75—13（678号遺構）は枯青磁で菊形瓶であろうか。写真75—14（678号遺構）は白磁の型打ち皿。貫入が入り，口銹を施すもの。第225図13は酒会壺の底部である。胴部外面に鎬が入る。

清 清朝初期風のものとして第220図5の小杯がある。草文を描いているがダミの使い方は清朝的である。第220図6・9・13の小杯はやや粗い磁質な胎土で釉中に細かい気泡が入っているもの。9は内外面なずな文，13は「喜」の字を2つ並べて文様にしている。なお6と13は明治時代の2号遺構と7号遺構から検出されている。この遺構は明治10～20年代（1877～97年）と推定されている。また13の文様は同治年間（1862～1874年）のものと考えられ⁷⁾，遺構の年代とほぼ一致する。

以上中国磁器の概要を述べてきたが，時期的には前述のように明末清初の製品が大部分である。これは本地点の遺構が17世紀代が主体であるということ，またこの時期舶載磁器の絶対量そのものが多かったということが原因であろう。この時期の特徴として同一器種——たとえば皿とか碗——であっても多種多様な器形があり，文様があることがあげられる。17世紀前～中葉にかけて古染付・祥瑞が出現するとその多様さにさらに拍車がかかるようである。明末清初の考古学的な研究も本地点の主体を占める17世紀後半の時期はほとんど資料がなく空白となっており，本地点で遺構一括資料が豊富にあるとはいえ，系統だてることがほとんどできないのが現状である。本項で分類を優先しなかった理由はここにある。

また舶載磁器は伝世を念頭において論が進められる場合が多い。確かに本地点では主要遺構

以外の遺構、包含層とも幕末まで明末清初の遺物は出土しているが、これらの中には埋土・盛土への混入遺物もたくさんあると思われる。遺物をみてみても偽銘が多いという事実もある。本地点で確実に伝世しているといえる遺物は第221図6の焼継ぎのある皿である。現在の研究状況を考えるとその製品の生産年代の下限を求めるのも困難である。この現状をもって「伝世」を語るのは危険であろう。まずは今後の良好な資料の蓄積を持ちたいが、それには編年研究の進んでいる肥前磁器の器形・技法・文様等を中国磁器の年代にタイアップさせる方法が生産地（中国）の調査がなされていない現在、有効な手段となりうると思われる。

最後に口絵のみに記載のある遺物について書きそえておく。口絵6—2は黄釉紅彩牡丹唐草文瓢形瓶の胴部片。呉須で絵付した後に黄釉を塗る。かすかに紅く残る部分が牡丹の花で上絵付。内面施釉。口絵6—3は黄釉の鉢。内面も黄釉で、体部外面には草花文を筋彫りする。口絵6—6は磁胎の餅花手で柿釉の上に白で唐草文を描く。瓶の胴部片か。内面は施釉。口絵6—7は青釉を施す磁胎の器種不明のもの。胴部片であろう。内面は施釉。外面は文様が陽刻される。被熱。口絵7—3は南京赤絵の角鉢。口絵7—4は南京赤絵の角皿。口禿が目立つ。外面は無文。以上の遺物はすべて主要遺構以外の遺構、または包含層出土のものである。

なお舶載磁器の中の何点かは遺物は山上会館地点の遺物と接合しているが、これは山上会館地点の報告に記載してある。

（鈴木裕子）

註

- 1) 本報告で舶載磁器とされるものはほとんどすべて中国産の磁器である。
- 2) 耿賽昌1984による。
- 3) 2)と同じ。
- 4) 類品が松岡美術館にあるが、大きさは本地点のものの方が小さい。筆者実見。
- 5) 肥前磁器に祥瑞の文様を取り入れられるのは1940年代以降であるとされる（大橋康二1987b）
- 6) 大橋康二1984によると17世紀前半の肥前磁器にも同様の手法がみられるという。これからみても墨弾きの方が後出と思われる。
- 7) 耿賽昌1984による。

3. 組成

本地点で出土した陶磁器類は遺物収納箱で約1000箱を数えるが、本項で統計処理を行ったのは遺構一括資料として図示した22遺構である。数量化の基準には、各遺跡間で最も普遍的に採用されている破片数を使用した。なお接合している破片および個体は、それぞれ接合している破片数を数えた。また遺構間接構・包含層と接合しているものについては主要遺構出土の破片数のみを数えた（ただしその数は総破片数の中ではごく微量といえる）。

1) 生産地別の組成

上記の方法で各遺構の種別ごとの遺物の総数を集計したのが第8表である。最初にこの各々の種別の生産地ごとに消長をみてゆくことにする。

まず磁器はⅧ期まで肥前産である。第9表が磁器の器種組成であるが、碗・皿が最も多く、その他には鉢・瓶・蓋物(含む蓋)・香炉・仏飯具・水滴等がある。537号遺構・焼土溜りに瓶が多いのは大形の瓶がまとまって出土していることによる。蓋物が多いのも同様である。Ⅸ期になると瀬戸・美濃産の磁器が加わる。1割にも満たない数ではあるが、明治時代の遺構ではかなりの割合を示めている(次項参照)。量的には増減があるものの、遺構の数自体が少ない年代もあるので誤差の範中としたい。ここでは全遺構中の平均20%位としておく。

陶器は主要生産地は肥前、瀬戸・美濃があり、他に一定量がみられるものに信楽・志戸呂がある。肥前は碗・皿が大部分を示める(陶器の主な器種については第10表参照)。他にも鉢・甕等があるが、量は少ない。Ⅵ期以降全体的に量自体も減少している。瀬戸・美濃は碗・皿の他に瓶(徳利)・甕・壺・片口・香炉等があり、Ⅷ期・Ⅸ期の遺構になると器種はさらに増え、植木鉢・土鍋・水甕・鳥の餌入れ等が加わる。肥前が供膳具中心の供給であるのに対し瀬戸・美濃は、供膳具・調理具(播鉢も含めて)・貯蔵具等多岐に渡り、飲食器に留まらず、日用品にまで及んでいる。Ⅰ～Ⅸ期の陶器の生産地別の比率は瀬戸・美濃53.9%、肥前15.7%、志戸呂11.8%で、あとはその他の生産地(信楽・備前・京焼系等)で、瀬戸・美濃は2位の肥前の3倍以上の供給量である。志戸呂は瓶(徳利)が中心で、他に灯明具がある。灯明具は本地点では数がごく少なく、組成としては記述し得ない。備前産製品は瓶と甕のみである。各遺構に散在する程度で量的には安定していない。信楽は四耳壺がⅠ～Ⅲ期にみられる。明治時代の遺構からは灯明具・土瓶が確認されている。京焼との関係で不明な部分も多いと思われるが、空白期はあるものの(小杉碗が信楽であるならそうではなくなるが)一定量の供給は存在する。京焼系はⅠ～Ⅷ期の遺構で碗・鉢を中心にわずかに出土しているだけだが、確実に消費されているものである¹⁾。以上陶器の生産地をまとめてみると、本地点では瀬戸・美濃を中心に、志戸呂がほぼ常時供給源となり、時期によって肥前・信楽・京焼系・備前等が入ってくるということになる。

次に播鉢であるが生産地別の組成は第1表を参照願いたい。播鉢の主要な生産地は瀬戸・美濃、信楽系、備前系である。この3つで99%を占める。Ⅰ期では瀬戸・美濃と信楽系の割合が約2:8であったのに対し、Ⅱ・Ⅲ期では4:6と差が縮まる。そしてⅢ期末に堺(備前系)が出現すると、Ⅵ期以降は堺が約半数を占めるようになり、残りの半分を瀬戸・美濃と信楽系が2:3もしくは3:2で割り振る²⁾。遺物総数の中での比率はⅠ～Ⅲ期で平均4.2%、Ⅵ～Ⅸ期が1.8%で、時期が新しくなると若干減じているが、これは焼塩壺と同じような動向をしてお

第8表 遺構出土陶磁器類集計表

	搬入				品				在						地			計							
	磁器	陶器	器	播鉢	鉢	焼塩	壺	船載磁器		かわらけ	焙烙		瓦質・土師質土器	灯	明具										
								破片数	%		破片数	%				破片数	%		破片数	%					
I期	255b号遺構	41	21.7	44	23.3	7	3.7	4	2.1	3	1.6	86	45.5		7	0.5	4	2.1						189	
	270号遺構	295	19.1	279	18.1	78	5.1	30	1.9	47	3.0	676	43.8				131	8.5	1				0.0	1,544	
	309号遺構	130	19.5	88	13.2	24	3.6	26	3.9	3	0.4	393	58.8				4	0.6						668	
	532号遺構	650	10.5	660	10.7	222	3.6	199	3.2	418	6.8	3,927	63.4				111	1.8	3				0.0	6,192	
	617号遺構	164	22.5	39	5.4	51	7.0	26	3.6	2	0.3	438	60.2				7	1.0						727	
	618号遺構	99	7.6	83	6.4	11	0.8	3	0.2	34	2.6	1,030	79.1				23	1.8						1,303	
	678号遺構	1,463	42.1	255	7.3	278	8.0	90	2.6	218	6.3	1,034	29.8				104	3.0						3,475	
	802号遺構	113	12.3	28	3.0	16	1.7	238	25.9	5	0.5	518	56.3				3	0.3						921	
	II期	276号遺構	474	18.2	399	15.3	91	3.5	21	0.8	5	0.2	1,226	47.1				214	8.3	48					2,602
III期	252号遺構	472	43.0	308	28.0	44	4.0	1	0.1	16	1.5	164	14.9				88	8.0						1,099	
	255a号遺構	442	16.8	557	21.2	91	3.5	35	1.3	16	0.6	1,186	45.2				193	7.4	1				0.0	2,627	
	271号遺構	99	30.1	196	59.6	32	9.7					2	0.6											329	
	391号遺構	278	13.6	167	8.2	78	3.8	96	4.7	8	0.4	1,272	62.1				20	0.9						2,049	
	395号遺構	2	0.2	33	3.3	10	1.0					885	87.9				8	0.8						1,007	
IV期	537号遺構	1,433	56.8	645	25.6	29	1.1	5	0.2			357	14.1				46	1.8						2,526	
	886号遺構	73	20.4	65	18.2	56	15.6	39	10.9			92	25.7				33	9.2						358	
	焼土溜り	665	73.2	243	26.8																			908	
VI期	416号遺構	91	6.9	748	56.9	29	2.2			3	0.2	176	13.4				103	7.8	22					1,316	
VII期	233号遺構	182	21.0	467	53.9	19	2.2	3	0.3			9	1.0				164	18.9	12						867
	245号遺構	203	16.8	770	64.0	15	1.2	7	0.6	3	0.2	17	1.4				172	14.4	1				0.0	1,205	
VIII期	1号遺構	27	3.4	583	73.2	16	2.0	5	0.6	4	0.5	63	7.9				64	8.0	12						797
IX期	49号遺構	384	27.0	815	56.0	21	1.4	4	0.3	36	1.9	50	3.4				124	8.5	7						1,455
	計	7,780	22.8	7,472	21.9	1,218	3.6	832	2.4	821	2.4	13,601	39.8				720	2.1	1,613	4.7	107			0.3	34,164

255a号遺構は255号遺構を含む

第9表 磁器器種別集計表

	碗				皿				杯				瓶				その他				器種不明		計									
	肥		前		瀬戸・美濃		肥		前		瀬戸・美濃		肥		前		肥		前		肥			前								
	破片数	%	破片数	%	破片数	%	破片数	%	破片数	%	破片数	%	破片数	%	破片数	%	破片数	%	破片数	%	破片数	%		破片数	%							
I	255b号遺構	9	21.9				9	21.9															17	41.5	41							
	270号遺構	45	15.3				164	55.6														8	2.7	38	12.9	34	11.5	295				
	309号遺構	16	12.3				88	67.7																2	1.5	15	11.6	130				
	532号遺構	253	38.9				322	49.5																16	2.5	24	3.7	650				
	617号遺構	65	39.6				34	20.7																17	10.4	6	3.7	164				
	618号遺構	50	50.6				22	22.2																21	21.2	3	3.0	99				
期	678号遺構	314	21.5				889	60.8																	85	5.8	49	3.3	1,463			
	802号遺構	51	45.1				34	30.1																	4	3.5	3	2.7	113			
II期	276号遺構	198	41.8				130	27.4																		21	4.4	46	9.7	474		
III	252号遺構	79	16.7				247	52.3																		66	14.0	35	7.4	472		
	255a号遺構	104	23.5				149	33.7																		30	6.8	105	23.8	442		
	271号遺構	31	31.3				62	62.7																		1	1.0	3	3.0	99		
	391号遺構	71	25.5				99	35.7																		17	6.1	45	16.2	278		
	395号遺構						2	100.0																						2		
期	537号遺構	16	1.1				688	48.0																			489	34.1	37	2.6	1,433	
	886号遺構	14	19.2				17	23.3																		6	8.2	17	23.3	73		
	焼土溜り	26	3.9																								288	433			665	
VI期	416号遺構	41	45.0				24	26.4																			6	6.6	14	15.4	91	
VII期	233号遺構	56	30.8				81	44.6																			8	4.4	29	15.9	182	
期	245号遺構	68	33.5				89	43.8																			7	3.4	31	15.3	203	
VIII期	1号遺構	4	14.8				16	59.3																			3	11.1			27	
IX期	49号遺構	120	31.3				70	18.2																			28	7.3	105	27.3	384	
計		1,631	21.0				3,236	41.6																				1,155	14.8	618	7.9	7,780

255a号遺構は255号遺構を含む

第10表 陶器器種別・産地別集計表

	碗						皿						瓶							
	肥 前		瀬戸・美濃		そ の 他		不 明		肥 前		瀬戸・美濃		不 明		肥 前		瀬戸・美濃		志戸呂	
	破片数	%	破片数	%	破片数	%	破片数	%	破片数	%	破片数	%	破片数	%	破片数	%	破片数	%	破片数	%
I 期	255b号遺構	2	4.5	1	2.3		2	4.5	20	45.5										
	270 号遺構	53	19.0	28	10.0	11	4.0	1	0.4	16	5.7	78	28.0				3	1.1		
	309 号遺構	26	29.6	17	19.3					2	2.3	15	17.0			6	0.9	1	1.1	
	532 号遺構	39	5.9	42	6.4					169	25.6	169	25.6					10	1.5	1
	617 号遺構	4	10.2	1	2.6		2	5.1	4	10.3	19	48.7								0.2
	618 号遺構	10	12.1	11	13.3					3	3.6	7	8.4				7	8.4		
	678 号遺構	47	18.4	33	12.9	14	5.5	9	3.5	17	6.7	53	20.8				1	0.4		
	802 号遺構	7	25.0	2	7.1			1	3.7	7	25.0	3	10.7				2	7.1		
II 期	276 号遺構	126	31.6	38	9.5	12	3.0	1	0.2	27	6.8	39	9.8				5	1.3	16	4.0
	252 号遺構	11	3.6			29	9.4			37	12.0	13	4.2				4	1.3	24	7.8
III 期	255a号遺構	159	28.6	35	6.3	1	0.2	1	0.2	39	7.0	14	2.5	13	4.2		117	21.0	15	2.7
	271 号遺構	9	4.6	33	16.8					25	12.7	6	3.6	26	4.7		26	13.3	22	11.2
	391 号遺構	49	29.3			20	11.9	1	0.6	13	7.8	3	9.1			2	17	10.2	17	10.2
	395 号遺構	12	36.4							13	39.3	3	9.1							
	537 号遺構	12	1.9	23	3.6			1	0.2	9	1.4		4.6				1	1.5		
	886 号遺構	42	64.8	1	1.5	9	13.9					3					15	6.2	401	62.1
	焼土溜り																		27	11.1
VI 期	416 号遺構	7	0.9	235	31.4	6	0.8	5	0.7	5	0.7	8	1.1				117	15.6	280	37.5
VII 期	233 号遺構	11	2.4	151	32.4	2	0.4			8	1.7						65	14.0	38	8.1
	245 号遺構	8	1.0	328	42.6	6	0.8	4	0.5	7	0.9	3	0.4				263	34.2	30	3.9
VIII 期	1 号遺構			30	5.1	6	1.0			3	0.5	12	2.1				215	36.8	1	0.2
IX 期	49 号遺構	19	2.3	53	6.5	4	0.5	3	0.4	8	1.0	19	2.3			1	306	37.6	9	1.1
	計	653	8.7	1,062	14.2	120	1.6	31	0.4	432	5.8	464	6.2	39	0.5	9	0.1	1,298	17.4	881

備 前			不 明		そ の 他			器 種						不 明		計
破片数	%	破片数	%	破片数	%	破片数	%	破片数	%	破片数	%	破片数	%	破片数	%	
1	2.3															44
1	0.4															279
5	5.7															88
14	2.1	8	1.2													660
																39
																83
2	0.8	2	0.8													255
																28
20	5.0															399
26	8.4	16	5.2													308
1	0.2															557
18	9.2															196
13	7.8	3	1.8													167
																33
																645
																65
48	19.8	30	12.3													243
		1	0.1													748
1	0.1															467
																770
1	0.2	14	2.4													583
																815
151	2.0	74	1.0													7,472

255a号遺構は255号遺構を含む

第11表 陶磁器器種別集計表

	碗		皿		杯		瓶		その他		器種不明		計
	破片数	%	破片数	%	破片数	%	破片数	%	破片数	%	破片数	%	
I 期													
255b号遺構	14	16.5(15.9)	29	34.1(33.0)	4	4.7(4.5)	1	1.1(1.1)	6(9)	7.1(10.2)	31	36.5(35.3)	85(88)
270号遺構	138(143)	24.1(23.0)	258(274)	45.0(44.2)	6(16)	1.0(2.6)	12	2.0(1.9)	65(69)	11.3(11.1)	95(107)	16.6(17.2)	574(621)
309号遺構	59(60)	27.1(27.1)	105(106)	48.1(48.1)	9(10)	4.1(4.5)	6	2.8(2.7)	12	5.5(5.4)	27	12.4(12.2)	218(221)
532号遺構	334(401)	25.5(23.2)	660(814)	50.4(47.2)	13(114)	1.0(6.6)	61	4.7(3.5)	138(164)	10.5(9.5)	104(174)	7.9(10.0)	1,310(1,728)
617号遺構	72	35.4(35.1)	57(58)	28.1(28.3)	33	16.3(16.1)	9	4.4(4.4)	18(19)	8.9(9.3)	14	6.9(6.8)	203(205)
618号遺構	71(76)	39.1(35.3)	32(52)	17.6(24.1)	3(10)	1.6(4.6)	7	3.8(3.2)	55(56)	30.2(25.9)	14(15)	7.7(6.9)	182(216)
678号遺構	417(443)	24.3(22.9)	959(1,063)	55.8(54.9)	95(129)	5.5(6.7)	36	2.1(1.9)	129(146)	7.5(7.5)	82(119)	4.8(6.1)	1,718(1,936)
802号遺構	61(63)	43.2(43.2)	44(46)	31.2(31.5)	10	7.1(6.8)	13	9.2(8.9)	7	5.0(4.8)	6(7)	4.3(4.8)	141(146)
II 期													
276号遺構	375	42.9(42.7)	196(200)	22.5(22.8)	45(46)	5.2(5.2)	75	8.6(8.5)	76	8.7(8.7)	106	12.1(12.1)	873(878)
252号遺構	119	15.3(14.9)	310(325)	39.8(40.9)	12(13)	1.5(1.6)	103	13.2(12.9)	193	24.7(24.3)	43	5.5(5.4)	780(796)
255a号遺構	300(301)	30.1(29.7)	228(236)	22.8(23.3)	43	4.3(4.2)	144	14.4(14.2)	102	10.2(10.0)	182(189)	18.2(18.6)	999(1,015)
271号遺構	73	24.7	87	29.5			68	23.1	59	20.0	8	2.7	295
391号遺構	141	31.7(31.1)	118(119)	26.5(26.3)	37(42)	8.3(9.3)	59	13.3(13.0)	29	6.5(6.4)	61(63)	13.7(13.9)	445(453)
395号遺構	12	34.3	18	51.4			2	5.7	2	5.7	1	2.9	35
537号遺構	52	2.5	697	33.5	18	0.9	709	34.1	556	26.8	46	2.2	2,078
886号遺構	66	47.9	20	14.5	15	10.9	5	3.6	10	7.2	22	15.9	138
焼土溜り	26	2.9					471	51.9	411	45.2			908
VI 期													
416号遺構	294(295)	35.0(35.0)	37	4.4(4.4)	2	0.2(0.2)	402	48.0(47.7)	66	7.9(7.8)	38(40)	4.5(4.9)	839(842)
VII 期													
233号遺構	220	33.9	89	13.7	5	0.8	106	16.3	107	16.5	122	18.8	649
245号遺構	414(415)	42.6(42.6)	99(100)	10.2(10.2)	2(3)	0.2(0.3)	300	30.8(30.7)	34	3.5(3.5)	124	12.7(12.7)	973(976)
VIII 期													
1号遺構	40(41)	6.6(6.7)	31(33)	5.1(5.4)	4	0.7(0.6)	231	37.8(37.6)	209(210)	34.2(34.2)	95	15.6(15.5)	610(614)
IX 期													
49号遺構	221(224)	18.6(18.2)	97(109)	8.2(8.9)	15(21)	1.3(1.7)	329	27.7(26.7)	258(275)	21.7(22.3)	268(274)	22.5(22.2)	1,188(1,232)
計	3,519(3,632)	23.1(22.6)	4,171(4,512)	27.3(28.2)	371(538)	2.4(3.3)	3,149	20.7(19.6)	2,542(2,612)	16.7(16.2)	1,489(1,627)	9.8(10.1)	15,241(16,070)

255a号遺構は255号遺構を含む。() 内数値は船載磁器を加えたもの

り、数字をそのまま信用するには問題があると思われる。同じことは瓦質・土師質土器についてもいえる。いくつか突出する数字があるが、遺構の数が少ないこと等も考慮にいれ、平均をその数値としておきたい。

舶載磁器は碗・皿・小杯が主な器種であるが、蓋物（合子）・鉢もある。量的にはⅠ期の遺構が多く（特に532・678号遺構）、Ⅲ期以降の遺構では検出されない遺構もあるなど、量的には減る傾向にある。

かわらけは時期が新しくなると大きく量が減るものである。Ⅰ期では遺物量の中で5割以上あったものがⅨ期には1割以下になっている³⁾。これによって在地系の土器と搬入品の量が逆転することになる。

焙烙はⅠ期での平均が0.8%で、出土していない遺構もあるが、Ⅱ期以降ではほぼ一定量が検出されている。これは焙烙がⅠ期で最も古い遺物をみる532号遺構が初源と考えられることに起因するかもしれない。

瓦質・土師質土器の主な器種は火鉢であるが、他に焜炉・蓋があり、Ⅶ期になると植木鉢・鉢が出現するが、器能が不明なものも多くある。

土器灯明具には、瓦質・土師質のものと透明釉施釉灯明具を含む。Ⅰ～Ⅲ期のものは瓦灯である。それ以外の灯明具はⅣ期が初現である。Ⅶ期には透明釉を施釉したものが現われる。

さてこれらの種別を在地のものと非在地のものに分けると、非在地のものは陶磁器と焼塩壺、在地のものは焼塩壺以外の土器ということになる。そしてこの在地製品と搬入品の比率はⅠ期では約6：4であるが、Ⅲ期は4：6、Ⅵ～Ⅸ期では2：8から1：9と差が大きく開く。Ⅲ期が18世紀初頭を下限とし、Ⅵ期が18世紀後葉という年代観があたえられていることを考えるとかなり急激な変化といえる。これに呼応するように陶器の瓶（德利）が増加している（ただかわらけと瓶とは器能としては別のものであり、相互に関連性があるというわけではない）。

生産地の方では瀬戸・美濃の動向が注目されよう。たとえば播鉢の場合材質としては信楽系・堺（備前系）の方がすぐれているにもかかわらず、一定量が供給されているということはコスト面で他の生産地より優位にあったと考えられる（たとえばもう一つの陶磁器の主な生産地である肥前より江戸に近いという利点）。また瓶（德利）とⅨ期から明治時代にかけての磁器の増加の仕方等、需要に対応できる生産力を兼ね備えていたといえよう。本地点では陶磁器（播鉢を含む）内で瀬戸・美濃製品が占める割合はⅠ～Ⅲ期は10%代であるが、Ⅵ期以降は50～70%と高率である。

最後に、遺構と遺物の関係についてふれておく。本地点ではⅠ期とⅢ期の遺構が多く、出土した陶磁器類には①かわらけの多い遺構がある、②陶磁器の多い遺構にはかわらけが少ないという傾向がみられる。①には618号遺構・395号遺構があるが、どちらもかわらけは総数の8割

にも及ぶ⁴⁾。また墨書かわらけも多く数10点を数える。これは墨書かわらけ、かわらけの器能・廃棄の一つのあり方を示しているものと思われる。②については、252号遺構・271号遺構・537号遺構・焼土溜りが該当するが、すべて二次焼成をうけた一括資料である。陶磁器（擂鉢を含む）に比して土器類が少ない。特にかわらけにそれが顕著である。廃棄状況を考えると陶磁器とかわらけの使用方法の相違とも考えられる。

2) 主な器種の構成

ここでは陶磁器類の中で一定の量以上の出土があり、器能が比較的明確に類推できる陶磁器中の碗・皿・杯・瓶類に限って数量化した（第9～11表参照⁵⁾）。

まず器種ごとに概観してゆく。碗は陶磁器の中で20%代を示している。各期の間で数値的にバラツキはあるがVI～IX期は遺構自体が少ないので誤差の範中としておく。皿はI・III期の平均が30%代であるのにVI期以降は平均8%代に減少する。杯はもともと量的にも少ないのであるが、I～III期は5%，VI期以降は1%以下とさらに少なくなる。瓶はI期の平均は3.8%であるが、III期まで漸移的に増え、VI期以降は平均で30%位になる。

次に各器種を種別・生産地別に細かくみてゆくことにする。最初に碗であるかこれは、磁器（肥前、IX期のみは瀬戸・美濃も入る）と陶器（肥前と瀬戸・美濃）がある。磁器は碗の中でI期は6割強、II・III期は5割あるが、VI～VIII期では10～25%代に落ち込む。IX期は瀬戸・美濃産の磁器も加えて6割強となるが、資料が少なく信頼度は欠ける。肥前の陶器はI～III期と漸移的に増え2割～4割になるが、VI期以降はほとんど検出されなくなるといってよい。瀬戸・美濃製品はI～II期は1～2割であるが、VI期～VIII期に至って他を圧倒し、7～8割の高率で出土する。つまり肥前の陶器が激減し、肥前の磁器が少し減じた分を瀬戸・美濃の陶器が吸収したといえる。

皿も肥前磁器と肥前陶器、瀬戸・美濃陶器がある。その割合はI～III期は7：2：1であるが、VI期以降は7：1：2と陶器の比率の方が逆転する。また皿の陶磁器の中での割合が減少することは前述した通りであるが、これは陶器の皿が減ることが原因と考えられる。

碗と皿の割合はI～III期は4.5：5.5で若干皿の方が多いが、VI期以降は7.5：2.5となり、碗は皿の約3倍となる⁶⁾。

瓶は肥前磁器と陶器は瀬戸・美濃を中心に他に志戸呂と備前がある。磁器の瓶はI～III期までは少ないながらも安定しているが（537号遺構・焼土溜りが量的には突出しているが、これは焼土一括廃棄という特殊な事情によるため）、VI期以降はほとんど検出されない。陶器の備前製品も同様の傾向である。瀬戸・美濃のものはI・II期は備前のそれと量的にはほぼ同じであるが、III期に入って量が多く出土する遺構が目立つようになり、VII期以降は陶磁器内の量比でも

30%を占める増加を示す。志戸呂はⅠ期ではほとんどなく、Ⅱ～Ⅲ期は少ないが安定した量の出土があり、Ⅵ期にはその量が最大となる。Ⅶ期以降はまた急激に減じてゆく。このように瓶の場合その消長には肥前磁器と備前のパターンと瀬戸・美濃と志戸呂のパターンの2種類がある。特に後者はⅢ期から量が急に増えるもので（しかもⅢ期で1遺構内で占める割合が多いのが271・537号遺構・焼土溜りであり、それらがⅢc期に位置づけられるのは興味深い）、それ以降は陶磁器内での割合が30%強となる⁷⁾。これらの瓶は酒を入れる容器（徳利）とされており、その量の増加は飲酒量の増加もさることながら、消耗品として使用されたと考えられている⁸⁾。一方前者は形態が相違するものもみられる⁹⁾等、器能は一樣でなかったと思われ、瓶として一括して表を作成してしまったことにも問題はあったようである。

また酒を飲むときに使う器に杯があるが、こちらは時代が下るにつれて逆に数が減ってきており、その器としては形態的に別のもの（たとえば碗等に）を考えねばならないであろう。

以上組成について述べてきたが、さらにつけ加えて、陶磁器類の“質”について付記しておけば、少なくとも本地点で出土しているⅥ期以降の製品は、他の江戸の遺跡で検出されているものと違いはないものである。ただしⅠ～Ⅲ期に関しては、本地点以上に良好な例はみられておらず、今後の資料の蓄積を待ちたい。

（鈴木裕子）

註

- 1) 京焼については不明な部分が多く、生産地不明として処理されているものもある。
- 2) ただし、このように遺物の数が少ない場合、混入の可能性も大いにありうることを記しておく。
- 3) 本遺跡病院地点のかわけと灯明具を分析した佐々木彰氏によると、18世紀に入って土師質灯明具が現われると口径9～12cm前後のかわけの減少がみられるという。
- 4) 法学部4号館地点・文学部3号館地点では、かわけを大量に出土した土坑が数基検出されている。
- 5) 第11表には舶載磁器の数を加えた数値も掲げたが、全体的に数値が若干増減するだけで大勢には影響ない（これは舶載磁器が量的に少ないということと、器種的には国産の磁器とほぼ同様で、またその構成も似かよっているため）ので他遺跡との兼ね合いもあり、本報告では舶載磁器を抜いた数値で文章中は統一した。
- 6) 本遺跡病院地点でも同様の結果が出ている。
- 7) 本遺跡理化学部7号館地点でも同様の指摘がある（秋元智也子1989による）。
- 8) 同じ消耗品とされるものは他にかわけがあるが、これは時期が新しくなるにつれて急激に数量が減少するのは前述の通りである。
- 9) たとえば537号遺構（第163図1・2）、焼土溜り（第175図1～3、第176図1・2）出土の首部の長い大形のものの。

4. 明治時代の遺物

本地点では明治時代の土坑が2基（2・7号遺構）確認されている。本報告では時間的な制

約もあり、写真と観察表のみを掲げた。載せるにあたっては、同一器形・同一文様のものが数個体以上ある場合は1個体を抽出したが、磁器は同一器形で異文様のものが多く、その中で代表的なものを選出した。また遺物は出土量の多い7号遺構をメインにし、同時期と思われる2号遺構の遺物は7号遺構と同じものは省いた。またミニチュア・人形類は第6節人形・玩具類の方に、舶載磁器は挿図は「遺構・包含層出土陶磁器類」、記述は「(6)舶載磁器」の方に記載したので、そちらを参照していただきたい。

器種別にみてゆくと飯碗・小杯・茶碗・土瓶・急須が多く、他に皿・蓮華・土鍋・徳利も目立つ。それに焼塩壺や七厘を加えればほとんどが飲食器である。その他には灯明具・火鉢・瘦瓶・植木鉢等がある。甕・壺等の貯蔵具・仏具もみられず、器種的には大きな偏りがみられる。また同一器形・同一文様のもの（大きさが違うだけのものも含めて）の数が多いうことが指摘できよう。

次に種別ごと（生産地別）にみてゆくことにする。なお各個体の特徴については観察表の方に詳述したので、ここではそれ以外の点について述べることにしたい。

まず磁器であるが、これは瀬戸・美濃の製品がほとんどである。胎土はガラス質で程度には差があるものの透き通るような感じのするものである¹⁾。飯碗や飯碗の蓋・小杯・茶碗は、高台がぼつてりしている。飯碗・飯碗の蓋の高台内は体部の高台部際より深い。茶碗にはさらにそれが顕著で、その分底部が厚く作られているようである（写真81—23～25・27～29。その他小杯は写真80—17・写真81—4）。写真81—28の茶碗は胎土自体が藤色をしており、その上に絵付をして釉をかけている。

文様については写真80—16・20の小杯、写真82—9の蓋物、写真83—4・5、写真89—1の急須にみられるダミを施した後に、工具で線彫りしてダミを搔き落とす手法は瀬戸・美濃独自のものであろう。絵付用の呉須は大部分が人工呉須²⁾であるが、写真79—17、写真80—2、写真88—4は呉須の発色が青灰色をしており、地呉須と考えられる。他にも人工呉須特有のどぎつい発色でないものもあるが（写真81—22・23・26、写真88—6）、焼成の具合なのか、呉須自体が違うのか現時点では保留としておきたい。また写真81—2・5・6の小杯は着色した白玉によって字や文様が描かれるもので、焼継ぎと同じ手法による。おそらく消費地側で行われたと考えられる。

一方肥前の磁器は胎土が粉質のものである。飯碗や飯碗の蓋は高台が外傾し、シャープである。また高台内と体部の高台際の高さは同じである。文様は江戸時代以来の手法にのっとった部分を多く残している。たとえば写真79—3・10の鉢、写真81—7の小杯の見込に描かれる2重圈線内の円形の松竹梅文、口縁部内面の四方禪文、写真81—7の小杯、写真82—10・11の鉢の如意頭文等である。さらに写真82—18の蓋、写真88—5の鉢、同じく13の飯碗の蓋は清朝磁

器の影響が色濃いものである。呉須は人工呉須を使用しているものもあるが、していない製品も多い。

さらに陶器に眼を転じれば、写真84—2の型打の小皿は見込の文様は違うものの瀬戸の奎兵衛窯に類例があるものである。

写真84—6～14は万古もしくは万古系の無釉の陶器である。一人用と思われる小さいものから数種類の大きさが存在する。写真84—13・14は練込みであるが、体部を作ってから把手と注口を貼付け、工具でなでつける技法は、他の万古系のもの(写真84—6～8, 写真84—12～14)と同様である。写真84—9～11は万古の急須である。体部内面には内型成形の合わせ目が縦位に数本、凸帯となって残っている。外面の全面には指頭による整形痕がついている。

写真85—2～5・9・10は益子焼の土瓶である(写真85—7・8もその可能性大)。写真3は体部は下ぶくれ、底部は平底である。写真85—2・4・5・9・10・(7)は底部は大きく内湾し、上げ底になっている。体部はソロバン玉状だが、写真85—4は他のものより縦長である。写真85—7・8以外はおとし蓋がつく。

写真85—15は益子焼の土鍋である。写真85—16の瀬戸・美濃のものに比べて体部が長く、その分器高が高くなっている。

写真86—19は信楽焼の有脚受付き灯明皿である。受部は低く小さく、断面は三角形である。写真86—20・21は受付き灯明皿。どちらも受部は口縁部より低い。20の受部は貼付。

写真87—4～8, 写真89—14・16～18は在地系の土器である。胎土は粉質で赤色粗砂を含むものが多い。

写真87—10・11の五徳は、前者には「ふかくさ清和堂」、後者には「ふか草松楽？」の刻印がある。刻印は相違するが、作りはほぼ同じものである。特有の白いその胎土からも京都産と考えてまちがいなからう。

写真87—11・12は焼塩壺。大ぶりのものと小ぶりのものが大量に出土している。身はロクロ水挽き成形で、蓋は布目痕が片面についていることから、型打成形であろうか。体部外面に墨書で「赤穂鹽」と書かれた個体もある。「赤穂」は播磨にある地名で、このタイプの焼塩壺は播州産といわれるものである³⁾。その意味では妥当性のある墨書であるといえる。

次に遺物の性格(遺構一括資料としての)とその年代観についてであるが、銘款・刻印のあるものの中に年代(産地)の類推できるものがあるので初めにそれについて述べておく。

写真79—14・17の見込に「寿」の字を型打ちした皿は瀬戸年代を幕末～明治初頭(1855～1870年頃)とすることができるものである⁴⁾。

写真81—23の茶碗は高台内に「奇陶軒桺吉製」とある。「桺吉」は川本桺吉で瀬戸南新谷の地で安政元(1854)年に初めて洋風食器を焼成し、輸出磁器の先駆をなした。「奇陶軒」はその屋

号である⁵⁾。他にも写真79—1・2の碗に「其王軒製」、写真80—17の小杯に「棲碧亭笈閑造」、写真81—10の小杯にも「大日本半介製」銘のあるものがあり、これらも同様に屋号と考えられる。

写真89—9・10の急須は有節万古の製品である。森与五左衛門有節とその弟の与平千秋が再興した万古焼である。写真84—9の体部に多くの刻印を押した急須は数印急須と呼ばれる有節万古を代表する製品である。写真84—10の「陽楓軒」は千秋の雅号である。有節は明治15(1882)年、千秋は元治元(1864)年に没している⁶⁾。

写真85—11の土瓶は京都粟田口の帶山与兵衛の製品である。17世紀後半から代々与兵衛と称したが明治27(1894)年には粟田口では廃業となる⁷⁾。

写真86—22の土鍋は京都宇治の朝日焼である。これは幕末に8代・9代によって再興されたものである⁸⁾と考えてよい。下限は不明。

刻印・銘款類以外のもので江戸時代と明治時代を画する大きな変化は人工呉須の使用である。明治3(1870)年に有田に導入されたのを契機に、肥前、瀬戸・美濃2大生産地でも明治10年代の後半(1880年代)には大部分の製品に人工呉須が使われていたという。また型紙絵付も人工呉須を利用してほぼ同時期に盛んになった。型紙絵付に替って銅版絵付が普及しだすのが明治20年代(1890年代位)以降とされている⁹⁾。本地点の7号遺構・2号遺構はともに人工呉須の製品が大部分を占めており、型紙絵付のものはあるが、銅版絵付のものはないことから明治10～20(1880～90)年代と考えられる。これは刻印・銘款のあるものの年代とも齟齬はない。

さらに、底部に「東京第一病院内科第六号用」と墨書のある急須が7号遺構より出土している。「第一病院」は「第一医院」の誤りと思われる。この東京第一医院は現在の東京大学附属病院の前進にあたる。明治15(1882)年に本郷の附属医院が第一医院、神田和泉町の医院が第二医院とされ、明治34(1901)年2月第二医院が消失したことにより、附属医院と改称になっている¹⁰⁾。また「内科第六号用」と続く墨書や遺物中には乳鉢(写真83—17)・蓮華・土瓶・急須等が多く含まれていること、その量を考えあわせるとこれらの遺物は病院の患者の飲食器の可能性もあろう¹¹⁾。この遺物は前述のように同種のものが他に数個体出土しており、年代を考えると有効な資料となりうるものである。遺構の検出状況も2号遺構は明治39～40(1903～1904)年に作られた道場¹²⁾の基礎で壊されており、これも上記の記述に矛盾しない。

(鈴木裕子)

註

- 1) 一方肥前は高台は粉質であるが(本文の方で後述)、その中間のような胎土のものもある。また器形、文様の技法は瀬戸・美濃であっても、胎土は粉質のもの、あるいは逆の場合も存在する。こういう場合、胎土よりも器形・

文様の技法の方を優先させて生産地を決定した。

- 2) いわゆるコバルトといわれているものである。本稿では人工的に作られた呉須(コバルト)との意から人工呉須とした。
- 3) 渡辺誠1984・1985 分類のJ類にあたる。
- 4) 内田祐治1986による。
- 5) 「日本やきもの集成3 瀬戸 美濃 飛騨」 平凡社 1981年による。
- 6) 「日本やきもの集成6 近畿I」 平凡社 1981年による。
- 7) 「日本やきもの集成5 京都」 平凡社 1981年による。
- 8) 6)と同じ。
- 9) 4)と同じ。
- 10) 東京大学百年史編集委員会「東京大学百年史 部局史2」1987年による。
- 11) 両遺構とも覆土の上層は鶏卵殻が大量に含まれていた。
- 12) 「東京帝国大学平面図」 刊行年不詳による。

文献

- 愛知県陶磁資料館 1982 『瀬戸本業焼 江戸後期の瀬戸陶器』
1984 『近世城館跡遺跡出土の陶器』
1986 『城下町のやきもの一清洲・名古屋の出土品一』
1986～88『愛知県陶磁資料館研究紀要5～7』
- 秋元智也子 1989 『東京大学本郷構内の遺跡 理学部7号館地点』 「第5章 江戸時代以降の遺構と遺物 第2節人工遺物各論 2徳利」 東京大学遺跡調査室発掘調査報告書1 東京大学理学部遺跡調査室
- Amsterdam Rijks Museum 1982 “THE CHRAMIC LOAD OF THE ‘WITT LEEUW”
- 有田町 1988 『有田町史 古窯編』
- 有田町教育委員会 1977 『柿右衛門窯跡発掘調査概報』
1978 『柿右衛門窯第二次発掘調査概報』
1979 『柿右衛門窯第三次発掘調査概報』
1980・1985 『佐賀県有田町山辺田古窯址群の調査(遺構篇)(遺物編)』
1981 『長吉谷窯跡』
1986 『小樽2号窯跡』
1987 『清六ノ辻2号窯跡』
1989 『窯の谷窯・多々良の元窯・丸尾窯・樋口窯』
- 石川県立美術館・佐賀県立九州陶磁文化館 1987 『伊万里・古九谷名品展』
- 伊勢貞丈 1763～84 『貞丈雑記』 巻2 東洋文庫
- 伊丹市教育委員会 1988 『兵庫県伊丹市有岡城跡発掘調査報告書VI』
- 市原市教育委員会 1984 『石川城廓跡』
- 出川直樹 1982 「古染付と呉須」『小さな薈』臨時増刊 第12号
- 稲垣正宏 1988 「関西の主要な遺跡出土の丹波・信楽・堺播鉢について」『江戸遺跡研究会会報』No.14
- 伊野近富 1987 「『かわらけ』考」『京都府埋蔵文化財論集』第1集
- 今泉元佑 1974 『初期有田と古九谷』 雄山閣
- 岩淵一夫 1981 『赤塚遺跡』「考察」 栃木県教育委員会
- 上田真 1987 「東京大学法4号館・文3号館建設予定地遺跡出土の上製の『かわらけ』」『東京の遺跡』No.14
- 上山秀夫 1982 「14～16世紀の青磁碗の分類」『貿易陶磁研究』No.2
- 内田祐治 1986 『下宿内山遺跡』「第四章 考察 第2節鎌倉時代以降出土陶磁器の分類」 東京都清瀬市下宿内山遺跡発掘調査会・東京都清瀬市下宿内山遺跡発掘調査団

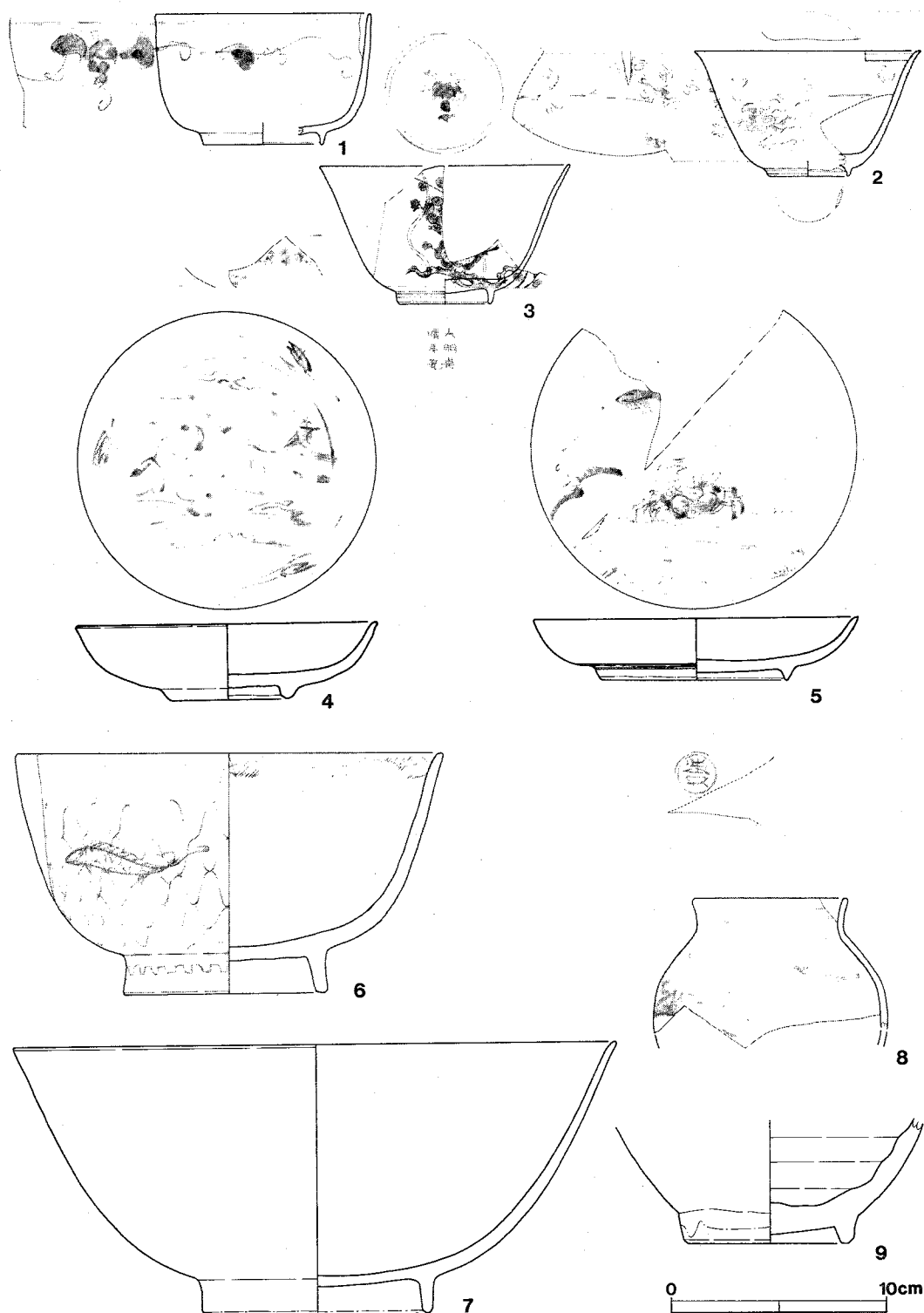
- 嬉野町教育委員会 1979 『不動山窯跡』
- 江戸遺跡研究会 1986～1989 『江戸遺跡研究会会報』 1～22
1988 『江戸の食文化』 江戸遺跡研究会第1回大会発表要旨
- 江戸在地系土器研究会 1988～1989 『江戸在地系土器研究会通信』 No.1～13
- 大江正行 1980 『群馬県と周辺地域の中世土器質土器皿』『群馬考古通信』 第7号
- 大阪市文化財協会 1988 『大阪城跡III』
- 大塚達朗 1988 「考古学的視点からの焼塩壺の検討」『東京の遺跡』 No.19
- 大橋康二 1980a 「中世における赤土器・白土器雑考」『白水』 No.7
1980b 「中世以降の土器生産に関する一考察」『考古学の世界』 2
1981 「15・16世紀における日本出土の青花碗に関する編年試案(1)」『白水』 No.8
1982 「伊万里染付見込雲龍荒磯文碗・鉢に関する若干の考察—佐賀県有田町長吉谷古窯出土品を中心として—」『白水』 No.9
1983 「鍋島藩窯跡出土の京焼風陶器(上)・(中)・(下)」『セラミック九州』 7～9
1984 「北海道から沖縄まで肥前磁器の変遷と出土分布—発掘資料を中心として—」『国内出土の肥前磁器』 佐賀県立九州陶磁文化館
1985 「鹿児島県吹上浜採集の陶磁器片」『三上次男博士喜寿記念論文集』 陶磁編
1987 「16・17世紀における日本出土の中国磁器について」『東アジアの考古と歴史 下 岡崎敬先生退官記念論集』
1988a 「18世紀における肥前磁器の銘款について」『青山考古』 第6号 青山考古学会
1988b 「肥前磁器にみる皿の裏文様について—17世紀後半の窯址出土品を中心として—」『白水』 No.12
1989a 「17世紀後半における肥前磁器の銘款について—長吉谷窯出土品を中心として—」『東洋陶磁』 第17号 東洋陶磁学会
1989b 『東京大学本郷構内の遺跡 理学部7号館地点』 「第7章 理学部7号館地点出土の17世紀の肥前磁器」 東京大学遺跡調査室発掘調査報告書1 東京大学理学部遺跡調査室
1989c 『肥前陶磁』 考古学ライブラリー55 ニューサイエンス社
- 小川貴司 1976 「回転糸切り技法の展開」『考古学研究』 101号
- 小川望・小俣悟 1988 「関東の瓦質土師質火鉢類」『考古学ジャーナル』 299
- 小木一良 1988 『伊万里の変遷 制作年代の明確な器物を追って』 創樹社美術出版
- 小田原市教育委員会 1982 『感応寺址』
- 小野正敏 1982 「15・16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』 No.2
1984 「『第4回貿易陶磁研究集会』 その成果と課題」『貿易陶磁研究』 No.4
- 小俣悟 1984 『上野ヶ谷戸遺跡』 「第5節 中・近世の遺物」 日高町上野ヶ谷都遺跡調査会
- 葛西城址調査会 1974 『青戸・葛西城址調査報告II』
- 桂又三郎 1971 「備前擂鉢(1)」『陶説』 214
- 加藤唐九郎編 1972 『原色陶磁大辞典』 淡交社
- 上福岡市教育委員会 1982 『長宮遺跡第8次の調査』
- 川越市教育委員会 1977 『河越氏館跡発掘調査報告書』
- 関西近世考古学研究会 1989 『中近世遺跡の遺構と遺物—織豊期を中心に—』 第1回関西近世考古学研究会大会資料集
- 旧芝離宮庭園調査団 1988 『旧芝離宮庭園—浜松町駅高架式歩行者道架設工事に伴う発掘調査報告—』
- 芸術新潮編集部編 1983 『やきもの鑑定入門』 新潮社
- 古泉弘 1983 『江戸を掘る 近世考古学への招待』 柏書房
『考古学ジャーナル』 297臨時増刊『特集—近世陶磁器—』 1988 ニューサイエンス社
- 耿賽昌 1984 『明清瓷器鑑定』 中華書局香港分局
- 国立歴史民俗博物館 1986 『佐倉城の武家屋敷跡は語る—歴史研究棟敷地の調査から—』

- 古代学協会 1983 『平安京土御門烏丸内裏跡—左京一条三坊九町一—』
 1984 『押小路殿跡—平安京三条三坊十一町一—』
 1984 『三条西殿跡』
- 五島美術館 1984 『江戸のやきもの』
- 小林克 1988a 「地下室考」『物質文化』47号
 1988b 「『鳥のえさいれ』について」『江戸遺跡研究会会報』No15 江戸遺跡研究会
- 小林謙一 1986a 『麻布台一丁目 郵政省飯倉分館構内遺跡』「第三章 考察 二節 遺物について 2 瓦質・土師質土器」 港区麻布台一丁目遺跡調査会
 1986b 「江戸における近世瓦質・土師質火鉢について」『慶応義塾大学考古学研究会二十周年記念論集』
 1989 「江戸における近世灰釉徳利の釘書について」『物質文化』第52号
- 小林秀夫 1982 『長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書 茅野市 その5—昭和52・53年度—』「長野県における内耳土器の編年と問題」 長野県教育委員会
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1984 『関戸足利遺跡』埼玉県遺跡発掘調査報告書 第40集
- 堺市教育委員会 1983 『堺市文化財調査報告第12集』
 1984 『堺市文化財調査報告第20集』
 1988 『堺環濠都市遺跡 (SKT79) 発掘調査報告堺市文化財調査報告第37集』
 1989 「堺環濠都市遺跡 (SKT112) 発掘調査報告堺市文化財調査報告第41集』
- 坂野清夫 1973 「『芙蓉手染付』の試論」『陶説』245
- 佐賀県立九州陶磁文化館 1984 『窯ノ辻・ダンバギリ・長吉谷』
 1985 『百間窯・樋口窯』
 1986 『南川原・窯ノ辻・広瀬向窯』
 1987 『楠木谷窯・小溝上窯』
 1988 『下白川窯・年木谷1号窯』
 1989 『嬉野町吉田2号窯跡』
- 佐賀県立博物館 1978 『古唐津—肥前陶器と歴史と美を探る—』
- 佐々木達夫 1977 「幕末・明治初頭の塩壺とその系譜」『考古学ジャーナル』134
 1978 「十九世紀中葉の灯器」『金沢大学文学部論集 史学編25』
 1980 「金沢城址の発掘—1979年—」『日本海文化』第7号
 1981 「金沢城址の発掘—1977年—」『金沢大学日本海域研究所報告』第13号
 1982 「波佐見中尾下登窯跡」『日本文化』9
- 佐々木達夫・佐々木花江 1975 「東京都日枝神社境内遺跡の調査」『考古学ジャーナル』105
- 貞末堯司・石崎俊哉・前田晴彦 1981 「金沢城の発掘—藤右衛門丸北側法面裾部発掘報告—」『金沢大学日本海域研究所報告』第18号
- 滋賀県立近江風土記の丘資料館 1982 『出土品にみる江戸時代の生活』
 1987 『県外出土の信楽焼—流通の器種と範囲を探る—』
- 島田貞彦 1946 「山城幡枝の土器」『考古学雑誌』第21巻6号
- 島根県教育委員会 1984 『富田川—飯梨川河川改修に伴う富田川河床遺跡発掘調査報告(4)—』
- 上海人民美術出版社・美乃美 1981 『中国陶瓷全集21 景德镇彩絵磁器』
 1983 『中国陶瓷全集19 景德镇民間青花磁器』
- 白金館址(特別養護老人ホーム建設用地)遺跡調査会 1988 『白金館址遺跡Ⅰ』
 白金館址(亞東関係協会東京辦事處公舎等建設用地)遺跡調査会 1988 『白金館址遺跡Ⅱ』
 白金館址遺跡調査会 1989 『白金館址遺跡—研究編—』
- 白神典之 1988 『堺環濠都市遺跡 (SKT79) 発掘調査報告堺市文化財調査報告第37集』「第5章堺摺鉢について」 堺市教育委員会
- 新宿区北山伏町遺跡調査会 1989 『北山伏町遺跡—新宿区立特別養護老人ホーム建設に伴う緊急発掘調査報告書—』

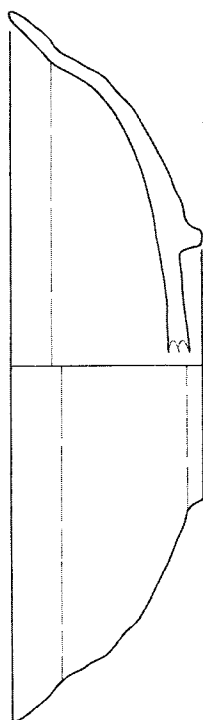
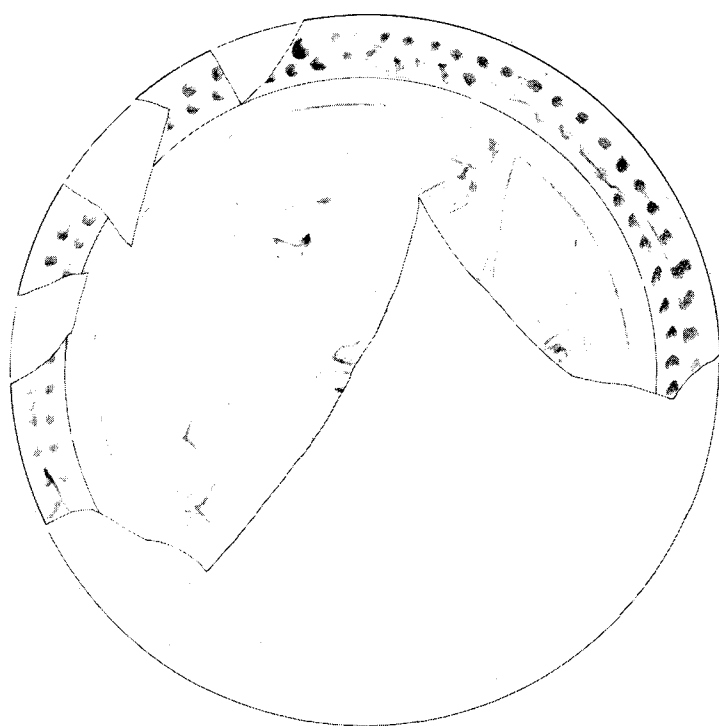
- 新宿区教育委員会 1987 『自證院遺跡』
- 鈴木重治 1985a 「京都出土の伊万里産『清水』銘陶器をめぐる」『同志社大学考古学シリーズII 考古学と移住・移動』
- 1985b 「堺の焼塩壺」『日本民俗化大系13 技術と民俗(h)』小学館
- 鈴木信 1985 「消費地遺跡出土の播鉢」『同志社考古学シリーズII 考古学と移住・移動』
- 鈴木裕子・渡辺ますみ 1989 「東京大学本郷構内遺跡御殿下記念館地点出土の江戸時代前期の磁器」『陶説』432
- 関口広次 1979 「美濃・高田徳利の生産と消費に関する覚書」『考古学研究』100号
- 西武美術館編 『パーリーハウス展』西武百貨店
- 世田谷区教育委員会・喜多見陣屋遺跡調査会 1989 『喜多見陣屋遺跡I』
- 瀬戸市 1988 瀬戸市文化センター特別企画展 瀬戸市歴史民俗資料館開館10周年記念特別企画展『江戸時代後期本業展』
- 瀬戸市史編集委員会 1981 『瀬戸市史 陶磁史編2』
- 瀬戸市歴史民俗資料館 1984～89 『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要III～VIII』
- 『世界陶磁全集 4～15』 1975～83 小学館
- 仙台市教育委員会 1985 『仙台北三ノ丸跡発掘調査報告書』
- 田口昭二 1983 『美濃焼』考古学ライブラリー17 ニューサイエンス社
- 千代田区紀尾井町遺跡調査会 1988 『東京都千代田区紀尾井町遺跡調査報告書』
- 千代田区教育委員会 1986 『平河町遺跡』
- 中世土器研究会 1985～89 『中近世土器の基礎研究I～V』
- 塚谷晃弘・益井邦夫 1973 「関東の陶磁」『陶磁選書3』雄山閣
- 辻真人 1988 「焙烙の変遷」『江戸の食文化』江戸遺跡研究会第1回大会発表要旨
- 鶴ヶ島町教育委員会 1978 『脚折遺跡群第二次発掘調査概報』
- 東海埋蔵文化財研究会 1988 『第5回東海埋蔵文化財研究会 清須一織豊期の城と都市一資料編』
- 東京大学遺跡調査室病院班・山崎一雄 1987 「大聖寺藩上屋敷と『古九谷』一東京大学医学部付属病院中央診療棟第I期建設地点の調査より一」『考古学雑誌』第73巻第1号
- 東京大学百年史編集委員会 1987 『東京大学百年史 部局史2』
- 東京大学理学部遺跡調査室 1989 『東京大学本郷構内の遺跡 理学部7号館地点』東京大学遺跡調査室発掘調査報告書1
- 東京都北区袋西浦遺跡発掘調査団 1986 『袋西浦一東京都北区袋西浦遺跡発掘調査報告一』
- 東京都清瀬市下宿内山遺跡発掘調査会・東京都清瀬市下宿内山遺跡発掘調査団 1986 『下宿内山遺跡』
- 東京都新宿区教育委員会 1987 『自證院遺跡一新宿区立富久小学校改築工事に伴う緊急発掘調査報告書一』
- 1988 『三栄町遺跡』
- 東京都埋蔵文化財センター 1986 『多摩ニュータウン遺跡 昭和59年度(第3分冊)』
- 1987 『多摩ニュータウン遺跡 昭和60年度(第5分冊)』
- 東京都港区教育委員会 1986 『港区三田済海寺 長岡藩主牧野家墓所発掘調査報告書』
- 1988 『芝公園一丁目 増上寺子院群光学院・貞松寺院跡・源興院跡一港区役所新庁舎建設に伴う発掘調査報告書一』
- 東国土器研究会 1988 『東国土器研究』第1号
- 動坂貝塚調査会 1978 『動坂遺跡』
- 同志社女子中学・高等学校・同志社大学校地学術調査委員会 1983 『公家屋敷二条家北辺地点の調査一同志社女子中・高黎明館増築に伴う発掘調査一』
- 同志社大学校地学術調査委員会 1978 『同志社キャンパス内出土の遺構と遺物』同志社校地内埋蔵文化財文化財調査報告資料編II
- 土岐市美濃陶磁文化館 1985 『美濃窯の1300年一須恵器から磁器の発生まで一』
- 栃木県教育委員会 1981 『赤塚遺跡』

- 都立上野高等学校遺跡調査会 1988 『東叡山寛永寺護国院 都立上野高等学校改築に伴う第1次調査概報』
- 都立一橋高校内発掘調査団 1985 『江戸・都立一橋高校地点発掘調査報告書』
- 長崎県窯業試験場 1985 『波佐見古陶磁文様集』
- 長崎市教育委員会 1986 『出島和蘭商館跡範囲確認調査報告書』
- 長佐古真也 1988 「近世『德利』の諸様相—江戸に於ける液体加工品流通と德利—」『江戸の食文化』江戸遺跡研究会第1回大会発表要旨
- 長野県教育委員会 1982 『長野県中央道埋蔵文化財埋蔵地発掘調査報告書茅野市その5—昭和52・53年度—』
- 仲野泰裕 1986 「浅間山の大噴火（天明三年）に伴う泥流層下の瀬戸美濃陶器」『愛知県陶磁資料館研究紀要5』
- 1987 「江戸時代の瀬戸窯と京焼風陶器」『愛知県陶磁資料館研究紀要6』
- 1988 「美濃窯製品の生産と流通をめぐる諸問題—江戸時代中・後期を中心として—」『美濃の古陶』No.2 美濃古窯研究会会報
- 1989 「文献・絵画史料にみる陶磁製品の動向」『美濃の古陶』No.3 美濃古窯研究会会報
- 中村倉司 1979 「内耳土器の編年とその問題」『土曜考古』創刊号
- 名古屋市博物館 1985 『十七世紀に花ひらく御深井釉の陶器』
- 浪岡町教育委員会 1989 『昭和61・62年度浪岡城跡発掘調査報告書 浪岡城跡X—内館調査の成果とまとめNo.1—』
- 奈良女子大学 1982・84 『奈良女子大学構内遺跡発掘調査概報Ⅰ・Ⅱ』
- 成瀬晃司・堀内秀樹 1987 「主要陶片の公開と解説 東京大学医学部附属病院中央診療棟建設予定地出土の古九谷様式の色絵磁器について」『目の眼』No.133
- 西有田町史編さん委員会 1988 『西有田の古窯 西有田町史別編』
- 西田泰民 1988 「出土陶磁器に探る食文化」『江戸の食文化』江戸遺跡研究会第1回大会発表要旨
- 西戸山住宅遺跡調査会 1987 『百人町三丁目遺跡』
- 日本経済新聞社 1989 『有田・マイセン磁器300年展』
- 日本貿易陶磁研究会 1982～1988 『貿易陶磁研究』No.2～8
- 『日本民俗文化大集系13 技術と民俗（上）』 1985 小学館
- 『日本やきもの集成1～12』 1980～1982 平凡社
- 白山四丁目遺跡調査会 1981 『白山四丁目遺跡』
- 長谷川真 1988 「丹波系播鉢について」『中近世土器の基礎研究Ⅳ』
- 八王子市宇津木台地区遺跡調査会 1987 『宇津木台遺跡群Ⅸ』
- 1988 『宇津木台遺跡群ⅩⅡ』
- 八王子市教育委員会 1983 『八王子城』
- 蜂須賀年子 1957 『大名華族』三笠書房
- 羽生淳子 1989 『東京大学本郷構内の遺跡 理学部7号館地点』「第5章 江戸時代以降の遺構と遺物 第2節 人工遺物各論 6 かかわり・燈明具類」東京大学遺跡調査室発掘調査報告書1 東京大学理学部遺跡調査室
- 土生田純之・福尾正彦 1989 「江戸城本丸発掘調査報告」『書陵部紀要』40号
- 日高町上野ヶ谷戸遺跡調査会 1984 『上野ヶ谷戸遺跡』
- 百人町三丁目遺跡調査会 1987 『百人町三丁目遺跡』
- 兵庫県文化協会 1987 『特別史跡姫路城跡Ⅱ』
- 兵庫県立歴史博物館 1985 『掘り出された城下町・姫路』
- 平戸市文化協会 1988 『平戸和蘭商館跡—現状変更（家屋改築）に伴う発掘調査の報告—』
- 福井県教育委員会 1979 『特別史跡—乗谷 朝倉氏遺跡発掘調査報告Ⅰ 朝倉館跡の調査』
- 福井県教育委員会・福井県立朝倉氏遺跡資料館 1988 『特別史跡—乗谷 朝倉氏遺跡発掘調査報告Ⅱ 第10・11次、第54次調査』
- 藤澤良祐 1988 『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要ⅦⅡ』「Ⅳ本業焼の変遷(3)—赤津村・窯跡の編年的研究—」瀬戸市歴史民俗資料館

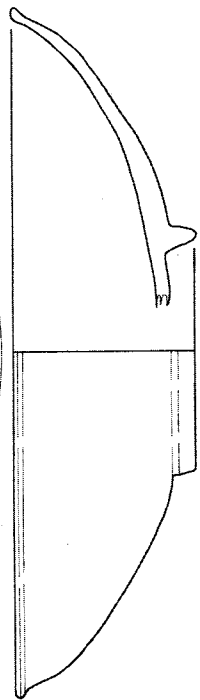
- 1989 『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要Ⅷ』「IV本業焼の諸段階」瀬戸市歴史民俗資料館
- 藤原良章 1988 「中世の食器・考—かわらけ—ノート」『列島の文化史 5』
- 『別冊太陽 No.63 古伊万里』 1988 平凡社
- 前田育徳会 1933 『加賀藩史料 編外備考』 清文堂
- 前田長三郎 1934 「堺焼塩壺考」『武蔵野』第21巻 3号
- 真砂遺跡調査会 1987 『真砂遺跡』
- 『益子町史 第5巻 窯業編』 1989
- 松浦市教育委員会 1982 『長崎松浦皿山窯』
- 瑞浪市教育委員会 1981 『田ノ尻窯』
- 瑞浪陶磁資料館 1986 『瑞浪陶磁資料館研究紀要 第3号』
- 港区麻布台一丁目遺跡調査会 1986 『麻布台1丁目 郵政省飯倉分館構内遺跡』
- 南川孝司 1976 「泉州湊麻生壺焼塩考」『摂河泉文化資料』創刊号
- 美濃古窯研究会 1976 『美濃の古陶』 光琳社出版
- 三好一 1982 「京焼と近世瓦窯(上)・(下)」『陶説』354・355
- 村上伸之 1988 「有田の窯業から見た古九谷」『青山考古』第6号 青山考古学会
- 森ビル開発株式会社・港区教育委員会 1987 『虎ノ門五丁目 芝神谷町町屋遺跡』
- 『やきもの事典』 1984 平凡社
- 安田龍太郎 1981 「中世土師器と内耳土器」『野州史学』5号
- 矢部良明 1983 「後期柿右衛門様式の色絵磁器」『陶説』360
- 山口剛志 1989 『東京大学本郷構内の遺跡 理学部7号地点』「第2節 人工遺物各論 7 鉢類・焙烙・その他の瓦質・土師質土器・土製品」 東京大学遺物調査室発掘調査報告書1 東京大学理学部遺跡調査室
- 山下守昭 1978 『脚折遺跡群第二次発掘調査概報』鶴ヶ島町教育委員会
- 横田洋三 1984 『押小路殿跡—平安京三条三坊十一町—』「付論」 古代学協会
- 吉田光郎 1973 『やきもの』 NHKブックス
- 渡辺誠 1982 「松本城二の丸跡出土の焼塩壺」『信濃』第34巻1号
- 1984 『江戸のやきもの』
- 1985 「焼塩」『講座・技術の社会史第2巻 塩業・漁業』 日本評論社



第55図 270号遺構出土陶磁器類 1

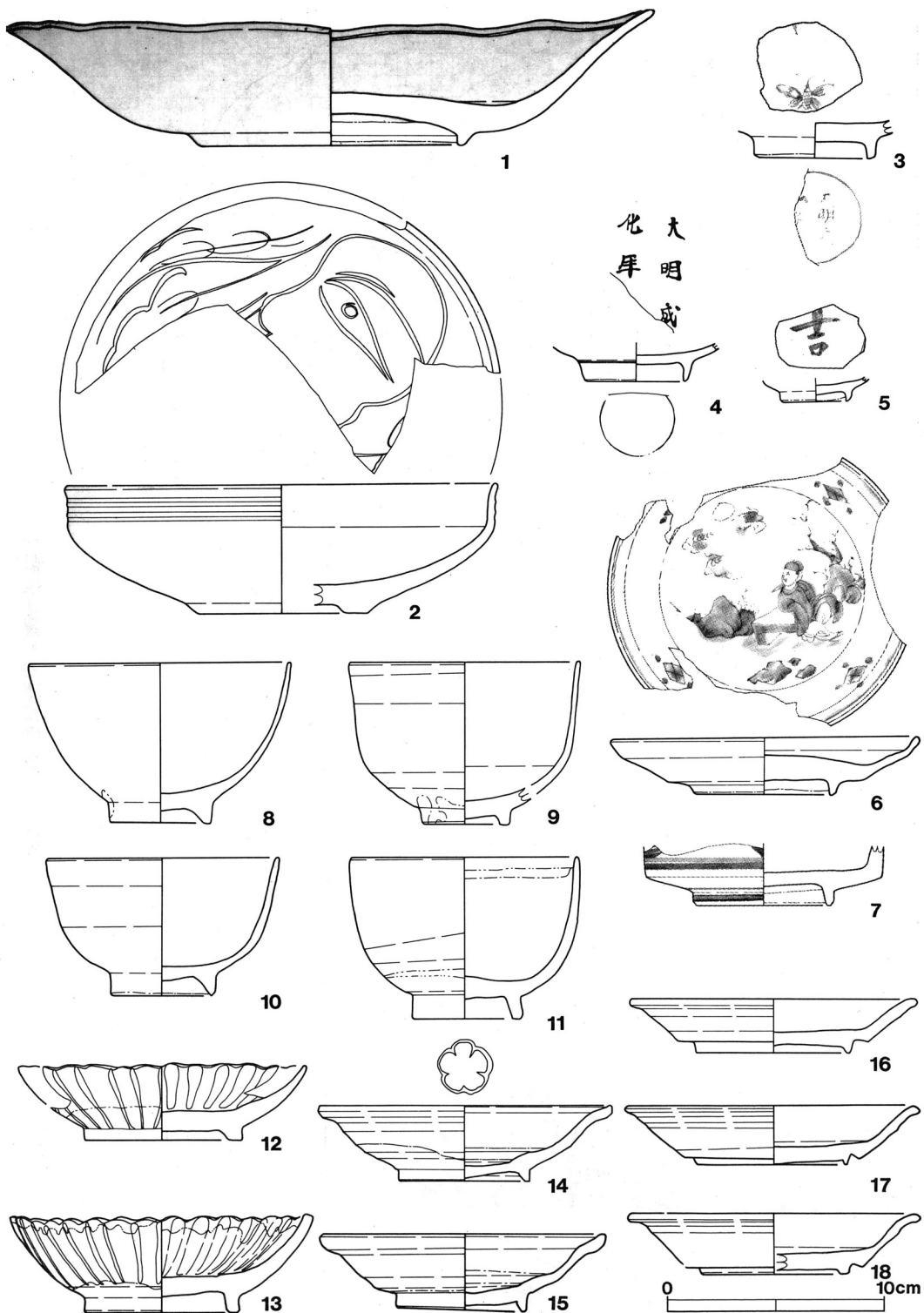


2

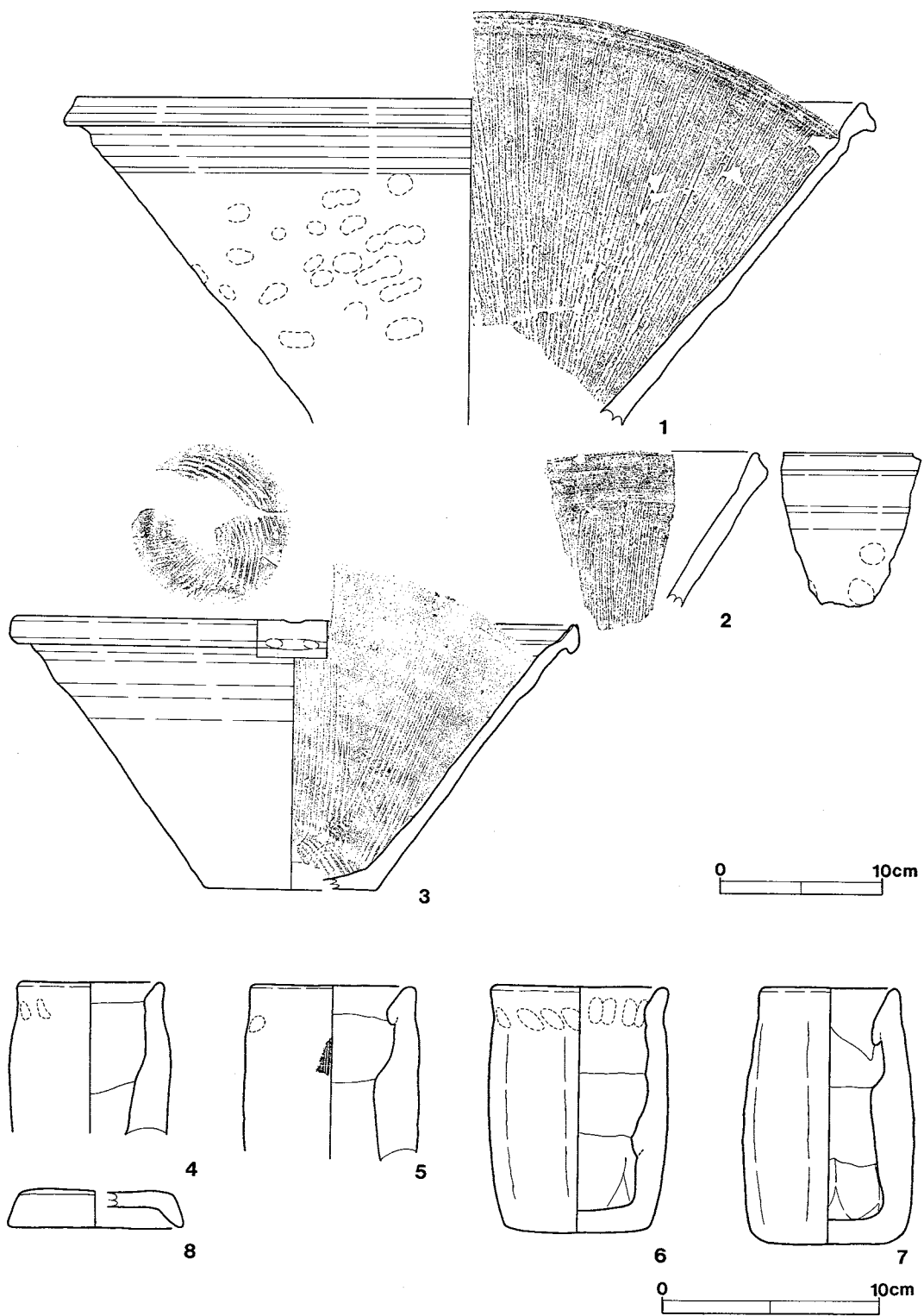


1

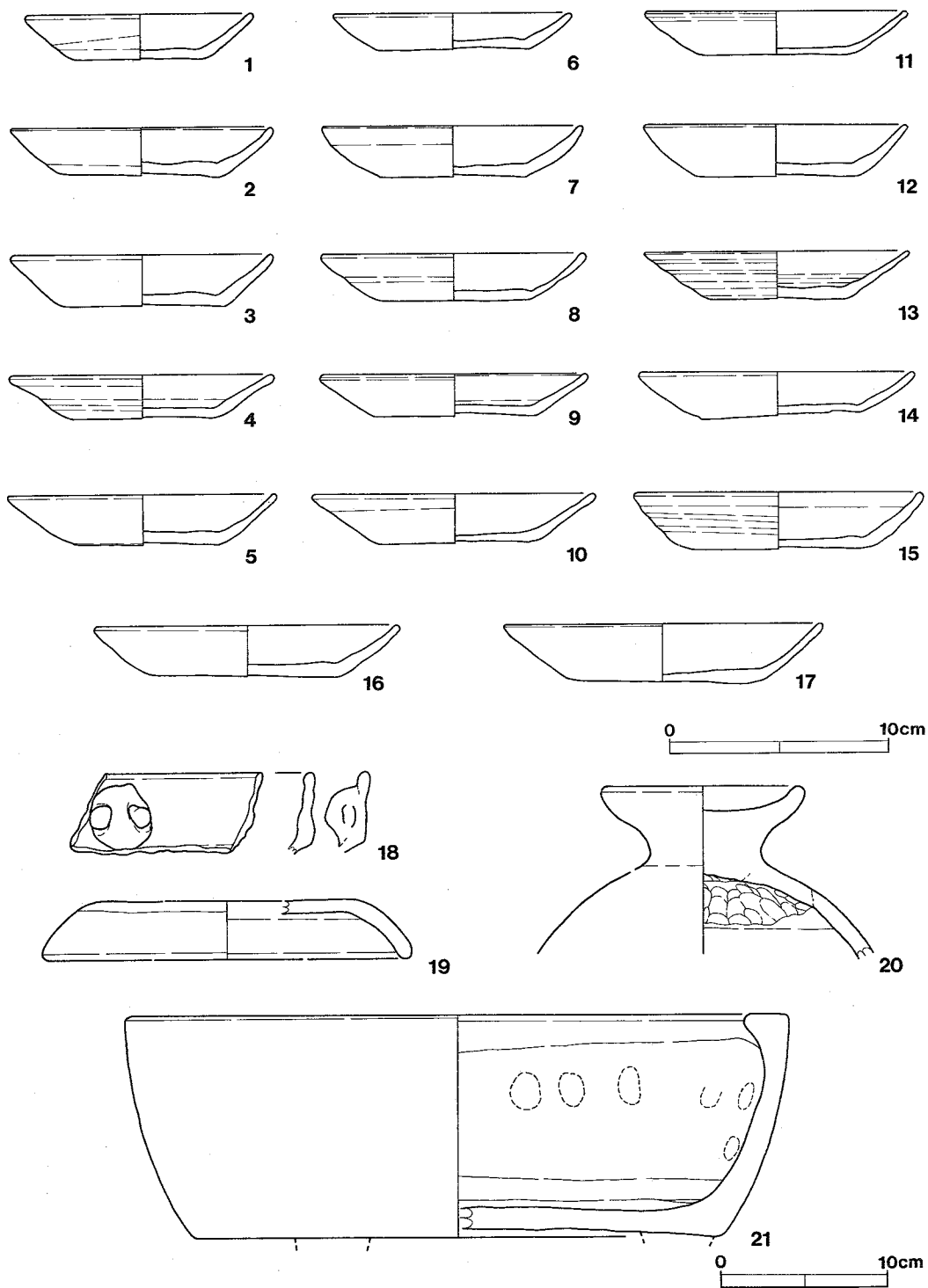
第56図 270号遺構出土陶磁器類 2



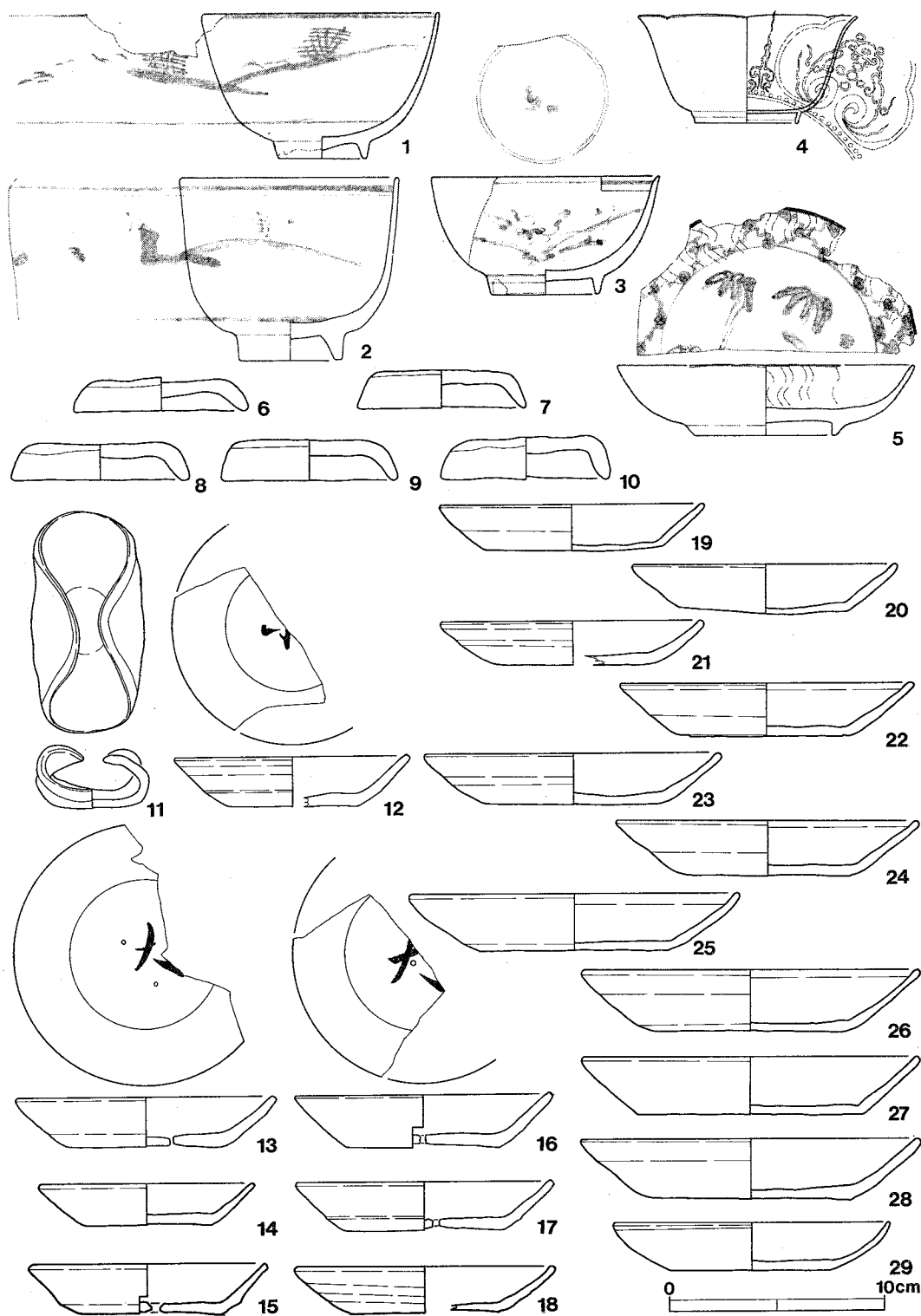
第57图 270号遺構出土陶磁器類 3



第58図 270号遺構出土陶磁器類 4



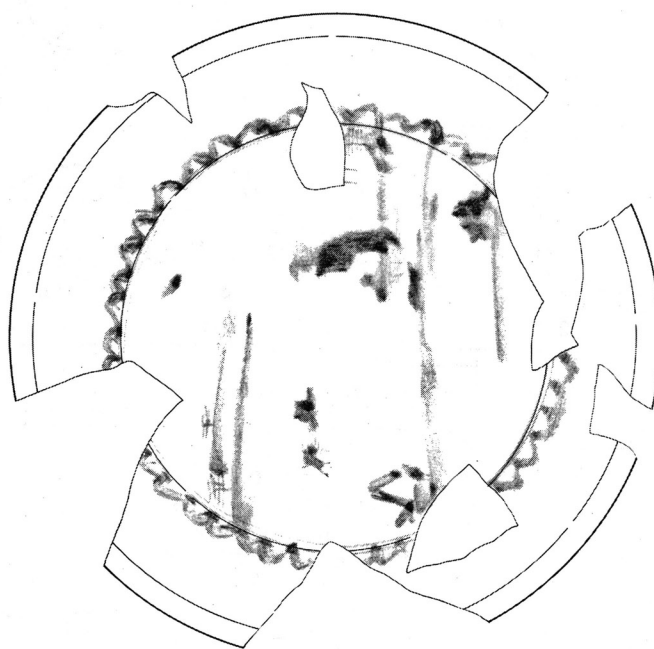
第59図 270号遺構出土陶磁器類 5



第60図 309号遺構出土陶磁器類 1



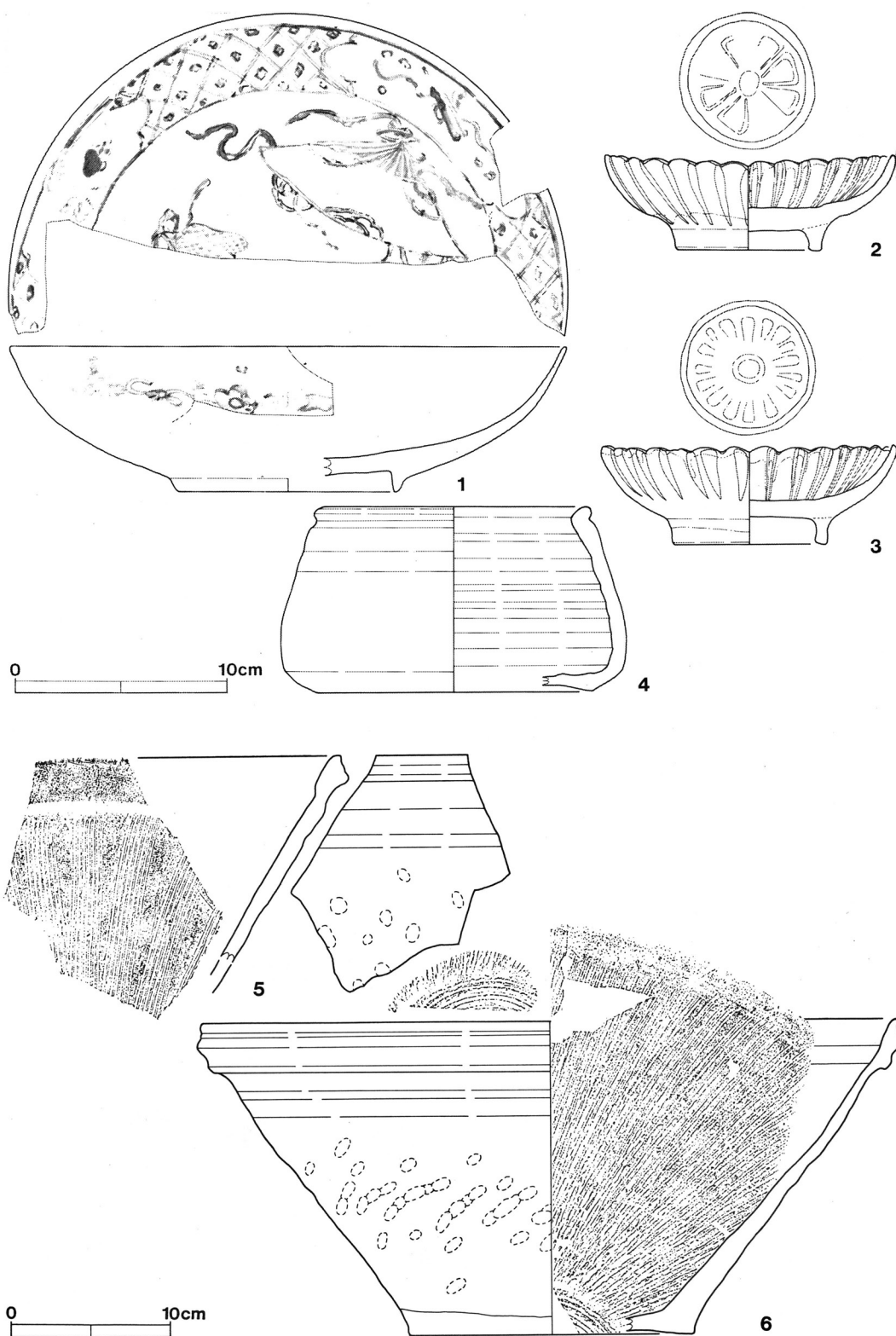
1



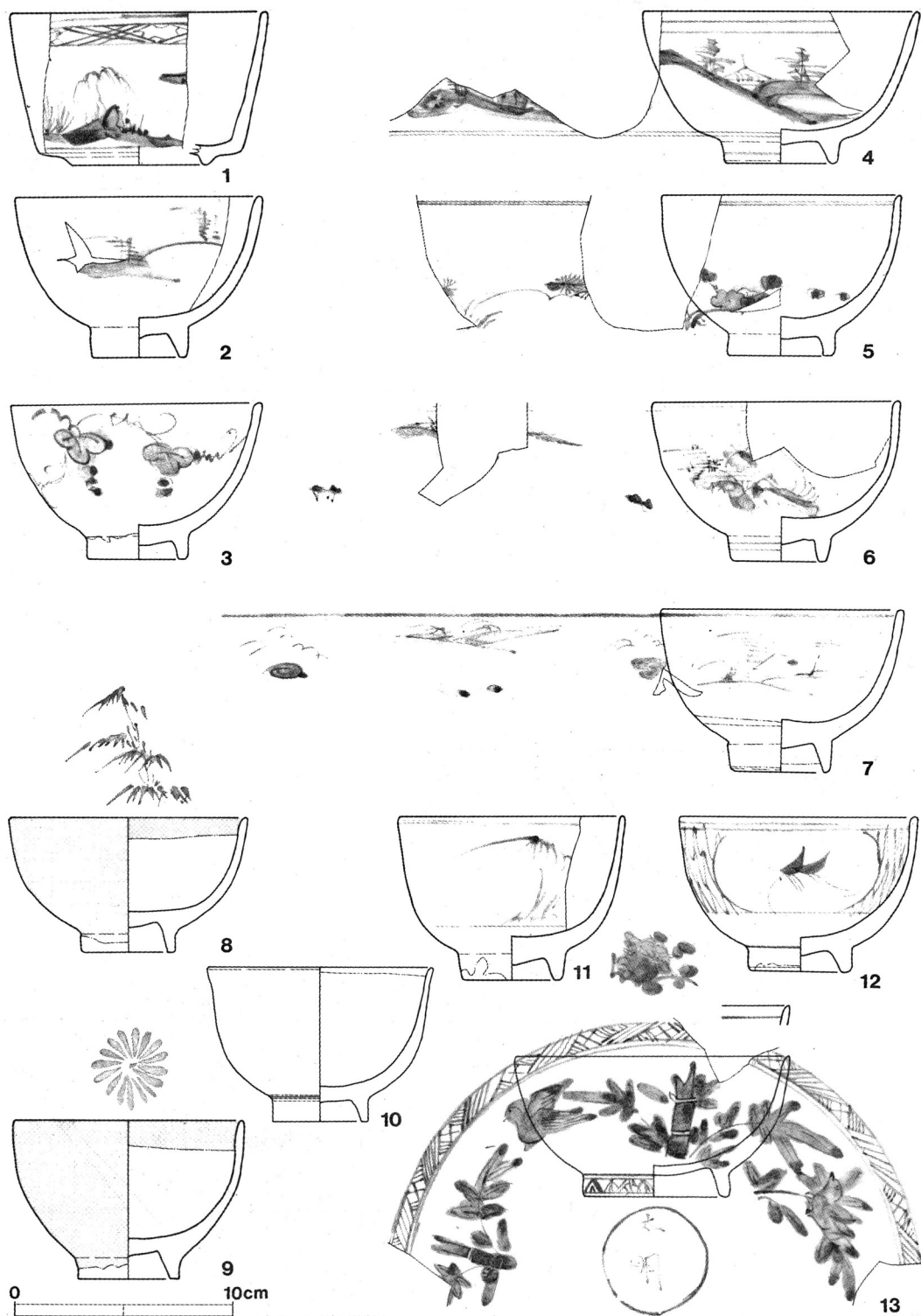
2



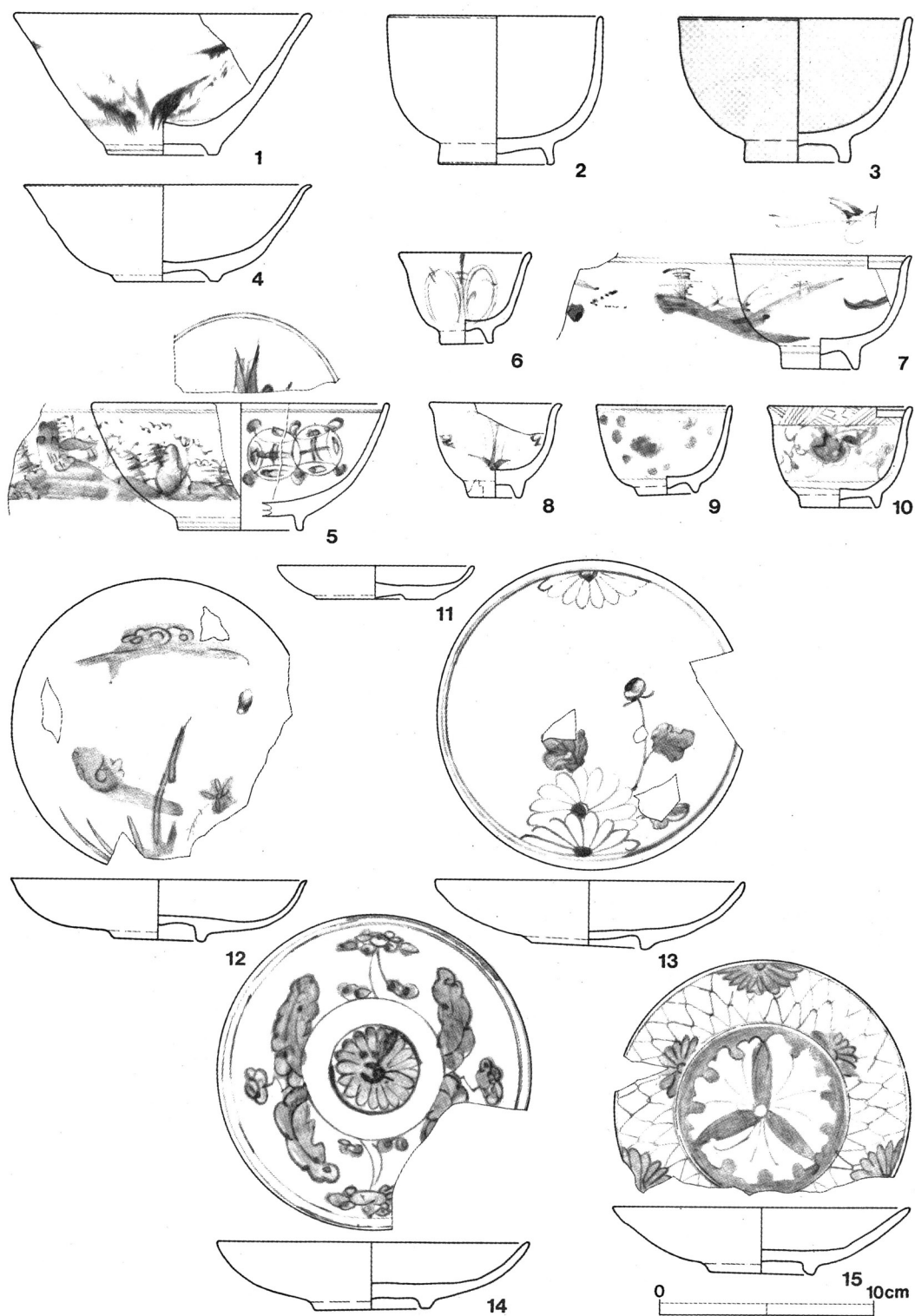
第61图 309号遺構出土陶磁器類 2



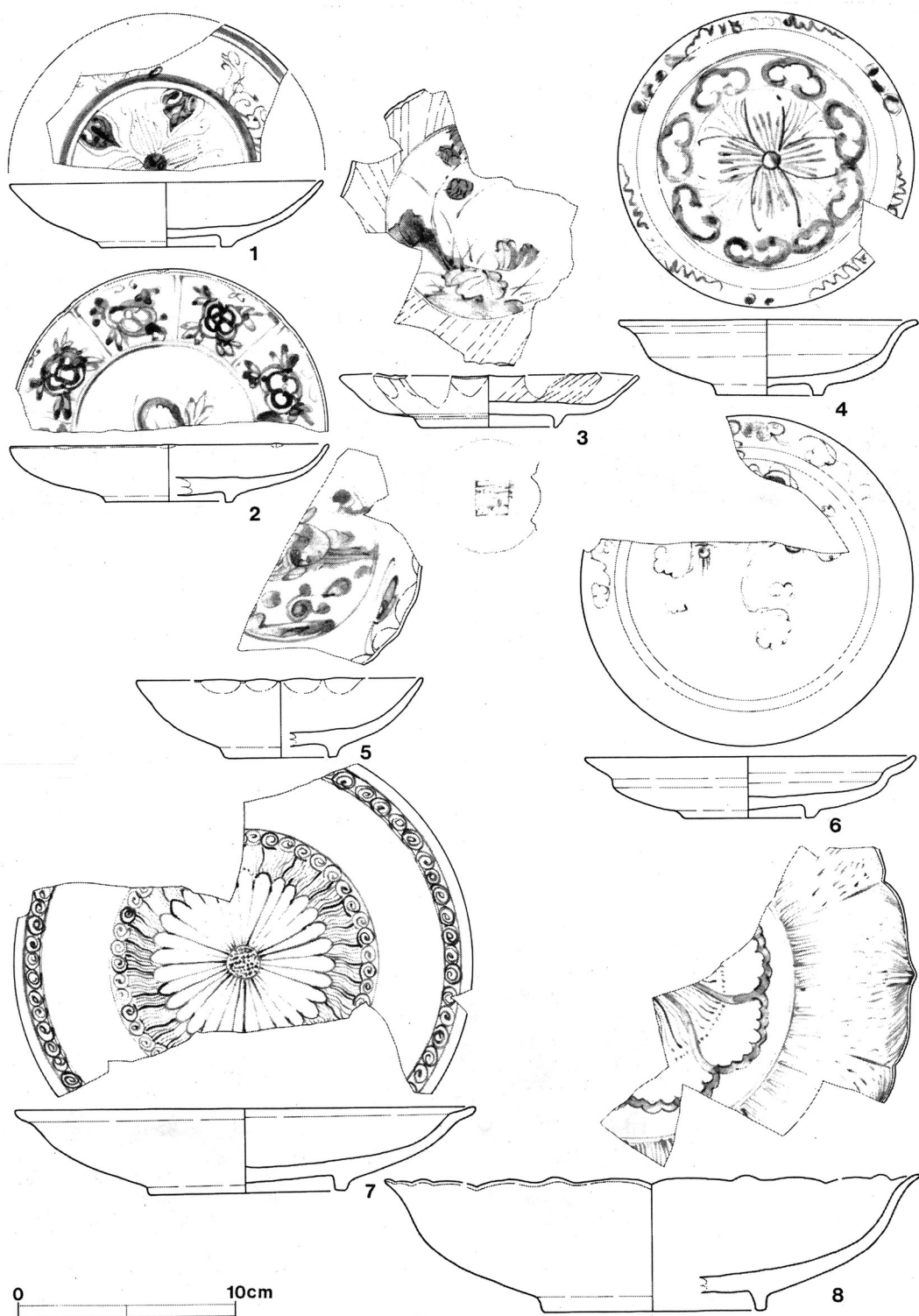
第62図 309号遺構出土陶磁器類 3



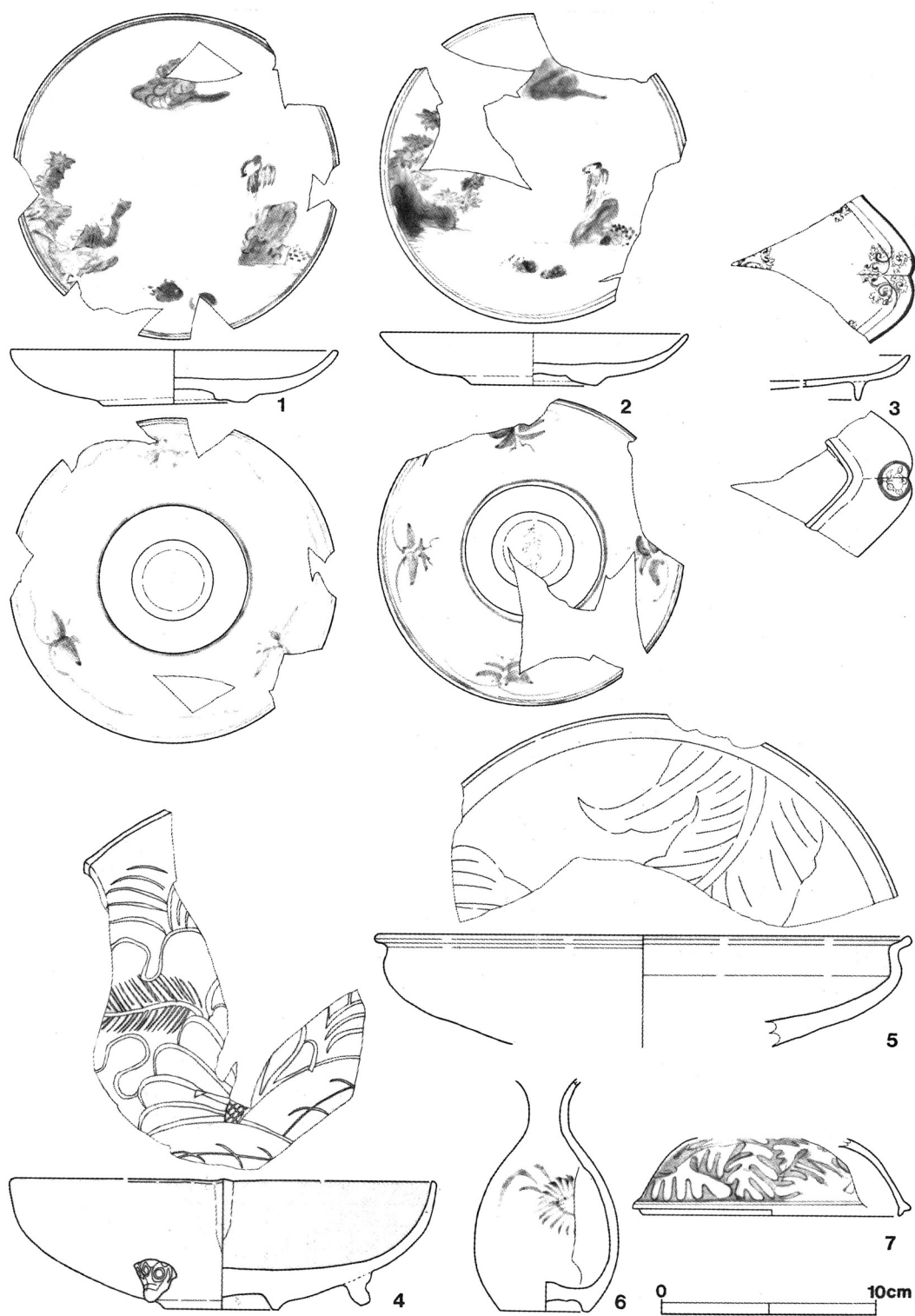
第63图 532号遺構出土陶磁器類 1



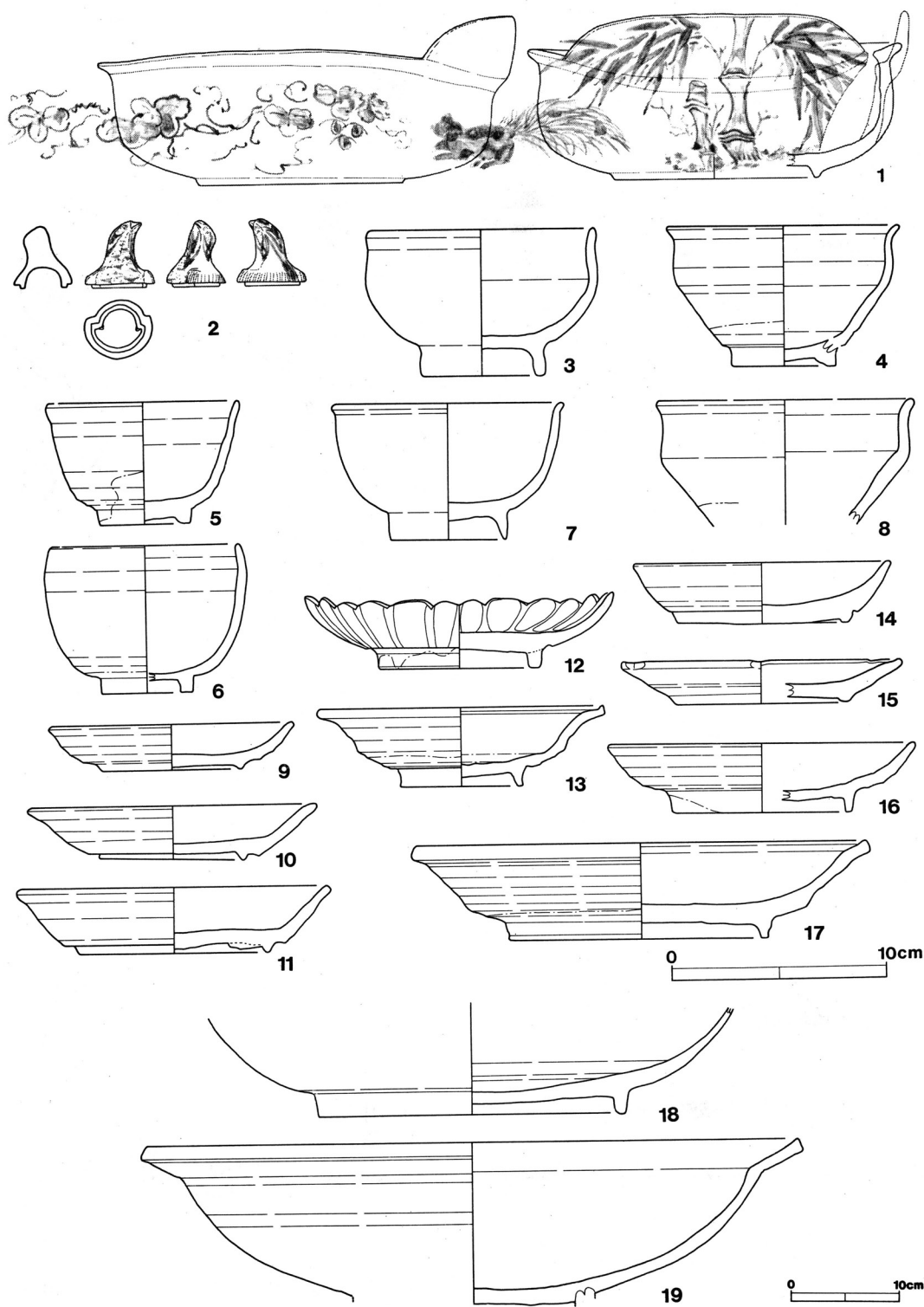
第64図 532号遺構出土陶磁器類 2



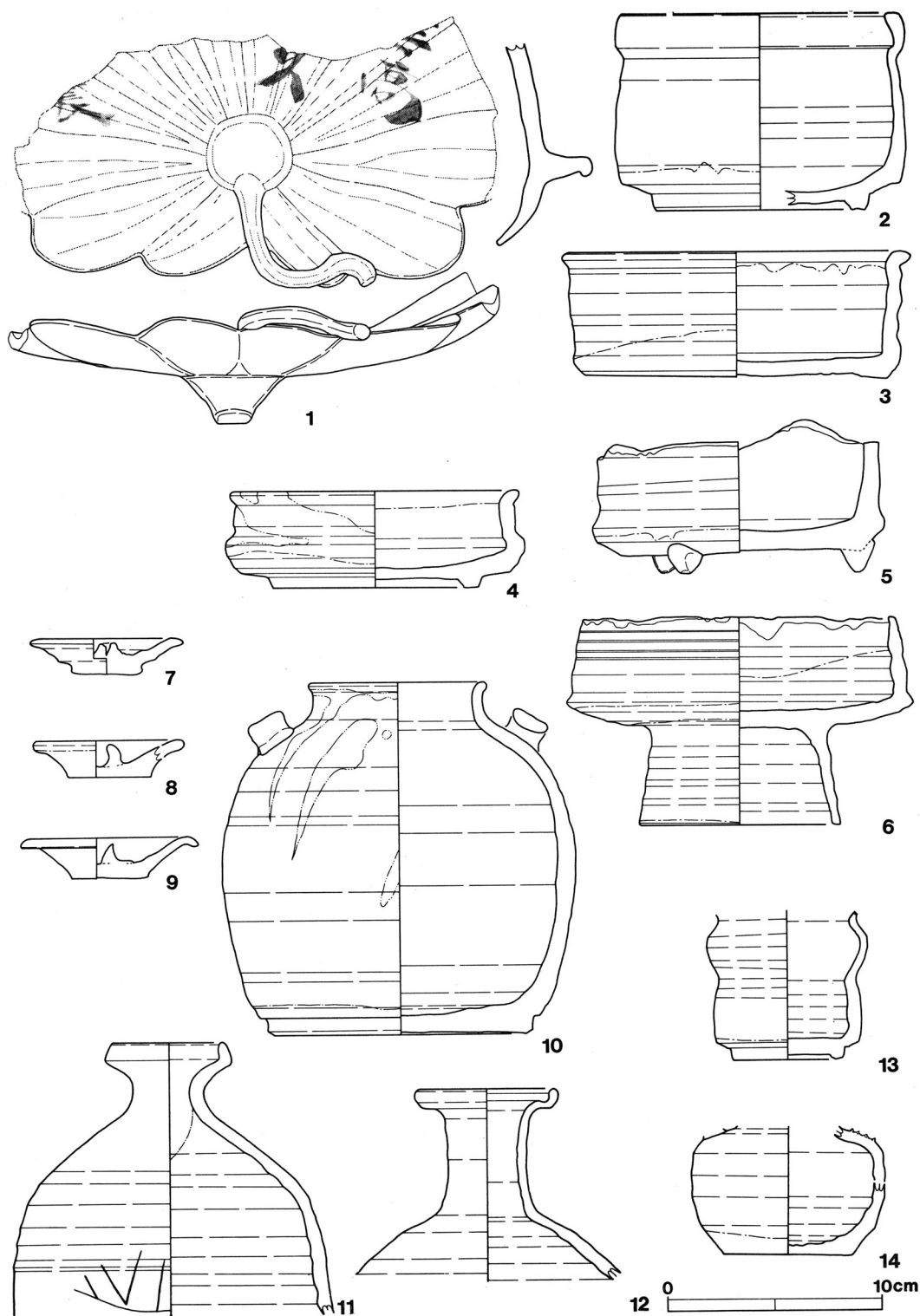
第65図 532号遺構出土陶磁器類 3



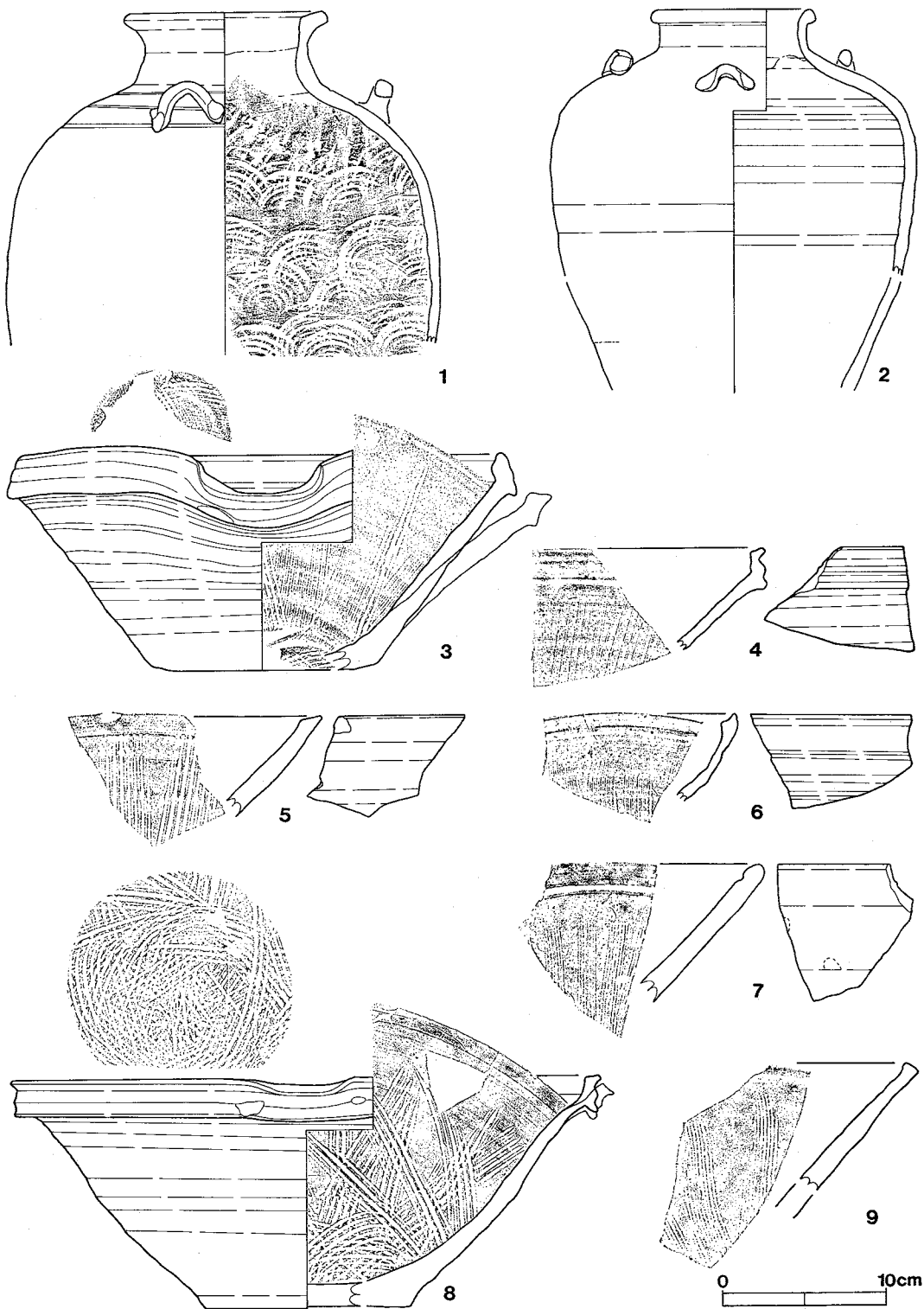
第66図 532号遺構出土陶磁器類 4



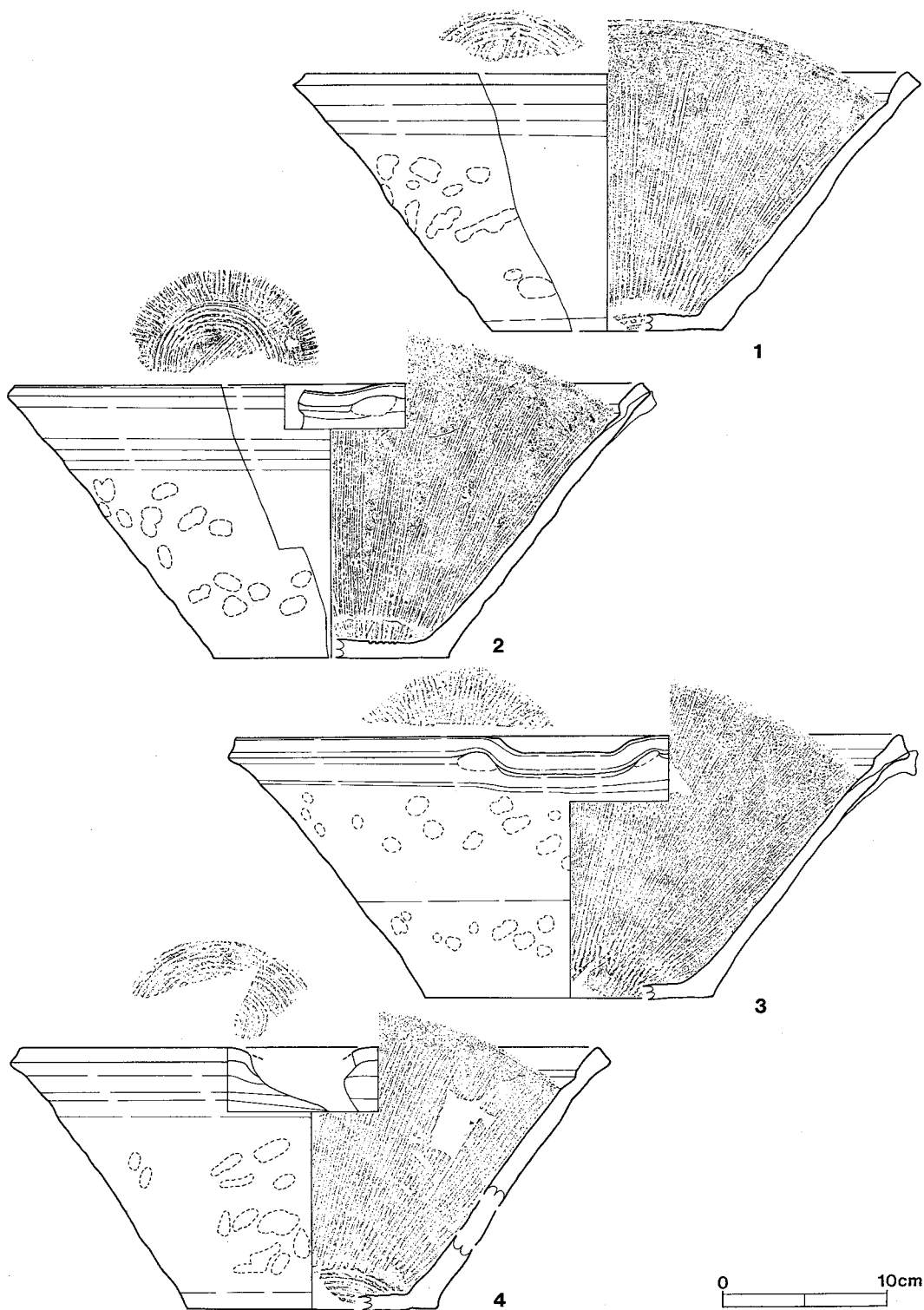
第67図 532号遺構出土陶磁器類 5



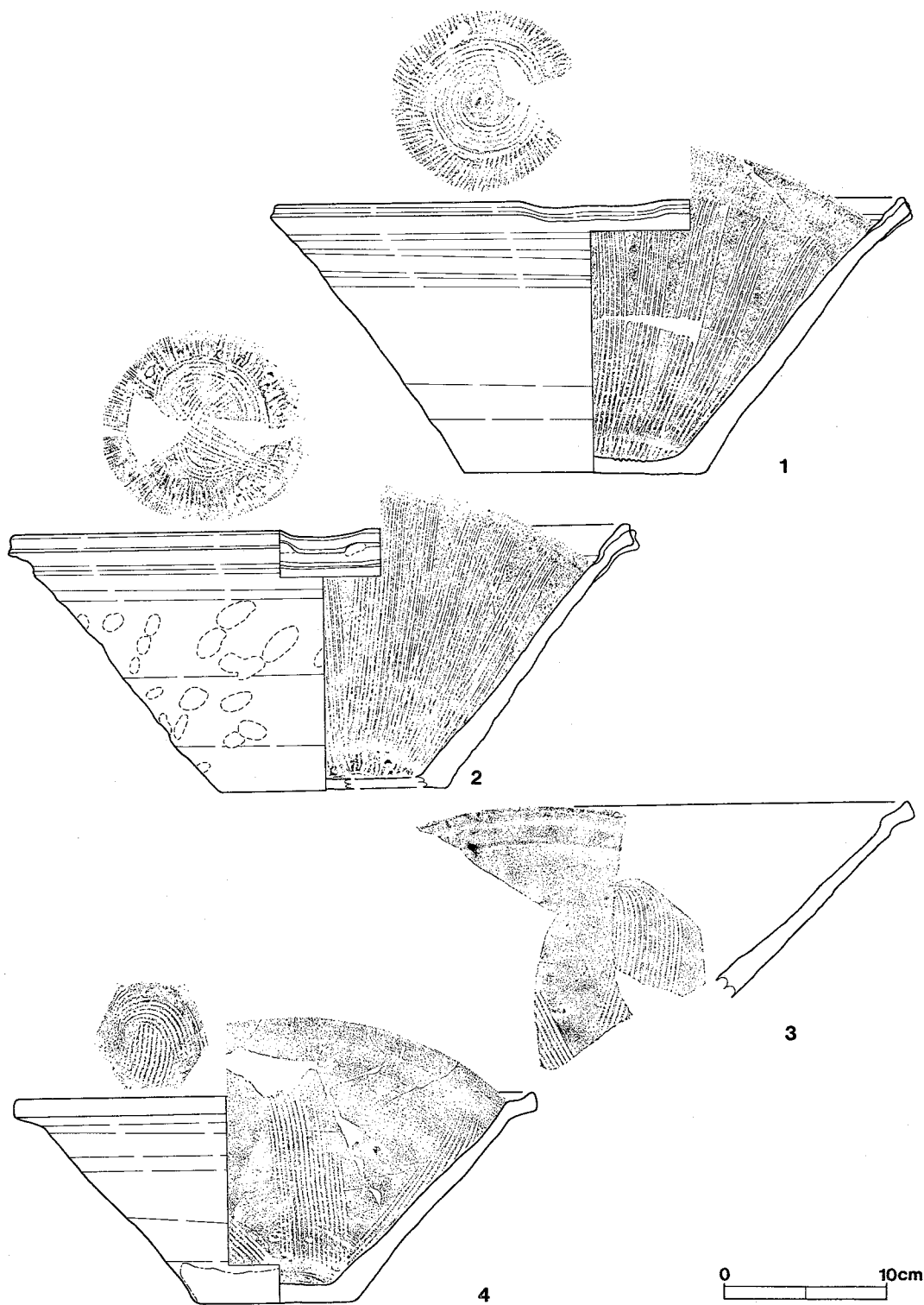
第68図 532号遺構出土陶磁器類 6



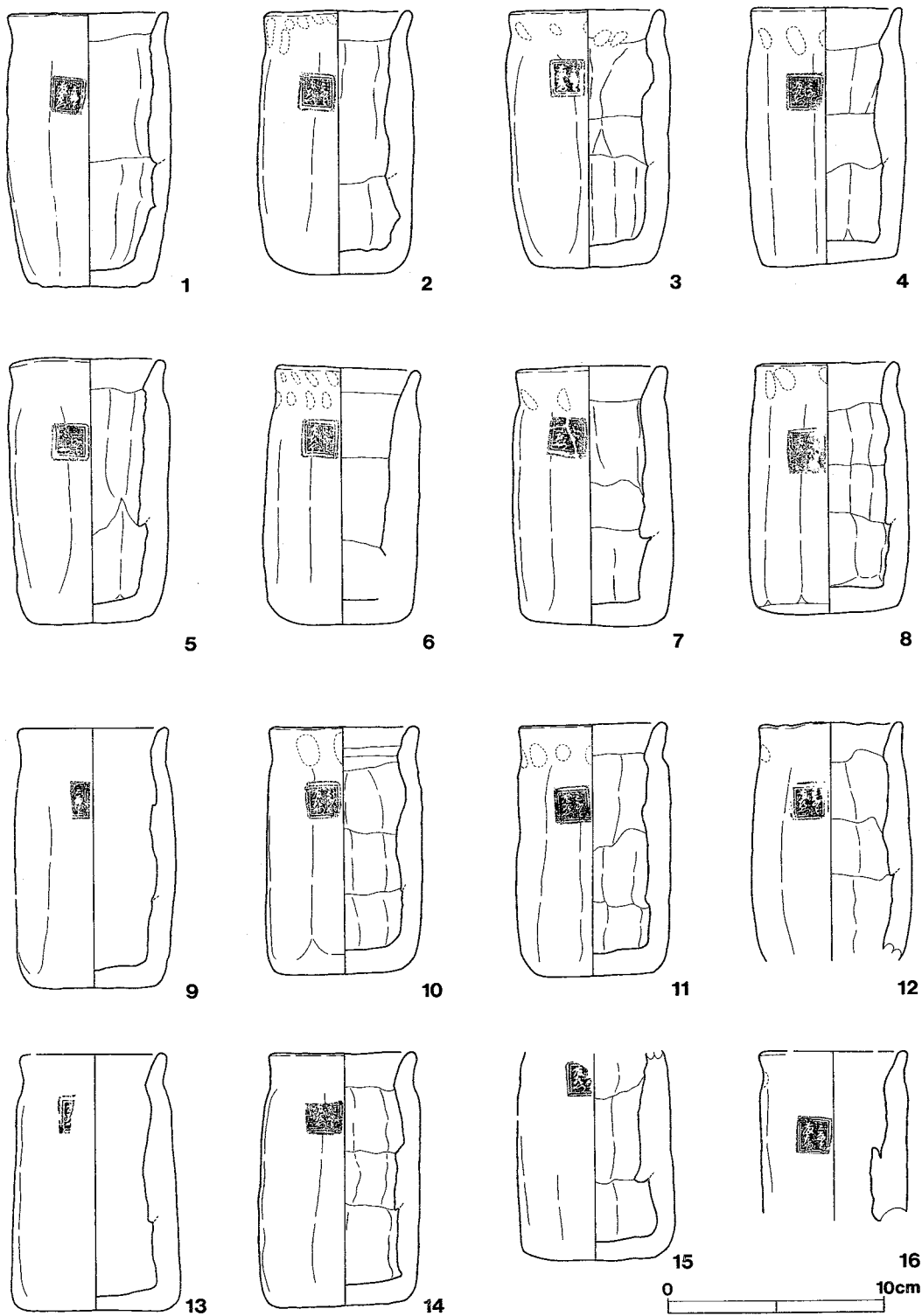
第69図 532号遺構出土陶磁器類7



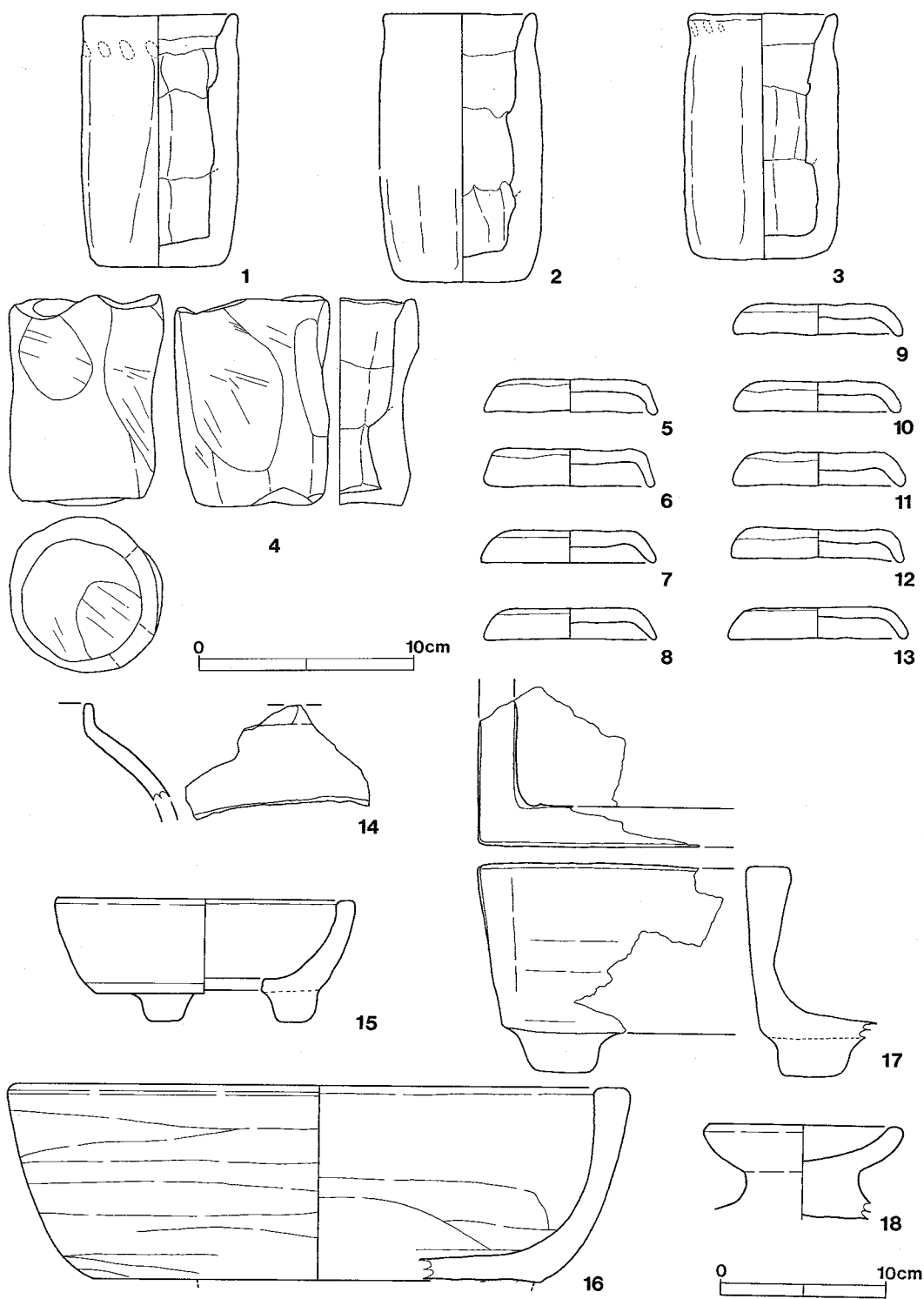
第70図 532号遺構出土陶磁器類 8



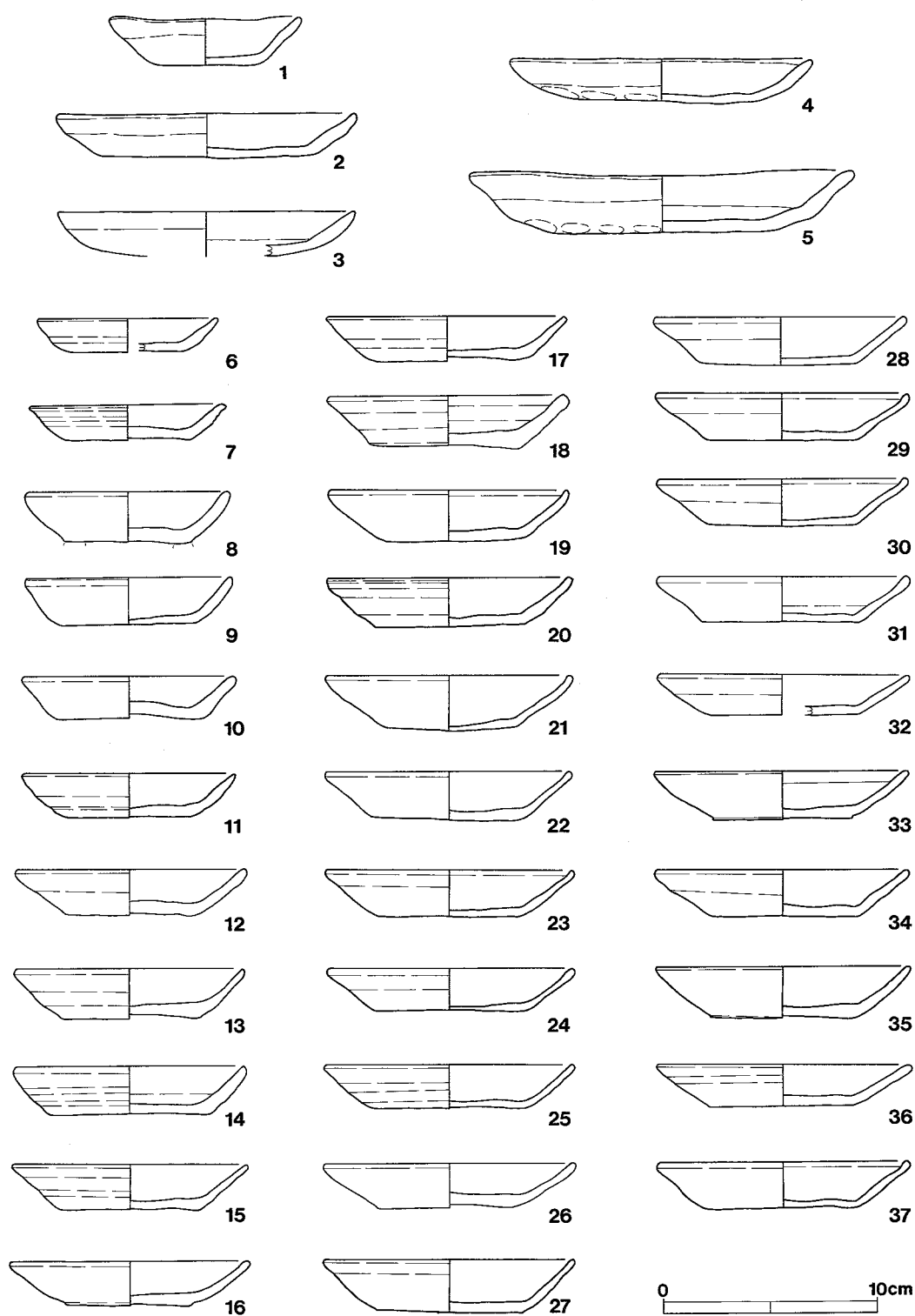
第71図 532号遺構出土陶磁器類9



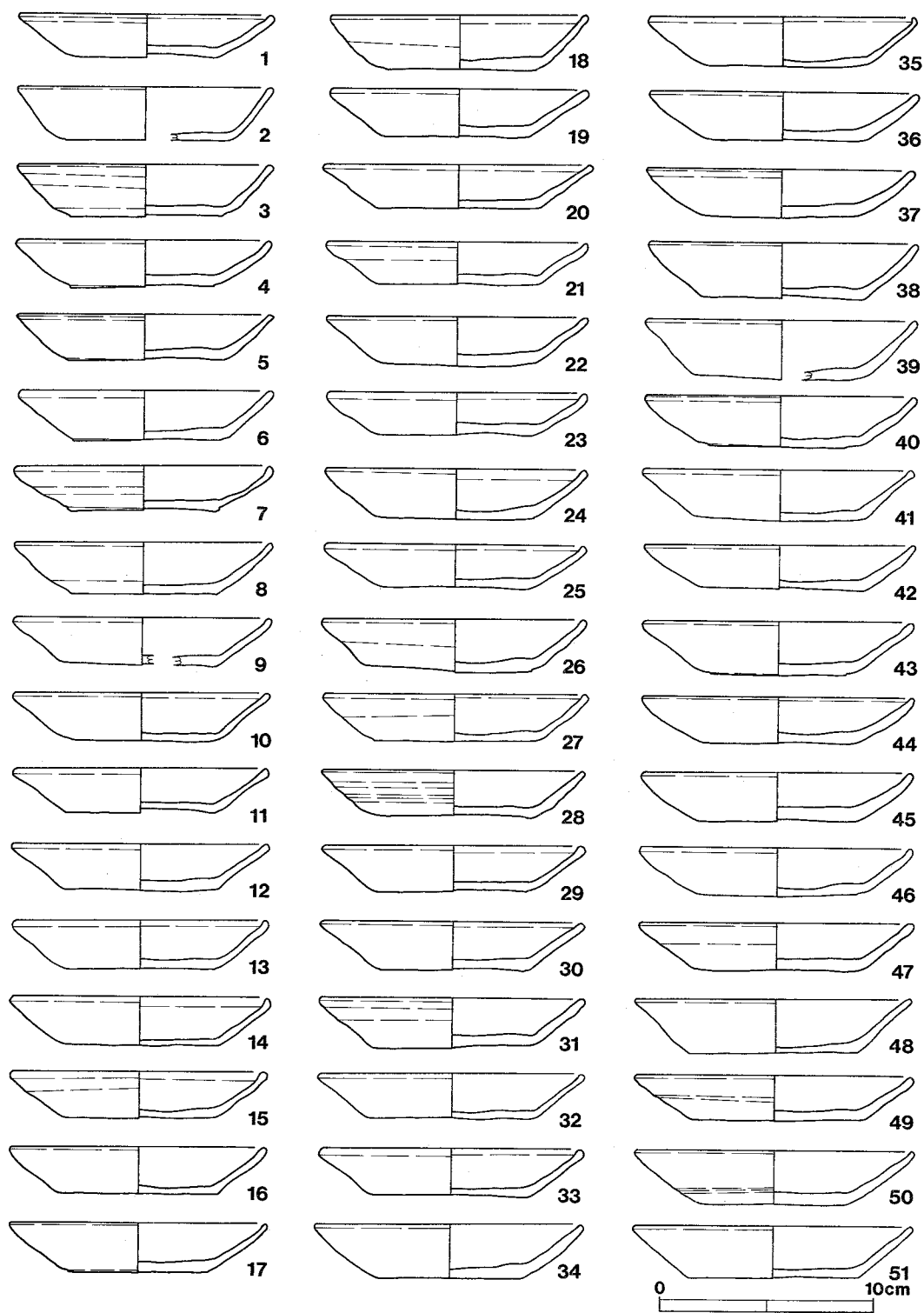
第72図 532号遺構出土陶磁器類10



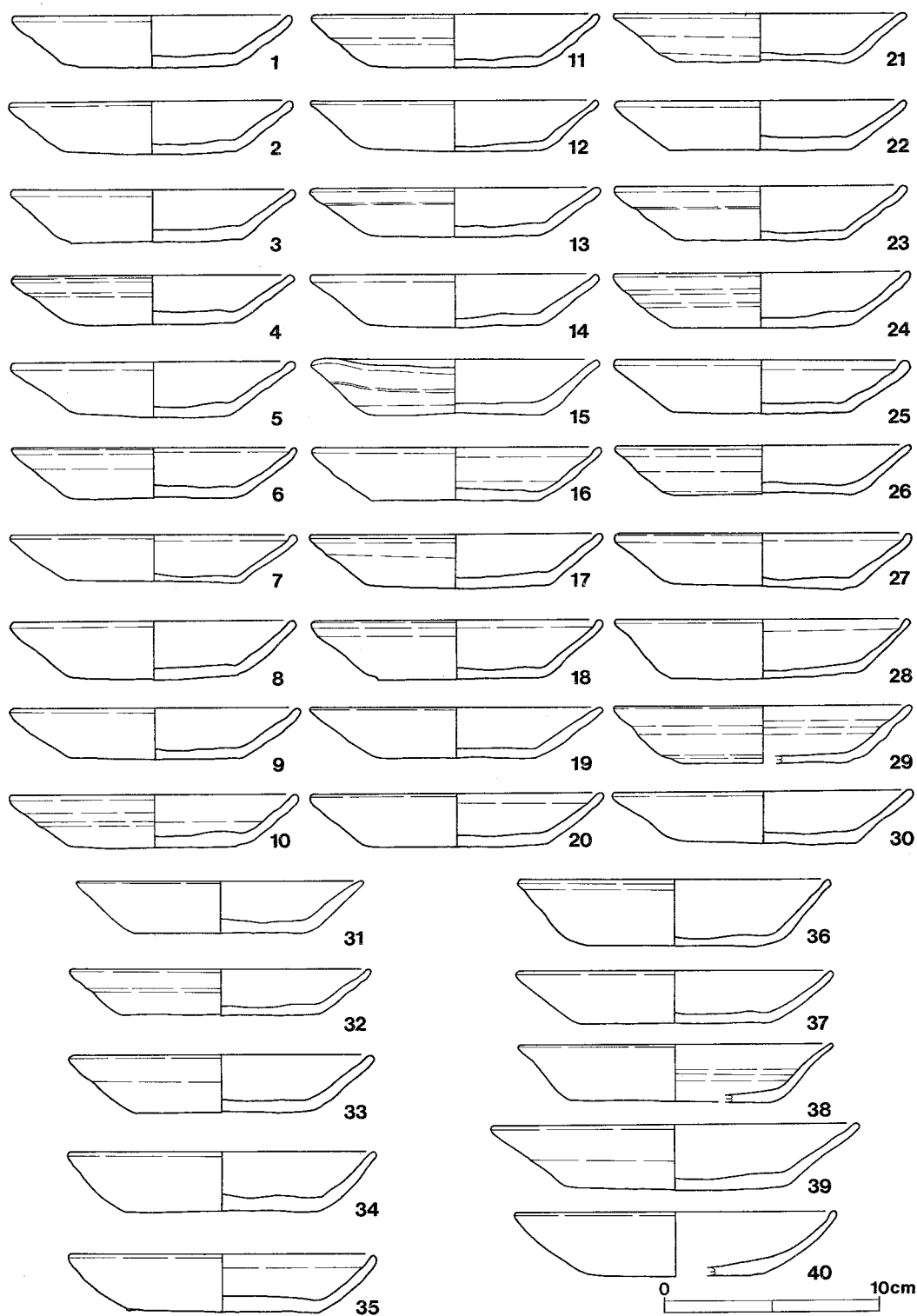
第73図 532号遺構出土陶磁器類11



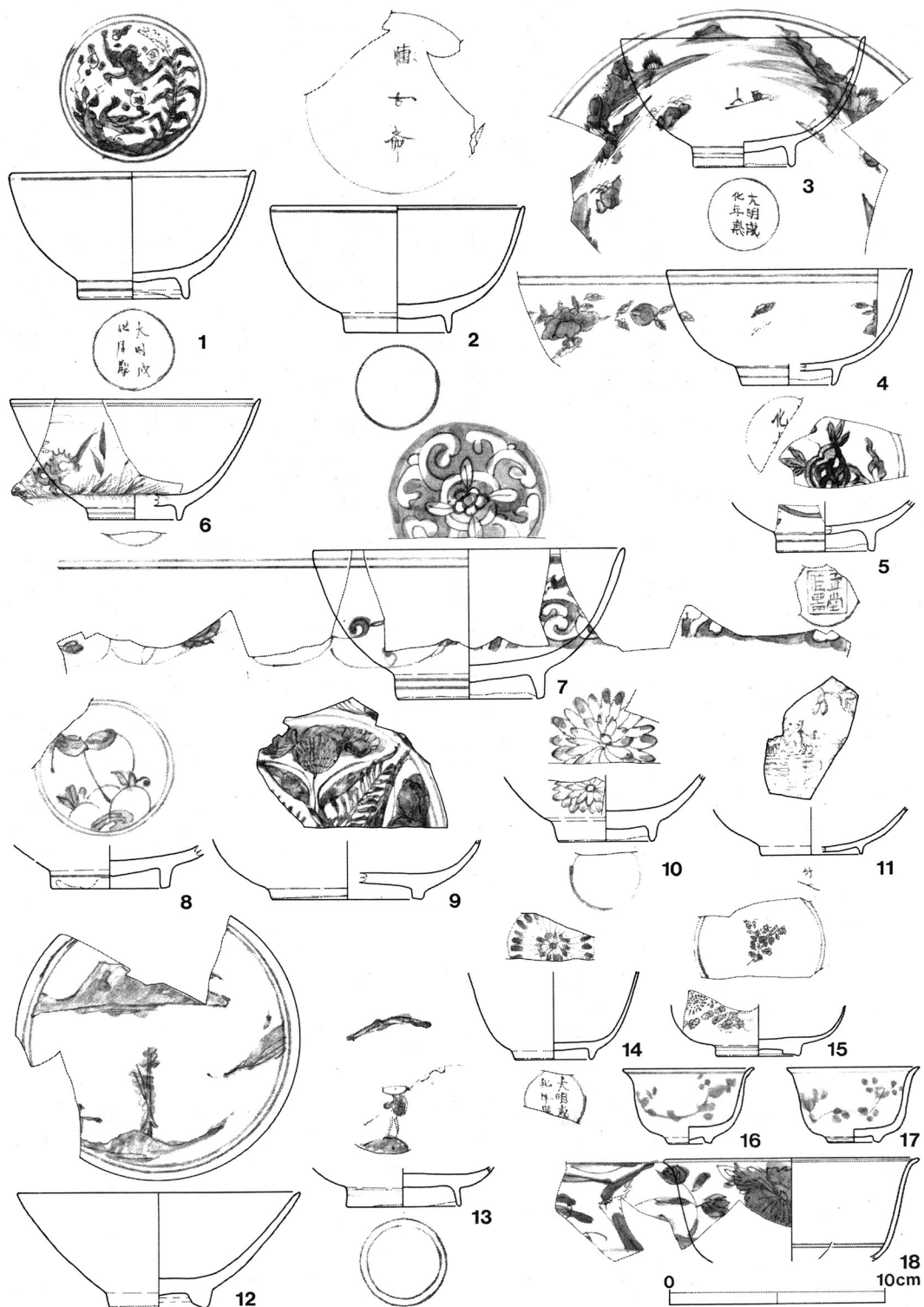
第74図 532号遺構出土陶磁器類12



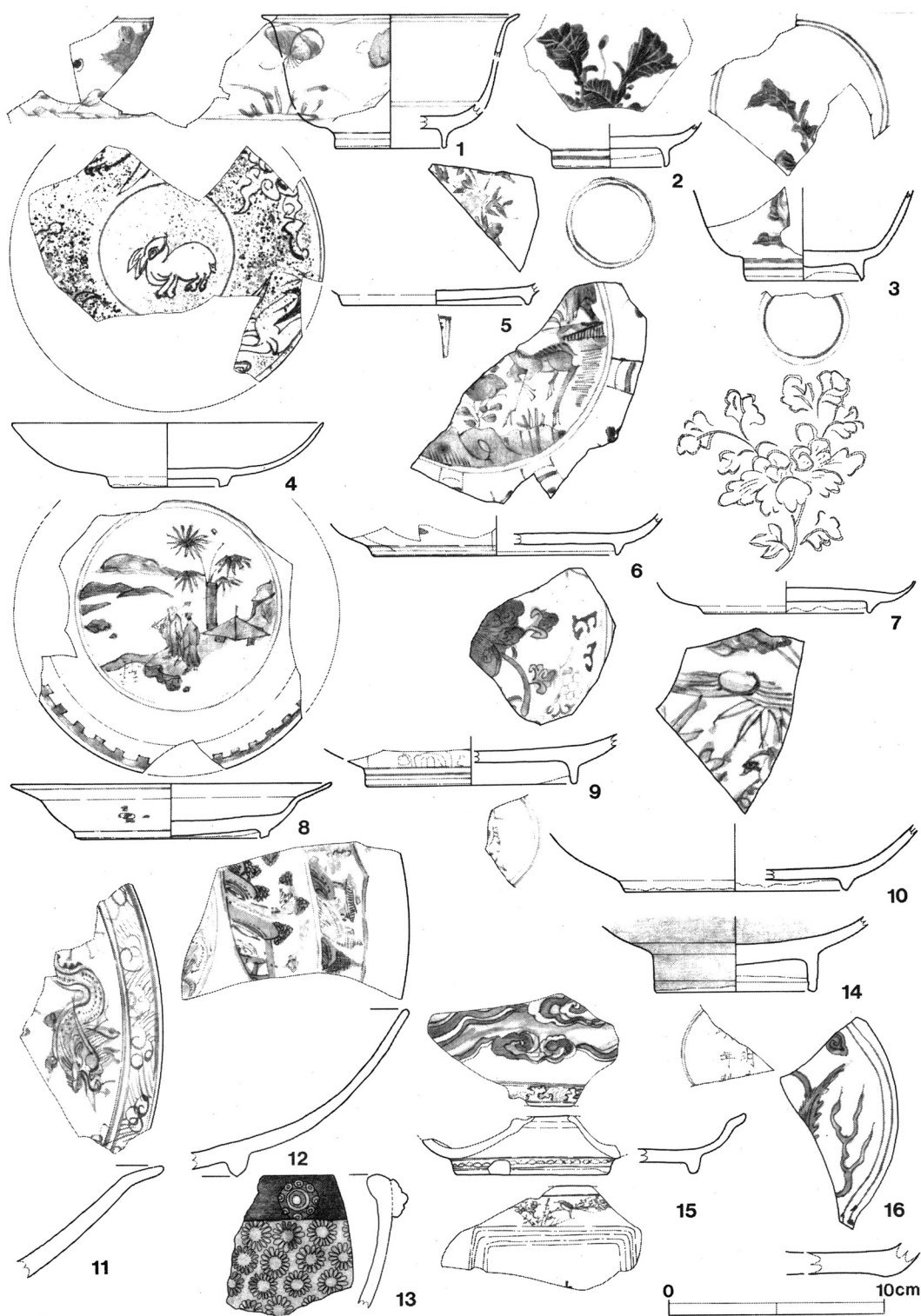
第75図 532号遺構出土陶磁器類13



第76図 532号遺構出土陶磁器類14



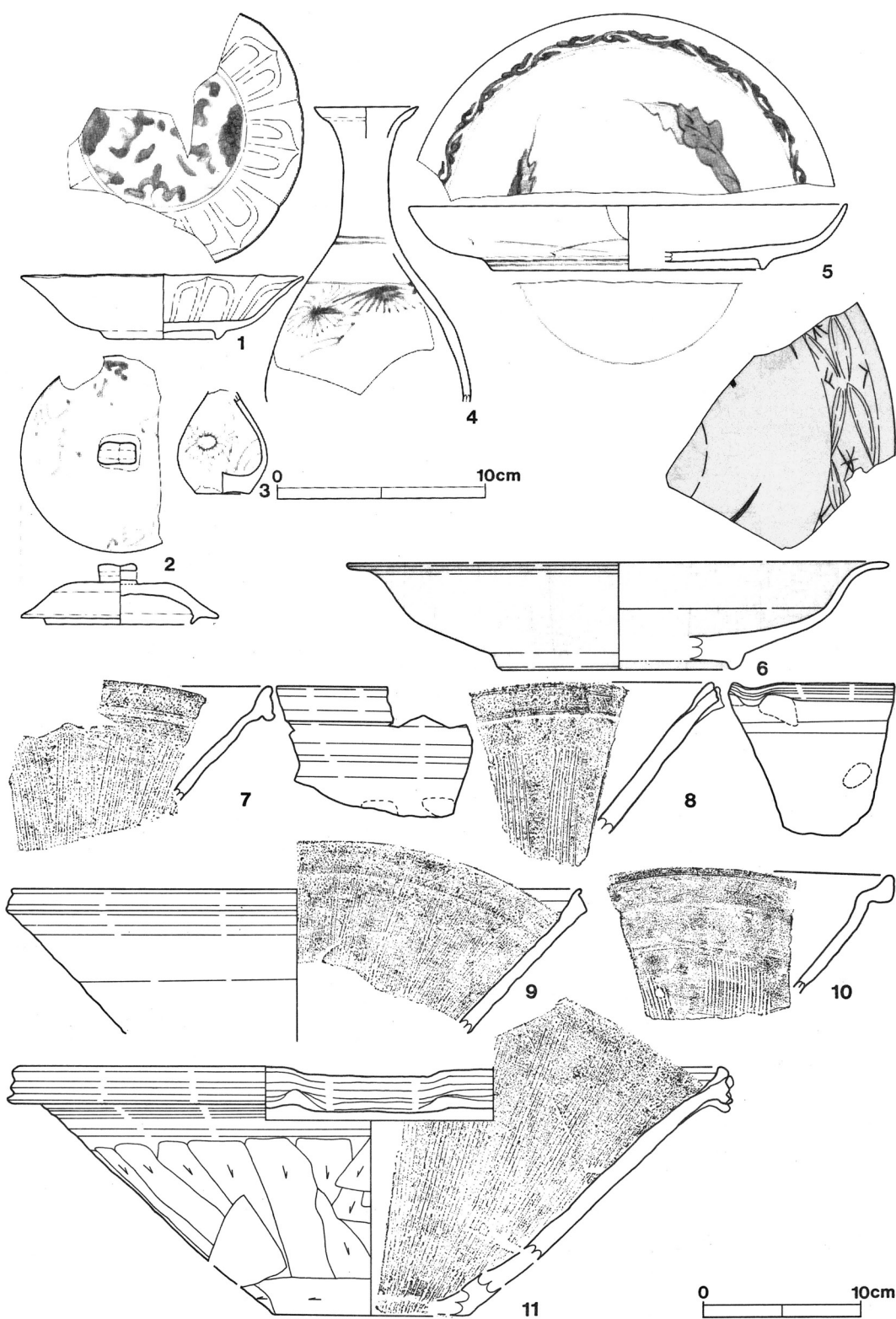
第77图 532号遺構出土陶磁器類15



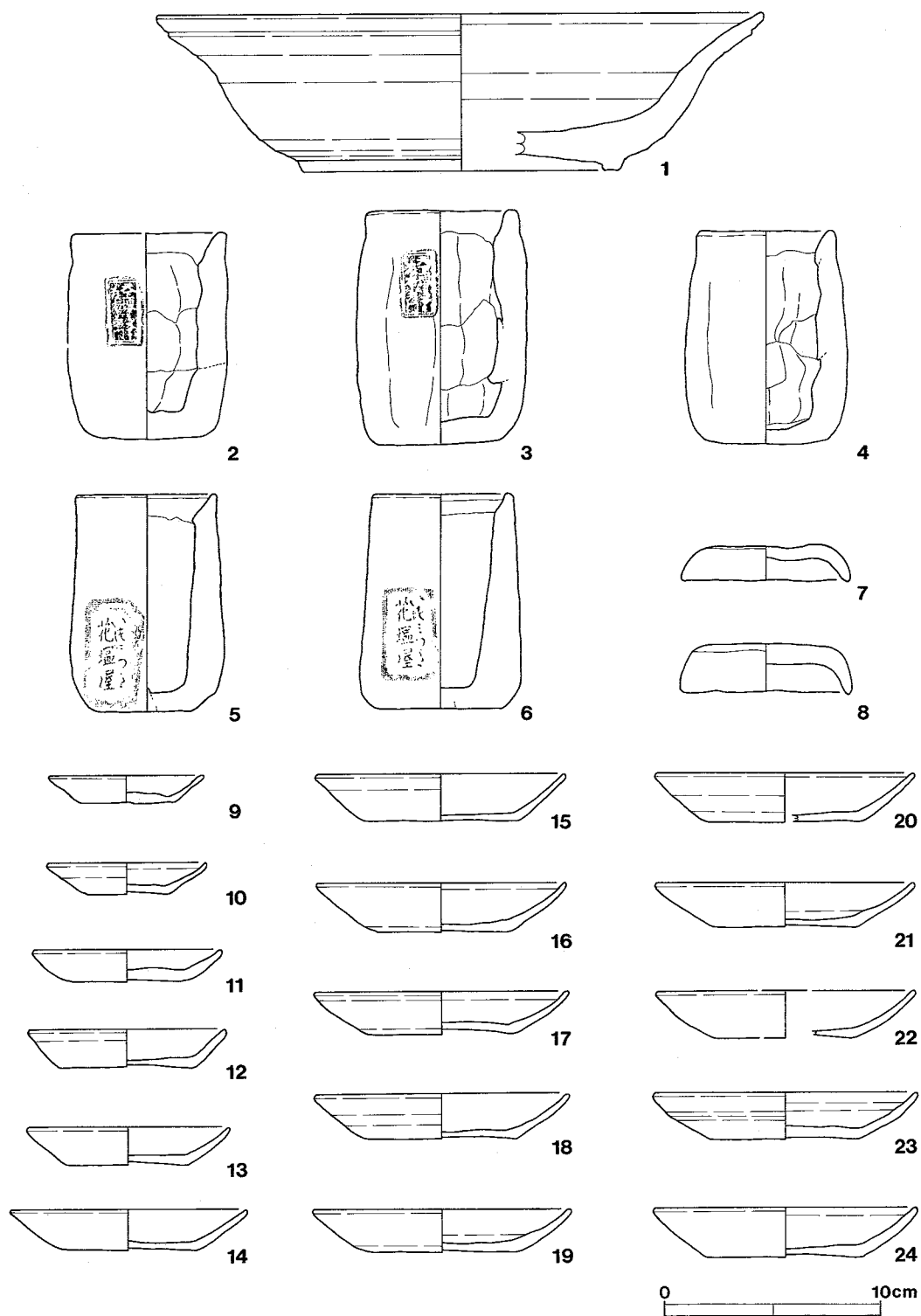
第78図 532号遺構出土陶磁器類16



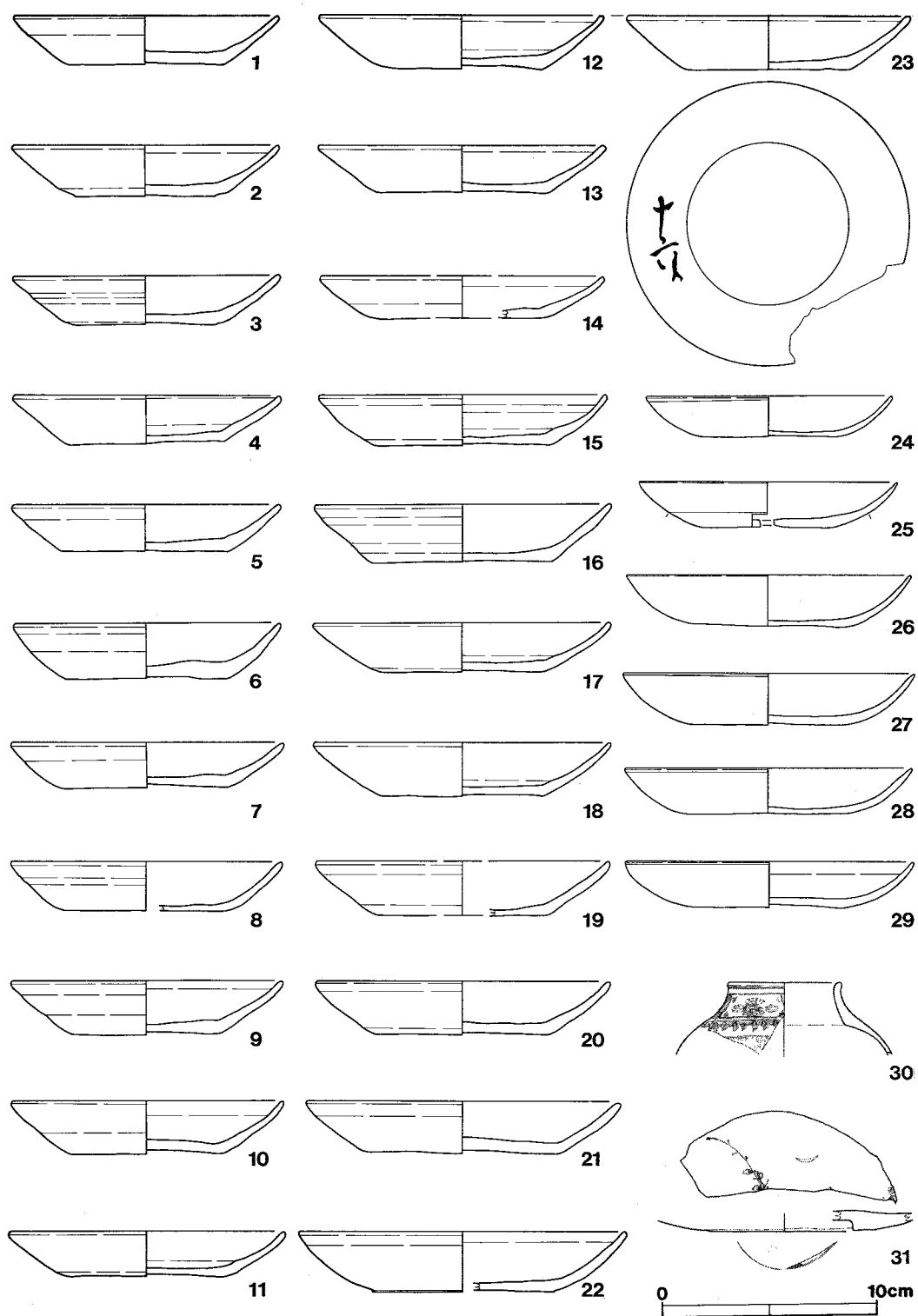
第79图 617号遺構出土陶磁器類 1



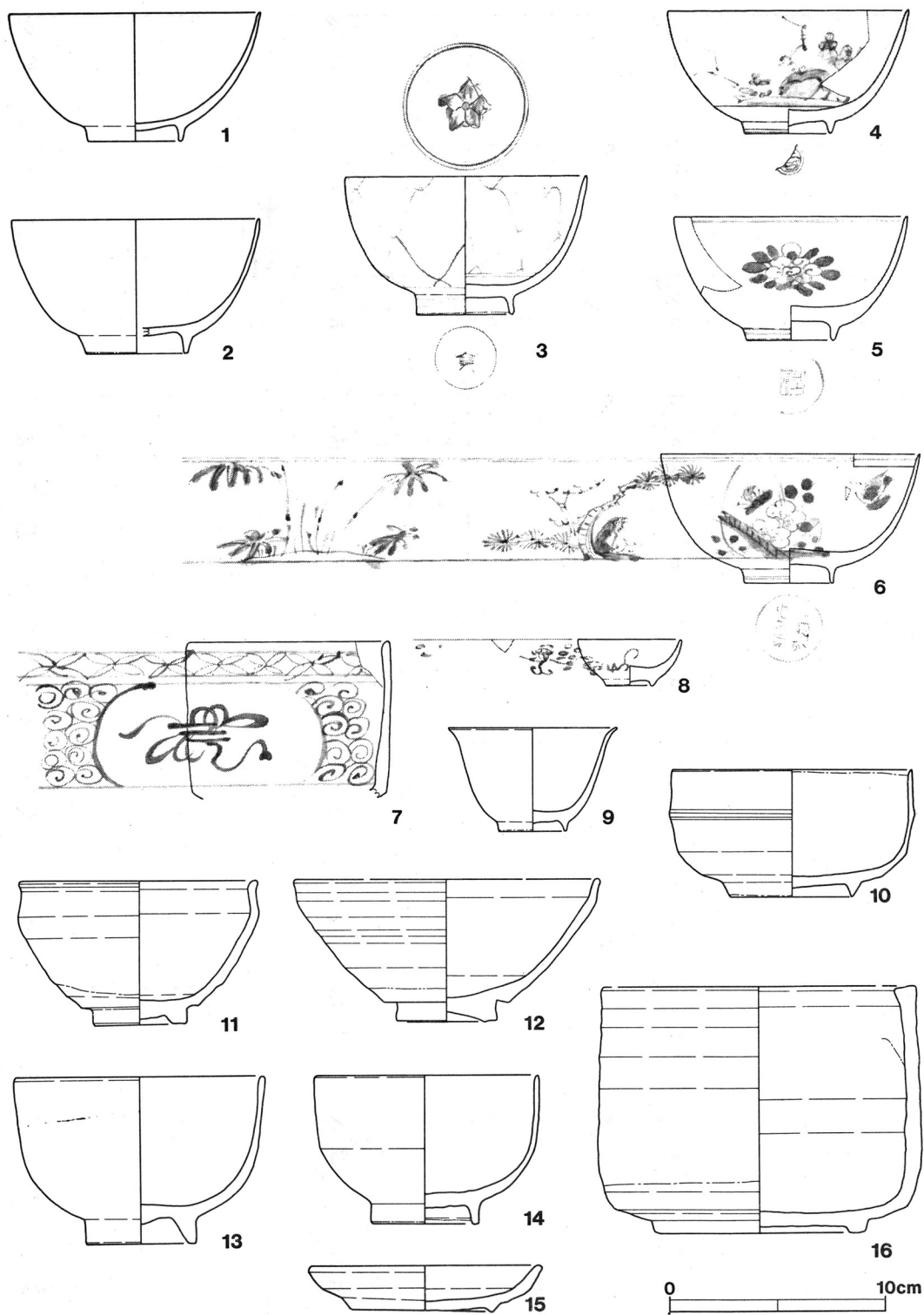
第80図 617号遺構出土陶磁器類 2



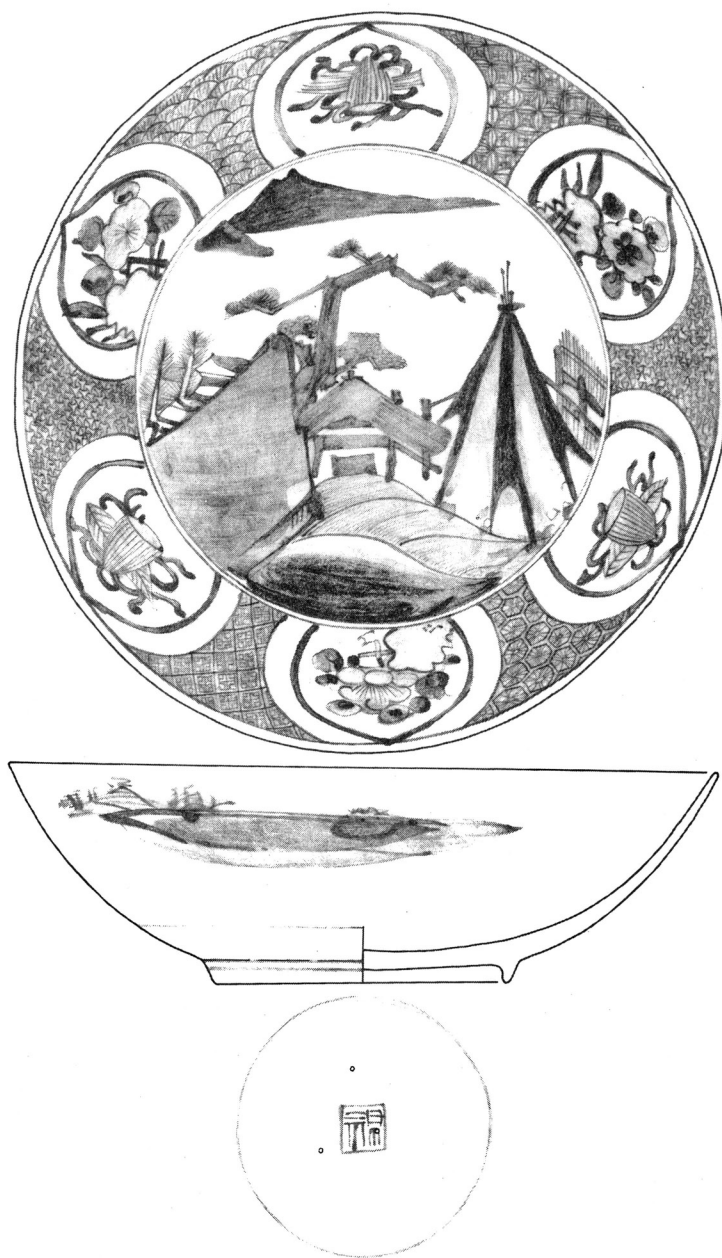
第81図 617号遺構出土陶磁器類 3



第82図 617号遺構出土陶磁器類 4

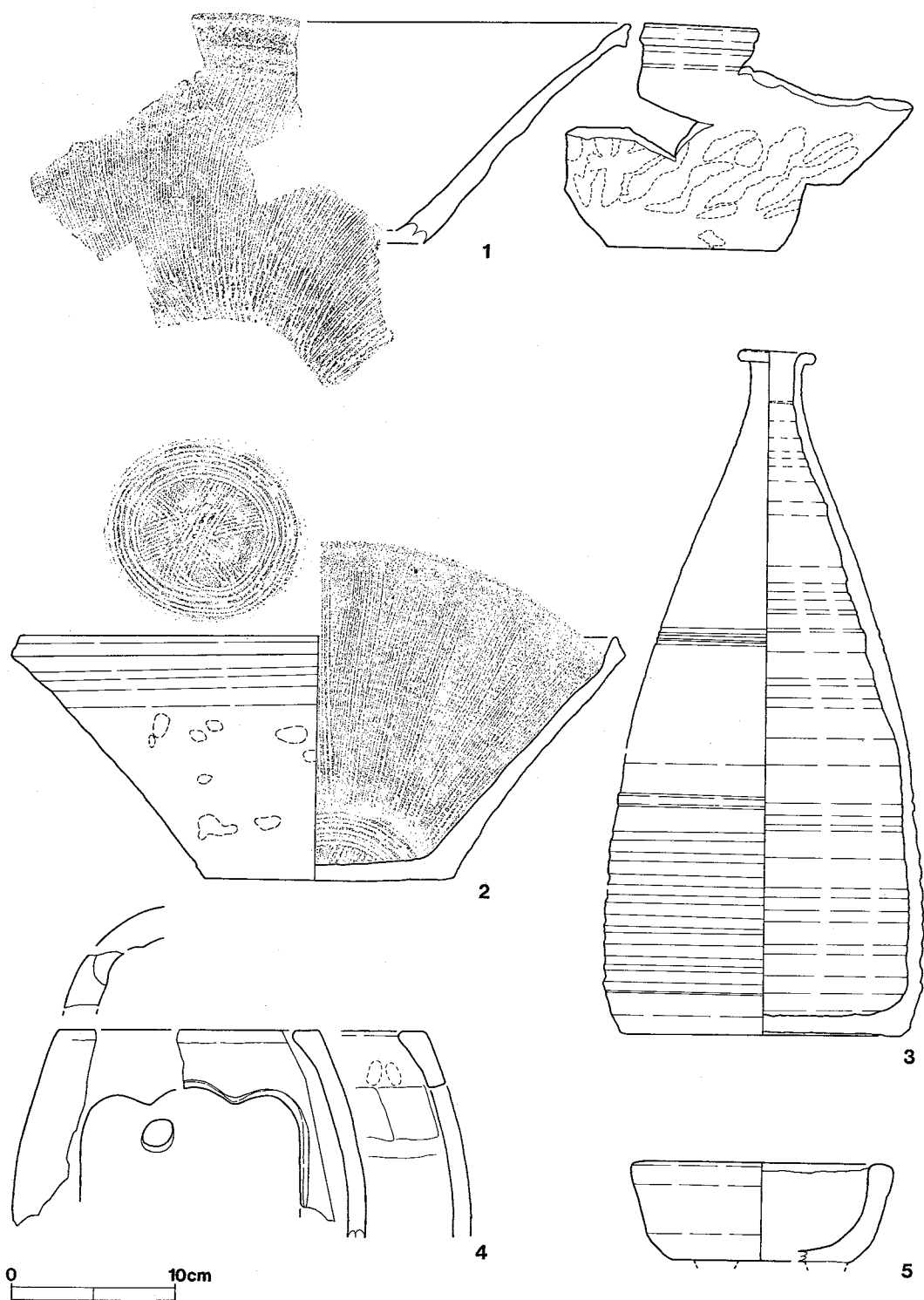


第83図 618号遺構出土陶磁器類 1

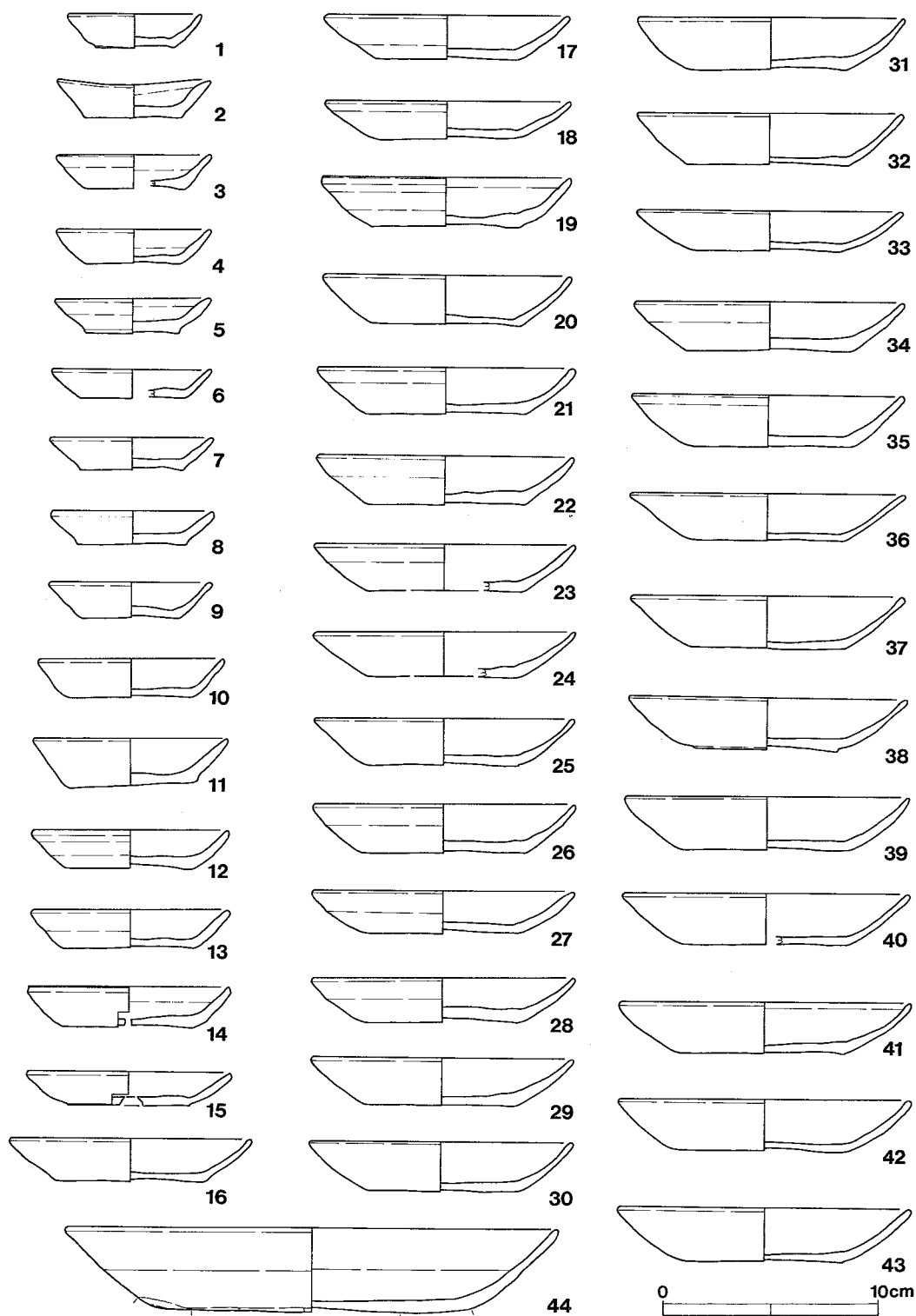


0 10cm

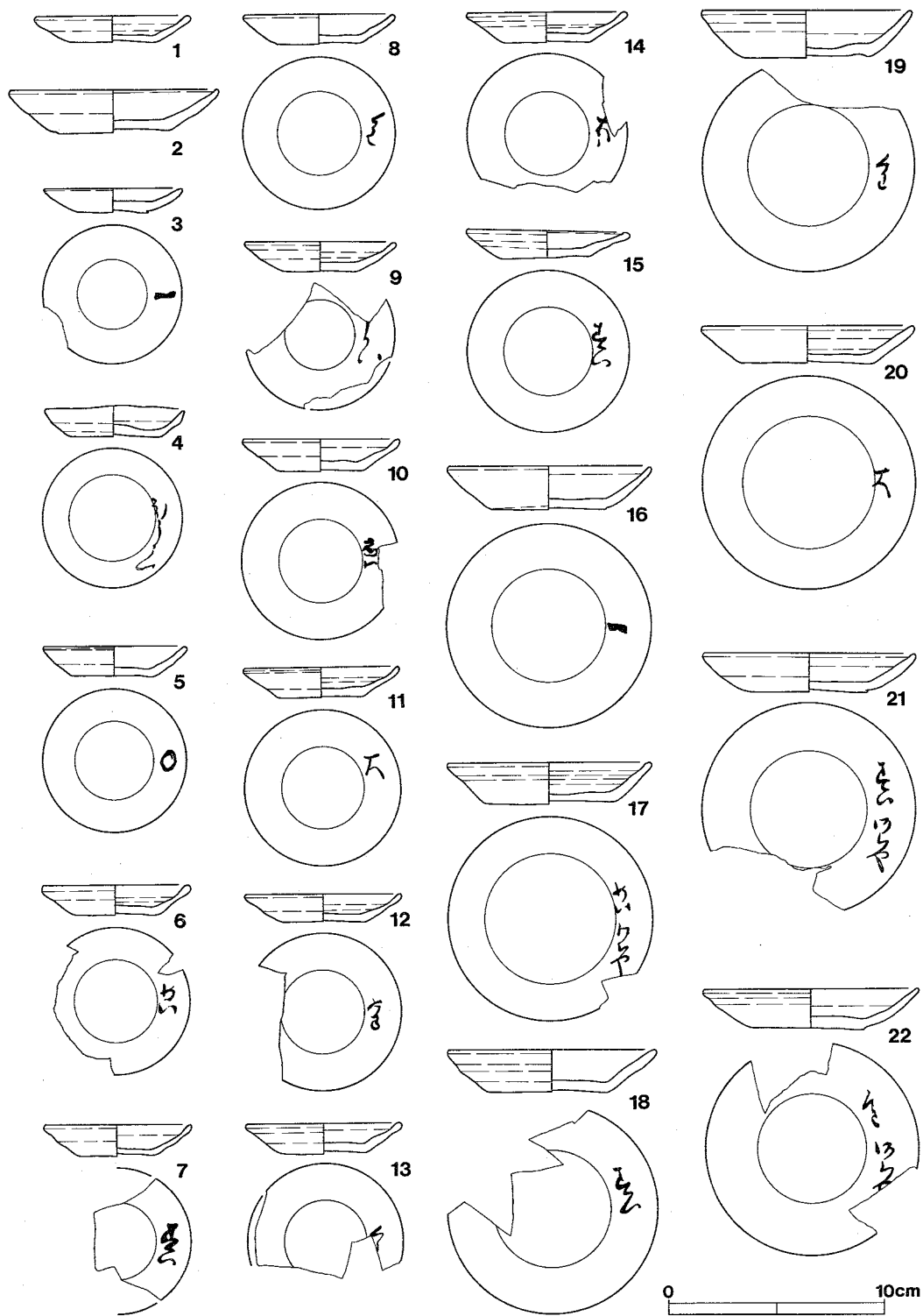
第84図 618号遺構出土陶磁器類 2



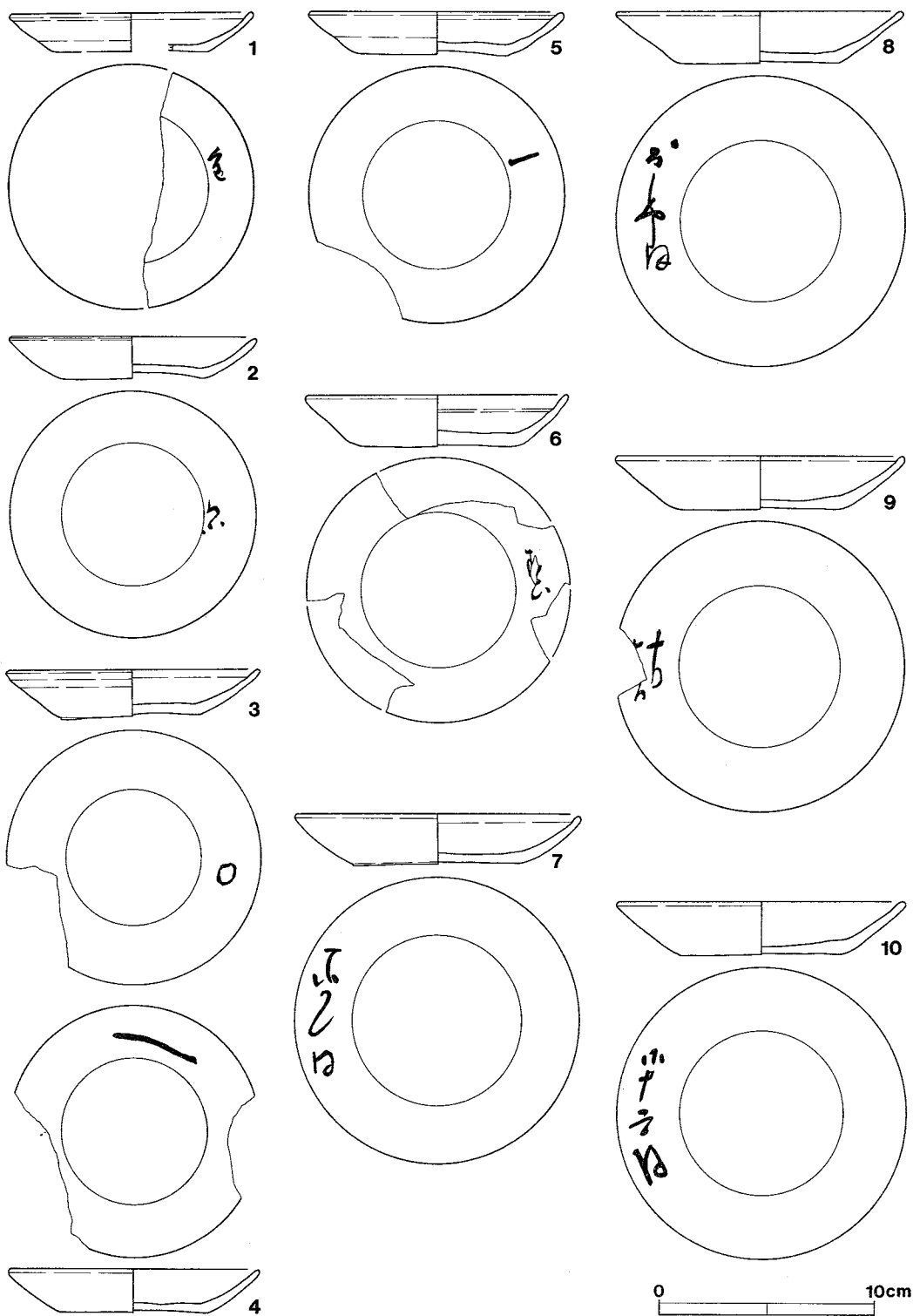
第85図 618号遺構出土陶磁器類 3



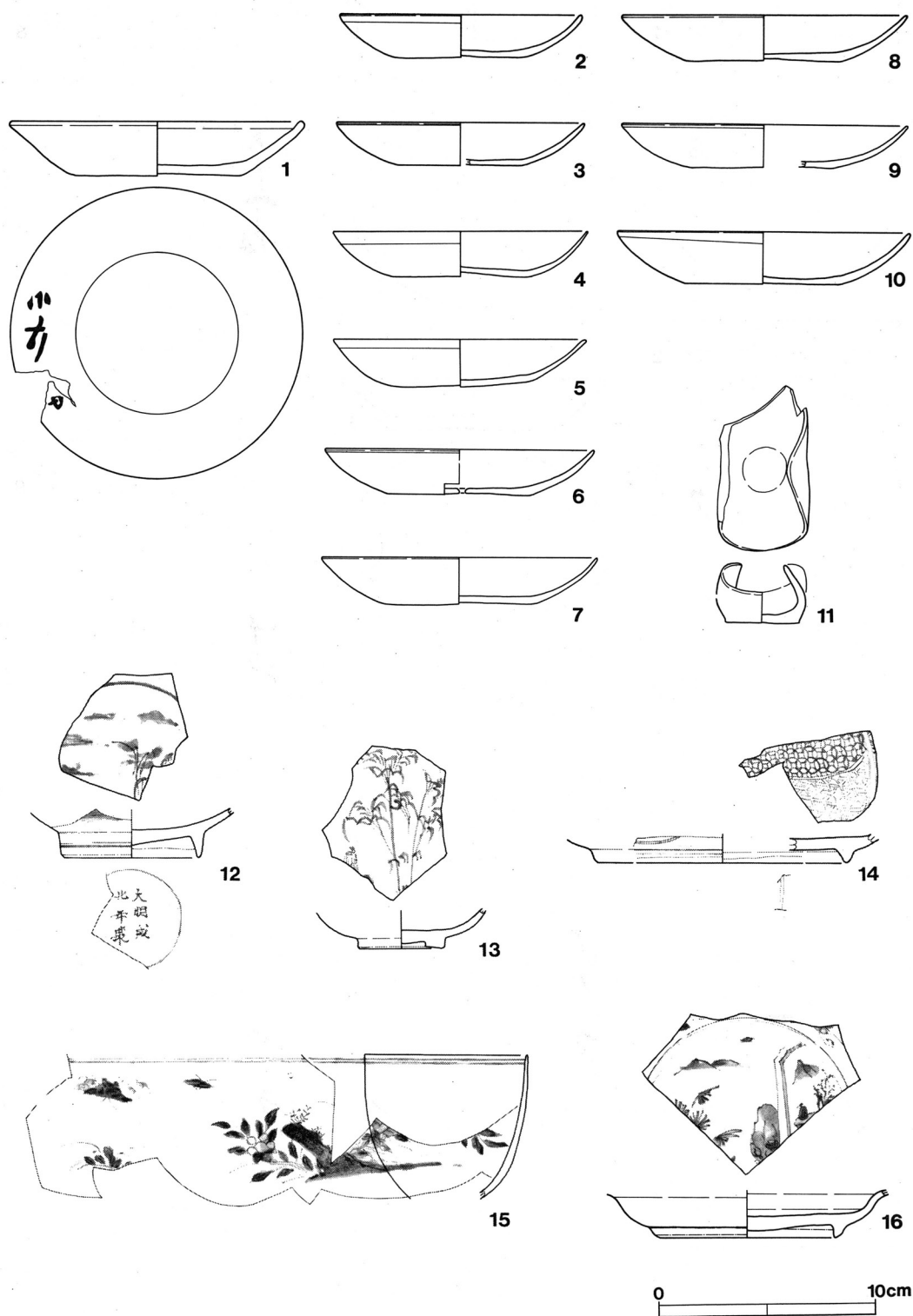
第86図 618号遺構出土陶磁器類 4



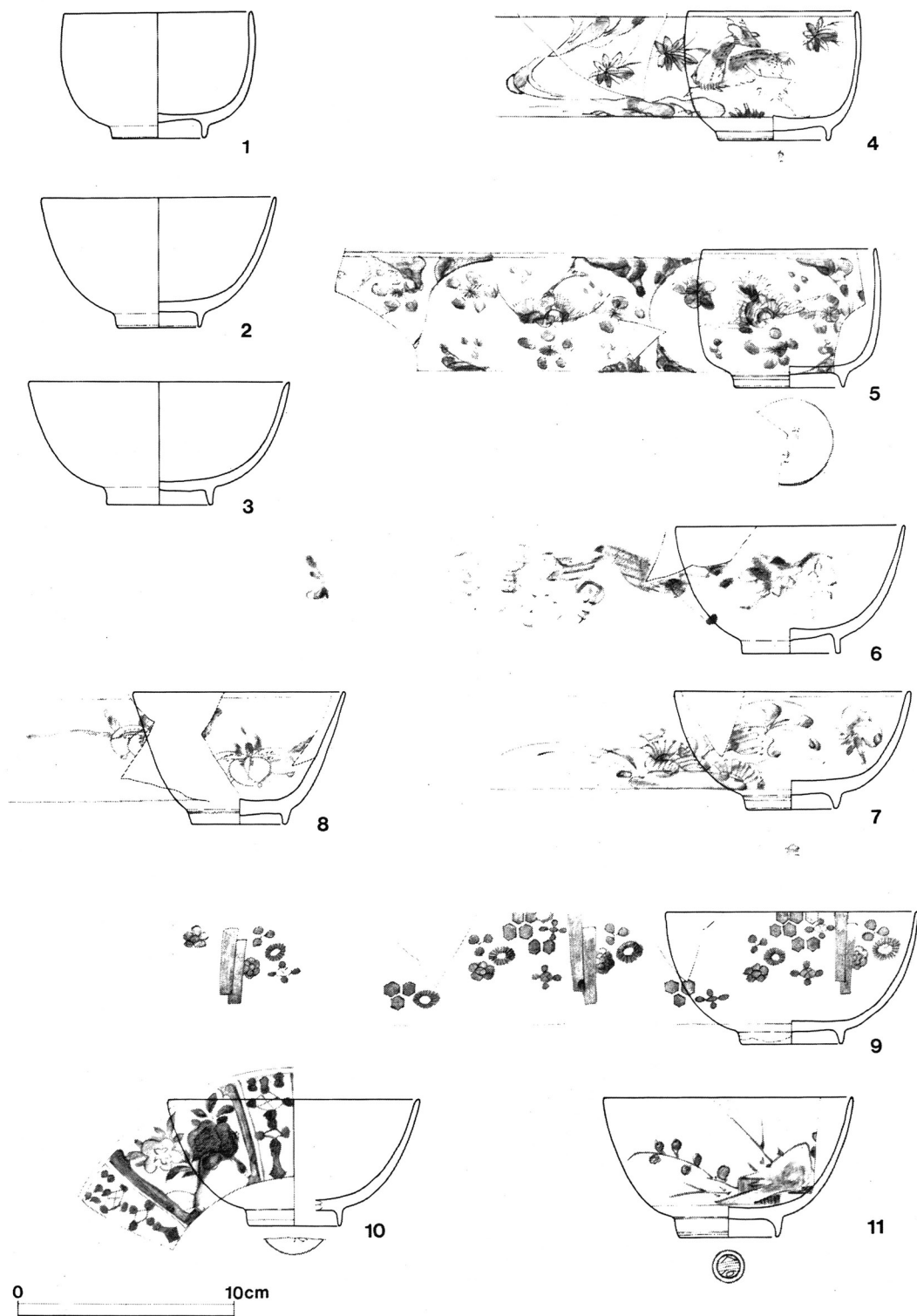
第87図 618号遺構出土陶磁器類 5



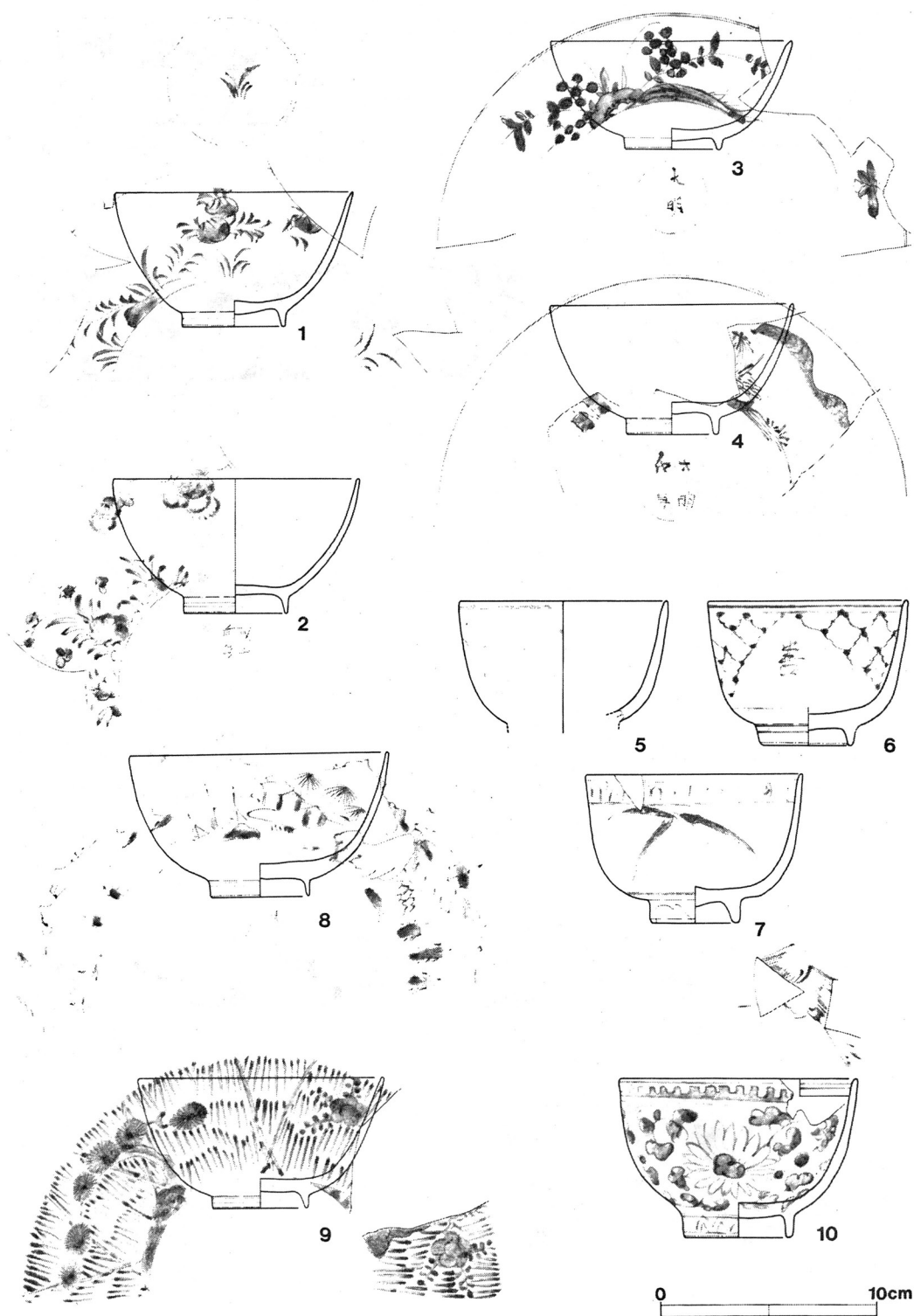
第88図 618号遺構出土陶磁器類 6



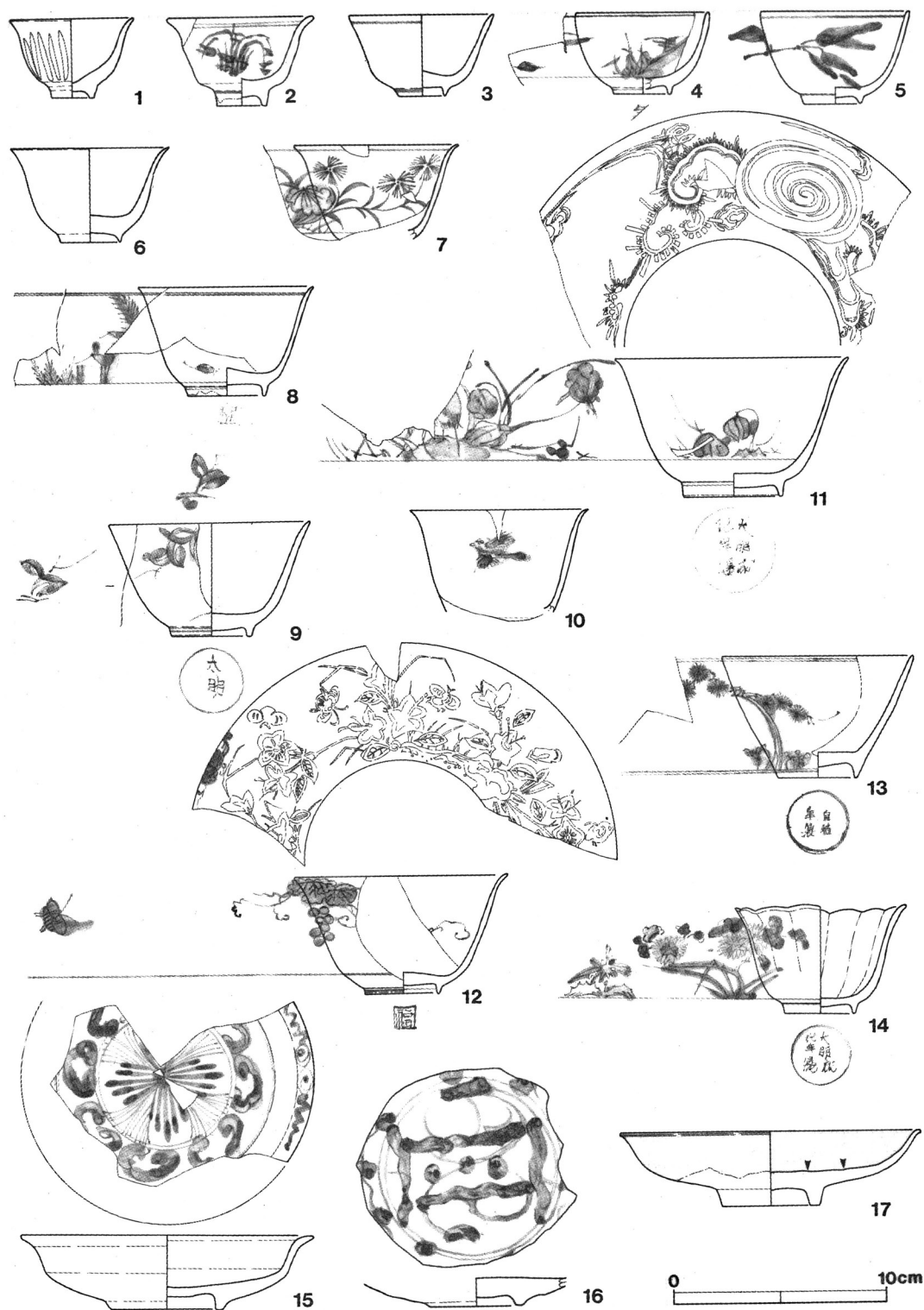
第89図 618号遺構出土陶磁器類7



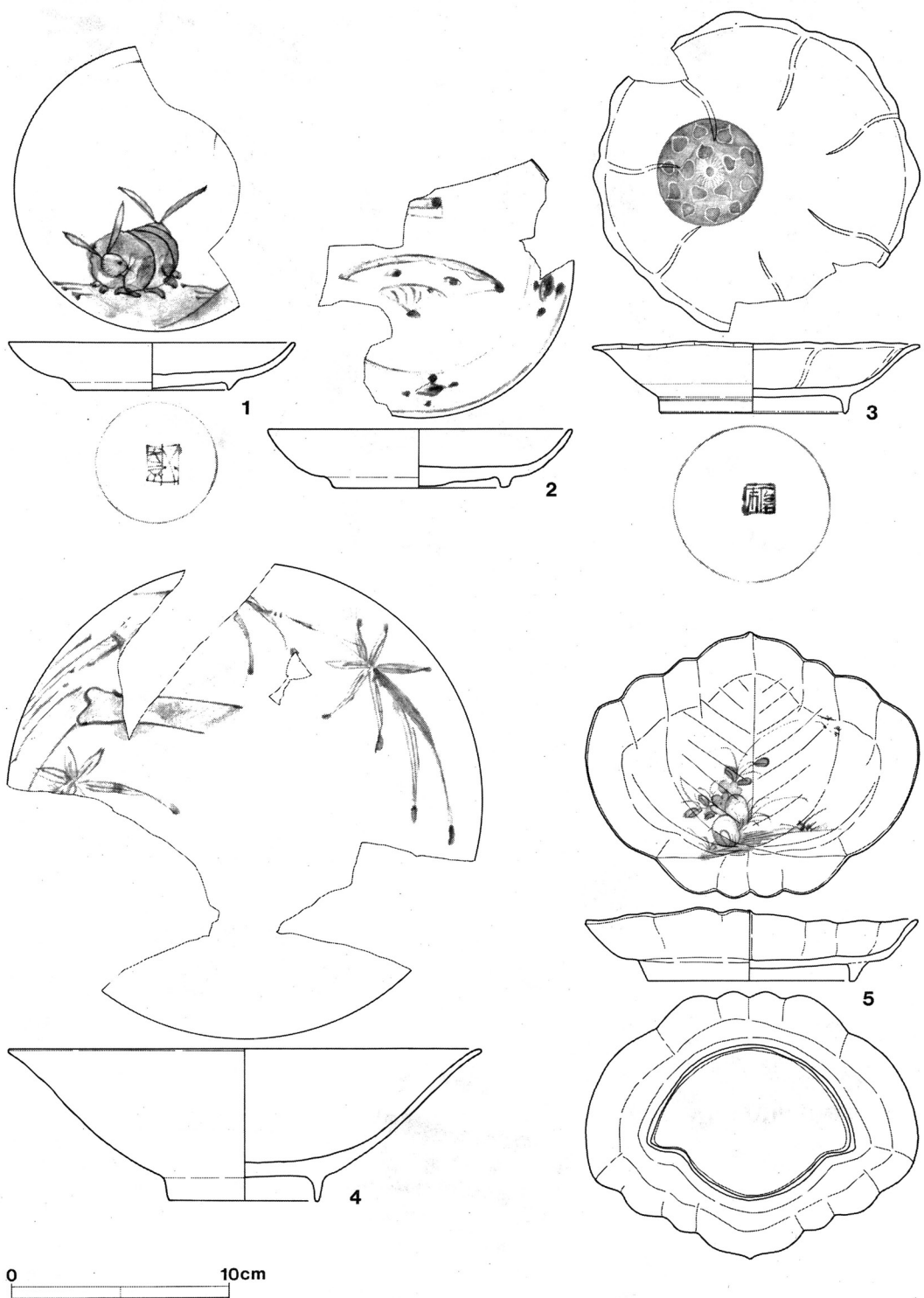
第90図 678号遺構出土陶磁器類 1



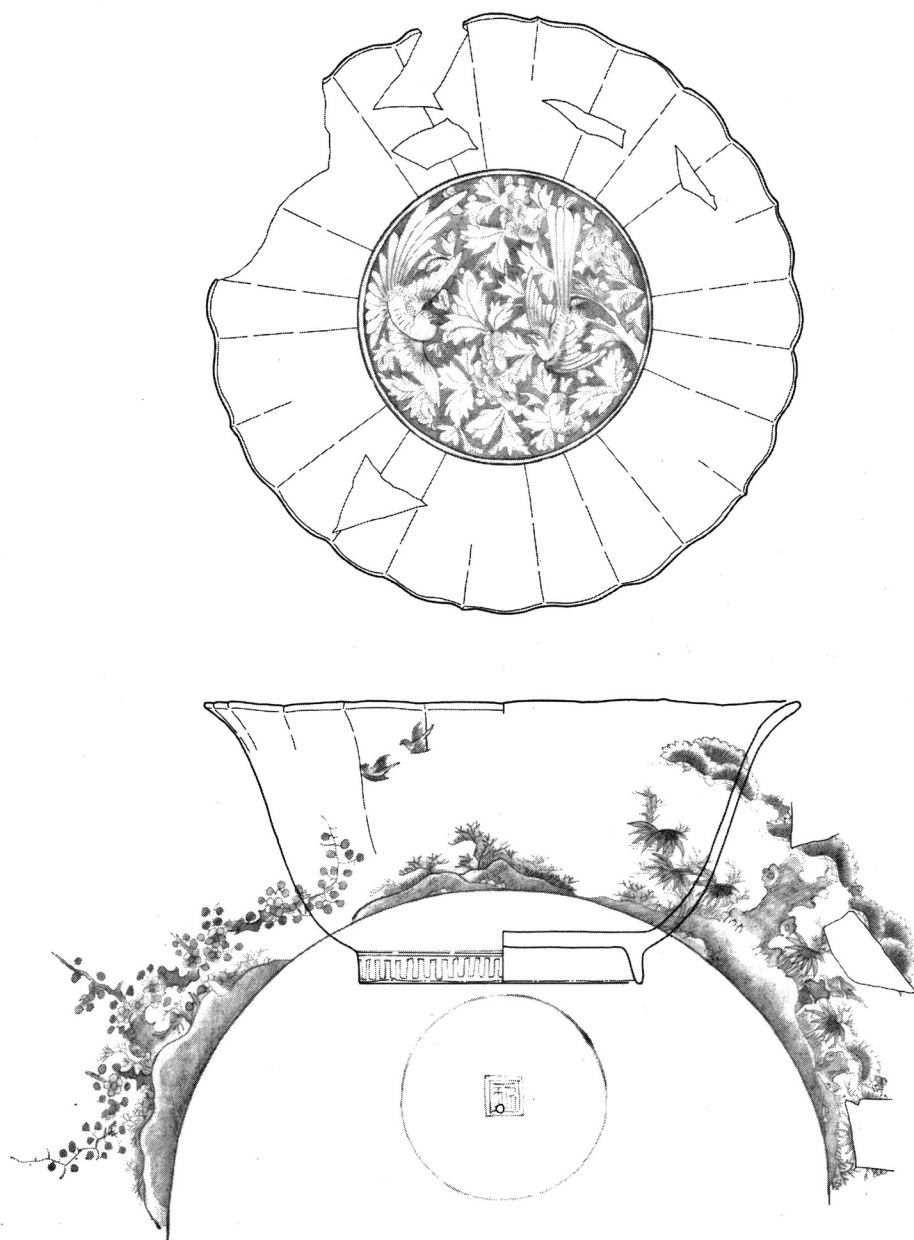
第91図 678号遺構出土陶磁器類 2



第92図 678号遺構出土陶磁器類 3

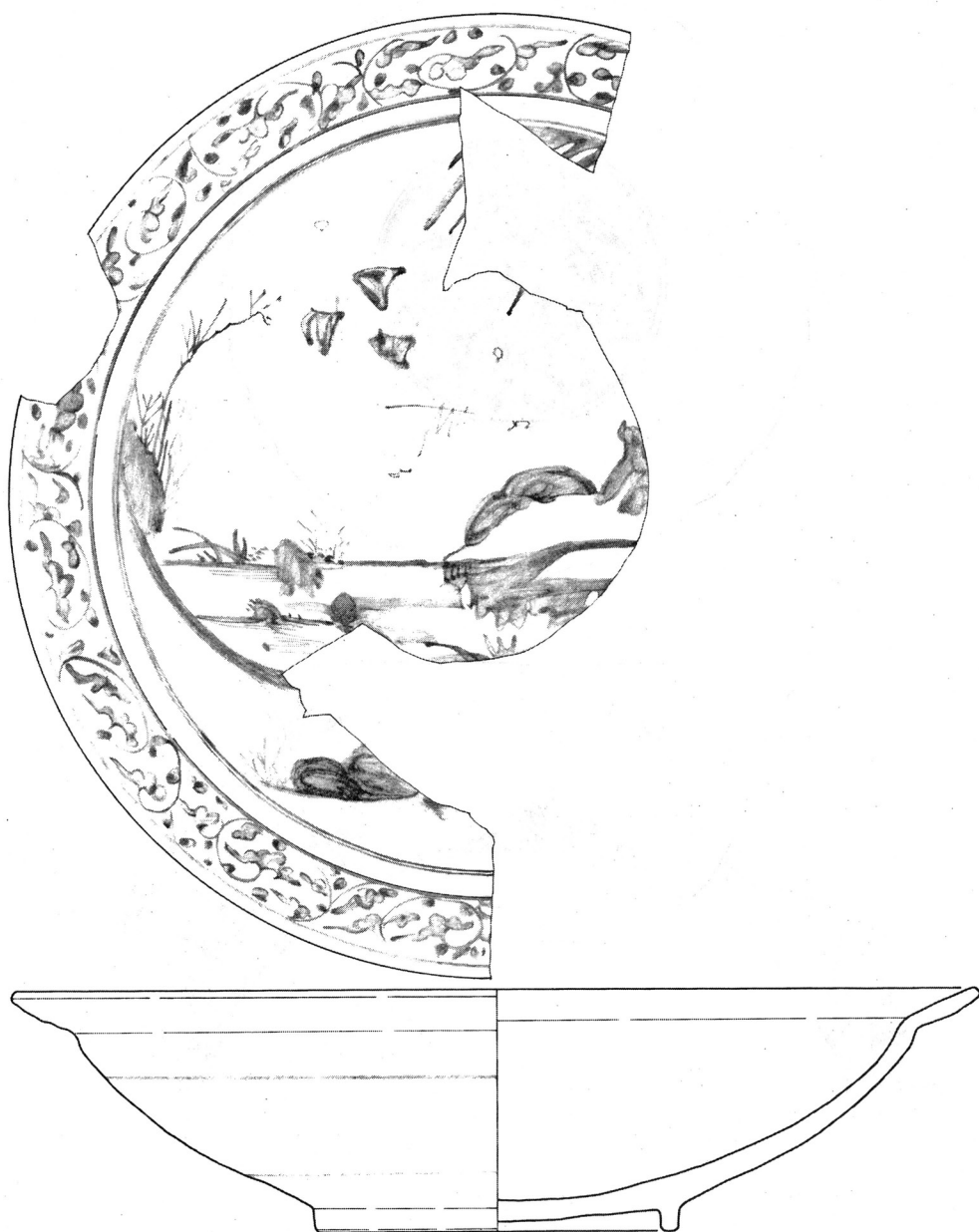


第93図 678号遺構出土陶磁器類 4



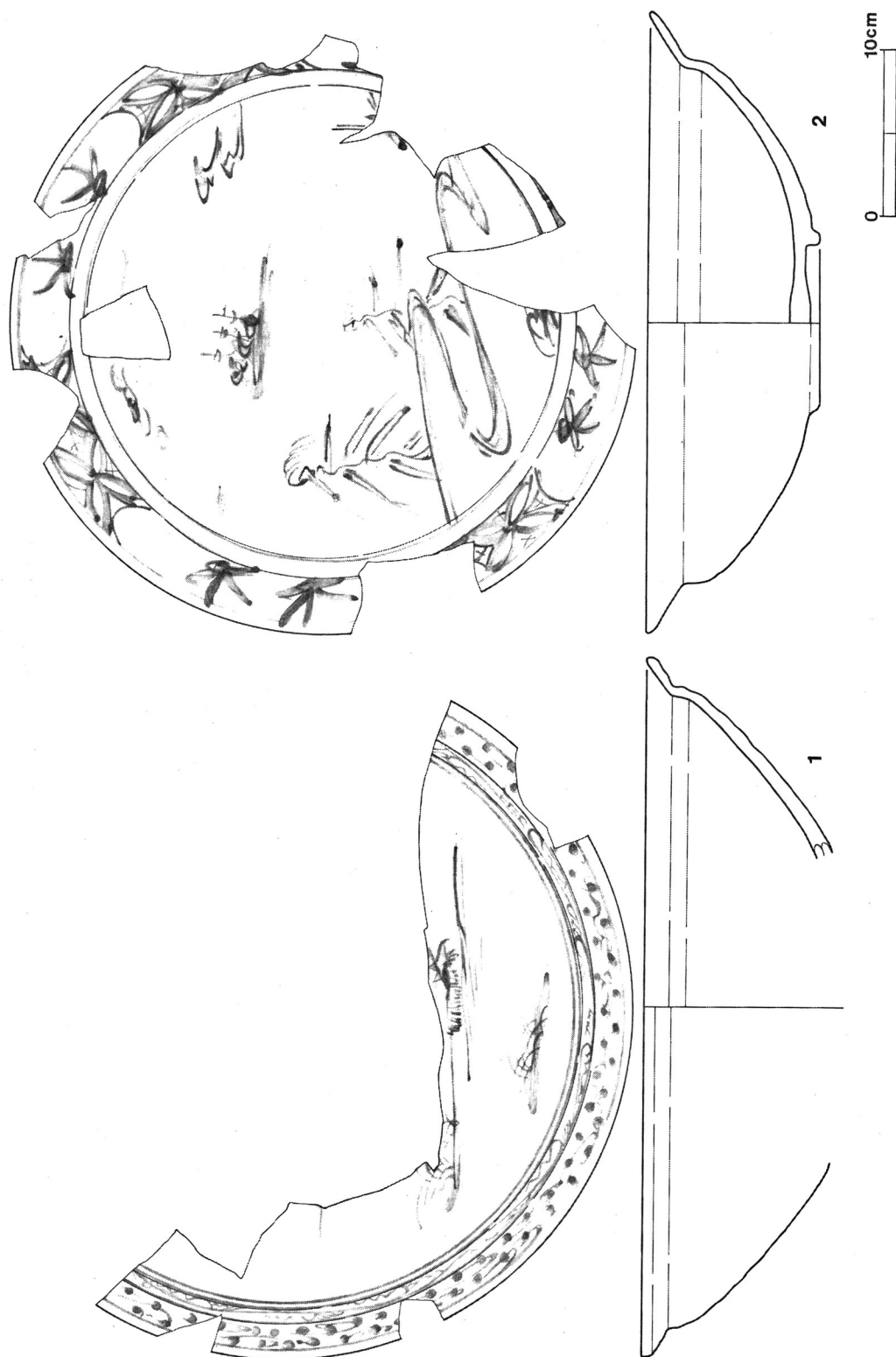
0 10cm

第94図 678号遺構出土陶磁器類 5

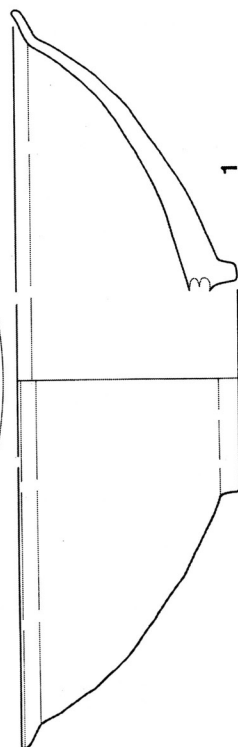


0 10cm

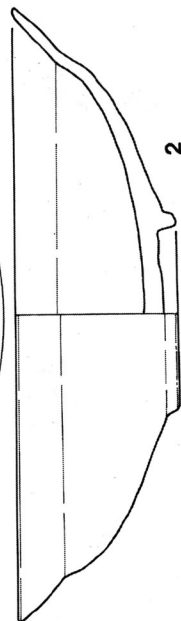
第95図 678号遺構出土陶磁器類 6



第96图 672号遺構出土陶磁器類 7



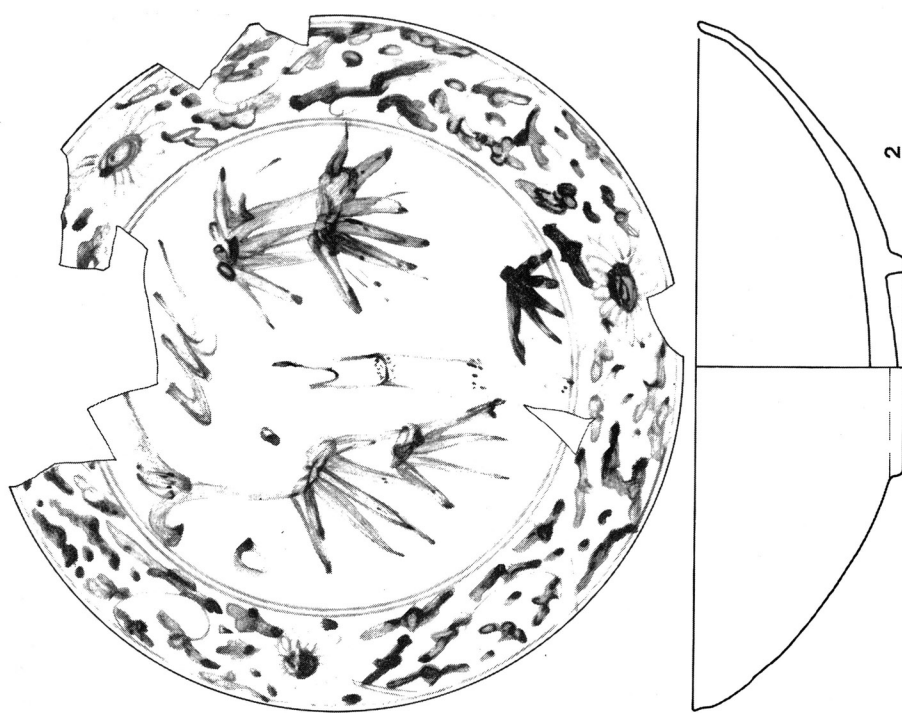
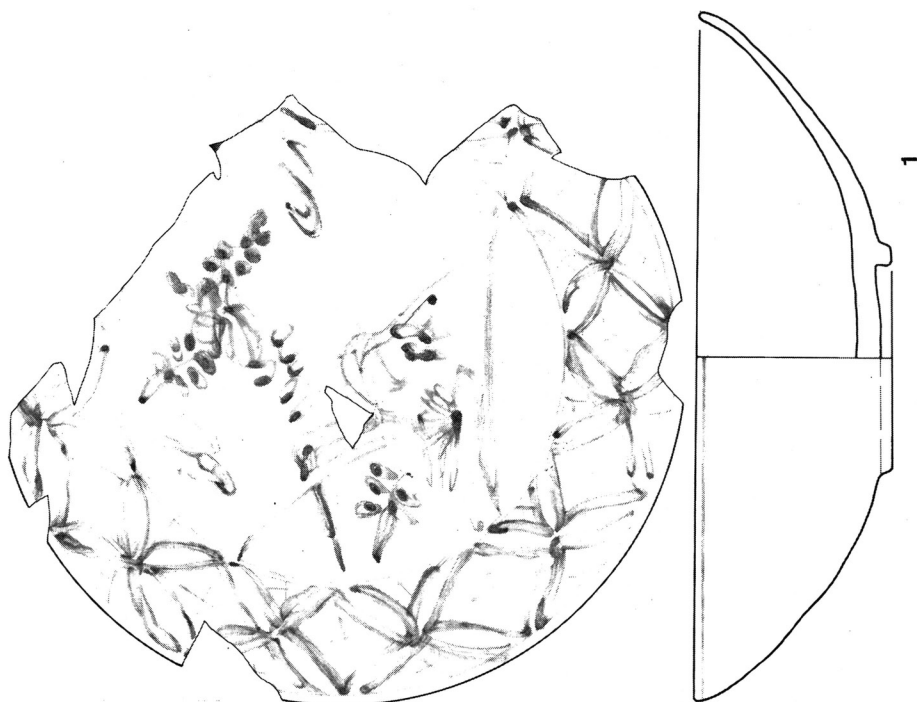
1



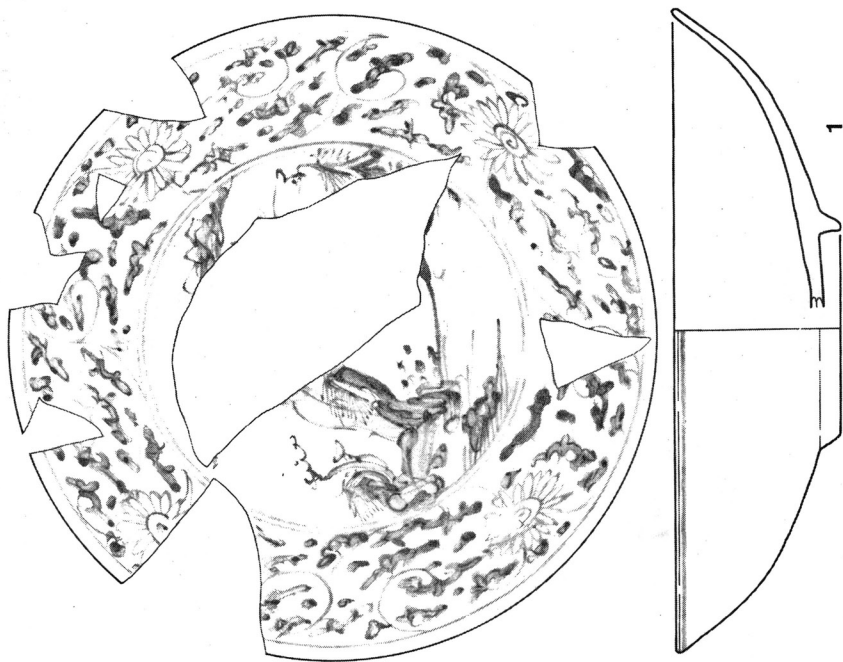
2

0 10cm

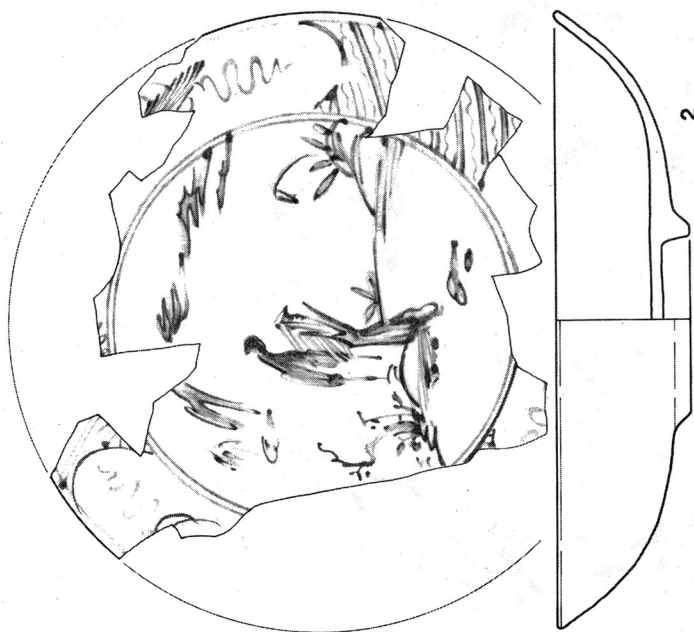
第97図 678号遺構出土陶磁器類 8



第98图 678号遺構出土陶磁器類 9



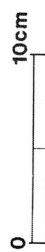
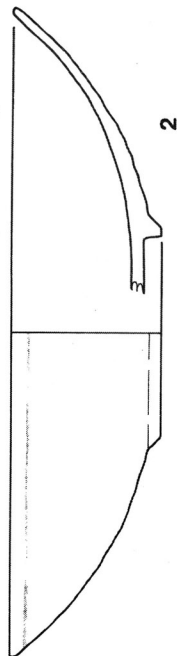
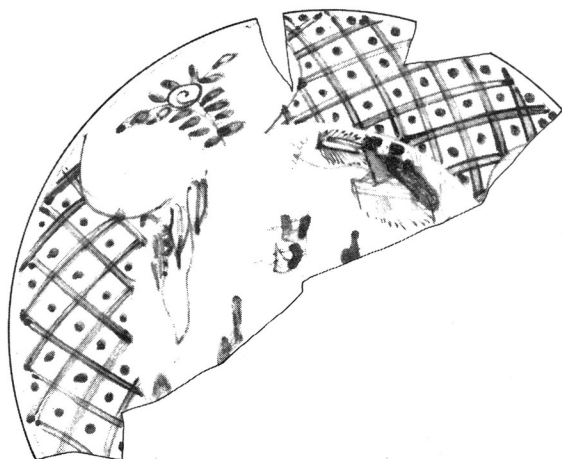
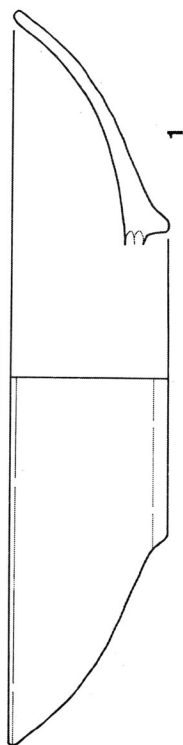
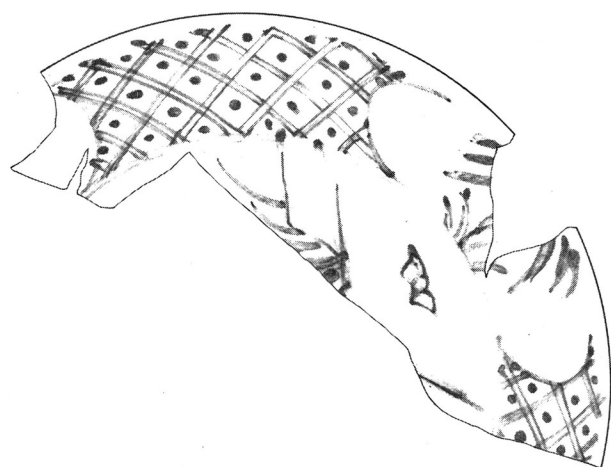
1



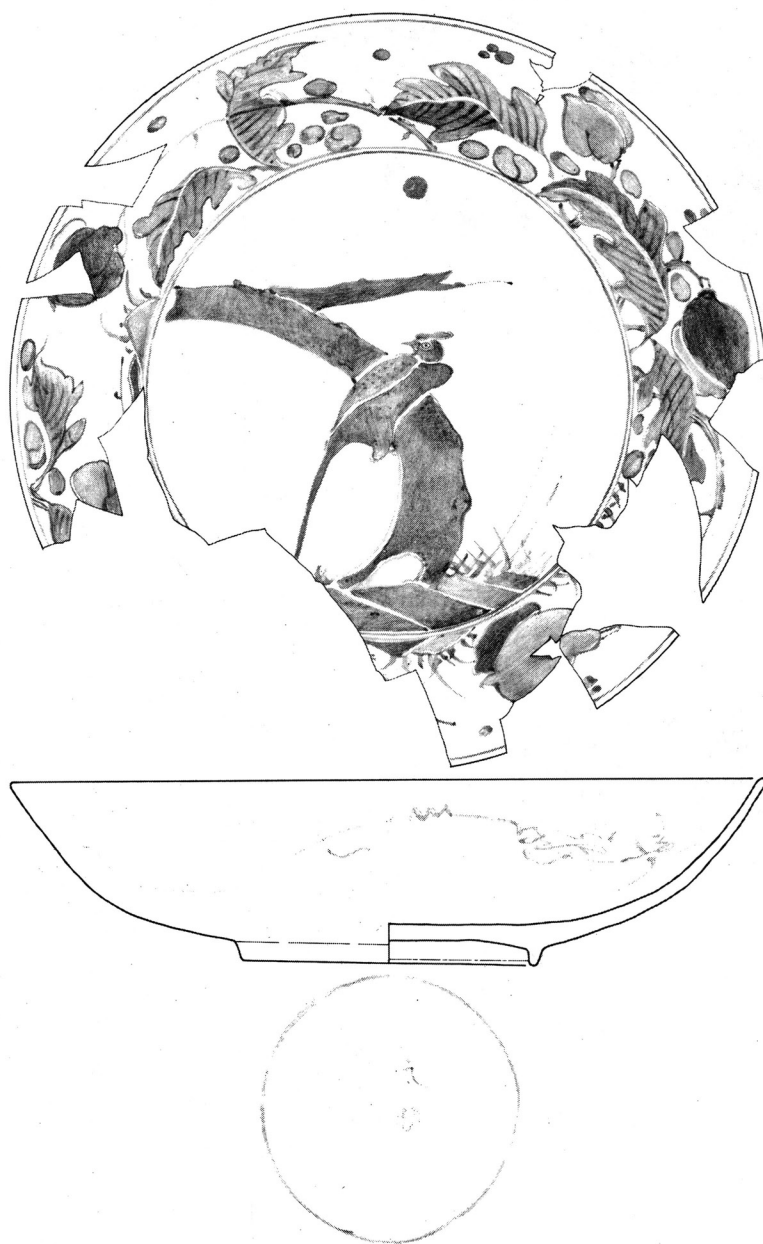
2



第99图 678号遺構出土陶磁器類10

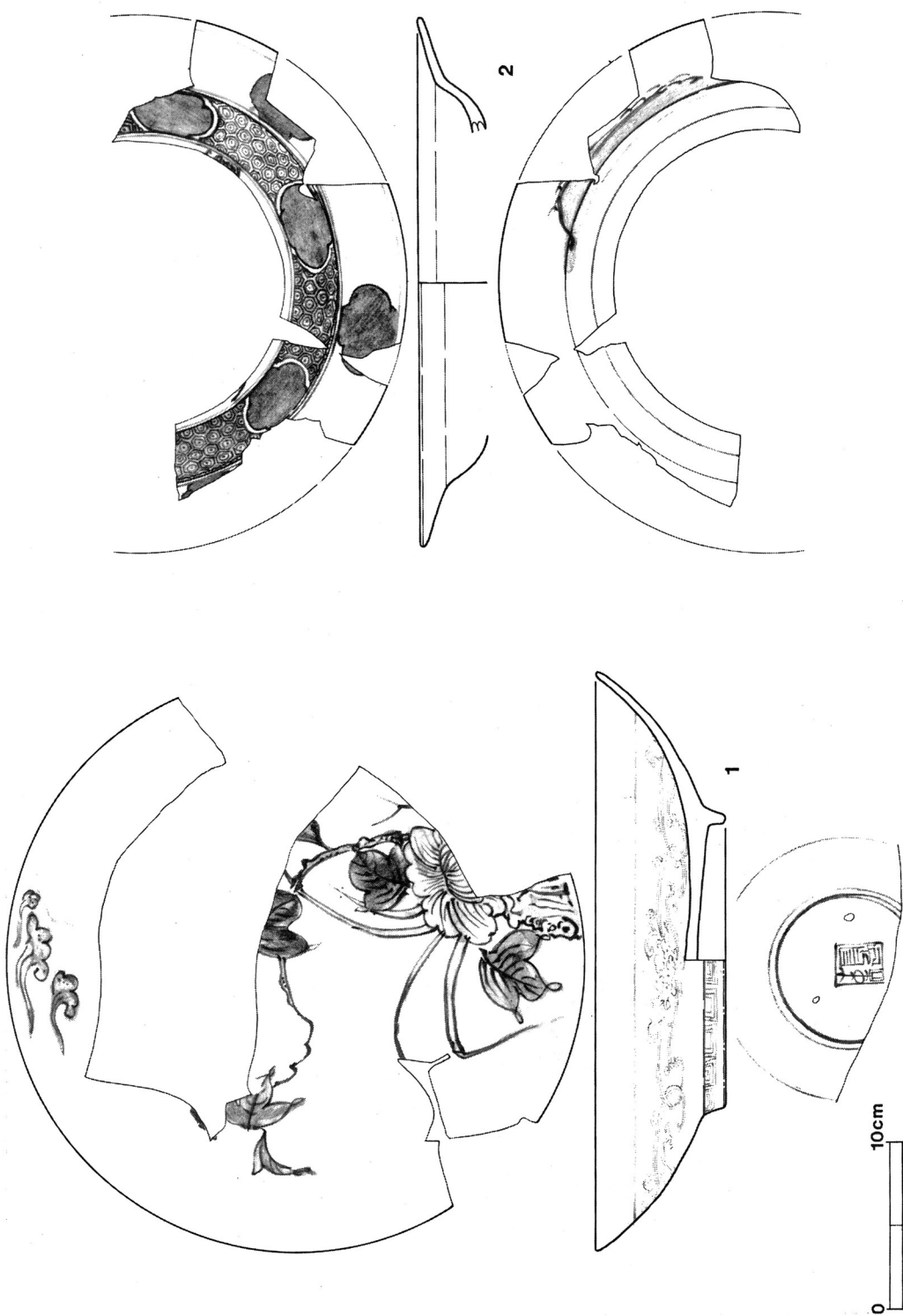


第100図 678号遺構出土陶磁器類11

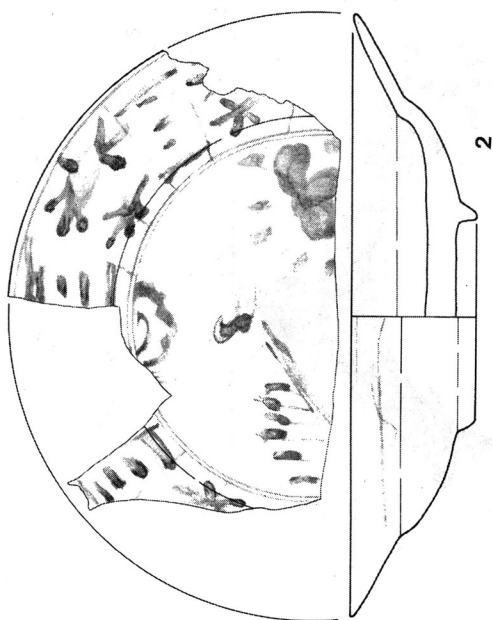
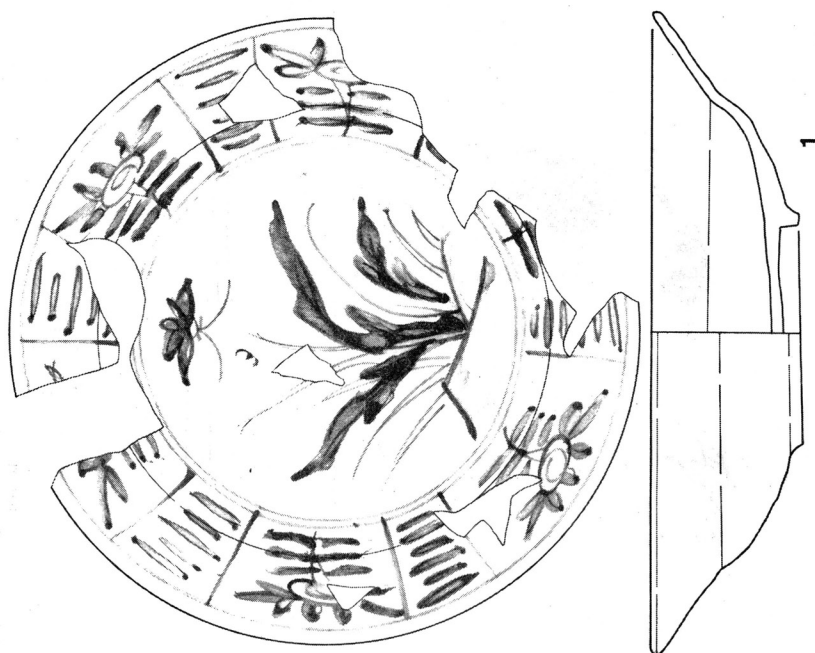


0 20cm

第101図 678号遺構出土陶磁器類12

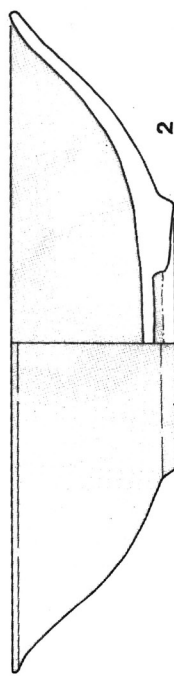
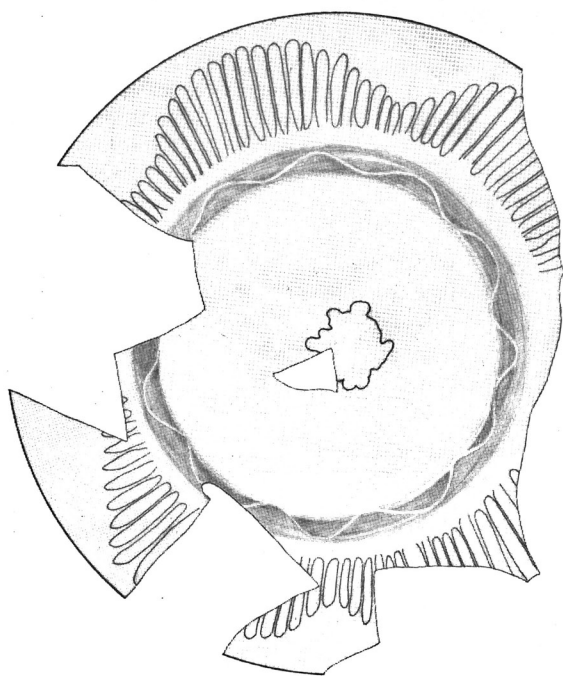
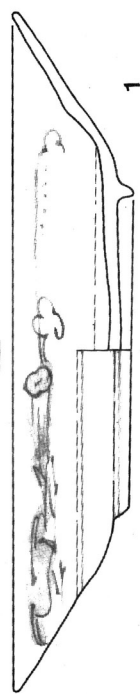
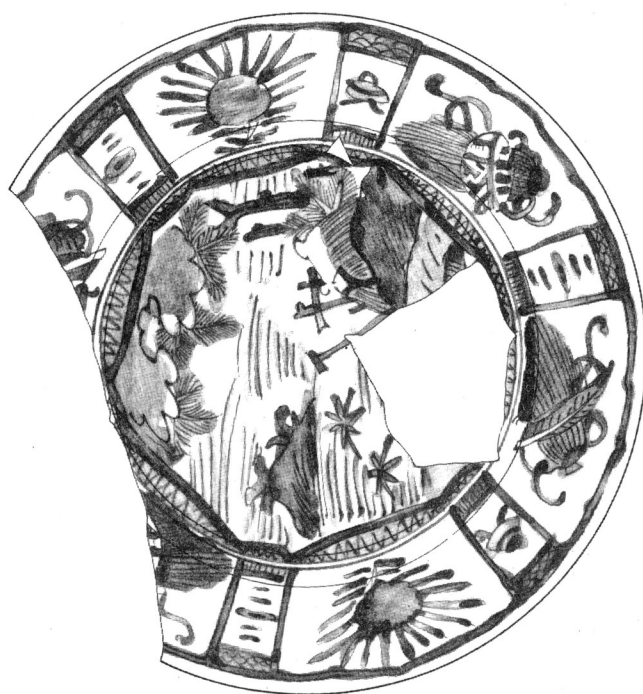


第102図 678遺構出土陶磁器類13

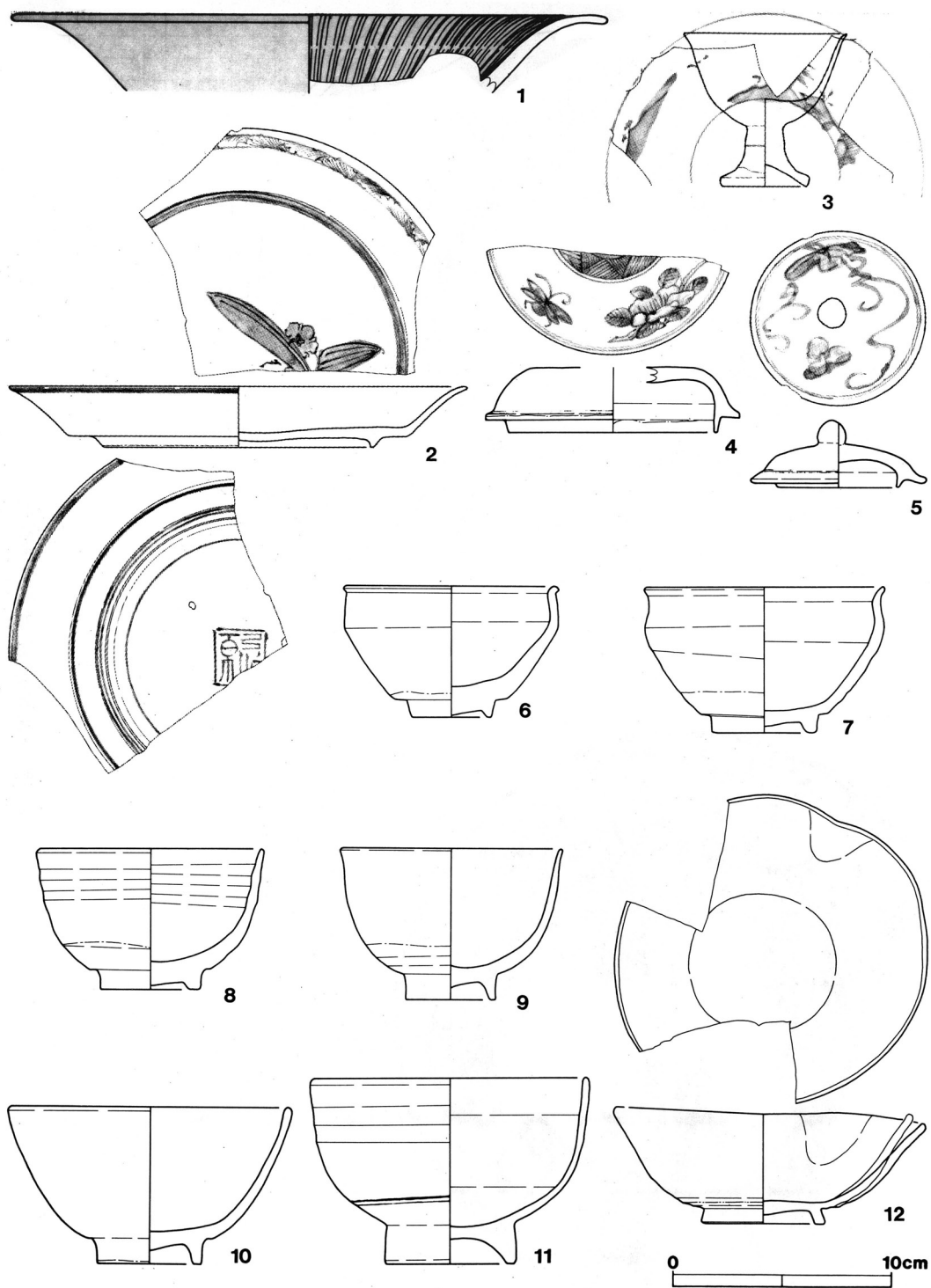


0 10cm

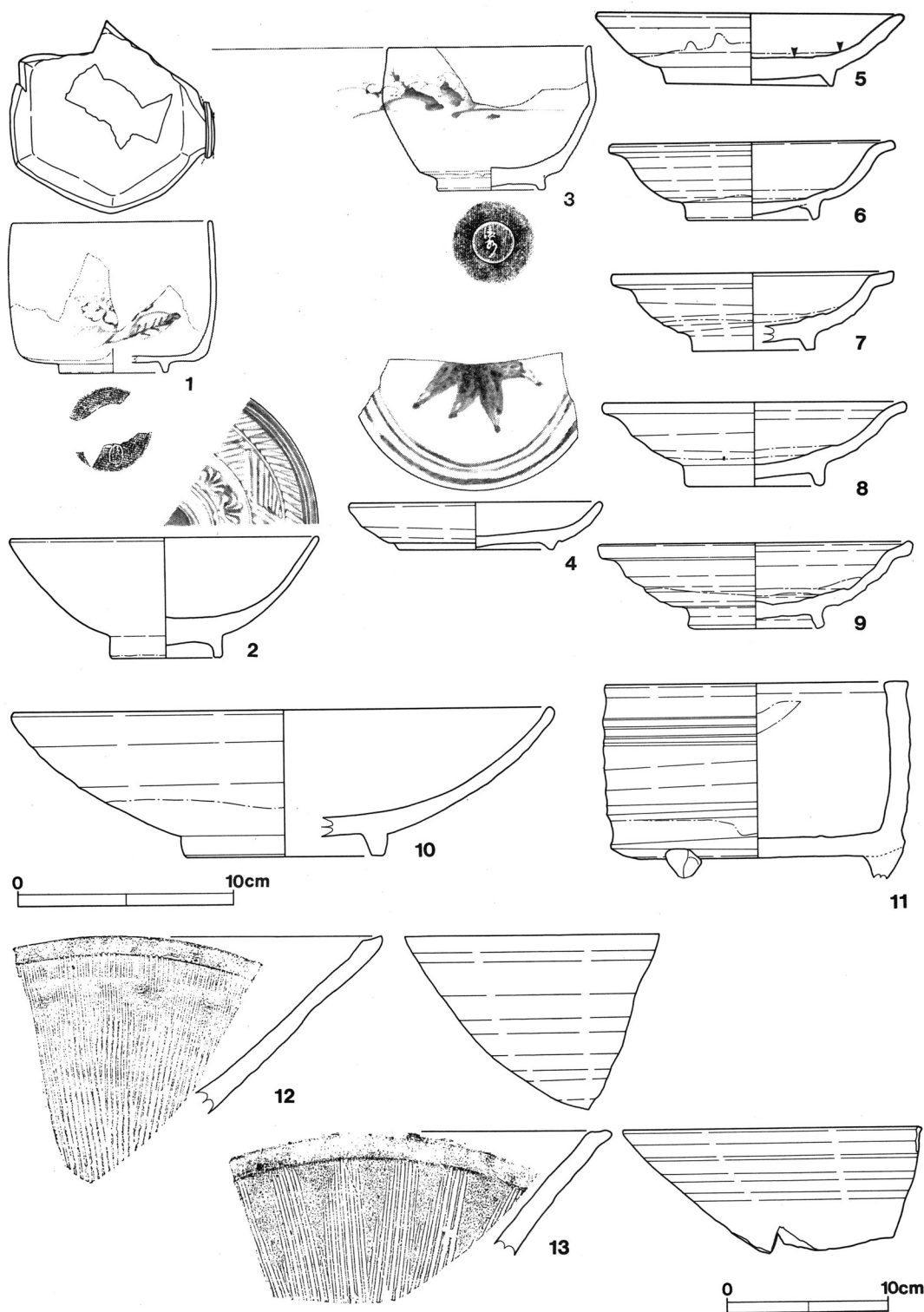
第103图 678号遺構出土陶磁器類14



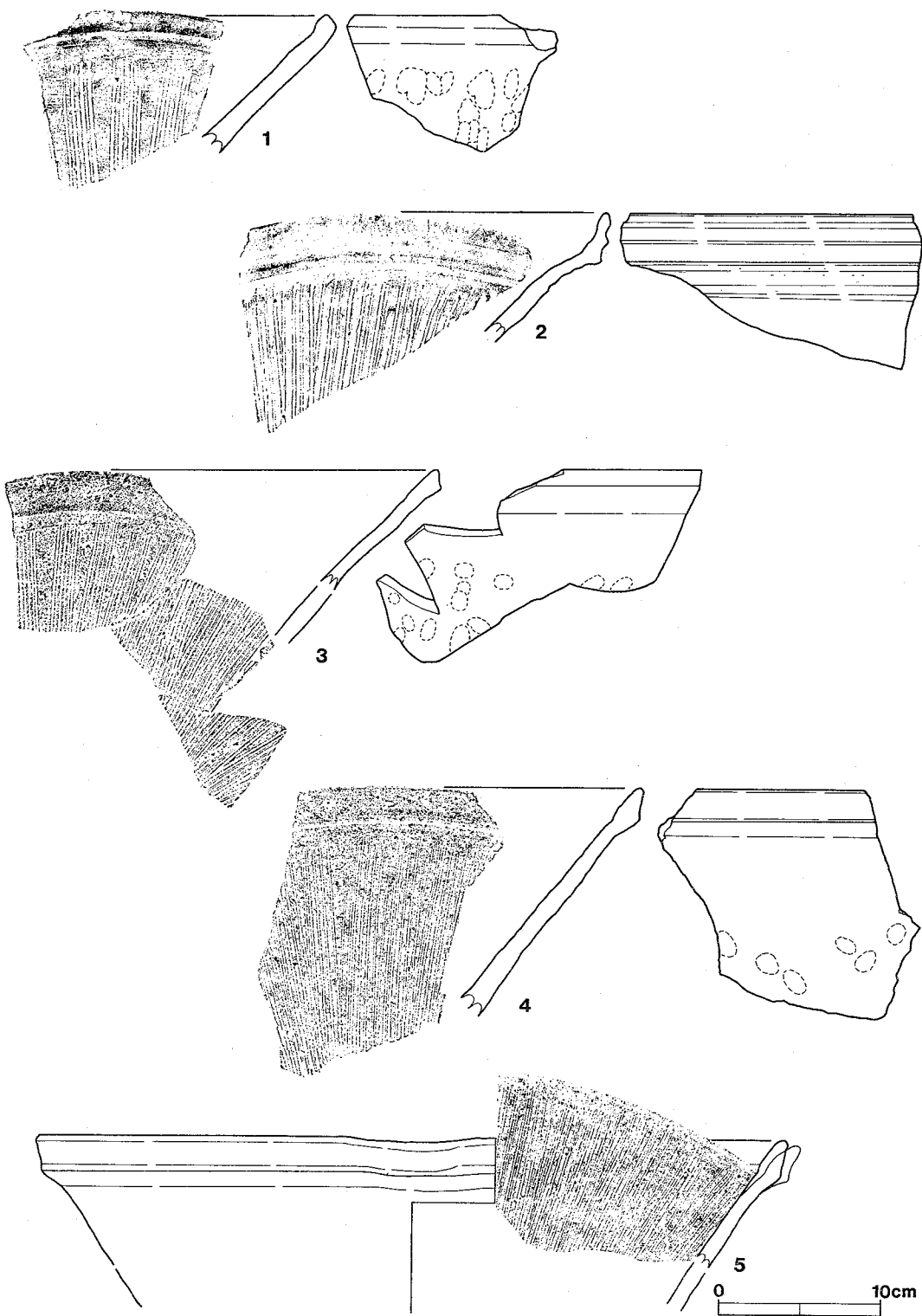
第104图 678号遺構出土陶磁器類15



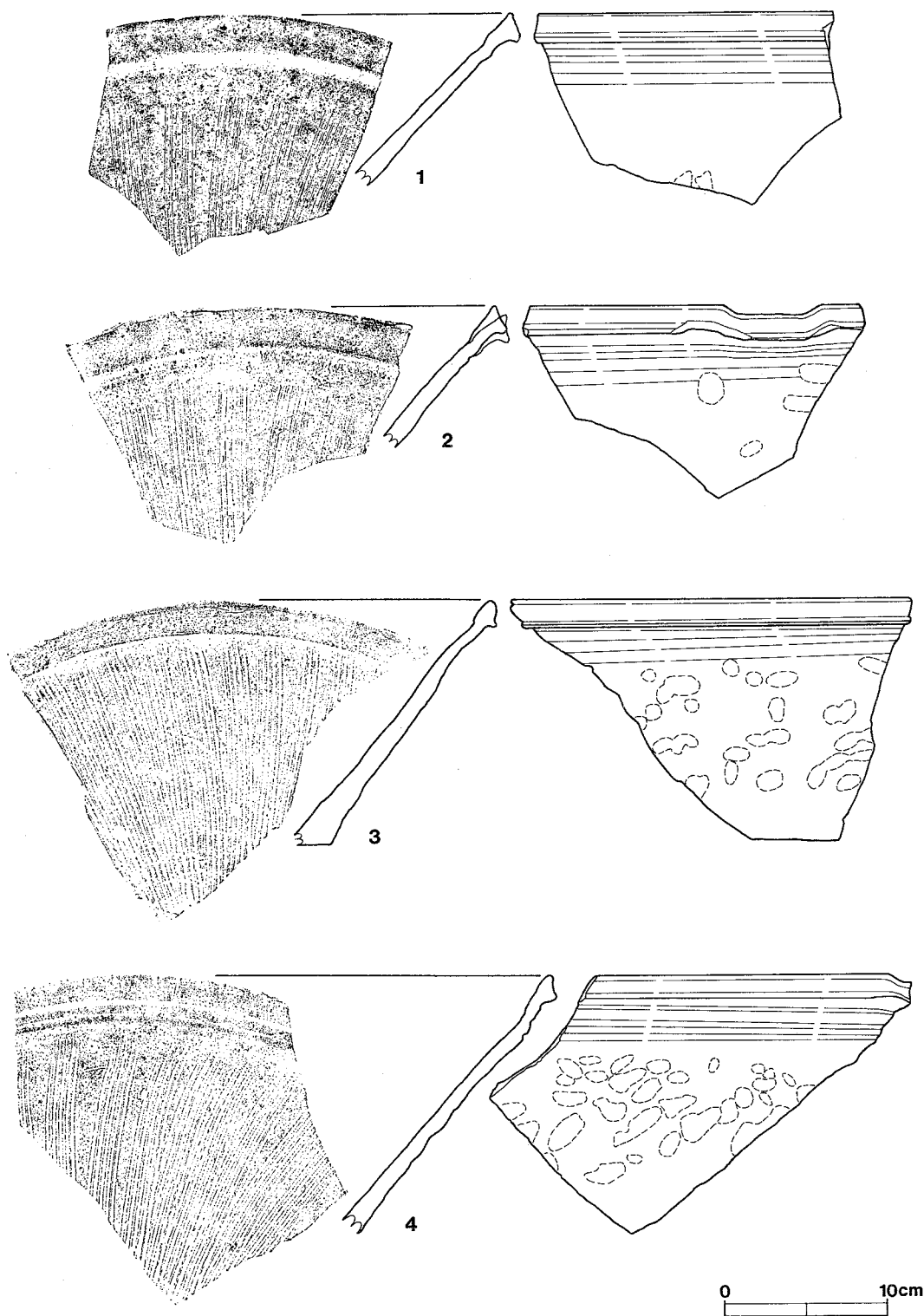
第105図 678号遺構出土陶磁器類16



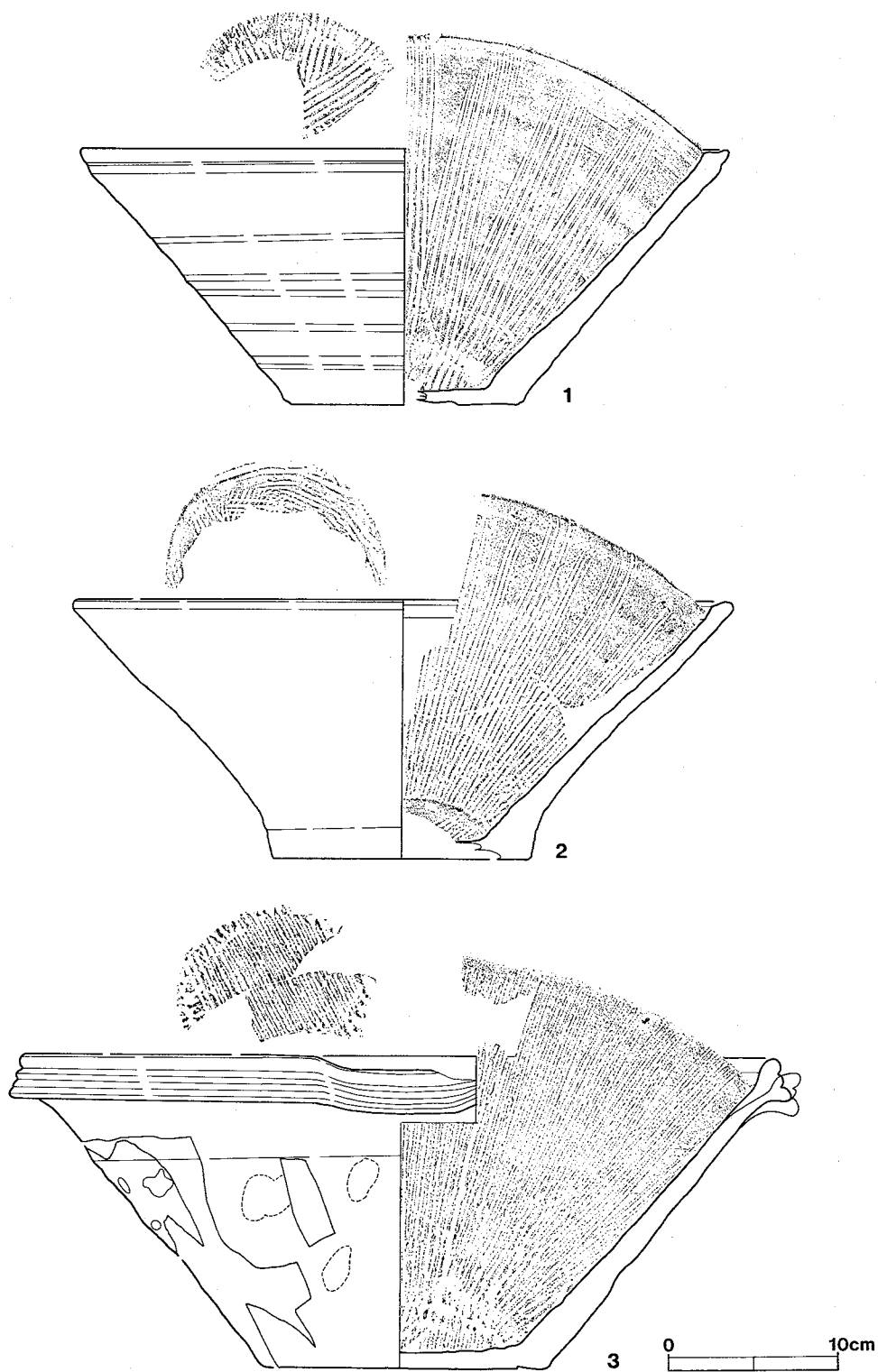
第106図 678号遺構出土陶磁器類17



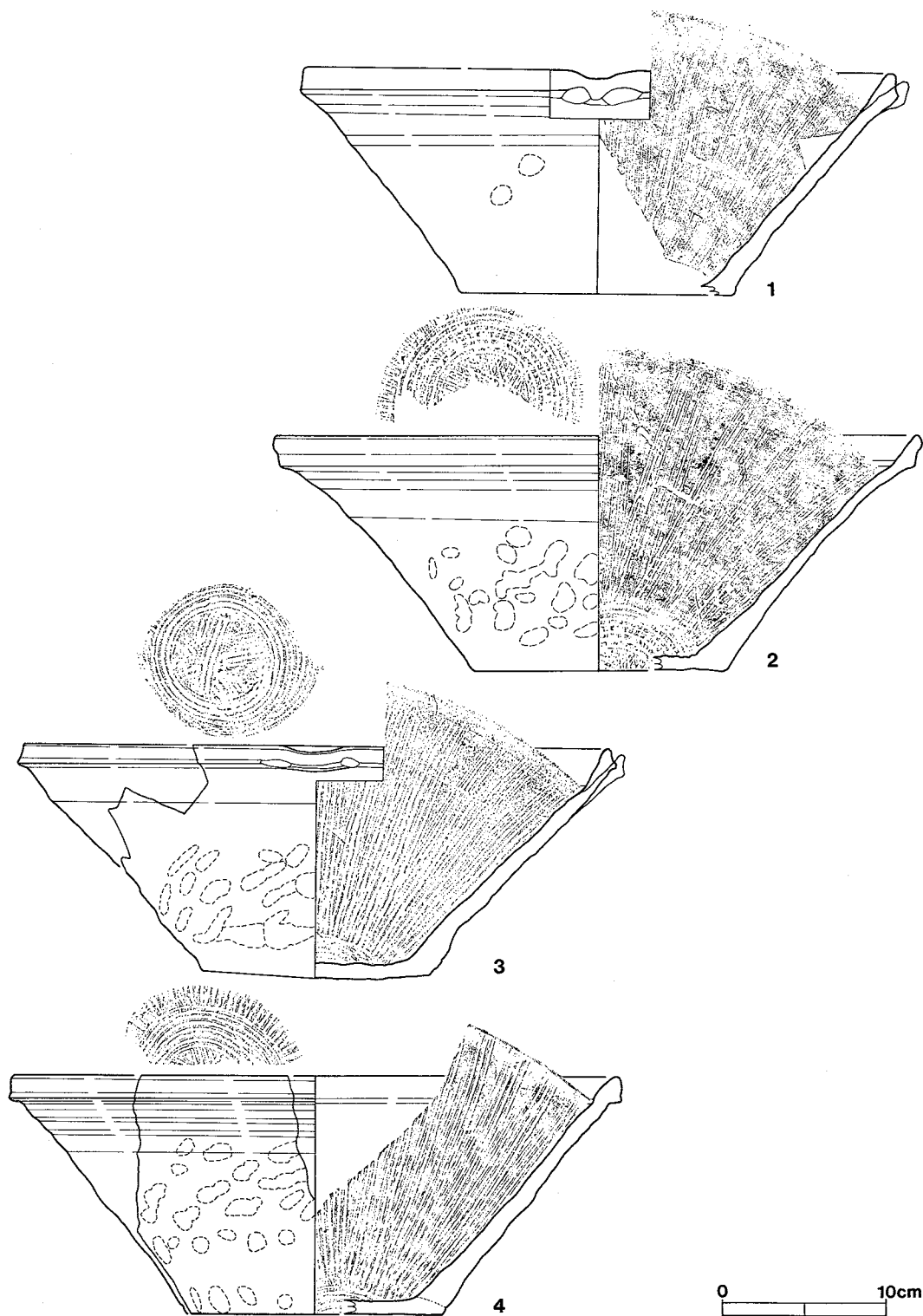
第107図 678号遺構出土陶磁器類18



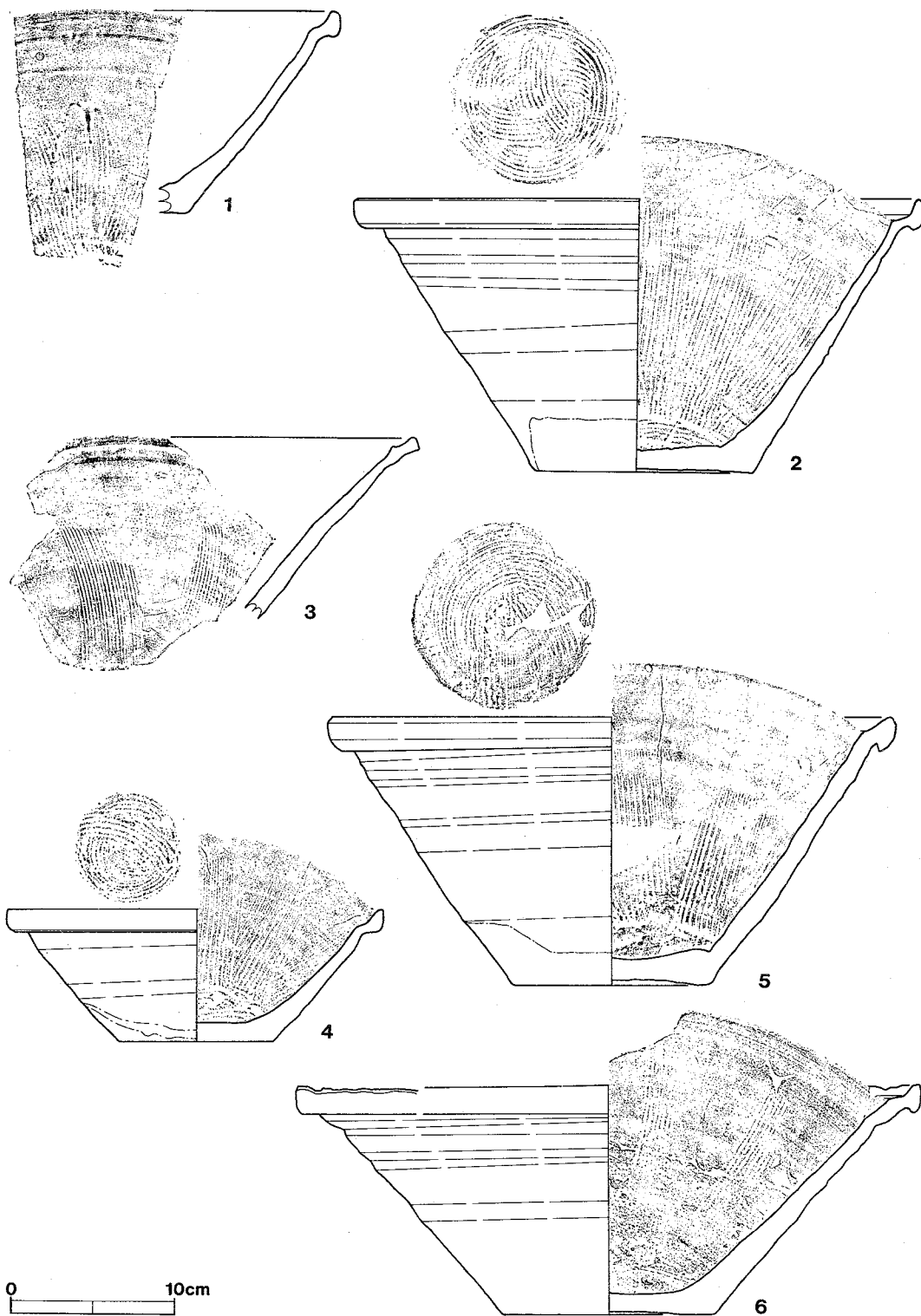
第108図 678号遺構出土陶磁器類19



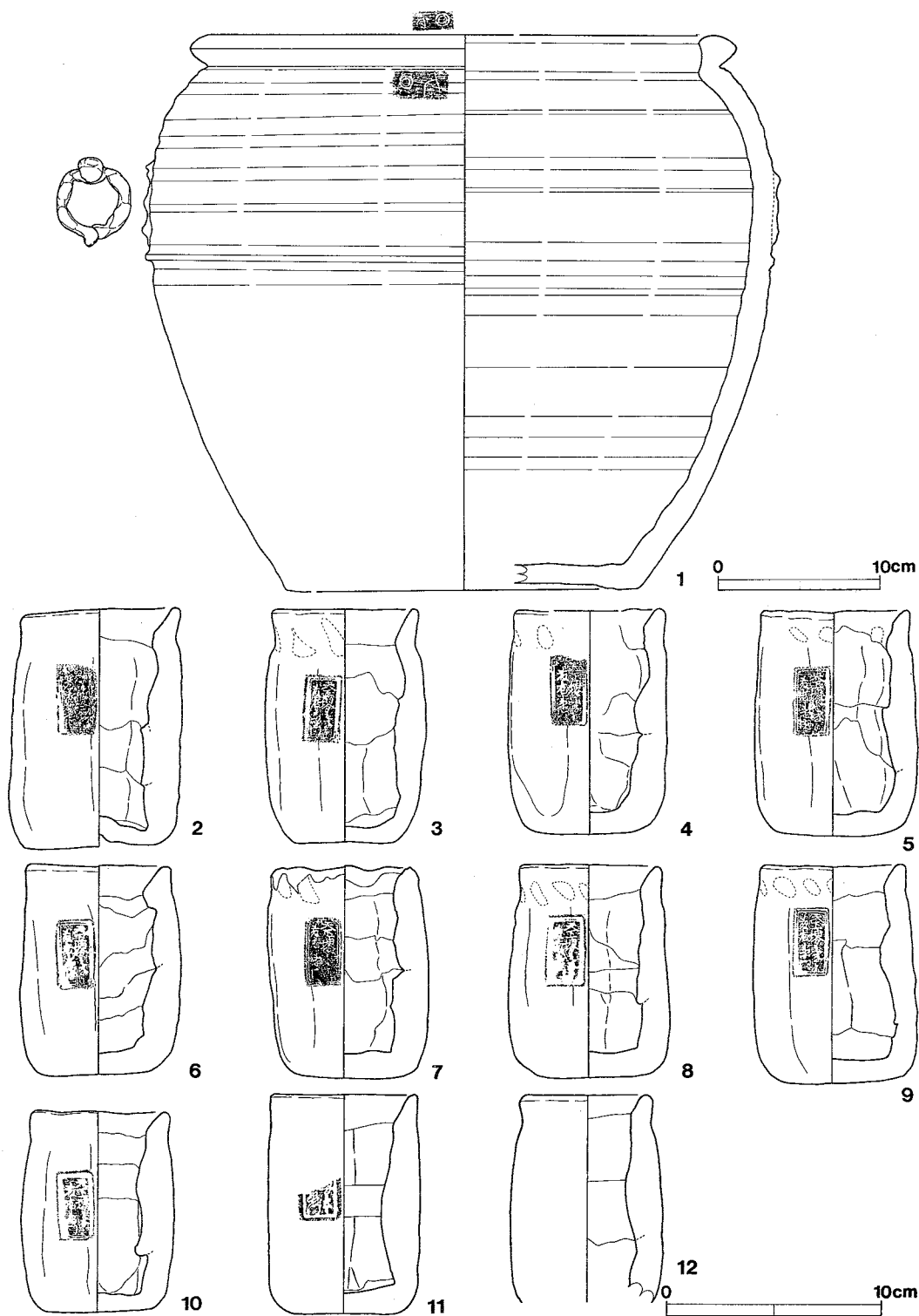
第109図 678号遺構出土陶磁器類20



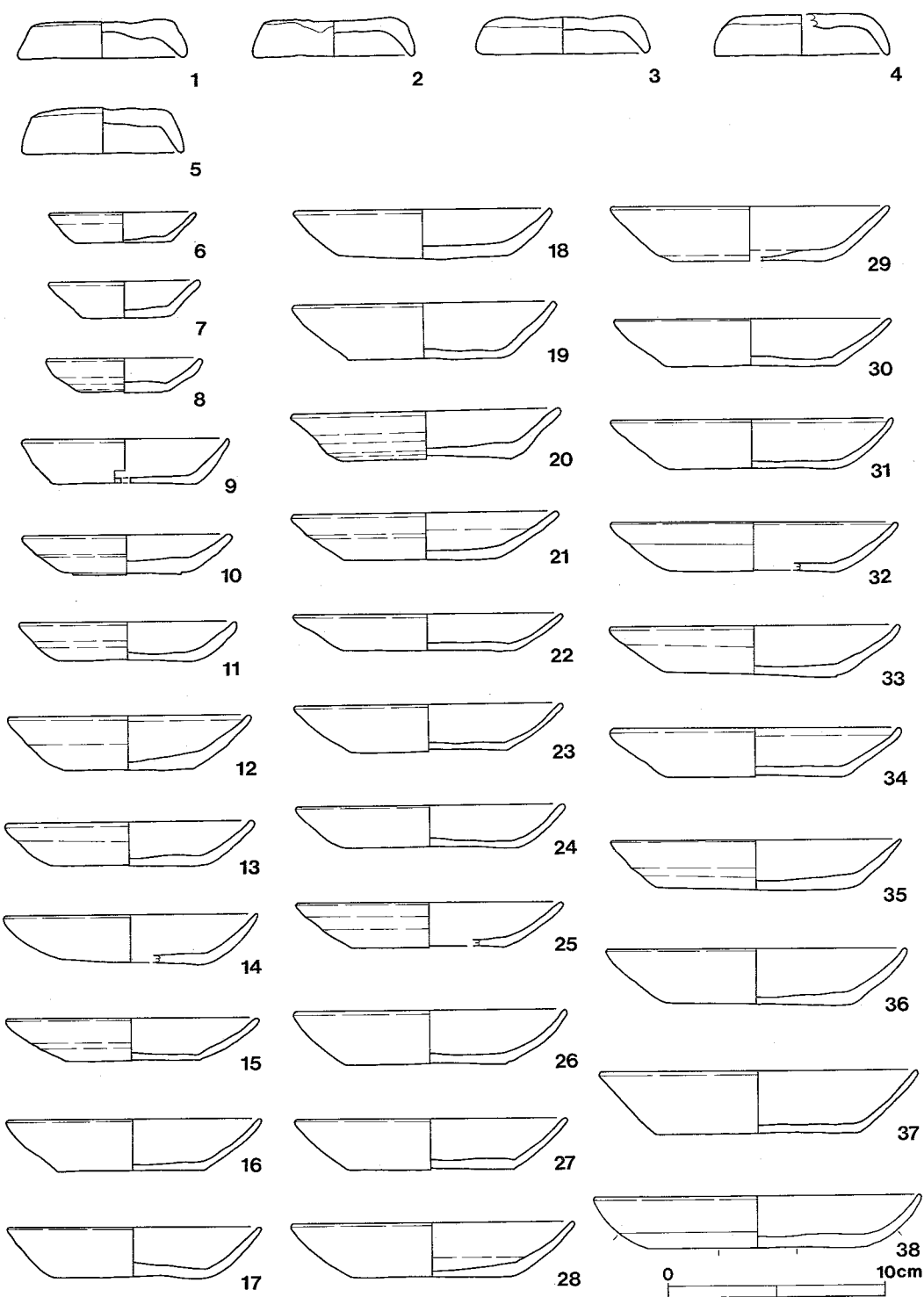
第110図 678号遺構出土陶磁器類21



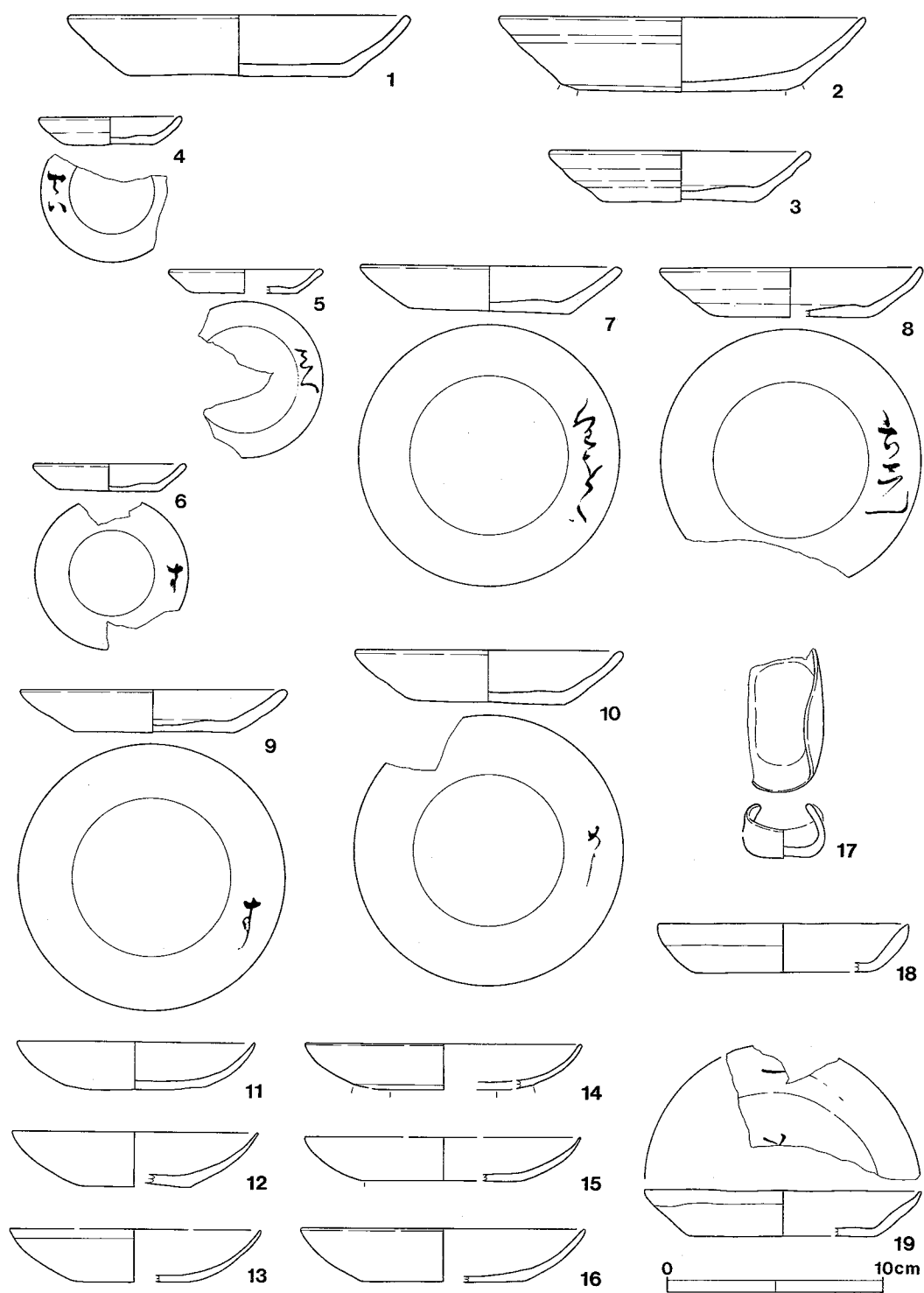
第111図 678号遺構出土陶磁器類22



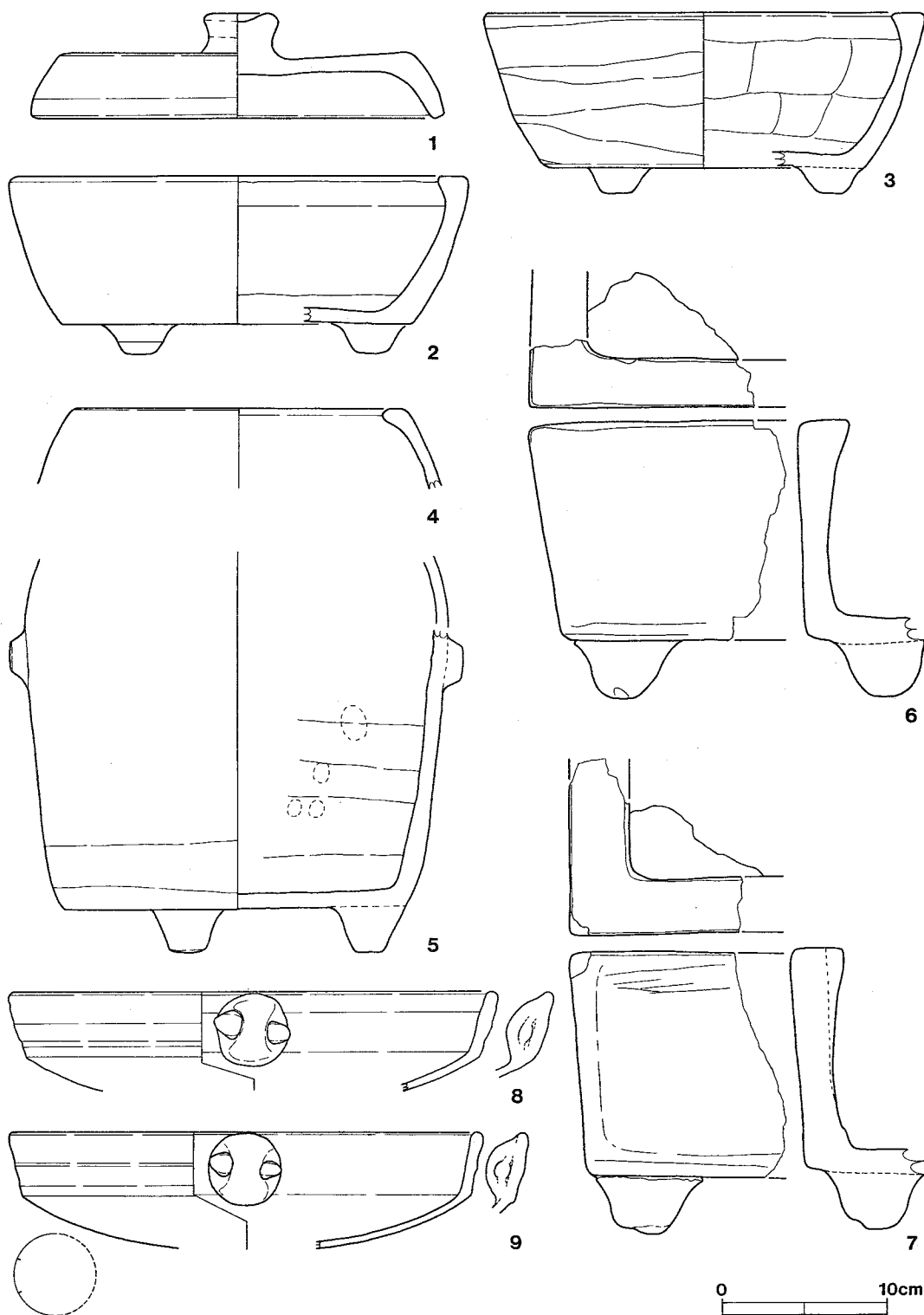
第112図 678号構出土陶磁器類23



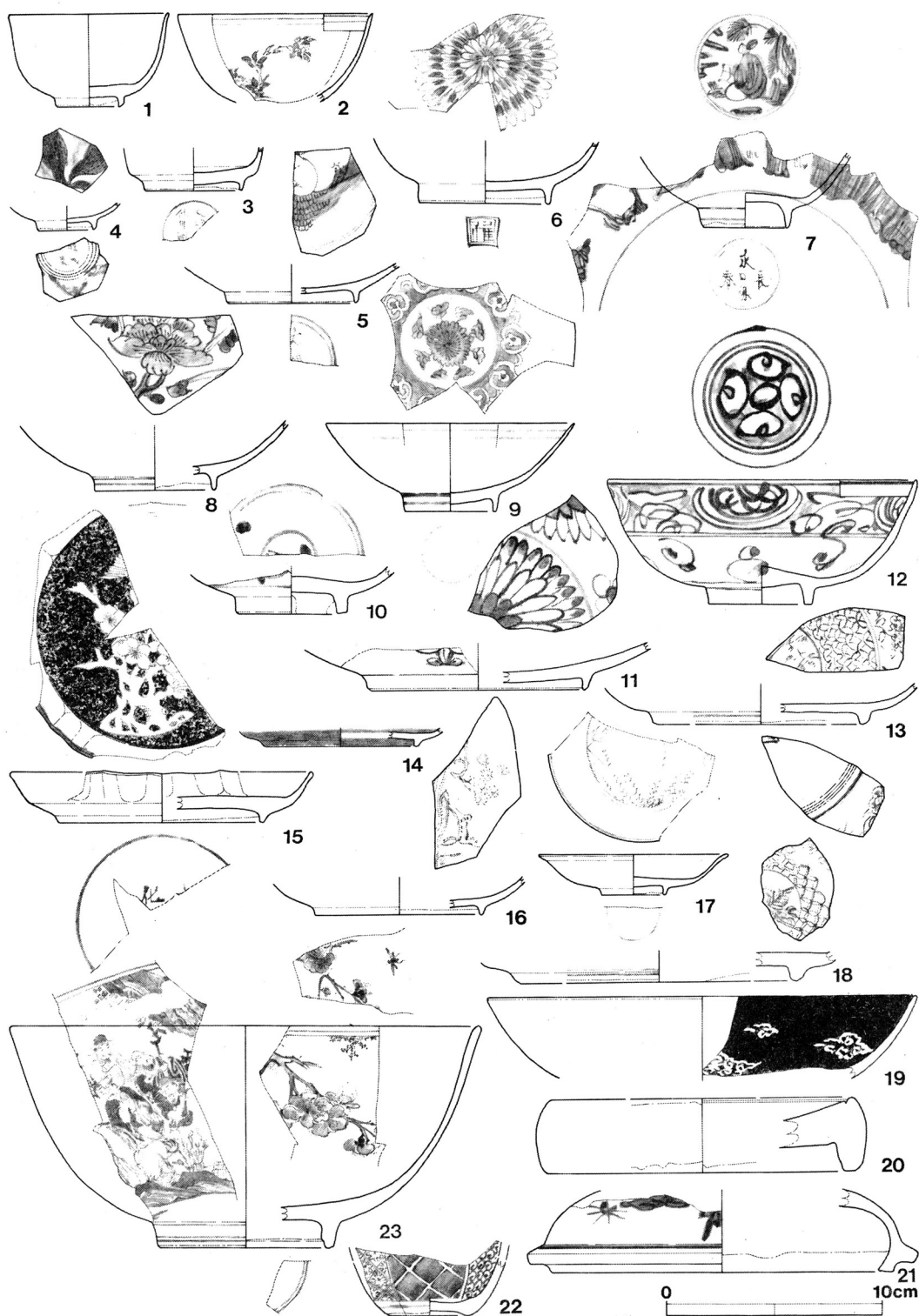
第113図 678号遺構出土陶磁器類24



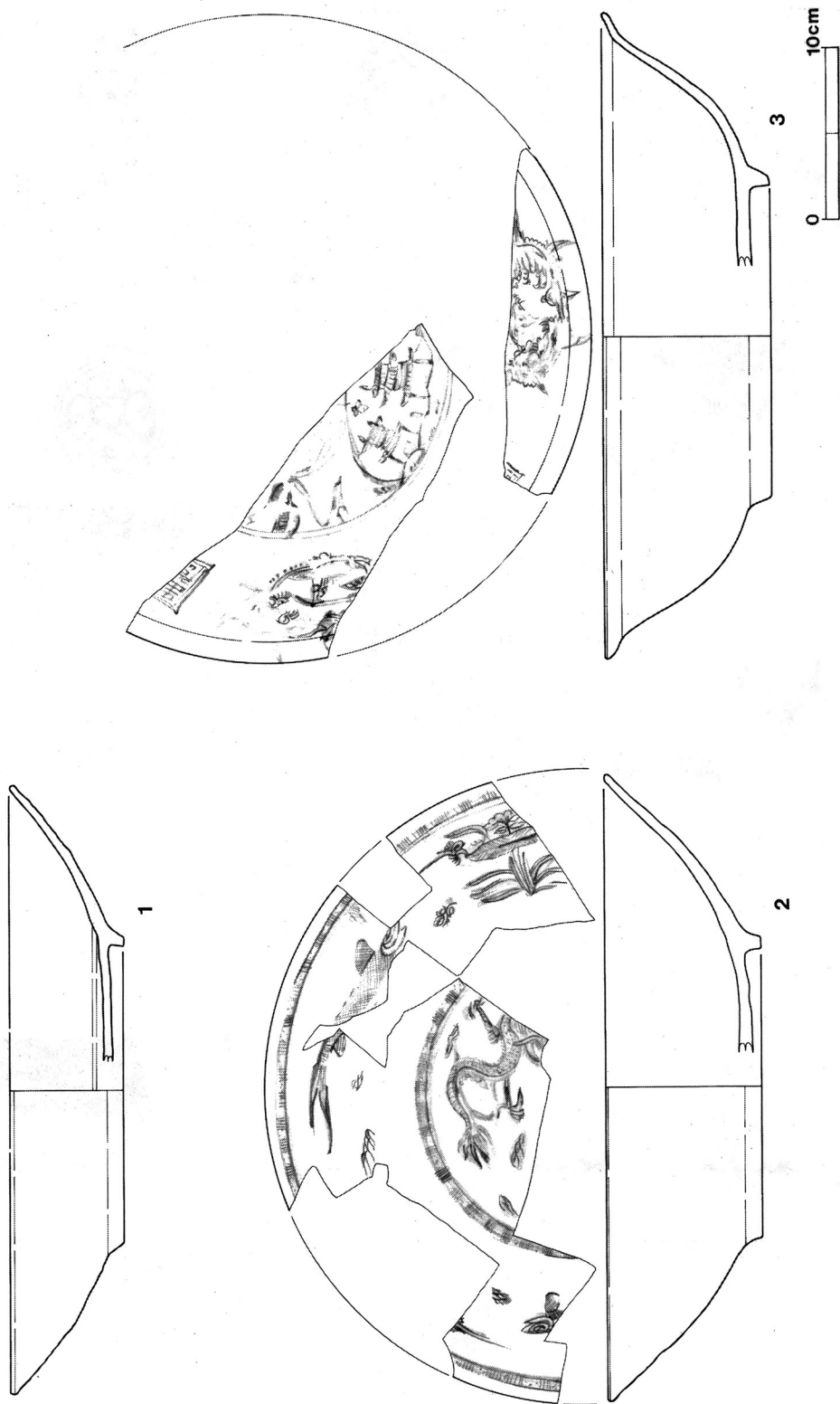
第114図 678号遺構出土陶磁器類25



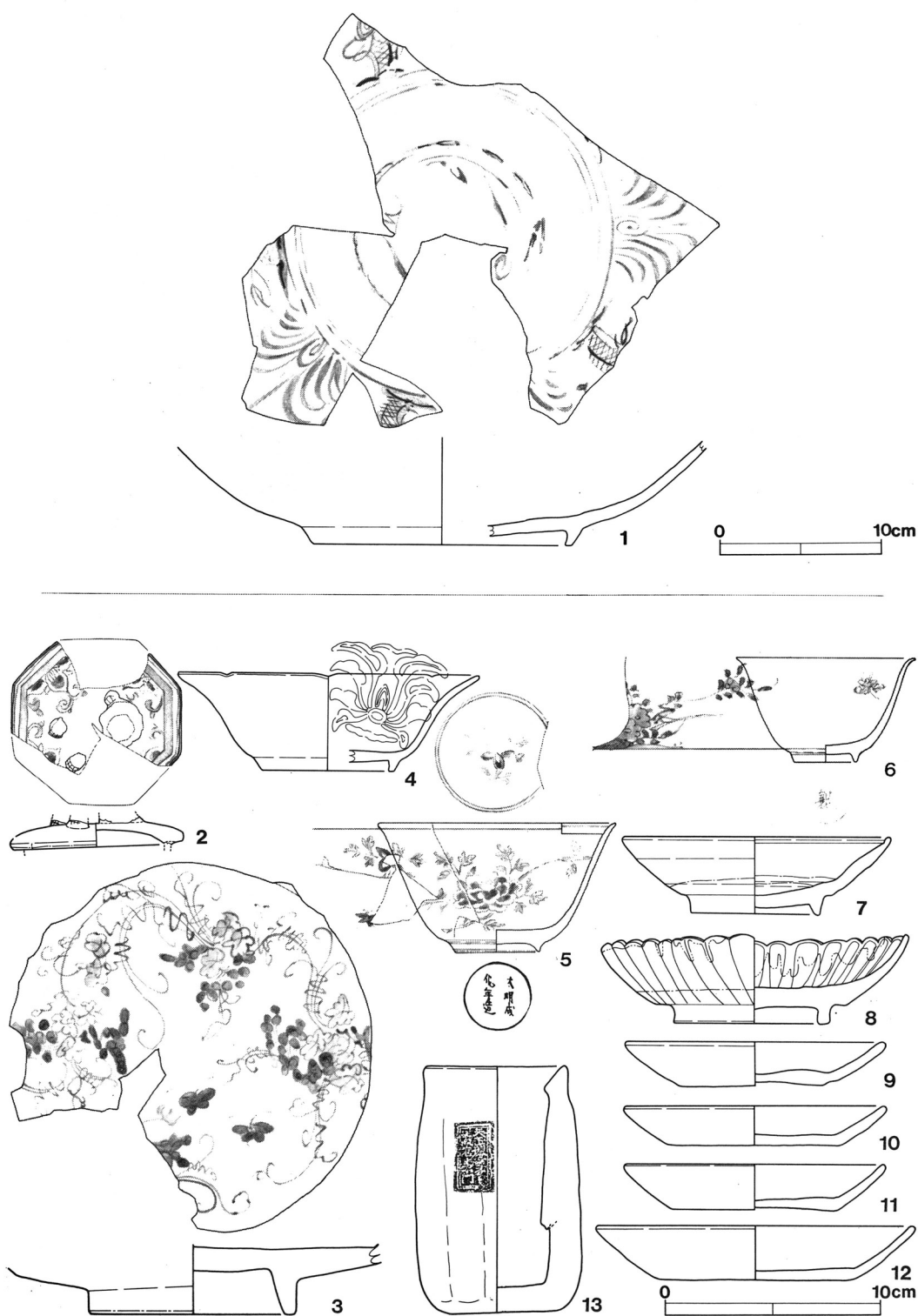
第115図 678号遺構出土陶磁器類26



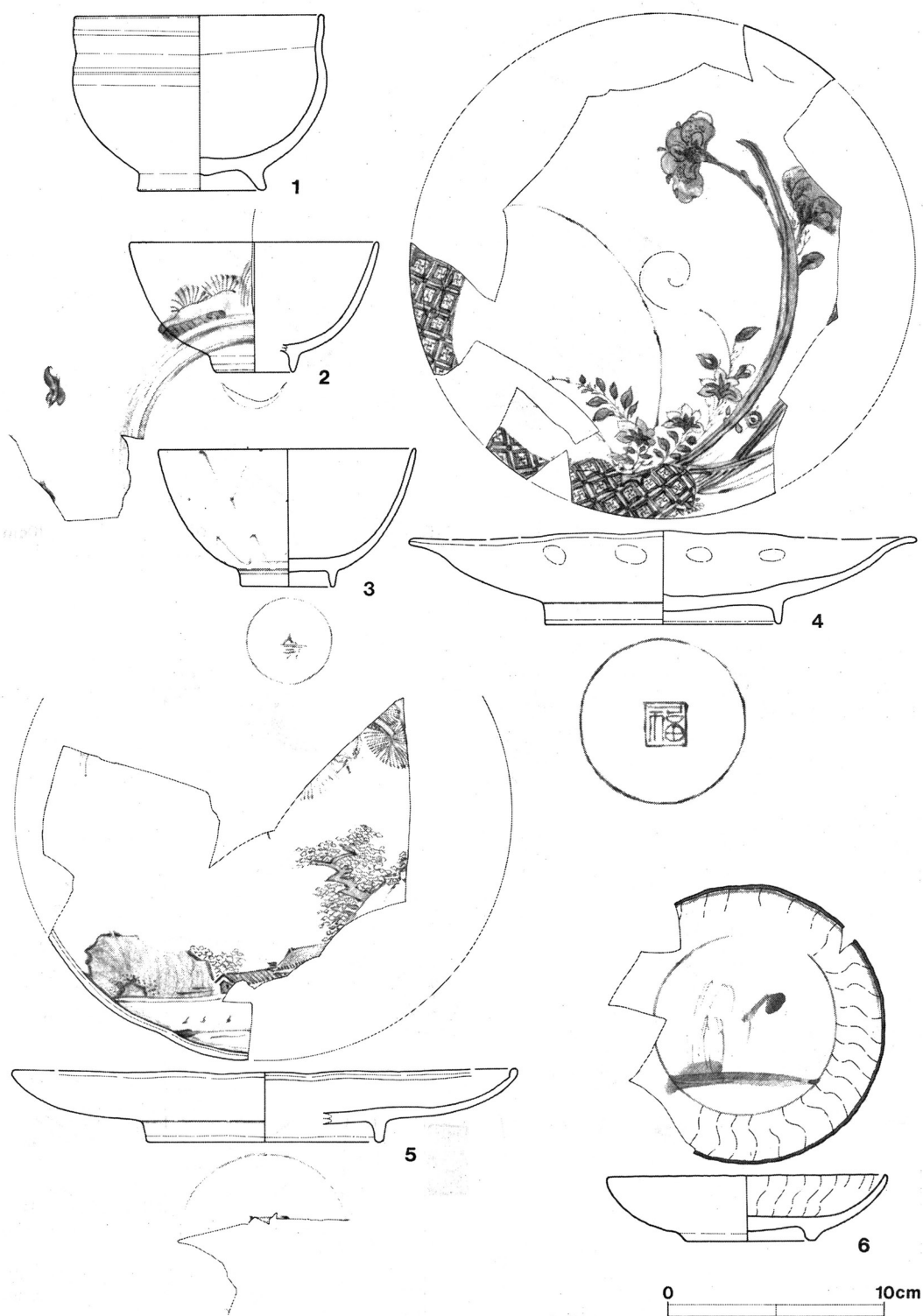
第116图 678号遺構出土陶磁器類27



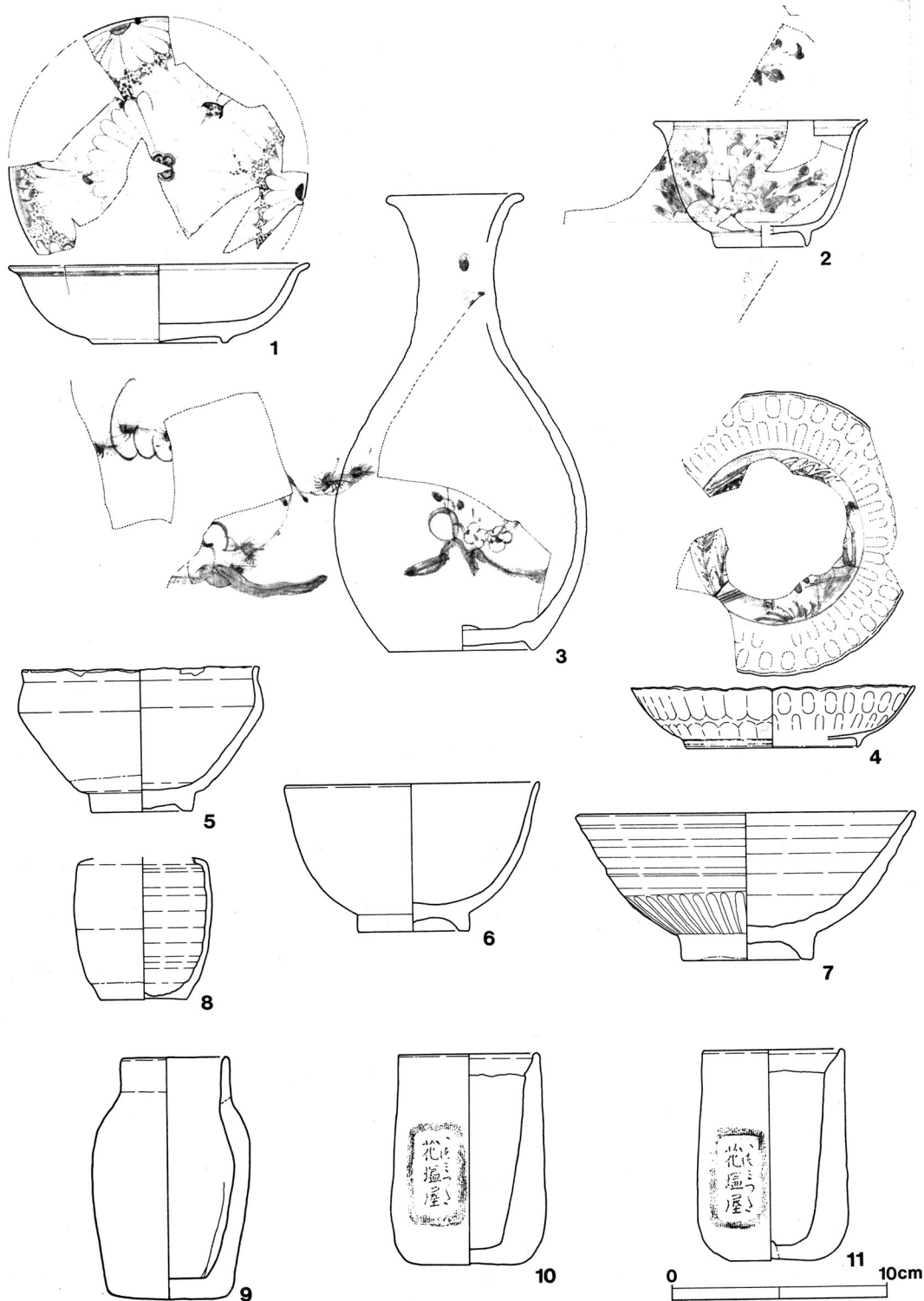
第117图 678号遺構出土陶磁器類28



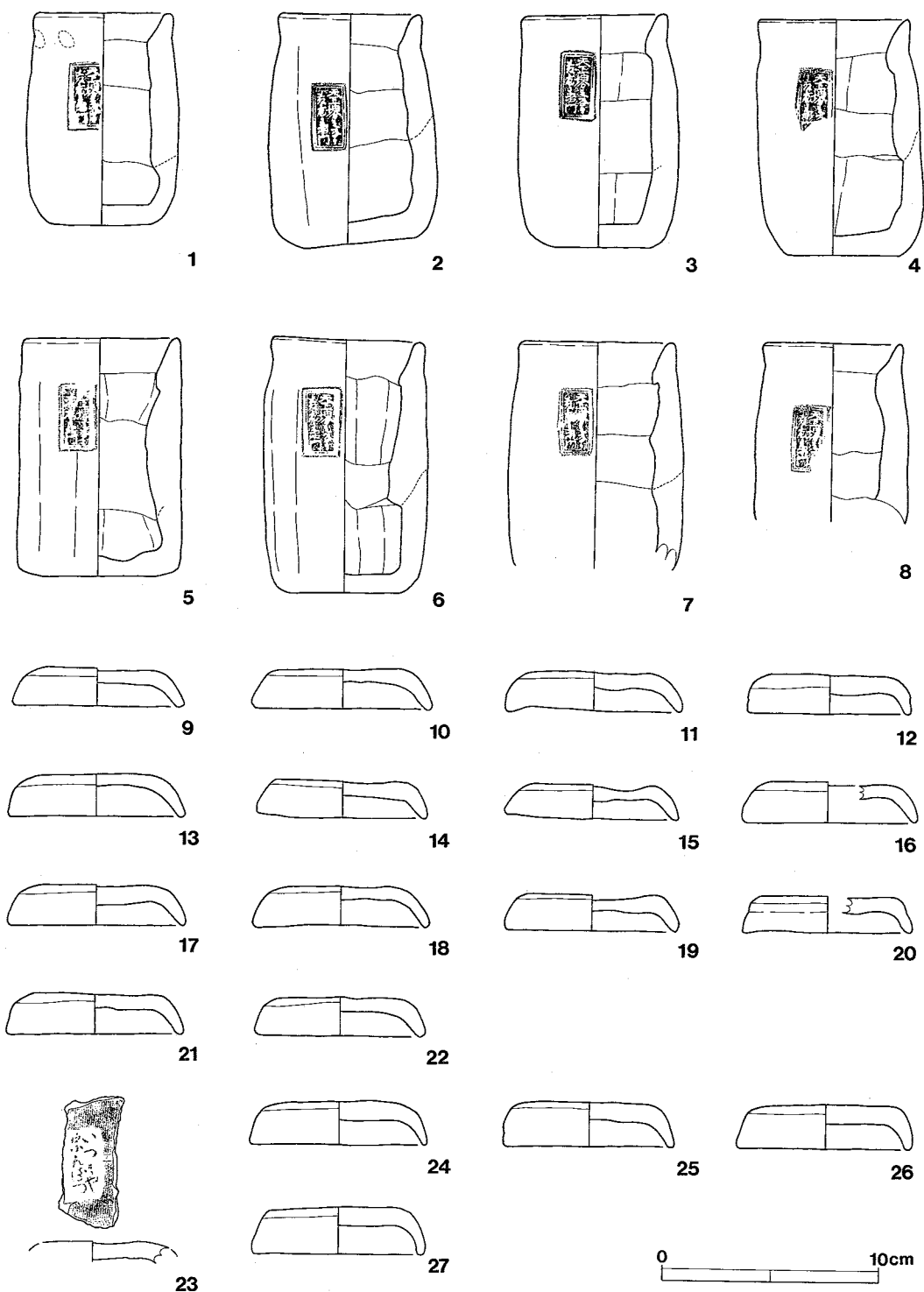
第118図 678号遺構出土陶磁器類29・255b号遺構出土陶磁器類



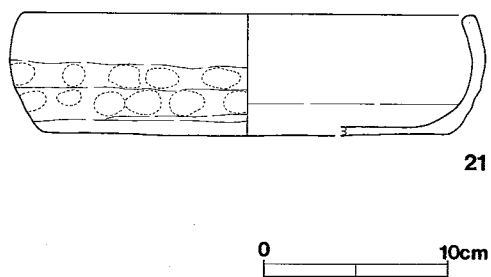
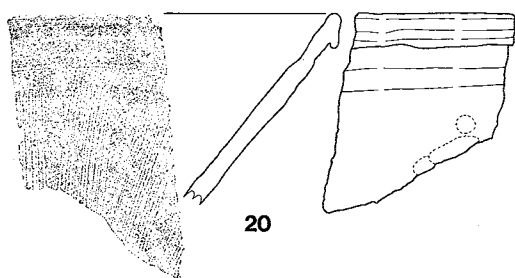
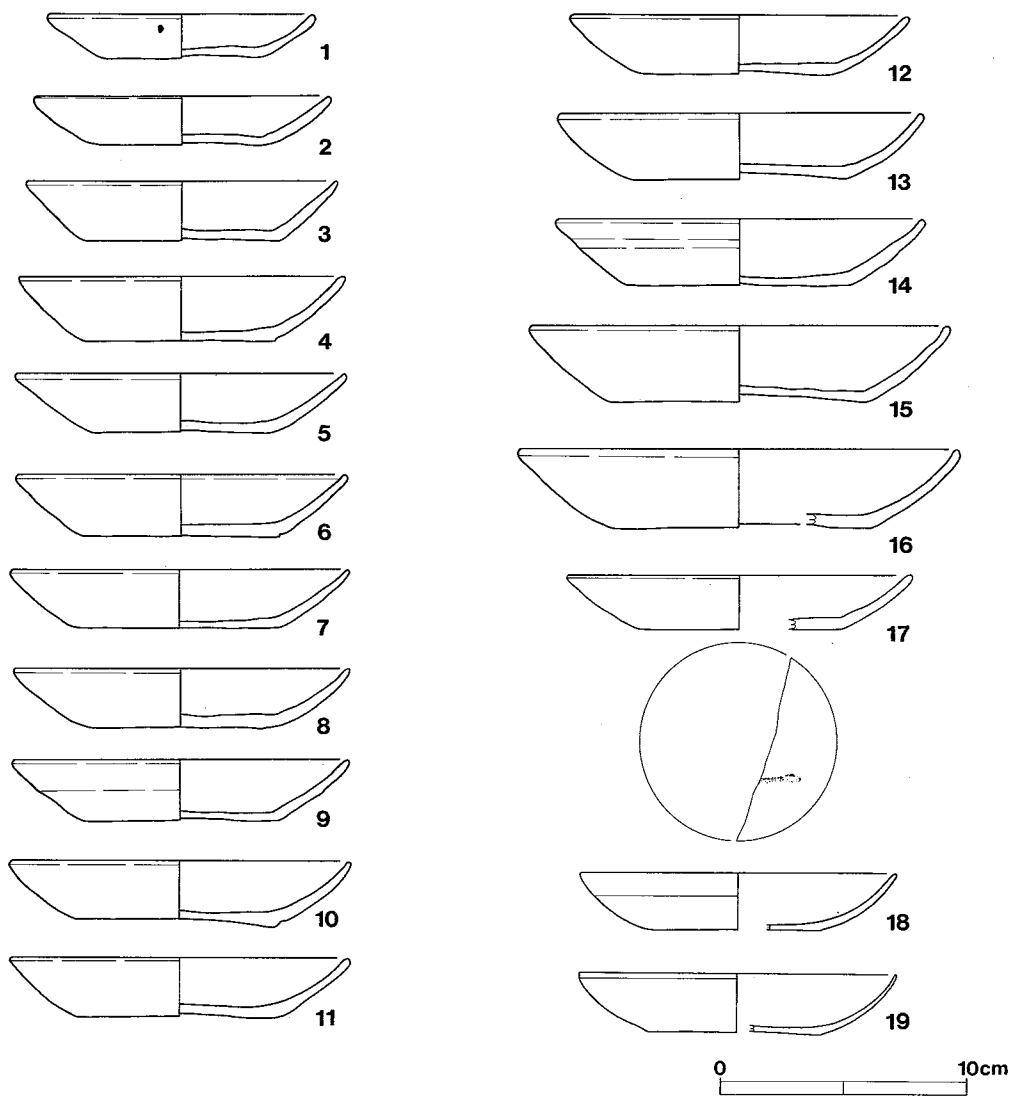
第119図 802号遺構出土陶磁器類 1



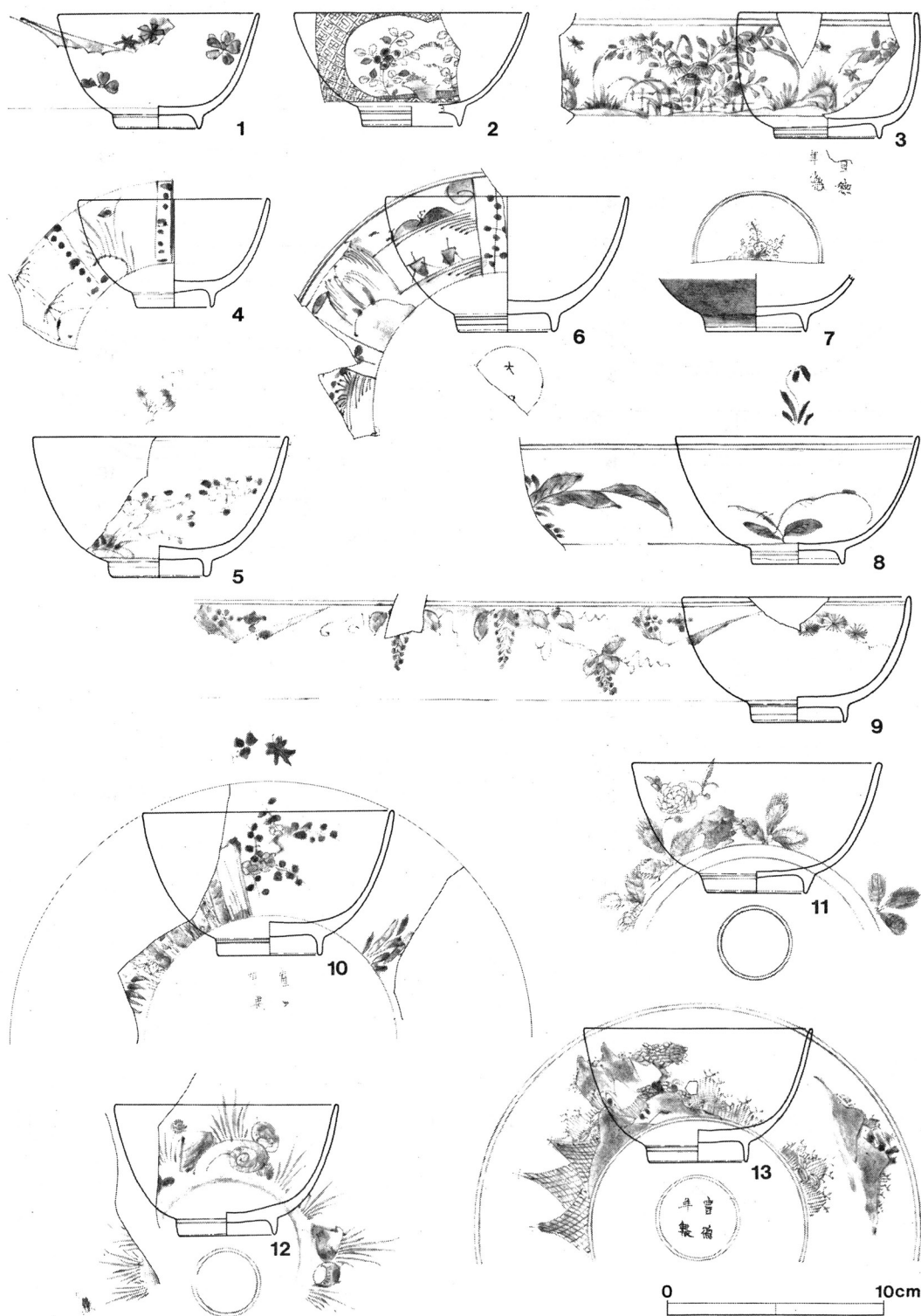
第120図 802号遺構出土陶磁器類 2



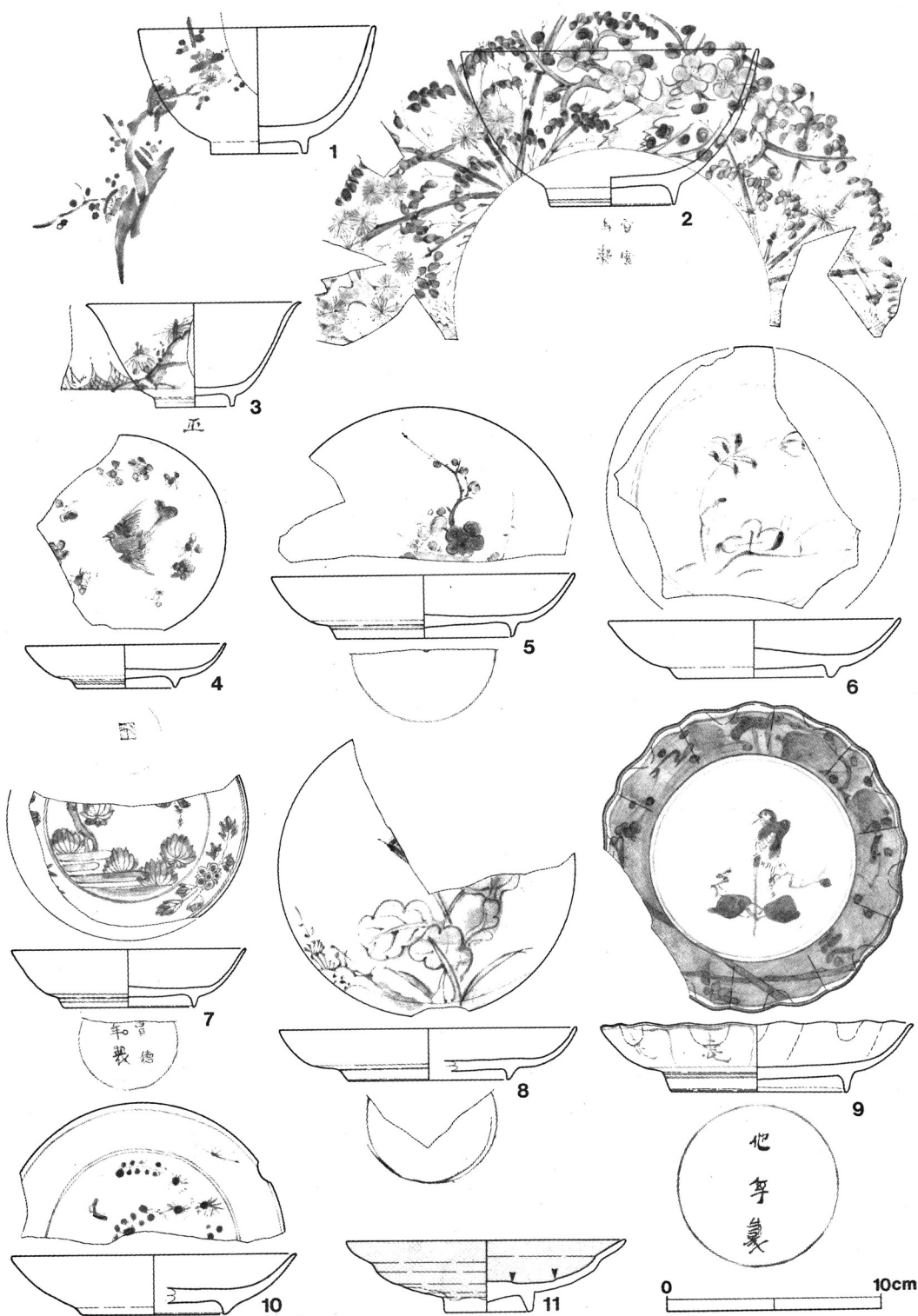
第121図 802号遺構出土陶磁器類 3



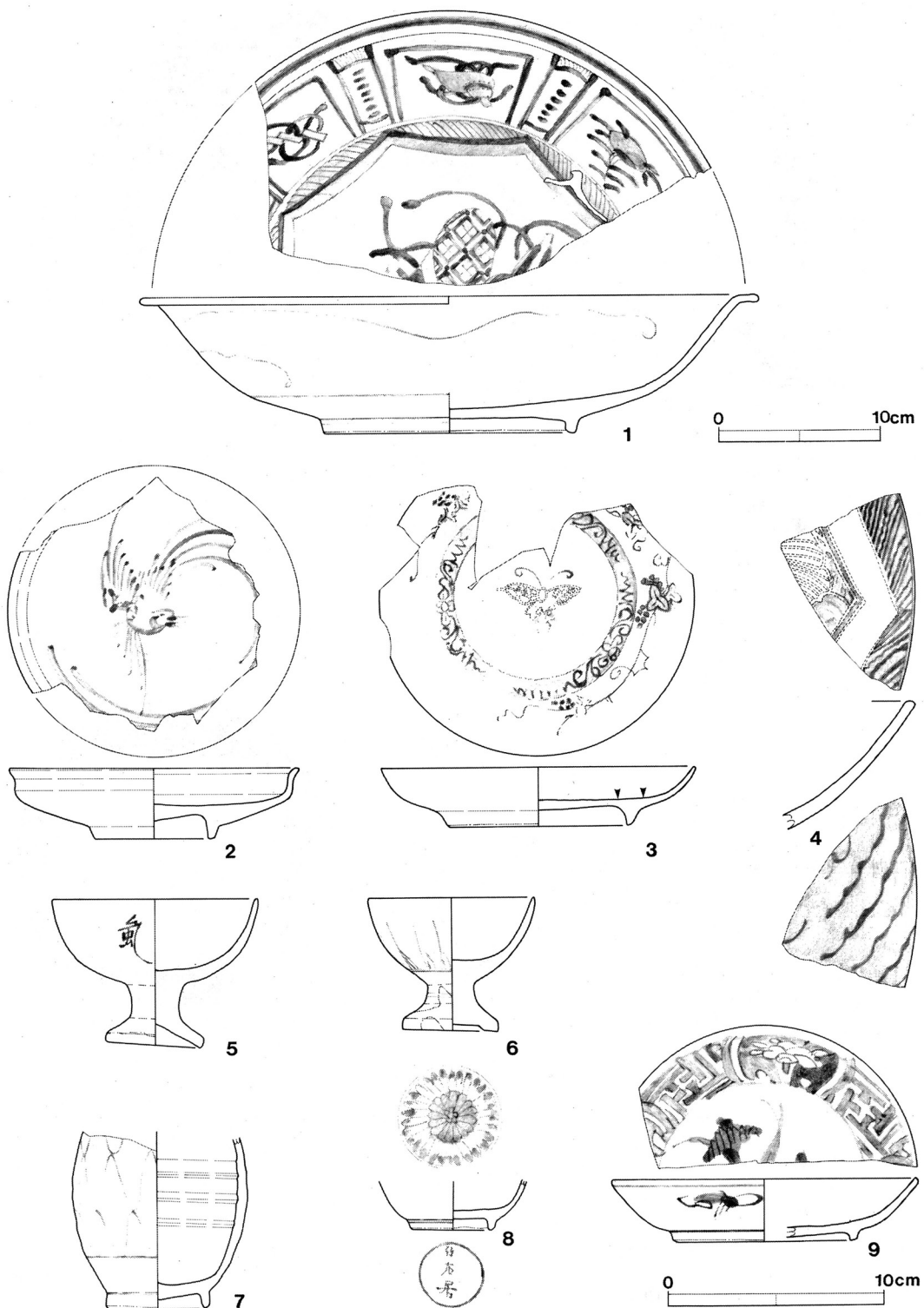
第122図 802号遺構出土陶磁器類 4



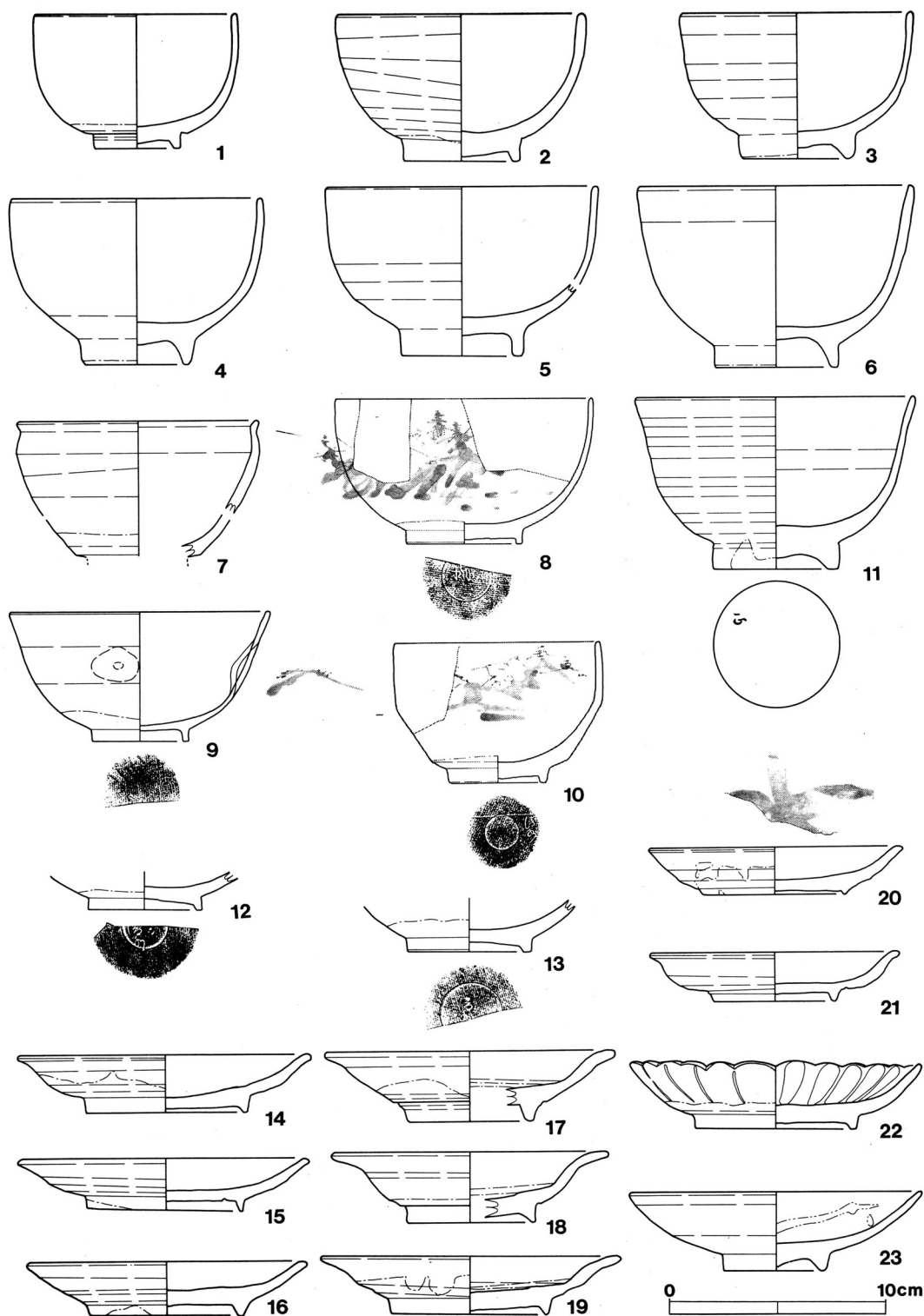
第123図 276号遺構出土陶磁器類 1



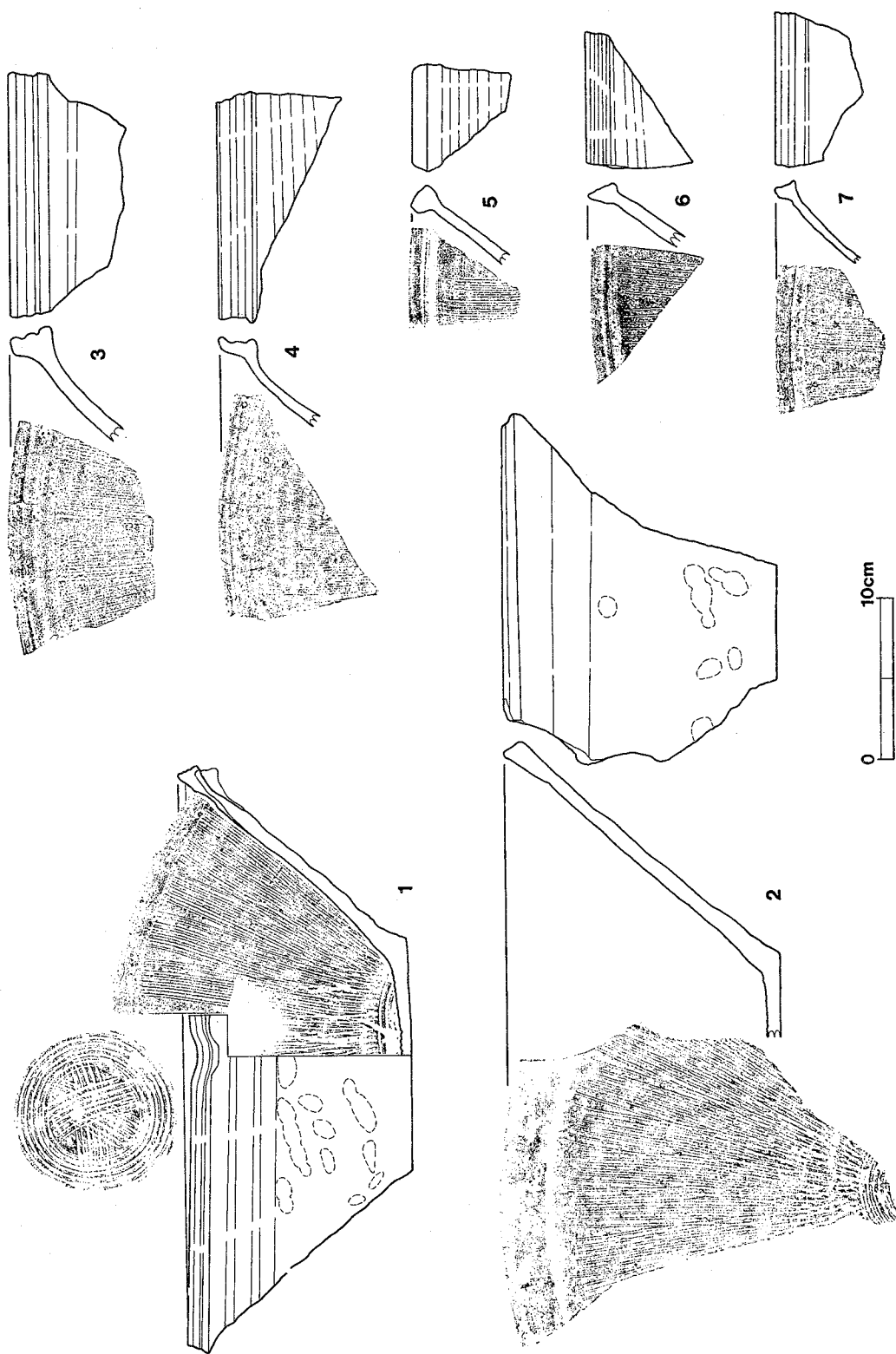
第124図 276号遺構出土陶磁器類 2



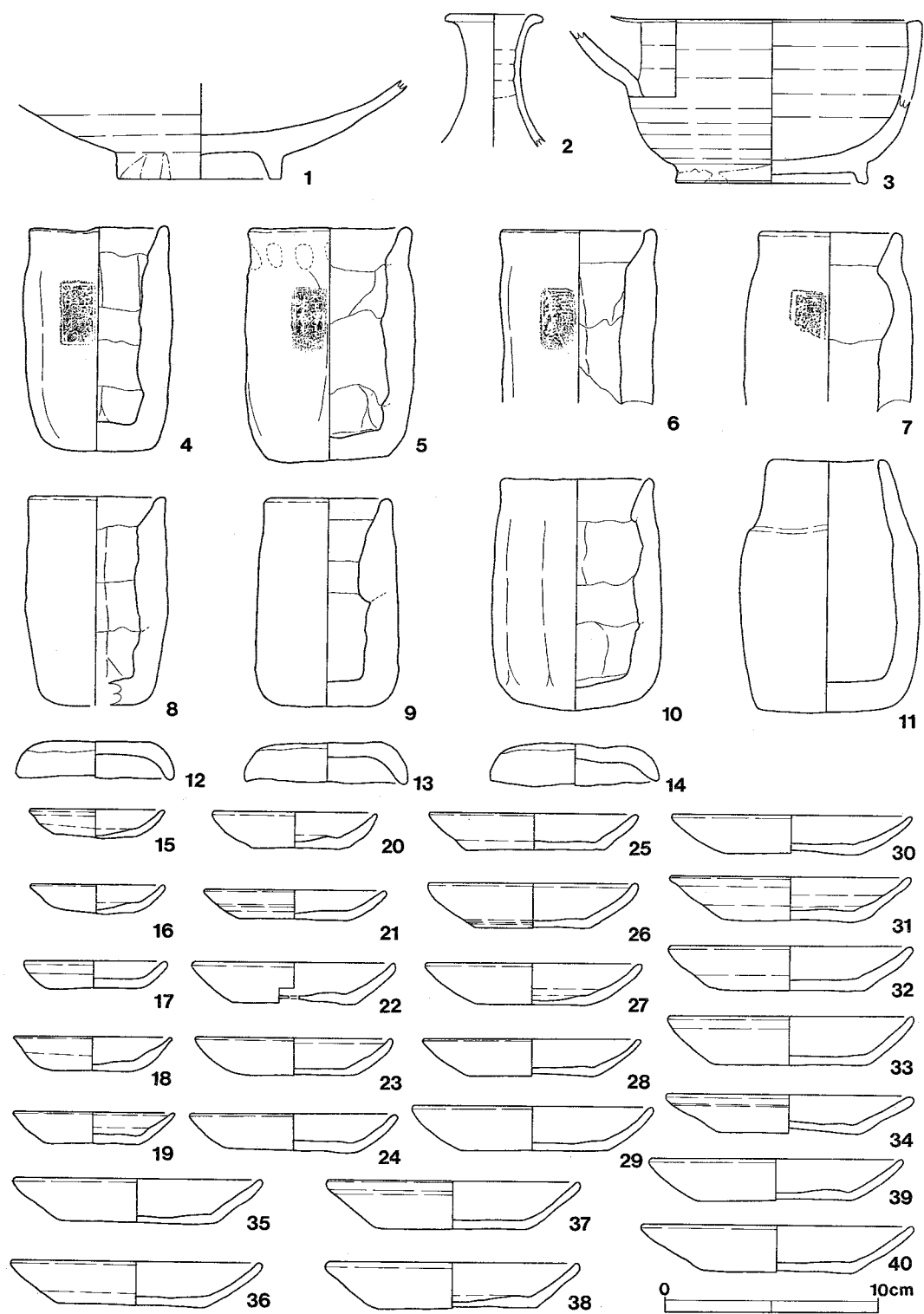
第125図 276号遺構出土陶磁器類 3



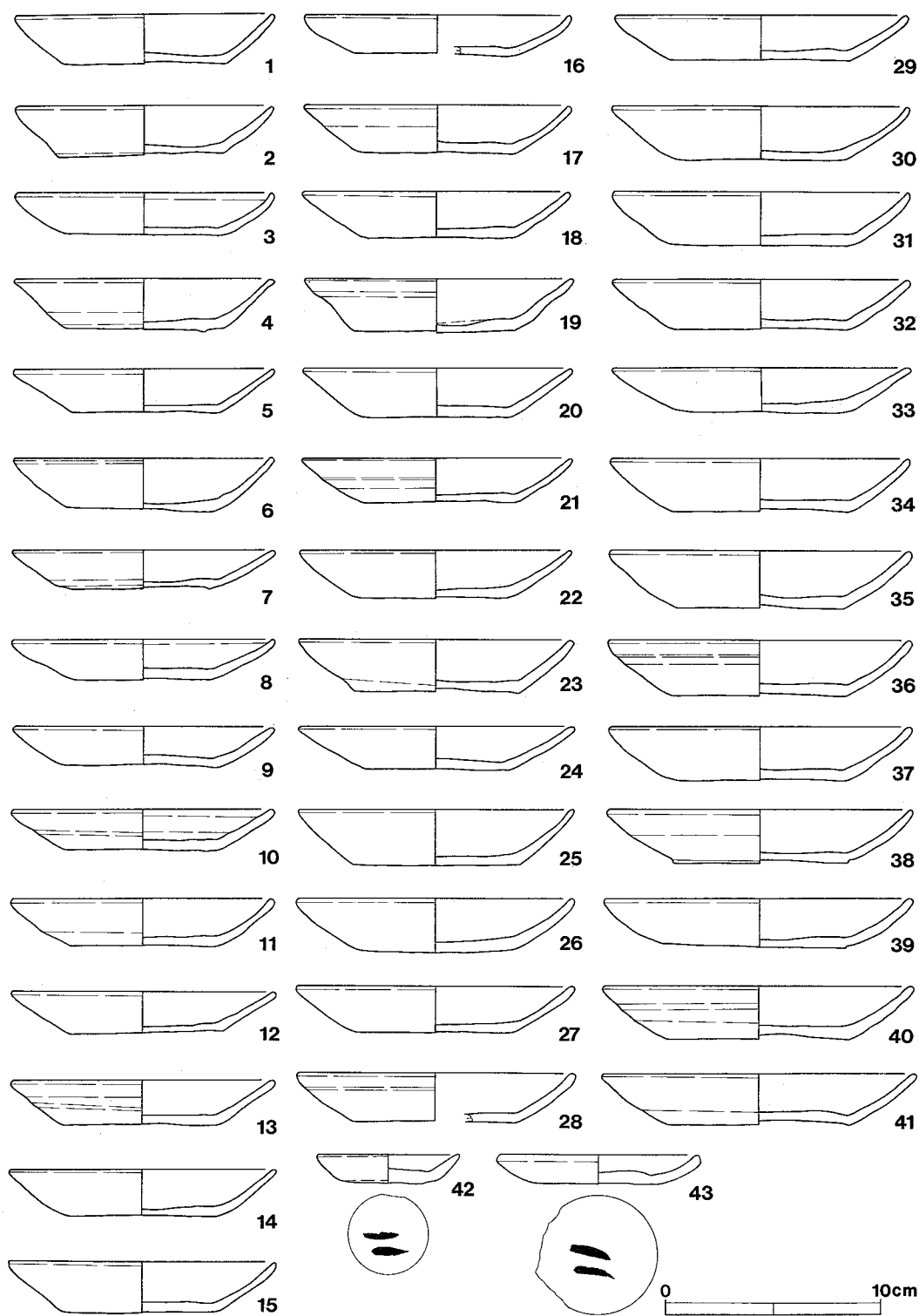
第126図 276号遺構出土陶磁器類 4



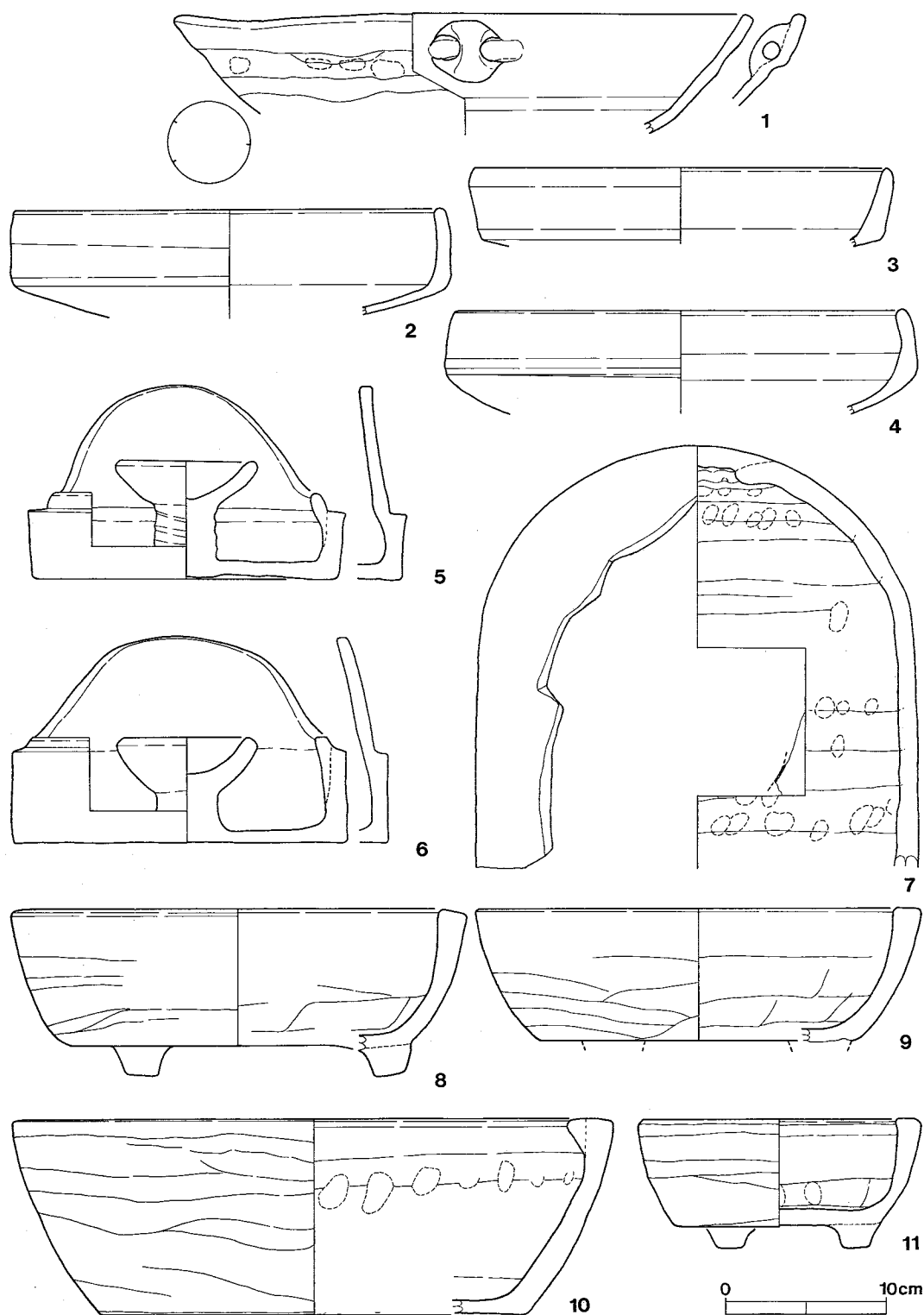
第127图 276号遺構出土陶磁器類 5



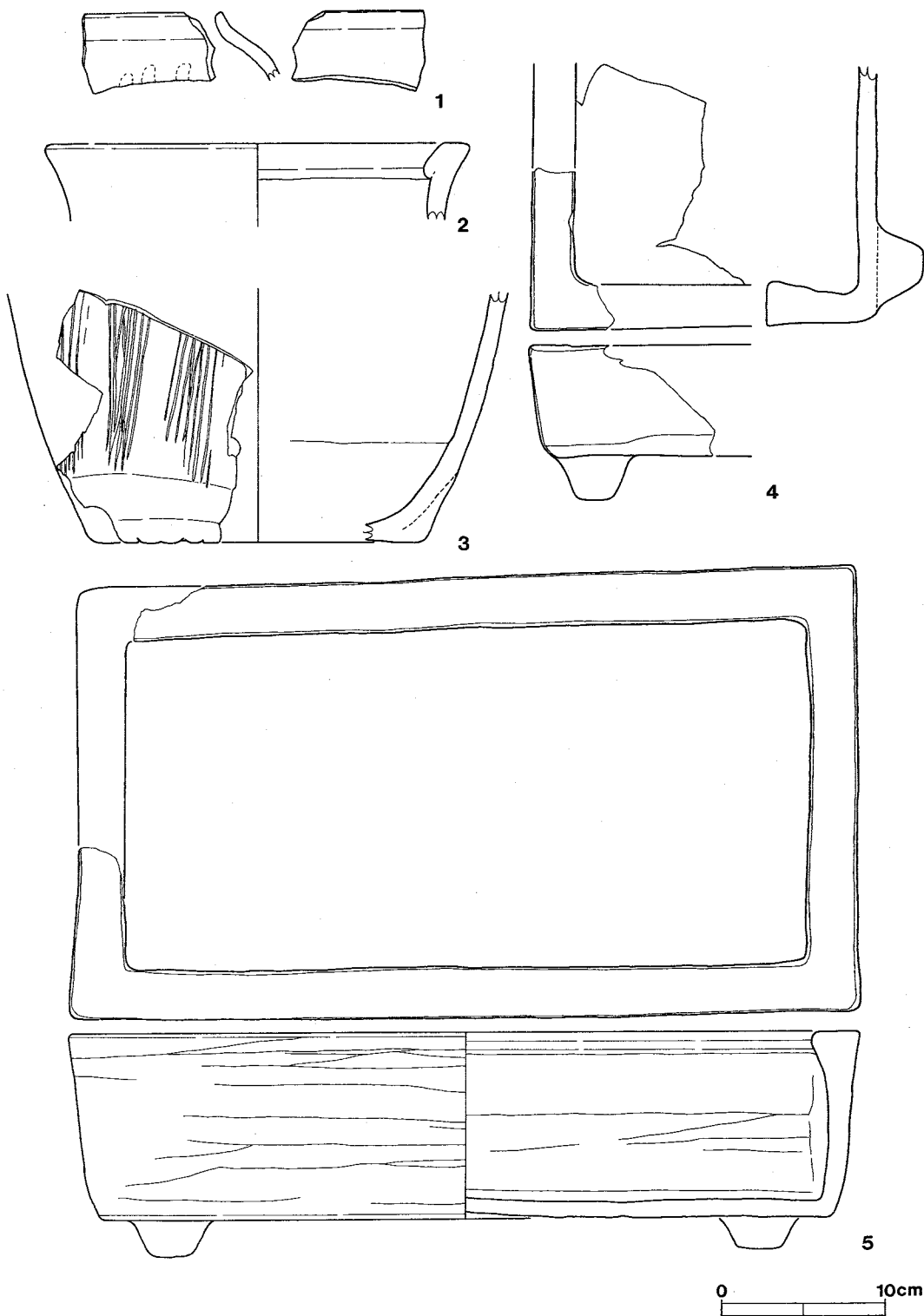
第128図 276号遺構出土陶磁器類 6



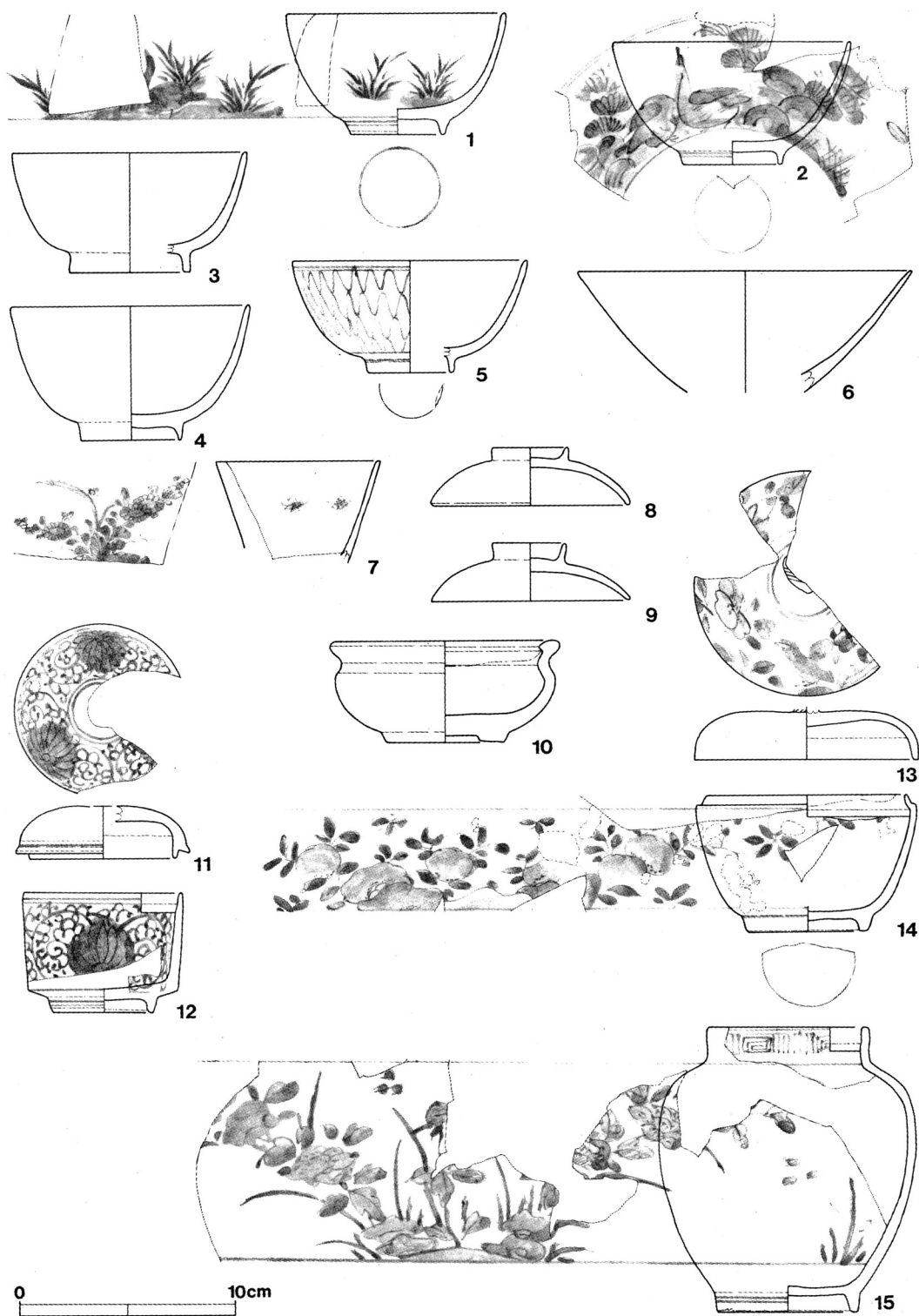
第129図 276号遺構出土陶磁器類 7



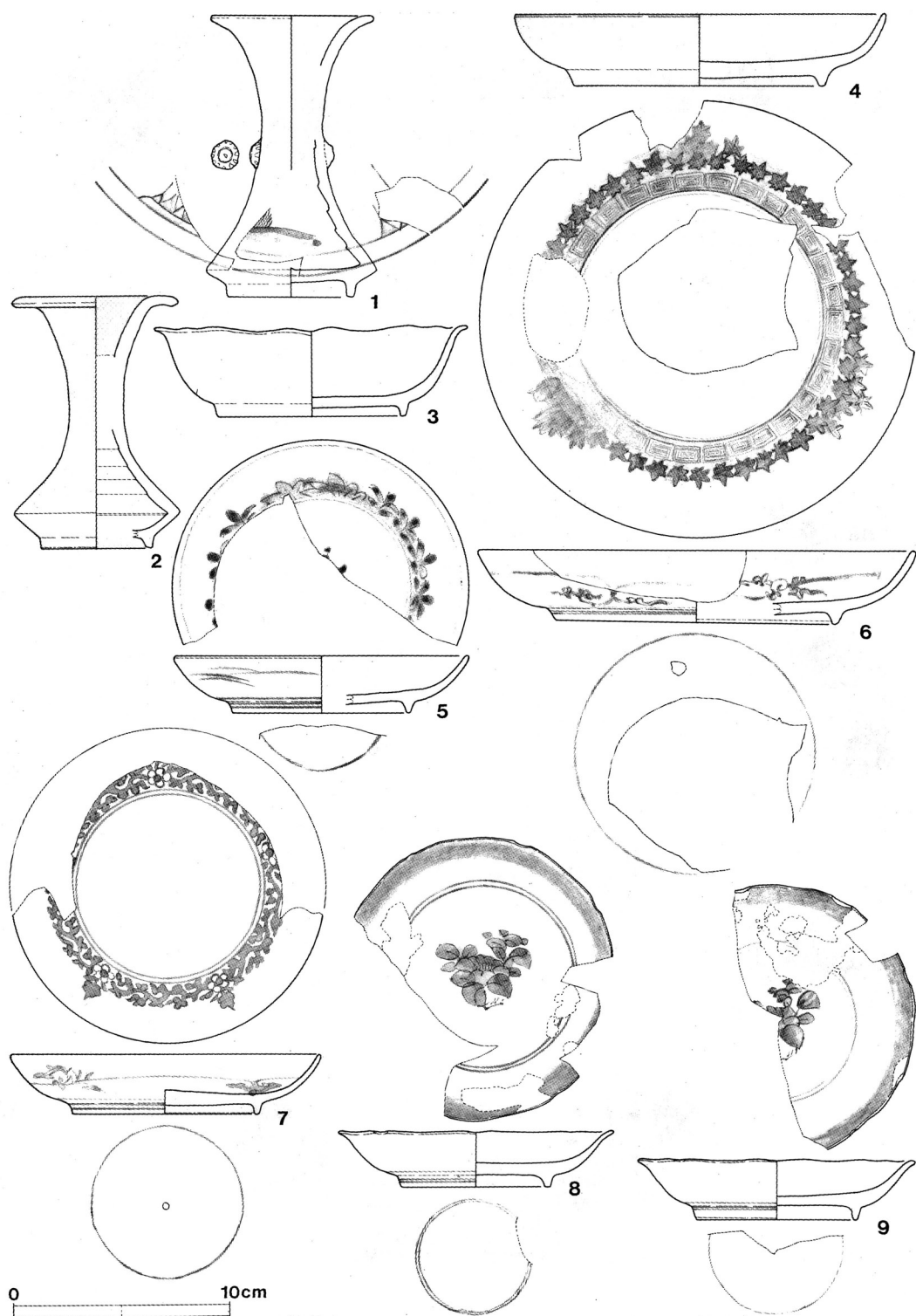
第130図 276号遺構出土陶磁器類 8



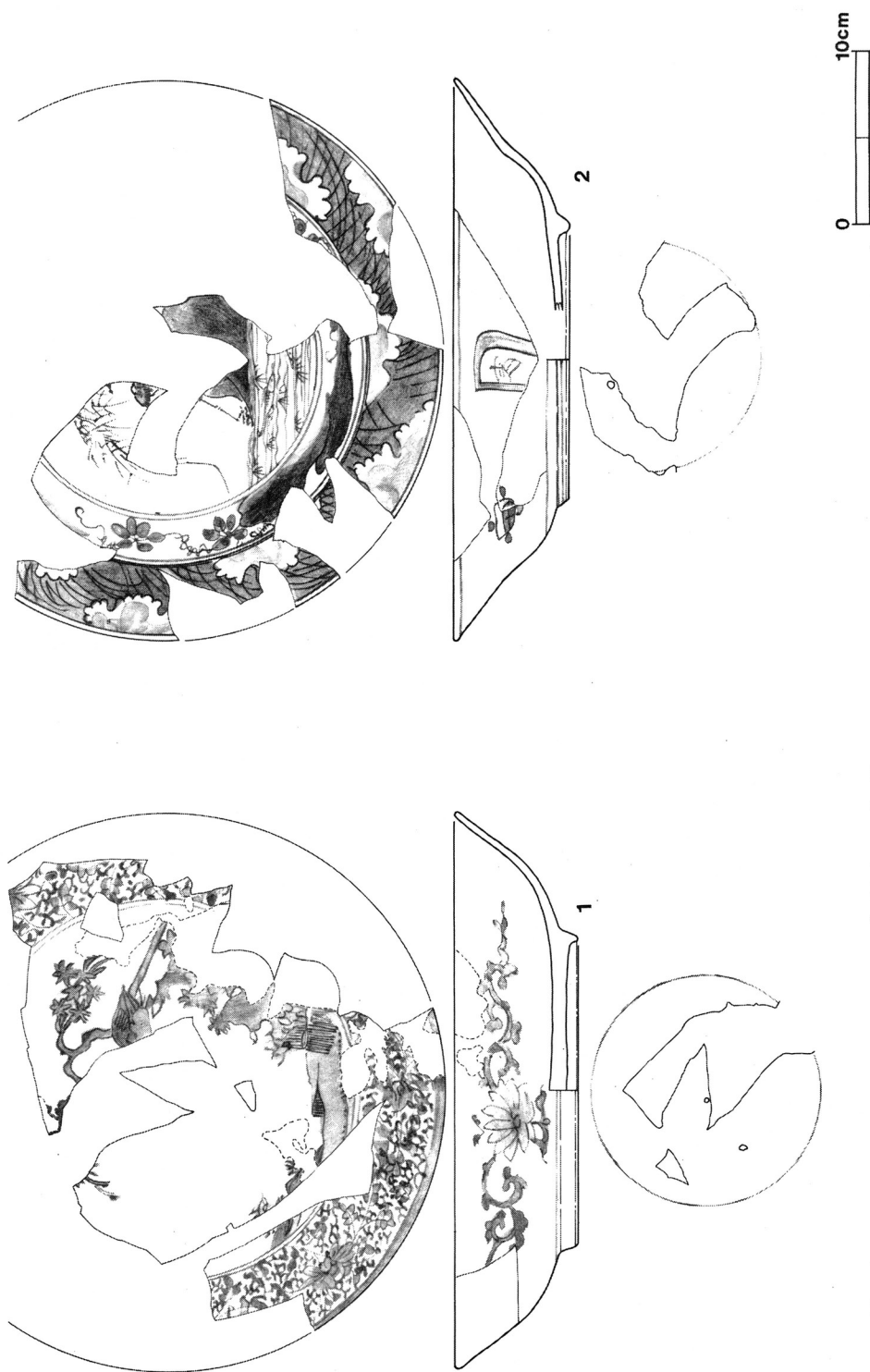
第131図 276号遺構出土陶磁器類 9



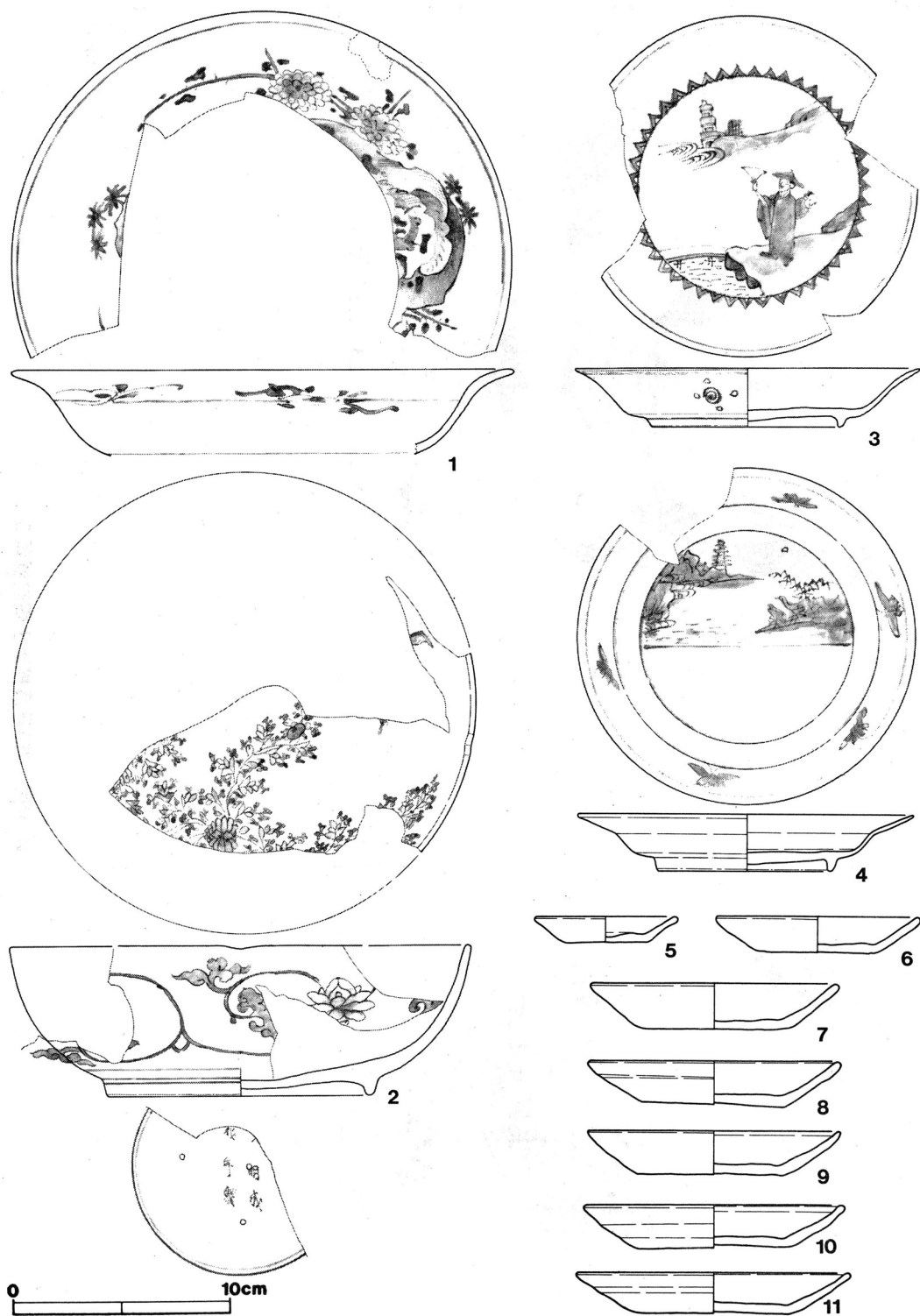
第132図 252号遺構出土陶磁器類 1



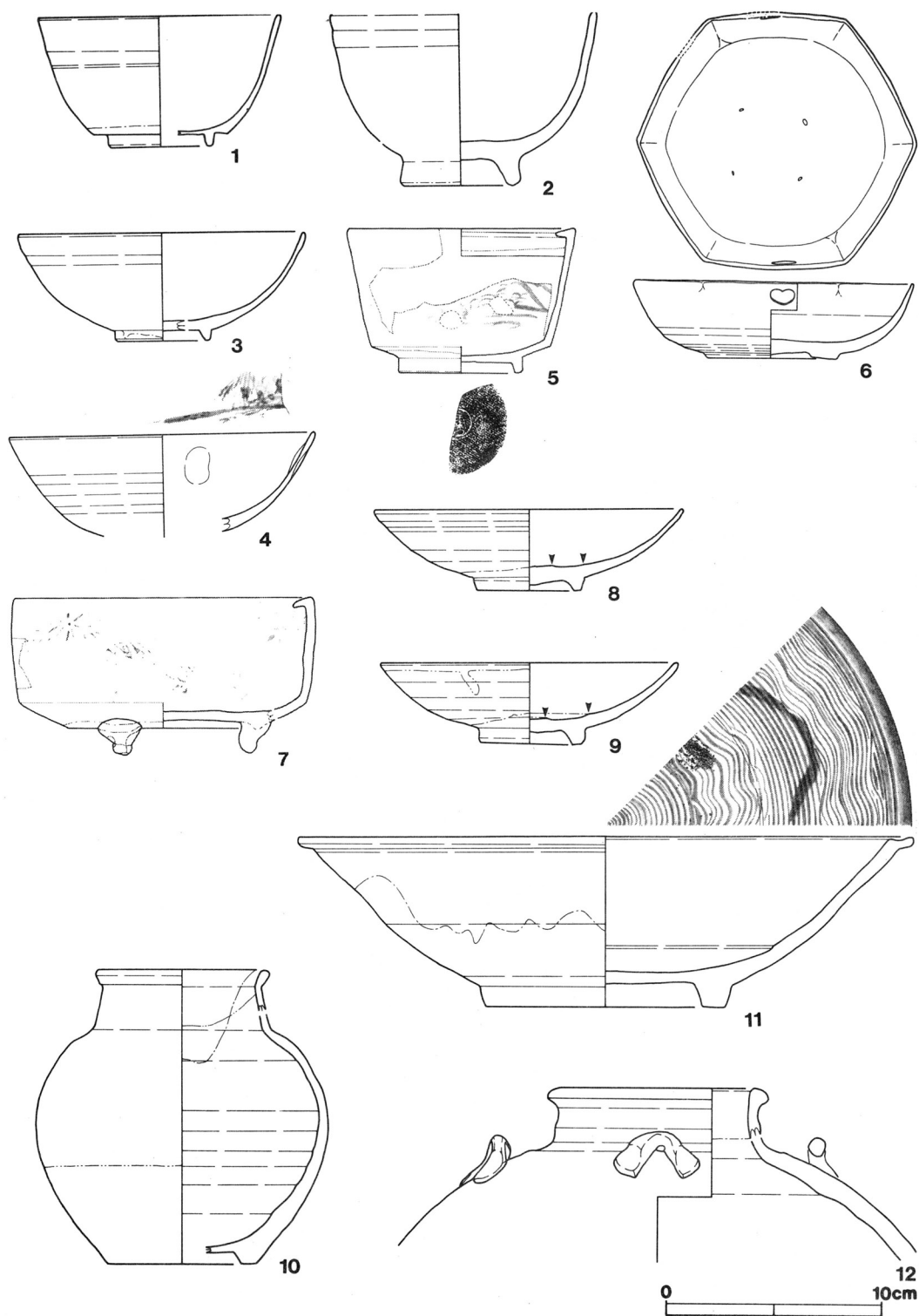
第133図 252号遺構出土陶磁器類 2



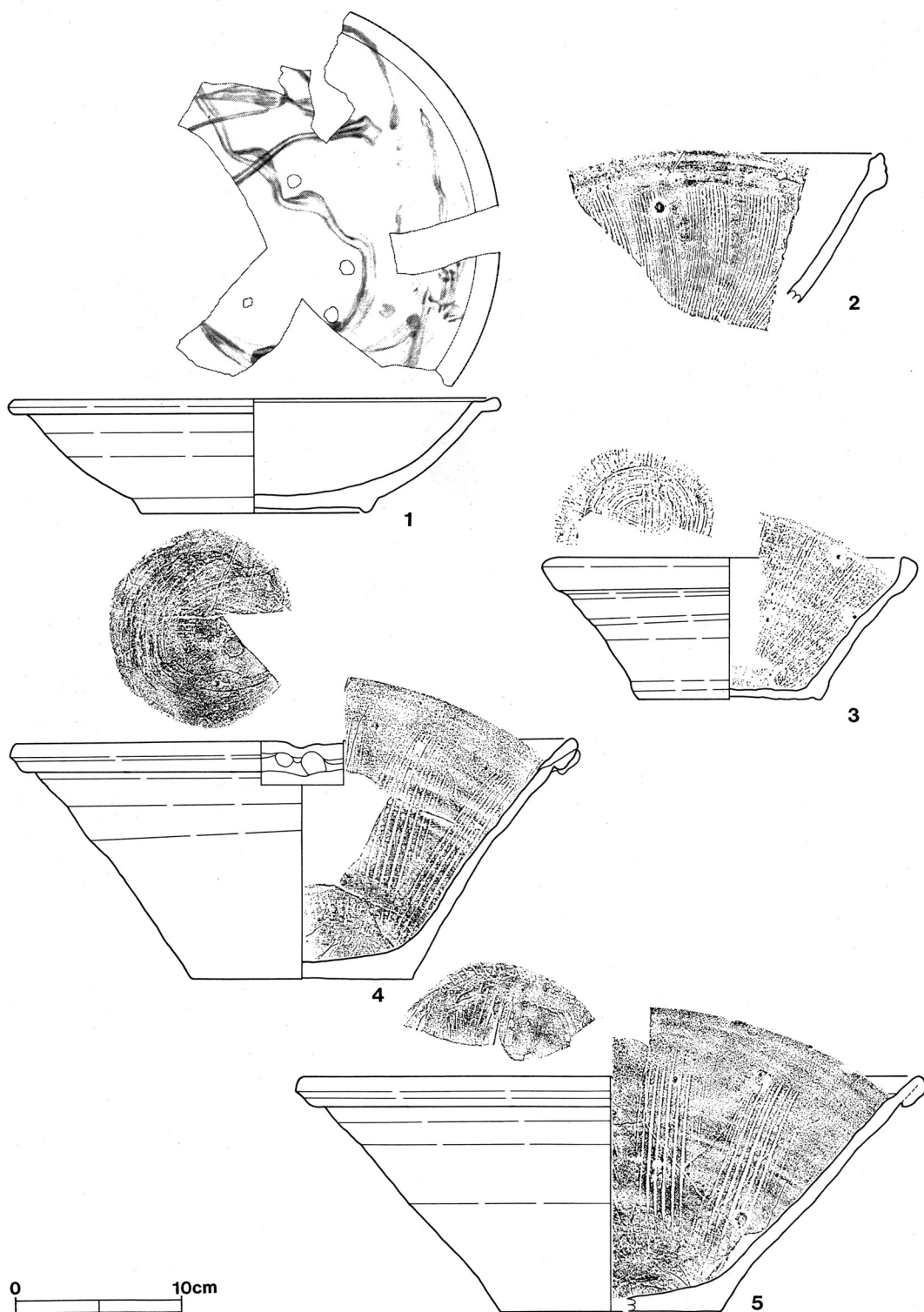
第134図 252号遺構出土陶磁器類 3



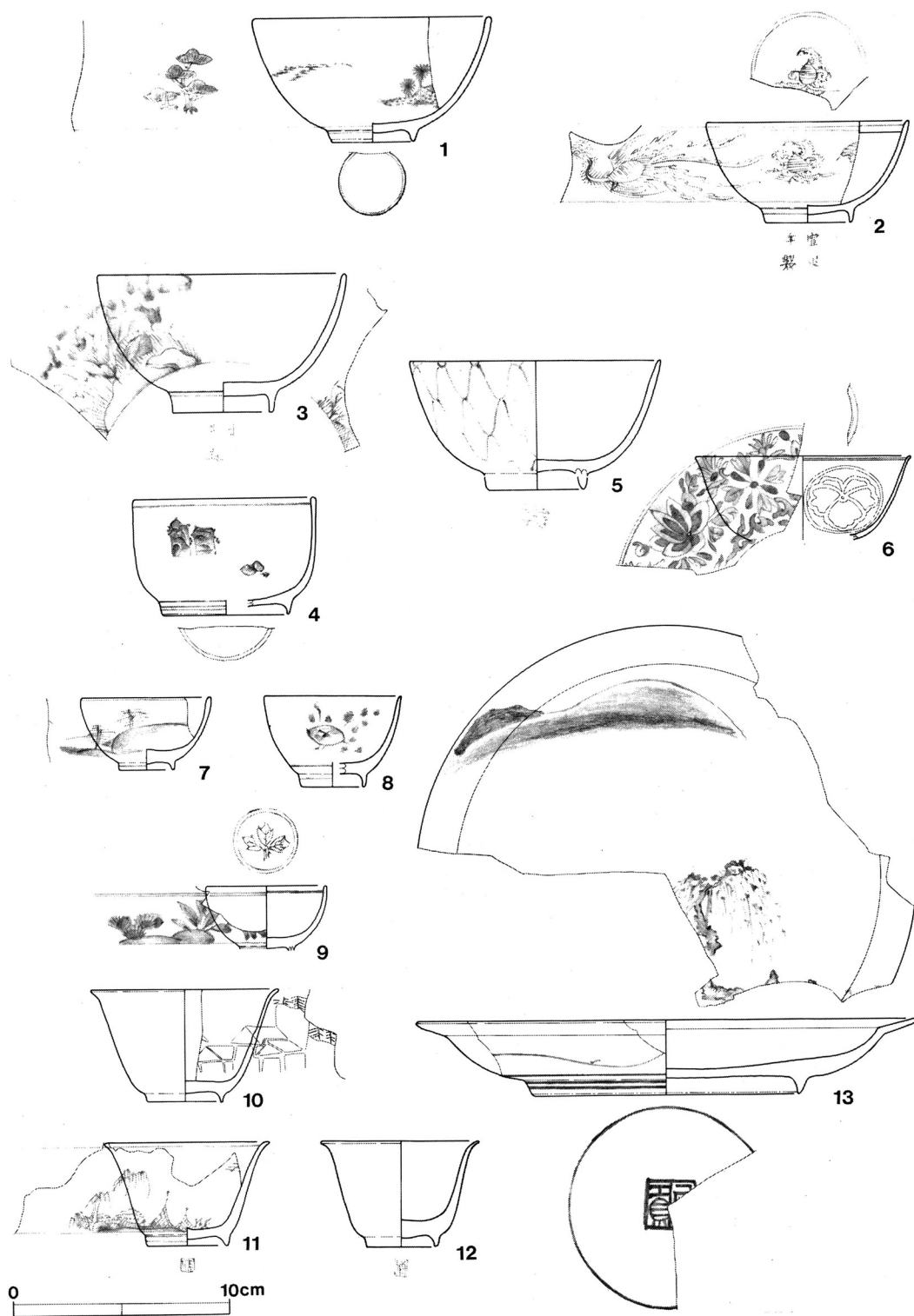
第135図 252号遺構出土陶磁器類 4



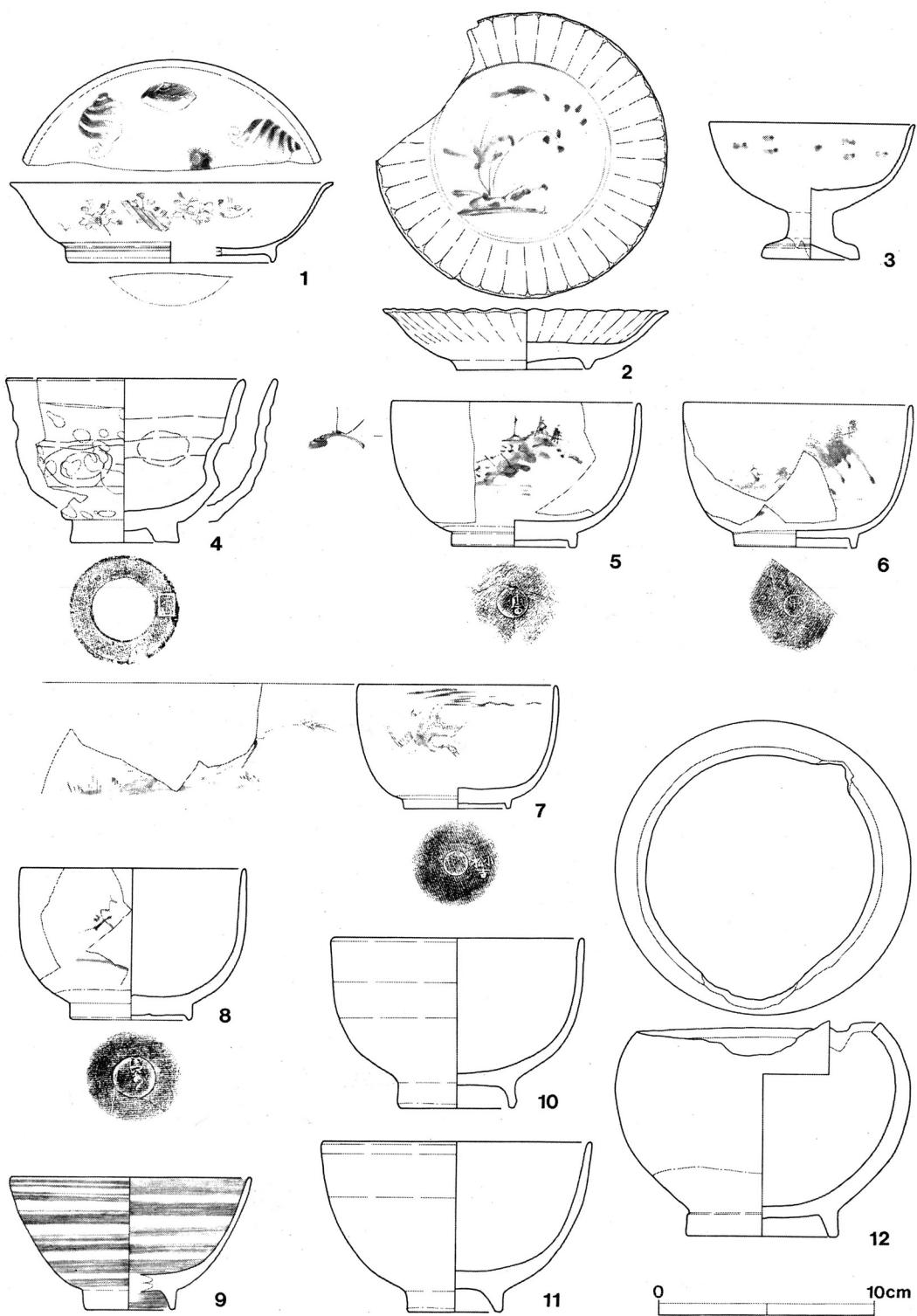
第136図 252号遺構出土陶磁器類 5



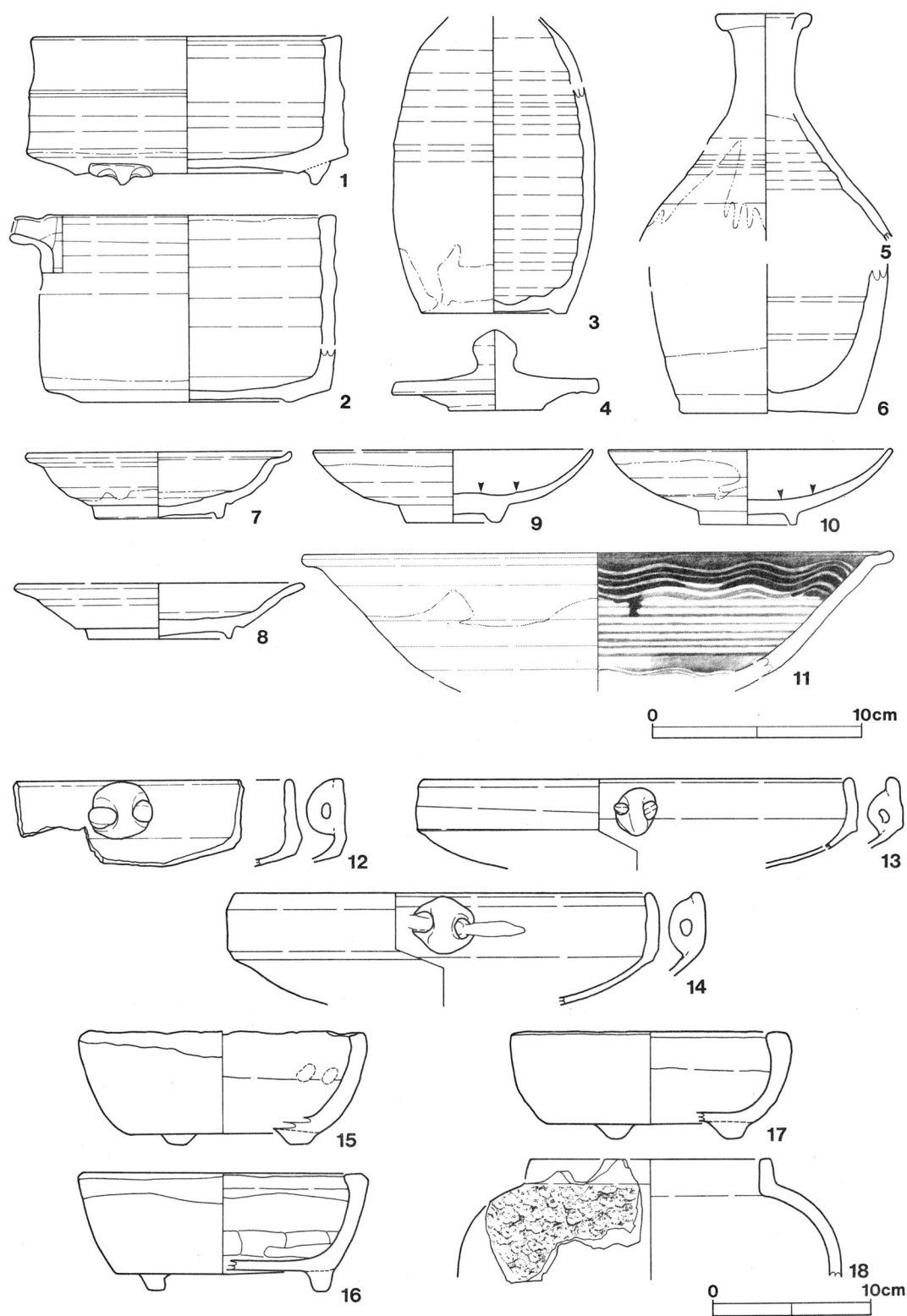
第137図 252号遺構出土陶磁器類 6



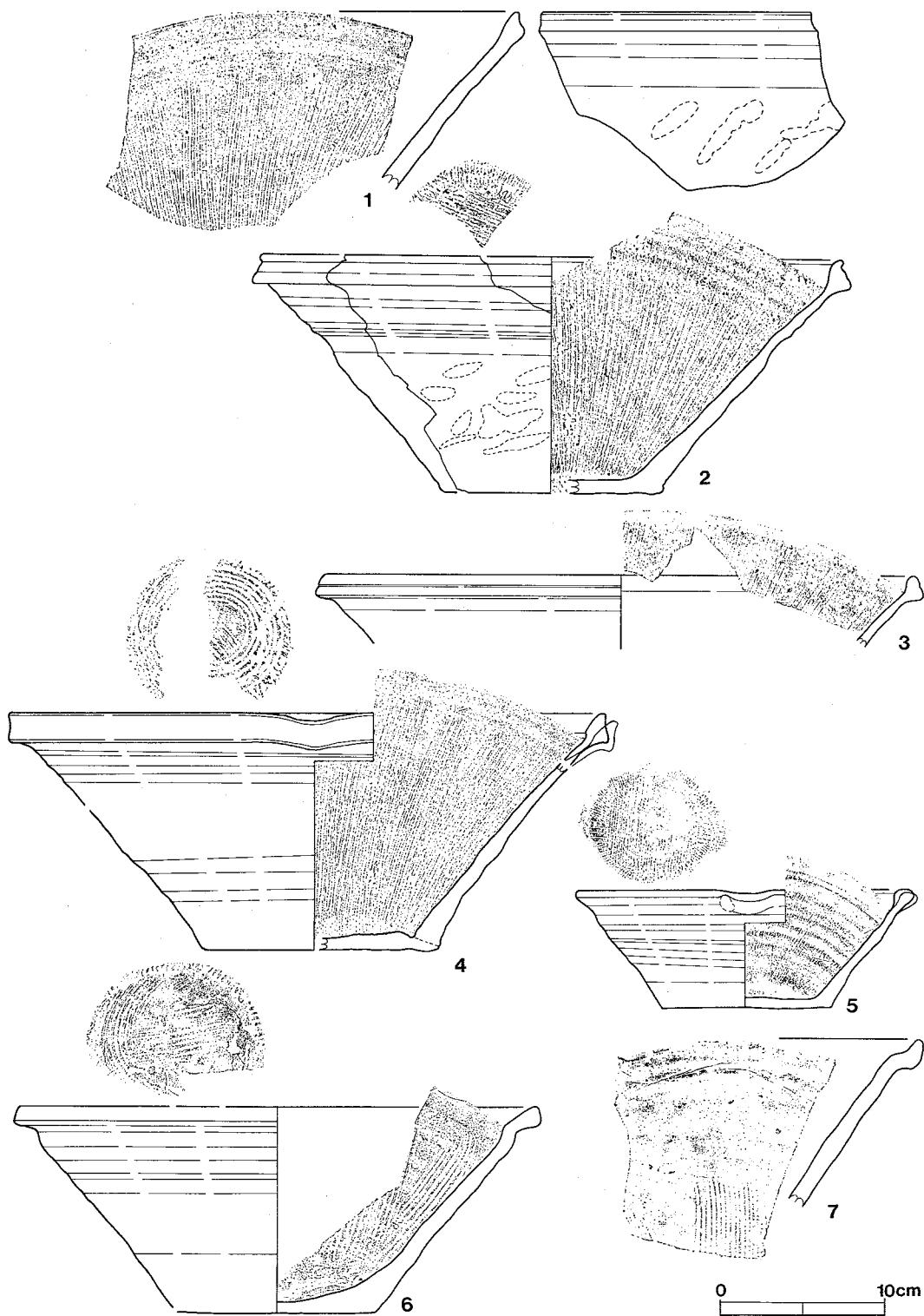
第138図 255 a 号遺構出土陶磁器類 1



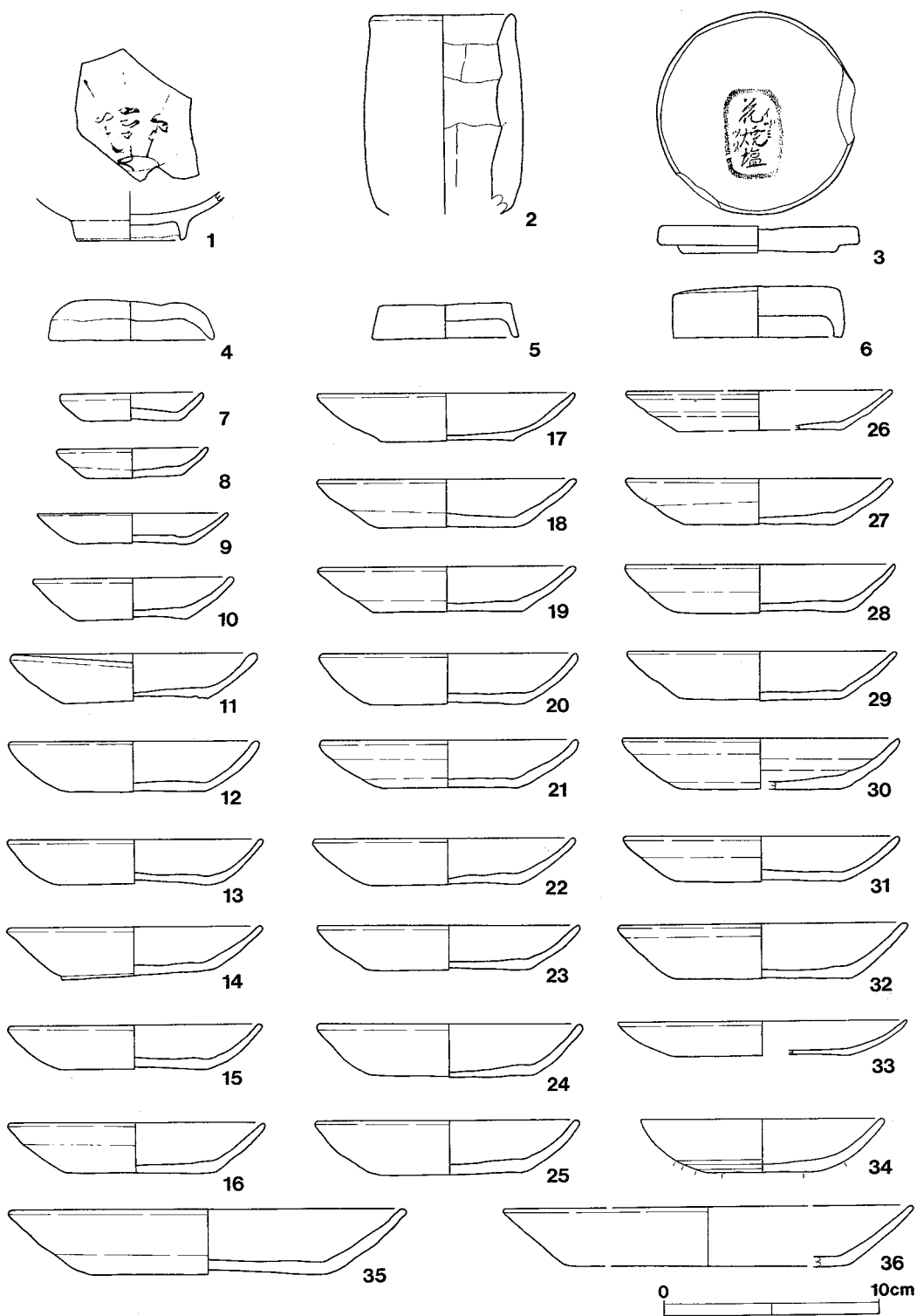
第139図 255 a号遺構出土陶磁器類 2



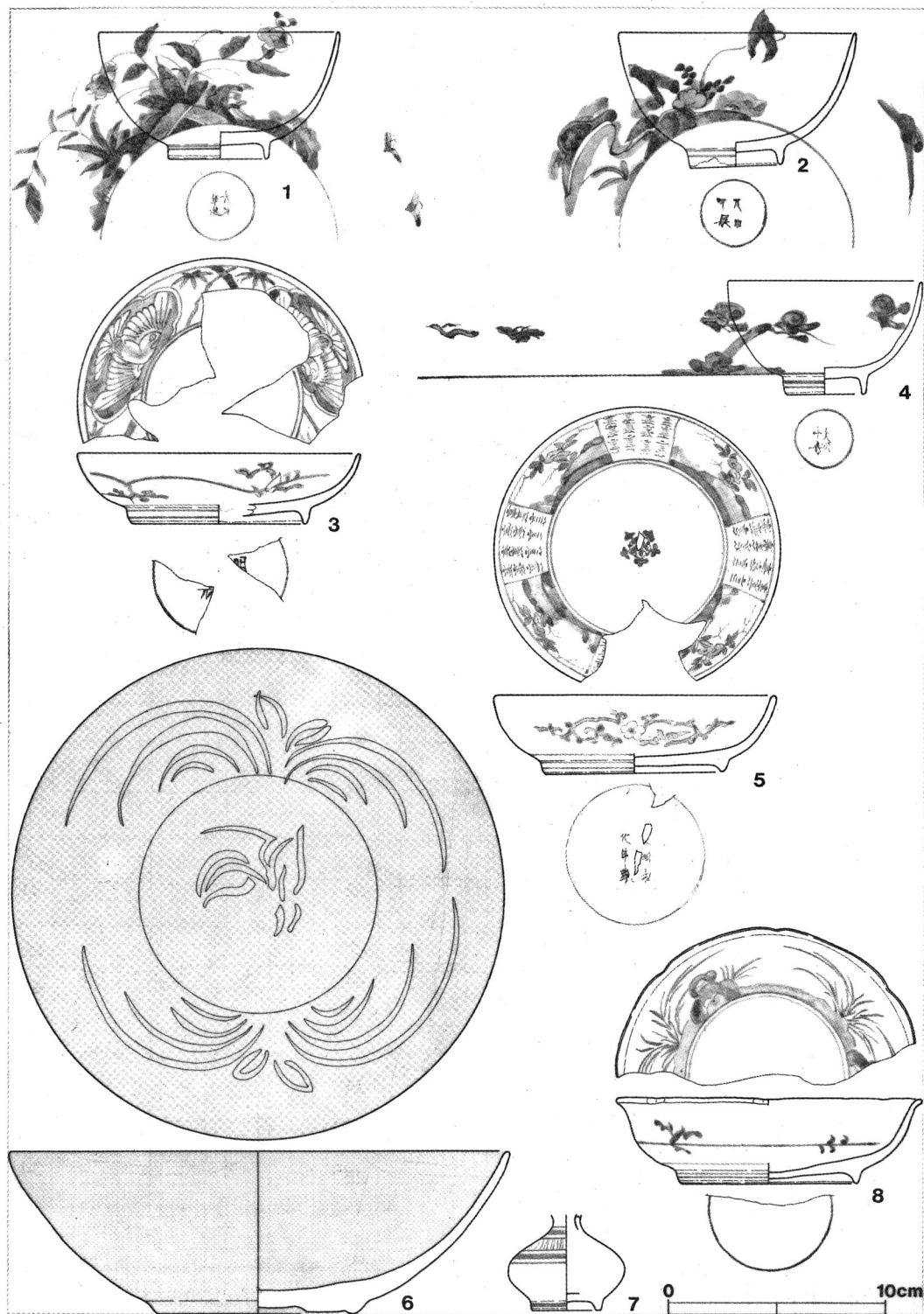
第140図 255 a号遺構出土陶磁器類 3



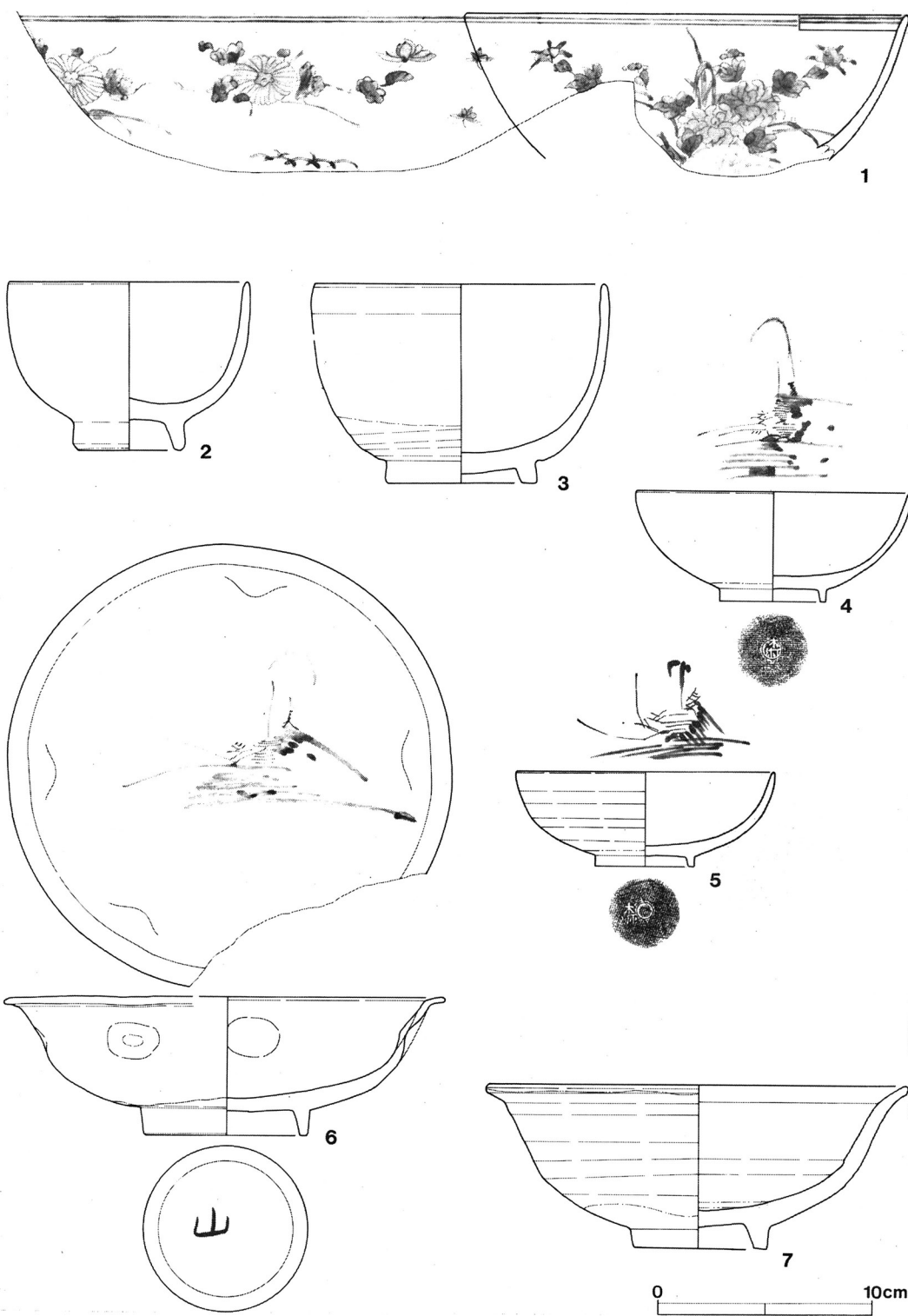
第141図 255a号遺構出土陶磁器類 4



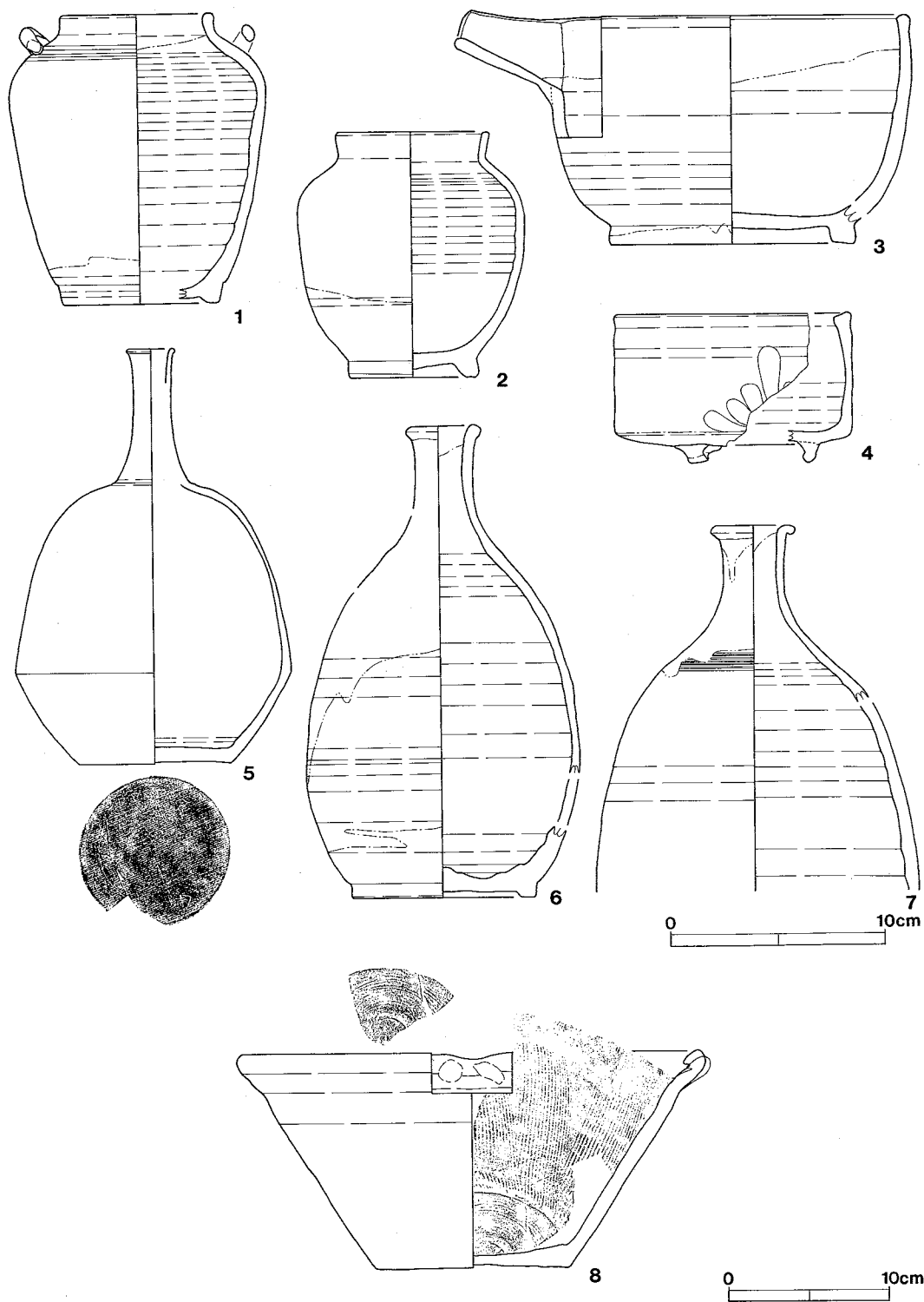
第142図 255a号遺構出土陶磁器類 5



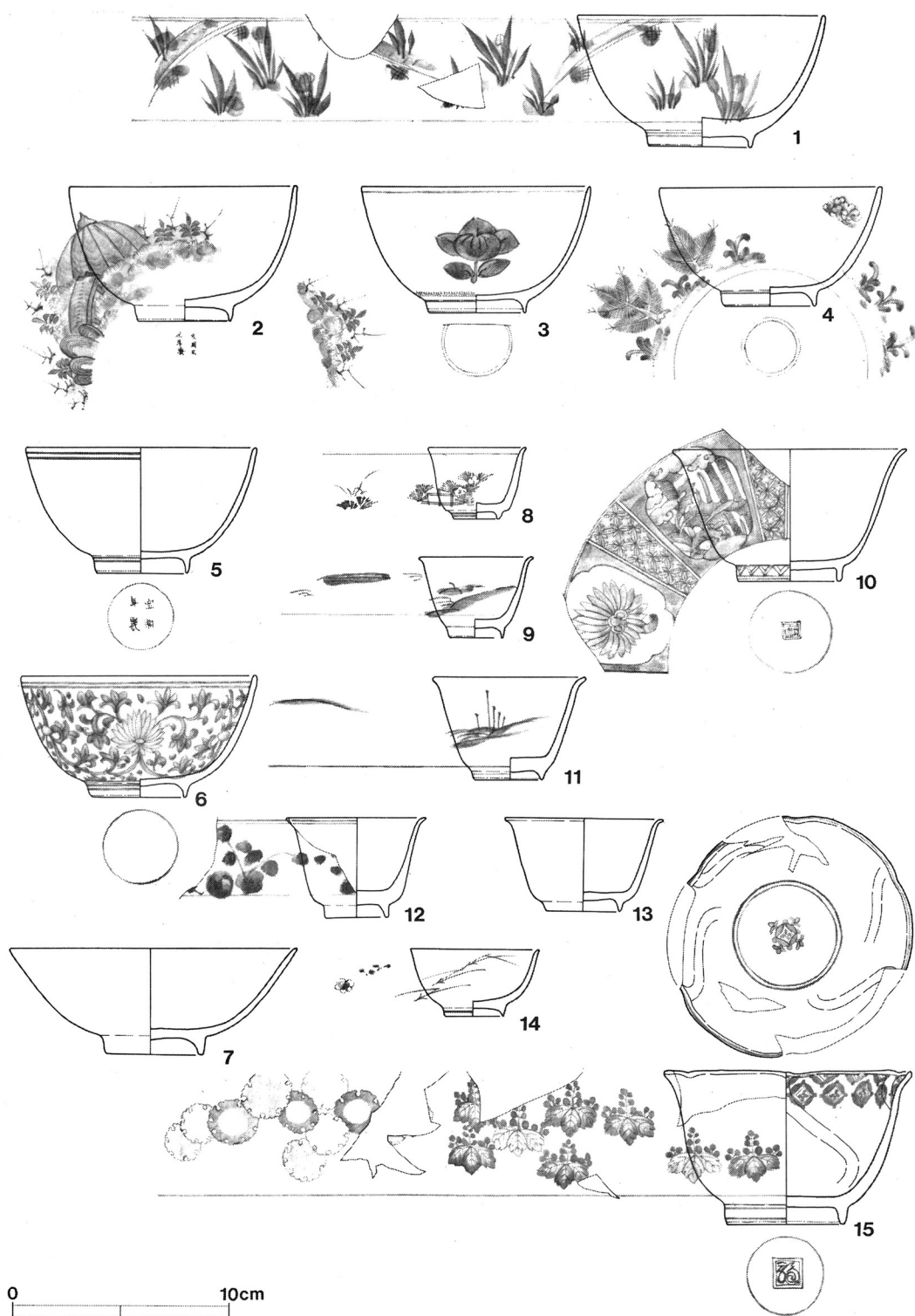
第143図 271号遺構出土陶磁器類 1



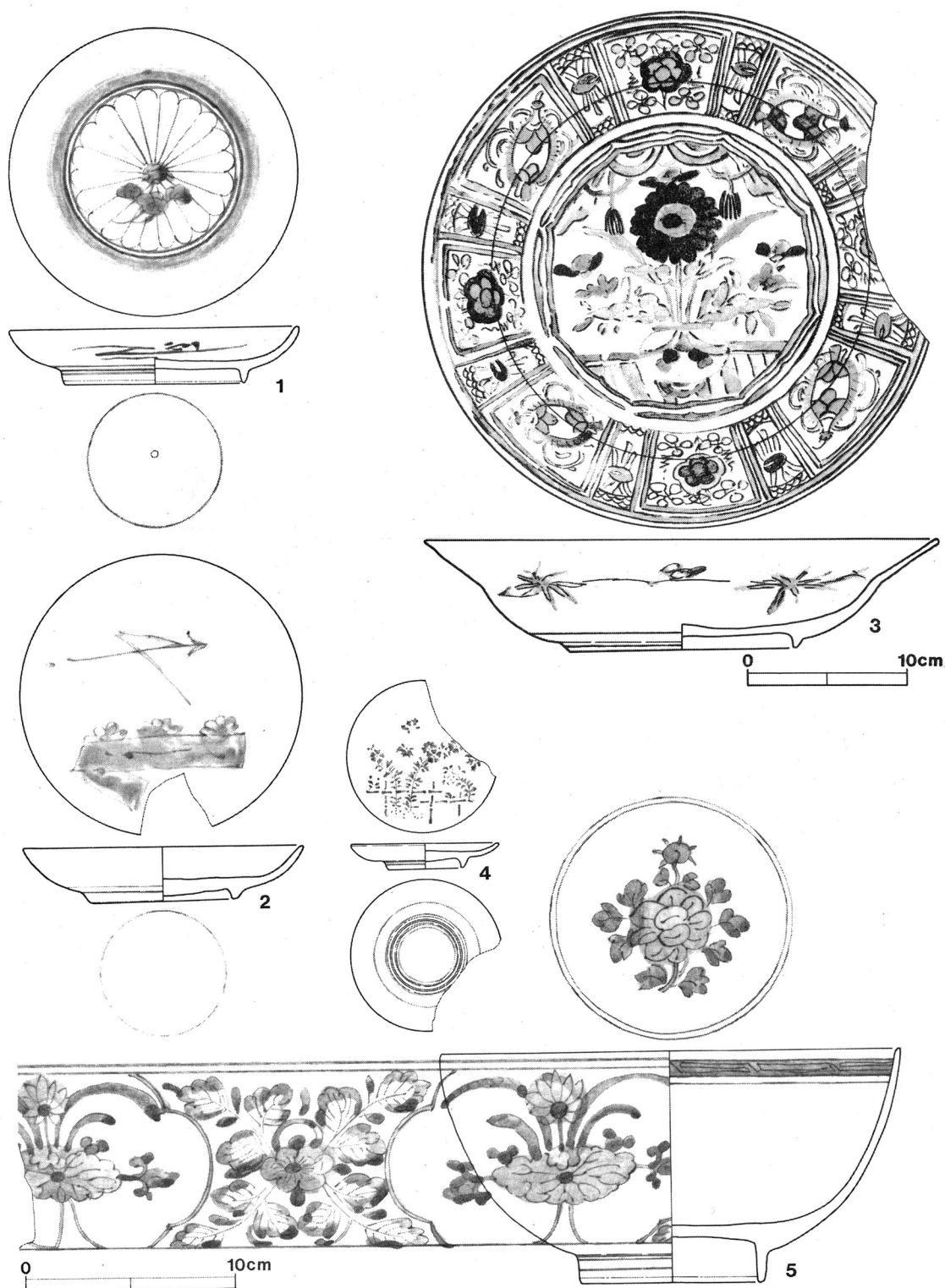
第144図 271号遺構出土陶磁器類 2



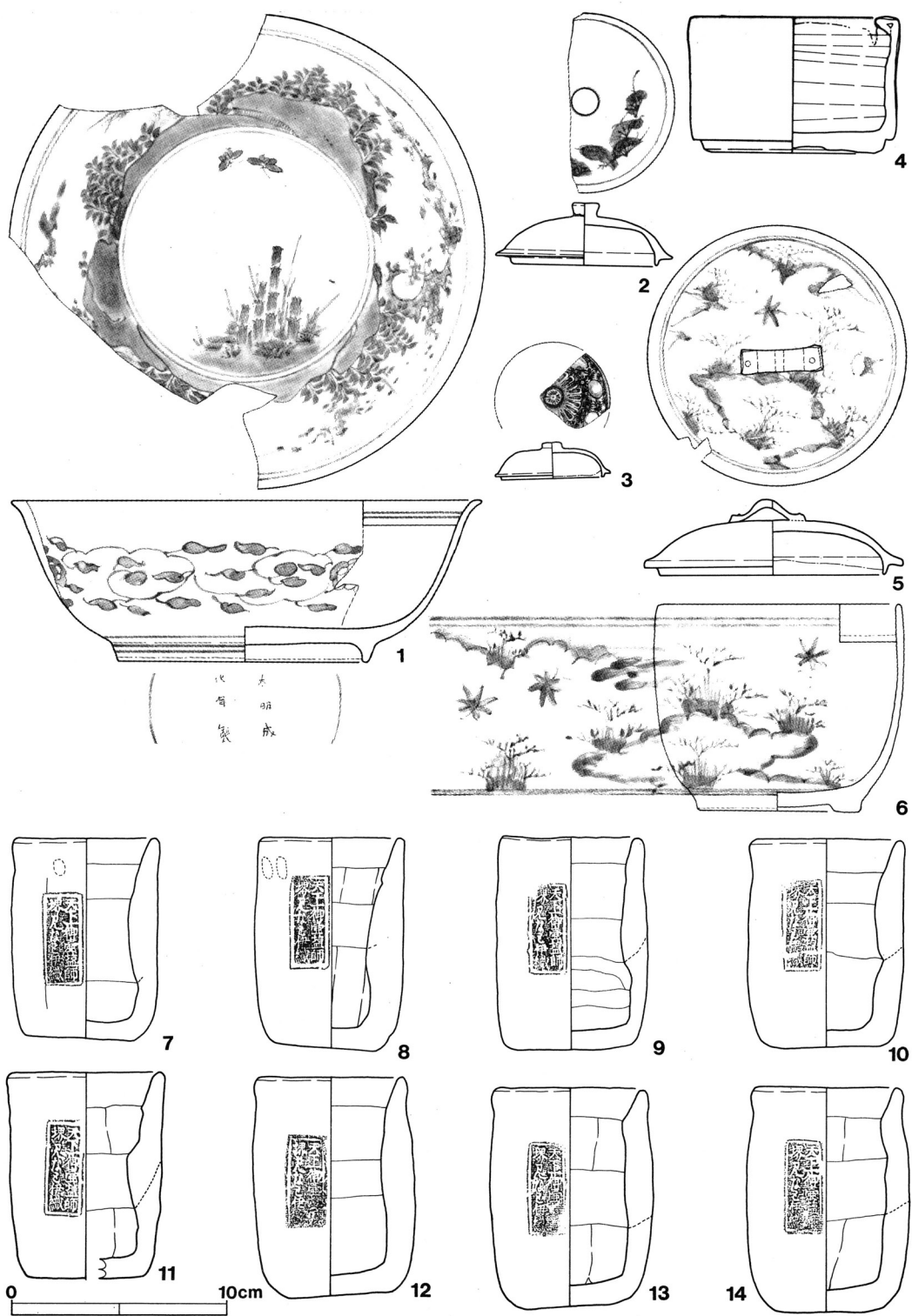
第145図 271号遺構出土陶磁器類 3



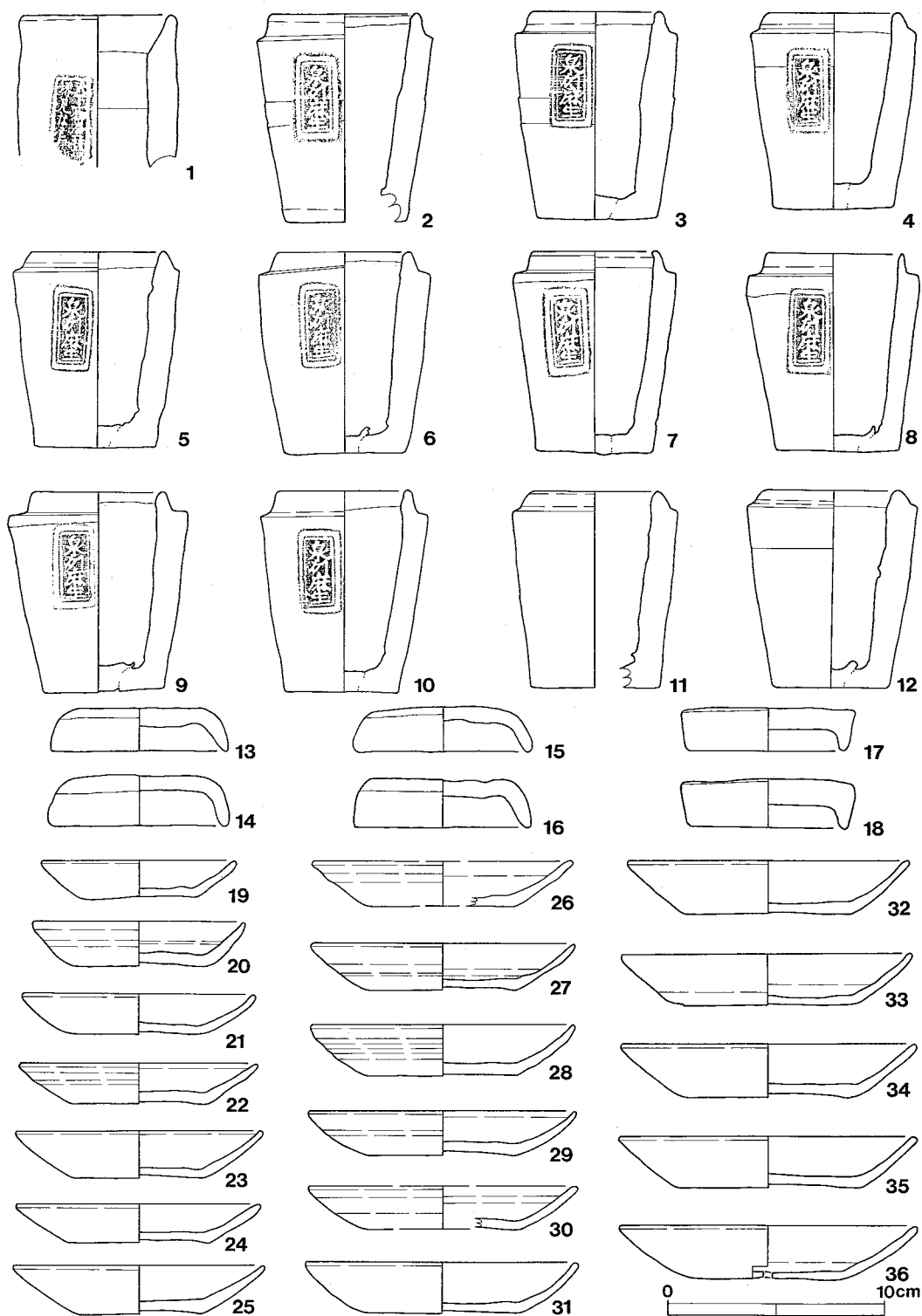
第146図 391号遺構出土陶磁器類 1



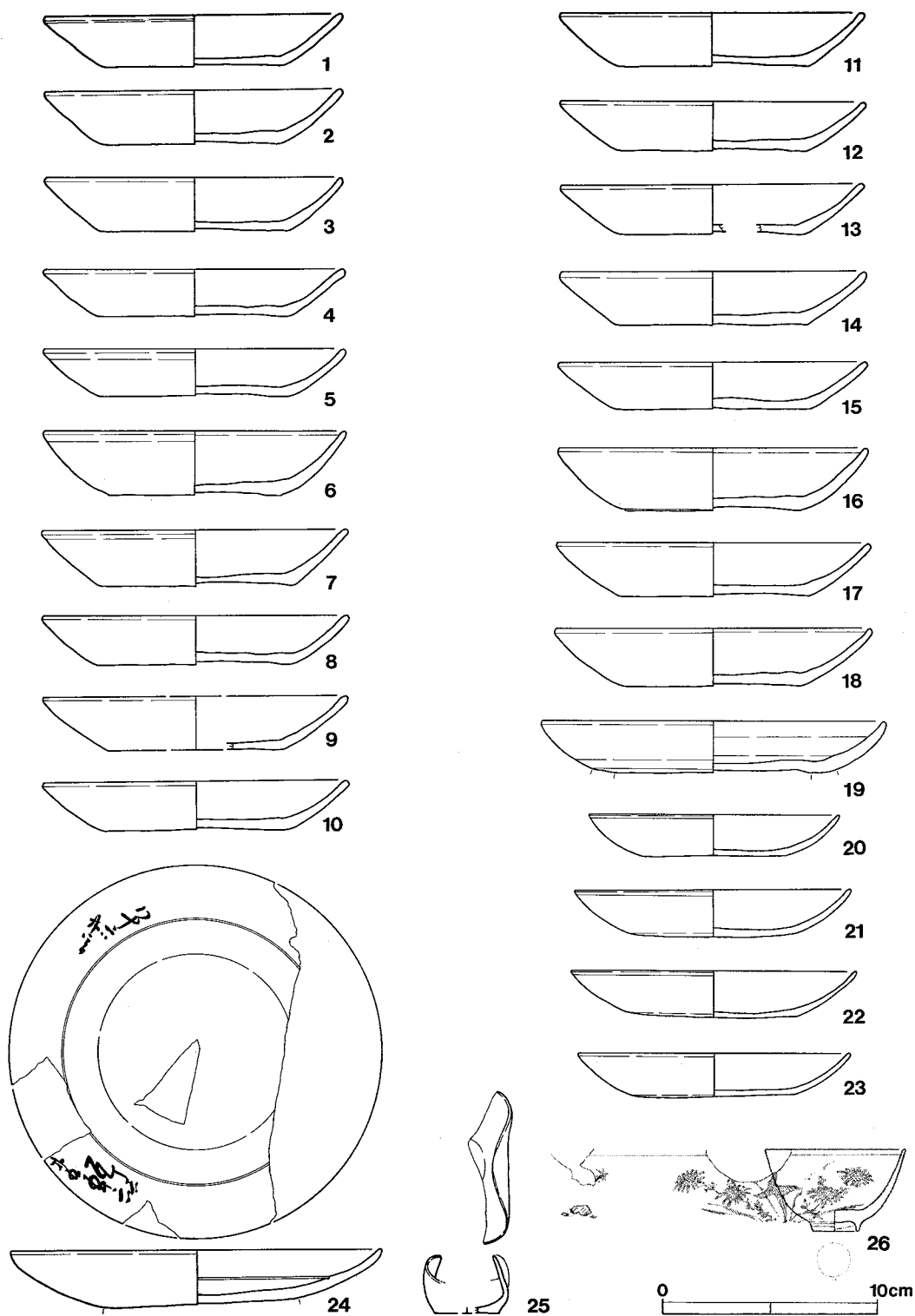
第147図 391号遺構出土陶磁器類 2



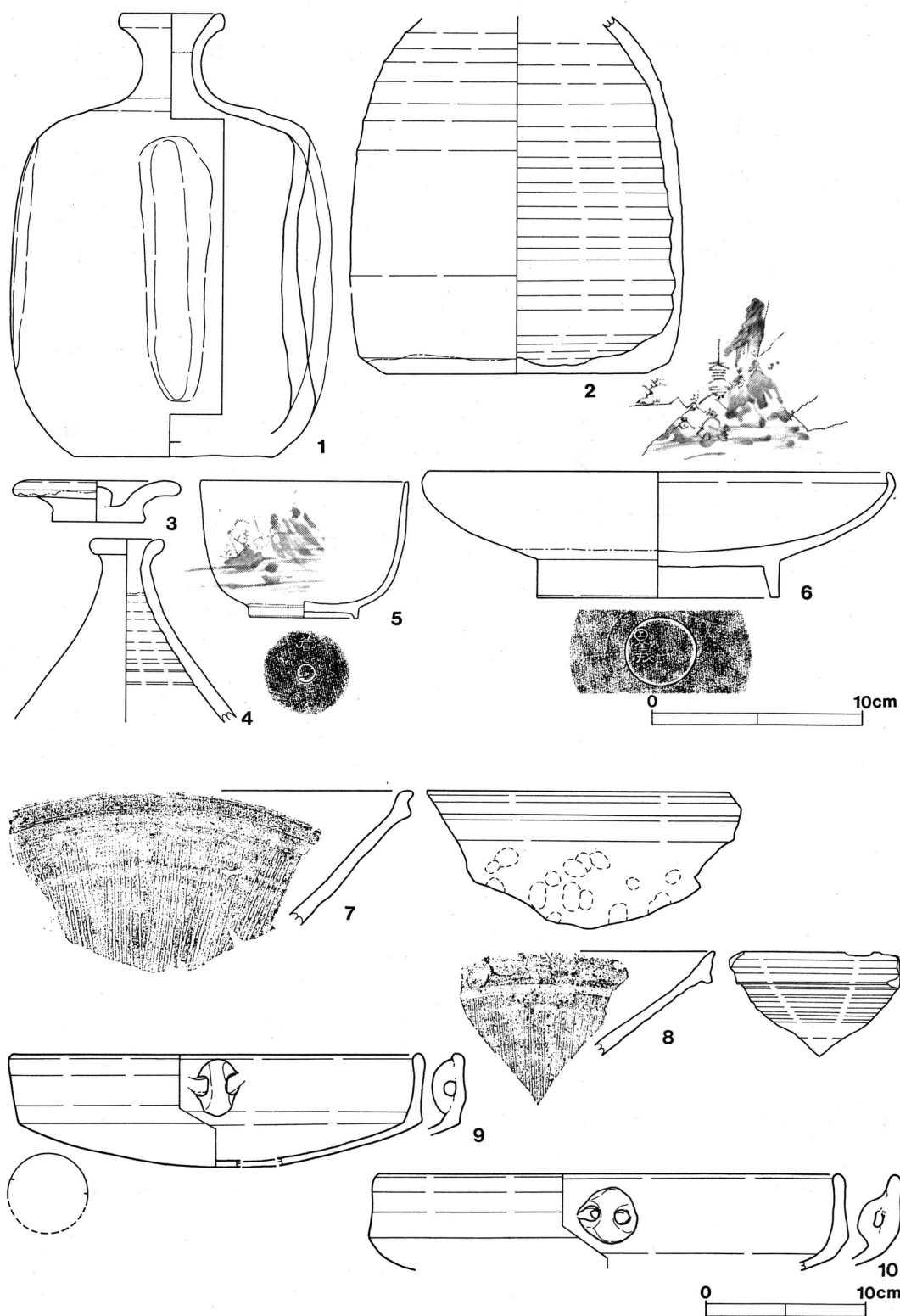
第148图 391号遺構出土陶磁器類 3



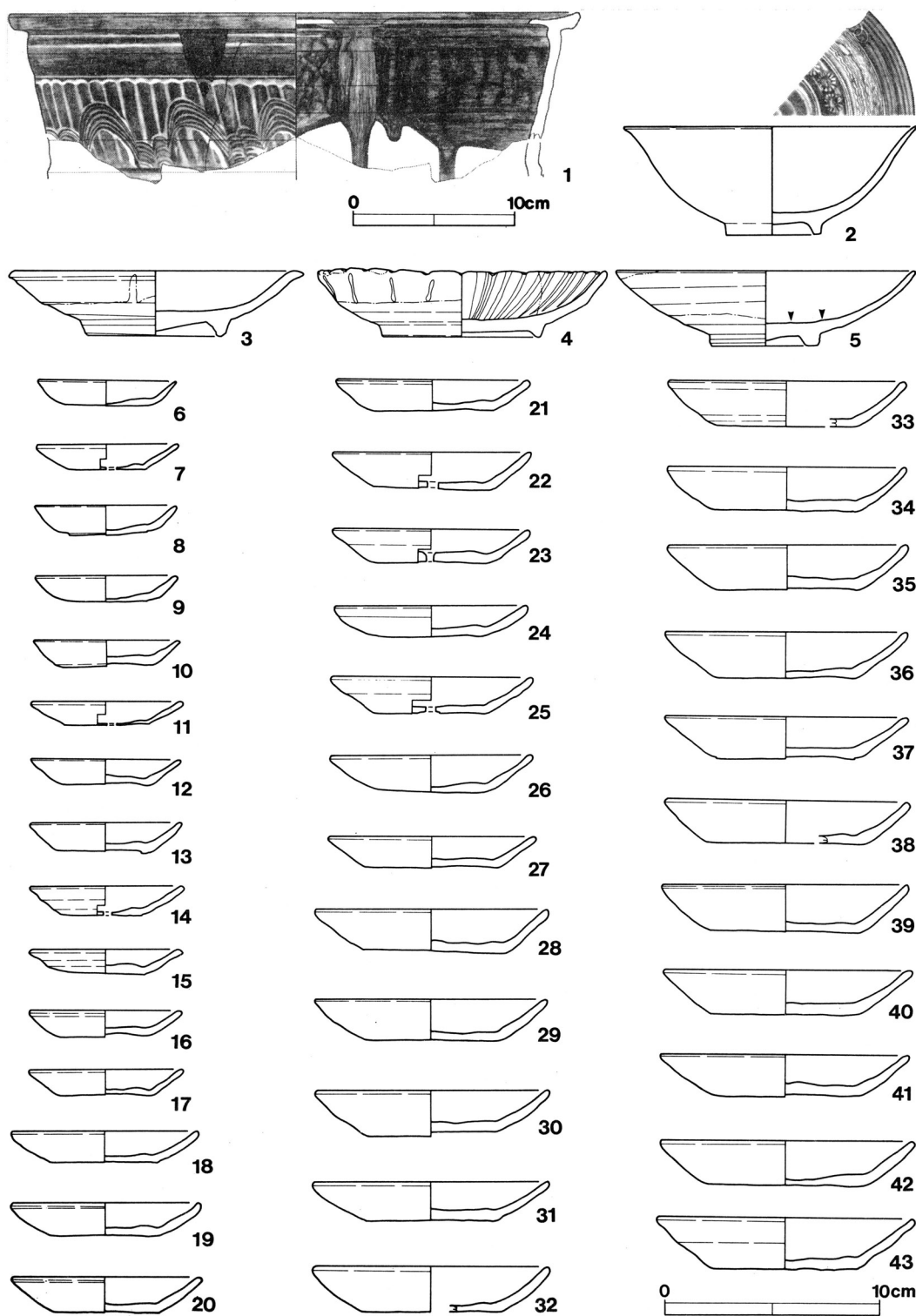
第149図 391号遺構出土陶磁器類 4



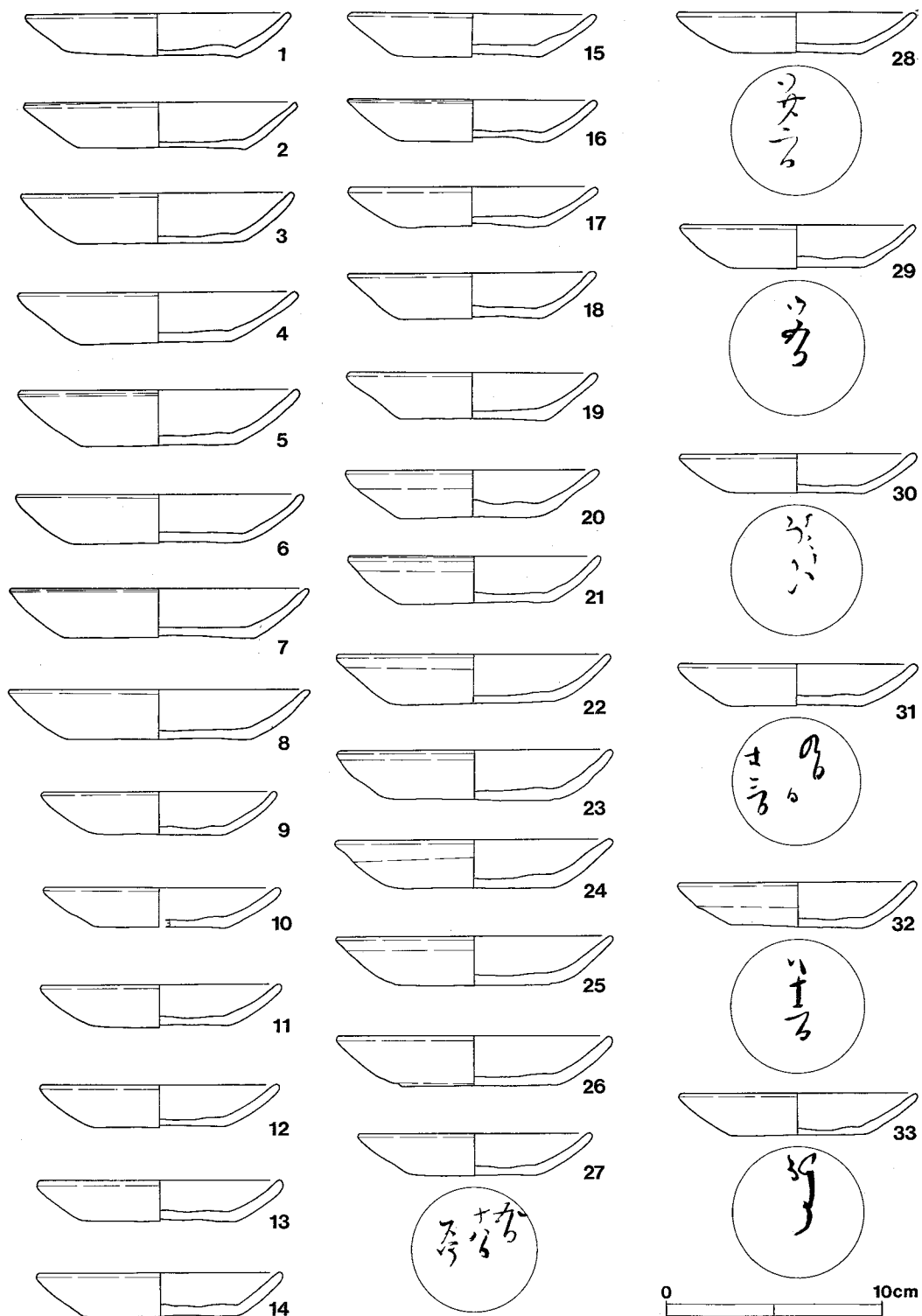
第150図 391号遺構出土陶磁器類 5



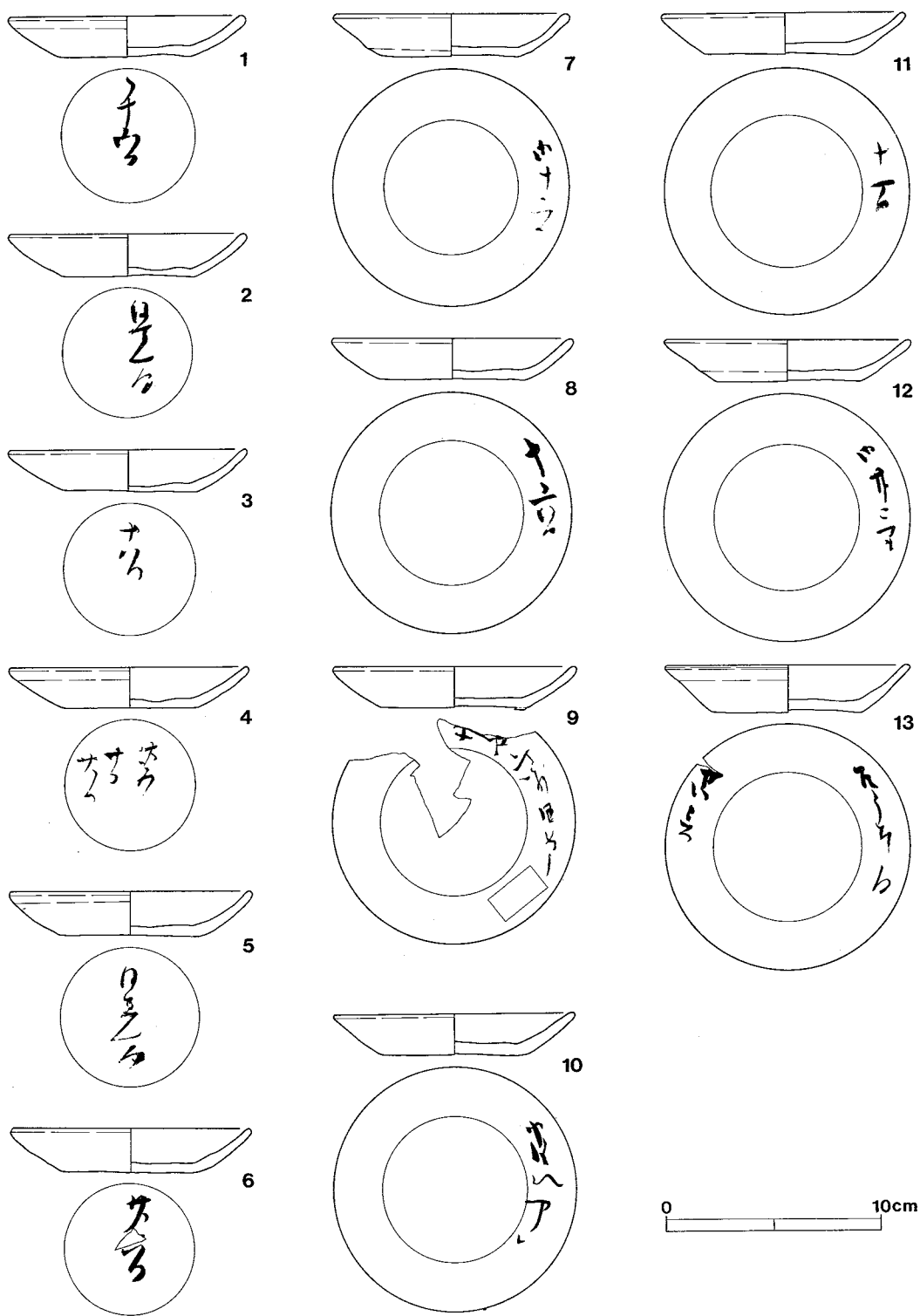
第151図 391号遺構出土陶磁器類 6



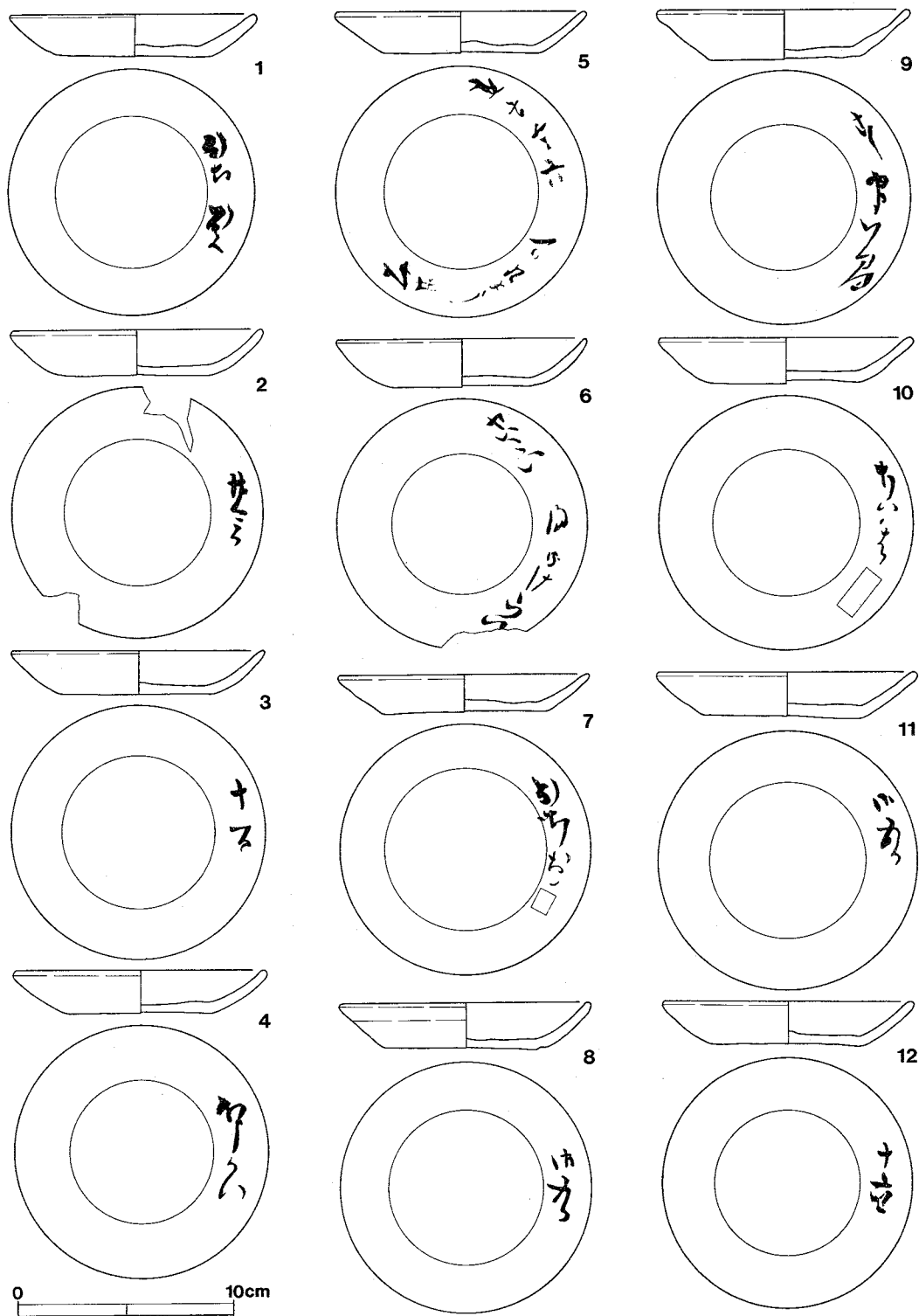
第152図 395号遺構出土陶磁器類 1



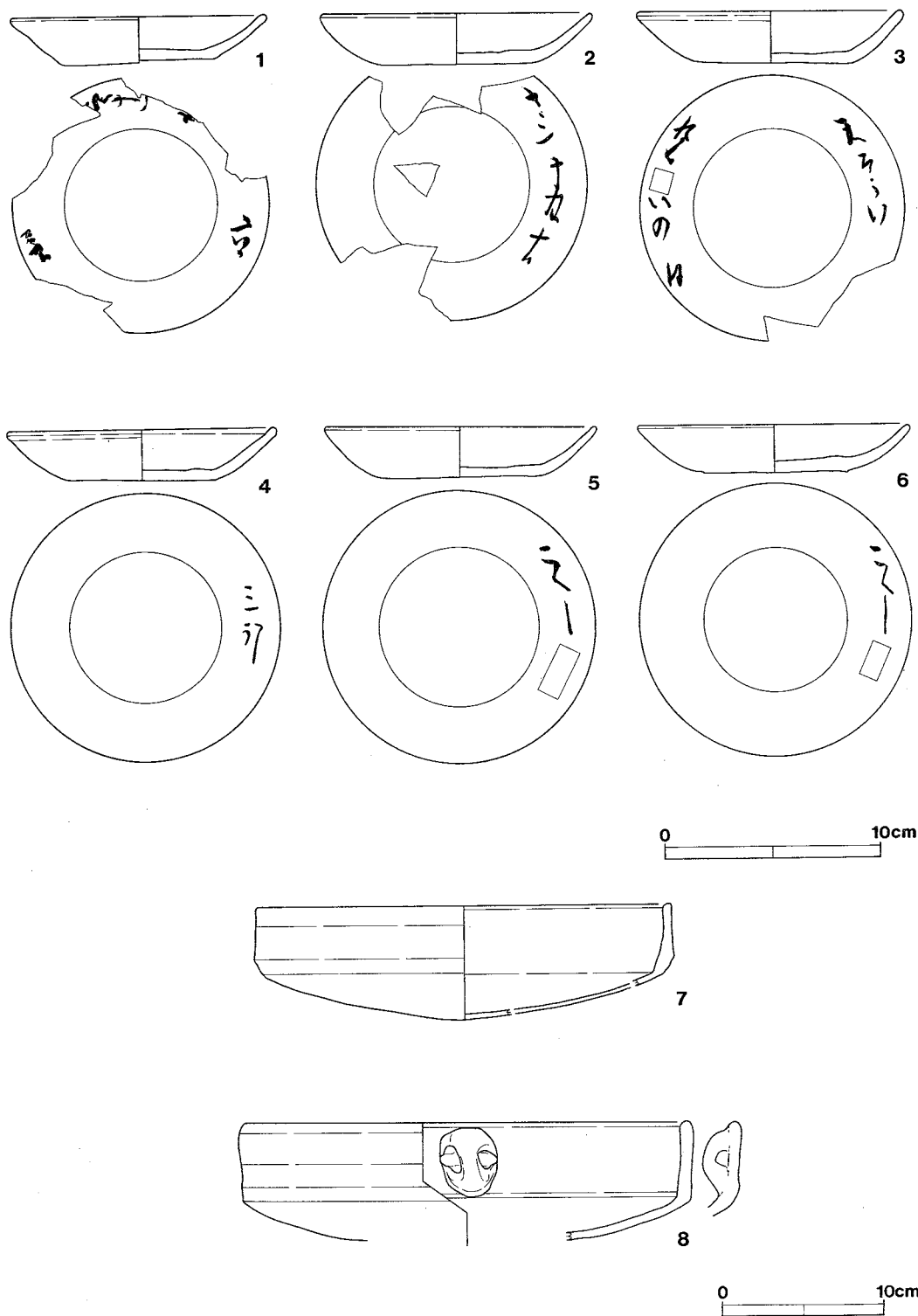
第153図 395号遺構出土陶磁器類 2



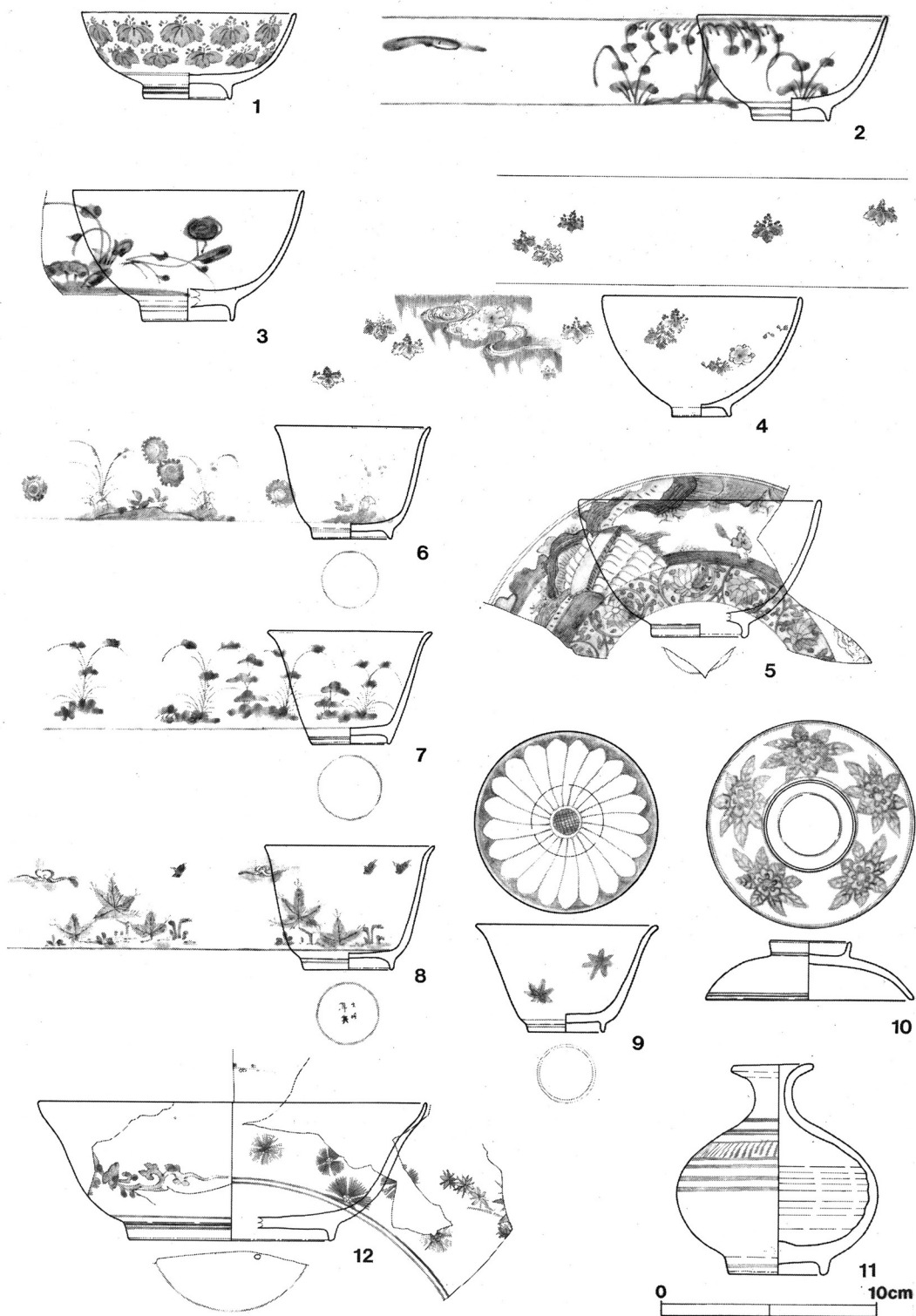
第154図 395号遺構出土陶磁器類 3



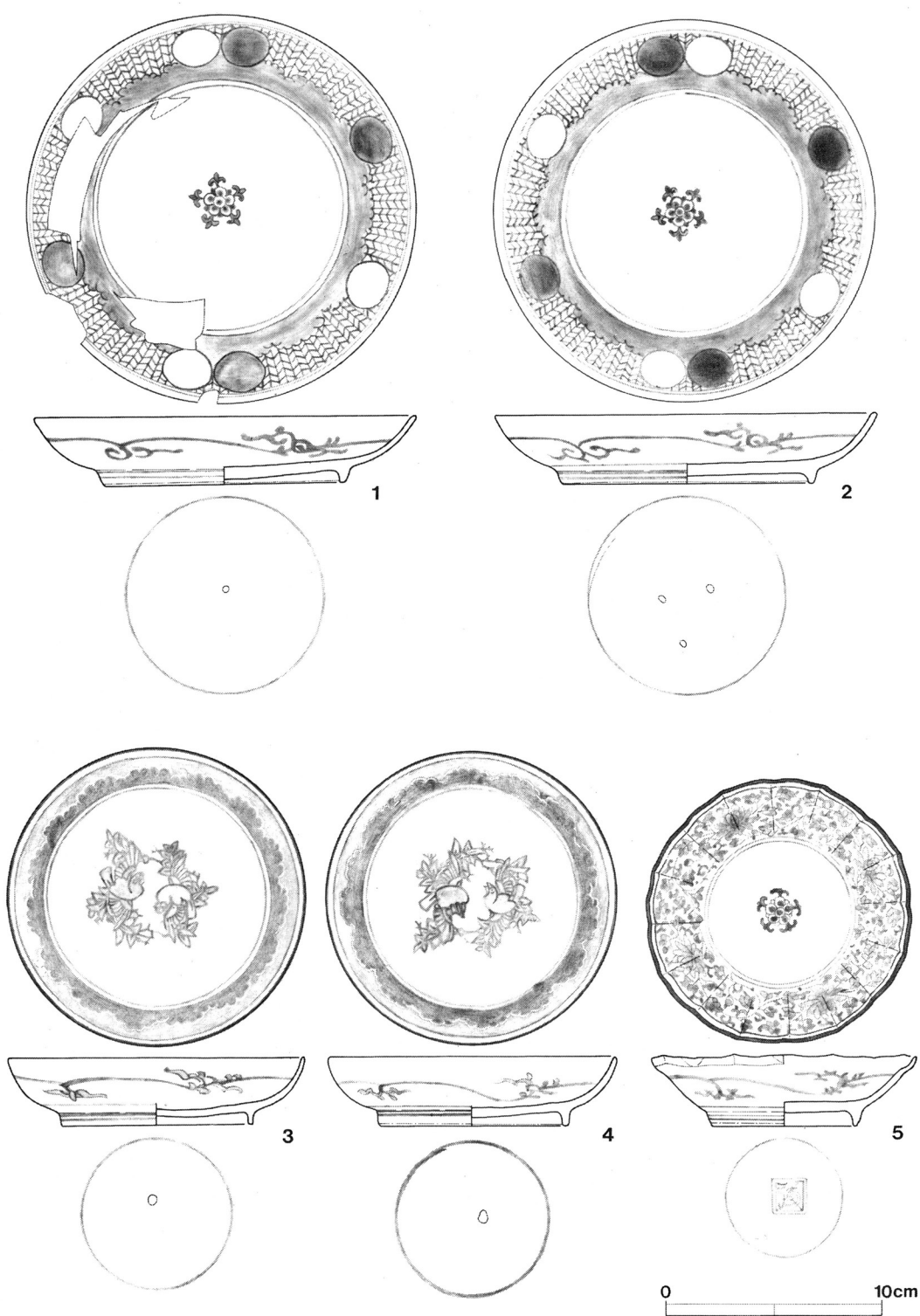
第155図 395号遺構出土陶磁器類 4



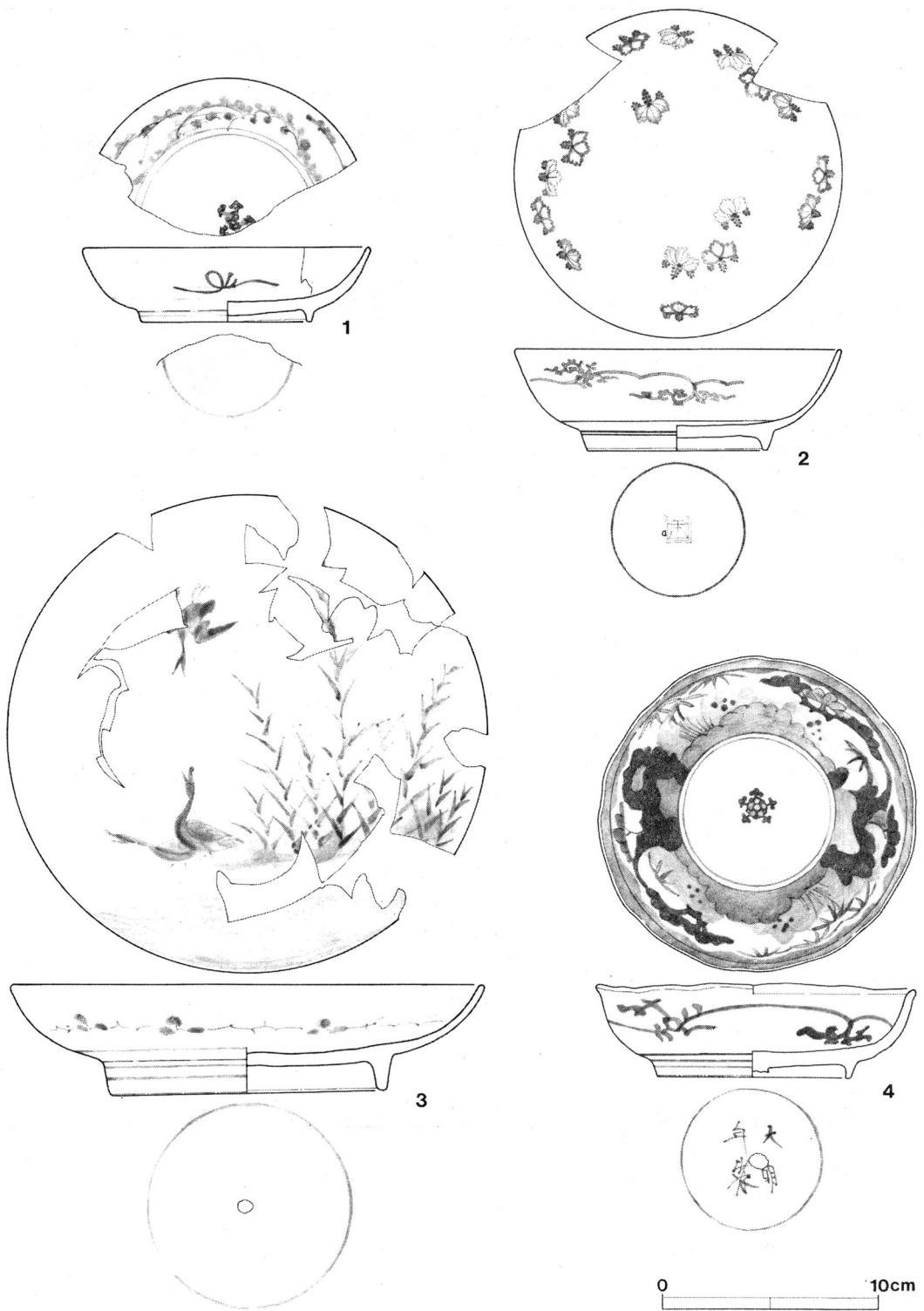
第156図 395号遺構出土陶磁器類 5



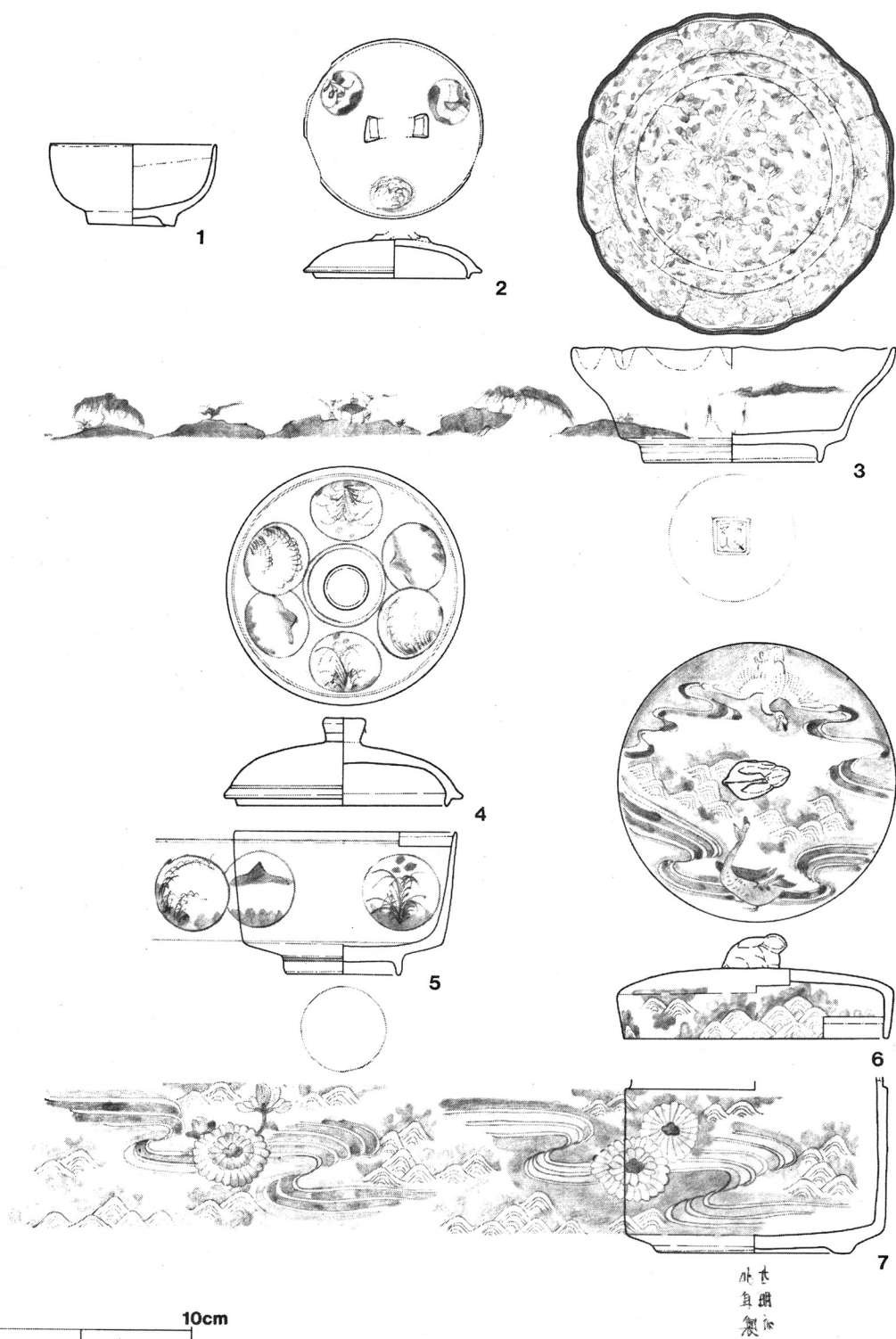
第157図 537号遺構出土陶磁器類 1



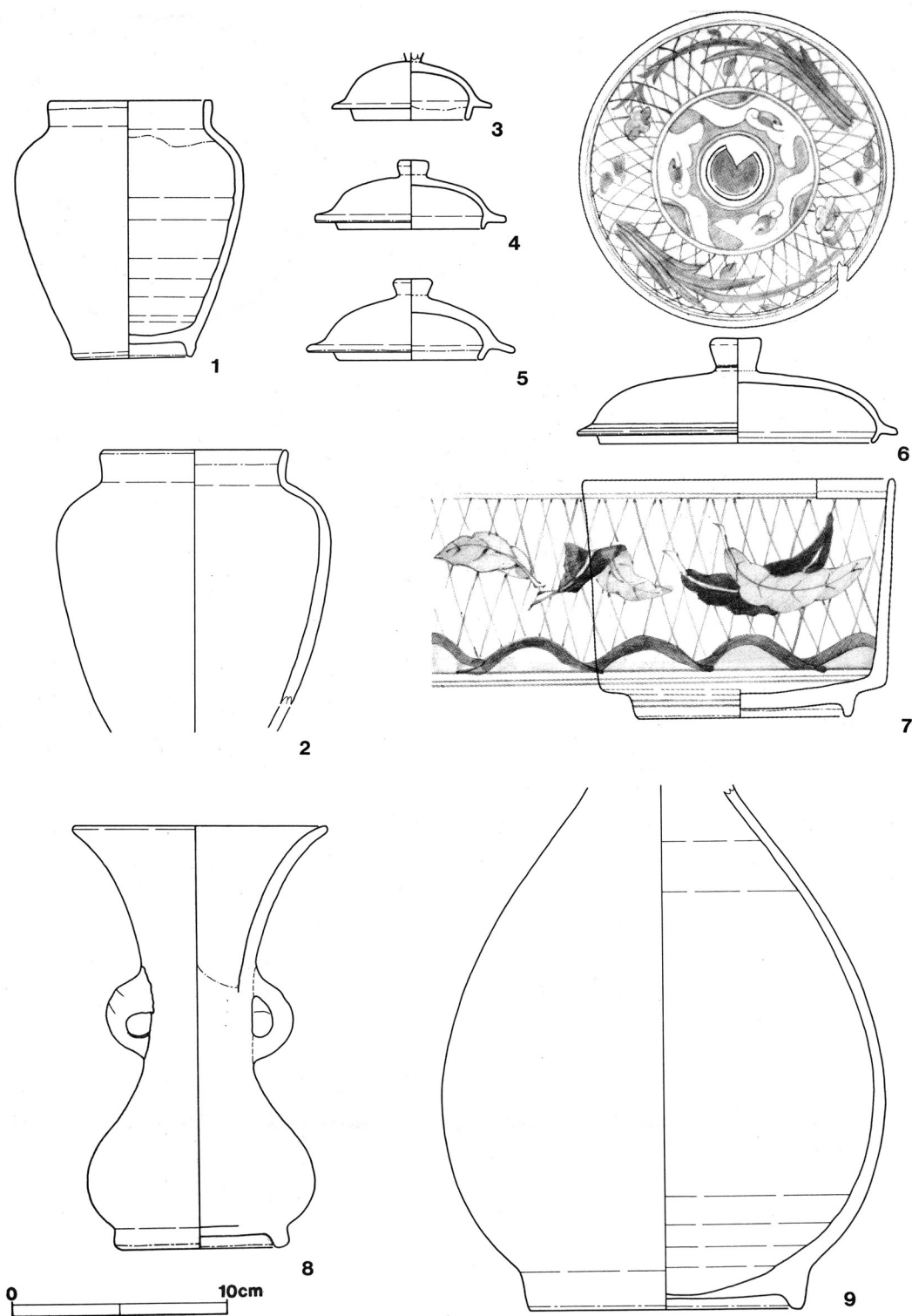
第158図 537号遺構出土陶磁器類 2



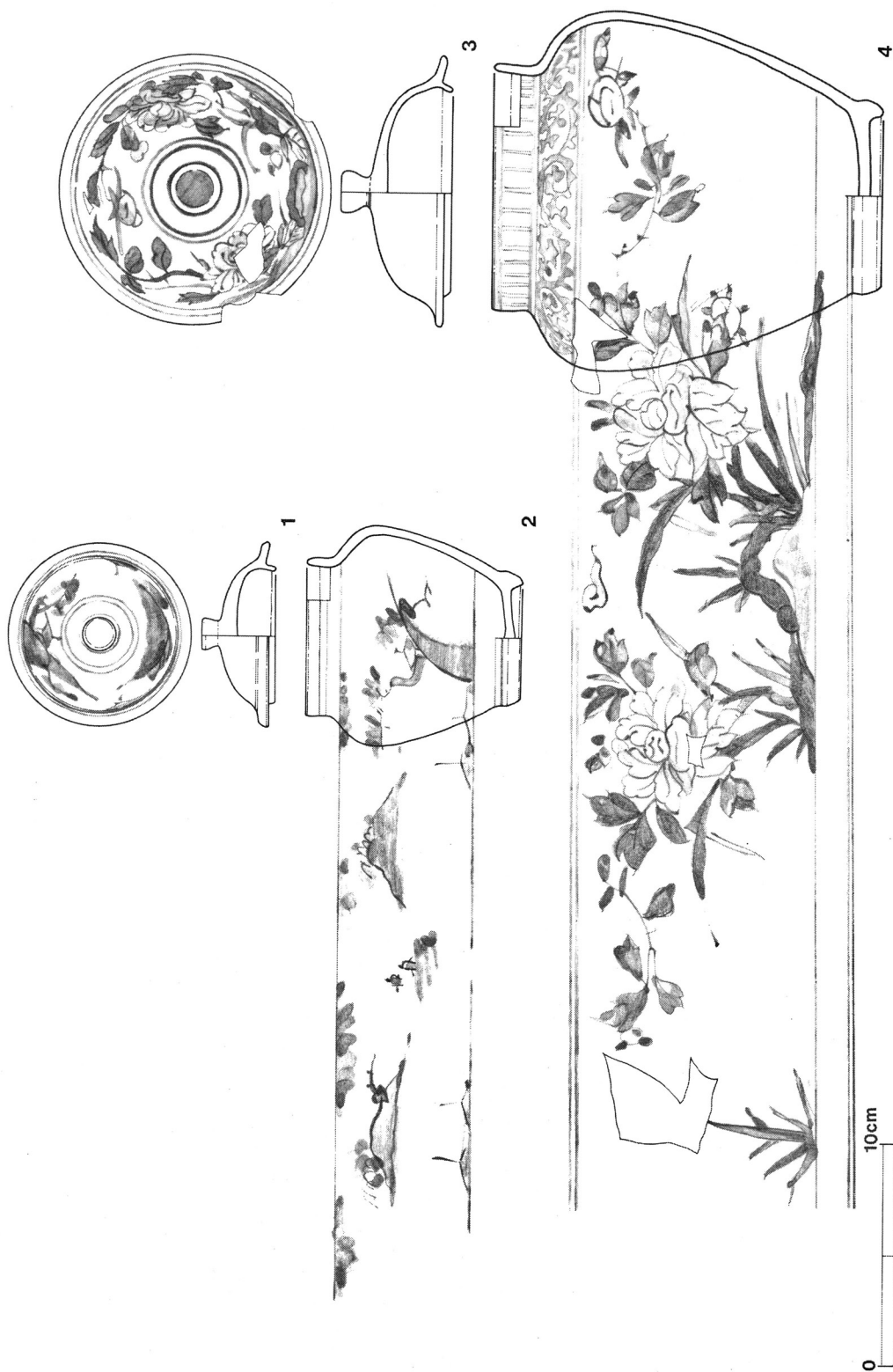
第159図 537号遺構出土陶磁器類 3



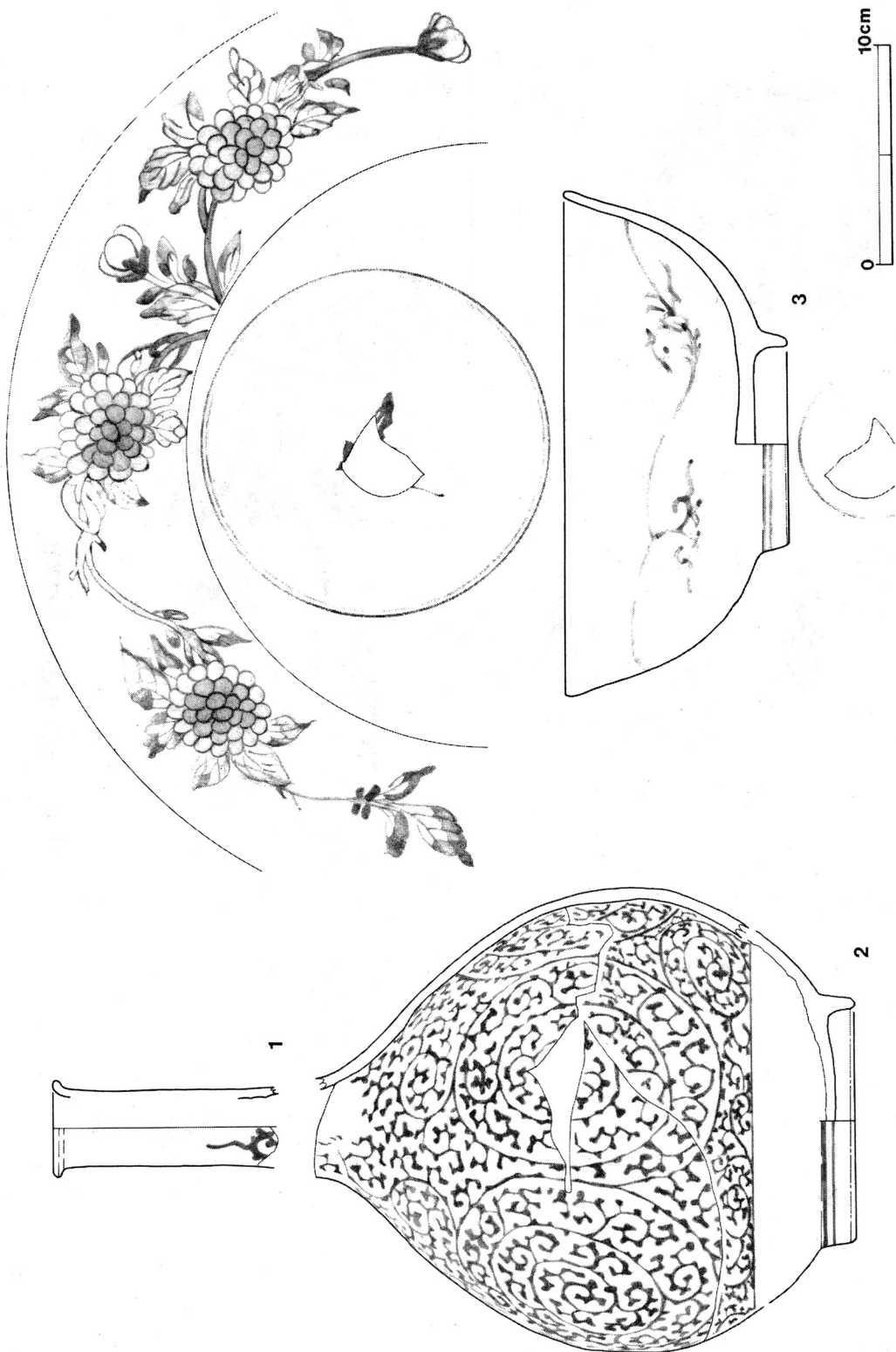
第160図 537号遺構出土陶磁器類 4



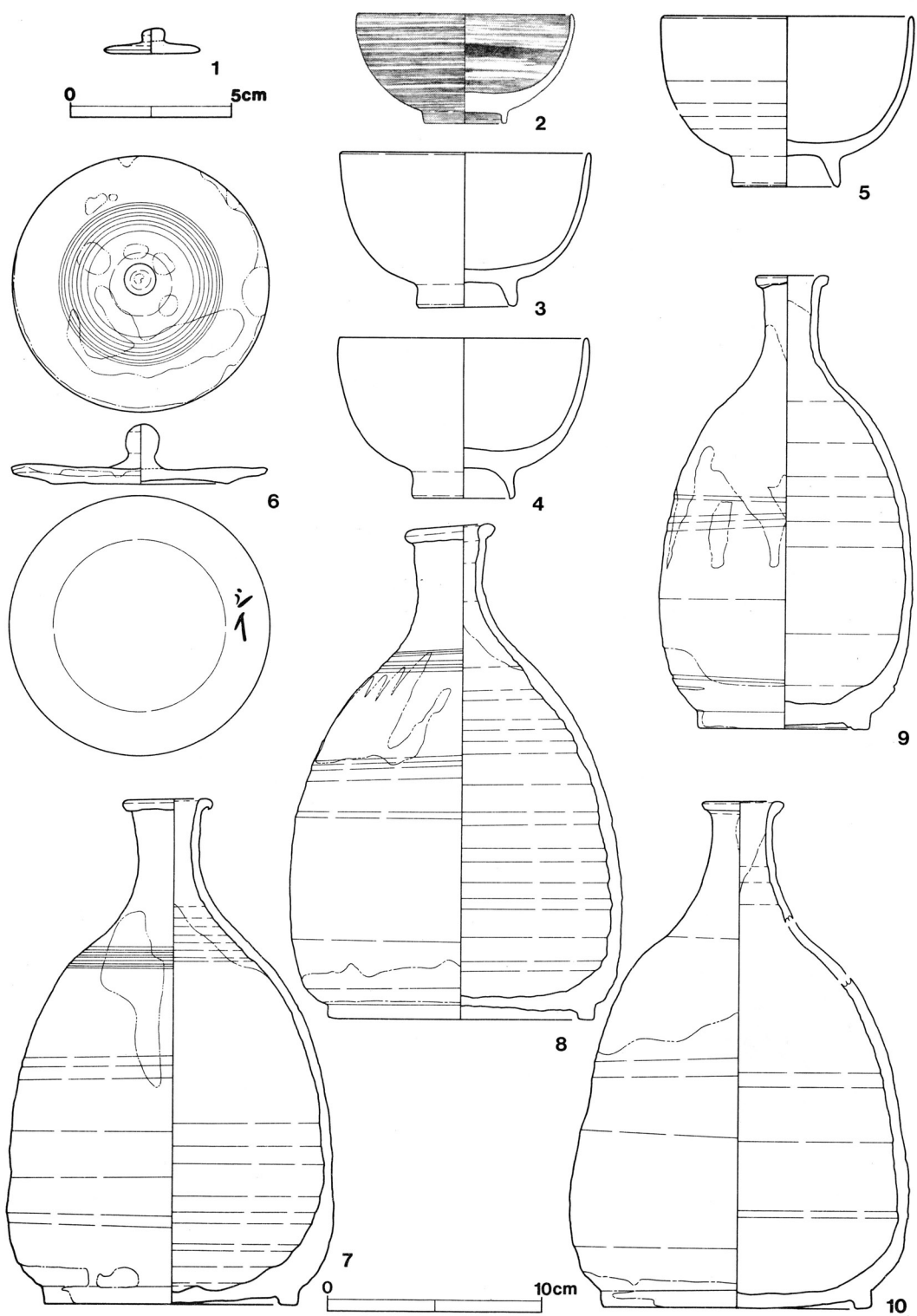
第161図 537号遺構出土陶磁器類 5



第162図 537号遺構出土陶磁器類 6



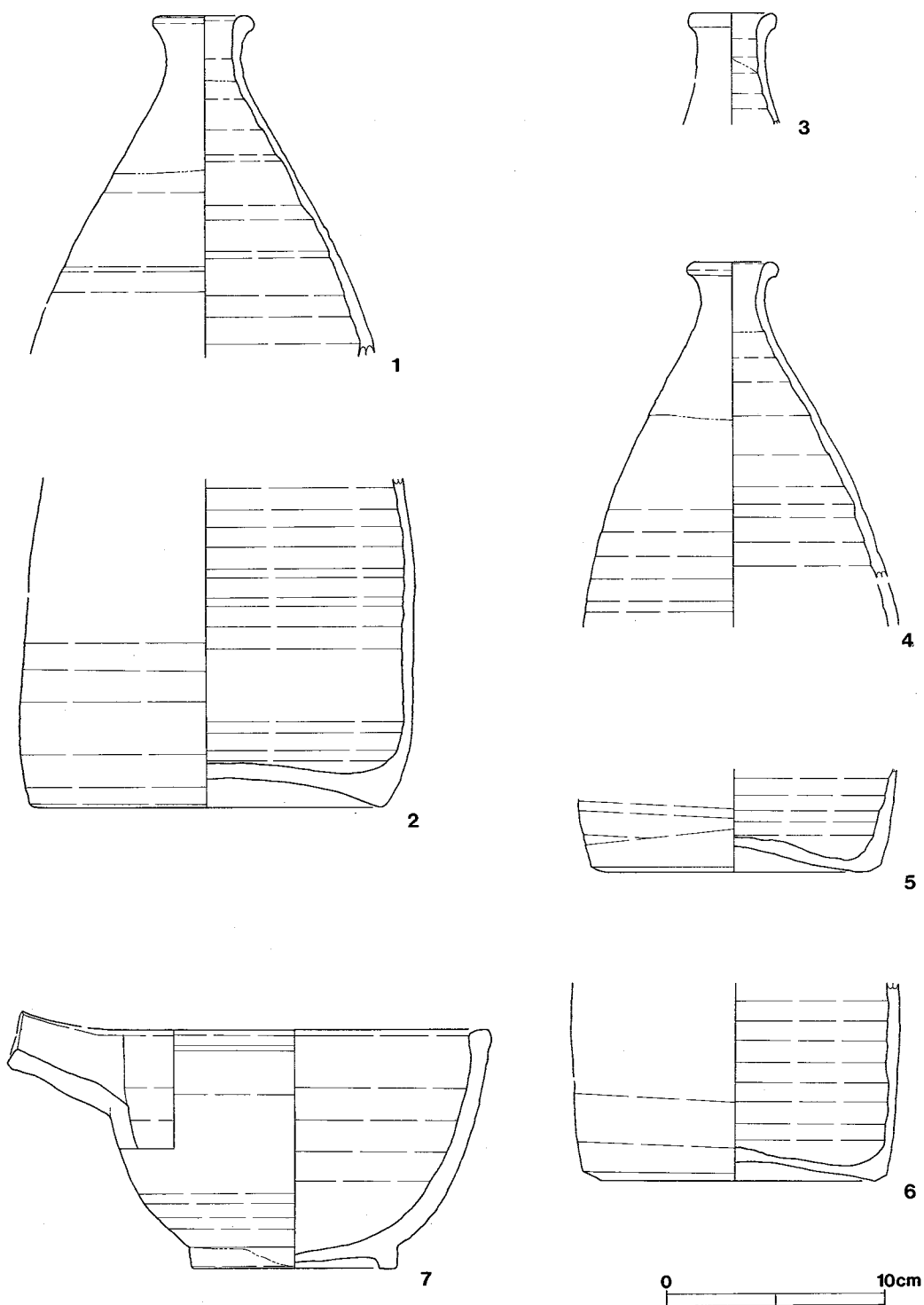
第163图 537号遺構出土陶磁器類 7



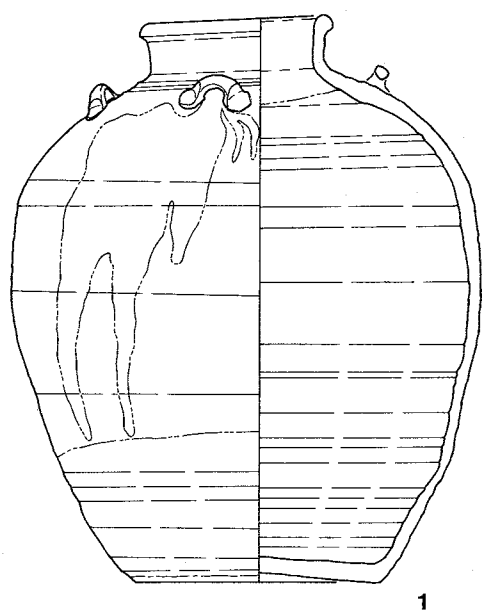
第164図 537号遺構出土陶磁器類 8



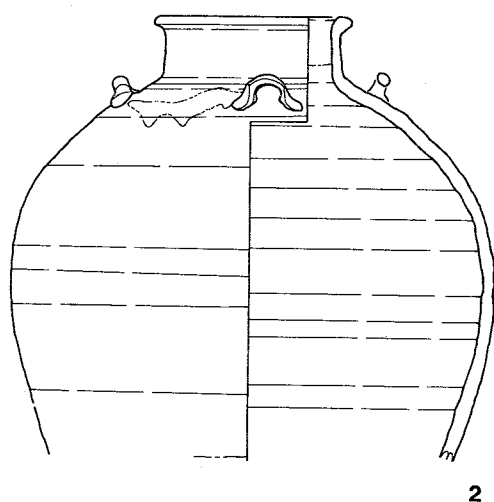
第165図 537号遺構出土陶磁器類9



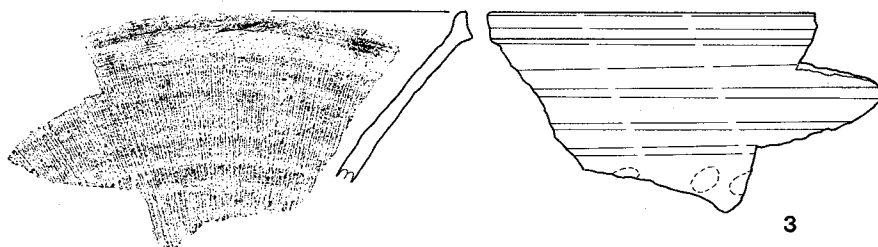
第166図 537号遺構出土陶磁器類10



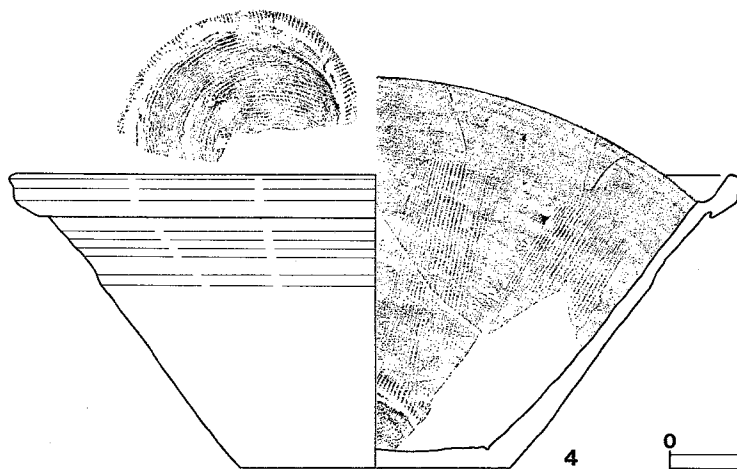
1



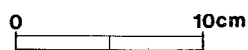
2



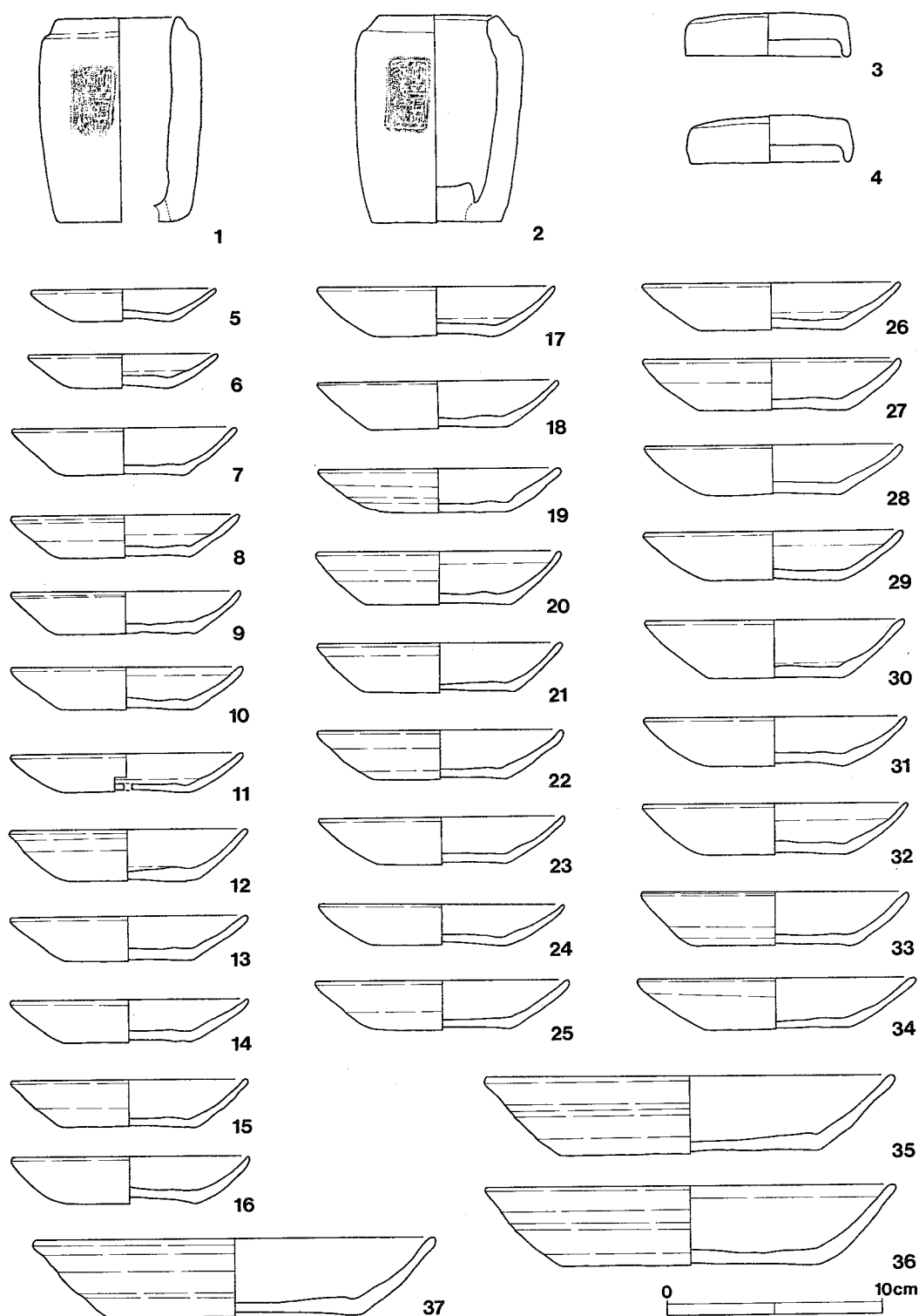
3



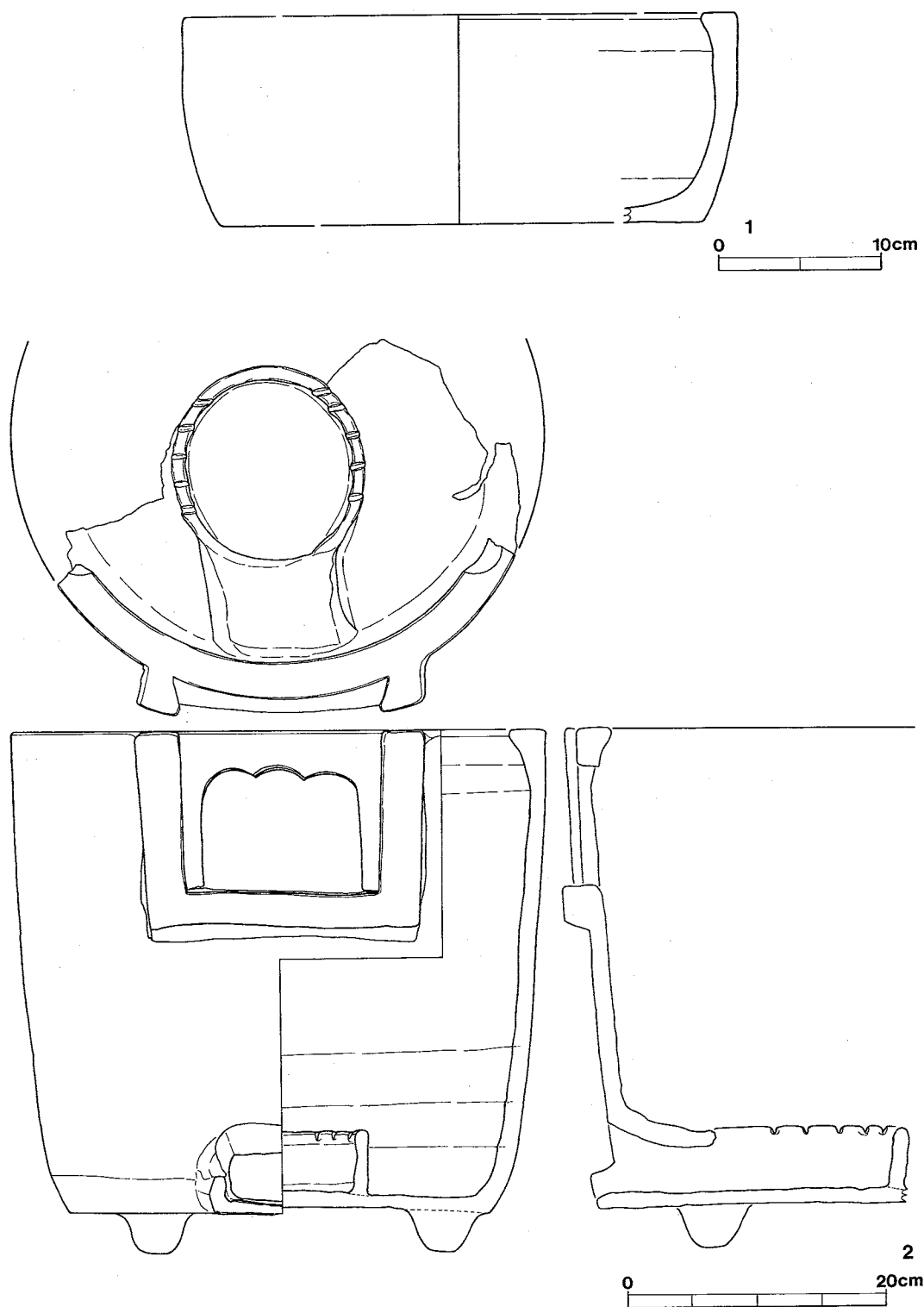
4



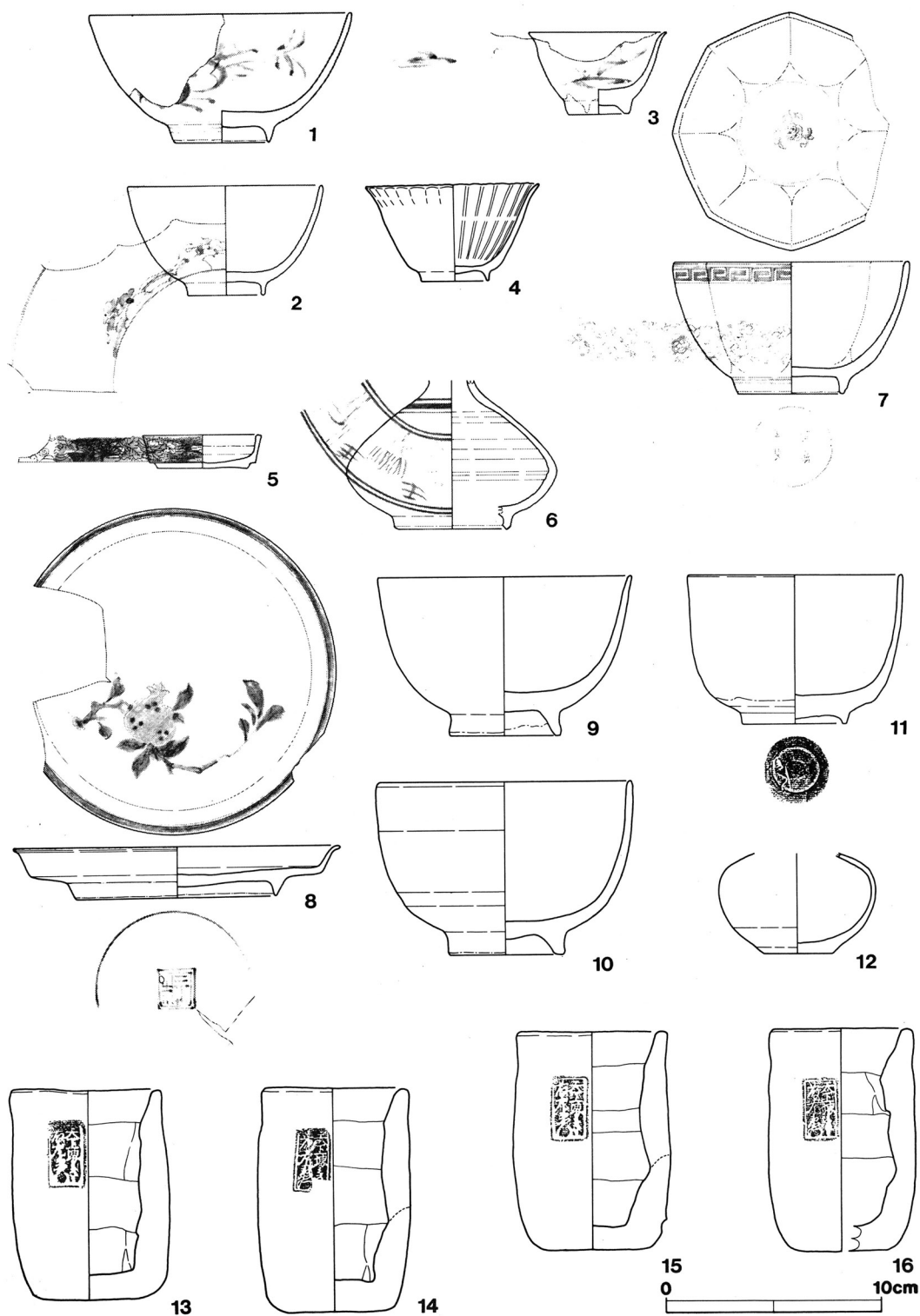
第167図 537号遺構出土陶磁器類11



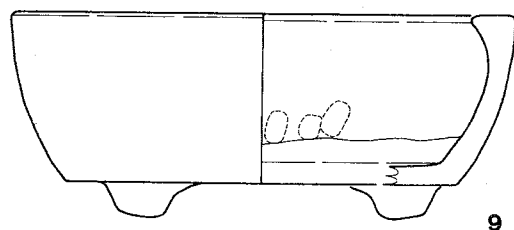
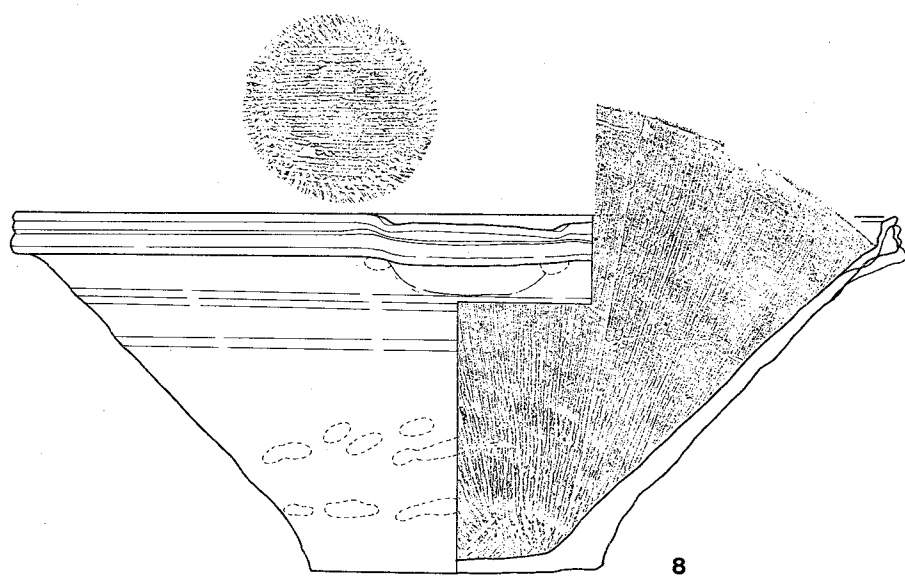
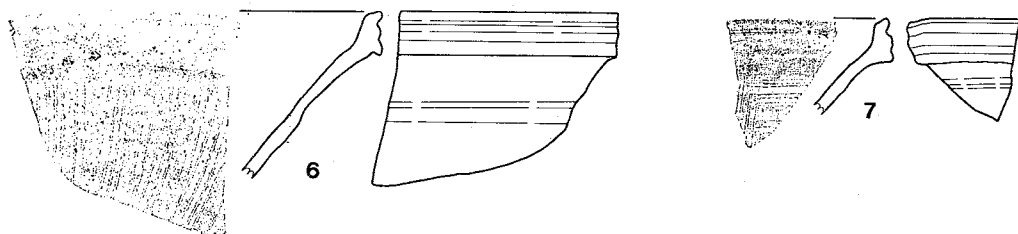
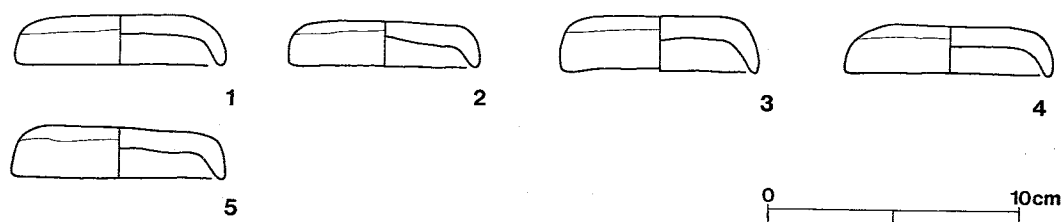
第168図 537号遺構出土陶磁器類12



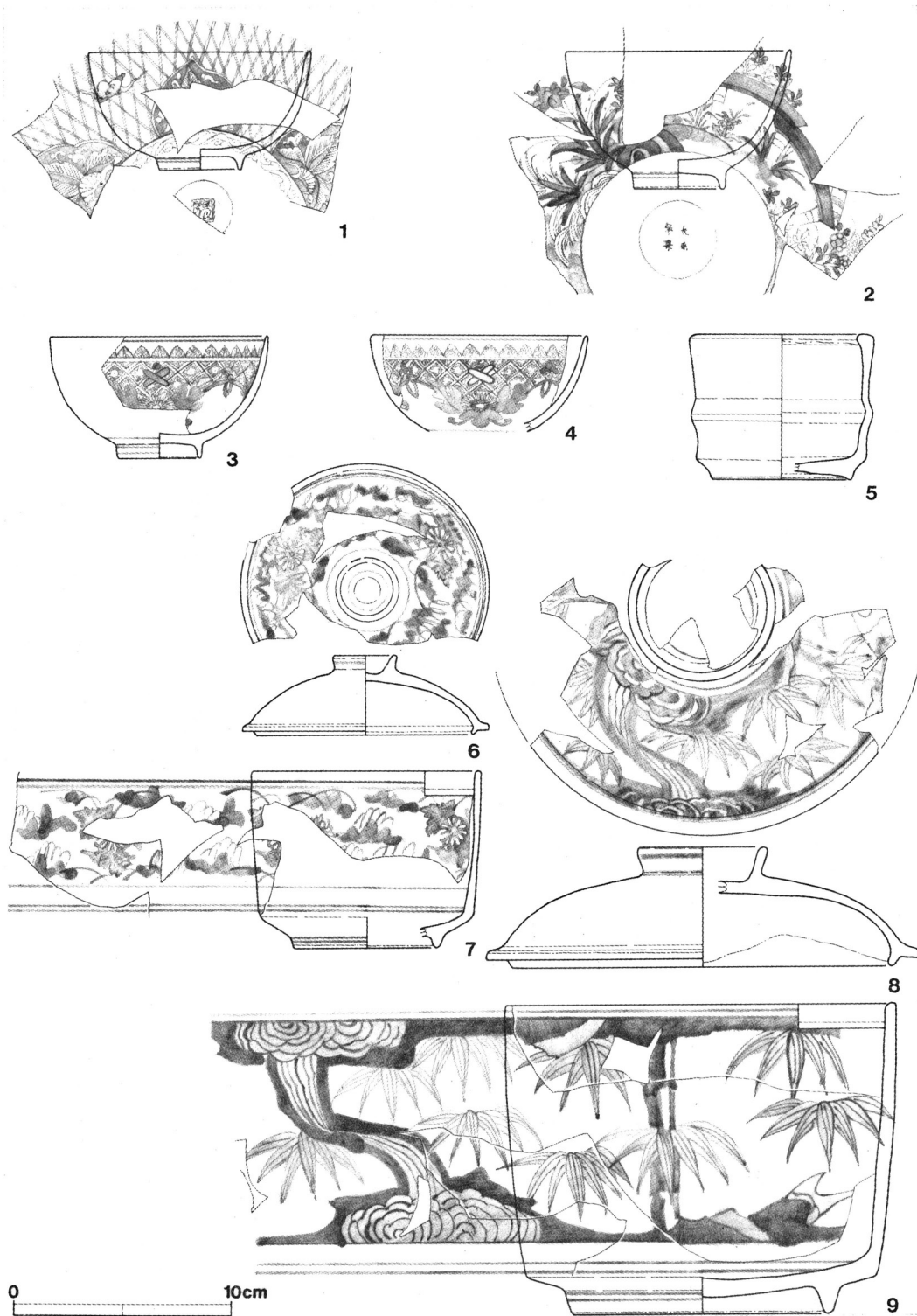
第169図 537号遺構出土陶磁器類13



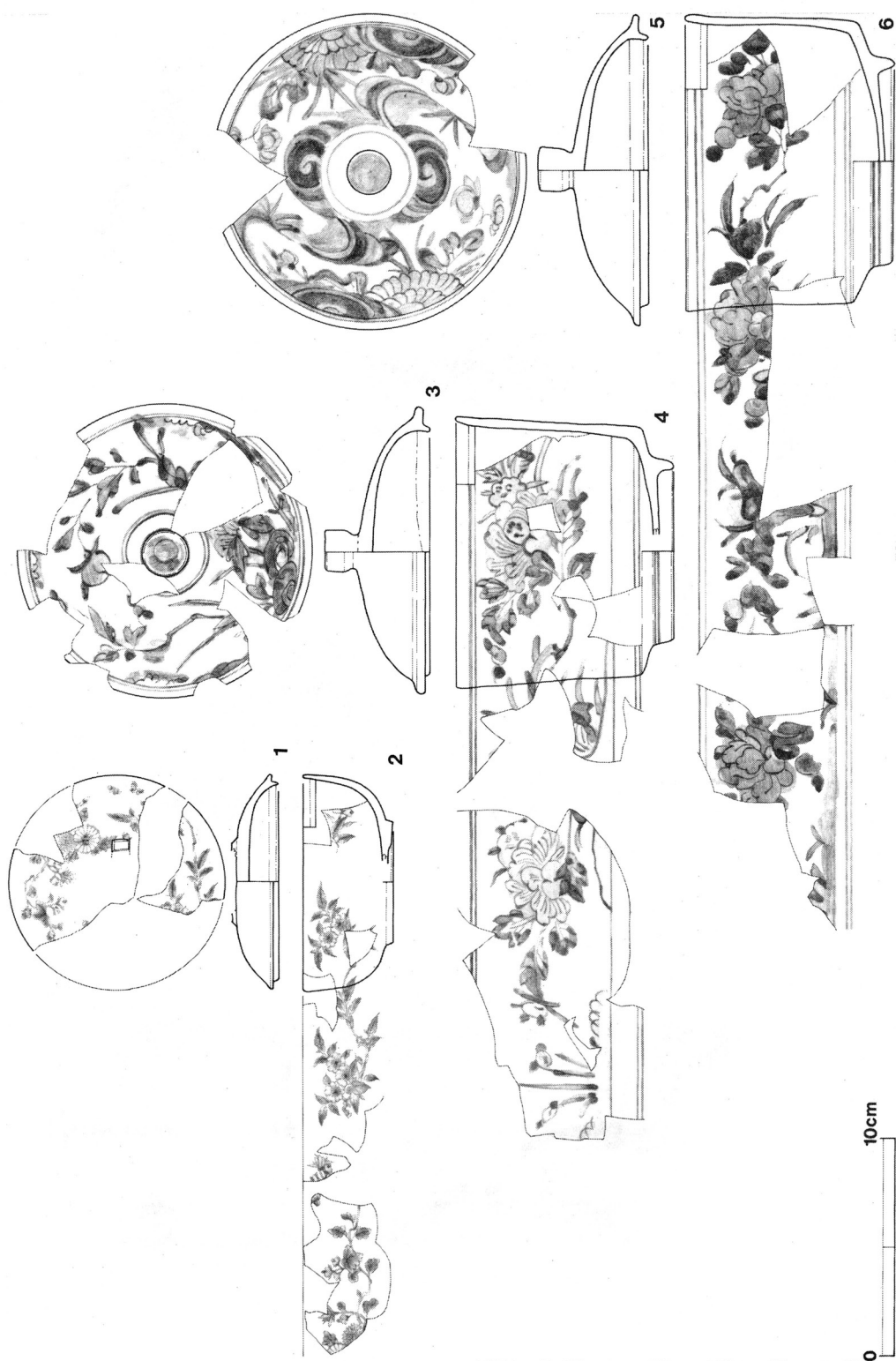
第170図 886号遺構出土陶磁器類 1



第171図 886号遺構出土陶磁器類 2



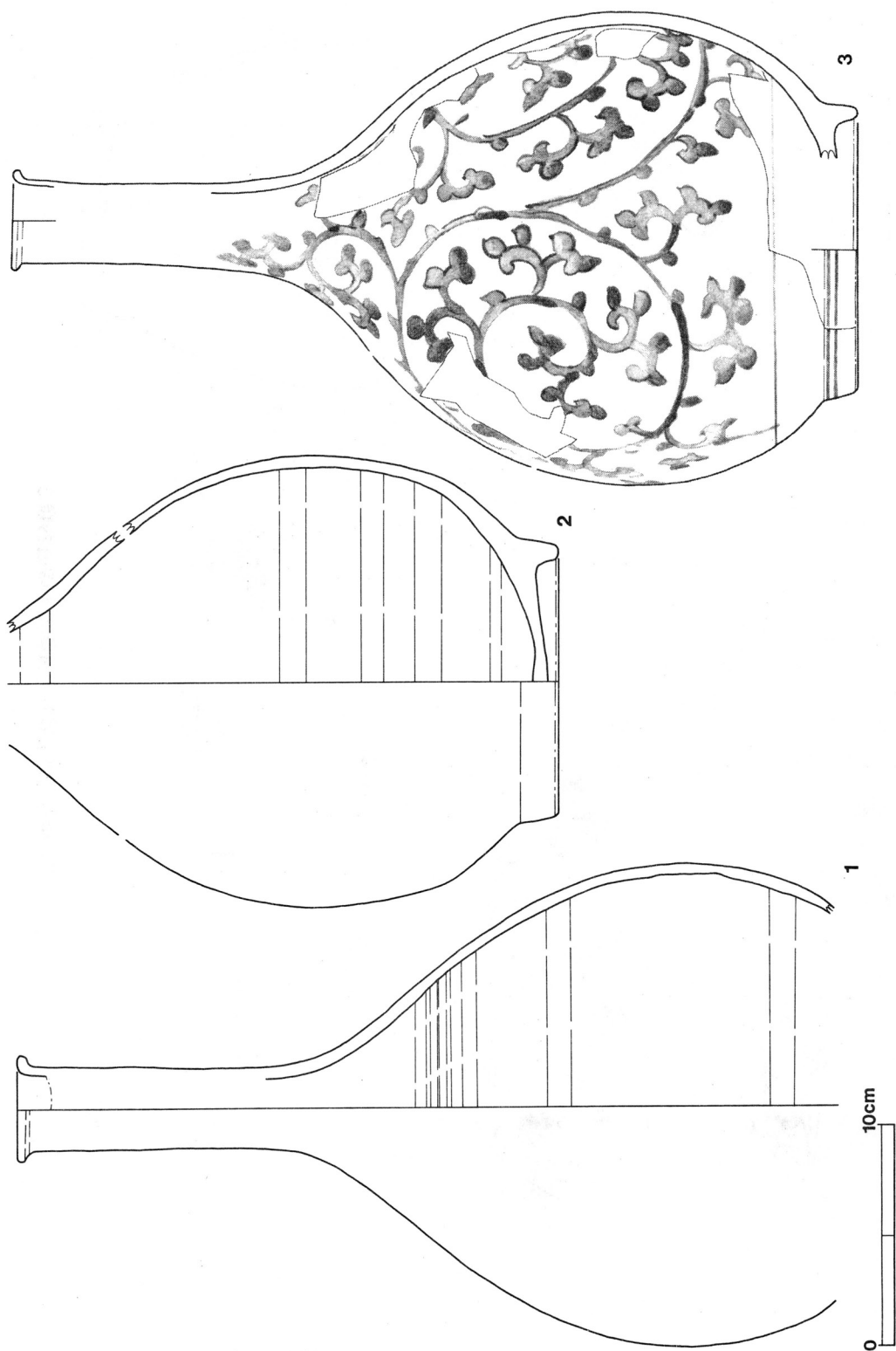
第172図 焼土溜り号遺構出土陶磁器類 1



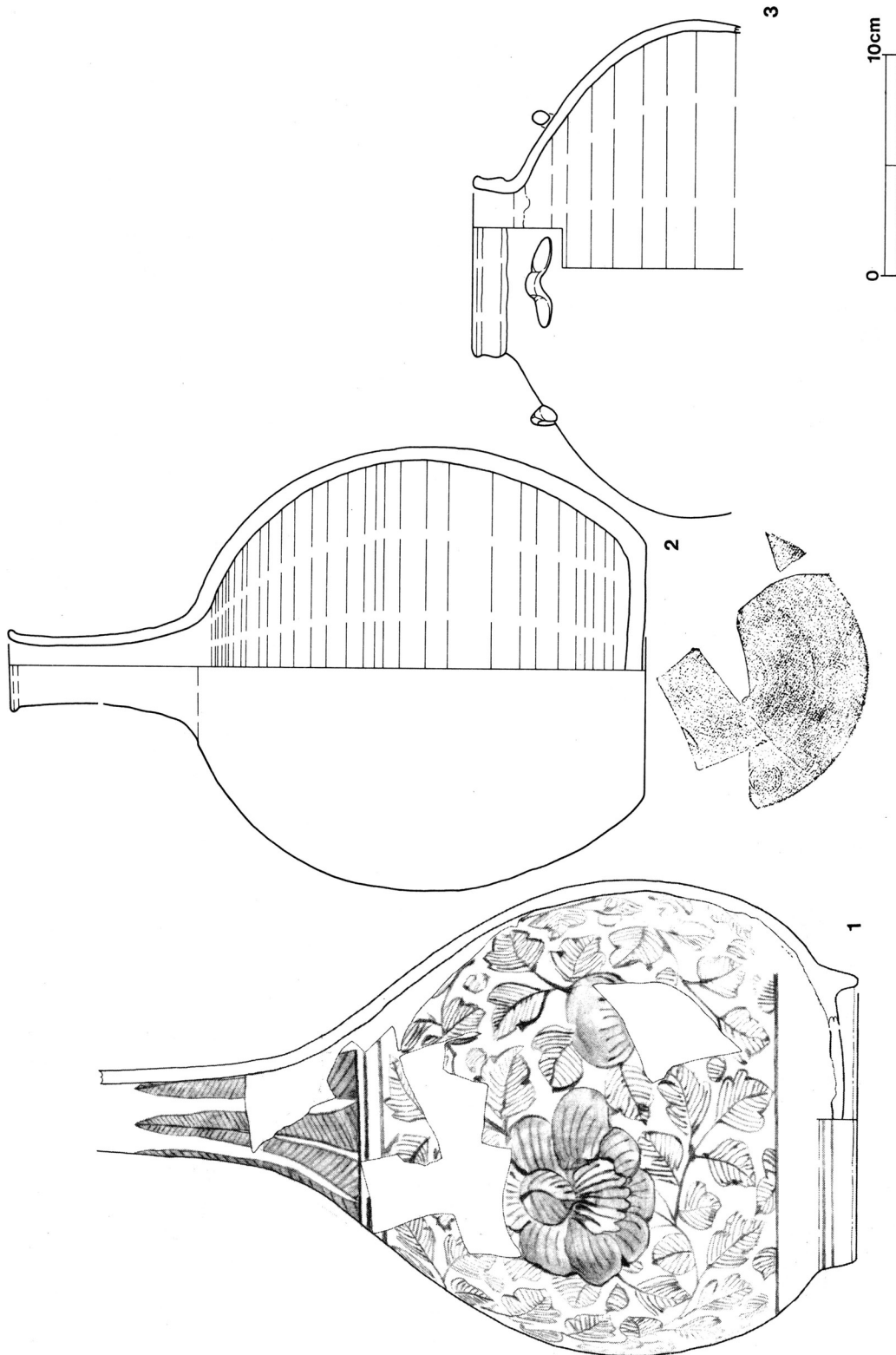
第173図 焼土溜り号遺構出土陶磁器類 2



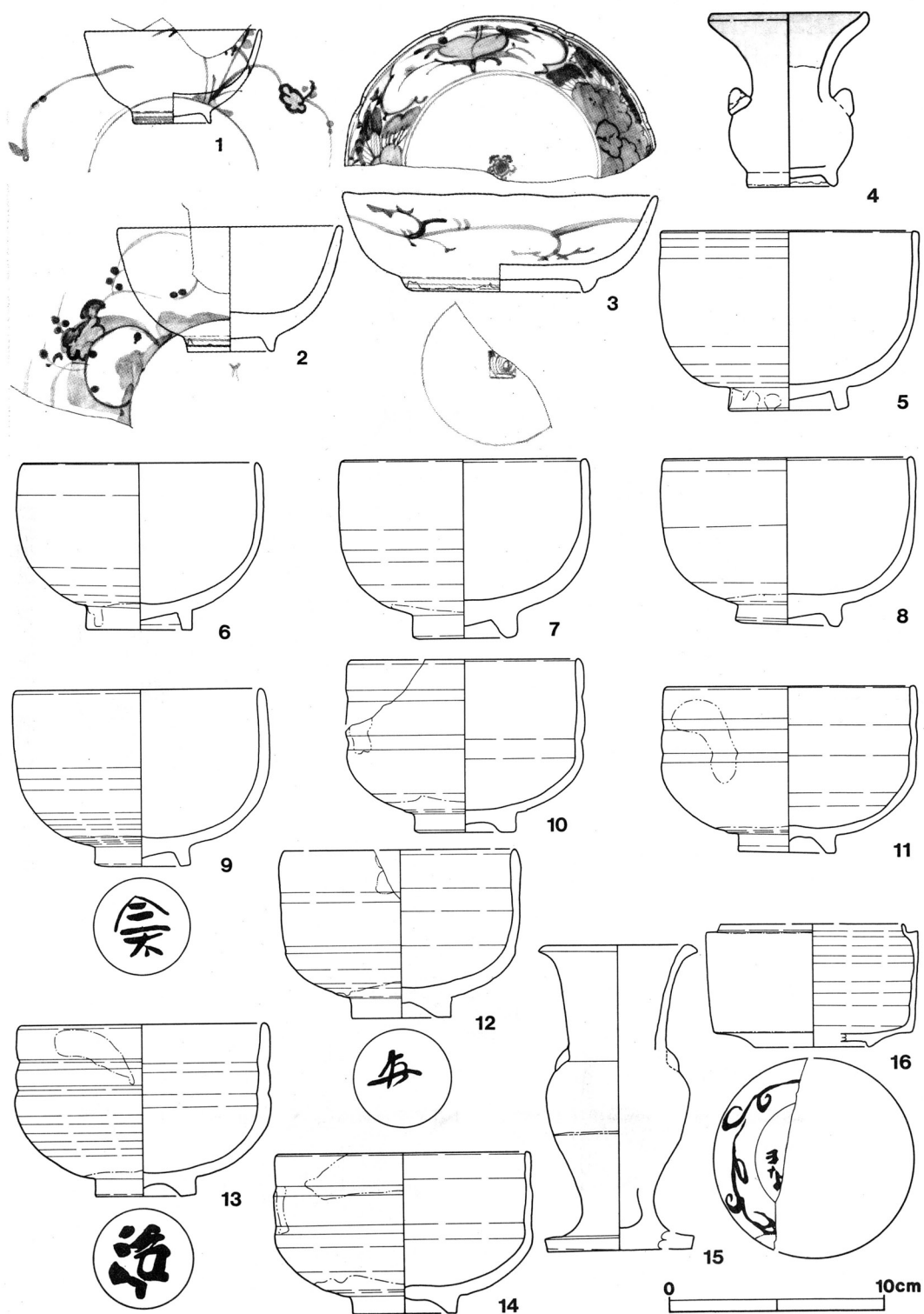
第174図 焼土溜り号遺構出土陶磁器類 3



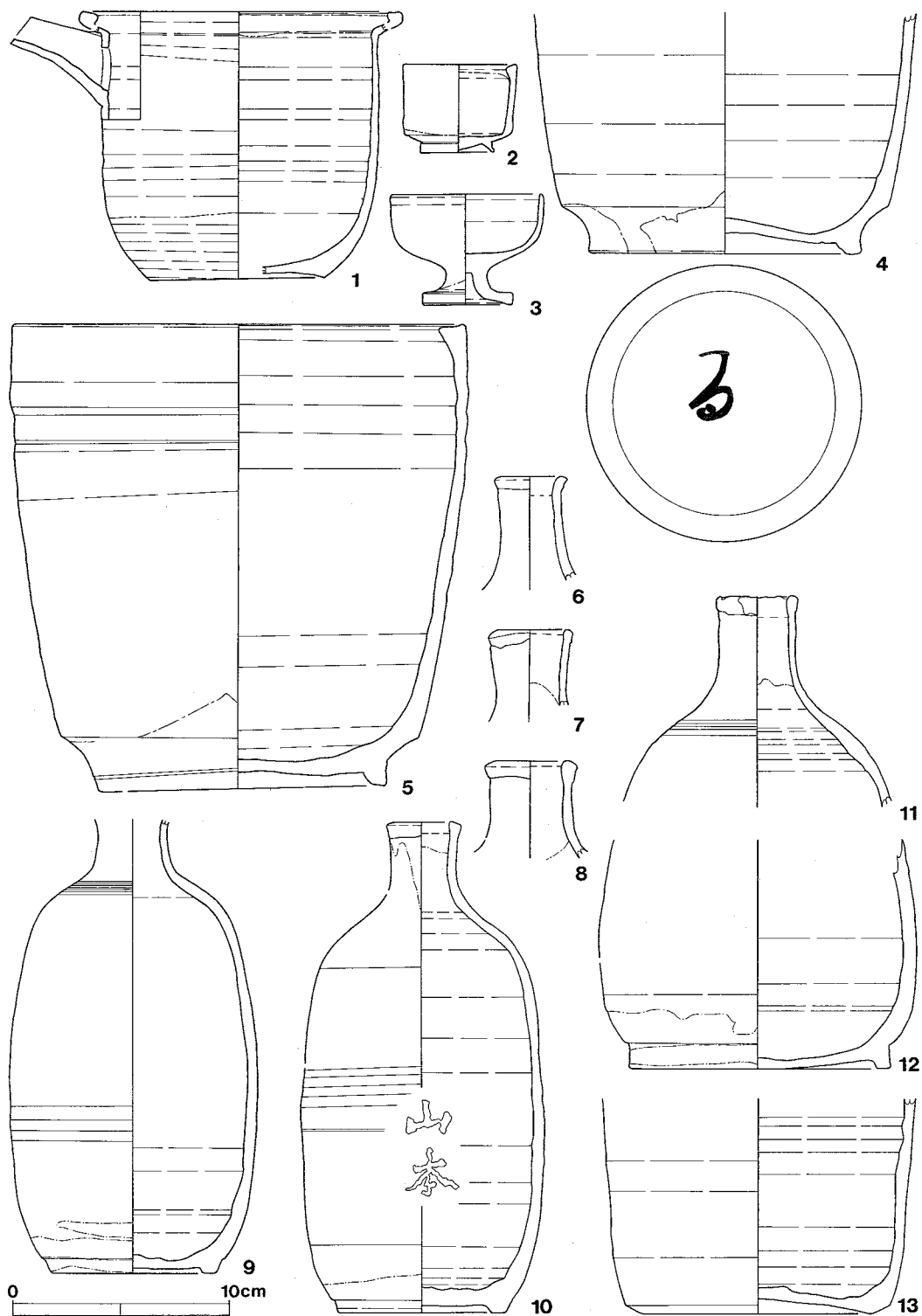
第175図 焼土溜り号遺構出土陶磁器類 4



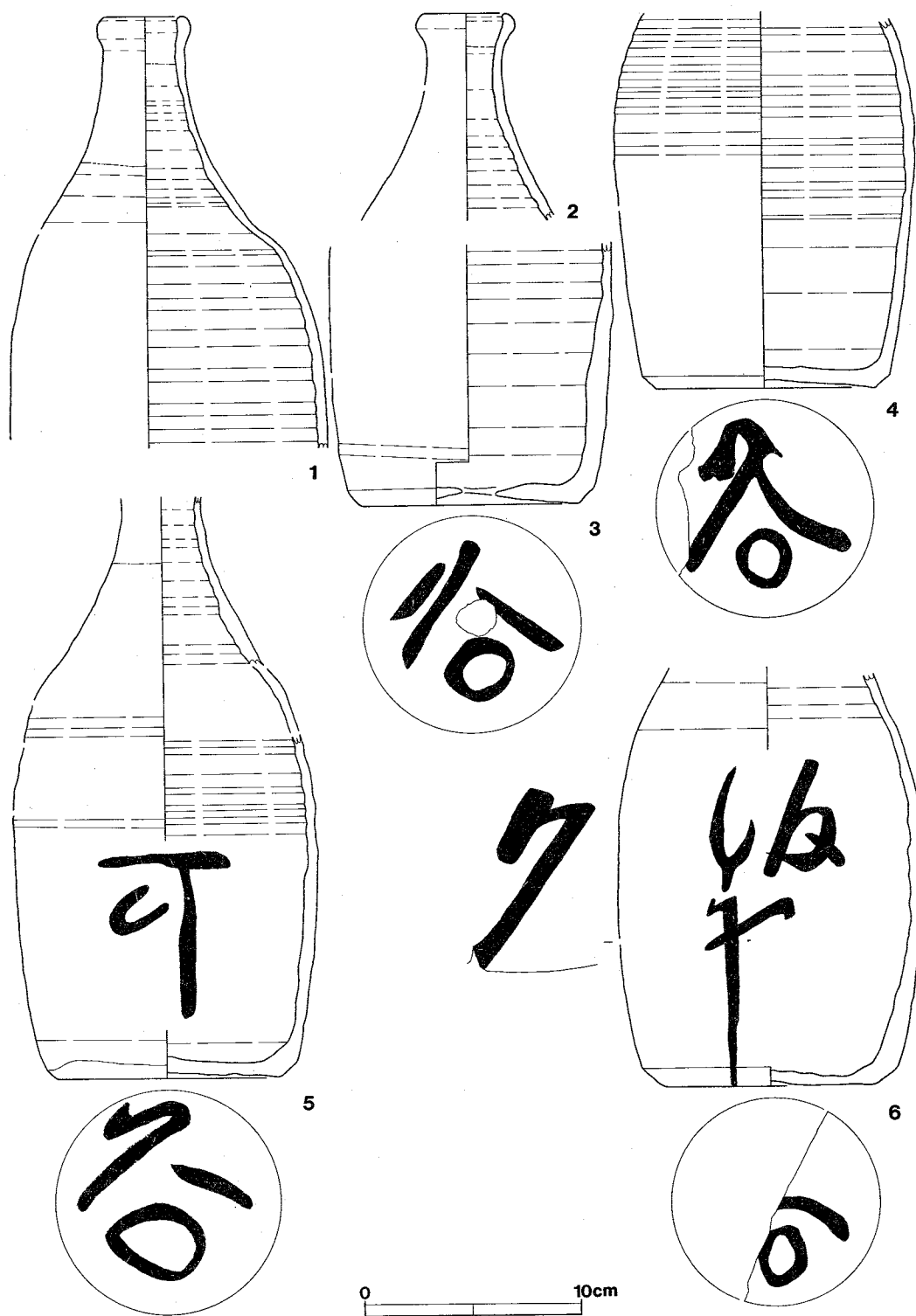
第176図 焼土溜り号遺構出土陶磁器類 5



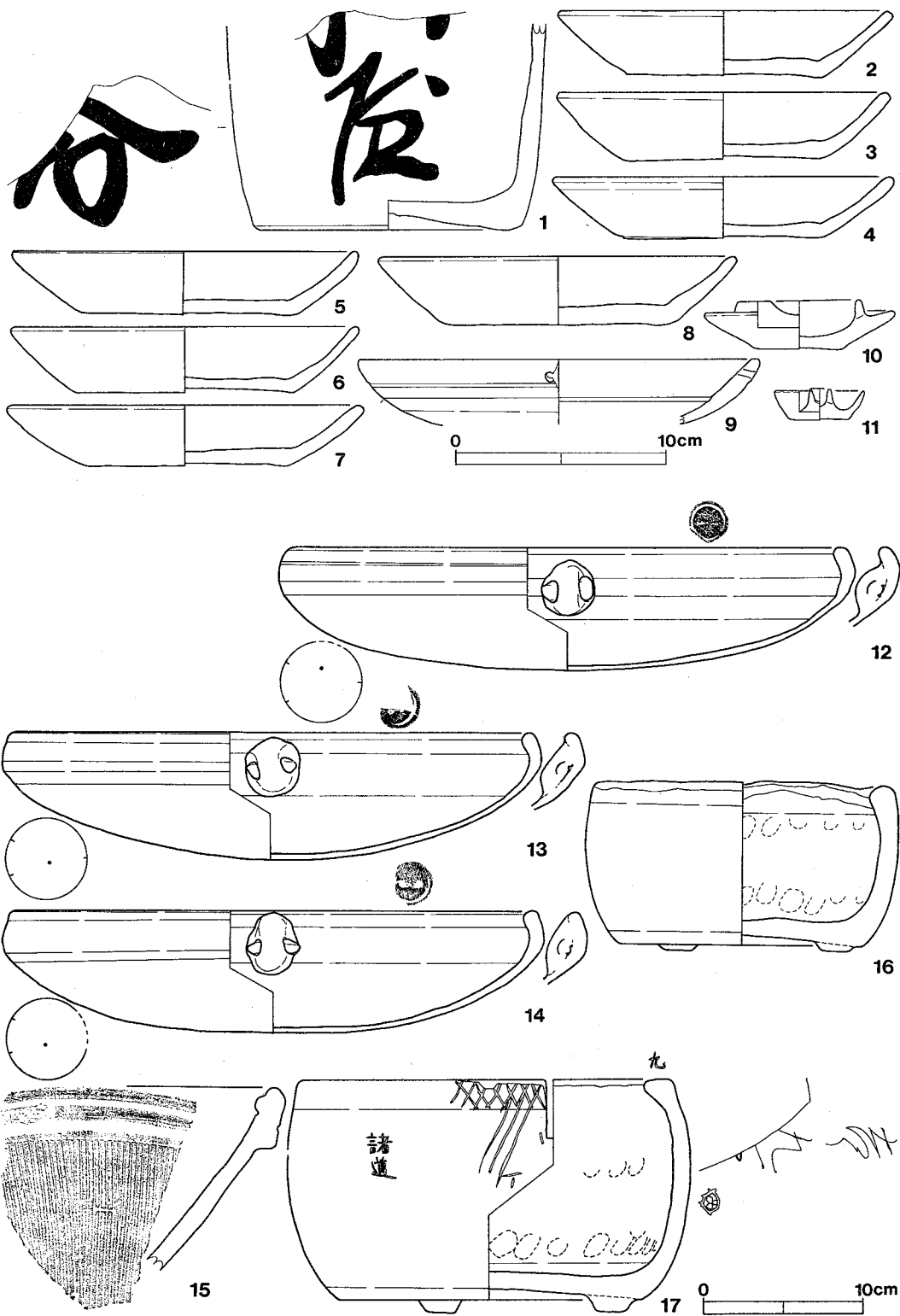
第177図 416号遺構出土陶磁器類 1



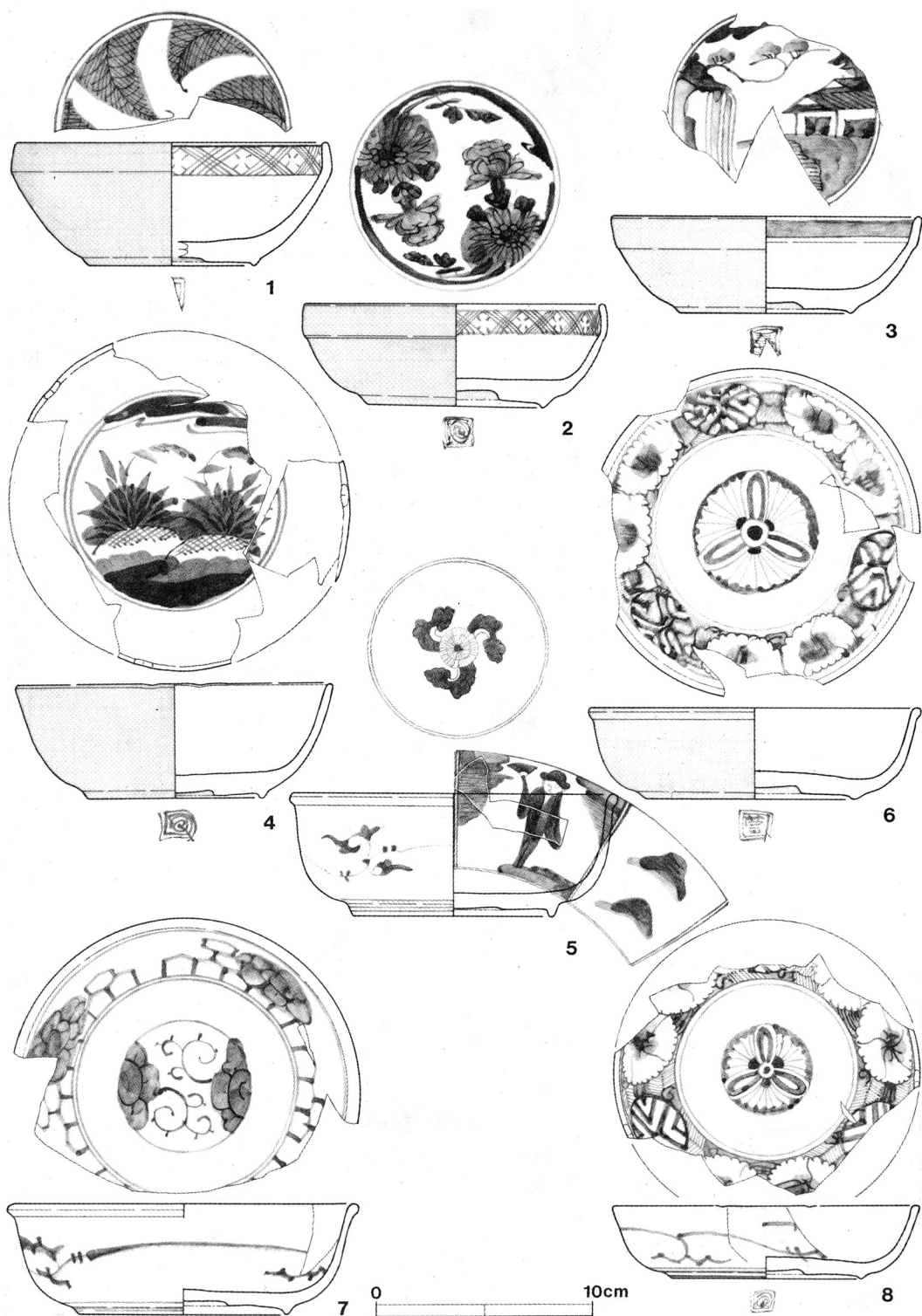
第178図 416号遺構出土陶磁器類 2



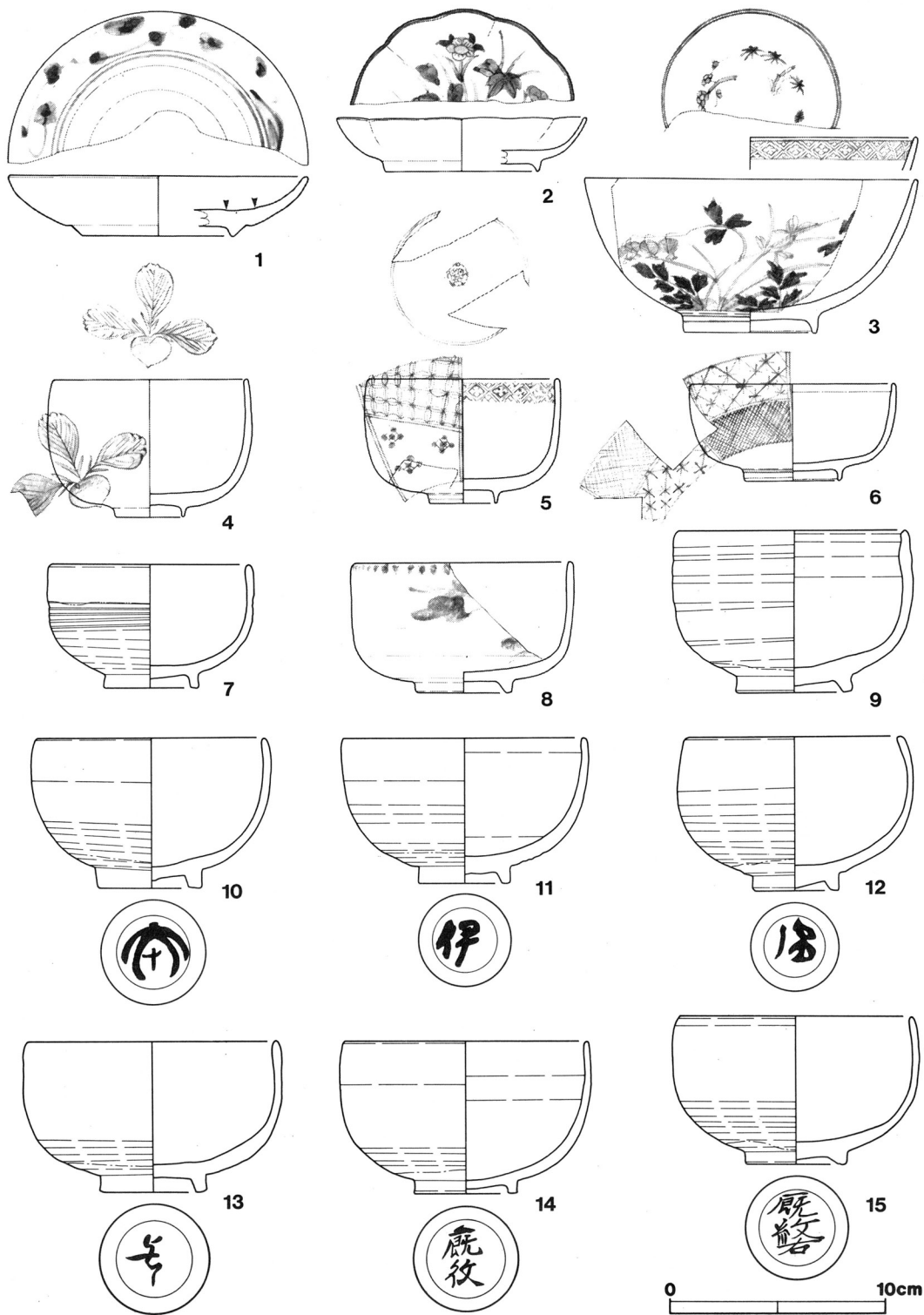
第179図 416号遺構出土陶磁器類 3



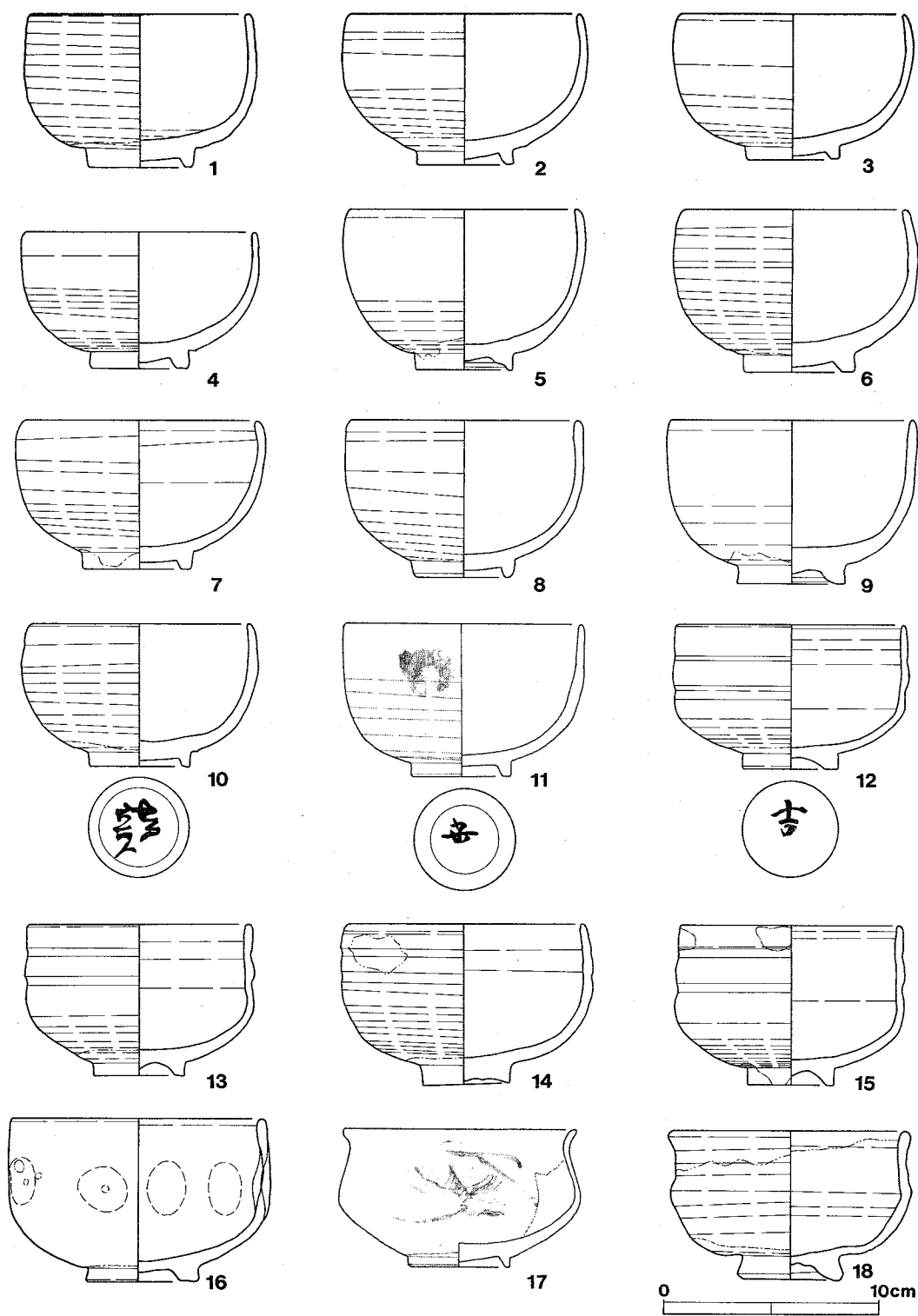
第180図 416号遺構出土陶磁器類 4



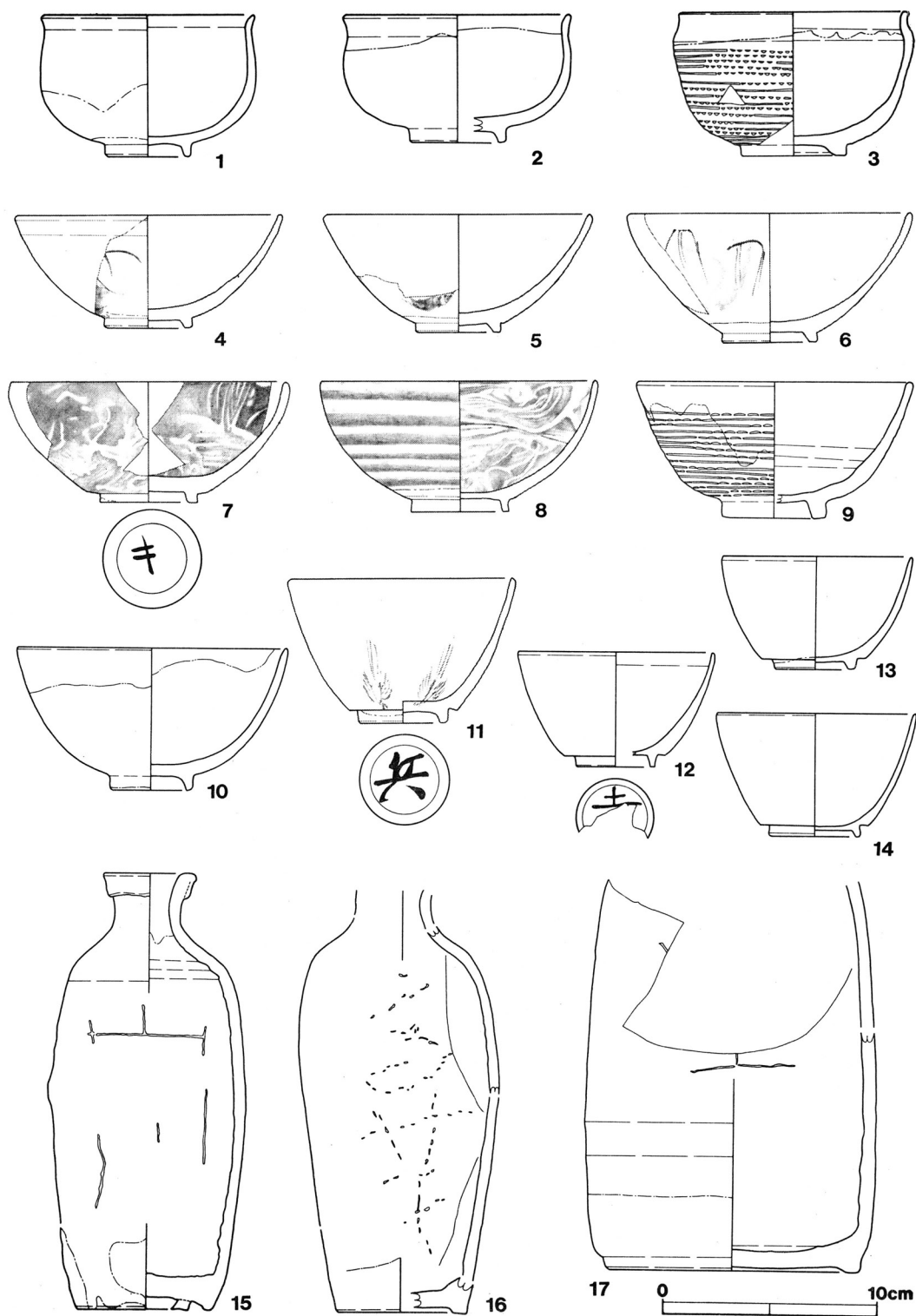
第181図 233号遺構出土陶磁器類 1



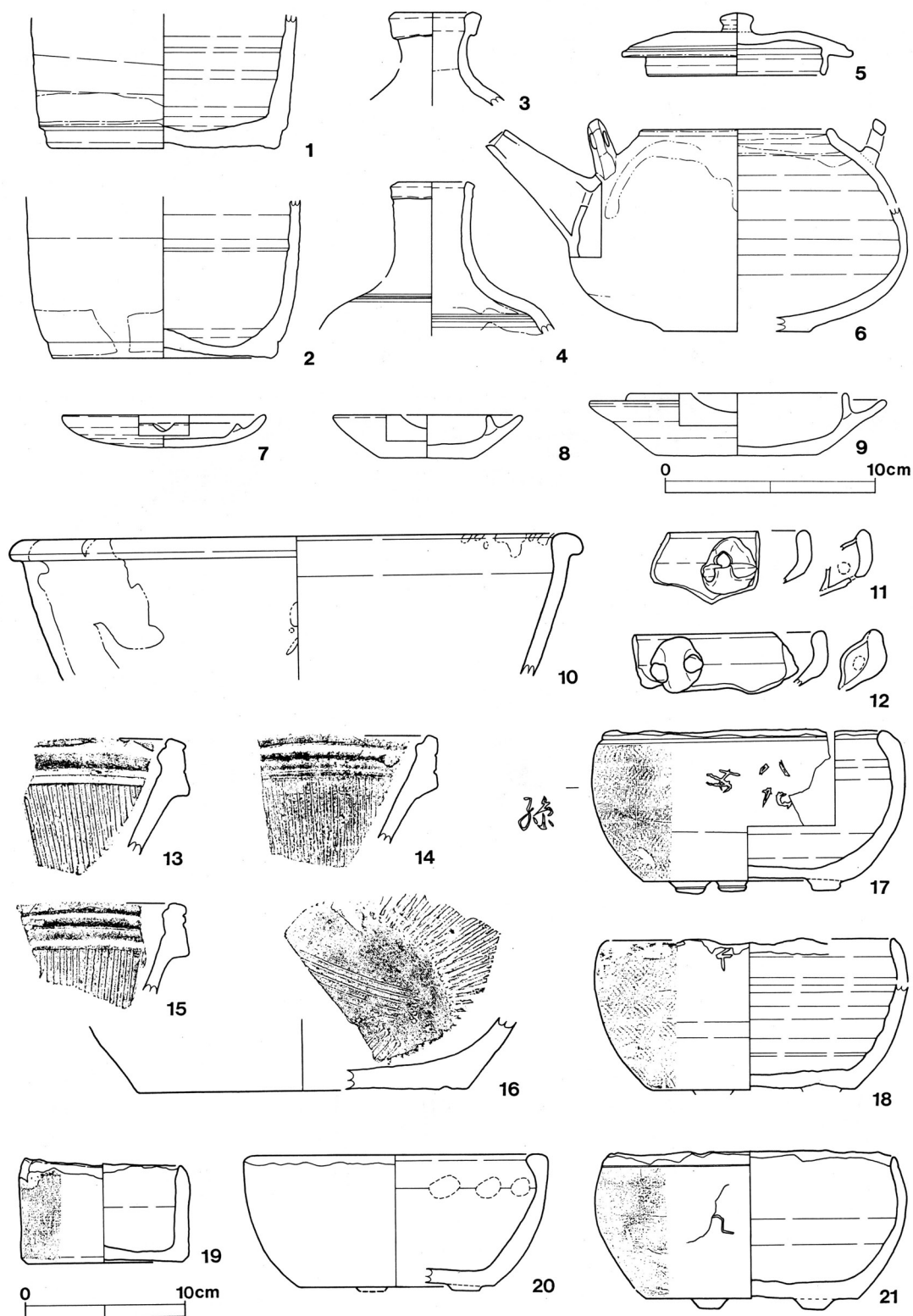
第182図 233号遺構出土陶磁器類 2



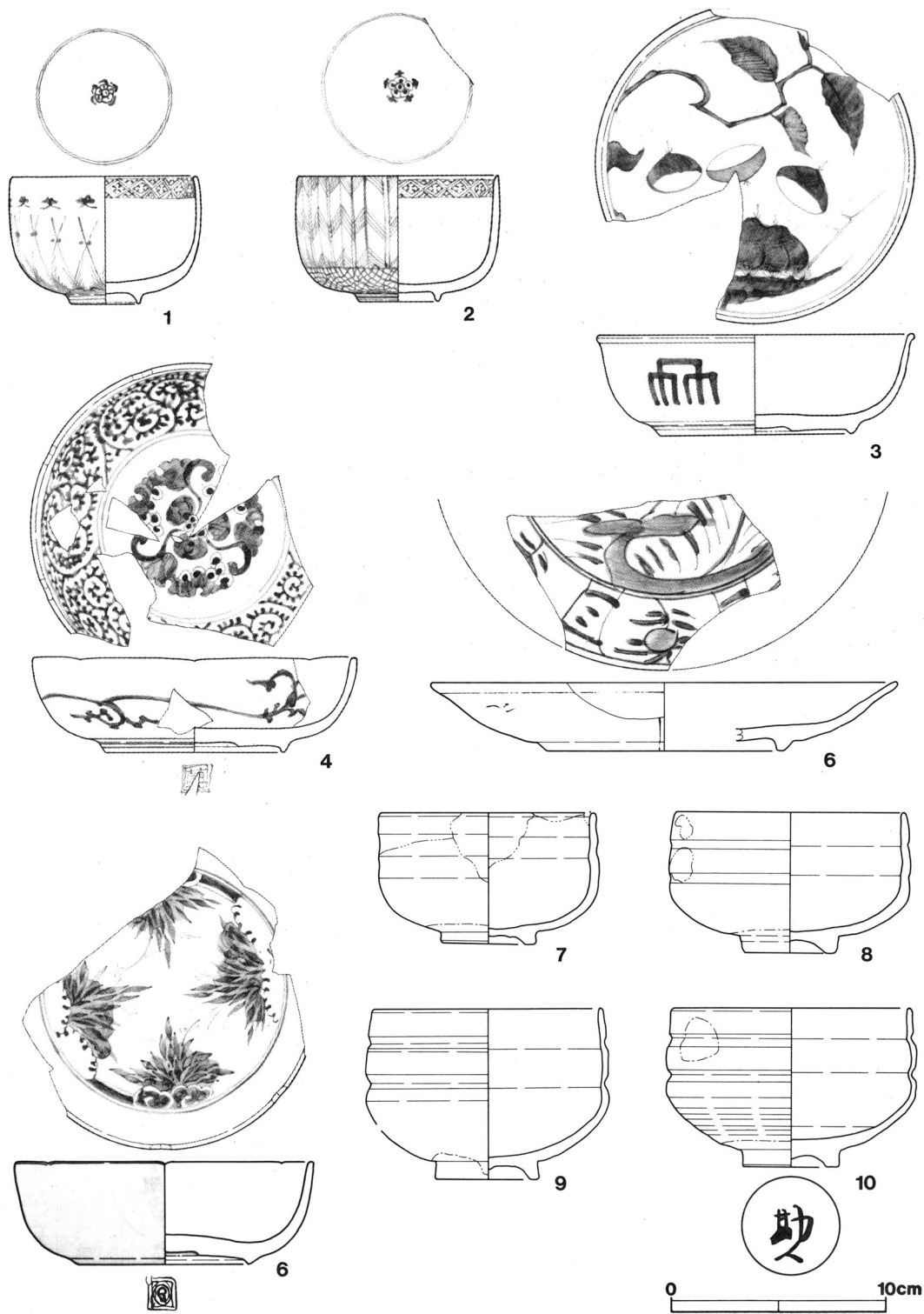
第183図 233号遺構出土陶磁器類 3



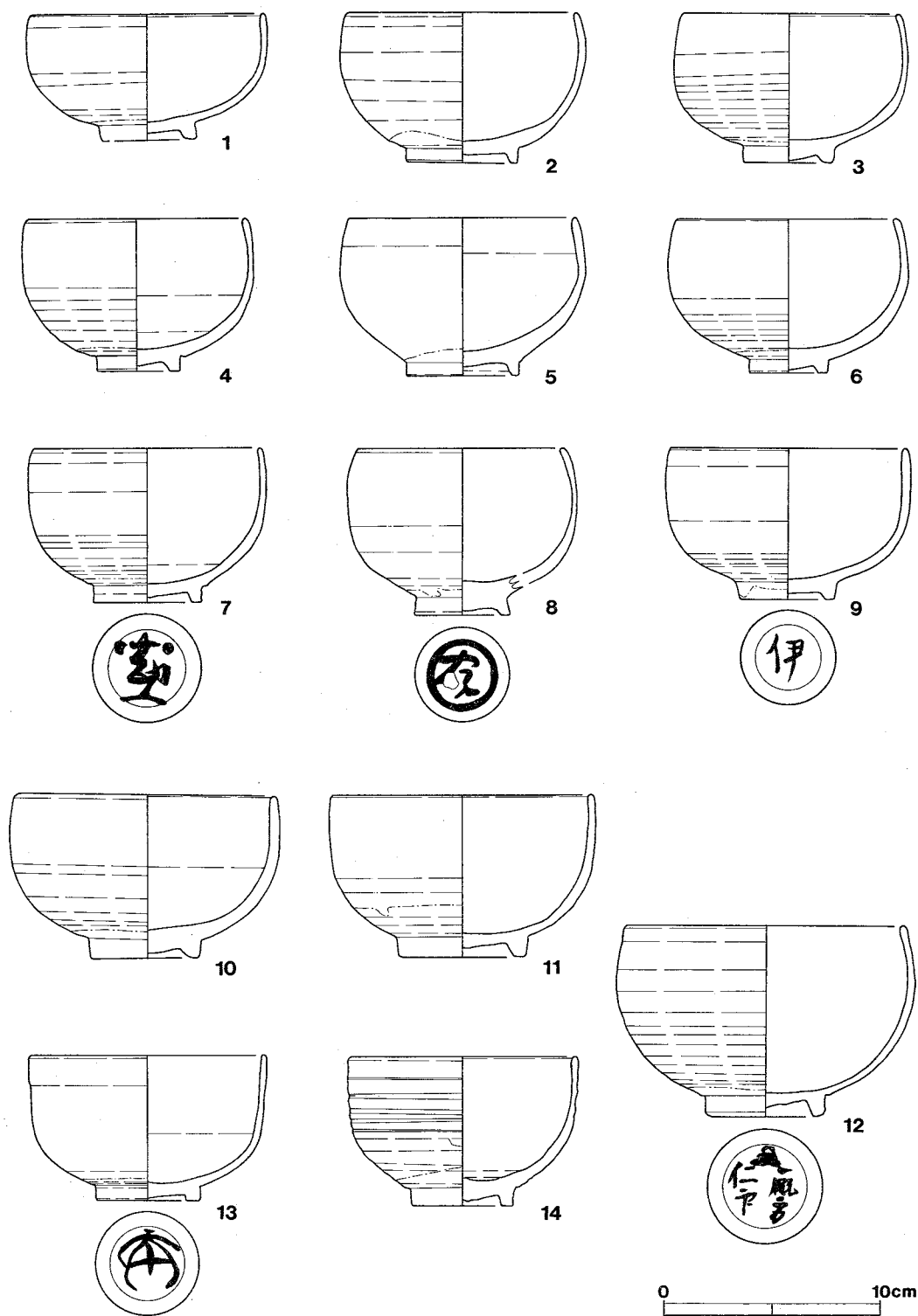
第184図 233号遺構出土陶磁器類 4



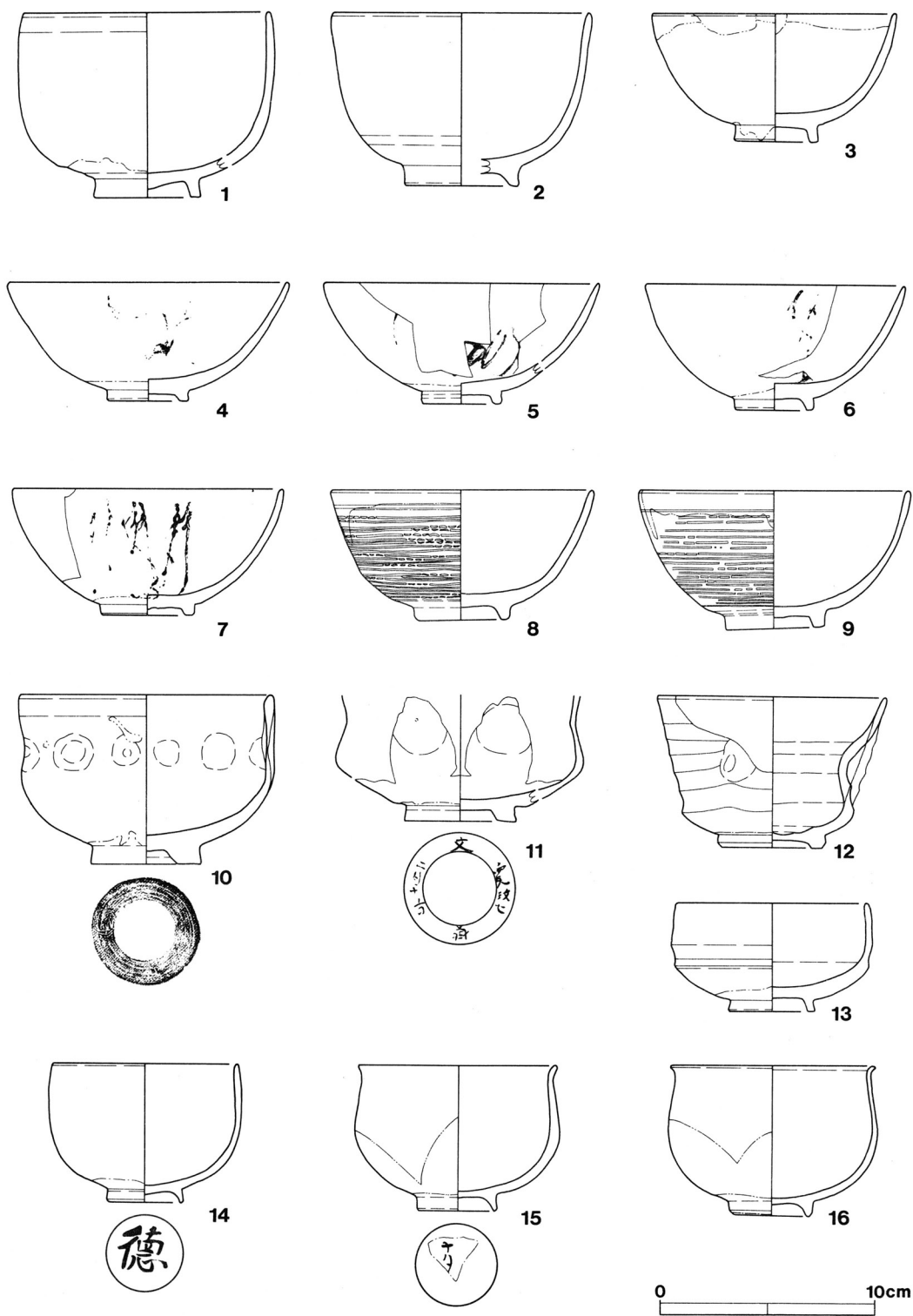
第185図 233号遺構出土陶磁器類 5



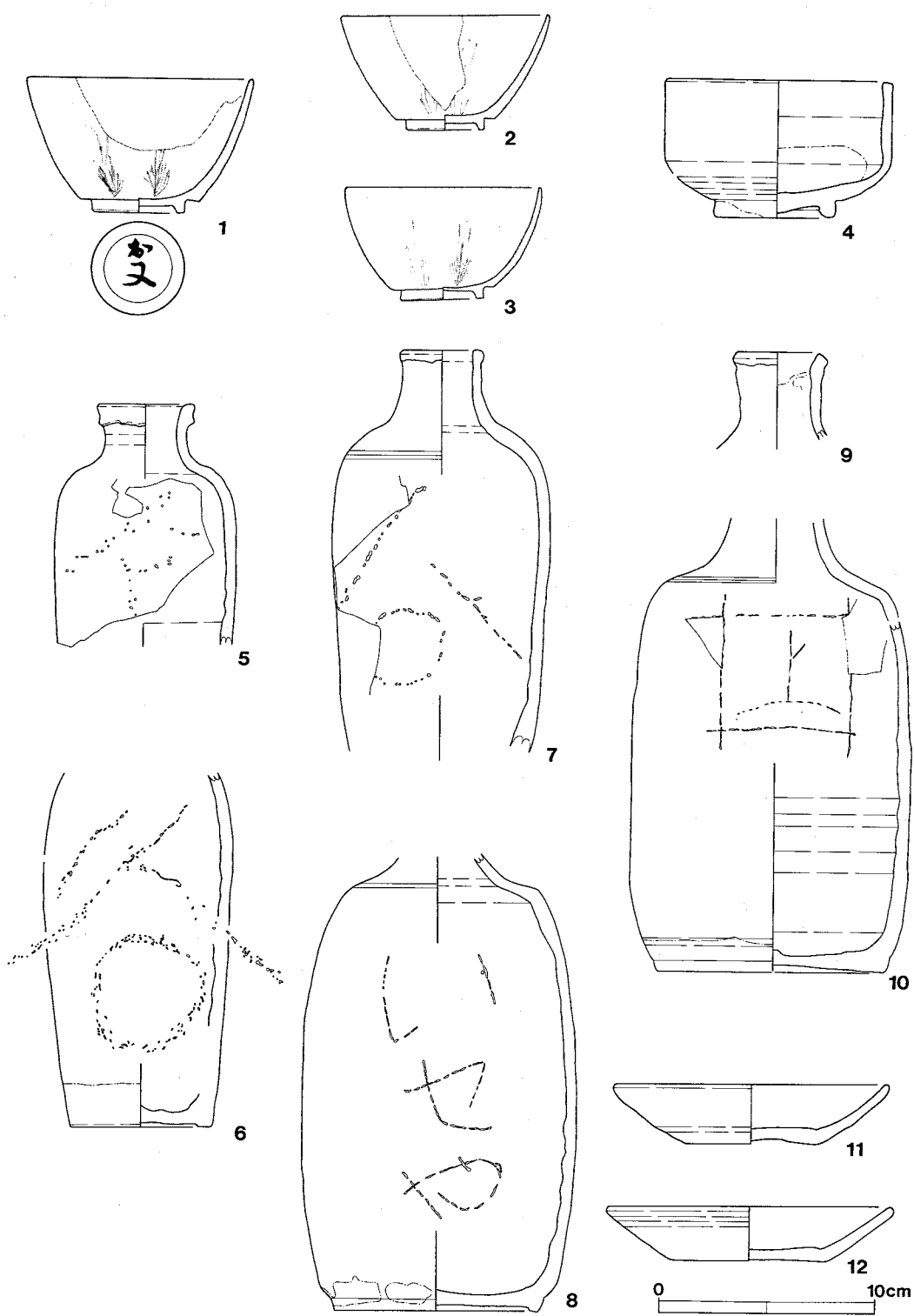
第186図 245号遺構出土陶磁器類 1



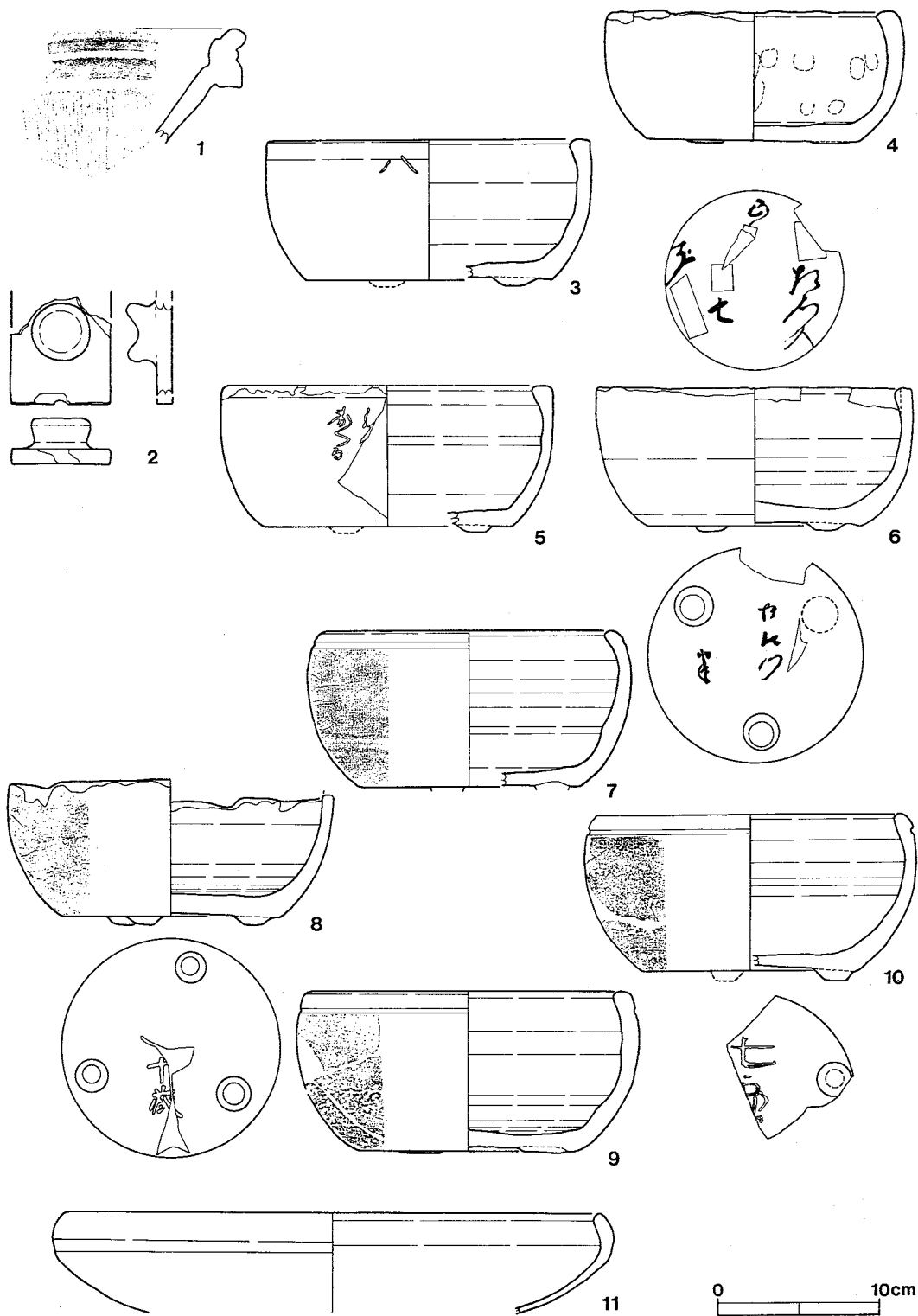
第187図 245号遺構出土陶磁器類 2



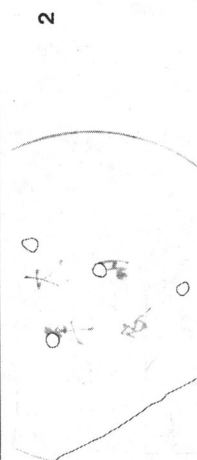
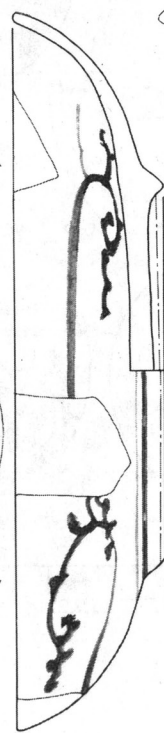
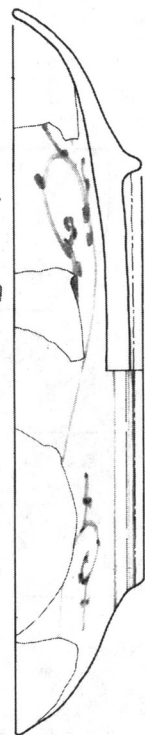
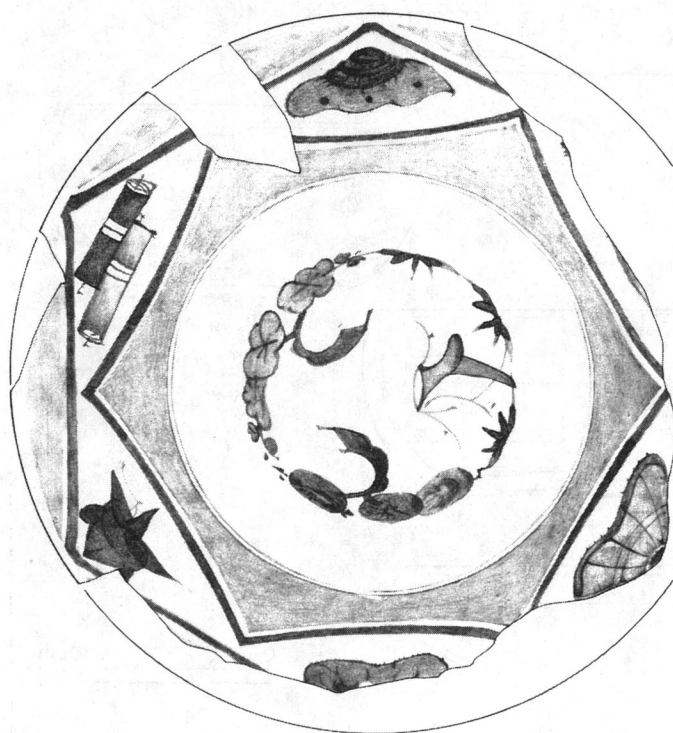
第188図 245号遺構出土陶磁器類 3



第189図 245号遺構出土陶磁器類 4

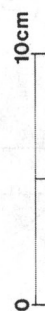


第190図 245号遺構出土陶磁器類 5

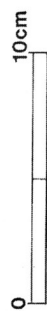
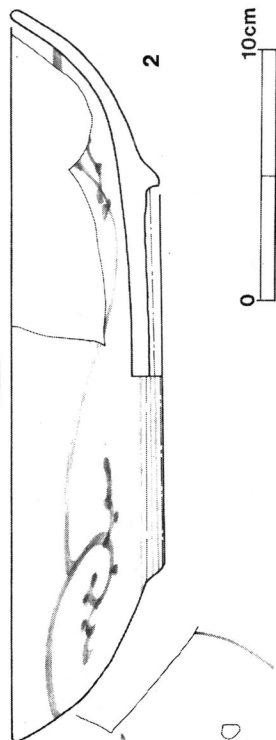
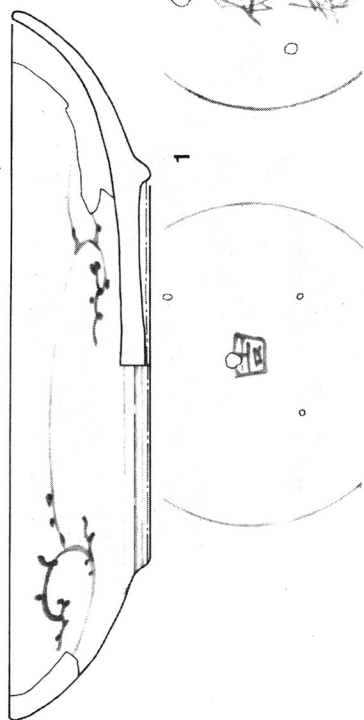
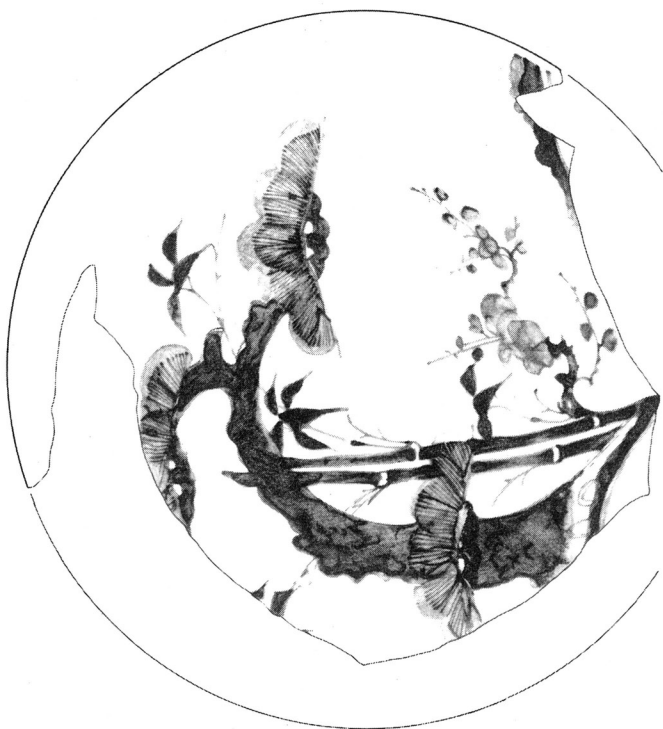


2

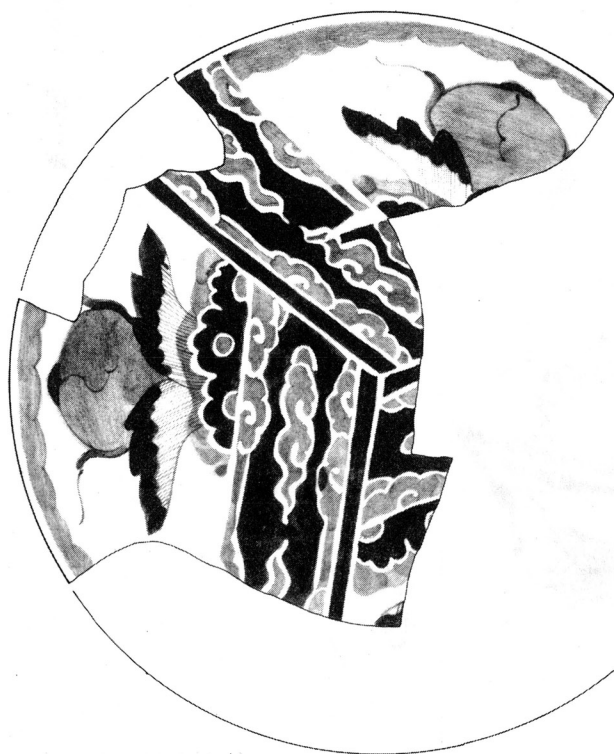
1



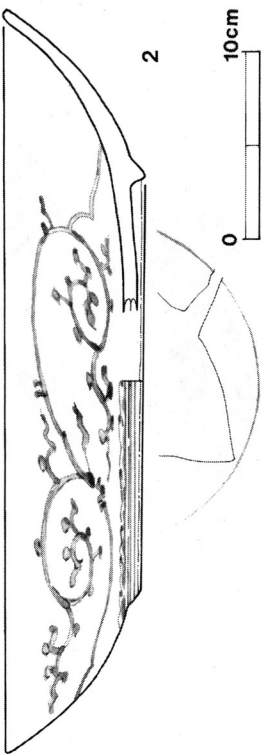
第191図 1号遺構出土陶磁器類 1



第192图 1号遺構出土陶磁器類 2



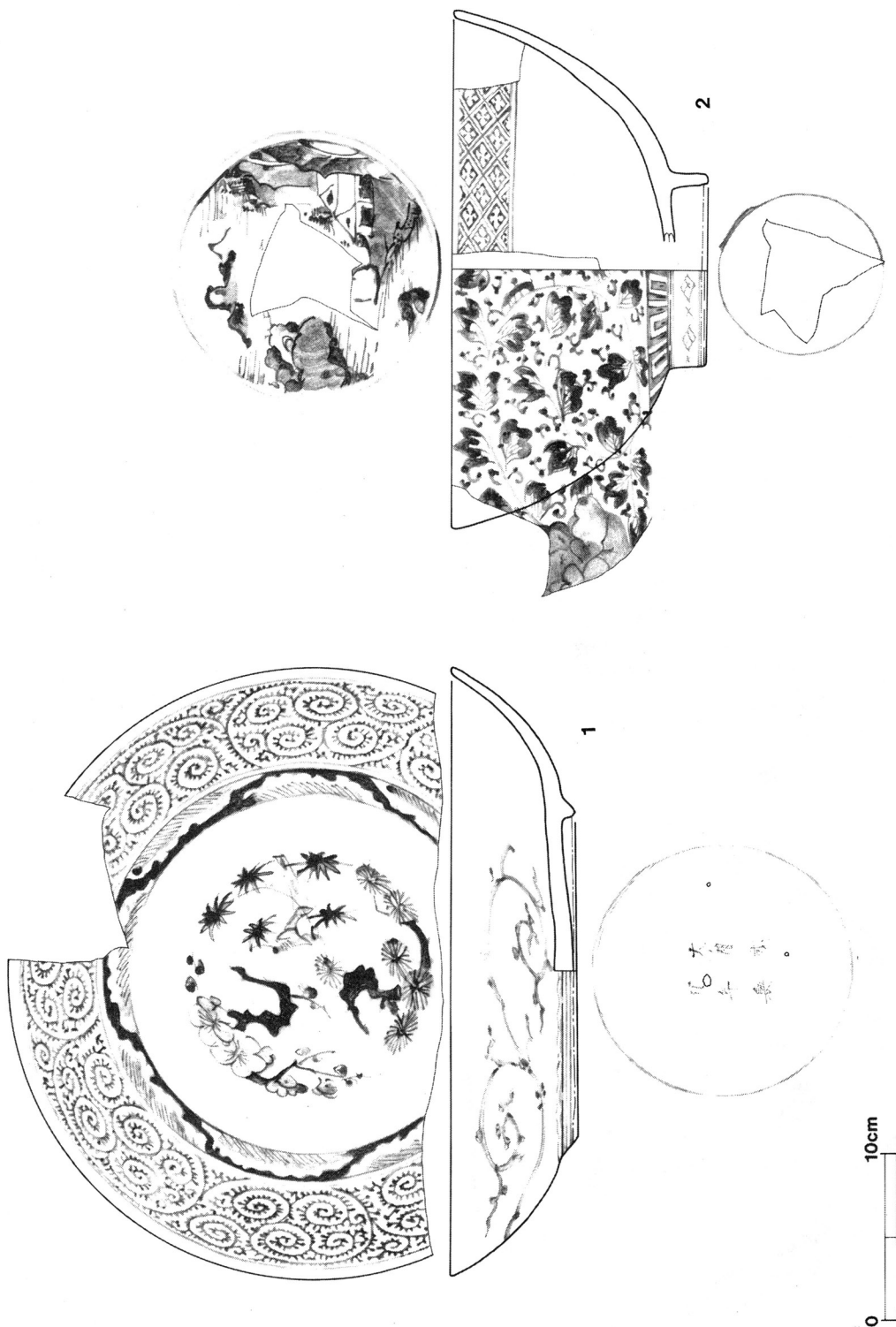
1



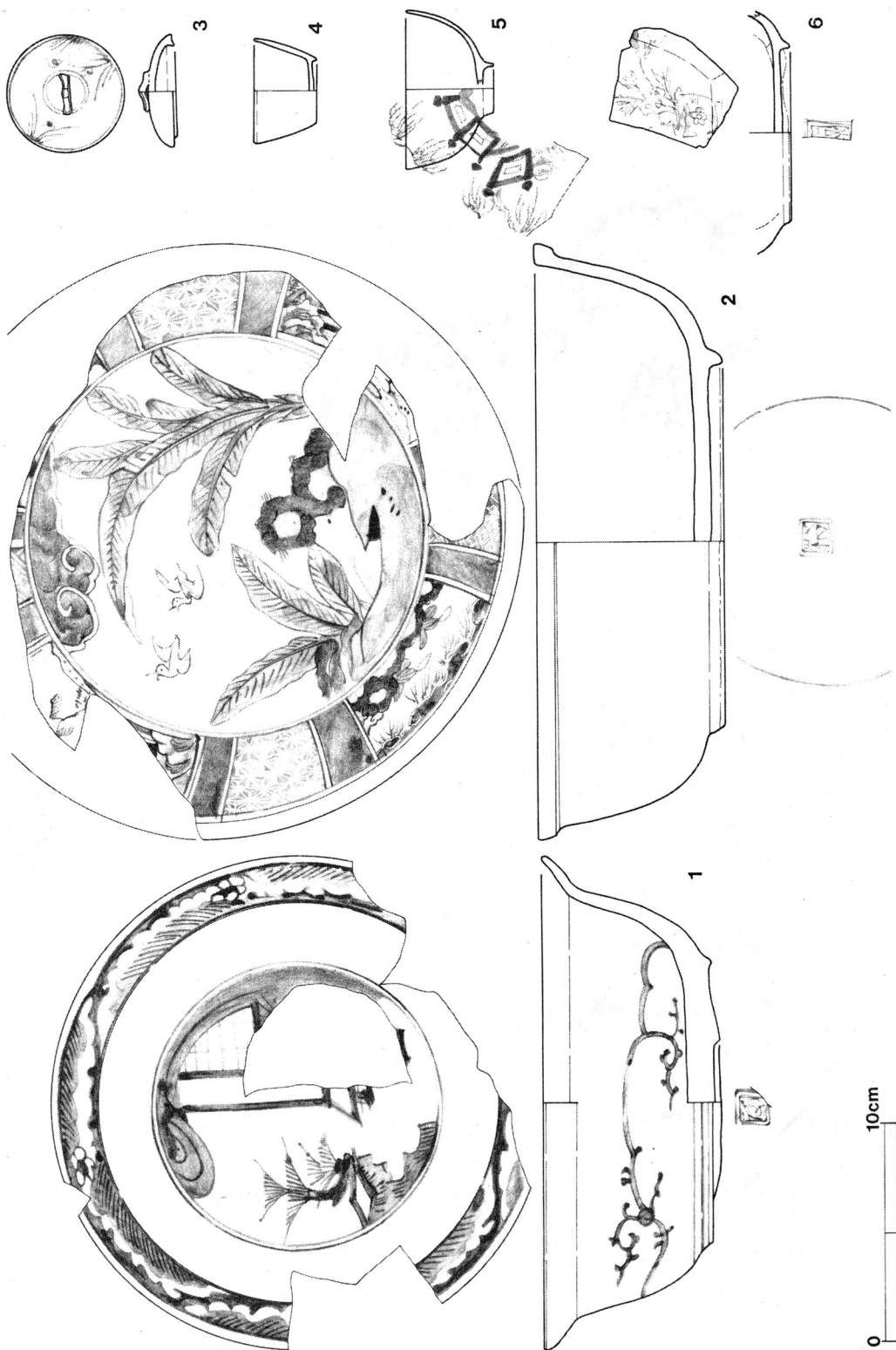
2



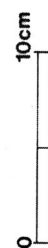
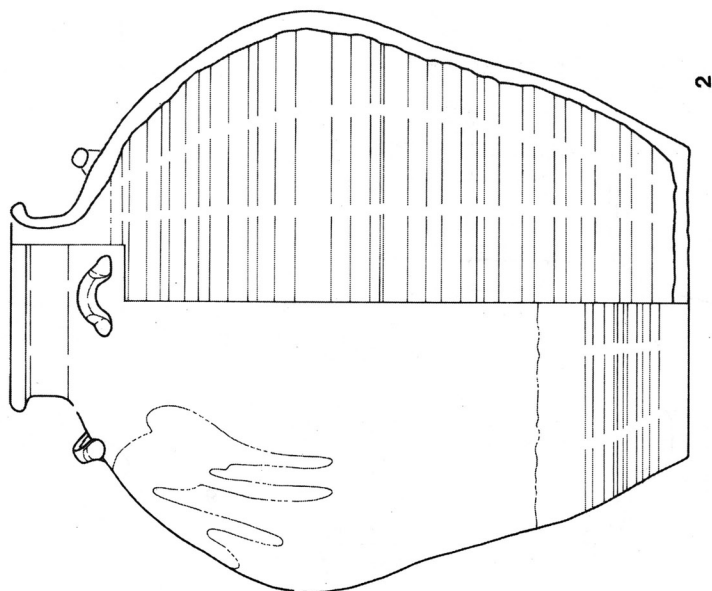
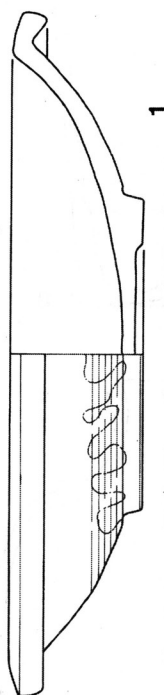
第193图 1号遺構出土陶磁器類 3



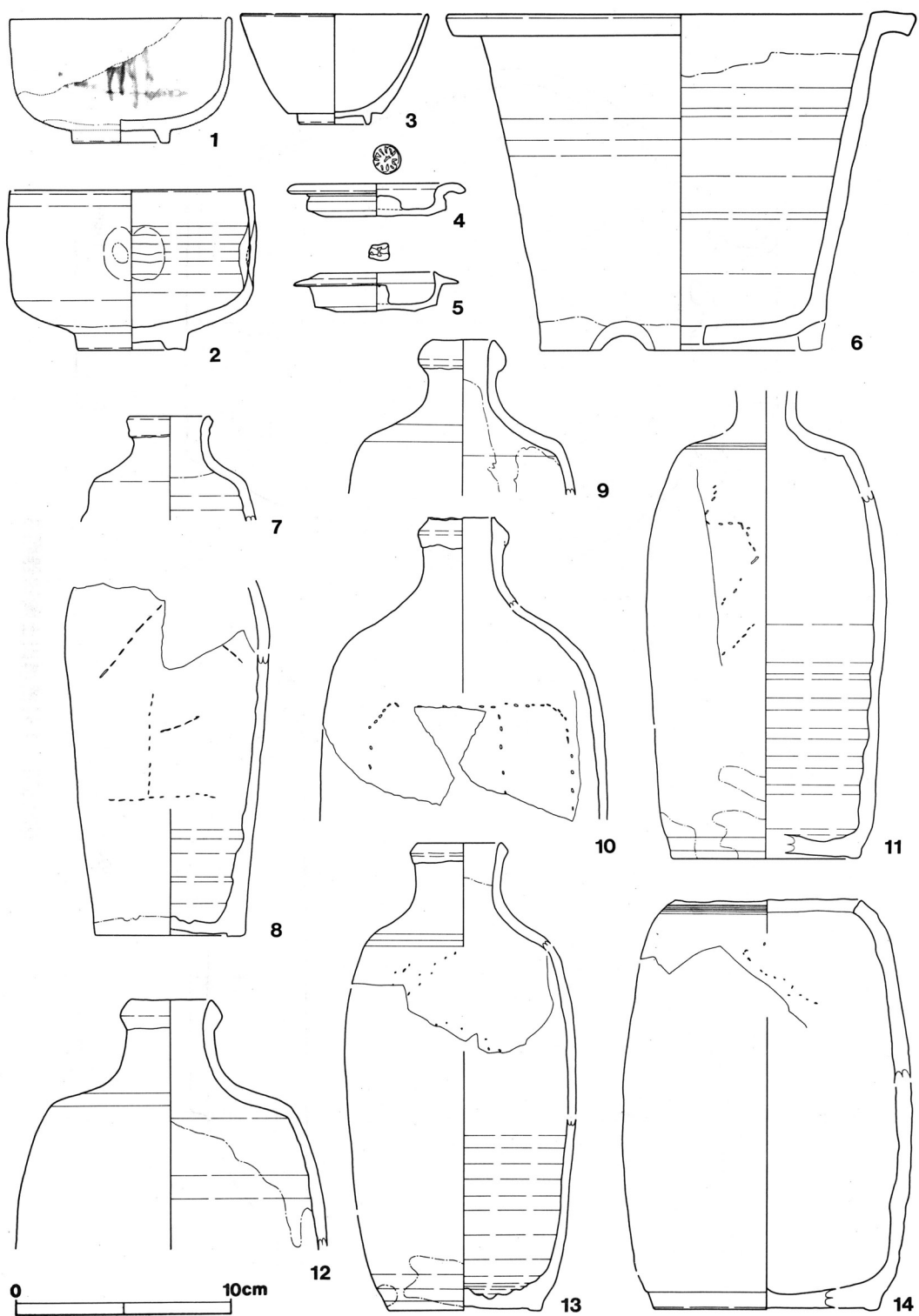
第194图 1号遺構出土陶磁器類 4



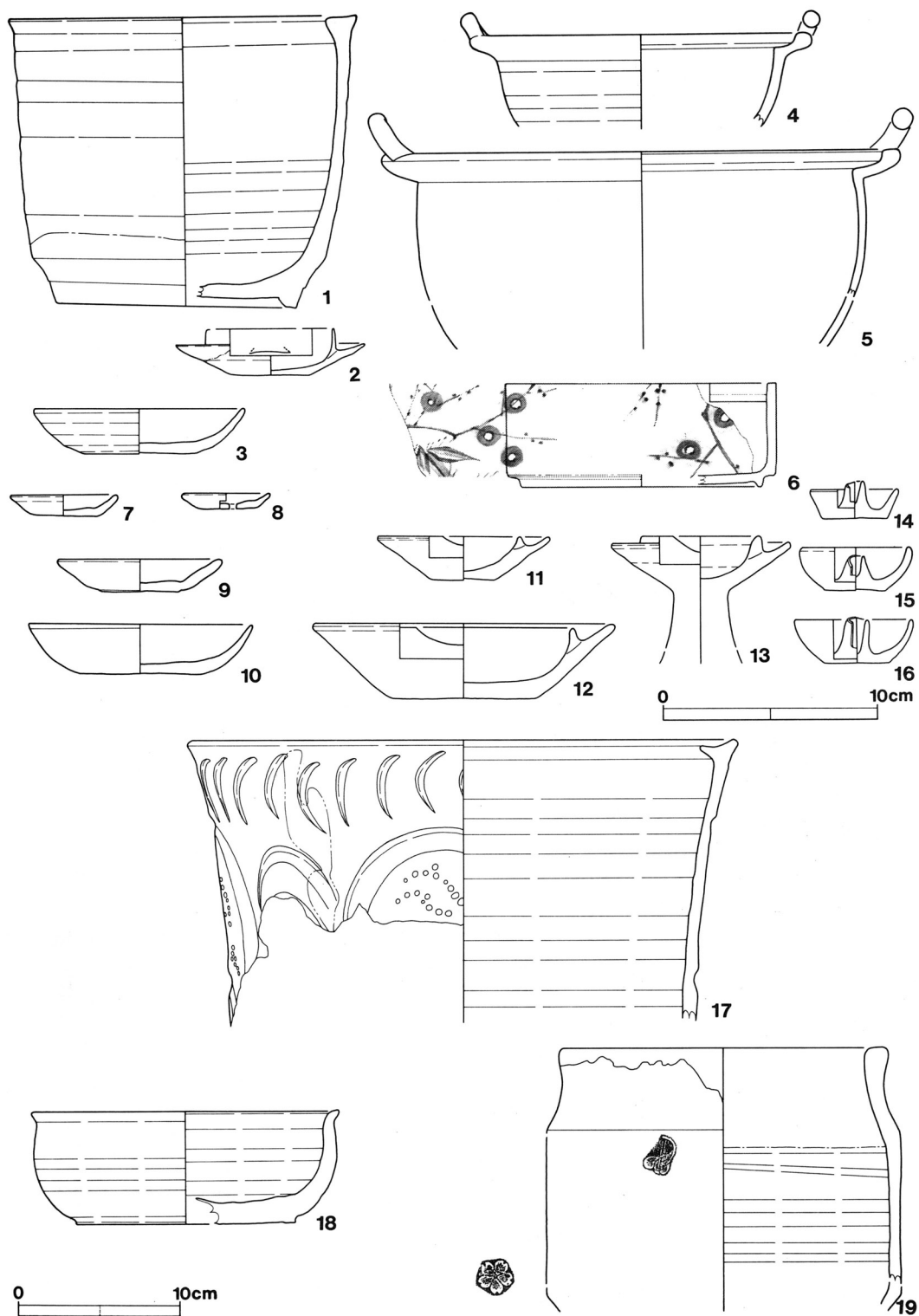
第195图 1号遺構出土陶磁器類 5



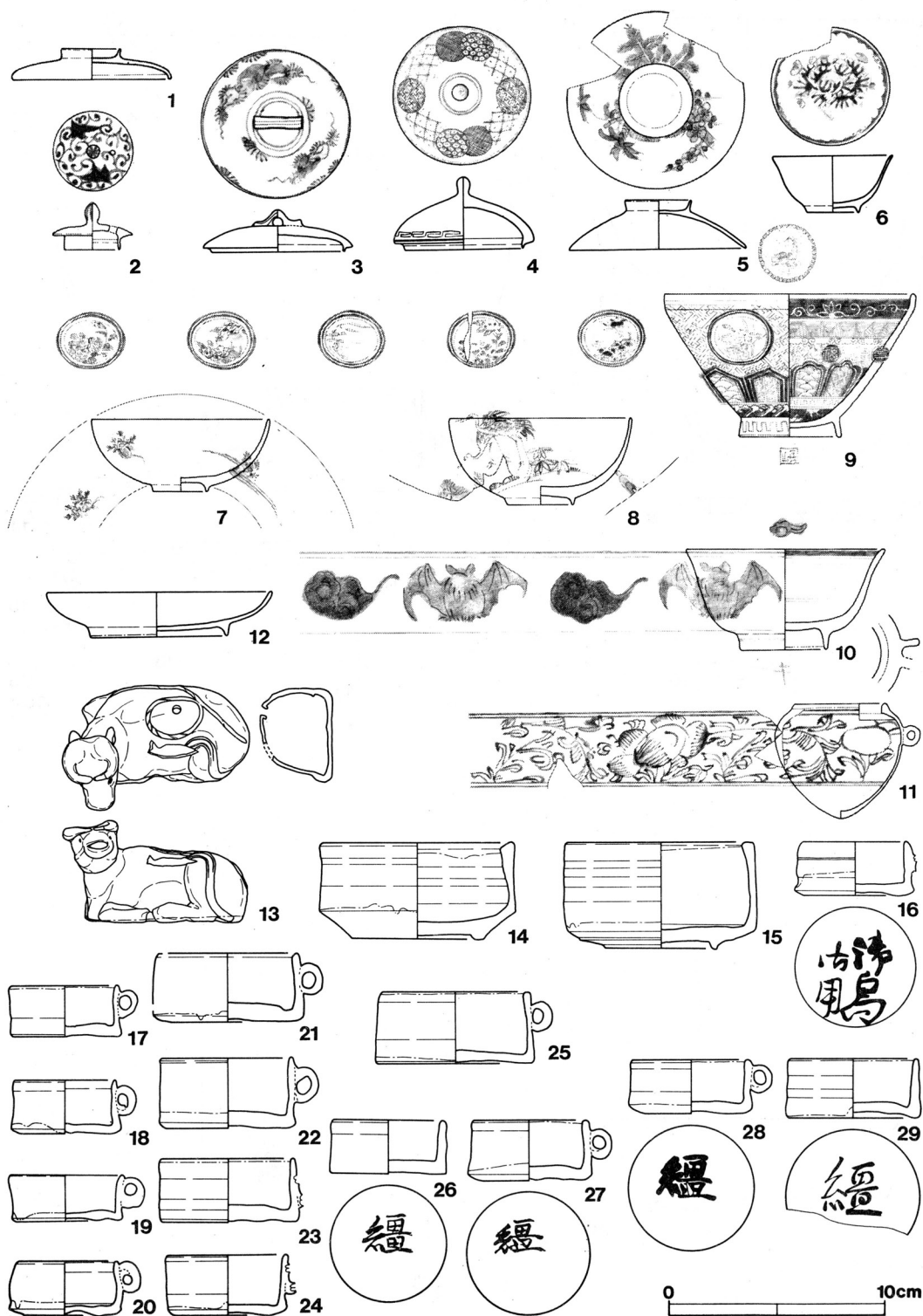
第196図 1号遺構出土陶磁器類 6



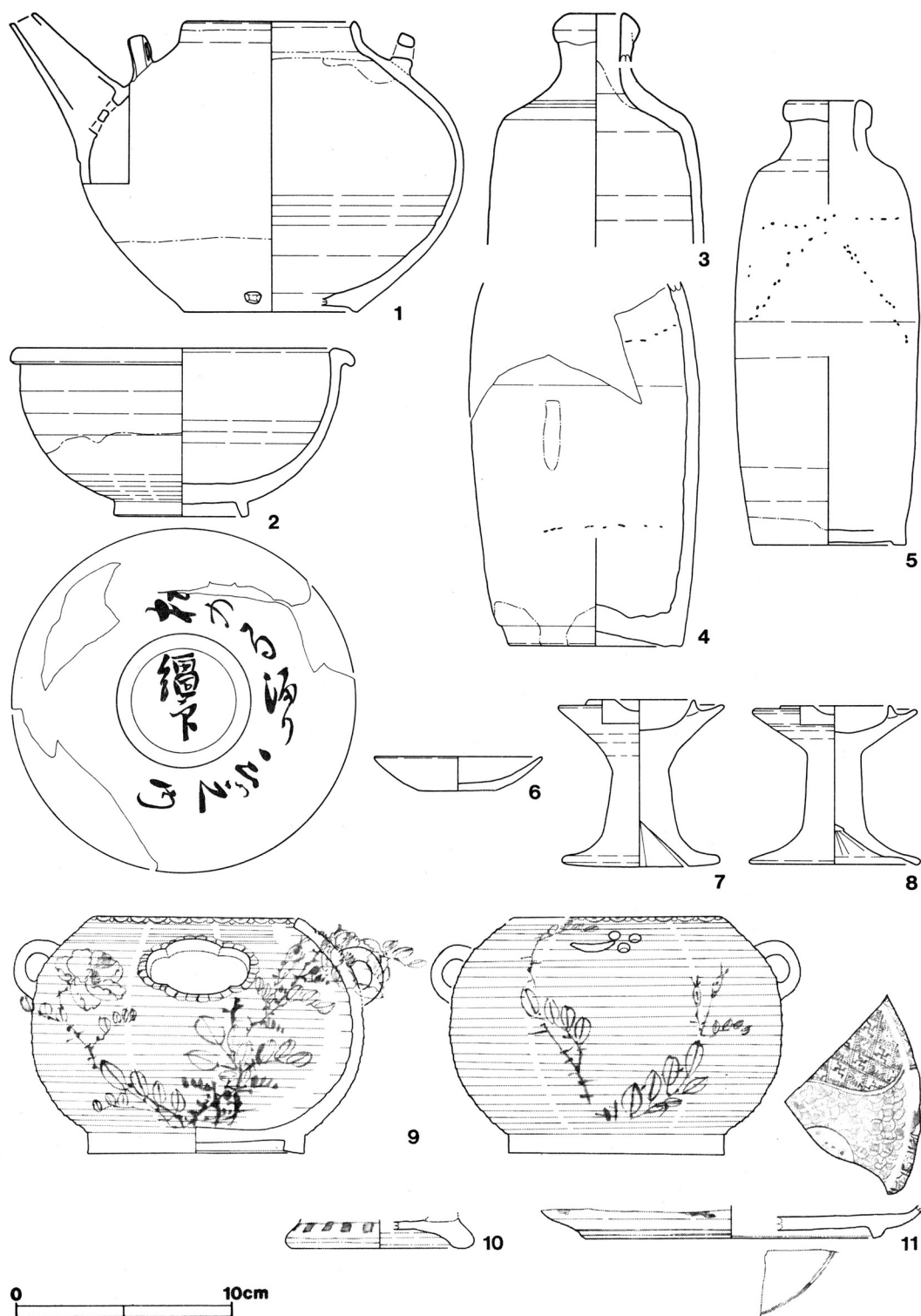
第197図 1号遺構出土陶磁器類 7



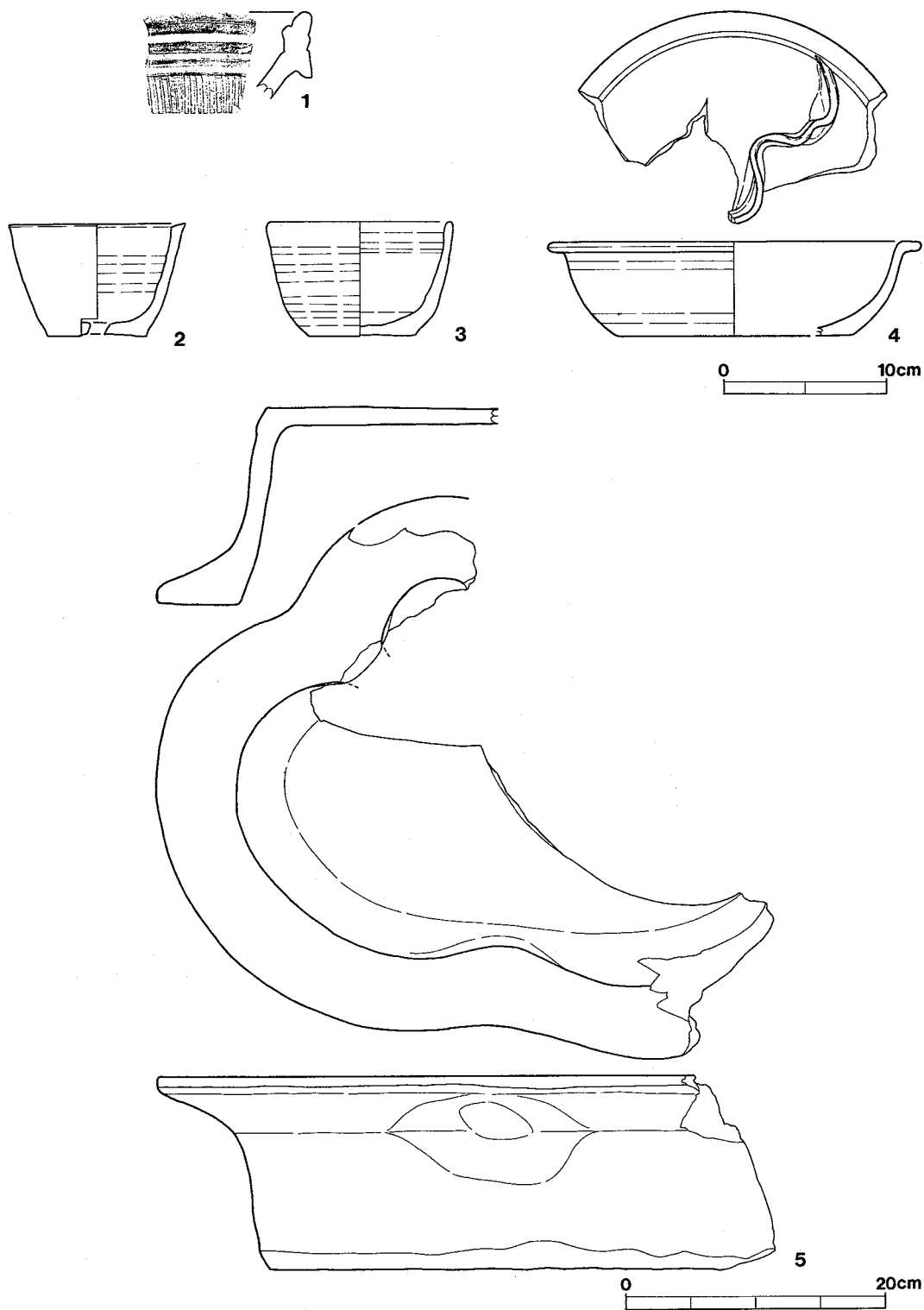
第198図 1号遺構出土陶磁器類8



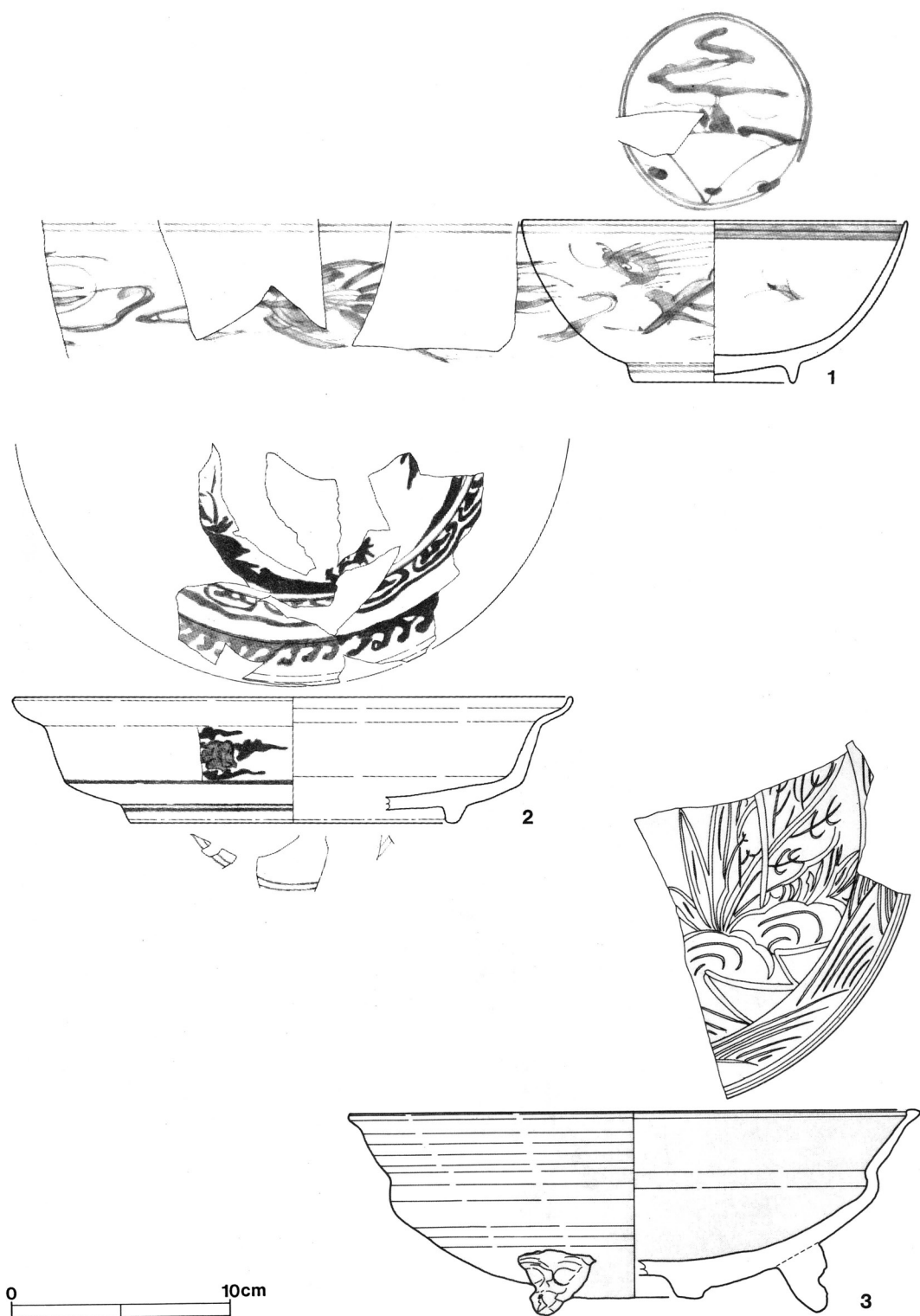
第199図 49号遺構出土陶磁器類 1



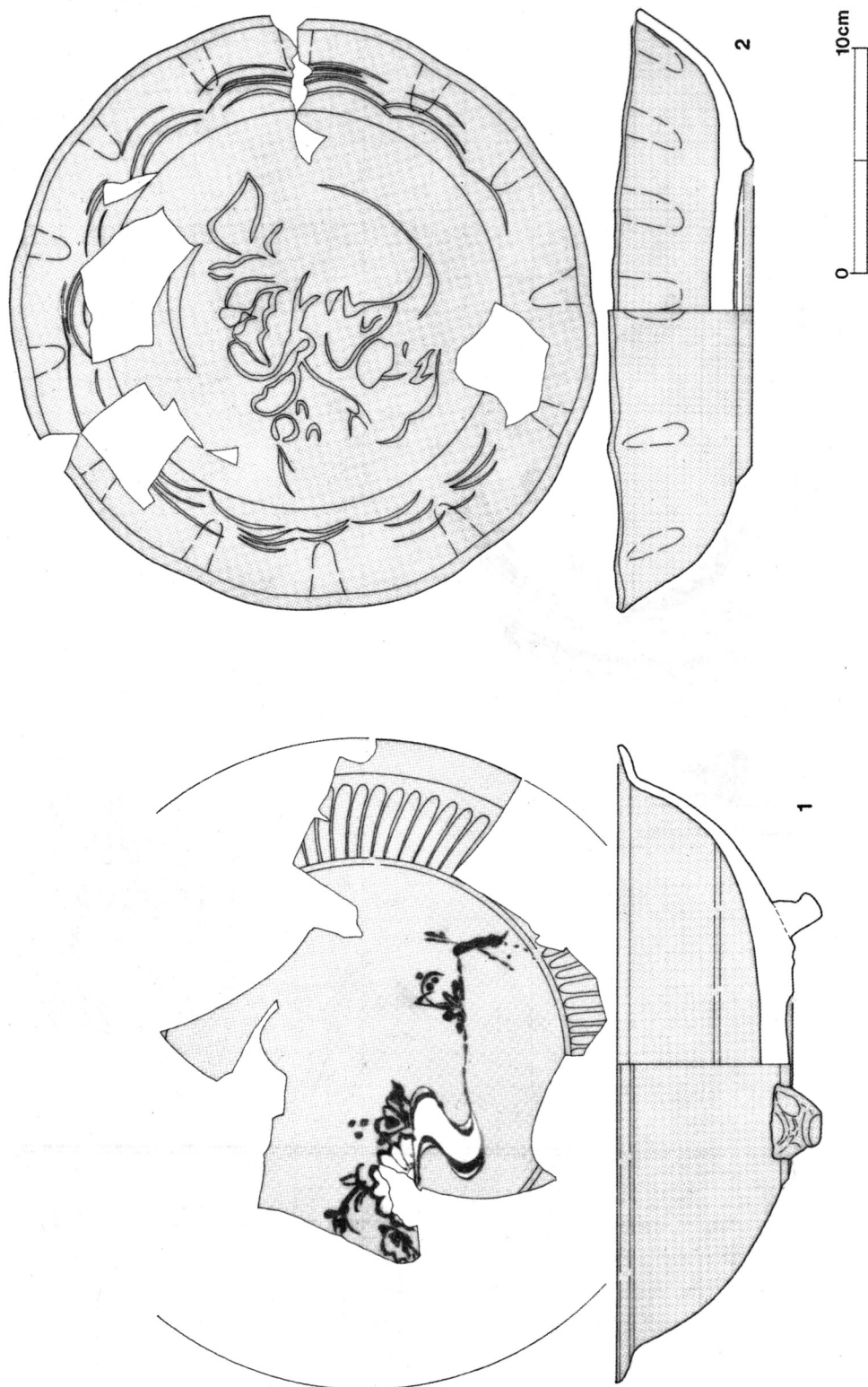
第200図 49号遺構出土陶磁器類 2



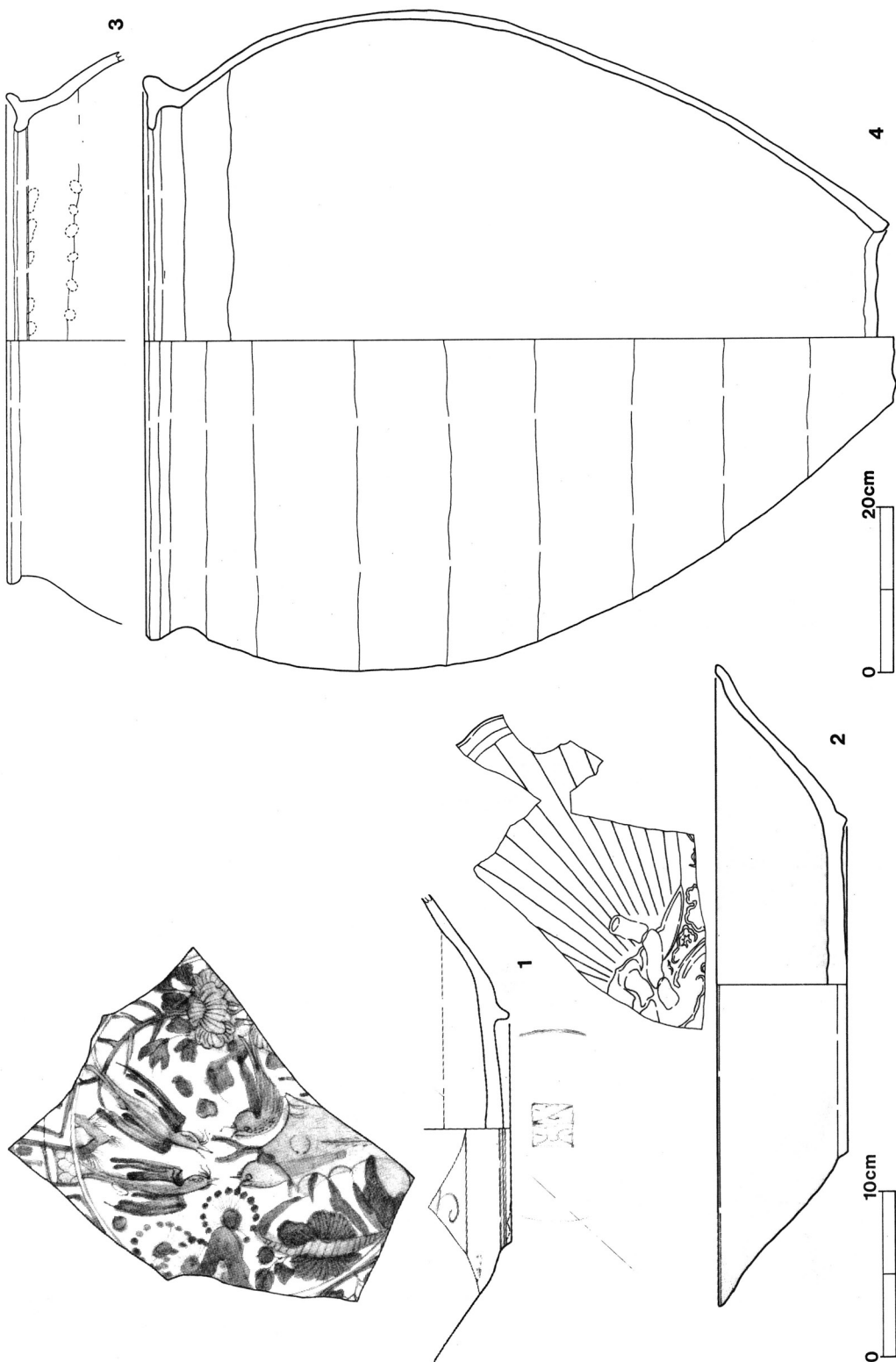
第201図 49号遺構出土陶磁器類



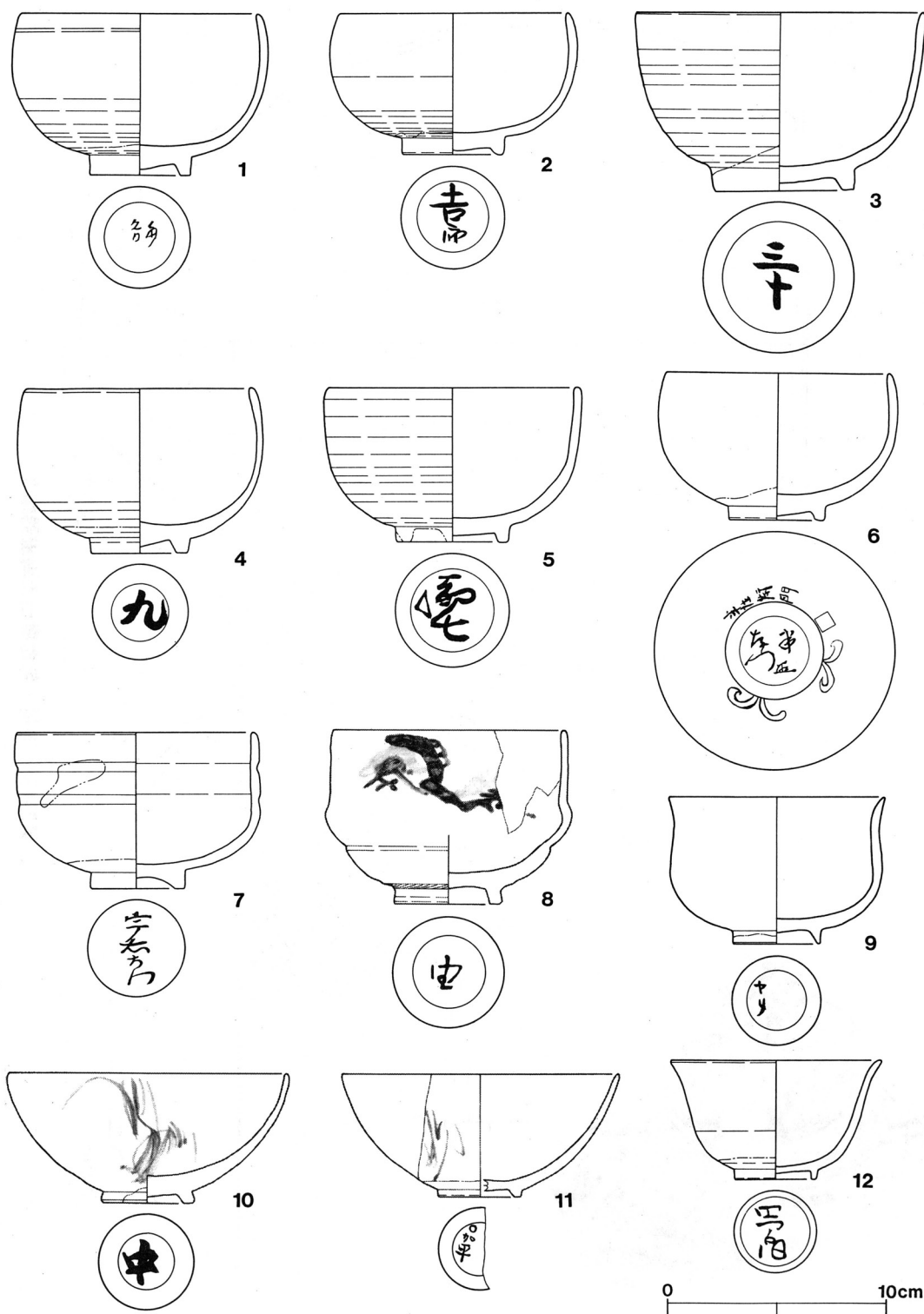
第202図 遺構・包含層出土陶磁器類 1



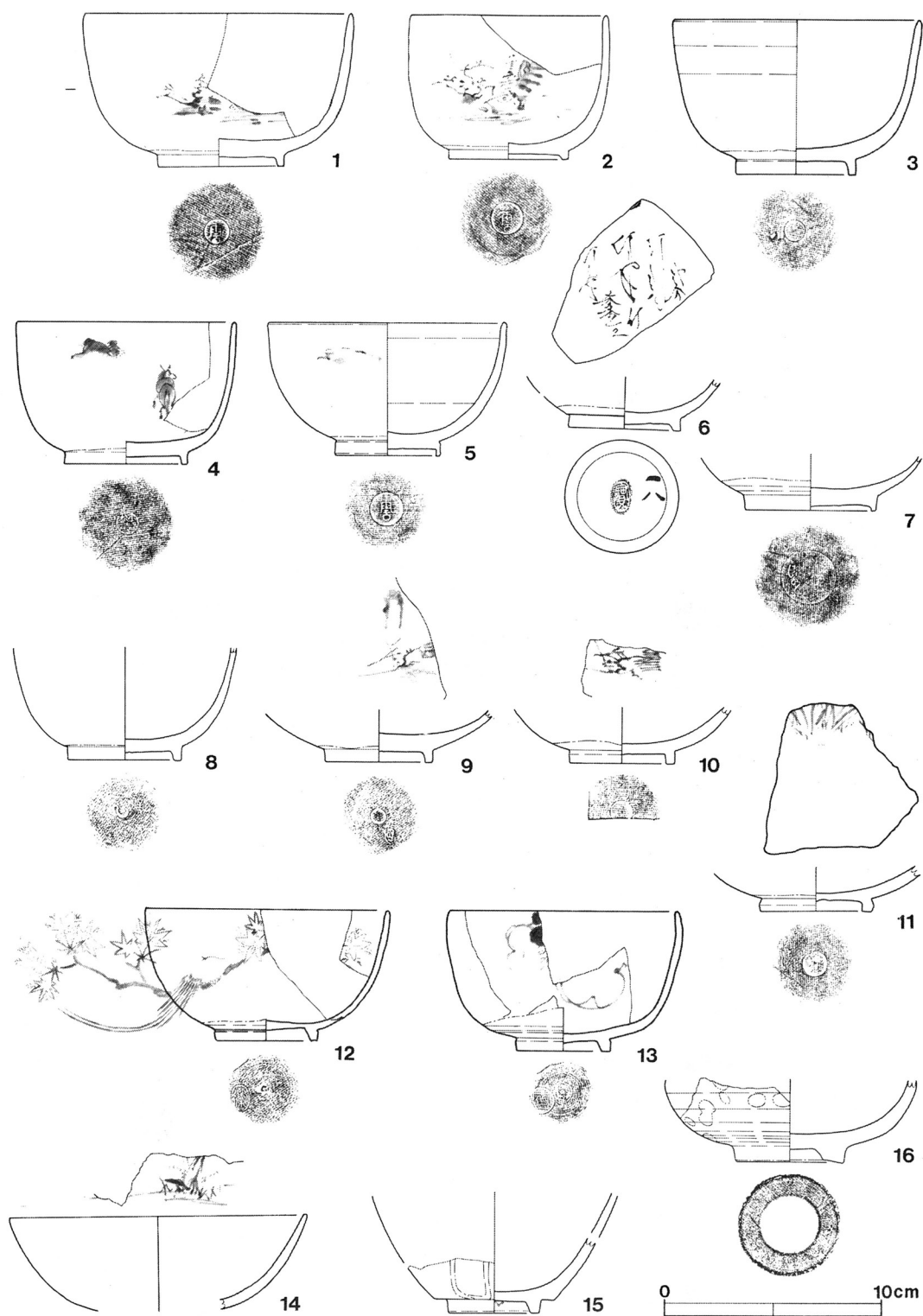
第203図 遺構・包含層出土陶磁器類 2



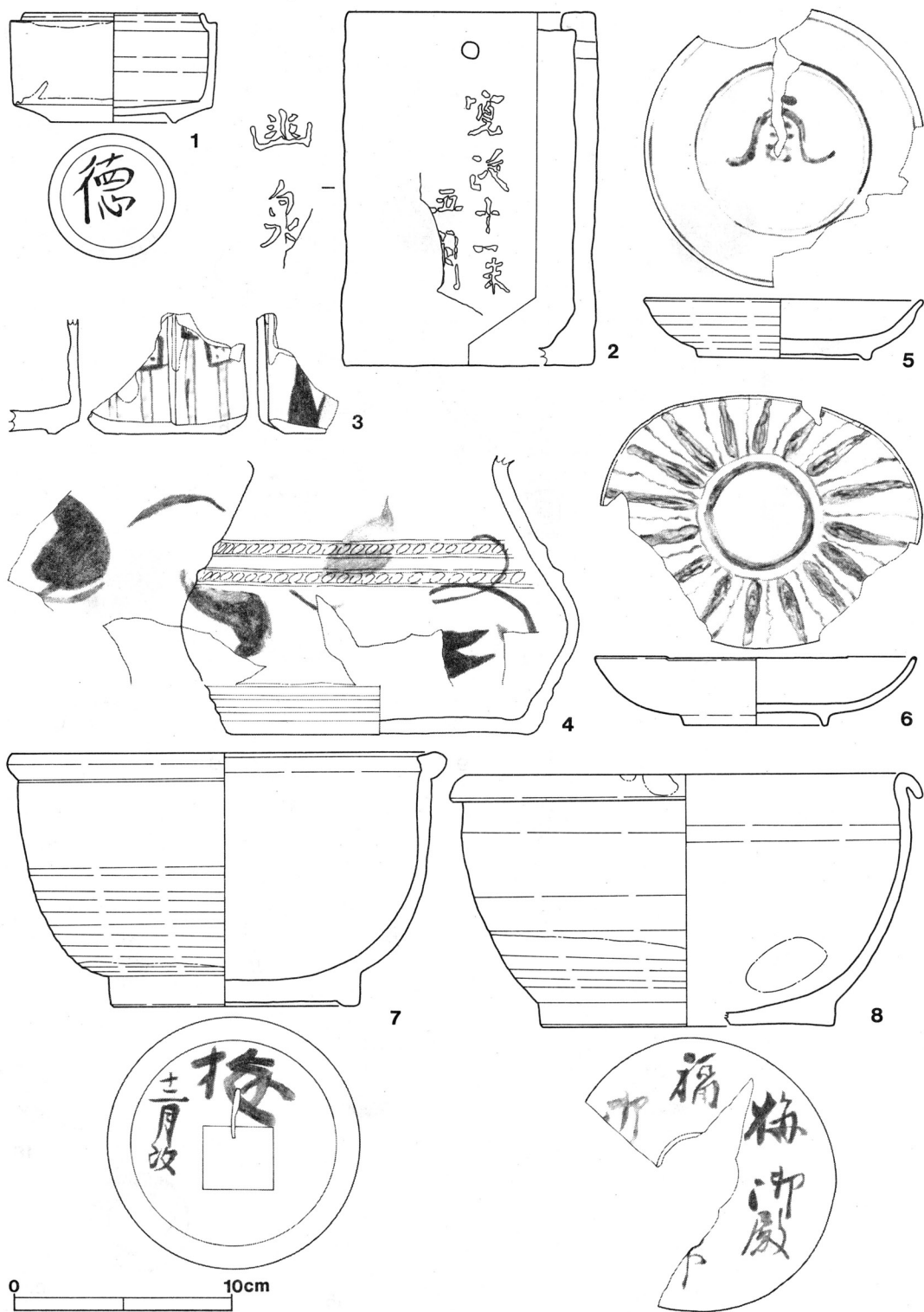
第204図 遺構・包含層出土陶磁器類 3



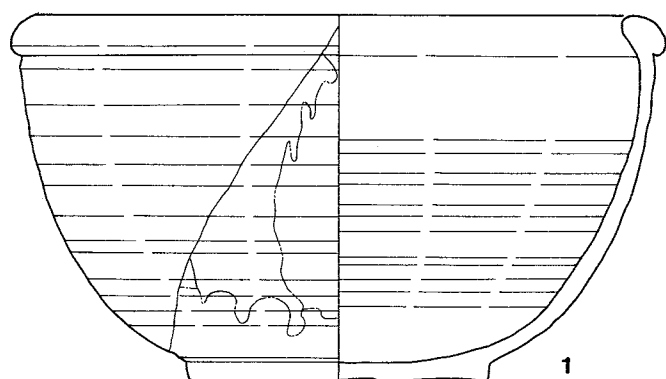
第205図 遺構・包含層出土陶磁器類 4



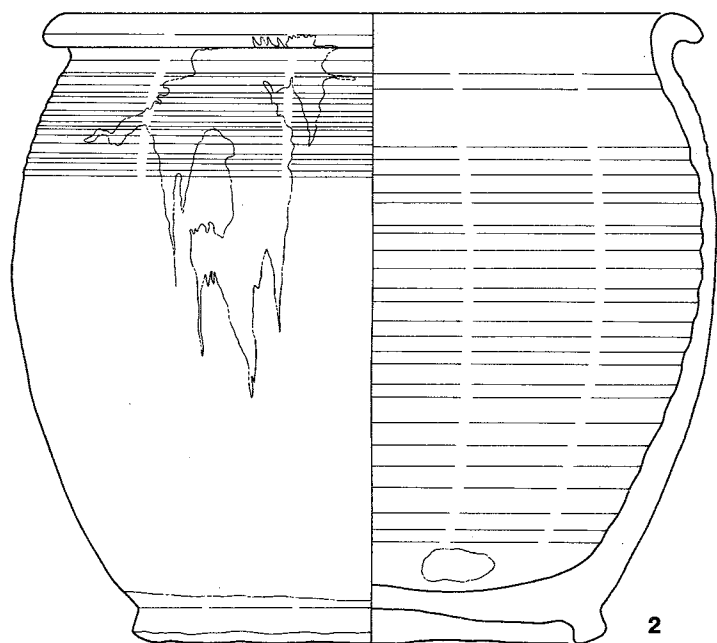
第206図 遺構・包含層出土陶磁器類 5



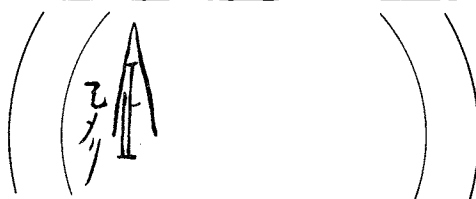
第207圖 遺構・包含層出土陶磁器類 6



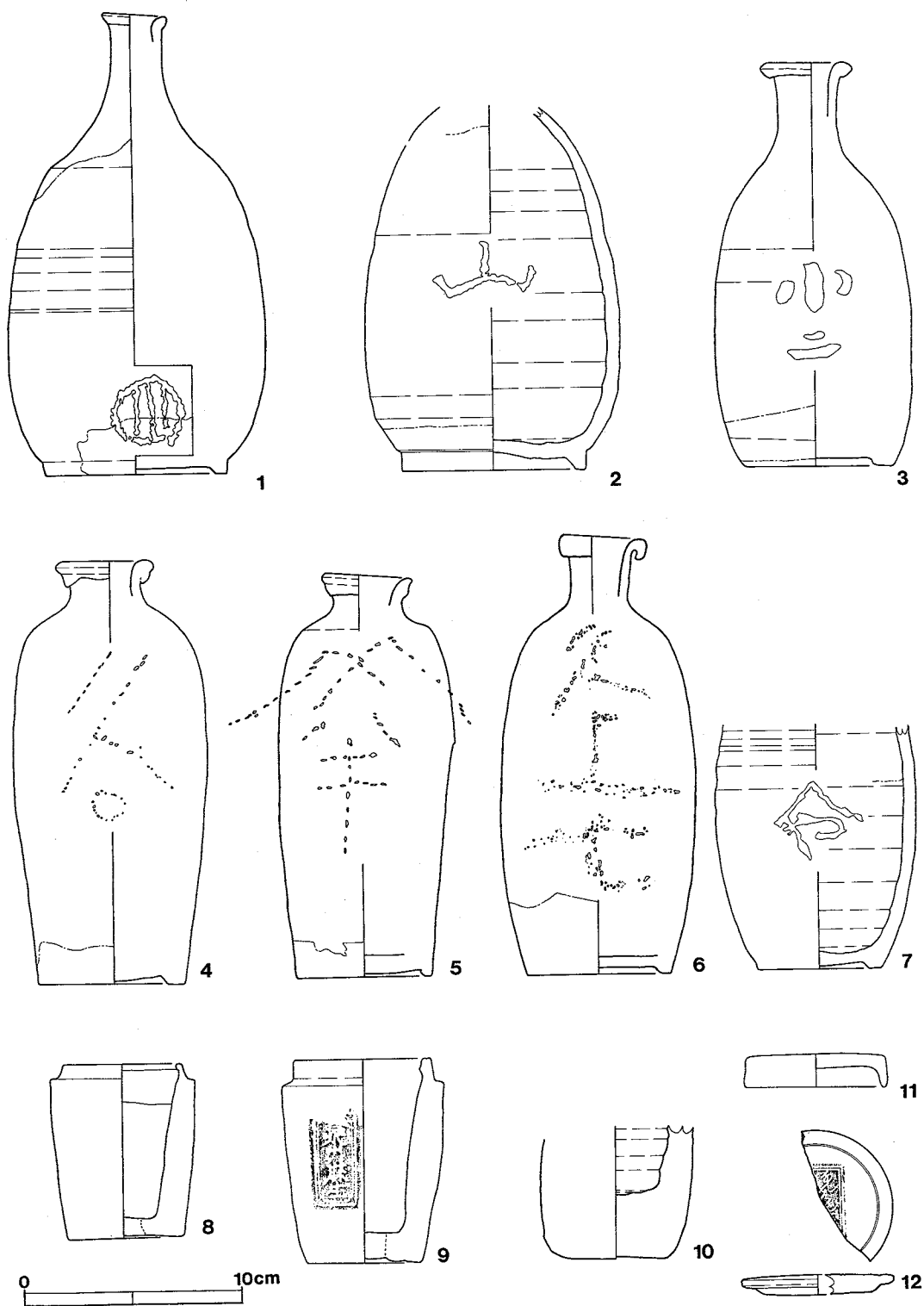
0 10cm



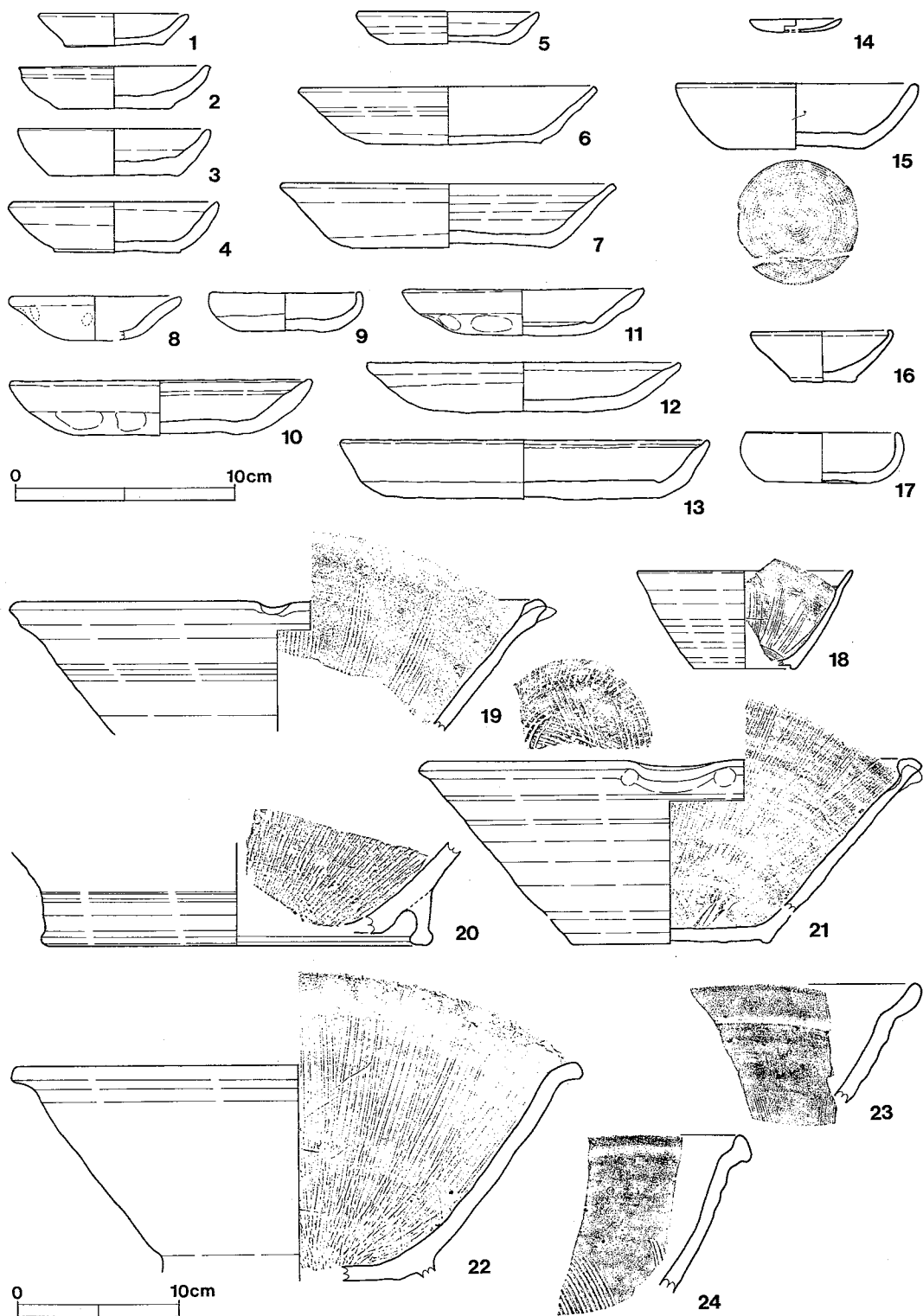
0 10cm



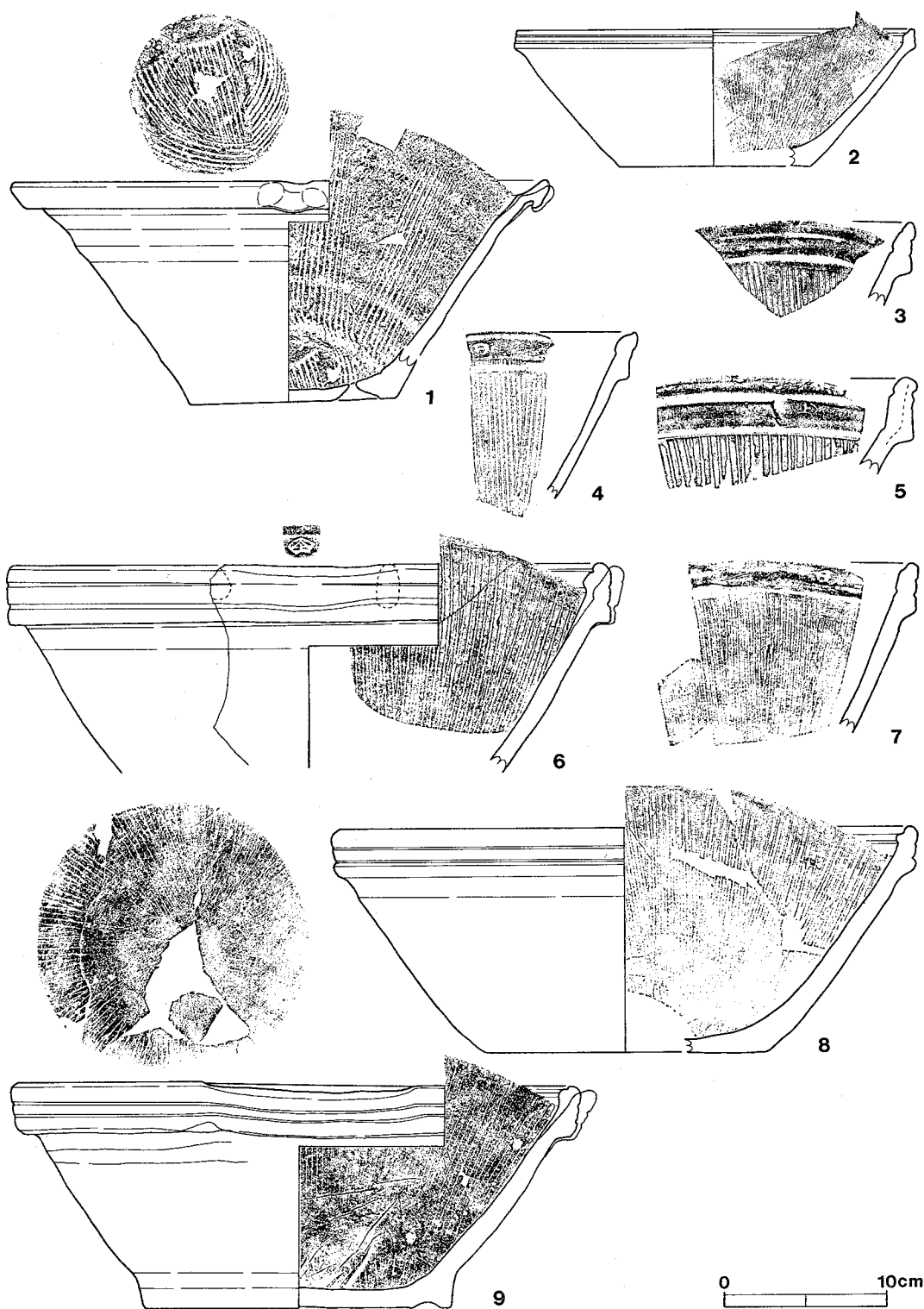
第208図 遺構・包含層出土陶磁器類



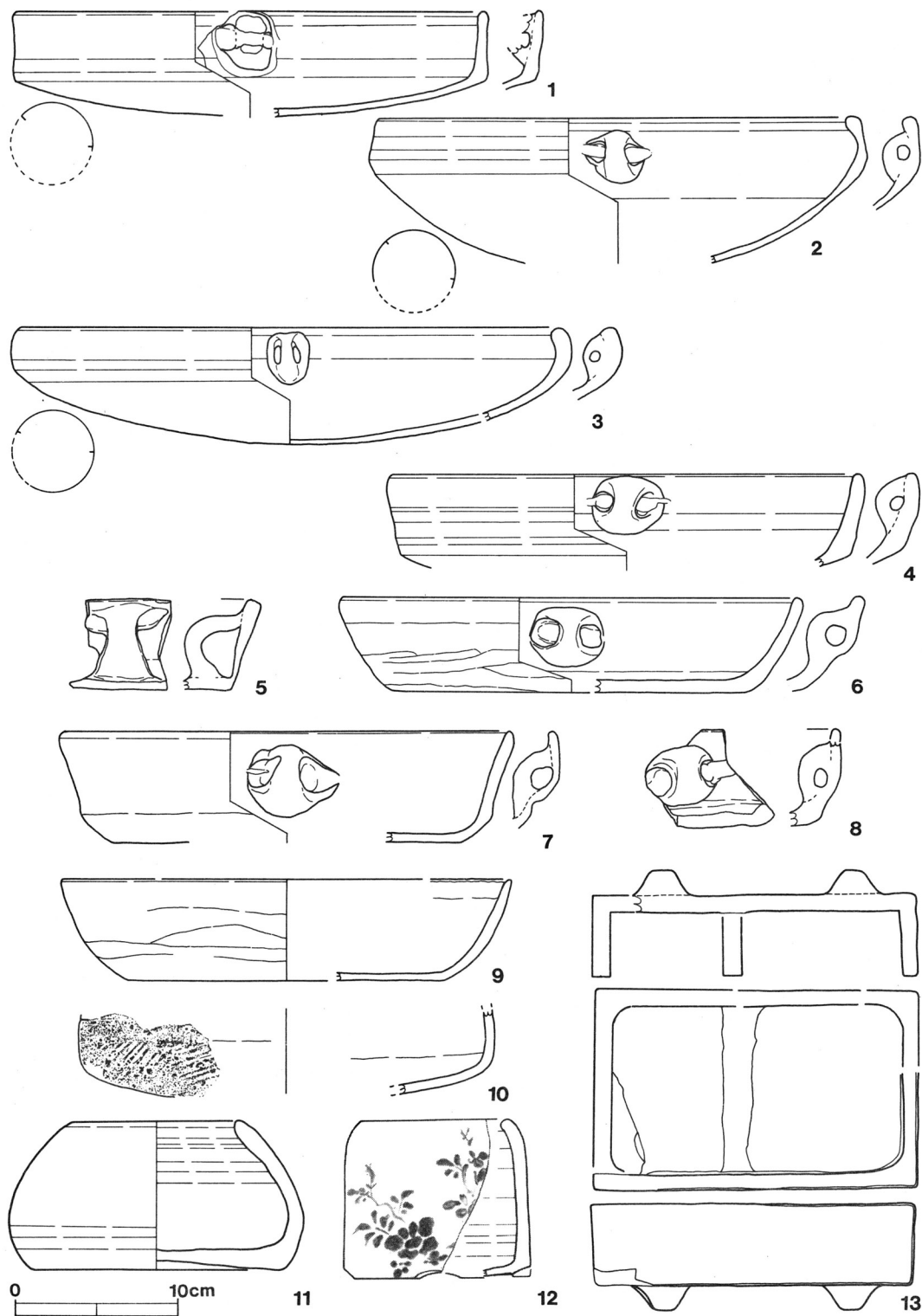
第209図 遺構・包含層出土陶磁器類 8



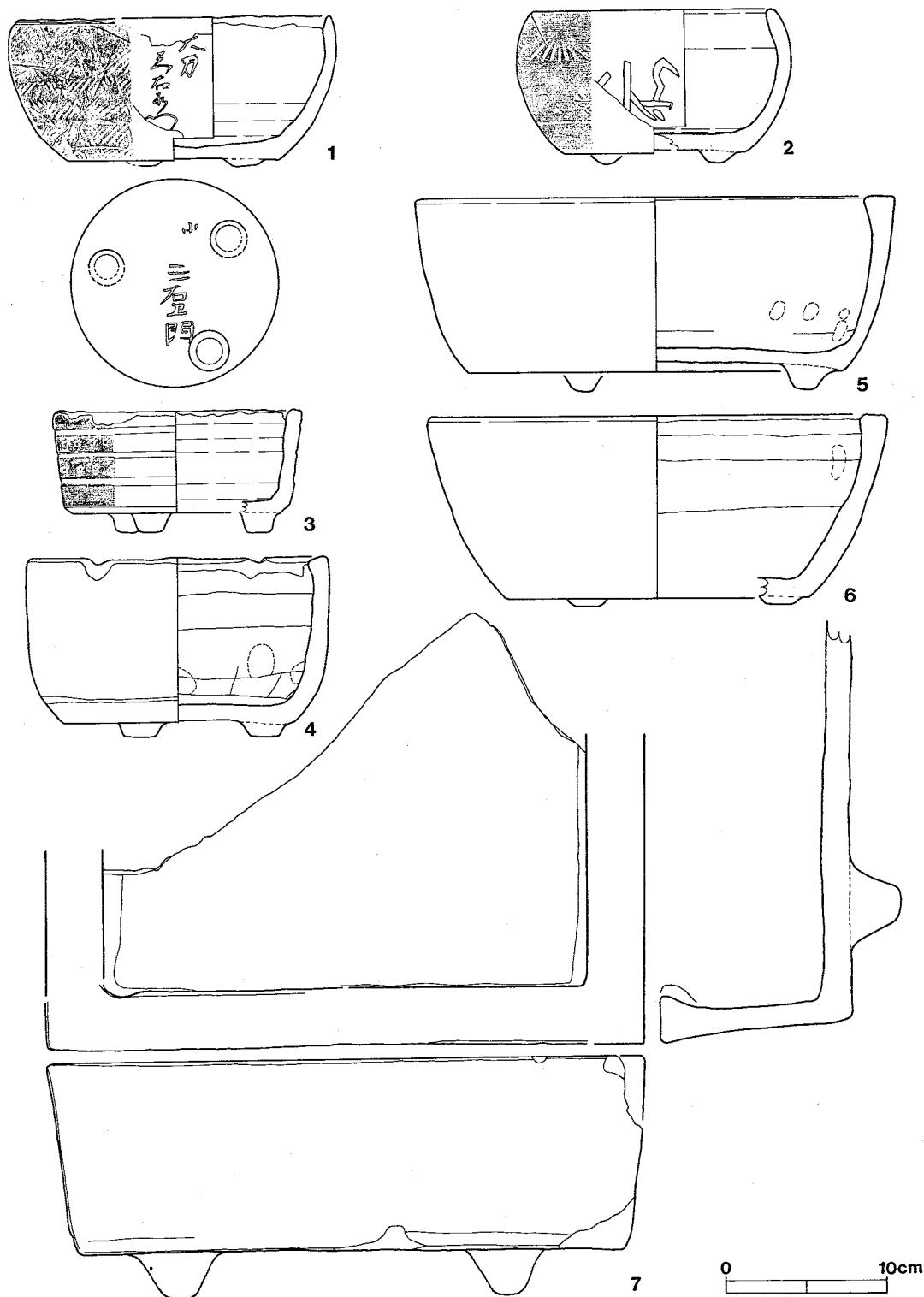
第210図 遺構・包含層出土陶磁器類 9



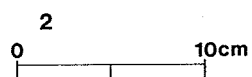
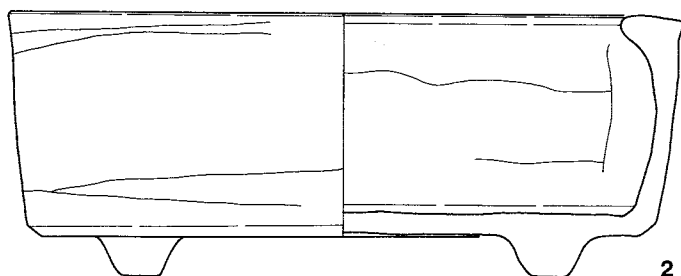
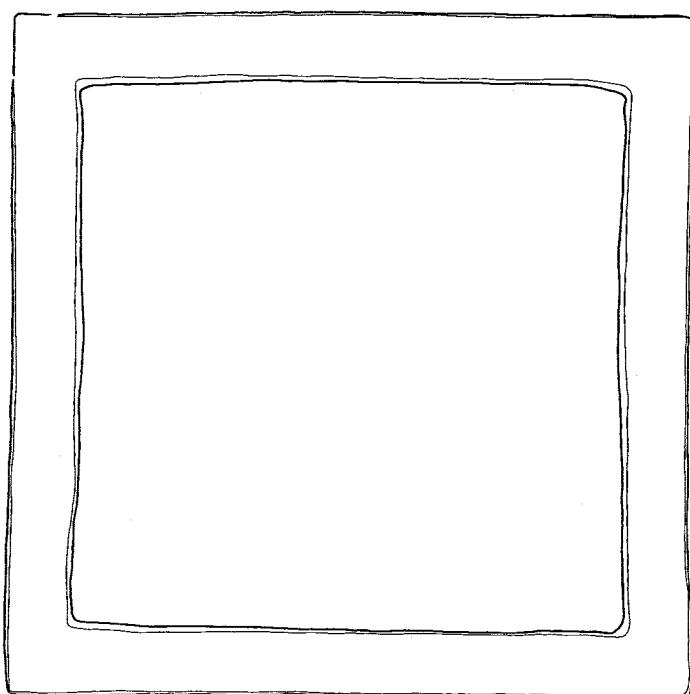
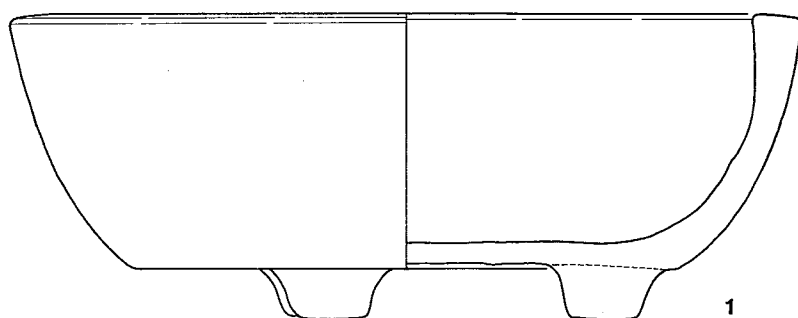
第211図 遺構・包含層出土陶磁器類10



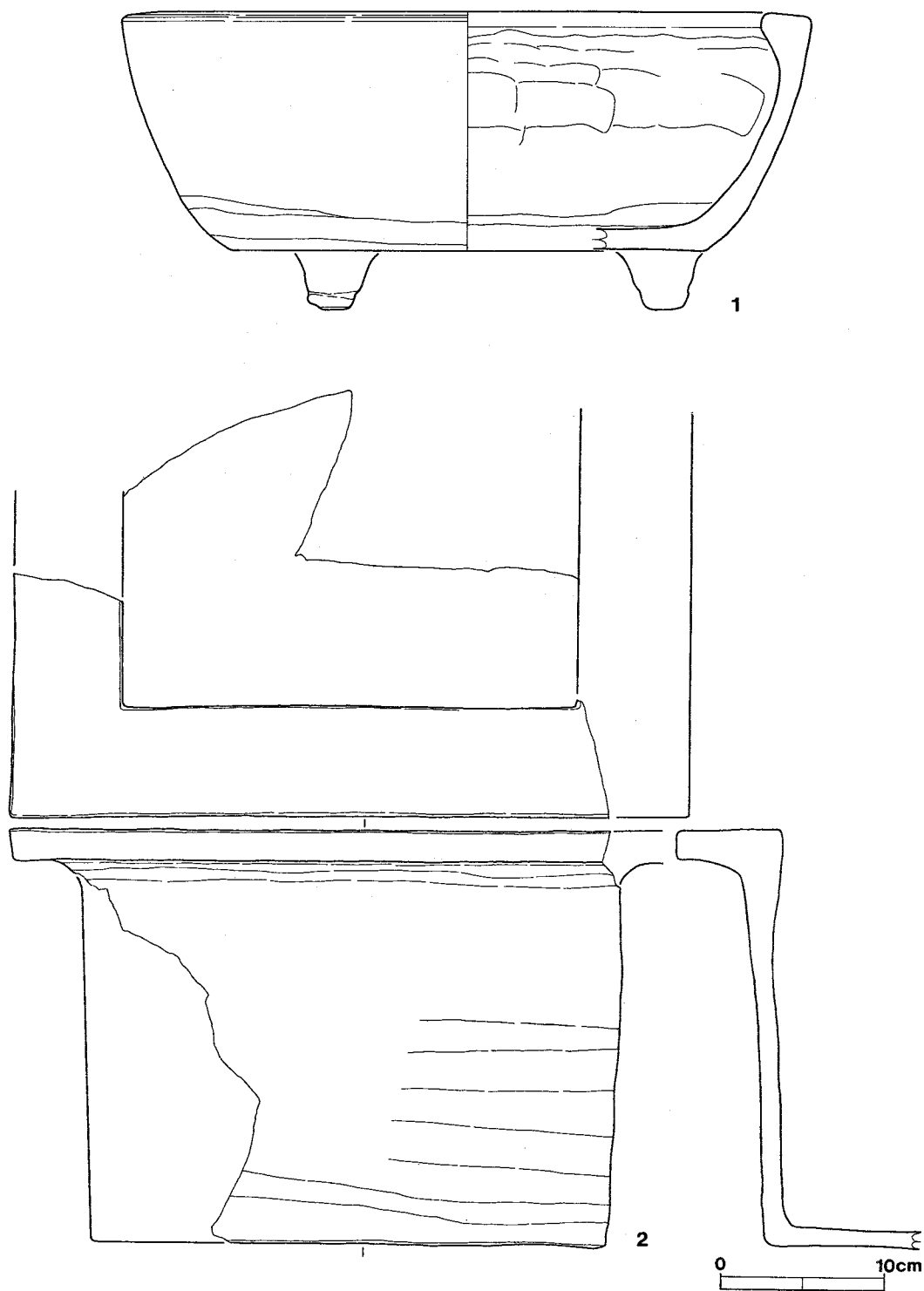
第212図 遺構・包含層出土陶磁器類11



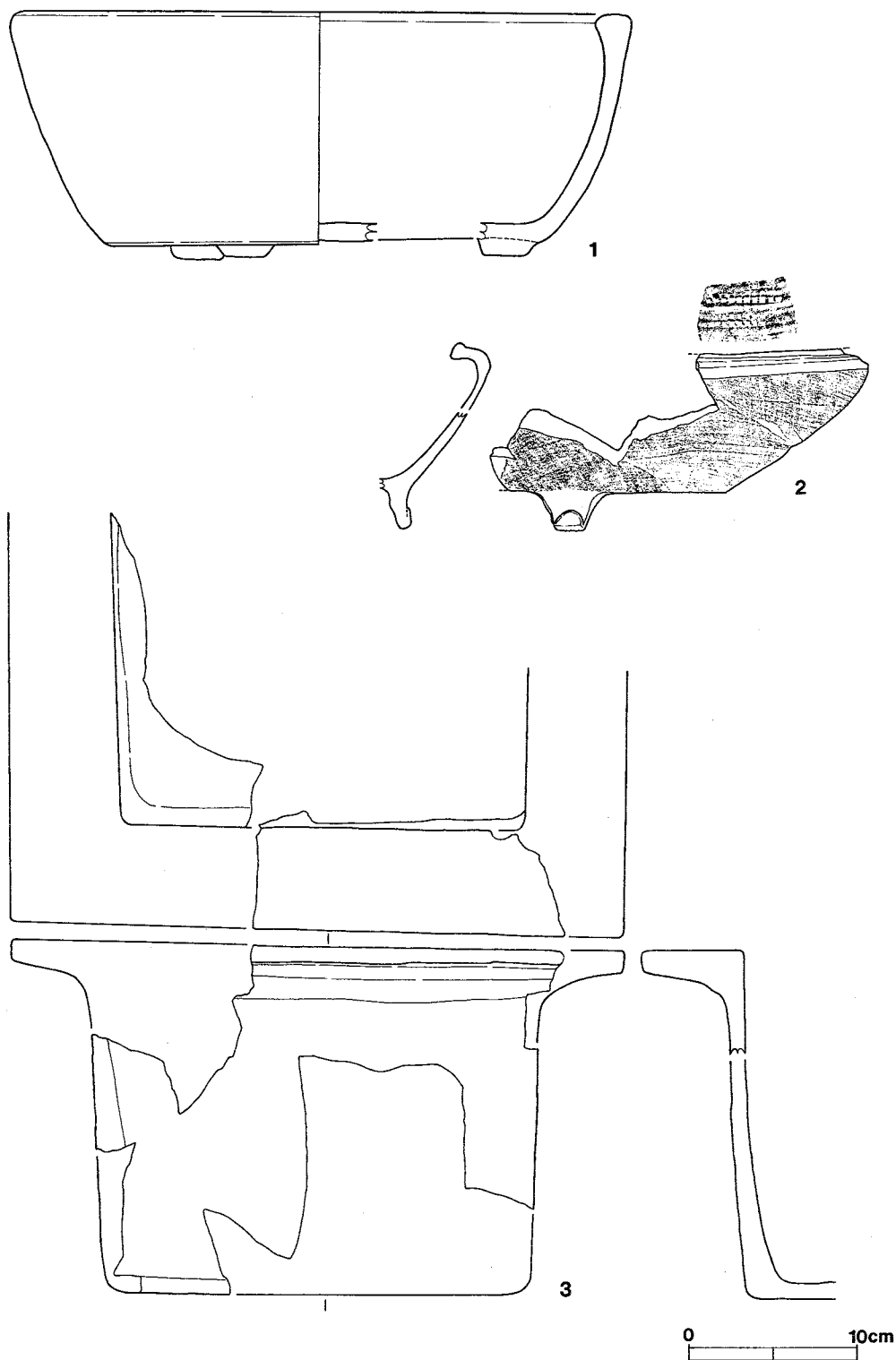
第213図 遺構・包含層出土陶磁器類12



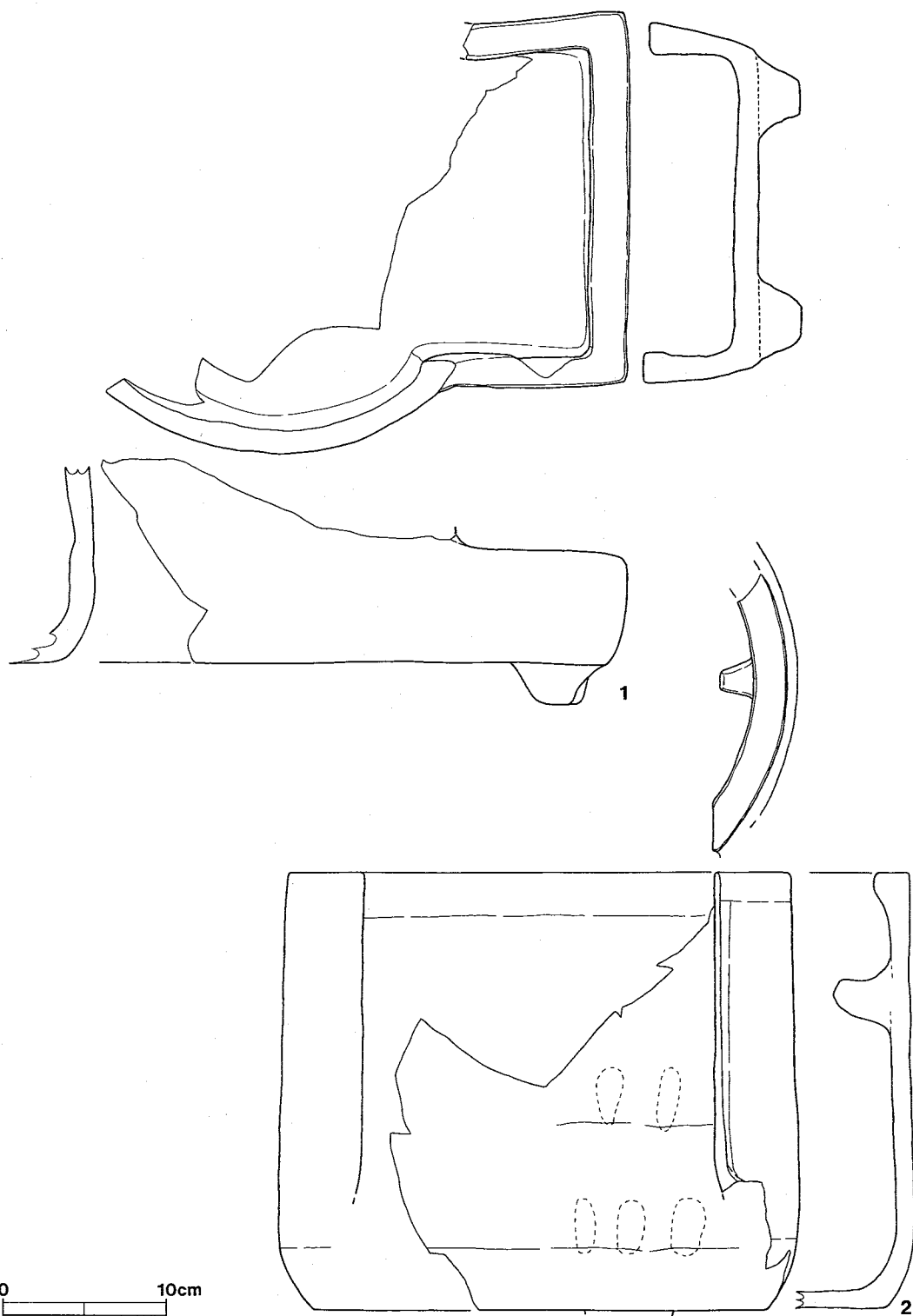
第214図 遺構・包含層出土陶磁器類13



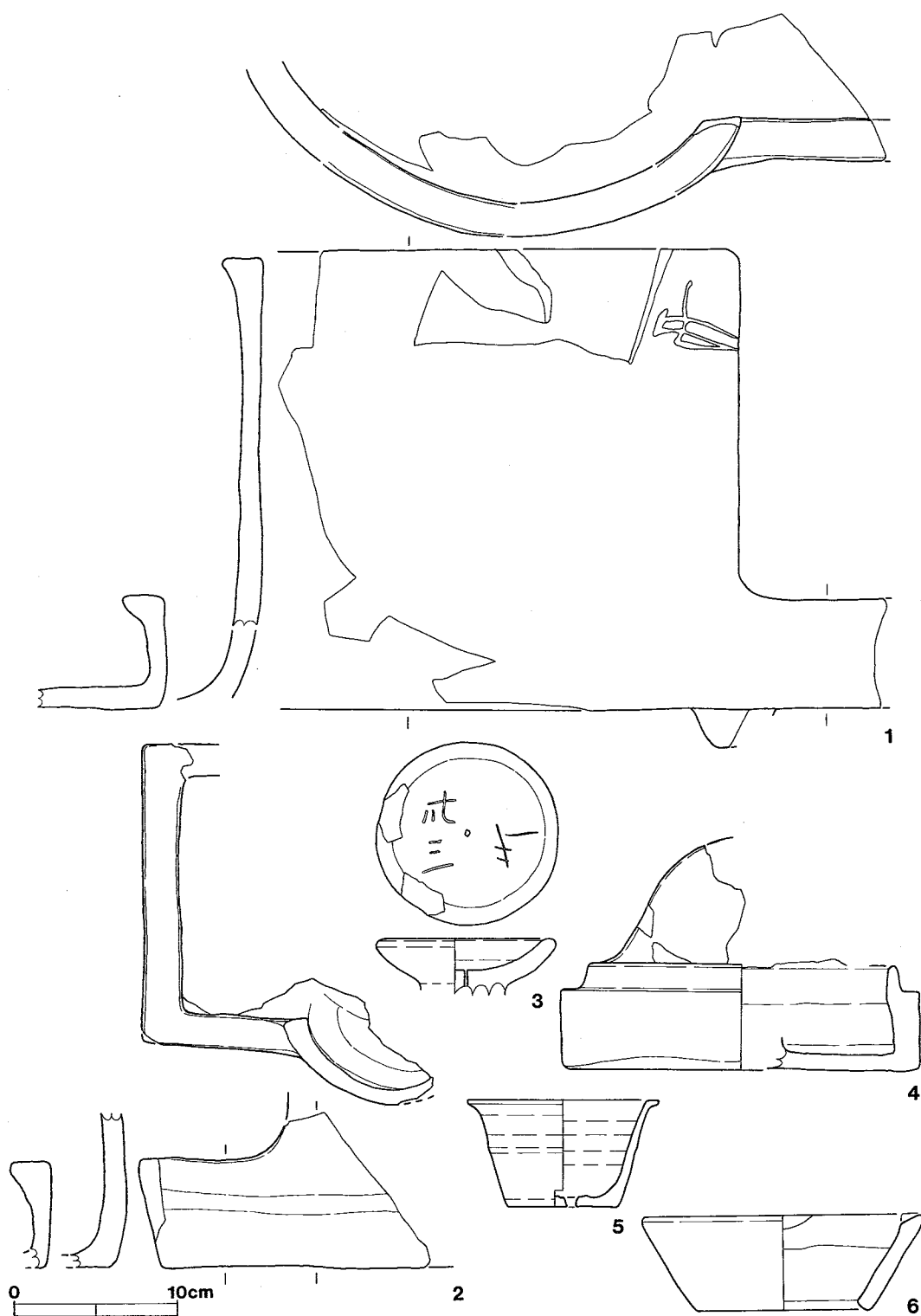
第215図 遺構・包含層出土陶磁器類14



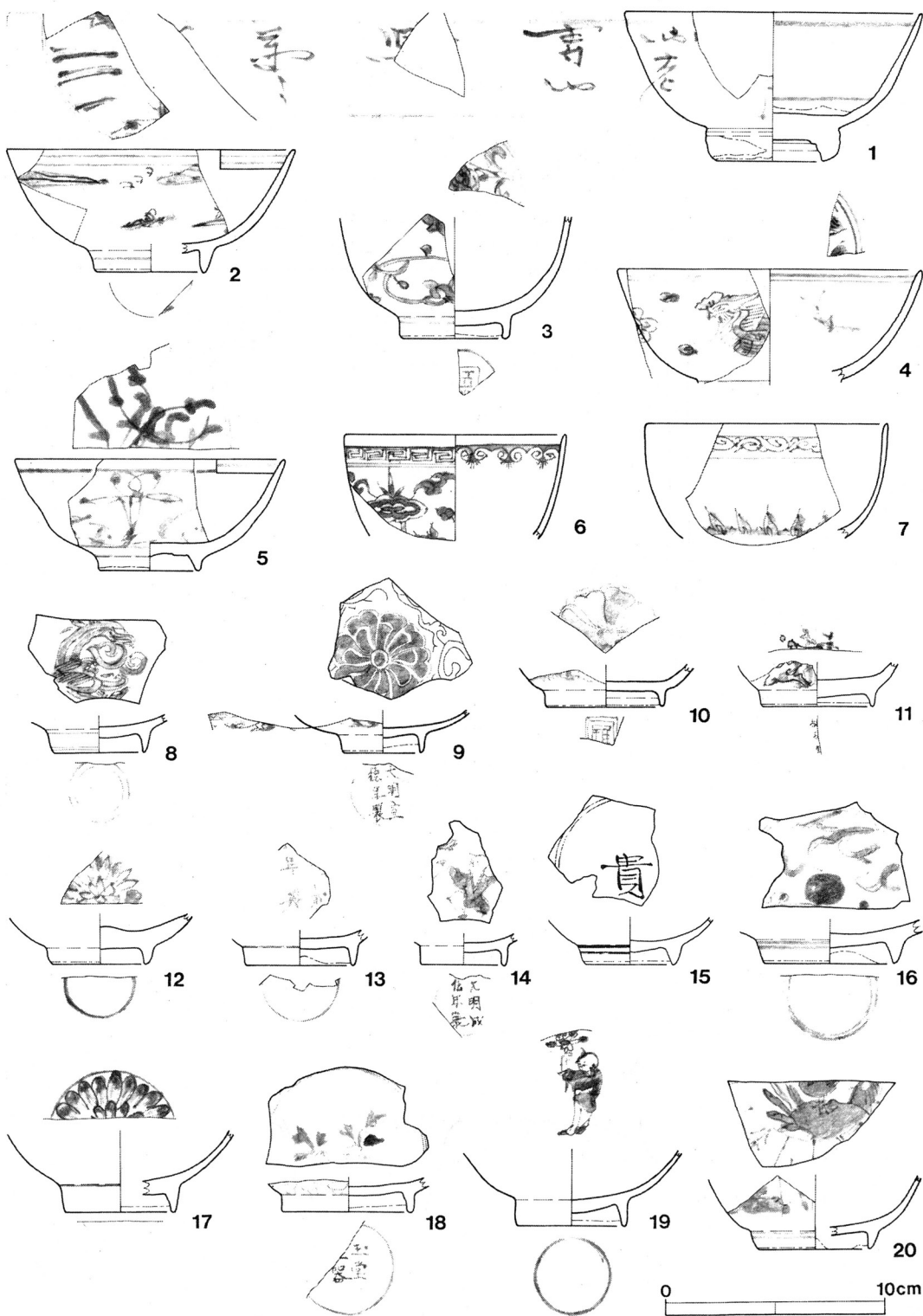
第216図 遺構・包含層出土陶磁器類15



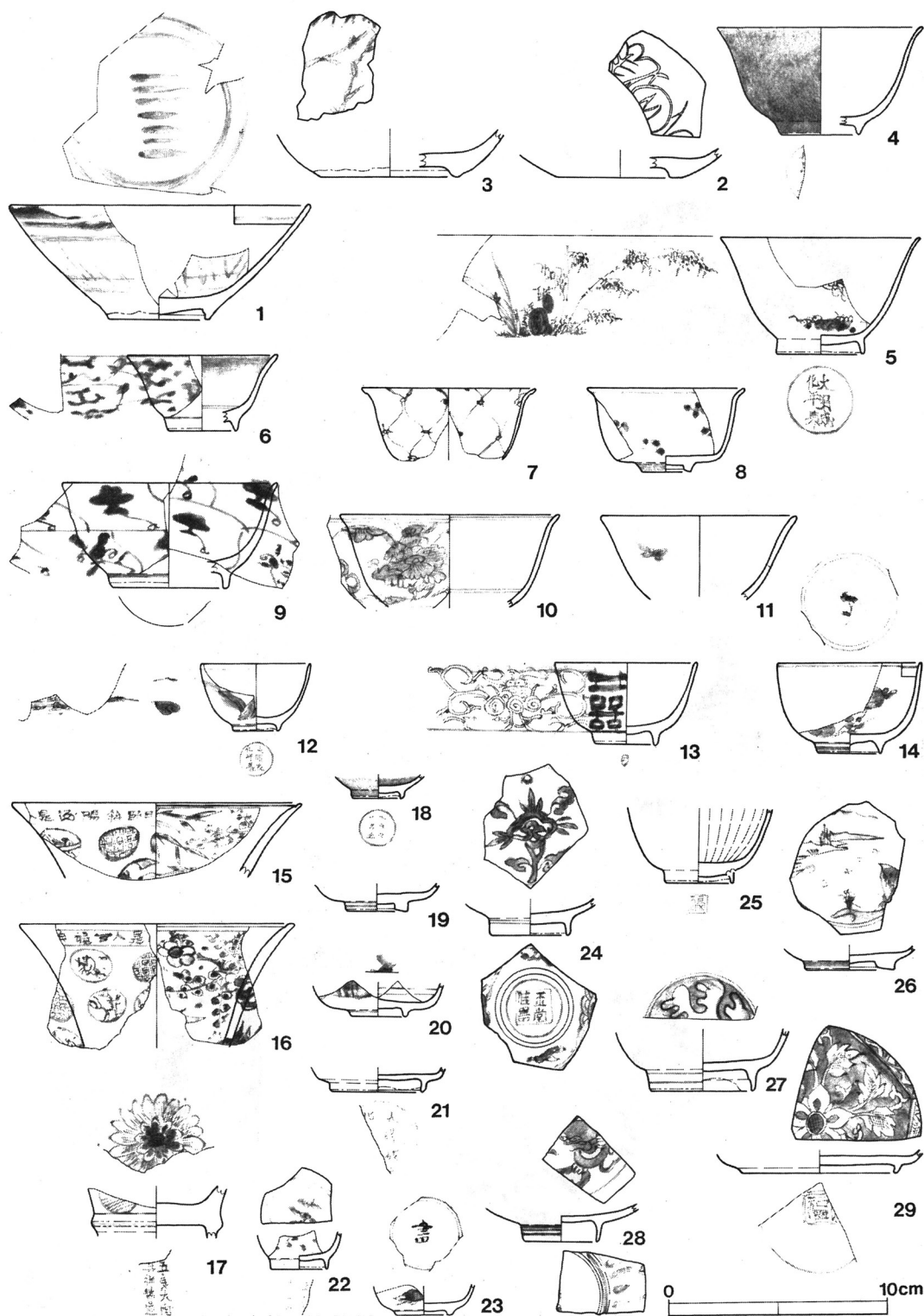
第217図 遺構・包含層出土陶磁器類16



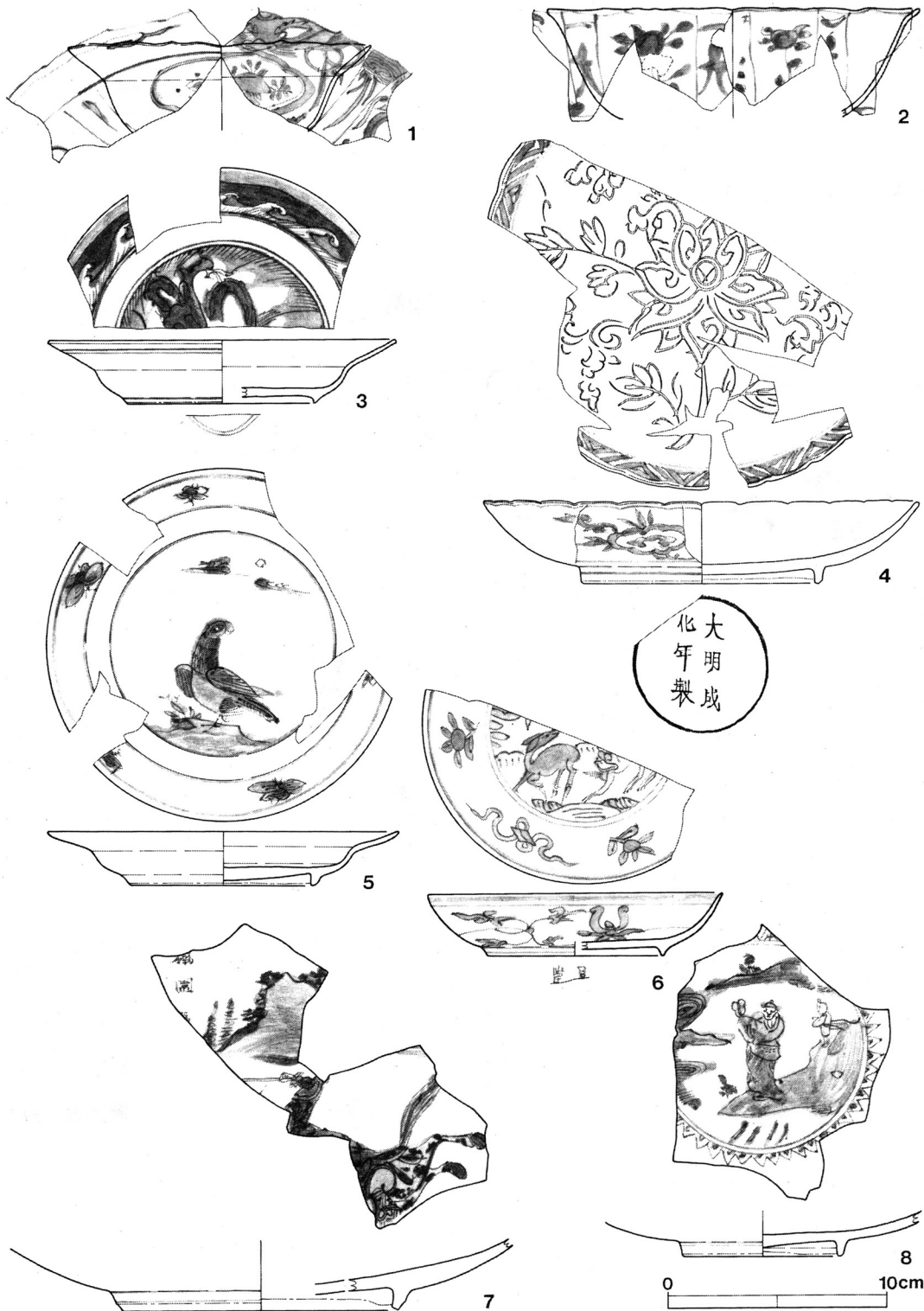
第218図 遺構・包含層出土陶磁器類17



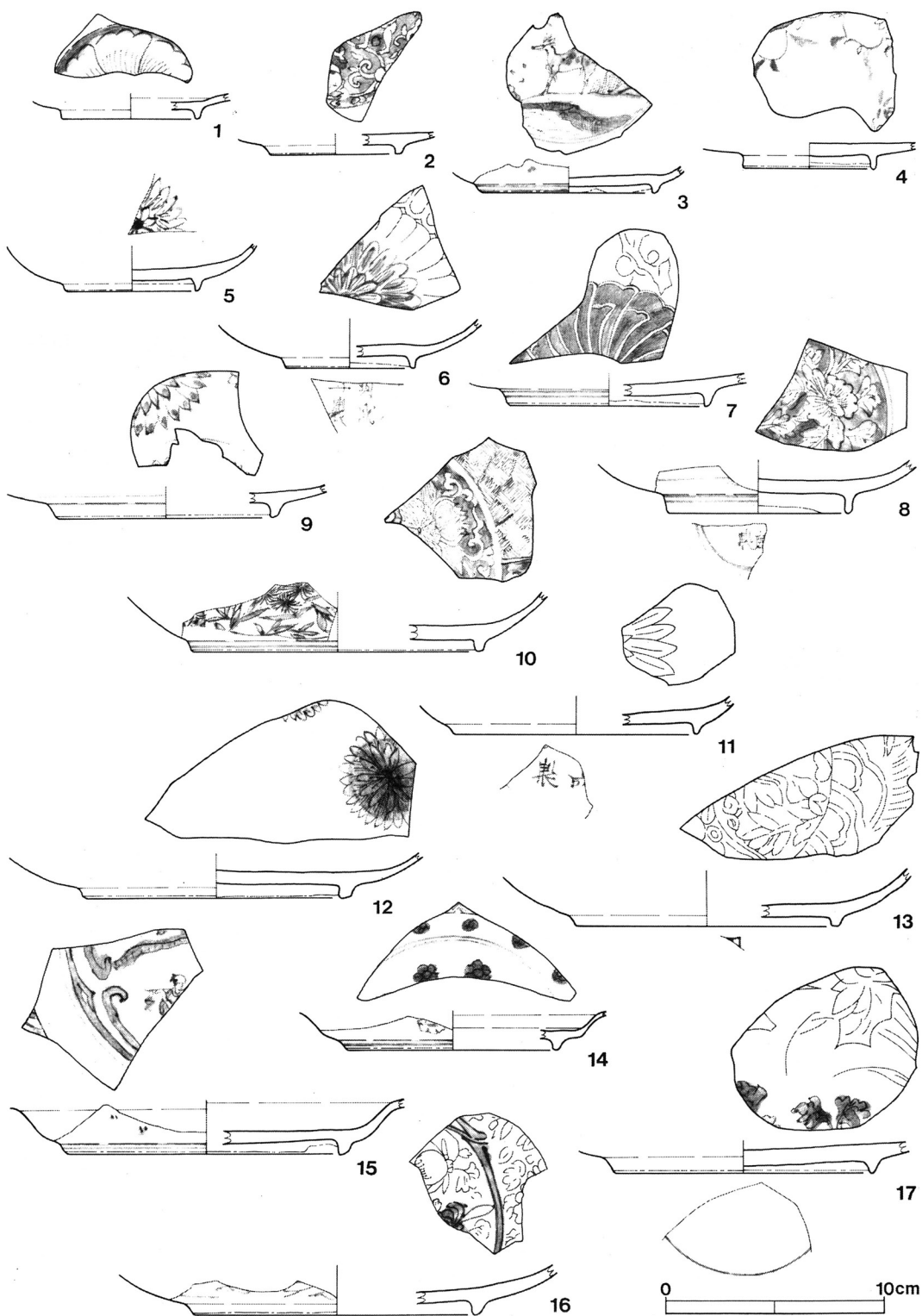
第219図 遺構・包含層出土陶磁器類18



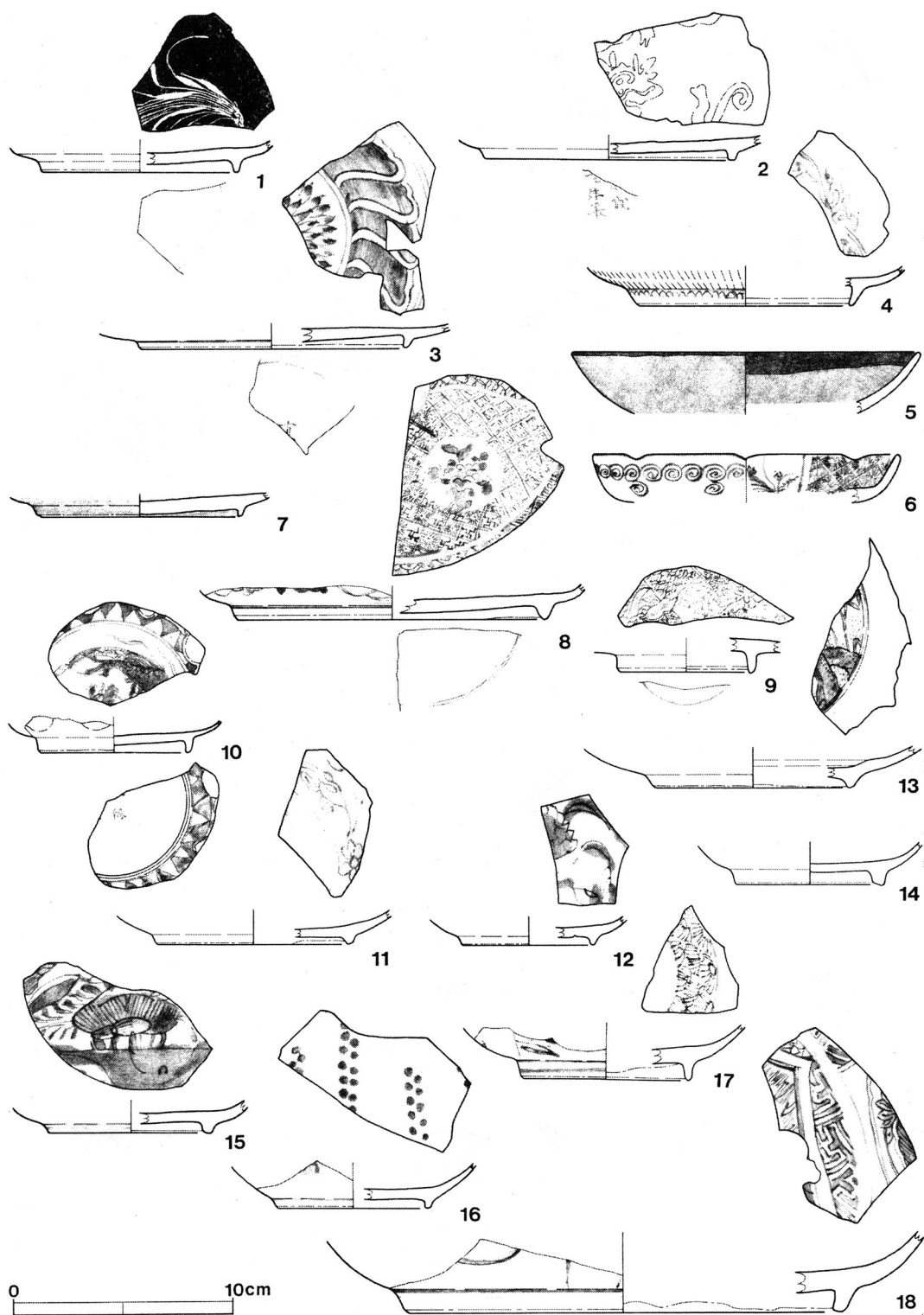
第220図 遺構・包含層出土陶磁器類19



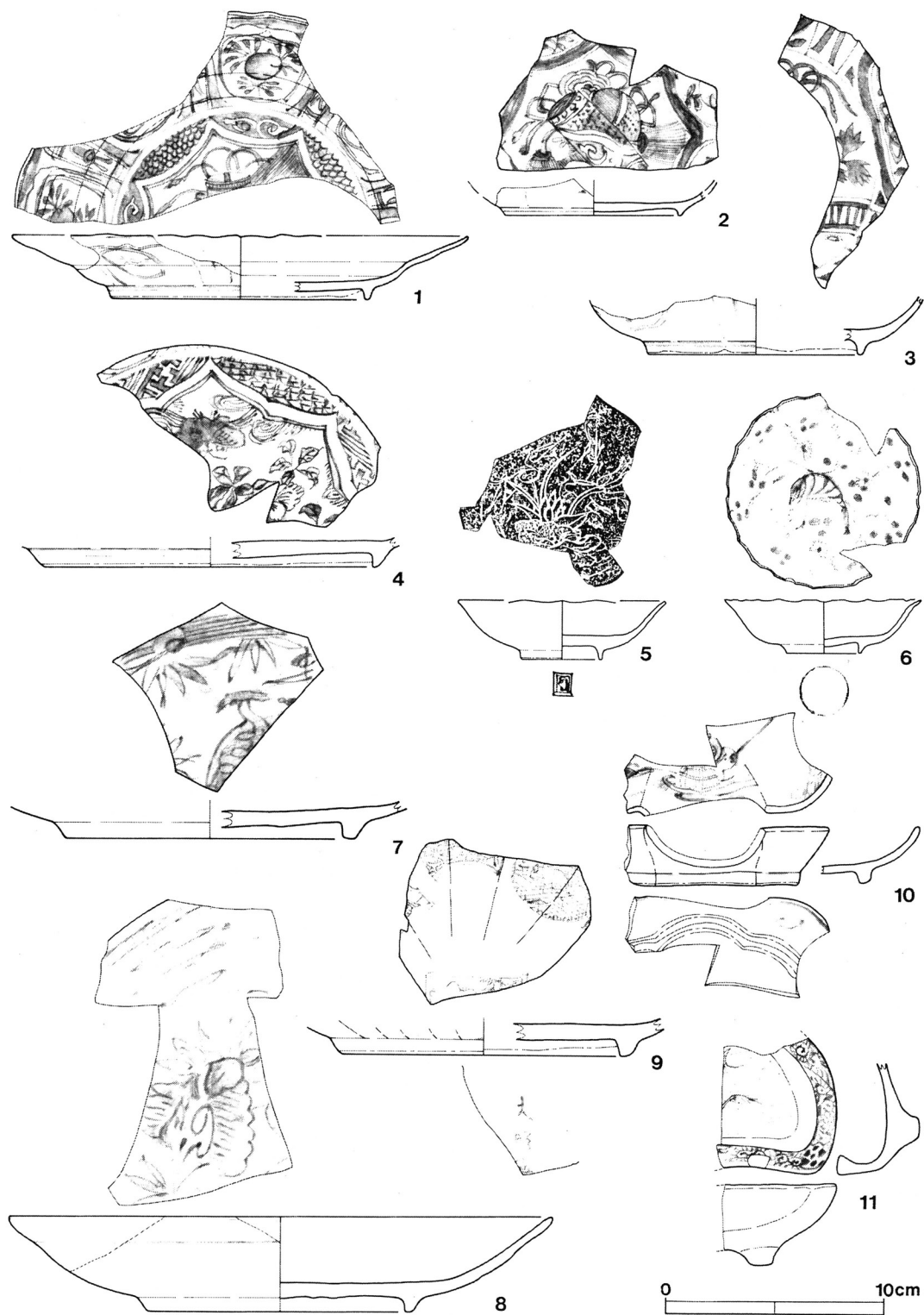
第221図 遺構・包含層出土陶磁器類20



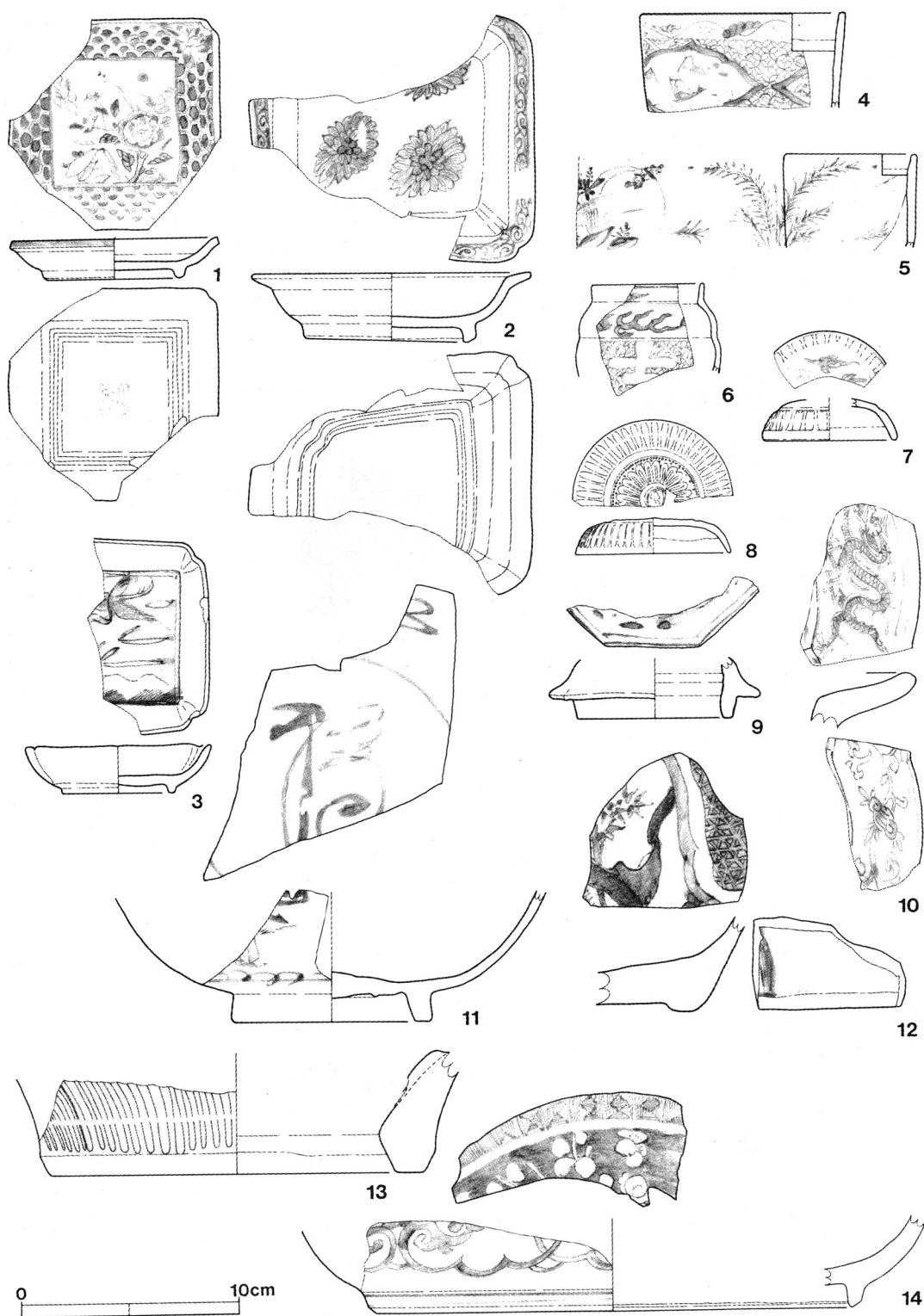
第222図 遺構・包含層出土陶磁器類21



第223図 遺構・包含層出土陶磁器類22



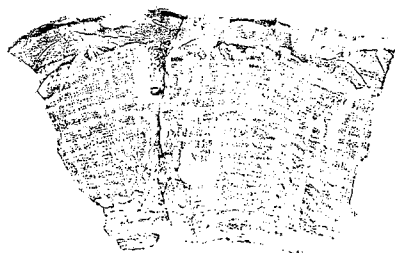
第224図 遺構・包含層出土陶磁器類23



第225図 遺構・包含層出土陶磁器類24



1
第81図 6



2
第120図 11



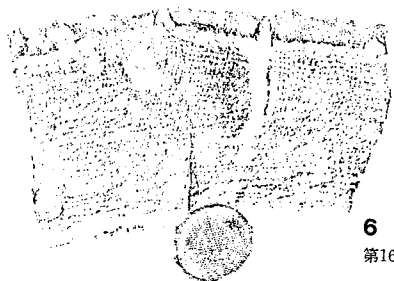
3
第149図 7



4
第149図 4



5
第209図 9



6
第168図 2

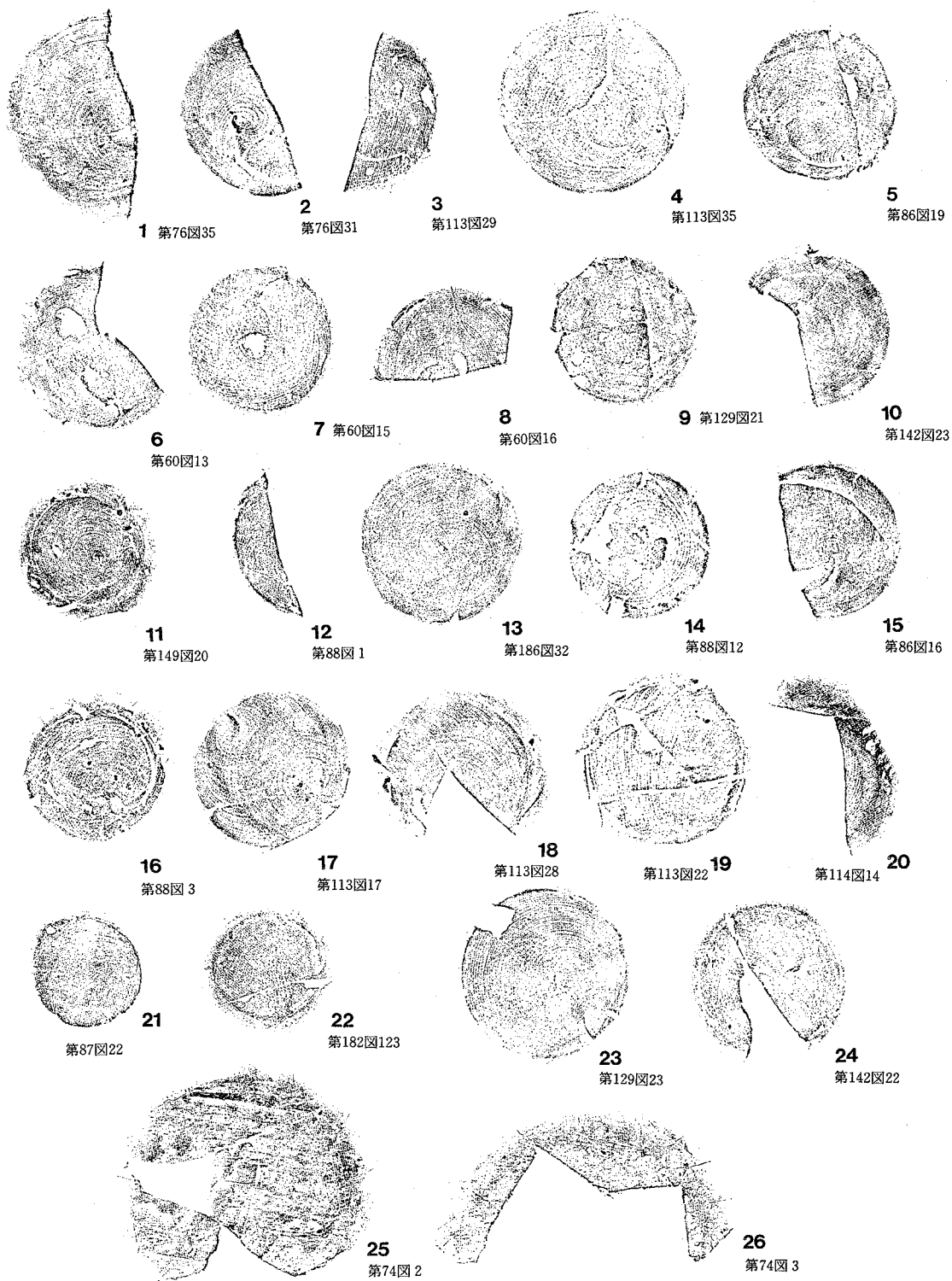


7
第209図 8



スケールは1/3

第226図 焼塩壺内面拓影図



スケールは1/3

第227図 かわらけ底部拓影図

第12表 270号遺構出土陶磁器類観察表

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特	徴	残存部位
55-1 [36-1]	磁 器 染 付 碗		肥前。体部外面ブドウ文。		1/2
55-2	磁 器 色絵小杯		肥前。体部外面牡丹文（輪郭は黒色、花は赤色、葉と茎は緑色）・見込に2重、口縁部内面・高台内に1重圈線あり。包含層と接合。		体部1/3
55-3	磁 器 色絵小杯		肥前。口銹。口唇部・体部外面型打ち。見込2重圈線内に析枝花文（花は黄色、輪郭は黒色、他は色剥落）、体部外面梅樹文（花は赤色、枝は呉須）・松文（呉須）。高台内1重圈線内に銘「大明嘉晴年製」。見込不定方向の擦痕あり。		底部と体部 下半
55-4 [37-3a.b]	磁 器 染 付 皿		肥前。胎土は灰白色。見込山水文、体部内面蝶文。		完形
55-5 [37-5a.b]	磁 器 染 付 皿		肥前。内面蟹文。器面白濁（霧状）。高台内1重圈線内に銘あり。		3/4
55-6	磁 器 染 付 鉢		肥前。口縁部内面幾何学文、体部外面網目魚文。釉は生がけ。内面貫入する。		1/3
55-7	磁 器 白 磁 鉢		肥前。全面細かい貫入入る。		1/3
55-8	磁 器 染 付 壺		肥前。胴部外面蔓草文（ブドウ文?）。被熱。		口縁～胴部 上半1/3
55-9	磁 器 白磁壺?		肥前。高台無釉。内面全面施釉。		胴部下半
56-1	磁 器 染 付 皿		肥前。胎土は灰白色。焼成悪く外面に赤斑あり。見込笹文、体部内面花唐草文。釉は生がけ。		1/2
56-2	磁 器 染 付 皿		肥前。胎土は灰白色。口縁部内面唐草文、体部内面山水文。釉は生がけ。全面に貫入入る。見込回るような擦痕、擦れている部分あり。		1/2
57-1	磁 器 青 磁 皿		肥前。口唇部輪花状（不定）に型打。高台内チャツ痕あり。畳付を除く全面青磁釉（緑色）。高台内の外側、鉄釉（褐色）。全面に貫入入る。255・255b号遺構と接合。		体部3/4
57-2	磁 器 青 磁 皿		肥前。内面線彫草花文。畳付を除く全面青磁釉（水色）。漆継ぎ。778号遺構と接合。		1/4
57-3	舶載磁器 色 絵 碗		中国。見込虫文（胴は赤色、羽根・輪郭は黒色で、中は褐・水色）。高台内小さい虫食い顕著。高台内1重圈線内に銘「大明成□□」（赤色）。高台内にカンナケズリ痕。		底部2/3
57-4	舶載磁器 染 付 碗		中国。見込に銘「大明成化年□□」。高台内に1重圈線あり。高台内カンナケズリ痕。見込不定方向の擦痕あり。		底部
57-5	舶載磁器 染付小杯		中国。見込に「吉」。		底部
57-6	舶載磁器 染 付 皿		中国。見込人物文。高台内カンナケズリ痕。高台部際（内側も外側も）回るような擦痕顕著。		体部1/2欠
57-7	舶載磁器 染付筒形器		中国。胎土は灰白色で、硬質。体部外面残存部は圈線のみ。虫食いあり。高台内カンナケズリ痕。		底部1/2
57-8 [45-8]	陶 器 碗		肥前。胎土は明橙色で緻密。全面透明釉（灰白色から褐灰色）。全面に貫入入る。畳付から高台内にかけて砂目痕3箇所あり。見込釉の中に黒く小さい斑点顕著。見込回るような擦痕顕著。		体部1/4欠

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
57-9	陶 碗	器	肥前。胎土は灰色から橙色で、緻密。粗砂を多く含む。透明釉(灰白色～橙色)。内面から体部外面上半2度がけ? (色が濃い)。高台部周囲無釉。体部歪む。	体部1/2欠
57-10 〔45-5〕	陶 碗	器	肥前。胎土は灰白色、緻密で堅緻。全面透明釉(黄白色)。全面に貫入入る。畳付に粗砂付着。見込回るような擦痕顕著。255号遺構と接合。	体部1/5欠
57-11 〔45-9〕	陶 碗	器	肥前。胎土は灰色から褐色で、粗砂を多く含む。内面鉄釉(黒色、褐灰色が斑状に混在)の後、体部外部透明釉(灰白色、全面白濁)。高台部周囲鉄釉(赤紫色)。畳付釉剥がれる。	体部1/2欠
57-12	陶 皿	器	瀬戸・美濃。付高台(高台内には回るようなナデ痕残る)。体部菊花形に型打。内面には布目痕残る。胎土はにぶい淡黄色で、粗く重い。内面から体部外面上半灰釉(灰白色)。体部外面下半から高台部無釉。体部内面縦位の擦痕顕著。見込擦れている部分顕著。見込に目痕1箇所あり。255号遺構と接合。	1/3
57-13 〔47-2〕	陶 皿	器	瀬戸・美濃。付高台(高台内には回るようなナデ痕残る)。体部菊花形に型打。内面には布目痕残る。胎土は淡黄色で、かなり粗い。内面から体部外面灰釉(黄色)の後、口縁部緑釉がけ。	1/2
57-14	陶 皿	器	瀬戸・美濃。見込に突帯巡る。胎土は淡黄色で、かなり粗い。見込に印花文。内面から体部外面上半長石釉糸。見込突帯部釉ふきとり? 体部外面下半から高台部無釉。	体部1/4欠
57-15 〔47-10〕	陶 皿	器	瀬戸・美濃。見込に突帯巡る。胎土は淡黄色で、かなり粗い。粗砂を多く含む。内面から体部外面長石釉糸。見込突帯部釉ふきとり? 高台部周囲無釉。	体部一部欠
57-16	陶 皿	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗砂を多く含む。全面灰釉(明緑灰色)。見込に輪状(直径4cm)の目痕あり。	1/2
57-17	陶 皿	器	瀬戸・美濃。胎土は灰色で、粗砂・礫(3mm大)を多く含む。灰釉(灰白色)。高台内無釉部分あり。見込・高台内に目痕3箇所あり、1個は溶着したままで、平らにおけない。見込擦れている部分顕著。	体部1/4欠
57-18	陶 皿	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色。灰釉(灰白色)。高台内無釉部分あり。見込不定方向の細かい擦痕あり。擦れている部分顕著。255号遺構と接合。	1/3
58-1	陶 播 鉢	器	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部外面横位の雑なナデ(指頭痕残る)。播目7本1単位。体部内面下位に目痕あり(2箇所残存。この部分変色している)。胎土は灰色から灰白色で、白色・透明礫(1～3mm大)を大量に、赤色粗砂を含む。体部内外面上半自然釉がかかる。	体部1/4
58-2	陶 播 鉢	器	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部外面横位の雑なナデ(指頭痕残る)。播目7本1単位。胎土はにぶい橙色で、白色・透明礫(1～3mm大)を大量に含む。外面自然釉がかかる。	体部片
58-3	陶 播 鉢	器	瀬戸・美濃。ロクロ挽き成形。体部外面下半横位のロクロケズリ。底部回転切り痕。播目11本1単位。体部内面下位に目痕4箇所あり(この部分釉ふきとり)。胎土は灰白色。全面鉄釉(暗褐色)、体部外面下半はふきとってある部分もあり。内面擦れている。	1/4
58-4	土 焼 塩 壺・身	器	手づくね成形(輪積み)。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。断面は織状を呈し、粗砂・礫(3mm大)・赤色粗砂を大量に含む。	体部上半1/3
58-5	土 焼 塩 壺・身	器	手づくね成形(輪積み)。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。粗砂・礫(3mm大)・赤色粗砂を大量に含む。体部外面に刻印あるも欠損。	体部上半1/3

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
58-6	土 焼塩壺・身	器	手づくね成形(輪積み2段)。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色・灰白色。粗砂・礫(3mm大)を大量に、赤色粗砂を含む。	2/3
58-7	土 焼塩壺・身	器	手づくね成形(輪積み2段)。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。粗砂・礫(3mm大)・赤色粗砂を大量に含む。	1/2
58-8	土 焼塩壺・蓋	器	手づくね成形。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。断面は縞状を呈し、粗砂・赤色粗砂を大量に含む。	1/2
59-1	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	体部1/2欠
59-2	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	体部1/2欠
59-3	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部内面黒色部分あり。	体部1/3欠
59-4	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄褐色。口唇部煤付着。	体部2/5欠
59-5	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。荒れている部分多い。口唇部煤付着。	体部2/3欠
59-6	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄褐色。器面荒れている。	2/3
59-7	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	1/2
59-8	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部4/5欠
59-9	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。	1/3
59-10	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土断面は褐灰色、器面はにぶい橙色。全面黒色処理。口唇部煤付着。	1/3
59-11	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	1/3
59-12	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	体部1/2欠
59-13	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。	1/5
59-14	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	3/4
59-15	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	3/4
59-16	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。	1/2
59-17	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	体部1/4欠
59-18	土 焙	器 烙	土師質。ロクロ紐作り成形。体部内外面横位のナデ。内耳は円板状粘土を貼付。穴は棒状工具による左右からの刺突。底部外面ちぢれ目。体部外面底部際から底部黒ずむ。	体部片
59-19	土 蓋	器	瓦質。ロクロ輪積み成形。体部内面指による横位のナデ。体部外面横位のミガキ状のナデ。底部外面雑なナデ。器面は灰褐色で、断面は黒灰色を橙色	1/6

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特 徴	残存部位
59-20	土 瓦灯・蓋	器	がサンドイッチ状に挟む。天井部内面煤付着。 瓦質。ロクロ輪積成形。体部内面指による横位のナデ。体部面横位のミガキ。受皿部は上から接合。器面は黒色で、断面は黒色を灰白色がサンドイッチ状に挟む。天井部内面煤付着。	受皿部～ 体部上半
59-21	土 火鉢	器	土師質。ロクロ輪積成形。体部内面指による横位のナデ。底部内面周囲横位ヘラナデ、体部外面横位のミガキ。底部外面ちぢれ目。足（痕跡が1箇所）は貼付。胎土は橙色で、断面は灰褐色を橙色がサンドイッチ状に挟む。外面荒れている。	1/2

第13表 309号遺構出土陶磁器観察表

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特 徴	残存部位
60-1	磁 染付碗	器	肥前。高台無釉。体部外面山水文。釉は全面白濁。	体部上半1/ 2欠
60-2	磁 染付碗	器	肥前。体部外面山水文。釉は全面白濁。	2/3
60-3	磁 染付碗	器	肥前。胎土は灰白色。見込葉文、体部外面草花文（2単位）。高台部外面貫入入る。	体部1/2欠
60-4	磁 白磁鉢	器	肥前。口唇部輪花状（6単位）に型打。器厚がうすい。体部内面陽刻変形如意頭文。	2/3
60-5	磁 染付皿	器	肥前。口銹。体部波状に型打。胎土断面のまん中は橙色。見込樹木文（呉須の発色悪い）？釉は焼成不良で全面白濁、虫食い生じる。全面に貫入入る。	1/2
60-6	土 焼塩壺・蓋	器	手づくね成形。胎土は浅黄橙色で、粗砂を多く含む。	1/2
60-7	土 焼塩壺・蓋	器	手づくね成形。胎土は淡橙色で、粗砂・礫を多く含む。	体部1/4欠
60-8	土 焼塩壺・蓋	器	手づくね成形。天井部内面中央部布目痕。胎土は淡橙色で、粗砂を多く含む。	1/2
60-9	土 焼塩壺・蓋	器	手づくね成形。胎土は浅黄橙色で、粗砂・礫を多く含む。	ほぼ完形
60-10	土 焼塩壺・蓋	器	手づくね成形。内面布目痕。胎土は淡橙色で、内面はピンク色。粗砂・赤色粗砂を多く含む。	体部1/4欠
60-11	土 [65-6] 耳かわらけ	器	手づくね成形。外面口唇部以下指頭痕のまま、外面口唇部と内面全面ナデ。完形胎土はにぶい橙色。	
60-12	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。底部内面に墨書「小」。	1/5
60-13	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部特殊右回転糸切り。胎土は橙色。底部内面に墨書「大」。底部焼成後2箇所穿孔。	体部1/3欠
60-14	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。体部一部欠	
60-15	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部特殊右回転糸切り。胎土は橙色。底部焼成後穿孔。体部1/3欠	
60-16	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部特殊右回転糸切り。胎土は橙色。底部内面に墨書「大」。底部焼成後穿孔。	1/4

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特	徴	残存部位
60—17	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。底部内面に墨書あり。1/6 底部焼成後穿孔。		
60—18	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい黄橙色。口唇部煤付		1/2
60—19	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着		完形 (一部)。
60—20	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。ほぼ完形		
60—21	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。一部欠		
60—22	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。ほぼ完形		
60—23	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着		完形 (全周)。
60—24	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい黄橙色、器面は灰黄		体部1/3欠 褐色。全面黒色処理？
60—25	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。		体部1/3
60—26	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。器面荒れている部分		体部1/3欠 多い。
60—27	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。		体部一部欠
60—28	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。1/4欠		
60—29	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。体部外面から底部外面右回りの口		1/4 クロナデ。胎土はにぶい橙色。底部内外面黒色処理。
61—1	磁 器	染付皿	肥前。胎土は灰白色。口縁部唐草文、内面山水文。釉は生がけ。全面に貫		体部一部欠 入入る。包含層と接合。
61—2	磁 器	染付皿	肥前。胎土は灰白色。見込山水文。釉は生がけ。全面に貫入入る。見込回		3/4 るような擦痕、擦れている部分あり。
62—1 [40—2a.b]	磁 器	色絵皿	肥前。胎土は灰白色。見込扇子・芭蕉文（輪郭は黒色、緑、紫色で上絵		1/2 付）、体部内面窓絵草花文・宝尽し文（輪郭は黒色、緑、紫色で上絵付）、 体部外面花唐草文。釉は生がけ。全面に貫入入る。体部外面くすんでいる (焼成時のものではなく、使用時もしくは廃棄時、それ以降のものと思われる)。 色絵は剥落激しく黒・緑・紫色以外に使用されていた色は不明。
62—2 [47—3]	陶 器	皿	瀬戸・美濃。付高台（高台内糸切り痕残る）。体部菊花状に型打。胎土は淡		体部上半1/ 黄色で、粗い。見込印花文（体部の菊花状の型打の延長）。内面から体部外 3欠 面灰釉（黄白色）の後、口縁部緑釉がけ。高台部周囲無釉。
62—3	陶 器	皿	瀬戸・美濃。付高台（高台内には指頭痕が残る）。体部菊花状に型打。胎土		体部上半1/ は淡黄色で、粗い。見込印花文（体部の菊花状の型打の延長）。内面から体 2欠 部外面灰釉（黄白色）の後、口縁部緑釉がけ。高台部周囲無釉。
62—4	陶 器	鉢	備前。底部と底部周囲横位のケズリ。胎土は明赤褐色。粘土質で断面層状。体部1/3		
			粗砂を多く含む。口唇部に重ね焼きの痕あり。無釉焼締めで、体部外面暗		
62—5	陶 器		信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部片		

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特 徴	残存部位
	播	鉢	体部外面横位の雑なナデ（指頭痕残る）。播目 7 本 1 単位。胎土は黒灰色で、白色・透明礫（1～3mm大）・礫（3mm大）を大量に含む。内外面銹釉（暗赤褐色）。	
62—6	陶 播	器 鉢	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。1/4 体部外面横位の雑なナデ（指頭痕残る）。播目 7 本 1 単位。体部内面・下位に目痕あり（1箇所残存。この部分変色している）。胎土は灰色で、白色・透明礫（1～4mm大）・礫（3～4mm大）を大量に含む。内面から口縁部外面自然釉が斑状にかかる。	

第14表 532号遺構出土陶磁器観察表

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特 徴	残存部位
63—1	磁 染	器 付碗	肥前。体部外面山水文。漆継ぎ。	体部1/6
63—2	磁 染	器 付碗	肥前。高台無釉。体部外面山水文。	体部2/3欠
63—3	磁 染	器 付碗	肥前。体部外面ブドウ文（2単位）。高台部鉄釉（褐色）。体部内面横位の擦痕あり。	体部一部欠
63—4	磁 染	器 付碗	肥前。体部外面山水文。釉は生がけ。見込・体部外面虫食いあり。見込擦れている部分あり。	体部3/4欠
63—5	磁 染	器 付碗	肥前。体部外面梅樹文・松文。釉は生がけ。体部外面白濁。見込擦れている部分顕著。	体部1/2欠
63—6	磁 染	器 付碗	肥前。体部外面山水文。釉は生がけ。見込擦れている部分顕著。	体部1/3欠
63—7 [35—5]	磁 染	器 付碗	肥前。体部外面山水文。高台部鉄釉（褐色）。	体部一部欠
63—8	磁 青磁染	器 付碗	肥前。高台無釉。見込笹文。体部外面から口縁部内面青磁釉（明緑灰色）。	体部4/5欠
63—9	磁 青磁染	器 付碗	肥前。高台無釉。見込花文。体部外面から口縁部内面青磁釉（深緑色）。全面に貫入入る。内面虫食い顕著。	体部2/3欠
63—10 [35—4]	磁 鉄釉	器 碗	肥前。高台無釉。口縁部内面から体部外面鉄釉（黒褐色）。内面の釉は白濁。焼成不良で無釉部分は淡橙色を呈す。	体部上半4/ 5欠
63—11	磁 染	器 付碗	肥前。高台無釉。体部外面笹文（3単位）。釉は生がけ。	1/2
63—12 [35—3]	磁 染	器 付碗	肥前。高台無釉。体部外面窓絵蝶文・網目文。釉は生がけ。全面に貫入入る。体部内外面虫食い顕著。体部内面横位の擦痕あり。	完形
63—13 [35—6]	磁 染	器 付碗	肥前。口縁部内面に2重圈線あり。見込折枝花文，体部外面鳥と竹文。釉は生がけ。体部内外面に虫食いあり。貫入部分的に入る。高台内1重圈線内に銘「太明」。見込不定方向の，体部内外面横位の擦痕あり。	体部一部欠
64—1 [35—2]	磁 染	器 付碗	肥前。体部外面草文（呉須はにじんている）。釉は黄味がかり，全面に貫入する。	1/3
64—2	磁 白磁	器 碗	肥前。釉は生がけ。体部外面虫食い顕著。	体部1/4欠
64—3	磁	器	肥前。豊付を除く全面青磁釉（明緑灰色）。体部外面焼成時に他個体が溶着	体部1/4欠

捕図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特	徴	残存部位
64-4	青磁碗	磁器	しているが、余分な部分を整形している。		1/3
64-5	白磁皿	磁器	肥前。高台内外回るような擦痕顯著。		
64-6	染付碗	磁器	肥前。体部外面山水文，体部内面丸文。見込に2重圈線あり。釉は生がけ。		1/4
[36-7]	染付小杯	磁器	肥前。体部外面草文（2単位）。体部内外面虫食い顯著。		体部一部欠
64-7	染付小杯	磁器	肥前。胎土は灰白色。見込蝶文？，体部外面山水文。見込擦れている部分		体部1/2欠
[36-6]	染付小杯	磁器	あり。		
64-8	染付小杯	磁器	肥前。高台無釉。体部外面草花文（2単位）。		体部上半3/4欠
64-9	染付小杯	磁器	肥前。体部外面樹木文。		体部1/3欠
64-10	染付小杯	磁器	肥前。胎土は灰白色。体部外面花唐草文（3単位）。釉は生がけ。釉ムラ顕		体部1/4欠
[36-8]	染付小杯	磁器	著。また霧状に白濁している部分多い。446号遺構と接合。		
64-11	白磁手塩皿	磁器	肥前。口銹。蛇ノ目高台。釉は生がけ。		体部1/2欠
64-12	染付皿	磁器	肥前。胎土は灰白色。内面草花文。全面に細かい貫入入る。		体部1/2欠
[37-2a.b]	染付皿	磁器	肥前。内面菊花散らし文。釉ムラあり。他に同一文様・器形のもの2個体		一部欠
64-13	染付皿	磁器	あり。		
64-14	染付皿	磁器	肥前。内面菊文・草花文。見込擦れている部分顯著。		体部1/4欠
64-15	染付皿	磁器	肥前。胎土は明赤灰色。見込三方割イチョウ文，体部内面菊網目文（焼成		体部1/3欠
[37-4a.b]	染付皿	磁器	悪く呉須の発色も沈んでいる）。全面に細かい貫入入る。見込擦れている部分顯著。他に同一文様・器形のもの1個体あり。		
65-1	染付皿	磁器	肥前。見込花文，体部内面草文。見込に擦れている部分あり。		1/3
65-2	染付皿	磁器	肥前。口唇部をちょっと押して輪花状にしている（8単位）。体部内面区画		1/2
65-3	染付皿	磁器	割花卉文。貫入部分的に入る。見込擦痕顯著。		
[37-7a.b]	染付皿	磁器	肥前。口唇部波状。体部型打。見込草文。高台内1重圈線内に銘「角福」。		1/2
65-4	染付皿	磁器	見込不定方向の擦痕顯著。		
[37-1a.b]	染付皿	磁器	肥前。見込雲形文・花文。見込擦れている部分顯著。他に同一文様・器形		体部一部欠
65-5	染付皿	磁器	のもの1個体あり。		
65-6	染付皿	磁器	肥前。口縁部波状に型打。見込花卉文？，体部内面蝶文。ほぼ全面に貫入		1/3
65-7	染付皿	磁器	入る。		
[40-3a.b]	染付皿	磁器	肥前。内面ブドウ文。見込擦れている部分顯著。		2/3
65-8	染付皿	磁器	肥前。見込菊花文・渦卷文。釉は生がけ。ほぼ全面に貫入入る。見込擦れ		1/2
66-1	染付皿	磁器	ている部分あり。		
66-2	染付皿	磁器	肥前。口唇部輪花状に型打。内面花文。釉は生がけ。見込擦れている部分		1/6
66-1	染付皿	磁器	あり。		
66-2	染付皿	磁器	肥前。蛇ノ目高台。内面岩に鳥文，体部外面蝶文（3単位）。他に同一文様・		体部1/4欠
66-2	染付皿	磁器	器形のもの5個体あり。第66図2と同一文様・器形だが高台内に銘なし。		
66-2	染付皿	磁器	肥前。蛇ノ目高台。内面岩に鳥文，体部外面蝶文（4単位）。高台内に銘「大		1/2

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特 徴	残存部位
	染付皿	明[成]	見込に擦れている部分あり。第66図1と同一文様・器形で高台内に銘あり。	
66-3	磁器	肥前。全形不明(角皿)?	口鏽。内面唐草文, 体部外面丸文(中に花卉)	コーナ-部付
	染付皿	文)。		
66-4	磁器	肥前。全形不明。獣脚は3個のうち1個残存。	内面線彫草花文。畳付を除	底部
	青磁皿	く全面青磁釉(緑灰色)。		
66-5	磁器	肥前。内面線彫葉文。全面青磁釉(明緑灰色)。		体部1/4
	青磁皿			
66-6	磁器	肥前。高台部は挟り込み。胴部外面花文。外面下半部に貫入入る。		2/3
	染付碗			
66-7	磁器	肥前。体部外面草文?		体部1/3
	染付蓋			
67-1	磁器	肥前。高台無釉。体部外面竹林にリス・ブドウ文。内面・高台内無釉。		2/3
[44-1]	染付香炉			
67-2	磁器	肥前。型打成形。		完形
	染付鳥形蓋			
67-3	陶器	瀬戸・美濃。胎土は白色で, かなり粗い。畳付を除く全面長石釉(一部白濁)。	全面に貫入入る。見込不定方向の擦痕・擦れている部分顕著。	体部上半3/4欠
67-4	陶器	瀬戸・美濃。天目碗。胎土は白色で, かなり粗い。内面から体部外面鉄釉	(黒色・褐色混在)。体部外面下位から高台部無釉。	体部2/3欠
[45-13]	碗			
67-5	陶器	瀬戸・美濃。胎土は白色で, かなり粗い。内面から体部外面長石釉。高台部周囲無釉。		1/2
	碗			
67-6	陶器	瀬戸・美濃。胎土は灰色・にぶい橙色, 無釉部はにぶい橙色で, 粗い。内面から体部外面鉛釉(暗黄褐色)。	釉際には炎色(赤褐色)出る。高台部周囲無釉。	1/3
	碗			
67-7	陶器	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で, 粗い。畳付を除く全面長石釉。全面に貫入入る。		体部3/4欠
	碗			
67-8	陶器	瀬戸・美濃。白天目碗。胎土は淡黄色で, 粗い。内面から体部外面長石釉の後, 灰釉(透明釉?)	体部外面下位の長石釉のかかっている部分には確実にかかる)被熱により釉剥落部多い。	体部1/4
	碗			
67-9	陶器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色。全面灰釉(緑灰色)。高台内に2箇所, 見込に1箇所目痕残存。見込擦れている部分顕著。		1/3
	皿			
67-10	陶器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で粘土質。全面灰釉(緑灰色)。高台内に目痕3箇所あり。見込不定方向の細かい擦痕顕著。		体部1/3欠
[47-11]	皿			
67-11	陶器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色でかなり粗い。全面灰釉(緑灰色)。見込・高台内に目痕各4箇所ずつあり。見込擦れている部分顕著。		2/3
[47-12]	皿			
67-12	陶器	瀬戸・美濃。付高台(高台内には指頭痕残る)。体部菊花状に型打。内面は全面に布目痕残る。胎土は淡黄色で, 粗い。内面から体部外面灰釉(淡黄色)。	高台部周囲無釉。見込に目痕3箇所あり。	体部1/3欠
[47-1]	皿			
67-13	陶器	瀬戸・美濃。見込に突帯巡る。胎土は淡黄色で, かなり粗い。白色粗砂を含む。内面から体部外面上半灰釉(緑灰色)。	見込突帯部周囲は釉ふきとり。体部外面下半から高台内無釉。釉際には炎色(橙色)出る。見込突帯部に赤色付着物残る。	体部1/2欠
[47-9]	皿			
67-14	陶器	瀬戸・美濃。削り出し高台。胎土は淡黄色。内面から体部・高台部外面灰釉(灰白色。釉溜りあり)。	高台内無釉。高台内に目痕3箇所あり。口唇部	完形
[47-6]	皿			

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特	徴	残存部位
			ほぼ全部しみ状に黒ずむ。一部には煤が付着しており、灯明皿として使用？		
67-15	陶 皿	器	瀬戸・美濃。口唇部輪花状に型打。胎土は淡黄色で、粗い。全面灰釉（灰白色）。見込・高台内に目痕あり（1箇所残存）。		1/3
67-16	陶 皿	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色。緻密で粘土質、重たい。内面から体部・高台部外面灰釉（灰白色）。高台内無釉。釉際には炎色（橙色）出る。見込輪状の重ね焼きの痕残る。見込不定方向の擦痕・擦れている部分顕著。		1/2
67-17	陶 皿	器	瀬戸・美濃。削り出し高台。胎土は淡黄色で、粗い。粗砂を多く含む。内面から体部外面灰釉（緑灰色。体部外面は白濁部多い）。高台部周囲は釉ふきとり。見込擦れている部分顕著。		体部一部欠
67-18	陶 皿	器	肥前。胎土は淡黄色。緻密で均質。内面から体部・高台部外面透明釉。全面に貫入する。高台内無釉。高台内墨書あり。畳付粗砂付着するもほとんどとれている。		体部下半 ～底部1/2
67-19	陶 皿	器	肥前。胎土は白色。緻密だが粉っぽい。全面灰釉（淡黄色）。全面に貫入する。釉の剥落顕著。		1/2
68-1 [48-1a.b]	陶 皿	器	瀬戸・美濃。芭蕉形に型打（茎は貼付）。足は1個残存。胎土は白色で粗い。体部内面呉須（灰青色）で漢詩？全面灰釉（灰白色）。全面に貫入する。足の両脇に目痕（残存部では）2箇所あり。		1/3
68-2	陶 鉢	器	瀬戸・美濃。削り出し高台。畳付に糸切り痕が残る。胎土は、灰色で、粗い。白色粗砂を多く含む。内面から体部外面柿釉（暗赤褐色に黒色が混在）。底部外面周囲無釉。口唇部釉ふきとり。		1/4
68-3	陶 香 炉	器	瀬戸・美濃。削り出し高台。胎土は淡黄色で、かなり粗い。口唇部から体部外面上半柿釉（褐色）の上に、鉄釉（黒褐色）がけ。内面・体部外面下半から高台部無釉。口唇部磨滅（釉が剥落している部分もあり）。見込黒ずむ。		1/2
68-4	陶 香 炉	器	瀬戸・美濃。削り出しでごく低い高台を作り出す。畳付に糸切り痕が残る。胎土は淡黄色で、粗い。口唇部から体部外面柿釉（褐色）。内面・底部外面無釉。口唇部磨滅。		3/4
68-5 [48-3]	陶 香 炉	器	瀬戸・美濃。足は貼付で3個。胎土は白色で、粗い。体部外面灰釉（淡黄色）。底部周囲・内面無釉。体部を中位から二次使用。われ口は磨滅しており、われ口から内面にかけて煤ける。		体部1/3欠
68-6 [48-2]	陶 台付香炉	器	瀬戸・美濃。体部外面横位の沈線が4条巡る。胎土は淡黄色で、粗い。体部内面上半部から脚台部外面灰釉（黄褐色）。体部内面下半から見込・脚台部内面無釉。体部外面の底面釉ふきとり。口唇部磨滅。見込中央部黒く煤ける。		1/2
67-7	陶 蓋	器	瀬戸・美濃。底部回転糸切り痕。胎土は淡黄色で、粗い。内面銹釉（黒褐色）。外面無釉。		体部1/3欠
68-8	陶 蓋	器	瀬戸・美濃。底部回転糸切り痕。つまみは貼付。胎土は白色。内面飴釉（暗褐色）。外面無釉。		体部2/3欠
68-9	陶 蓋	器	瀬戸・美濃。底部回転糸切り痕。胎土は灰色、無釉部はにぶい橙色、緻密。完形内面柿釉（暗赤褐色）。外面無釉。		
68-10	陶 壺	器	瀬戸・美濃。二耳壺？耳は貼付。胎土は灰白色、無釉部分にぶい赤褐色、白色粗砂を多く含む。内面から胴部外面柿釉（褐色）の後、鉄釉（黒色）がけ。高台部周囲無釉。		2/3
68-11	陶 徳利	器	瀬戸・美濃。胎土はにぶい淡黄色で、粗い。黒色粗砂を多く含む。外面柿釉（褐色）。胴部外面に焼成前に刻書あり。		口縁～胴部 上半3/4

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
68—12	陶 徳	器 利 ?	志戸呂。胎土はにぶい赤褐色。器面は赤色だが窯道具痕より外側は暗褐色で、これが本来の色と思われる。緻密で堅緻。均質。外面錆釉？ 輪状の窯道具痕。	口縁～肩部 1/3
68—13	陶 壺	器 壺	瀬戸・美濃。削り出し高台。胎土は灰白色で、粘土質。内面から胴部外面灰釉（灰白色）。高台部周囲無釉。	1/2
68—14	陶 壺(水注?)	器 壺	瀬戸・美濃。底部回転糸切り痕。肩部に把手の痕1箇所残存。胎土は淡黄色で、かなり粗い。内面から胴部外面鉄釉(黒褐色)。底部周囲無釉。被熱により胴部外面釉溶着。	2/3
69—1	陶 壺	器 壺	肥前。三耳壺。内面同心円状の叩き目。肩部に横位の沈線が3条巡る。胎土はにぶい赤褐色で、粗い。断面は層状をなす。口唇部から胴部外面鉄釉(黒褐色)。内面無釉。	口縁～胴部 上半1/3
69—2	陶 壺	器 壺	丹波？ 四耳壺。把手は3個残存。胎土は灰白色。無釉部はにぶい赤褐色。礫（3mm大）を多く含む。外面灰釉（緑褐色に淡黄色が斑状）。内面・胴部外面下位無釉。	胴部上半2/3
69—3 (52—1a.b)	陶 搦鉢	器 鉢	備前系(備前)。ロクロ輪積成形。内外面横位の強いロクロナデ。搦目11本1単位。胎土は赤褐色の緻密な粘土質で、白色・透明透粗砂を含む。口縁部外面直下に重ね焼きの痕あり。口縁部に自然釉かかる。252号遺構と接合。	1/4
69—4	陶 搦鉢	器 鉢	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ、体部片体部外面横位の雑なナデ。搦目7本1単位。胎土は黄灰色で、白色・透明粗砂を多く含む。内外面自然釉が斑状にかかる。	体部片
69—5	陶 搦鉢	器 鉢	越前？ ロクロ輪積成形。体部外面横位のロクロケズリ。搦目8本1単位。胎土はにぶい黄橙色。外面煤付着。	体部片
69—6 (55—4a.b)	陶 搦鉢	器 鉢	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部片体部外面横位の雑なナデ。搦目7本1単位。胎土は灰色で、透明粗砂を多く含む。内外面自然釉がかかる。	体部片
69—7 (55—5a.b)	陶 搦鉢	器 鉢	生産地不明。ロクロ輪積成形。体部外面横位のロクロナデ（指頭痕残る）。搦目6本1単位。胎土は橙色で、白色・透明・赤色粗砂・礫（3mm大）を含む。	体部片
69—8 (52—2a.b)	陶 搦鉢	器 鉢	生産地不明。ロクロ水挽き成形。体部内外面横位のロクロナデ。底部回転糸切り痕。搦目は5本1単位で斜位に施される。胎土はにぶい赤褐色。砂質で、赤色粗砂を多く含む。内面擦れている。678号遺構と接合。	1/3欠
69—9	陶 搦鉢	器 鉢	瀬戸・美濃。ロクロ水挽き成形。体部外面下半横位のロクロケズリ。搦目9本1単位。体部内面に目痕あり（1箇所残存。この部分釉ふきとり）。胎土は浅黄橙色。内面擦れている。	体部片
70—1	陶 搦鉢	器 鉢	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部。外面上位横位の強いロクロナデ。体部外面横位の雑なナデ（指頭痕残る）。搦目6本1単位。体部内面下位に目痕あり。胎土は橙色で、白色・透明粗砂・礫（3～5mm大）を大量に含む。	1/4
70—2	陶 搦鉢	器 鉢	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部外面横位の雑なナデ（指頭痕残る）。搦目7本1単位。体部内面下位に目痕あり（2箇所残存。この部分変色している）。胎土は灰色で、白色・透明礫（1～3mm大）を大量に含む。内面自然釉が斑状にかかる。	1/4
70—3 (53—2a.b)	陶 搦鉢	器 鉢	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部外面横位の雑なナデ（指頭痕残る）。搦目7本1単位。胎土はにぶい赤褐色で、白色・透明粗砂を大量に含む。	1/2
70—4	陶 器	器	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。	1/2

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特	微	残存部位
	播	鉢	体部外面横位の雑なナデ(指頭痕残る)。播目6本1単位。胎土は橙色で、透明粗砂・礫(2~5mm大)を大量に含む。		
71-1 (53-3a.b)	陶 播	器 鉢	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部一部欠 体部外面横位の雑なナデ。播目6本1単位。体部内面下位に目痕5箇所あり(この部分変色している)。胎土は浅黄橙から橙色で、白色・透明礫(1~3mm大)を大量に、礫(5mm大)・赤色粗砂を多く含む。体部内面上半自然釉がかかる。内面擦れている。		
71-2 (53-1a.b)	陶 播	器 鉢	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。ほぼ完形 体部外面横位の雑なナデ(指頭痕残る)。播目7本1単位。体部内面下位に目痕5箇所あり(この部分変色している)。胎土は灰色から明褐灰色で、白色・透明粗砂を大量に、礫(3mm大)を多く含む。口縁部自然釉がかかる。内面擦れている。		
71-3	陶 播	器 鉢	瀬戸・美濃。ロクロ水挽き成形。体部下半横位のロクロケズリ。播目14本1単位。体部内面下位に目痕あり(1箇所残存。この部分釉ふきとり)。胎土はにぶい橙色。内面擦れている。		体部片
71-4 (56-3a.b)	陶 播	器 鉢	瀬戸・美濃。ロクロ水挽き成形。体部下半横位のロクロケズリ。底部回転糸切り痕。播目15本1単位。体部内面下位に目痕4箇所あり(この部分釉ふきとり)。胎土はにぶい橙色。全面銹釉(暗赤褐色)。体部内面下半の窯道具が当たる部分、体部外面下半は釉ふきとり。内面擦れている。		口縁部1/2欠
72-1	土 焼塩壺・身	器	手づくね成形(輪積み2段)。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。粗砂を大量に含む。体部外面に刻印「ミなと藤左衛門」。		体部1/3欠
72-2 (58-1a~d)	土 焼塩壺・身	器	手づくね成形(輪積み2段)。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。粗砂を大量に含む。体部外面に刻印「ミなと藤左衛門」。		ほぼ完形
72-3	土 焼塩壺・身	器	手づくね成形(輪積み2段)。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。粗砂を大量に含む。体部外面に刻印「ミなと藤左衛門」。		ほぼ完形
72-4	土 焼塩壺・身	器	手づくね成形(輪積み2段)。内面布目痕。胎土は浅黄橙色で、粗砂を大量に含む。体部外面に刻印「ミなと藤左衛門」。体部外面荒れている。		完形
72-5	土 焼塩壺・身	器	手づくね成形(輪積み2段)。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。粗砂を大量に含む。体部外面に刻印「ミなと藤左衛門」。		ほぼ完形
72-6	土 焼塩壺・身	器	手づくね成形(輪積み2段)。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。粗砂を大量に含む。体部外面に刻印「ミなと藤左衛門」。		ほぼ完形
72-7	土 焼塩壺・身	器	手づくね成形(輪積み2段)。内面布目痕。胎土は淡橙色で、内面はピンク色。粗砂を大量に含む。体部外面に刻印「ミなと藤左衛門」。		ほぼ完形
72-8	土 焼塩壺・身	器	手づくね成形(輪積み2段)。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。粗砂を大量に含む。体部外面に刻印「ミなと藤左衛門」。		ほぼ完形
72-9	土 焼塩壺・身	器	手づくね成形(輪積み2段)。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。粗砂を大量に含む。体部外面に刻印「ミなと藤左衛門」。		体部2/3欠
72-10	土 焼塩壺・身	器	手づくね成形(輪積み2段)。内面布目痕。胎土は橙色で、粗砂を大量に含む。体部外面に刻印「ミなと藤左衛門」。		ほぼ完形
72-11	土 焼塩壺・身	器	手づくね成形(輪積み2段)。内面布目痕。胎土は橙色で、粗砂を多く含む。体部外面に刻印「ミなと藤左衛門」。		完形
72-12	土 焼塩壺・身	器	手づくね成形(輪積み2段)。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。粗砂を大量に、赤色粗砂を多く含む。体部外面に刻印「ミなと藤左衛門」。		体部1/2
72-13	土	器	手づくね成形(輪積み2段)。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク		1/4

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
	焼塩壺・身	土 器	色。断面は縞状を呈し、粗砂を大量に含む。体部外面に刻印「 ミなと 藤左衛門」。	
72-14	土 器	手づくね成形(輪積み2段)。内面布目痕。胎土は橙色で、粗砂を大量に含む。口縁部一部欠		
	焼塩壺・身	土 器	体部外面に刻印「ミなと藤左衛門」(上部欠損)。内面全面黒色付着物あり。	
72-15	土 器	手づくね成形(輪積み2段)。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク	体部下半	
	焼塩壺・身	土 器	色。断面は縞状を呈し、粗砂を大量に含む。体部外面に刻印「 ミなと 藤左衛門」。	
72-16	土 器	手づくね成形(輪積み)。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。断	体部上半1/4	
	焼塩壺・身	土 器	面は縞状を呈し、粗砂を大量に、赤色粗砂を多く含む。体部外面に刻印「ミなと藤左衛門」。	
73-1	土 器	手づくね成形(輪積み2段)。内面布目痕。胎土はにぶい橙色で、内面はピ	1/2	
	焼塩壺・身	土 器	ンク色。粗砂を大量に含む。	
73-2	土 器	手づくね成形(輪積み2段)。内面布目痕。胎土は橙色で、断面はピンク	体部上半1/	
	焼塩壺・身	土 器	色。粗砂を大量に、赤色粗砂を多く含む。体部外面荒れている。	2欠
73-3	土 器	手づくね成形(輪積み2段)。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク	完形	
	焼塩壺・身	土 器	色。粗砂を大量に含む。体部外面に刻印のあるも器面が荒れているため不明瞭。枠の形からすると「ミなと藤左衛門」。	
73-4	土 器	手づくね成形(輪積み2段)。胎土はにぶい橙色で、内面はピンク色。粗砂	口縁部欠	
	焼塩壺・蓋	土 器	を大量に、赤色粗砂を多く含む。体部外面に刻印の外枠のごく一部残存。	
73-5	土 器	手づくね成形。胎土は淡橙色で、粗砂を大量に含む。	体部1/4欠	
	焼塩壺・蓋	土 器	手づくね成形。胎土は橙色で、粗砂を大量に含む。	
73-6	土 器	手づくね成形。胎土は橙色で、粗砂を大量に含む。	体部1/2欠	
	焼塩壺・蓋	土 器	手づくね成形。胎土は橙色で、内面はピンク色。粗砂を大量に含む。	
73-7	土 器	手づくね成形。胎土は橙色で、粗砂を大量に含む。	体部一部欠	
	焼塩壺・蓋	土 器	手づくね成形。胎土は橙色で、粗砂を大量に含む。	
73-8	土 器	手づくね成形。胎土は橙色で、粗砂を大量に含む。	体部1/3欠	
	焼塩壺・蓋	土 器	手づくね成形。胎土は橙色で、内面はピンク色。粗砂を大量に含む。	
73-9	土 器	手づくね成形。胎土は橙色で、内面はピンク色。粗砂を大量に含む。	体部1/2欠	
	焼塩壺・蓋	土 器	手づくね成形。胎土は橙色で、内面はピンク色。粗砂を大量に含む。	
73-10	土 器	手づくね成形。胎土は橙色で、内面はピンク色。粗砂を大量に含む。	1/2	
	焼塩壺・蓋	土 器	手づくね成形。胎土は橙色で、内面はピンク色。粗砂を大量に含む。	
73-11	土 器	手づくね成形。胎土は橙色で、内面はピンク色。粗砂を大量に含む。	口縁部一部欠	
	焼塩壺・蓋	土 器	手づくね成形。胎土は橙色で、内面中央部はピンク色。粗砂を大量に含む。体部1/4欠	
73-12	土 器	手づくね成形。胎土は橙色で、内面中央部はピンク色。粗砂を大量に含む。体部1/4欠		
	焼塩壺・蓋	土 器	手づくね成形。天井部内面中央部布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。2/3	
73-13	土 器	手づくね成形。天井部内面中央部布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。2/3		
	焼塩壺・蓋	土 器	粗砂を大量に含む。	
73-14	土 器	瓦質。ロクロ輪積み成形。体部内面指による横位のナデ。口縁部内外面・体	口縁～体部	
	壺	土 器	部外面横位のナデ。器面は灰褐色で、断面は浅黄橙色。	一部
73-15	土 器	瓦質。ロクロ輪積み成形。体部内面指による横位のナデ。口唇部・体部外面	体部1/4欠	
[70-1a.b]	火 鉢	丁寧なミガキ。底部外面荒れが顕著。足は3個(2個残存)で貼付。器面		
		は黒褐色で、断面黒灰色を灰白色がサンドイッチ状に挟む。口唇部内側磨滅。		
73-16	土 器	瓦質。ロクロ輪積み成形。体部内面木口状工具による横位のナデ。口唇部ミ	1/6	
	火 鉢	ガキ。体部外面丁寧な横位のミガキ。底部外面スグレ状痕。足(痕跡が2		

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特	徴	残存部位
			箇所残存)は貼付。器面は灰褐色で、断面は灰褐色をにぶい橙色がサンド イッチ状に挟む。口唇部内側磨減。口唇部一部煤付着。		
73-17	土 火	器 鉢	瓦質。粘土板成形。体部内面工具?による横位のナデ。口唇部・体部外面 丁寧なミガキ。足(1個残存)は貼付。器面は灰褐色で、断面は黒灰色を 黄橙色がサンドイッチ状に挟む。		コーナー部 分片
73-18	土 瓦灯・蓋	器	瓦質。ロクロ輪積成形。受皿部内面同心円状の、受皿部外面横位のナデ。 受皿部の口唇部雑なミガキ。天井部内面指によるナデ。器面は黒灰色。断 面はにぶい橙色。天井部内面煤付着。		受皿部
74-1 [65-2]	土 かわらけ	器	手づくね成形。内面全面と体部外面上半はナデ。胎土は灰白色で、粗砂を 多く含む。		体部1/2欠
74-2 [65-5a.b]	土 かわらけ	器	手づくね成形。体底部内面と口縁部外面はナデ。底部外面蓆状痕。胎土は 浅黄橙色で、緻密。底部内外面黒色処理。粗砂・礫を多く含む。		3/5
74-3 かわらけ	土 かわらけ	器	手づくね成形。体部外面下半は指頭痕のまま。体部内面と体部外面上半は ナデ。胎土はにぶい橙色で、緻密。粗砂・礫を多く含む。		体部1/2
74-4 [65-4]	土 かわらけ	器	手づくね成形。体部外面下半から底部外面は指頭痕のままとされる。そ の後、内面全面と体部外面上半はナデ。口唇部内面に沈線あり。胎土は灰 白色で、緻密。底部内外面黒色処理。粗砂・礫を多く含む。		体部一部欠
74-5 [65-3]	土 かわらけ	器	手づくね成形。底部外面と体部外面下半は指頭痕のまま。内面全面と体部 外面上半はナデ。内面底部と体部の境目に段あり。胎土は灰白色で、緻密。 底部内面は黒色処理。		体部1/2欠
74-6 かわらけ	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。		2/3
74-7 かわらけ	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土断面・内面は灰褐色。外面は にぶい黄褐色・灰褐色。口唇部煤付着。		1/2
74-8 かわらけ	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。底部周囲ロクロ削り。胎土断面は 橙色。表面は褐灰色。粗砂を大量に、赤色粗砂を多く含む(表面はザラザ ラしている)。		体部1/3欠
74-9 かわらけ	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。		3/4
74-10 かわらけ	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。粗砂・赤色粗 砂を多く含む(表面はザラザラしている)。口唇部煤付着。		1/4
74-11 かわらけ	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。		1/2
74-12 かわらけ	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。		体部1/3欠
74-13 かわらけ	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。		1/2
74-14 かわらけ	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土はにぶい橙色。体部内面一部 暗褐色。		1/3
74-15 かわらけ	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。		1/2
74-16 かわらけ	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部内外面にぶい黄 橙色。口唇部煤付着。		体部1/5欠
74-17 かわらけ	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。		体部1/4欠

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
74-18	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土はにぶい黄橙色。口唇部煤付着。体部内外面に黒色の付着物。	1/2
74-19	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。口唇部煤付着。	体部2/3欠
74-20	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部一部欠
74-21	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	1/2
74-22	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	1/3
74-23	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	1/2
74-24	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	体部一部欠
74-25	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部2/3
74-26	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。	体部1/4欠
74-27	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/2欠
74-28	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。口唇部煤付着(全周)。	完形
[62-8] 74-29	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着(1/2)。	完形
74-30	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。口唇部煤付着(全周)。	完形
74-31	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/3欠
74-32	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土断面はにぶい褐色。表面は浅黄橙色。口唇部煤付着。	1/2
74-33	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/3欠
74-34	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	体部1/4欠
74-35	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	体部一部欠
74-36	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	体部1/3欠
74-37	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土断面はにぶい橙色。表面は浅黄橙色。口唇部煤付着。	体部1/2欠
75-1	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。口唇部煤付着。	2/3
75-2	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	1/2
75-3	土 器		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部2/5欠

挿図番号 (写真番号)	種 別 器 種	特 徴	残存部位
	かわらけ		
75-4	土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。口唇部煤付着。	体部一部欠
	かわらけ		
75-5	土 器	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。	体部1/2欠
	かわらけ		
75-6	土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。口唇部煤付着。	1/3欠
	かわらけ		
75-7	土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。口唇部煤付着。	体部1/2欠
	かわらけ		
75-8	土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/2欠
	かわらけ		
75-9	土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土断面は橙色。表面はにぶい浅黄橙色。口唇部煤付着。	2/3
	かわらけ		
75-10	土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土断面はにぶい橙色。表面は浅黄橙色。口唇部煤付着。	体部1/2欠
	かわらけ		
75-11	土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。	体部3/4欠
	かわらけ		
75-12	土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着 (1/3)。	完形
	かわらけ		
75-13	土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい黄橙色。	1/2
	かわらけ		
75-14	土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。口唇部煤付着。	1/2
	かわらけ		
75-15	土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	1/3
	かわらけ		
75-16	土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。	体部1/2欠
	かわらけ		
75-17	土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。口唇部煤付着。	体部2/5欠
	かわらけ		
75-18	土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。口唇部煤付着。	体部一部欠
	かわらけ		
75-19	土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	一部欠
[62-3]	かわらけ		
75-20	土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。口唇部煤付着。	体部1/4欠
	かわらけ		
75-21	土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい黄橙色。口唇部煤付着。	体部1/2欠
	かわらけ		
75-22	土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/3欠
	かわらけ		
75-23	土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤着。	体部1/2欠
	かわらけ		
75-24	土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部2/5欠
	かわらけ		
75-25	土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい黄橙色。	体部1/2欠
	かわらけ		

挿図番号 〔写真番号〕	種 器	別 種	特 徴	残存部位
75-26 〔62-5〕	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着	ほぼ完形
75-27	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	体部1/5欠
75-28 〔62-7〕	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部一部欠
75-29	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。口唇部煤付着。	体部一部欠
75-30	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。口唇部煤付着。	体部1/2欠
75-31	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着 (2/3)。	完形
75-32	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。口唇部煤付着。	体部3/5欠
75-33	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	3/4
75-34	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土断面はにぶい橙色。表面は浅黄橙色。口唇部煤付着。	一部欠
75-35	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	2/3
75-36	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部一部欠
75-37 〔62-4〕	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部一部欠
75-38	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/3欠
75-39	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。	1/3
75-40	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	3/4
75-41	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	ほぼ完形
75-42	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。口唇部煤付着。	一部欠
75-43	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	1/2
75-44	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	体部1/2欠
75-45	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	1/3
75-46	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部一部欠
75-47	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。口唇部煤付着。	体部一部欠
75-48	土 器		ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/2欠

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特	徴	残存部位
75-49	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。口唇部煤付着。		3/5
75-50	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。		1/3
75-51	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。		体部1/2欠
76-1	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色で全面に小さい 斑状の黒色付着物が顕著。		体部1/3欠
76-2	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい黄橙色。		体部2/5欠
76-3	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。		2/3
76-4	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。口唇部煤付着。		体部1/4欠
76-5	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。		体部一部欠
76-6	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。口唇部煤付着。		体部1/2欠
76-7	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部浅黄橙色。口唇 部煤付着。		1/2
76-8	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。		体部1/3欠
76-9	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。口唇部煤付着。		体部1/2欠
76-10	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい黄橙色。口唇部煤付 着。		体部1/3欠
76-11	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土断面は褐色。表面はにぶい橙 色。口唇部煤付着。		体部1/3欠
76-12	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。		3/4
76-13	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。		体部1/2欠
76-14	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい黄橙色。口唇部煤付 着。		体部1/4欠
76-15	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。		体部一部欠
76-16	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。		体部3/4欠
76-17	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。		体部1/3欠
76-18	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。		体部3/5
76-19	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。		2/3欠

挿図番号 (写真番号)	種器 別種	特 徴	残存部位
76-20	土 器 かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/2欠
76-21	土 器 かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/4欠
76-22	土 器 かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部2/3欠
76-23	土 器 かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤着。	体部3/5欠
76-24	土 器 かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。	3/4
76-25	土 器 かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/3欠
76-26 〔62-6〕	土 器 かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。口唇部・底部内外面煤付着。	体部一部欠
76-27	土 器 かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい黄橙色。口唇部煤付着。	3/4
76-28 〔62-2〕	土 器 かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土断面内側は褐灰色、外側はにぶい橙色。内面黒色処理。口唇部煤付着。	1/4欠
76-29	土 器 かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	1/2
76-30	土 器 かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。口唇部煤付着。	1/2
76-31	土 器 かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部特殊右回転糸切り。胎土は橙色。	1/3
76-32	土 器 かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	1/3
76-33	土 器 かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/3欠
76-34 〔62-1〕	土 器 かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	ほぼ完形
76-35	土 器 かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	体部2/5欠
76-36	土 器 かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部特殊右回転糸切り。胎土は橙色。体底部内面に黒色付着物あり（タール?）。	1/4
76-37	土 器 かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	1/2
76-38	土 器 かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。	1/2
76-39	土 器 かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	1/2
76-40	土 器 かわらけ	ロクロ水挽き成形。内面左回りのロクロナデ。体部外面下半から底部はロクロナデ。胎土はにぶい橙色。底部外面黒色処理。	1/3
77-1	舶載磁器 染付碗	中国。見込2重圏線内に水鳥文。体部外面圏線のみ。高台内1重圏線内に銘「大明成化年製」。高台内にカンナケズリ痕。見込一定方向の擦痕あり。	体部1/3欠
77-2	舶載磁器	中国。外面虫食い顕著。見込1重圏線内に銘「博古齋」。高台内に1重圏線	体部1/2欠

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特	徴	残存部位
		染付碗	あり。		
77-3	舶載磁器	染付碗	中国。体部外面山水文。高台内1重圈線内に銘「大明成化年製」。高台内・高台部外面カンナケズリ痕。		体部1/2欠
77-4	舶載磁器	染付碗	中国。体部外面牡丹文。高台内銘あり。		1/2
77-5	舶載磁器	染付碗	中国。見込雲枝文、体部外面文様あり。高台内に銘「玉堂佳器」。高台部粗砂付着。		底部～体部 下半1/4
77-6	舶載磁器	染付碗	中国。体部外面草花文？ 高台内銘あり。高台内カンナケズリ痕。		口縁～底部片
77-7	舶載磁器	染付碗	中国。見込卷唐草文、体部内外面唐草文。釉は厚く、ムラがある。虫食いあり。高台内カンナケズリ痕。高台部粗砂付着するも、磨滅してとれている。見込不定方向の擦痕あり。		底部～体部 下半2/3
77-8 [76-3a~c]	舶載磁器	染付碗	中国。胎土は淡黄色で、赤色粗砂を多く含む。見込草文？ 全面に貫入する。高台部外面から高台内まで部分的に無釉。釉ムラ顕著。見込擦れている部分顕著。		底部
77-9	舶載磁器	染付皿	中国。内面草花文。釉は青味がかる。畳付から高台内無釉。高台内カンナケズリ痕。漆継ぎ。		底部～体部 下半1/3
77-10	舶載磁器	染付碗？	中国。見込・体部外面菊花文。高台内に1重圈線あり。高台内にカンナケズリ痕。見込・高台内回るような擦痕顕著。		底部2/3
77-11 口絵8-2	舶載磁器	色絵皿	中国。内面草花文（一部輪郭は黒色で、中は緑・黄色、他に赤色）。高台内呉須で銘「竹□□」。被熱により溶着物あり。		底部～体部 下半1/3
77-12 [76-1a・b]	舶載磁器	染付碗	中国。胎土は粗い。内面山水人物文。畳付から高台内無釉。見込擦れている部分あり。他に同一文様・器形のもの1個体あり。		体部1/4
77-13	舶載磁器	染付小杯	中国。見込釣人文。高台内に2重圈線あり。高台内虫食い顕著。		底部
77-14	舶載磁器	染付小杯	中国。見込菊花文。高台内に銘「大明成化年製」。高台内カンナケズリ痕。		底部1/2と体 部下半の一部
77-15	舶載磁器	染付小杯	中国。蛇ノ目高台。見込2重圈線内。体部外面草花文（花は辰砂）。畳付から高台内無釉。		底部1/2
77-16	舶載磁器	染付小杯	中国。体部外面草花文（2単位）。畳付から高台内無釉。		体部1/5欠
77-17	舶載磁器	染付小杯	中国。体部外面草花文（2単位）。畳付から高台内無釉。虫食いあり。他に同一文様・器形のもの3個体あり。		体部1/2欠
77-18	舶載磁器	染付小杯	中国。体部外面草花文。		体部上半1/3
78-1	舶載磁器	染付小杯	中国。見込文様あり、体部外面花蝶文。全面白濁し、呉須の発色も白っぽい。外面虫食い顕著。高台内カンナケズリ痕。		1/3
78-2	舶載磁器	染付小杯？	中国。見込野菜文、体部外面文様あり。高台内に2重圈線あり。高台内カンナケズリ痕。		底部
78-3 [76-9a・b]	舶載磁器	染付小杯	中国。見込2重圈線文。体部外面野菜文（葉脈は呉須の上から鋭い工具によって呉須を掻き取る）。高台内に2重圈線あり。高台内カンナケズリ痕。		底部1/2
78-4 [77-8]	舶載磁器	染付皿	中国。内面吹墨で兎文。見込不定方向の細かい擦痕あり。		体部3/4欠
78-5	舶載磁器	色絵皿	中国。見込草花文（輪郭は黒色、太胡石は黄色、葉は緑色）。呉須の発色悪く黒色。高台内呉須で銘あり。高台部粗砂付着。高台内回るような擦痕顕著。		底部1/6

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特 徴	残存部位
78—6	舶載磁器 染付皿	中国。芙蓉手。見込鹿文。高台部粗砂付着。被熱により全面溶着。466号遺		底部1/2
78—7	舶載磁器 白磁皿	中国。見込線彫牡丹文。高台内カンナケズリ痕。高台部粗砂付着。見込細 かい擦痕あり。		底部
78—8	舶載磁器 染付皿	中国。見込人物文、体部外面花卉文(3単位)。口禿。高台内小さい虫食い 顕著。見込不定方向の擦痕、擦れている部分あり。高台部粗砂付着。他に 同一文様・器形のもの1個体あり。		体部3/4欠
78—9	舶載磁器 色絵皿	中国。見込草花文、体部外面如意頭文。色絵変色し、ほとんど残らず。高 台内2重圏線内に銘「大[]明[]成[]」。被熱により溶着、溶着物顕著。		底部1/4
78—10	舶載磁器 色付皿	中国。呉須手。胎土は淡黄色。内面鳳凰文(呉須の色は深緑色)。全面に貫 入入る。釉は灰黄白色で透明感あり。高台内中央部は無釉。高台際虫食い 顕著。畳付粗砂大量に付着。		底部1/6
78—11	舶載磁器 色絵皿	中国。呉須赤絵。胎土は灰白色で、やや透明感あり。体部内面竜文(輪郭 は黒色、赤・水色)、口縁部文様帯赤色。貫入入る。		口縁～体部片
78—12	舶載磁器 染付皿	中国。呉須手。胎土は灰白色で、やや透明感あり。体部内面樓閣山水文(輪 郭は黒色、青・水色が使われていたと思われるがすべて脱色)。体部外面虫 食い顕著。高台内粗砂付着。見込擦れている部分あり。		口縁～底部片
78—13	舶載陶器 鉢?	中国? 胎土は灰色。口縁部外面花卉状の貼付。体部外面花卉型押印。口 縁部外面から内面緑釉。体部外面黄釉。細かい貫入入る。被熱により釉溶 着。緑釉は赤くなっている部分あり。		口縁部片
78—14	舶載磁器 黄釉鉢	中国。高台内に2重圏線あり。内面、体部・高台外面黄釉。高台内2重圏 線内に銘「[]明[]年[]」。被熱により内外面釉溶着、溶着物あり。		底部1/8
78—15	舶載磁器 染付角皿	中国。型打成形。口唇部無釉。胎土は粗い。内面雲文、体部外面花鳥文。 高台内銘あり。見込不定方向の擦痕あり。294号遺構と接合。		1/4
78—16 [78—3]	舶載磁器 染付面盆	中国。平面形は花形を呈する(伝世品より)。見込竜文?、体部外面底部際1 重圏線巡る。底部外面無釉。見込不定方向の擦痕顕著。164号遺構と接合。		底部片

第15表 617号遺構出土陶磁器類観察表

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特 徴	残存部位
79—1	磁 器	器	肥前。体部外面草花文。釉ムラ顕著。内面黒色班顕著(焼成時の灰付着?)	体部2/3欠
	染 付	碗		
79—2	磁 器	器	肥前。体部外面草花文。外面は釉調黄味がかかる。高台内1重圏線内に銘「宣	体部1/6
	染 付	碗	徳年製」。見込不定方向の擦痕顕著、擦れている部分あり。	
79—3	磁 器	器	肥前。体部外面区画割草花文・樹木文・宝文。高台内に1重圏線あり。見	体部一部欠
[35—7]	染 付	碗	込不定方向の、体部内面横位の擦痕顕著。	
79—4	磁 器	器	肥前。口縁部内面に2重圏線あり。見込析枝梅文、体部外面鳳凰と桐文。	体部一部欠
	染 付	碗	高台内1重圏線内に銘あり。見込不定方向の体部内外面横位の擦痕顕著。	
79—5	磁 器	器	肥前。口縁部外面四方禪文(墨弾き使用)、体部外面丸文(中に変形文字、	体部2/3欠
	染 付	碗	3単位)。高台内銘あり。内面・体部外面に細かい擦痕あり。	
79—6	磁 器	器	肥前。口縁部内面に2重圏線あり。見込2重圏線内に草花文、体部外面岩	体部一部欠
	染 付	碗	に紅葉文(3単位)。高台内に銘「宣徳年製」。	
79—7	磁 器	器	肥前。外面は圏線のみ。全面に細かい貫入入る。見込2重圏線内に銘「吉	体部2/3欠
	染 付	碗	明成化年製」。高台内1重圏線内に銘あり。	

挿図番号 〔写真番号〕	種 器	別 種	特	徴	残存部位
79-8	磁器 染付碗		肥前。見込2重圏線内に花文、体部内外面一重網目文。体部外面下半釉ムラ顕著、高台内1重圏線内に銘あり。見込不定方向、体部内面横位の擦痕顕著。見込擦れている部分あり。		体部1/6
79-9 〔36-14〕	磁器 染付碗		肥前。見込花文・体部外面幾何学文。高台内に銘「宣福年製」。		体部1/3欠
79-10	磁器 白磁碗		肥前。		1/2
79-11	磁器 染付小杯		肥前。体部外面山水文。		1/2
79-12 〔36-13〕	磁器 色絵小杯		肥前。口縁部内面に1重圏線あり。見込2重圏線内に草花文（輪郭は黒色、完形他は剝落）、体部外面析枝花文（輪郭は黒色、他に青・緑・藤・赤色）。釉ムラ顕著。小さい虫食い顕著。高台内2重圏線内に角福銘。		
79-13 〔36-12〕	磁器 染付小杯		肥前。外面圏線のみ。高台内1重圏線内に銘「宣徳年製」。		体部1/3欠
79-14	磁器 染付小杯		肥前。体部外面山水文。小さい虫食い顕著。高台内1重圏線内に銘「宣徳年製」崩れ？		完形
79-15 〔36-10〕	磁器 白磁小杯		肥前。高台無釉。体部外面へう彫堅筋文。器面に焼成時の灰が大量に付着。		体部1/4欠
79-16	磁器 白磁小杯		肥前。全面に貫入入る。		1/3
79-17	磁器 染付小杯		肥前。高台内無釉。胎土は灰白色。体部外面草文（1単位）。		体部3/4欠
80-1 〔37-8a.b〕	磁器 染付皿		肥前。口唇部・体部輪花状に型打。胎土は灰白色。見込花唐草文。体部内面陽刻で如意頭文。見込不定方向の擦痕あり。		1/3
80-2	磁器 染付蓋		肥前。胎土は灰白色。体部外面草文（呉須の発色悪く、黒青色）貫入入る。内面無釉。		体部外面 1/2
80-3	磁器 染付瓶		肥前。胎土は灰白色。胴部外面草花文。		胴部2/3
80-4	磁器 染付瓶		肥前。口縁部外面松文？（呉須の発色悪く黒緑色）。		口縁～胴部 上半1/3
80-5	磁器 染付皿		肥前。口縁部内面唐草文・見込葉文。		1/2
80-6	磁器 青磁皿		肥前。高台内蛇ノ目釉ハギ（釉ハギ部褐色の鉄釉塗付）。体部内面線彫四方襷文。全面青磁釉（緑色）。見込不定方向の擦痕顕著。		1/6
80-7	陶器 擂鉢		信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部横位の強いロクロナデ。体部外面横位の雑なナデ（指頭痕残る）。擂目7本1単位。胎土は灰色で、白色・透明粗砂を含む。口唇部自然釉がかかる。		体部片
80-8	陶器 擂鉢		信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部外面横位の雑なナデ（指頭痕残る）。擂目5本1単位。胎土は黒灰色で、白色・透明粗砂・礫（3～4mm大）を大量に含む。内面から体部外面上位自然釉が斑状にかかる。		
80-9	陶器 擂鉢		信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部外面横位の雑なナデ（指頭痕残る）。擂目12本1単位。胎土は灰色で、白色・透明粗砂・礫（3～4mm大）を大量に含む。		体部上半1/2
80-10	陶器		瀬戸・美濃。ロクロ水挽き成形。体部外面下半横位のロクロケズリ。擂目		体部片

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
	播	鉢	19本1単位。胎土は淡黄色。内外面鉄釉(極暗褐色。釉の表面鮫肌状)。内面擦れている。	
80-11	陶 播	器 鉢	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。1/4 体部外面横位の雑なナデ。播目8本1単位。胎土は灰色で、白色・透明粗砂・黒色粗砂を大量に含む。内面から体部外面柿釉(暗赤色)。内面から口縁部外面自然釉が斑状にかかる。内面擦れている。802号遺構と接合。	1/4
81-1	陶 皿	器 皿	瀬戸・美濃。削り出し高台。口縁部外面に横位の沈線1条あり。胎土は灰白色で、かなり粗い。内面から体部外面灰釉(灰白色。白濁部・剝落部が多く、焼成痕と思われる)。高台部周囲無釉。畳付・高台内と見込に目痕あり(2箇所ずつ残存)。	1/3
81-2	土 焼塩壺・身	器 身	手づくね成形(輪積み2段)。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。断面は縞状を呈し、粗砂を多く含む。体部外面に刻印2重枠「天下一堺ミなど藤左衛門」。	体部上半2/3欠
81-3	土 焼塩壺・身	器 身	手づくね成形(輪積み2段)。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。粗砂を大量に含む。体部外面に刻印2重枠「天下一堺ミなど藤左衛門」。	完形
81-4	土 焼塩壺・身	器 身	手づくね成形(輪積み2段)。内面布目痕。胎土は橙色で、内面・体部外面の一部ピンク色。断面は縞状を呈し、粗砂を大量に、赤色粗砂を多く含む。	1/2
81-5	土 焼塩壺・身	器 身	体部内面布目痕。胎土は浅黄橙色で、粗砂を含む。体部外面に刻印「イツミツタ花塩屋」(陽刻)。体部外面荒れている。	完形
81-6 (59-3a~d)	土 焼塩壺・身	器 身	体部内面布目痕。胎土はにぶい橙色。断面は縞状を呈し、粉質で粗砂を含む。体部外面に刻印「イツミツタ花塩屋」(陽刻)。	完形
81-7	土 焼塩壺・身	器 身	手づくね成形。胎土は橙色で、粗砂・礫を多く含む。	体部1/4欠
81-8	土 焼塩壺・身	器 身	手づくね成形。天井部内面中央部布目痕。胎土は橙色。断面は縞状を呈し、ほぼ完形粉質。体部外面剝落。	
81-9	土 かわらけ	器 身	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。口唇部煤付着。	体部1/2欠
81-10	土 かわらけ	器 身	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。	体部1/3欠
81-11	土 かわらけ	器 身	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は浅黄橙色。口唇部煤付着。	体部1/2欠
81-12	土 かわらけ	器 身	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	1/2
81-13	土 かわらけ	器 身	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。	体部1/4欠
81-14	土 かわらけ	器 身	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	体部1/2欠
81-15	土 かわらけ	器 身	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土断面はにぶい橙色。器面は明赤褐色。内外面とも褐色の付着物あり。	1/3
81-16	土 かわらけ	器 身	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	2/3
81-17	土 かわらけ	器 身	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	1/2
81-18	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	2/3

捕図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
		かわらけ		
81-19	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/3欠
81-20	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	1/2
81-21	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	1/2
81-22	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	体部1/2
81-23	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	体部1/2欠
81-24	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい黄橙色。口唇部煤付着。	体部2/3
82-1	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	ほぼ完形
82-2	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/3欠
82-3	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	1/6欠
82-4	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/3欠
82-5	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	1/2
82-6	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/6欠
82-7	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	ほぼ完形
82-8	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	1/2
82-9	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土はにぶい黄橙色。底部外面黒褐色。	体部1/2欠
82-10	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	体部一部欠
82-11	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。外面黒色処理？ 体部内外面の一部に煤付着。口唇部煤付着。	2/3
82-12	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	1/3
82-13	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/3欠
82-14	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	1/3
82-15	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	体部一部欠
82-16	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。口唇部煤付着。	体部1/4欠

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特 徴	残存部位
82-17	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄褐色。口唇部煤付着。	1/2
82-18	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	1/4
82-19	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。	1/3
82-20	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土断面はにぶい褐色。器面は橙 色。口唇部煤付着。	体部一部欠
82-21	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部一部欠
82-22	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	1/3
82-23	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。器面はにぶい 橙色・灰褐色。体部外面に墨書「十六日」。	体部1/4欠
82-24	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。内面左回りのロクロナデ。体部外面から底部外面右回 りのロクロナデ。胎土はにぶい橙色。底部内外面黒色処理。口唇部煤付着。	体部3/4欠
82-25	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。内面左回りのロクロナデ。体部外面下半から底部右回 りのロクロナデ。胎土はにぶい橙色。底部焼成後穿孔。口唇部煤付着。	体部1/2欠
82-26	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。内面左回りのロクロナデ。体部外面から底部外面右回 りのロクロナデ。胎土は橙色。底部内外面黒色処理。	1/3
82-27	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。内面左回りのロクロナデ。体部外面から底部外面右回 りのロクロナデ。胎土は橙色。底部内外面黒色処理。	体部1/2欠
82-28	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。内面左回りのロクロナデ。体部外面から底部外面右回 りのロクロナデ。胎土は橙色。底部内外面黒色処理。	1/2
82-29	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。内面左回りのロクロナデ。体部外面から底部外面右回 りのロクロナデ。胎土は橙色。底部内外面黒色処理。	体部1/4欠
82-30 口絵8-1	船載磁器 色 絵 壺		中国。肩部に稜線が入るので多角形と思われる。頸部外面区画割花卉文（輪 郭は黒色、花は水色、葉は緑色、稜線は赤色の上に金色が残る）。肩部炎文？ （輪郭は黒色、炎は水色）・剣菱文（赤色）。口禿。	口縁～肩部1/5
82-31	船載磁器 染付皿		中国。碁筈底。内面草文？ 被熱により表面溶着、また溶着物あり。	底部1/3

第16表 618号遺構出土陶磁器類観察表

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特 徴	残存部位
83-1	磁 器	白磁碗	肥前。全面に細かい貫入入る。	1/2
83-2	磁 器	白磁碗	肥前。全面に細かい貫入入る。	1/2
83-3	磁 器	染付碗	肥前。見込1重圏線内に花文。体部内外面一重網目文。高台内1重圏線内 に銘あり。	体部1/3欠
83-4	磁 器	染付碗	肥前。体部外面草花文。高台内銘あり。見込不定方向の、体部内外面横位 の擦痕あり。	1/2
83-5	磁 器		肥前。体部外面花卉文（3単位）。釉ムラ顕著。高台内1重圏線内に角福	体部2/3欠

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特	徴	残存部位
		染付碗	銘。見込細かい不定方向の、体部下半内面横位の擦痕顕著。見込は擦れている部分あり。		
83-6	磁器	肥前。体部外面松竹梅と鳥文。高台内に1重圈線内に銘「大明成化年製」。	体部一部欠		
		染付碗	見込擦痕・擦れている部分顕著。		
83-7	磁器	肥前。体部外面窓絵宝尽し文。ほぼ全面に貫入する。	体部2/3		
[35-1]		染付碗			
83-8	磁器	肥前。体部外面ブドウ文（蔓は赤色、葉・実黒色で輪郭、黄色で充填）。	体部一部欠		
[44-13]		色絵紅皿	釉は生がけ。		
83-9	磁器	肥前。	体部2/3欠		
		白磁小杯			
83-10	磁器	肥前。釉は生がけ。全面に貫入する。	体部2/5欠		
		白磁蓋物			
83-11	陶器	瀬戸・美濃。天目碗。胎土は灰白色で、緻密。内面から体部外面鉄釉（黒色・褐色が粒状に混在）。高台部周囲無釉。	体部一部欠		
[45-14]		碗			
83-12	陶器	瀬戸・美濃。天目碗。胎土は灰白色で、かなり粗い。黒色粗砂を多く含む。体部の一部内面から体部外面柿釉（褐色）。高台部周囲鉄釉（にぶい褐色）。	と底部2/3		
		碗			
83-13	陶器	肥前。胎土は浅黄橙色で、緻密。体部外面に横位の鉄（暗褐色）の線が1条巡る。全面透明釉（明赤褐色。白濁部分あり）。全面に貫入する。畳付無釉。高台内釉がよくかかっておらず無釉部分あり。釉際には炎色（橙色）出る。畳付粗砂付着。	体部2/3欠		
		碗			
83-14	陶器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、緻密。畳付を除く全面透明釉。全面に貫入する。	体部1/2欠		
		碗			
83-15	陶器	瀬戸・美濃。削り出し高台。胎土は灰白色で、粗い。全面長石釉（貫入する。高台内は斑状）。見込・高台内に目痕3箇所ずつあり。	完形		
[47-7]		皿			
83-16	陶器	瀬戸・美濃。削り出し高台。胎土は灰白色で、かなり粗い。体部内面上半から体部外面柿釉（褐色・黒色が斑状に混在）。内面鉄釉（褐色）。高台部周囲無釉。口唇部釉ふきとり。	体部3/4欠		
		片口			
84	磁器	肥前。ハリ支え痕。見込家屋文、体部内面窓絵草花文・宝尽し文。体部外面山水文（2単位）。ほぼ全面に貫入する。高台内に1重圈線内に角福銘。	完形		
[42-4a.b]		染付皿			
口絵3-1ab			115・542号遺構と接合。		
85-1	陶器	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部片拵鉢	体部片		
		鉢	体部外面横位の雑なナデ（指頭痕残る）。拵目7本1単位。胎土はにぶい赤褐色で、白色・透明粗砂・礫（3～4mm大）を大量に含む。内面擦れている。		
85-2	陶器	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部片拵鉢	体部1/5欠		
[54-2a.b]		拵鉢	体部外面横位の雑なナデ（指頭痕残る）。拵目7本1単位。体部内面下位目痕5箇所あり（この部分変色している）。胎土はにぶい赤褐色で、白色・透明・黒色粗砂・礫（3～4mm大）を大量に含む。内面擦れている。		
85-3	陶器	丹波。外面の胴部上位に横位の沈線（3条）。胴部下位に横位の突帯（1条）。それより下位は蛇腹状に横位の太い沈線あり（8条）。胎土は橙色（外面側）・灰色（内面側）で、白色・透明粗砂を大量に含む。粗いが、粘土質。外面鉄釉（赤紫色）。底部外面無釉。	体部1/3欠		
[49-6]	徳利				
85-4	土器	瓦質。ロクロ輪積成形。体部内面指による横位のナデ。口縁部横位のミガキ、体部外面縦位のミガキ。器面は褐灰色で、断面褐灰色を灰白色がサンドイッチ状に挟む。体部内面上位煤付着。口唇部・体部外面銀彩？ 包含層と接合。	体部上半3/4		
[72-3]		焜			

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
85—5	土 火	器 鉢	土師質。ロクロ輪積成形。体部内面指による横位のナデ。口唇部・体部外面ミガキ。体部下位・底部外面荒れが顕著。足（痕跡が1箇所残存）は貼付。胎土はにぶい褐色。口唇部内側磨滅。	1/3
86—1	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。口唇部煤付着（一部）。	完形
86—2 〔62—9〕	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。	体部1/4欠
86—3	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	3/4
86—4	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。	体部一部欠
86—5	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。	1/2
86—6	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。	3/4
86—7	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。	体部1/2欠
86—8	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。	体部1/6欠
86—9 〔62—10〕	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。	体部1/4欠
86—10	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土はにぶい橙色。	1/3
86—11	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。	体部1/2欠
86—12	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/6欠
86—13	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。体部内外面中央部に黒色付着物あり。	ほぼ完形
86—14	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。底部焼成後穿孔（穴は四角形）。	完形
86—15	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。底部焼成後穿孔。	体部1/2欠
86—16	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部特殊左回転糸切り。胎土は橙色。体部内外面斑状の黒色付着物あり。	1/2
86—17	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部一部欠
86—18	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。	3/4
86—19	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部特殊右回転糸切り。胎土は浅黄橙色。	2/3
86—20	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。内面全面・体部外面剝落。	1/2
86—21	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。	1/2

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特 徴	残存部位
86-22	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	体部1/4欠
86-23	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	1/2
86-24	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	1/3
86-25	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。	体部一部欠
86-26	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。口唇部煤付着(全周)。	完形
86-27	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/6欠
86-28	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部3/4欠
86-29	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	体部1/3欠
86-30	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部一部欠
86-31	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/6欠
86-32	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部特殊左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	体部1/4欠
86-33	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部3/5欠
86-34	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着(全周)。	完形
86-35	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土断面は灰褐色、外面はにぶい黄橙色。内面黒色処理。外面焼成時についた放射状の黒い線あり。口唇部煤付着。	体部1/3欠
86-36	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/4欠
86-37	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/3欠
86-38	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/4欠
86-39	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	ほぼ完形
86-40	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	1/2
86-41	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部一部欠
86-42	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。外面黒色処理？	一部欠
86-43	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。	1/3

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
86-44	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り，周囲手持ちケズリ。胎土は橙色。底部外面は黒褐色。	体部1/2欠
87-1	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい黄橙色。墨書あり。	3/4
87-2	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書あり。	体部1/3欠
87-3	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。体部外面に墨書「一」。	体部一部欠
87-4	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「ほ うかい」。	完形
87-5	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り，胎土は橙色。体部外面に墨書「○」。	体部一部欠
87-6	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「め い」。	1/2
87-7	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「す い」。	1/4
87-8	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。体部外面に墨書「くわ？」。	完形
87-9	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい黄橙色。体部外面に墨書「 <input type="text"/> かい」。	1/4
87-10	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り，胎土は橙色。体部外面に墨書「 <input type="text"/> (ゑか) い」。	体部一部欠
87-11	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。体部外面に墨書「大」。	ほぼ完形
87-12	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。体部外面に墨書「くわ？」。	体部1/3欠
87-13	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書あり。	1/3
87-14	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「大」。	体部1/2欠
87-15	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り，胎土は浅黄橙色。体部外面に墨書「すい」。	ほぼ完形
87-16	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「一」。	体部一部欠
87-17	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「め い御ちや」。	体部一部欠
87-18	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「す い」。	体部1/3欠
87-19	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「く わ？」。	体部1/4欠
87-20	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り，胎土は浅黄橙色。体部外面に墨書「大」。	完形
87-21	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「す い御ちや」。	体部1/4欠
87-22	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「く？」。	体部1/4欠

插图番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
88-1	土 器	かわらけ	わ?御ちや。 ロクロ水挽き成形。底部特殊左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。体部外面	1/2
88-2	土 器	かわらけ	に墨書「くわ?」。 ロクロ水挽き成形。底部特殊左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。体部外面に	一部欠
88-3	土 器	かわらけ	墨書「めい?」。 ロクロ水挽き成形。底部特殊左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書	体部1/6欠
88-4	土 器	かわらけ	「○」。 ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書あり。体部1/3欠	
88-5	土 器	かわらけ	「一」。 ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。体部外面に墨書	体部1/6欠
88-6	土 器	かわらけ	「す い」。 ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書	体部1/2欠
88-7	土 器	かわらけ	書「ていかん□」。 ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。体部外面に墨	完形
88-8	土 器	かわらけ	しや□」。 ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「お	体部一部欠
88-9	土 器	かわらけ	「十日十□日」。 ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。体部外面に墨書	体部一部欠
88-10	土 器	かわらけ	「御十二日□」。 ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。体部外面に墨書	ほぼ完形
89-1	土 器	かわらけ	「御五□」。 ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。体部外面に墨書	体部一部欠
89-2	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。内部ロクロナデ。体部外面から底部外面右回りのロク ロナデ。胎土は浅黄橙色。底部内外面黒色処理。	1/4
89-3	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。内面左回りのロクロナデ。体部外面から底部外面右回 りのロクロナデ。胎土は浅黄橙色。底部内外面黒色処理。	1/4
89-4	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。内面ロクロナデ。体部外面から底部外面右回りのロク ロナデ。胎土は橙色。底部内外面黒色処理。	1/2
89-5	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。内面左回りのロクロナデ。体部外面から底部外面右回 りのロクロナデ。胎土は浅黄橙色。底部内面黒色処理。	体部1/2欠
89-6	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。内面左回りのロクロナデ。体部外面から底部外面右回 りのロクロナデ。胎土は浅黄橙色。底部内外面黒色処理。底部焼成後穿孔。	体部1/3欠
89-7	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。内面左回りのロクロナデ。体部外面から底部外面右回 りのロクロナデ。胎土は橙色。底部内外面黒色処理。	体部1/4欠
89-8	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。内面左回りのロクロナデ。体部外面から底部外面右回 りのロクロナデ。胎土はにぶい黄橙色。底部内面黒色処理。	1/3
89-9	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。内面左回りのロクロナデ。体部外面から底部外面右回 りのロクロナデ。胎土は浅黄橙色。底部内外面黒色処理。	1/3
89-10 (63-10a.b)	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。内面左回りのロクロナデ。体部外面から底部外面右回 りのロクロナデ。胎土は浅黄橙色。底部内外面黒色処理。	一部欠
89-11	土 器	耳かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	体部1/2欠
89-12	舶載磁器 染付碗		中国。見込山水文。体部外面文様あり。高台内虫食い顕著。高台内1重圈 線内に銘「大明成化年製」。見込不定方向の擦痕顕著。	底部2/3

挿図番号 (写真番号)	種 別	特 徴	残存部位
89-13	舶載磁器 染付碗	中国。内面笹文。畳付から高台内無釉。小さい虫食いあり。高台内カンナケズリ痕。	底部
89-14	舶載磁器 色絵皿	中国。見込毘沙門亀甲文（赤色）・七宝繋ぎ文（呉須）。高台内に2重圏線あり。高台内カンナケズリ痕。高台部粗砂付着。	底部1/8
89-15	舶載磁器 染付小杯	中国。体部外面花蝶文。口禿。	体部2/3
89-16	舶載磁器 染付皿	中国。見込楼閣山水文。高台内虫食い顕著。高台内カンナケズリ痕顕著。見込一定方向の擦痕顕著。	底部1/4

第17表 678号遺構出土陶磁器類観察表

挿図番号 (写真番号)	種 別	特 徴	残存部位
90-1	磁 器 白磁碗	肥前。全面に貫入入る。漆継ぎ？	1/2
90-2	磁 器 白磁碗	肥前。漆継ぎ？ 全面に細かい擦痕あり。	体部1/2欠
90-3	磁 器 白磁碗	肥前。	体部2/3欠
90-4	磁 器 染付碗	肥前。体部外面鹿と紅葉文（2単位）。外面の一部に貫入入る。高台内に銘「宣明化製」。	体部上半1/2欠
90-5	磁 器 染付碗	肥前。体部外面窓絵鳥と梅花文。高台内に1重圏線内に銘「宣明□製」。	体部1/4欠
[36-2] 90-6	磁 器 染付碗	肥前。体部外面蔓草文。見込不定方向の、体部内面横位の擦痕あり。	体部一部欠
90-7	磁 器 染付碗	肥前。体部外面草花文。内面釉ムラ顕著。高台内1重圏線内に銘あり。	体部1/4欠
90-8	磁 器 染付小杯	肥前。体部外面花卉文。	体部1/2欠
90-9	磁 器 染付碗	肥前。体部外面折紙・花・亀甲文。全面に貫入入る。内面小さい虫食い顕著。	体部1/4欠
[35-9] 90-10	磁 器 染付碗	肥前。体部外面芙蓉手草花文。高台内1重圏線内に銘あり。	1/2
90-11	磁 器 染付碗	肥前。体部外面岩と草文。高台内銘あり。見込不定方向の、体部内外面下半横位の擦痕顕著。617号遺構と接合。	1/3
91-1	磁 器 染付碗	肥前。見込2重圏線内に草文、体部外面草花文。全面に細かい貫入入る。	体部上半1/3欠
91-2	磁 器 染付碗	肥前。体部外面草花文（2単位）。全面に細かい貫入入る。高台内に銘「宣明年製」。	体部1/2欠
91-3	磁 器 染付碗	肥前。体部外面花蝶文。高台内1重圏線内に銘「大明」。見込体部内面に細かい擦痕あり。内面しみ状の黒・黄色の付着物あり。	体部1/3欠
91-4	磁 器 染付碗	肥前。体部外面山水文。高台内1重圏線内に銘「大明他年」。見込不定方向の細かい擦痕あり。	1/3
91-5	磁 器 染付碗	肥前。胎土は灰白色。体部外面一重網目文。包含層と接合。	体部2/3


挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特	微	残存部位
91-6	磁器	肥前。胎土は灰白色。体部外面網目に漢字文（3単位）。 染付碗			体部2/3欠
91-7	磁器	肥前。高台地無釉。胎土は灰白色。体部外面笹文。体部外面に他個体の口縁部が溶着（焼成時）。 染付碗			体部1/2欠
91-8	磁器	肥前。体部外面楼閣山水文。高台内に銘「大明年製」。見込不定方向の、体部内面下半回るような擦痕顕著。 染付碗			完形
91-9	磁器	肥前。体部外面松竹梅に縦線文。見込不定方向の擦痕あり。 染付碗			体部1/4欠
91-10 (35-8)	磁器	肥前。見込鳥文、体部外面菊唐草文。内面に貫入る。体部内面横位の擦痕あり。 染付碗			1/2
92-1	磁器	肥前。高台無釉。外面へう彫堅筋文。 白磁小杯			口縁部1/3欠
92-2	磁器	肥前。高台無釉。体部外面草花文。 染付小杯			1/3
92-3	磁器	肥前。外面圏線のみ（呉須の色うすい）。 染付小杯			1/3
92-4	磁器	肥前。体部外面山水文。高台内銘あり。 染付小杯			1/3
92-5 (36-11)	磁器	肥前。折枝文（2単位）。漆継ぎ？ 染付小杯			体部1/3欠
92-6	磁器	肥前。 染付小杯			1/2
92-7	磁器	肥前。体部外面草花文。漆継ぎ？ 617号遺構と接合。 染付小杯			体部1/3
92-8	磁器	肥前。体部外面家と樹木文。高台内角福銘。見込不定方向の細かい擦痕あり。 染付小杯			体部上半3/4欠
92-9	磁器	肥前。見込・体部外面葉文。高台内1重圏線内に銘「太明」。 染付小杯			体部3/4欠
92-10	磁器	肥前。体部外面鳥文。ほぼ全面に貫入る。 染付小杯			体部2/3
92-11	磁器	肥前。体部内面陽刻で雲形・渦巻文、体部外面草と鳥文。高台内1重圏線内に銘「大明成化年製」。618号遺構と接合。 染付鉢			体部1/3欠
92-12	磁器	肥前。体部内面陽刻と染付で花虫文、体部外面虫とブドウ文。内外面に小さい虫食いあり。高台内角福銘。 染付鉢			体部1/4欠
92-13 (36-5)	磁器	肥前。体部外面松文。高台1重圏線内に銘「宣徳年製」。 染付小杯			体部3/4欠
92-14 (36-9)	磁器	肥前。体部花卉状に型打。体部外面草花文（2単位）。高台内1重圏線内に銘「大明成化年製」。 染付小杯			完形
92-15	磁器	肥前。胎土は灰白色。見込雲形文・花文。見込擦れている部分顕著。618号遺構と接合。 染付皿			1/3欠
92-16	磁器	肥前。見込唐草文崩れ？ 釉は生がけ。見込擦れている部分あり。 染付皿			底部残
92-17 (38-2a.b)	磁器	肥前。見込蛇ノ目釉ハギ。内面から体部外面上半青磁釉（水色）、体部外面下半から高台内無釉。 青磁皿			体部1/2欠
93-1	磁器	肥前。内面兔文。高台内に1重圏線あり。			体部1/2欠

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
93-2	磁器	染付皿	肥前。胎土は灰白色。内面扇面文。外面虫食い顕著。	1/3
93-3	磁器	染付皿	肥前。口縁部輪花状に型打。見込花文(墨弾きを使用)。高台内1重圏線内に角福銘。見込不定方向の擦痕顕著。陽刻部擦れているのが顕著。	体部上半1/4欠
[37-9a.b]	磁器	染付鉢	肥前。内面笹文。全面に貫入する。体部外面の高台部際カンナケズリ痕。	体部1/3欠
93-4	磁器	染付鉢	肥前。葉の形に型打成形。貼付高台。見込草花文。他に同一文様・器形の	完形
[38-1a.b]	磁器	染付皿	もの3個体あり。	
94	磁器	染付皿	肥前。口唇部輪花状に型打。ハリ支え痕。見込花鳥文。体部外面松竹梅文。体部1/6欠	
口絵4-1a.b	磁器	染付鉢	高台内1重圏線内に角福銘。427号遺構・包含層と接合。	
95	磁器	染付皿	肥前。胎土は灰白色。口縁部内面唐草文。内面山水文。釉は生がけで、外面白濁。全面に貫入する。	1/2
96-1	磁器	染付皿	肥前。胎土は灰白色。口縁部内面唐草文、体部内面草花文。釉は生がけで、全面に貫入する。	1/3
96-2	磁器	染付皿	肥前。胎土は灰白色。口縁部内面窓絵葉(紅葉?)文、体部内面山水文。釉は生がけで、ほぼ全面に貫入する。見込不定方向の、体部内面下半回	2/3
[42-2a.b]	磁器	染付皿	ような擦痕顕著。見込擦れている部分あり。	
97-1	磁器	染付皿	肥前。胎土は灰白色。口縁部内面唐草文、体部内面蛸文。3片はおそらく同一個体と思われる破片。	体部1/3
97-2	磁器	染付皿	肥前。胎土は灰白色。口縁部内面唐草文、体部内面山水文。釉は生がけで、全面白濁。	2/3
98-1	磁器	染付皿	肥前。胎土は灰白色。見込草花文、体部内面四方襷文。釉は生がけで、内面貫入する。体部外面白濁。見込不定方向の擦痕あり。	体部1/2欠
98-2	磁器	染付皿	肥前。胎土は灰白色。口縁部内面菊唐草文、見込笹文。釉は生がけで、体部外面下半白濁。679号遺構・包含層と接合。	体部1/6欠
99-1	磁器	染付皿	肥前。胎土は灰白色。体部内面花唐草文、見込山水文。釉は生がけで全面に貫入する。外面白濁部分あり。体部内面下半回のような擦痕顕著。他に同一文様・器形のもの1個体あり。	体部1/4欠
[42-1a.b]	磁器	染付皿	肥前。胎土は灰白色。体部内面窓絵宝尽し文?, 見込山水文。釉は生がけで、全面に貫入する。見込不定方向の擦痕あり。	2/3
99-2	磁器	染付皿	肥前。胎土は灰白色。口縁部内面唐草文、体部内面山水文。釉は生がけで、全面に貫入する。見込不定方向の擦痕あり。	
100-1	磁器	染付皿	肥前。胎土は灰白色。口縁部内面唐草文、体部内面山水文。釉は生がけで、全面に貫入する。見込不定方向の擦痕あり。	体部1/4
100-2	磁器	染付皿	肥前。胎土は灰白色。口縁部内面唐草文、体部内面山水文。釉は生がけで、全面に貫入する。見込不定方向の擦痕あり。	
101	磁器	染付皿	肥前。胎土は灰白色。口縁部内面唐草文、体部内面山水文。釉は生がけで、全面に貫入する。見込不定方向の擦痕あり。	
[42-3a.b]	磁器	染付皿	肥前。胎土は灰白色。口縁部内面唐草文、体部内面山水文。釉は生がけで、全面に貫入する。見込不定方向の擦痕あり。	
102-1	磁器	染付皿	肥前。胎土は灰白色。口縁部内面唐草文、体部内面山水文。釉は生がけで、全面に貫入する。見込不定方向の擦痕あり。	
102-2	磁器	染付皿	肥前。胎土は灰白色。口縁部内面唐草文、体部内面山水文。釉は生がけで、全面に貫入する。見込不定方向の擦痕あり。	
103-1	磁器	染付皿	肥前。胎土は灰白色。口縁部内面唐草文、体部内面山水文。釉は生がけで、全面に貫入する。見込不定方向の擦痕あり。	
103-2	磁器	染付皿	肥前。胎土は灰白色。口縁部内面唐草文、体部内面山水文。釉は生がけで、全面に貫入する。見込不定方向の擦痕あり。	

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特 徴	徴	残存部位
		染付皿	いる部分顕著。高台内回るような擦痕顕著。		
104-1 [41-4a.b]	磁器		肥前。ハリ支え痕。内面芙蓉手山水文。体部外面朝顔文。体部外面貫入		体部と底部
104-2 [42-2a.b]	磁器		る。高台内1重圏線内に銘あり。見込不定方向の擦痕あり。		3/4
	青磁染付皿		肥前。蛇ノ目高台。見込印版文、体部内面へラ彫堅筋文。畳付を除く全面		体部1/2欠
105-1	磁器		青磁釉（明緑灰色）。全面に貫入する。		
105-1	青磁皿		肥前。体部内面線彫で花卉状。内外面青磁釉（水色）。		体部1/6
105-2	磁器		肥前。ハリ支え痕。見込草花文。高台内1重圏線内に銘あり。		1/4
105-3 [44-8]	磁器		肥前。脚台部下半から底部無釉。体部外面山水文（呉須の発色白っぽい）、		体部3/4欠
105-4	染付仏飯具		全面白濁。外面小さい虫食い顕著。		
105-4	磁器		肥前。体部外面折枝椿と虫文。体部外面虫食い顕著。		1/2
105-5	染付蓋				
105-5	磁器		肥前。体部外面ブドウ文。内面無釉。		ほぼ完形
105-6	染付蓋				
105-6	陶器		瀬戸・美濃。天目碗。胎土は白色で粗い。内面から体部外面鉄釉（暗褐色）。		体部上半3/4欠
105-7	碗		高台部周囲無釉。		
105-7	陶器		瀬戸・美濃。天目碗。胎土は灰白色で、粗い。内面から体部外面鉄釉（極暗褐色）。		体部2/3欠
105-8 [46-8]	碗		高台部周囲無釉。見込回るような擦痕顕著。体部内面下半は擦れて釉の光沢がなくなっている。		
105-8	陶器		瀬戸・美濃。胎土は白色、粗いが堅緻。白色。透明粗砂多く含む。内面から体部外面柿釉（褐色で厚くかかる）。高台部周囲無釉。		体部1/2欠
105-9 [45-10]	陶器		肥前。胎土はにぶい橙色で、緻密。内面から体部外面鉄釉（暗褐色）。高台部周囲無釉。		体部1/2欠
105-10	碗				
105-10	陶器		肥前。胎土は灰色で、均質。畳付を除く全面透明釉（オリーブ褐色）。全面に貫入する。		体部一部と底部全部
105-11	碗		肥前。体部外面中位に横位の沈線1条あり。胎土は浅黄色で、均質。体部外面下位に横位の鉄（黒褐色）の線が2条巡る。畳付を除く全面透明釉（にぶい橙色）。全面に貫入する。		体部一部底部全部
105-12 [45-11]	陶器		京焼風（肥前）。ロクロ水挽き成形の後、体部を変形させている。胎土は灰色、緻密で堅緻。粘土質で、白色粗砂を多量に含む。内面から体部外面灰釉？（黄褐色が混在、また緑灰色の部分もあり）。高台部周囲鉄釉（赤褐色）。		体部1/3
口絵9-4	碗				
106-1 [51-5a.b]	陶器		京焼系。胎土は灰白色、緻密で均質。体部外面葉文（葉は灰青色の呉須、葉脈は黒色の鉄）。内面から体部外面灰釉（灰白色）。高台部周囲無釉。高台内に刻印「清閑寺」。563号遺構・包含層と接合。		体部下半3/4
106-1	鉢				
106-2	陶器		肥前。胎土は暗オリーブ灰色、緻密で均質。内面象眼（白泥を埋め込む）の後、畳付を除く全面透明釉。		体部1/2欠
106-3	碗				
106-3	陶器		京焼風（肥前）。胎土は灰白色、緻密で均質。体部外面呉須（灰青色）で楼閣山水文。内面から体部外面灰釉（黄灰色）。釉隙には炎色（橙色）出る。全面に貫入する。高台部周囲無釉。高台内に刻印「清水」。高台内中央に円圈（直径2cm）あり。		体部上半1/2欠
106-4	陶器		瀬戸・美濃。胎土は灰白色。見込鉄（褐色）で笹文。全面長石釉（貫入する）。見込・高台内目痕あり（1箇所残存）。		1/3
106-5	皿				
106-5	陶器		瀬戸・美濃。削り出し高台。胎土は灰白色で、かなり粗い。内面から体部		体部一部欠

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
106-6	陶 皿	器	外面上半長石釉系（灰白色）。見込蛇ノ目状に釉ふきとり。 瀬戸・美濃。見込に突帯巡る。胎土は灰白色で、かなり粗い。白色粗砂を多く含む。内面から体部外面上半長石釉系（灰白色）。見込突帯部は釉ふきとり。体部外面下半から高台部無釉。	1/3
106-7	陶 皿	器	瀬戸・美濃。見込に突帯巡る。胎土は淡黄色で、かなり粗い。内面から体部外面柿釉（褐色）。見込突帯部周囲は釉ふきとり。高台内無釉。突帯部に重ね焼きの痕あり。	1/3
106-8	陶 皿	器	瀬戸・美濃。見込に突帯巡る。胎土は白色で、かなり粗い。内面から体部外面柿釉（褐色）。見込突帯部は釉ふきとり。高台部周囲無釉。	体部2/3欠
106-9	陶 皿	器	瀬戸・美濃。見込に突帯巡る。胎土は灰白色で、かなり粗い。内面から体部上半柿釉（褐色）。見込突帯部周囲は釉ふきとり。体部外面下半から高台部無釉。	1/2
106-10	陶 皿	器	肥前。胎土は灰色、緻密で堅緻。粘土質。内面から体部外面上半灰釉（灰白色）。釉際には炎色（赤褐色）出る。見込に目痕あり（3箇所残存）。包含層と接合。	1/3
106-11 (48-4)	陶 香 炉	器	瀬戸・美濃、胎土は浅黄色で、粗い。内面から体部外面灰釉（灰白色）。ただし内面はうすい。底部外面周囲無釉。見込に輪状（直径5.4cm）の窯道具痕あり。口唇部磨滅している部分あり。	1/2
106-12	陶 播 鉢	器	越前？ ロクロ輪積成形。体部外面横位の強いロクロナデ。播目7本1単位。胎土は灰色の緻密な粘土質で、白色粗砂を多く含む。	体部片
106-13	陶 播 鉢	器	越前？ ロクロ輪積成形。体部外面横位のロクロナデ。播目6本1単位。胎土は灰白色の緻密な粘土質で、白色粗砂を多く含む。	体部片
107-1	陶 播 鉢	器	生産地不明。ロクロ輪積成形。体部外面不定方向の雑なナデ。播目4本1単位。胎土は橙色の緻密な粘土質で、白色・透明粗砂を大量に、礫（3～4mm大）を多く含む。内面自然釉が斑状にかかる。体部外面に墨書あり。内面擦れている。	体部片
107-2 (56-1a.b)	陶 播 鉢	器	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部外面横位の雑なナデ（指頭痕残る）。播目4本1単位。胎土は褐灰色で、白色・透明粗砂を大量に、白色粗砂を多く含む。内外面銹釉（暗赤色）。内面自然釉が斑状にかかる。	体部片
107-3	陶 播 鉢	器	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部外面横位の雑なナデ（指頭痕残る）。播目6本1単位。胎土は黒灰色で、白色・透明粗砂・礫（3mm大）を大量に含む。内面自然釉が斑状にかかる。	体部片
107-4	陶 播 鉢	器	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部外面横位の雑なナデ（指頭痕残る）。播目6本1単位。胎土は灰色で、白色・透明礫（1～3mm大）・礫（3～4mm大）を大量に含む。第107図5と同一個体。	体部片
107-5	陶 播 鉢	器	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部外面横位の雑なナデ。播目6本1単位。胎土は灰色で、白色・透明礫（1～3mm大）・礫（2～3mm大）を大量に含む。第107図4と同一個体。	体部上半1/3
108-1	陶 播 鉢	器	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部外面横位の雑なナデ（指頭痕残る）。播目7本1単位。胎土は灰色で、白色・透明粗砂を大量に、礫（3～4mm大）を多く含む。内面自然釉が斑状にかかる。	体部片

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	徴	残存部位
108-2	陶 播	器 鉢	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部片 体部外面横位の雑なナデ（指頭痕残る）。播目7本1単位。胎土は灰色で、 白色・透明粗砂・礫（3mm大）を大量に含む。口唇部自然釉がかかり、内 外面斑状にかかる。		
108-3	陶 播	器 鉢	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部片 体部外面横位の雑なナデ（指頭痕残る）。播目5本1単位。胎土は灰色から にぶい褐色で、白色・透明粗砂・礫（3～4mm大）を大量に含む。口縁部 外面自然釉がかかる。		
108-4	陶 播	器 鉢	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部片 体部外内面横位の雑なナデ（指頭痕残る）。播目5本1単位。胎土は灰色 で、白色・赤色・透明粗砂、礫（3～4mm大）を大量に含む。内面自然釉 が斑状にかかる。		
109-1 (52-3a.b)	陶 播	器 鉢	越前？ ロクロ輪積成形。体部外面横位のロクロケズリ。播目7本1単位。体部1/3欠 胎土は浅黄橙色の緻密な粘土質で、白色粗砂を多く含む。体部内面下位に 輪状の目痕あり。		
109-2 (52-4a.b)	陶 播	器 鉢	生産地不明。ロクロ輪積成形。体部外面横位のロクロケズリ。播目5本1 単位。胎土は浅黄橙色の粉質で、白色・透明粗砂・礫（3～4mm大）を大 量に、赤色粗砂を含む。	1/5	
109-3 (53-4a.b)	陶 播	器 鉢	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。1/3 体部外面横位の雑なナデ（指頭痕残る）。播目6本1単位。体部内面下位に 目痕1箇所以上あり（この部分変色している）。胎土は橙色で、白色・透明 礫（1～3mm大）・礫（4～5mm大）を大量に含む。全面鉄釉（暗赤褐 色）。	1/3	
110-1	陶 播	器 鉢	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部1/4 体部外面横位の雑なナデ（指頭痕残る）。播目7本1単位。胎土は浅黄褐色 で、白色・透明礫（1～3mm大）を多く、赤色粗砂を含む。内面擦れている。		
110-2	陶 播	器 鉢	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。1/2 体部外面横位の雑なナデ（指頭痕残る）。播目7本1単位。体部内面下位に 目痕あり（4箇所残存。この部分変色している）。胎土は明灰褐色で、白色・ 透明粗砂・礫（4～5mm大）を大量に含む。口縁部外面自然釉がかかる。 内面擦れている。	1/2	
110-3 (54-1a.b)	陶 播	器 鉢	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部1/4欠 体部外面横位の雑なナデ（指頭痕残る）。播目5本1単位。体部外面下位に 目痕5箇所あり（この部分変色している）。胎土は灰色で、白色・透明粗砂 を多く含む。		
110-4	陶 播	器 鉢	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。底体部片 体部外面横位の雑なナデ（指頭痕残る）。播目5本1単位。体部内面下位に 目痕あり（2箇所残存。この部分変色している）。胎土は橙色で、白色・透 明粗砂を大量に、礫（4～5mm大）を大量に含む。		
111-1	陶 播	器 鉢	瀬戸・美濃。ロクロ水挽き成形。体部下半横位のロクロケズリ。底部糸切 り痕。播目9本1単位。体部内面下位に目痕あり（1箇所残存。この部分 釉ふきとり）。胎土は浅黄褐色。全面鉄釉（極暗褐色）。体部外面下位。底 部外面、体部内面下半釉ふきとり。内面擦れている。		体部片
111-2 (56-4a.b)	陶 播	器 鉢	瀬戸・美濃。ロクロ水挽き成形。体部下半横位のロクロケズリ。底部回転 糸切り痕。播目13本1単位。体部内面下位に目痕4箇所あり（この部分釉		ほぼ完形

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
			ふきとり。胎土は浅黄色。全面柿釉（暗褐色）。体部外面下位から底部外面釉ふきとり。体部内面下位布目痕がほぼ一周。内面擦れている。	
111-3	陶 播	器 鉢	瀬戸・美濃。ロクロ水挽き成形。体部下半横位のロクロケズリ。底部回転糸切り痕。播目20本1単位。胎土は淡黄色。内外面柿釉（暗赤褐色）。体部外面下半は釉ふきとり。内面擦れている。	体部片
111-4	陶 播	器 鉢	瀬戸・美濃。ロクロ水挽き成形。体部下半横位のロクロケズリ。底部回転糸切り痕。播目12本1単位。胎土は淡黄色。全面鉄釉（黒褐色）。底部外面周囲は釉ふきとり。焼成不良で釉の表面はザラザラで光沢がない。内面擦れている。	体部1/3欠
111-5	陶 播	器 鉢	瀬戸・美濃。ロクロ水挽き成形。体部下半横位のロクロケズリ。底部回転糸切り痕。播目12本1単位。体部内面下位に目痕4箇所あり。胎土は灰白色。全面鉄釉（暗褐色）。体部外面下位は釉ふきとり。内面擦れている。	体部1/2欠
111-6	陶 播	器 鉢	瀬戸・美濃。ロクロ水挽き成形。体部下半横位のロクロケズリ。底部回転糸切り痕。播目10本1単位。胎土は浅黄色。全面鉄釉（暗褐色）。体部外面下半から底部外面釉ふきとり。内面擦れている。	体部1/2欠
112-1 (50-3)	陶 壺	器	備前。二耳壺。耳は粘土紐を輪状に貼付。胴部上位は蛇腹状（浅い横位の沈線）。耳の下には突帯が巡る。胎土は黄灰色、粘土質で層状になっている。全面鉄釉（赤褐色）。刷毛目が残る。外面火襷。口唇部・肩部外面に刻印あり（右記）。 	1/3
112-2	土 焼塩壺・身	器	手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。粗砂を大量に含む。体部外面に刻印2重枠「天下一堺ミなど藤左衛門」。外面荒れている。	完形
112-3	土 焼塩壺・身	器	手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。粗砂を大量に赤色粗砂・赤色礫を多く含む。体部外面に刻印2重枠「天下一堺ミなど藤左衛門」。	1/2
112-4	土 焼塩壺・身	器	手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色の上白濁。粗砂を多く含む。体部外面に刻印2重枠「天下一堺ミなど藤左衛門」。	体部上半1/4欠
112-5	土 焼塩壺・身	器	手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で、内面・底部外面はピンク色。粗砂を大量に含む。体部外面に刻印2重枠「天下一堺ミなど藤左衛門」。	完形
112-6	土 焼塩壺・身	器	手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で、内面・底部外面はピンク色。粗砂・礫を多く含む。体部外面に刻印2重枠「天下一堺ミなど藤左衛門」。	底部1/2欠
112-7 (56-3a~d)	土 焼塩壺・身	器	手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は浅黄橙色で、内面・底部外面はピンク色。粗砂を多く含む。体部外面に刻印2重枠「天下一堺ミなど藤左衛門」。	ほぼ完形
112-8	土 焼塩壺・身	器	手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は黄橙色で、内面・底部外面はピンク色。粗砂を多く含む。体部外面に刻印2重枠「天下一堺ミなど藤左衛門」。	ほぼ完形
112-9	土 焼塩壺・身	器	手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で、内面・底部外面はピンク色。粗砂を大量に含む。体部外面に刻印2重枠「天下一堺ミなど藤左衛門」。口縁部磨滅している。	完形
112-10	土 焼塩壺・身	器	手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は黄橙色で、内面・底部外面はピンク色。粗砂を多く含む。体部外面に刻印2重枠「天下一堺ミなど	完形

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特	徴	残存部位
			藤左衛門」。		
112-11	土 器 焼塩壺・身		手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。粗砂・礫を多く含む。体部外面に刻印1重枠「 天下一 堺ミなと 藤左 衛門（上部欠損）」。		体部1/4欠
112-12	土 器 焼塩壺・身		手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。断面は縞状を呈し、粗砂・礫を多く含む。		体部1/3
113-1	土 器 焼塩壺・蓋		手づくね成形。胎土は橙色で、内面はピンク色。粗砂を多く含む。		体部1/4欠
113-2	土 器 焼塩壺・蓋		手づくね成形。胎土は橙色で、粗砂を多く含む。		体部1/3欠
113-3	土 器 焼塩壺・蓋		手づくね成形。胎土は浅黄橙色で、内面はピンク色。粗砂を多く含む。		1/2
113-4	土 器 焼塩壺・蓋		手づくね成形。胎土は浅黄橙色で、粗砂を多く含む。		1/2
113-5	土 器 焼塩壺・蓋		手づくね成形。胎土は淡橙色で、粗砂を多く含む。		完形
113-6	土 器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は浅黄橙色。		1/3
113-7	土 器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。器面荒れている。口唇部煤付着。		体部1/4欠
113-8	土 器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部内面煤付着。		完形
113-9	土 器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は浅黄橙色。底部焼成後穿孔。体部一部欠		
113-10	土 器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。		体部2/3欠
113-11	土 器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。		3/4
113-12	土 器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。内面剥落部分あり。口唇部煤付着。		ほぼ完形
113-13	土 器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。口唇部煤付着		体部1/4欠
113-14	土 器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。		1/2
113-15	土 器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部剥落部分多い。口唇部煤付着。		体部一部欠
113-16	土 器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。		1/2
113-17	土 器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り（2回）。胎土は浅黄橙色。口唇部・底部内外面煤付着。		体部2/3欠
113-18	土 器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。口唇部煤付着。		体部1/3欠
113-19	土 器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。口唇部煤付着。		口縁部一部欠
113-20	土 器		ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。		体部1/2欠

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
113-21	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。	ほぼ完形
113-22	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部静止糸切り。胎土は浅黄橙色。口唇部煤付着。	体部1/2欠
113-23	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は褐灰色。体部黒色処理。	2/3
113-24	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。器面荒れている。口唇部煤付着。	底部一部欠
113-25	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。	1/3
113-26	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。口唇部煤付着。	体部1/3欠
113-27	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。内面剥落。口唇部煤付着。	体部2/3欠
113-28	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り（2回）。胎土は橙色。口唇部煤付着。	1/2
113-29	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部特殊右回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	1/4
113-30	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部内面・外面荒れている。	体部一部欠
113-31	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。内面剥落部分あり。口唇部煤付着。	体部1/2欠
113-32	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	1/2
113-33	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。口唇部煤付着。	2/3
113-34	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。	体部1/2欠
113-35	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部特殊右回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	2/3
113-36	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は黒褐色。全面黒色処理。口唇部煤付着。	体部一部欠
113-37	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。器面大部分荒れている。口唇部煤付着。	1/3
113-38	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。体部外面下半から底部外面外周左回りのロクロケズリ。胎土は橙色。口唇部煤付着。	1/4
114-1	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。体部内面黒色処理。口唇部煤付着？	体部1/2欠
114-2	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。底部周囲手持ちケズリ。胎土は橙色。	1/6
114-3	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は浅黄橙色。体部外面に墨書あり。	完形
114-4	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。体部外面に墨書「てい」。	1/3

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特	徴	残存部位
114-5	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。体部外面に墨書「すい」。		1/3
114-6	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。体部外面に墨書「す」。		体部1/4欠
114-7	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書あり。完形		
114-8	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「六□□」。		体部1/4欠
114-9	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「す」。		ほぼ完形
114-10	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「め□（しかうカ）」。		体部一部欠
114-11	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。内面は左回りのロクロナデ。体部外面から底部外面右回りのロクロナデ。胎土断面は浅黄橙色，内面は灰黄褐色，外面は浅黄褐色。底部外面黒色処理。		体部3/4欠
114-12	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。内面左回りのロクロナデ。体部外面から底部外面右回りのロクロナデ。胎土はにぶい橙色。底部内外面黒色処理。		1/6
114-13	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。内面左回りのロクロナデ。体部外面から底部外面右回りのロクロナデ。胎土は浅黄橙色。底部内外面黒色処理。		底部全部と 体部一部
114-14	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。内面右回り（体部外面は左回りになる）のロクロナデ。底部外面周囲手持ちケズリ。胎土は灰白色。底部黒色処理？口唇部煤付着。		1/5
114-15	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。内面左回りのロクロナデ。内面と体部外面はロクロナデ，底部外面はケズリ（成形時の整形そのまま）。胎土は浅黄橙色。底部内外面黒色処理。		体部1/4
114-16	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。内面左回りのロクロナデ。体部外面から底部外面右回りのロクロナデ。胎土は浅黄橙色。底部内外面黒色処理。		1/6
114-17	土 耳かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。		体部1/2欠
114-18	土 かわらけ	器	手づくね成形。体部下半は指頭痕のまま。体部内面と体部外面上半はナデ。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。		体部1/4
114-19	土 かわらけ	器	手づくね成形。体部外面下半から底部は指頭痕のまま。内面と体部外面上半はナデ。底部外面は蓆状痕。胎土は浅黄橙色。内面に墨書あり。		1/4
115-1 (69-8)	土 蓋	器	土師質。ロクロ輪積成形。体部内面指による横位のナデ。体部外面木口状工具による横位のナデ。天井部外面蓆状痕。器面は褐灰色で，断面はにぶい橙色。内面煤付着。つまみ部から天井部外面銀彩。		ほぼ完形
115-2	土 火 鉢	器	瓦質。ロクロ輪積成形。体部内面横位のヘラナデ。口唇部ミガキ。体部外面横位の雑なミガキ。底部外面スグレ状痕。足（1個残存）は貼付。器面は外面褐灰色，内面にぶい橙色で，断面は褐灰色をにぶい橙色がサンドイッチ状に挟む。		1/3
115-3 (70-5)	土 火 鉢	器	瓦質。ロクロ輪積成形。体部内面横位のヘラナデ。口唇部ミガキ。体部外面横位の雑なミガキ。器面は褐灰色で，断面は褐灰色をにぶい橙色がサンドイッチ状に挟む。		1/3
115-4	土 火 鉢	器	瓦質。ロクロ輪積成形。口縁部内外面指による横位のナデ。胎土は灰色。		口縁部1/2
115-5	土 火 鉢	器	瓦質。ロクロ輪積成形。体部内面指による横位のナデ。体部外面ナデ。底		体部下半以

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
(72-1a.b)	火 鉢	鉢	部際横位のミガキに近い丁寧なナデ。足（3個のうち2個残存）は貼付。器面は灰色で、断面は灰色をにぶい褐色がサンドイッチ状に挟む。体部外面銀彩？	下2/3
115-6	土 火	器 鉢	瓦質。粘土板成形。体部内面コーナー部は指による縦位のナデ。下半部は横位のヘラナデ。口唇部・体部外面ミガキ。足（1個残存）は貼付。器面は浅黄橙色・灰褐色で、断面は黒灰色を灰白色がサンドイッチ状に挟む。	コーナー部 分片
115-7	土 火	器 鉢	瓦質。粘土板成形。体部内面コーナー部は指による縦位のナデ。下半部は横位のヘラナデ。口唇部・口縁部外面ミガキ。体部外面は未調整と思われる。足（1個残存）は貼付。器面は浅黄橙色・灰褐色で、断面は黒灰色を灰白色がサンドイッチ状に挟む。	コーナー部 分片
115-8	土 焙	器 烙	土師質。ロクロ紐作り成形。体部内外面横位のナデ。体部外面下位にケズリ痕が残る。内耳は円板状粘土を貼付。穴は棒状工具による左右からの刺突。底部外面ちぢれ目。底部内外面黒ずむ。	1/6
115-9 (67-1a.b)	土 焙	器 烙	土師質。ロクロ紐作り成形。体部内外面横位のナデ。体部外面下位にケズリ痕が残る。内耳は円板状粘土を貼付。穴は棒状工具による左右からの刺突。底部外面ちぢれ目。底部内外面黒ずむ。	体部1/2
116-1	舶載磁器 白 磁 碗		中国。釉は高台内虫食いあり。見込粗砂付着。	体部3/4欠
116-2 (76-7)	舶載磁器 染付+辰砂碗		中国。体部外面草花文（花は辰砂）。口禿	体部1/4
116-3	舶載磁器 染付小杯		中国。腰部に段あり。高台内1重圏線内に呉須で銘「大明□□化年製」。見込擦れている部分あり。	体部下半～ 底部1/3
116-4	舶載磁器 染付小杯		中国。内面捻花文。体部外面文様あり。高台内に銘「□明成□製」。	体部下半～ 底部1/3
116-5	舶載磁器 染 付 碗		中国。見込兔文。高台内2重圏線内に銘「大明□□」。	体部下半～ 底部1/4
116-6	舶載磁器 染 付 碗		中国。見込菊花文。外面虫食いあり。高台内銘あり。	底部3/4
116-7	舶載磁器 染 付 碗		中国。饅頭心。見込・体部外面人物文。外面青味がかかる。虫食いあり。高台内2重圏線内に銘「永保長春」。見込・体部外面不定方向の、体部内面横位の擦痕顕著。	体部下半～ 底部
116-8	舶載磁器 染 付 碗		中国。内面牡丹文。高台内に1重圏線あり。釉は外面青味がかかる。見込不定方向の擦痕あり。	底部1/2
116-9 (76-2a～c)	舶載磁器 染 付 碗		中国。見込花卉文・如意頭文。釉は青味がかかる。高台部外面カンナケズリ痕。見込不定方向の擦痕あり。高台内に1重圏線あり。270号遺構と接合。	底部全部と 体部の一部
116-10	舶載磁器 染 付 碗		中国。胎土は白色で、やや透明感あり。見込・体部外面文様あり。疊付・高台内の一部無釉。疊付粗砂付着。	底部1/2
116-11	舶載磁器 染 付 皿		中国。内面菊花文、体部外面草花文？ 高台部外面カンナケズリ痕。高台部粗砂付着。高台内回るような擦痕顕著。被熱。	底部1/5
116-12 (76-6)	舶載磁器 染 付 碗		中国。饅頭心。胎土は淡黄色。見込花卉文？ 体部外面変形唐草文（呉須は黒青色）。白濁釉で、小さい虫食い顕著。全面に貫入入る。疊付粗砂付着。	体部1/3欠
116-13 口絵7-2	舶載磁器 色 絵 皿		中国。見込丸文内に文様（赤・黄・緑・紫色）、地は七宝繫ぎ文（赤色）、体部内外面草花文（赤・緑・黄色）。高台内1重圏線内に銘あり。高台部粗砂付着。	底部1/8

捕図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特	徴	残存部位
116-14 口絵8-4	舶載磁器 紫 釉 皿		中国。疊付を除く全面紫釉。高台内カンナケズリ痕顕著。被熱により、釉の全面に貫入する。		底部1/6
116-15 [77-7]	舶載磁器 染 付 皿		中国。口銹。見込吹墨で鳥に梅樹文。高台内小さい虫食い顕著。重圈線内に銘「大 化 」。疊付粗砂付着。体部外面下半に横位の擦痕顕著。被熱。		1/3
116-16 口絵8-5	舶載磁器 色 絵 皿		中国。内面松文（輪郭は黒色、葉は緑色、幹は紫色、他に緑、黄、赤色）。疊付際粗砂付着。体部の高台部際カンナケズリ痕。包含層と接合。		底部1/3
116-17	舶載磁器 染 付 皿		中国。見込草文？ 高台内に1重圈線あり。		1/3
116-18	舶載磁器 色 絵 皿		中国。見込丸文（中は鳥文、輪郭は黒色、他に赤・緑色）、地は亀甲文（赤・黒・緑色）・七宝繋ぎ文（呉須）。高台部内面砂付着。		底部片
116-19	舶載磁器 染 付 碗		中国。口銹。体部内面吹墨で雲文（墨弾き）。		体部1/6
116-20	舶載磁器 白磁硯？		中国。胎土は灰白色で、やや透明感がある。上面・疊付無釉。被熱により溶着。上面はよく使われて滑らかになっている。		一部
116-21	舶載磁器 染 付 蓋		中国。黒色粗砂多く含む。体部外面文様あり。釉は厚く、ムラがある。面に貫入する。口縁部無釉。被熱により体部外面溶着。		全 1/6
116-22	舶載磁器 染付香合		中国。体部八角形に型打。体部外面区画割で斜格子文・四方禪文・渦卷文。底部外面無釉。被熱。		体部下半～ 底部1/4
116-23 [78-4a.b]	舶載磁器 色 絵 鉢		中国。緻密。内面梅樹に虫文（染付）、体部外面人物文（輪郭は黒色で、色絵は緑・黄色他）。高台内に2重圈線あり。被熱により、溶着物あり。色絵はほとんど変色。包含層と接合。		口縁部～底 部片
117-1	舶載磁器 白 磁 皿		中国。呉須手。胎土は灰白色で、やや透明感がある。文様は無文と思われる。高台内中心部は無釉（無釉部は褐色）。小さい虫食いあり。疊付粗砂少量付着するも、大部分は使用によりとれる。見込不定方向の、体部内面主に横位の擦痕、擦れている部分顕著。		口縁部～底 部片
117-2 [78-8a.b] 口絵8-8	舶載磁器 色 絵 皿		中国。青呉須。胎土は灰色で、やや透明感がある。見込竜文、体部内面魚・異形草花文（輪郭は黒色、水色で上絵付）。胎土の色が透けるため釉も灰色。高台内中央部無釉（無釉部褐色）。体部外面虫食い顕著。疊付付近粗砂付着。見込擦れている部分顕著。		1/3
117-3 [78-9a.b]	舶載磁器 色 絵 皿		中国。呉須赤絵。胎土は灰白色で、やや透明感がある。内面印版手仙境文（輪郭は黒色、印版は赤色、他に水色）。胎土の色が透けるため釉も明灰色。高台部・高台内、粗砂・礫（3mm大）多く付着。上絵付は変色して白くなったり、とれてしまっている部分多い。体部内外面横位の、見込不定方向の擦痕顕著。見込は擦れている部分あり。		1/5
118-1	舶載磁器 色 絵 皿		中国。胎土は灰色・橙色。見込の文様はほとんど消えている。体部内面草花文（色絵うすくなっている）？ どちらも黒・赤・水色で上絵付。釉は胎土の色が透けるため灰色。高台内無釉。体部外面虫食い顕著。疊付に粗砂付着するも、大部分はとれて滑らかになっている。内面は不定方向の擦痕・擦れている部分が顕著で、文様も消えている。		体部下半～ 底部2/3

第18表 255b号遺構出土陶磁器類観察表

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特	徴	残存部位
118-2 口絵7-9	舶載磁器 色 絵 蓋		中国。平面形は八角形。獣形のつまみがつくと思われる（足の部分のみ残存）。体部外面牡丹唐草文（花は赤色、唐草・輪郭は黒色、中は緑色）。かえり部虫食い顕著。		1/2
118-3	磁 器 染 付 皿		肥前。見込虫とブドウ文。全面に貫入する。見込不定方向の、高台内一定方向の擦痕顕著。見込は擦れている部分あり。		底部3/4
118-4	磁 器 白 磁 皿		肥前。口唇部輪花状に型打。体部内面陽刻で花卉文（6単位）。		1/3
118-5	磁 器 色絵小杯		肥前。見込析枝花文（葉・枝の輪郭は黒色、葉は緑色、花は赤色）。圏線は呉須。高台内に銘「大明成化年造」。		体部1/2欠
118-6	磁 器 染付小杯		肥前。体部外面花蝶文。高台内に銘「製」。		体部1/3欠
118-7	陶 器 皿		瀬戸・美濃。見込に凸帯巡る。胎土は淡黄色で粗い。内面から体部外面上半柿釉（褐色と黒色が混在）。見込の凸帯部周囲釉ふきとり、重ね焼きの痕（輪状）残る。		体部1/3欠
118-8	陶 器 皿		瀬戸・美濃。付高台（高台内には回るようなナデ痕が残る）。体部菊花状に型打。胎土は淡黄色で、かなり粗い。内面から体部外面上半灰釉（淡黄色）の後、口縁部緑釉。		体部1/4欠
118-9	土 器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。		1/2
118-10	土 器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。		1/4
118-11	土 器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土断面は黒褐色、器面はにぶい橙色。		体部1/2欠
118-12	土 器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。		体部1/2欠
118-13	土 器 焼塩壺・身		手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で、粗砂・礫を大量に含む。体部外面に刻印2重枠「天下一堺ミなと藤左衛門」。		ほぼ完形

第19表 802号遺構出土陶磁器類観察表

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特	徴	残存部位
119-1	磁 器 白 磁 碗		肥前。小さい虫食い顕著。		完形
119-2	磁 器 染 付 碗		肥前。体部外面草と鳥文。高台内に1重圏線あり。		1/2
119-3	磁 器 染 付 碗		肥前。体部外面一重網目文。釉は生がけ。全面に貫入する。高台内1重圏線内に銘あり。見込細かい擦痕あり。		体部1/4欠
119-4 (41-3a.b)	磁 器 染 付 皿		肥前。見込に渦巻あり。体部に外面から指で押したような窪みあり。内面草花文。高台内1重圏線内に角福銘。見込細かい不定方向の擦痕あり。		体部2/3欠
119-5	磁 器 染 付 皿		肥前。口縁部波状。内面松と家屋文。高台内1重圏線内に銘あり。見込不定方向の擦痕、擦れている部分あり。		1/3
119-6	磁 器		肥前。口銹。体部花卉状に型打（見込には布目痕残る）。胎土は灰白色。見		体部1/3欠

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特	徴	残存部位
[37-6a.b]	染付皿		込柳文（呉須の発色悪く黒色）。		
120-1	磁器		肥前。内面菊花散らし文。678号遺構と接合。		1/3
120-2	染付皿		肥前。見込草花文？、体部外面竹梅文。高台内に銘「 宣 」年製。		1/2
120-3	染付小杯		肥前。胴部外面松梅文。		胴部2/3欠
120-4	磁器		肥前。胎土は灰白色で、かなり粗い。内面から体部外面鉄		
120-5	染付瓶		中国。見込水鳥文。口禿。高台部粗砂付着。		体部2/3
120-6	胎載磁器		瀬戸・美濃。天目碗。胎土は灰白色で、かなり粗い。内面から体部外面鉄		2/3
120-7	染付皿		釉（黒・褐色混在）。高台部周囲無釉。口唇部磨滅。体部内面横位の細かい擦痕顕著。		
120-8	陶器		肥前。胎土は浅黄橙色で、均質。量付を除く全面灰釉？（にぶい赤褐色、半透明。部分的にうのふ釉のようにになっている）。全面に貫入入る。量付粗砂付着。見込不定方向の擦痕あり。		体部3/4欠
120-9	陶器		生産地不明。胎土は灰白色で、かなり粗い。白色粗砂・黒色粗砂を多く含む。量付を除く全面灰釉？（明緑灰色、不透明）。胎土中の黒色粗砂・白色粗砂が釉の表面で溶けて1cm大の黒色斑になる。高台部粗砂付着。		1/2
[45-12]	碗		瀬戸・美濃。底部はロクロケズリ。胎土は灰白色で、粗いが粘土質。外面鉄釉（黒色）の後、飴釉（暗黄褐色）がけ。底部外面周囲・内面無釉。		肩部以下1/3
口絵9-5	土器		手づくね成形（輪積み3段？）。胎土は浅黄橙色で、粉質。外面荒れている。		口縁部1/2欠
120-10	焼塩壺・身		体部内面布目痕。胎土は淡橙色、粉質で粗砂を含む。体部外面に刻印「イ		完形
120-11	焼塩壺・身		ツミツタ花塩壺」（陽刻）。		
[59-2a~d]	土器		体部内面布目痕。胎土は淡橙色、粉質で粗砂を含む。体部外面に刻印「イ		完形
121-1	焼塩壺・身		ツミツタ花塩壺」（陽刻）。		
121-2	土器		手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。断面は縞状を呈し、粗砂を多く含む。体部外面に刻印2重杵「天下一堺ミなと藤左衛門」。		1/2
121-3	焼塩壺・身		手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。断面は縞状を呈し、粗砂を多く含む。体部外面に刻印2重杵「天下一堺ミなと藤左衛門」。		ほぼ完形
121-4	土器		手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。粗砂・礫を多く含む。体部外面に刻印2重杵「天下一堺ミなと藤左衛門」。		完形
121-5	焼塩壺・身		手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。粗砂・礫を多く含む。体部外面に刻印2重杵「天下一堺ミなと藤左衛門」。		体部一部欠
121-6	土器		手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。粗砂・礫を多く含む。体部外面に刻印2重杵「天下一堺ミなと藤左衛門」。		口縁部1/2欠
[58-2a~d]	焼塩壺・身		手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。粗砂・礫を多く含む。体部外面に刻印2重杵「天下一堺ミなと藤左衛門」。		体部上半1/4欠
121-7	土器		手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク		体部1/3

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特 徴	残存部位
	焼塩壺・身	土 器	色。断面は縞状を呈し、粗砂を多く含む。体部外面に刻印2重枠「天下一 堺ミなと藤左衛門」。	
121—8	焼塩壺・身	土 器	手づくね成形(輪積み2段)。内面布目痕。胎土はにぶい橙色で、内面はピ ンク色。断面は縞状を呈し、粗砂を多く含む。体部外面に刻印2重枠「天 下一堺ミなと藤左衛門」(下部欠損)。	体部上半1/3
121—9	焼塩壺・蓋	土 器	手づくね成形。胎土は橙色で、内面はピンク色。粗砂・礫を多く含む。	1/4欠
121—10	焼塩壺・蓋	土 器	手づくね成形。胎土は橙色で、内面はピンク色。断面は縞状を呈し、粗砂・ 礫を多く含む。	ほぼ完形
121—11	焼塩壺・蓋	土 器	手づくね成形。胎土は橙色で、内面はピンク色。粗砂・礫を多く含む。	体部1/4欠
121—12	焼塩壺・蓋	土 器	手づくね成形。胎土は橙色で、内面はピンク色。断面は縞状を呈し、粗砂 を多く含む。	完形
121—13	焼塩壺・蓋	土 器	手づくね成形。胎土は橙色で、粗砂を多く赤色粗砂を含む。	1/4欠
121—14	焼塩壺・蓋	土 器	手づくね成形。胎土は橙色で、内面はピンク色。断面は縞状を呈し、粗砂 を大量に含む。	口縁部1/4欠
121—15	焼塩壺・蓋	土 器	手づくね成形。胎土は橙色で、内面はピンク色。粗砂・礫を大量に含む。	体部1/2欠
121—16	焼塩壺・蓋	土 器	手づくね成形。胎土は橙色で、内面はピンク色。粗砂・礫を大量に、赤色 粗砂を多く含む。	1/2
121—17	焼塩壺・蓋	土 器	手づくね成形。天井部内面中央部布目痕。胎土は橙色。断面は縞状を呈し、 粗砂を多く含む。	ほぼ完形
121—18	焼塩壺・蓋	土 器	手づくね成形。天井部内面中央部布目痕。胎土は橙色。断面は縞状を呈し、 粗砂を多く含む。	1/5欠
121—19	焼塩壺・蓋	土 器	手づくね成形。天井部内面中央部布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。 粗砂を多く含む。	1/3
121—20	焼塩壺・蓋	土 器	手づくね成形。胎土は橙色で、内面はピンク色。断面は縞状を呈し、粗砂・ 礫を多く含む。	1/3
121—21	焼塩壺・蓋	土 器	手づくね成形。胎土は橙色で内面はピンク色。断面は縞状を呈し、粗砂・ 礫を多く、赤色粗砂を含む。	口縁部1/4欠
121—22	焼塩壺・蓋	土 器	手づくね成形。胎土は橙色で、内面はピンク色。断面は縞状を呈し、粗砂 を多く含む。	1/2
121—23	焼塩壺・蓋	土 器	胎土はにぶい橙色。断面は縞状を呈し、粉質で粗砂を含む。天井部外面に 刻印「いつミヤ宗左衛門」(陽刻)。	1/4
[61—3]	焼塩壺・蓋	土 器	胎土は淡橙色で、粉質。	ほぼ完形
121—24	焼塩壺・蓋	土 器	胎土は淡橙色で、粉質。	
121—25	焼塩壺・壺	土 器	胎土は淡橙色で、粉質。	1/2
121—26	焼塩壺・蓋	土 器	胎土は淡橙色。断面は縞状を呈し、粉質。	ほぼ完形
[61—7]	焼塩壺・蓋	土 器	胎土は浅黄橙色で、粉質。	口縁部1/2欠
121—27	焼塩壺・蓋	土 器	胎土は浅黄橙色で、粉質。	
122—1	かわらけ	土 器	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。	体部1/2欠

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
122-2	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/2欠
122-3	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。内面荒れている部分あり。口唇部煤付着。	体部2/3欠
122-4	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	一部欠
122-5	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。外面荒れている。口唇部煤付着。	体部一部欠
122-6	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	体部一部欠
122-7	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	1/2
122-8	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	完形
122-9	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	1/2
122-10	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	体部1/4欠
122-11	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。内面の大部分荒れている。口唇部煤付着。	体部一部欠
122-12	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	1/2
122-13	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	1/2
122-14	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。体部内面荒れている部分あり。口唇部煤付着。	1/2
122-15	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。内外面大部分荒れている。口唇部煤付着。	体部1/3欠
122-16	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	1/2
122-17	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。底部外面に墨書あり。口唇部煤付着。	2/5
122-18	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。内面左回りのロクロナデ。体部外面から底部外面右回りのロクロケズリ。胎土は橙色。底部内外面黒色処理。	1/3
122-19	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。内面左回りのロクロナデ。体部外面から底部外面右回りのロクロナデ。胎土はにぶい橙色。底部内外面黒色処理。	1/4
122-20	陶 器	播鉢	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部片体部外面横位の雑なナデ（指頭痕残り）。撞目8本1単位。胎土は灰色で、白色・透明粗砂・礫（3～4mm）を多く含む。内面擦れている。	
122-21 (66-4a.b)	土 器	焙烙	土師質。ロクロ輪積成形。体部内外面横位のナデ。体部外面下半指痕が残る。体部外面の底部際横位の雑なミガキ。底部外面スグレ状痕。底部内外面黒ずむ。	1/4

第20表 276号遺構出土陶磁器類観察表

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特	徴	残存部位
123-1	磁器	肥前。体部外面花卉文（2単位）。 染付碗			完形
123-2	磁器	肥前。体部外面窓絵草花文（地文は赤色、花は赤色。他の輪郭は黒色で葉は黄色と緑色）。 色絵碗			1/5
123-3	磁器	肥前。体部外面草花文。高台内に銘「宣徳年製」。 染付碗			1/2
123-4	磁器	肥前。体部外面芙蓉手笹と草文。 染付碗			1/2
123-5	磁器	肥前。見込草文、体部外面草花文。見込の釉溜り部分に擦痕顕著。 染付碗			体部3/4欠
123-6	磁器	肥前。体部外面芙蓉手山水文。全面に貫入入る。高台内1重圏線内に銘「大染付碗 □」。			1/2
123-7	磁器	肥前。見込2重圏線内に草花文。体部外面瑠璃釉。 瑠璃釉染付碗			体部下半1/2
123-8	磁器	肥前。見込 体部外面草花文。見込体部外面、横位の不定方向の擦痕あり。 染付碗			3/4
123-9	磁器	肥前。体部外面ブドウと松文。 染付碗			体部一部欠
123-10	磁器	肥前。見込草文、体部外面梅樹と草文。高台内に銘「宣明年製」。包含層と接合。 染付碗			体部2/3欠
123-11	磁器	肥前。体部外面草花文。高台内に2重圏線あり。 染付碗			体部一部欠
123-12	磁器	肥前。体部外面草と貝文。高台内に2重圏線あり。 染付碗			体部1/4欠
123-13 (35-11)	磁器	肥前。体部外面網干文。高台内2重圏線内に銘「宣徳年製」。体部内外面横位の擦痕顕著。 染付碗			完形
124-1 (35-10)	磁器	肥前。体部外面梅に鶯文、（輪郭は黒色、梅花は赤・黄・青色、枝は青・緑色、葉は青・緑・黄色、鶯は青・緑色）。全面に細かい貫入入る。 色絵碗			体部1/2欠
口絵9-1					
124-2	磁器	肥前。体部外面松竹梅文。全面に貫入入る。高台内に銘「宣徳年製」。包含層と接合。 染付碗			体部1/4欠
124-3	磁器	肥前。体部外面網干文。高台内に銘「正？」。 染付小杯			体部4/5欠
124-4 (38-5a.b)	磁器	肥前。内面花鳥文。高台内1重圏線内に銘あり。 染付手塩皿			体部1/2欠
124-5	磁器	肥前。ハリ支え痕。家屋梅樹文？（墨弾き使用）。高台内に1重圏線あり。 染付皿			1/2
124-6	磁器	肥前。胎土は灰白色。見込草花文（呉須の発色悪く黒色）。 染付皿			体部2/3欠
124-7 (38-6a.b)	磁器	肥前。ハリ支え痕。見込唐花文、体部内面析枝花卉文。高台内1重圏線内に銘「宣徳年製」。 染付手塩皿			1/2
124-8	磁器	肥前。胎土は灰白色。内面草花文。高台内に2重圏線あり。 染付皿			2/3

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特	微	残存部位
124—9 [38—4a.b]	磁 器	肥前。口銹。体部は輪花状（10単位）に型打。見込木に鳥文。体部内面ダ ミ書きの中に草木文，体部外面区画割変形字文。高台内1重圈線内に銘「他 年製」。			体部1/4欠
124—10	磁 器	肥前。胎土は灰白色。見込藤花と蝶文。			1/2
124—11	磁 器	肥前。見込蛇ノ目釉ハギ。高台無釉。内面から体部外面青磁釉（明緑灰 色）。			体部1/4欠
125—1	磁 器	肥前。芙蓉手・宝尽し文？，体部外面蔓草文？ 釉は生がけ。包含層と接 合。			1/4
125—2	磁 器	肥前。胎土は灰白色。見込鳳凰文。			体部4/5欠
125—3 [38—3a.b]	磁 器	肥前。見込蛇ノ目釉ハギ。見込蝶文（輪郭は黒色，触角・脚は赤色，羽は 黄色）。体部内面釉ハギ部唐草文（文様は黒色，緑色で充填）。ブドウ文（輪 郭は黒色，蔓は赤色，葉は緑・黄色）で一部剥落あり。111号遺構と接合。			2/3
125—4 [40—2a.b]	磁 器	肥前。胎土は灰白色。口縁部内面斜線文（線は黒色，その上を黄色で充 填）。体部内面文様は不明（色絵は黒・黄色以外は剥落），体部外面雲気文 （黒で描き，その上を黄色で充填。黄色の剥落激しい）。写真40—1a.bは同一 個体と思われる。			口縁部片
125—5	磁 器	肥前。底部無釉。体部外面変形文字（3単位）。			体部1/2欠
125—6 [44—11]	磁 器	肥前。脚台部下半無釉。胎土は灰白色。体部外面縦線文。			体部1/4欠
125—7	磁 器	肥前。胎土は灰白色。胴部外面一重網目文。			体部下半3/4
125—8	船載磁器 染付小杯	中国。見込菊花文。高台内に銘「竹石居」。高台内カンナケズリ痕。			底部
125—9	船載磁器 染付皿	中国。見込草花文。体部内面窓絵花卉文，体部外面文様あり（2単位か3 単位）。口禿。高台内カンナケズリ痕顕著。高台部粗砂付着。見込不定方向 の擦痕あり。			1/2
126—1	陶 器	瀬戸・美濃。胎土は灰色で，粗砂を大量に含む。内面から体部外面柿釉（褐 色）の上に，鉄釉（黒色）流しがけ。高台部周囲無釉。			体部4/5欠
126—2 [46—1]	陶 器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で，かなり粗い。内面から体部外面灰釉（灰白 色）。高台部周囲無釉。			体部2/3欠
126—3	陶 器	肥前。胎土は淡黄色。畳付を除く全面透明釉。全面に貫入入る。畳付粗砂 付着。			体部1/3欠
126—4	陶 器	肥前。胎土は淡黄色で，粉質。畳付を除く全面透明釉。全面に貫入入る。			体部1/2欠
126—5	陶 器	肥前。胎土は淡黄色。畳付を除く全面透明釉。全面に貫入入る。畳付粗砂 付着。			体部2/3欠
126—6 [45—6]	陶 器	肥前。胎土は淡黄色。畳付を除く全面透明釉。体部外面釉ムラあり。全面 に貫入入る。見込不定方向の，体部外面横位の擦痕顕著。見込は擦れてい る部分顕著。			体部上半1/ 3欠
126—7	陶 器	瀬戸・美濃。天目碗。胎土は淡黄色で，かなり粗い。内面から体部外面柿 釉（あずき色，無光沢）。体部外面下位無釉。			体部2/3
126—8	陶 器	京焼風（肥前）。胎土は淡黄色で，緻密。体部外面鉄（黒色）で楼閣山水			1/3

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
126-9	陶 碗	器	文。内面から体部外面透明釉。全面に貫入入る。高台部周囲無釉。高台内に刻印「松」。高台内中央部に円圈（直径2.3cm）あり。264号遺構と接合。京焼系。体部に窪み1箇所以上あり。胎土は灰白色、緻密で堅緻。内面から体部外面鉄釉（黒褐色にしみ状の褐灰色の点が混在）？ 釉際には炎色（朱色）出る。高台部周囲無釉。高台内に刻印あり。	1/2
126-10 (45-1a.b)	陶 碗	器	京焼風（肥前）。胎土はにぶい淡黄色で緻密。体部外面呉須（灰青色）で桜閣山水文。内面から体部外面透明釉。全面に貫入入る。釉際には炎色（橙色）出る。高台部周囲無釉。高台内中央部に円圈（直径1.6cm）あり。	体部1/4欠
126-11	陶 碗	器	肥前。体部外面下位横位のケズリが顕著。胎土は淡黄色で粗く、粗砂を多く含む。重たい。内面から体部外面灰釉（明橙色、透明釉に近いものと思われる）。高台部周囲無釉。高台内に墨書「正」。	体部上半3/4欠
126-12	陶 碗	器	京焼風（肥前）。胎土はにぶい淡黄色で、緻密。体部外面灰釉（灰白色）。全面に貫入入る。釉際には炎色（橙色）出る。高台部周囲無釉。高台内に刻印「清水」。高台内中央部に円圈（直径2.1cm）あり。	底部1/3
126-13	陶 碗	器	京焼風（肥前）。胎土はにぶい淡黄色で緻密。内面・体部外面透明釉。全面に貫入入る。高台部周囲無釉。高台内に刻印「清水」。高台内中央部に円圈（直径2.8cm）あり。	底部1/2
126-14 (47-13)	陶 皿	器	瀬戸・美濃。削り出し高台。胎土はにぶい淡黄色～灰色。内面から体部外面上半灰釉（にぶい淡黄色）。釉際の一部に炎色（橙色）出る。体部外面下半から高台部無釉。見込に重ね焼きの痕あり。	完形
126-15	陶 皿	器	瀬戸・美濃。削り出し高台。胎土はにぶい淡黄色。緻密で重たい。内面から体部外面灰釉（にぶい淡黄色）。高台部周囲無釉。見込重ね焼きの痕あり。	体部一部欠
126-16	陶 皿	器	瀬戸・美濃。削り出し高台。胎土は淡黄色で重たい。内面から体部外面灰釉（灰白色）。高台部周囲無釉。見込中央に糸切り痕残る。見込重ね焼きの痕あり。	1/2
126-17	陶 皿	器	瀬戸・美濃。削り出し高台。胎土は淡黄色でかなり粗く、黒色粗砂を多く含む。内面から体部外面長石釉系（淡黄色）。見込蛇ノ目状に釉ふきとり。高台部周囲無釉。	1/3
126-18	陶 皿	器	瀬戸・美濃。削り出し高台。見込中央部に小さな段が巡る。胎土は白色で、かなり粗い。内面から体部外面長石釉系（白色）。見込蛇ノ目状に釉ふきとり。高台部周囲無釉。	1/2
126-19	陶 皿	器	瀬戸・美濃。削り出し高台。見込中央部に小さな段が巡る。胎土は白色で、かなり粗い。内面から体部外面上半長石釉系（白色）。見込蛇ノ目状に釉ふきとり。体部外面下半から高台内無釉。	1/3
126-20	陶 皿	器	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、かなり粗い。内面鉄（黒褐色）で、笹文。全面長石釉（白濁）、見込・高台内に目痕あり（1箇所残存）。	1/2
126-21 (47-8)	陶 皿	器	瀬戸・美濃。削り出し高台。胎土は白色で、かなり粗い。全面灰釉（白色）。見込・高台内に目痕3箇所ずつあり。	体部1/2欠
126-22 (47-4)	陶 皿	器	瀬戸・美濃。削り出し高台。体部菊花状に型打（口縁部内面に布目痕残る）。胎土はにぶい淡黄色で、かなり粗い。内面から体部外面灰釉（にぶい淡黄色）。高台部周囲無釉。見込目痕3箇所あり。	体部1/2欠
126-23	陶 皿	器	肥前。胎土は灰白色。全面透明釉の後、内面は緑釉（青色）流しがけ。見込・畳付に砂目痕4箇所ずつあり。見込不定方向の擦痕顕著。	体部上半1/3
127-1	陶 器	器	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部上半1/	

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特 徴	残存部位
[54-3a.b]	播	鉢	体部外面横位の雑なナデ(指頭痕残る)。播目7本1単位。体部内面下位に目痕2箇所以上あり。胎土は灰色で、白色・透明粗砂を多く含む。全面錆釉(暗赤褐色)。内面擦れている。	6欠
127-2	陶 播	器 鉢	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。底体部片体部外面横位の雑なナデ(指頭痕残る)。播目7本1単位。体部内面下位に目痕あり(1箇所残存。この部分変色している)。胎土は灰色・橙色で、白色・透明粗砂・礫(3~4mm大)を大量に含む。内面自然釉が斑状にかかる。内面擦れている。	
127-3	陶 播	器 鉢	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部片体部外面横位の雑なナデ。播目7本1単位。胎土は灰色で、白色・透明粗砂・礫(3~4mm大)を大量に含む。内外面錆釉(にぶい赤褐色)。内面自然釉が斑状にかかる。	
127-4	陶 播	器 鉢	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部片体部外面横位の雑なナデ。播目7本1単位。胎土は灰色で、白色・透明礫(1~3mm大)・礫(3~4mm大)を大量に含む。内外面柿釉(赤褐色)。口縁部外面自然釉がかかり、体部外面は斑状。内面擦れている。	
127-5	陶 播	器 鉢	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部片体部外面横位の雑なナデ。播目9本1単位。胎土は淡黄色で、透明粗砂を多く、赤色粗砂を含む。内外面錆釉(内面褐色・外面暗赤褐色)。	
127-6	陶 播	器 鉢	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部片体部外面横位の雑なナデ。播目6本1単位。胎土は灰色で、白色・透明粗砂を多く含む。	
127-7	陶 播	器 鉢	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部片体部外面横位の雑なナデ。播目7本1単位。胎土は明赤褐色で白色・透明粗砂・礫(3~4mm大)を大量に含む。内外面錆釉(暗赤褐色)。	
128-1	陶 皿	器	肥前。胎土は灰白色。内面・体部外面透明釉(外面の一部白濁)。量付から高台内無釉。見込砂目痕5箇所あり。	体部下半~ 高台部首部
128-2	陶 徳 利	器	志戸呂。胎土は暗赤褐色で、緻密。外面飴釉(黒褐色)。	
128-3	陶 片 口	器	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、粗い。内面から体部外面柿釉(赤褐色と黒色が斑状)。高台部・内面無釉。	一部欠
128-4	土 器	手づくね成形(輪積み2段)。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。粗砂を大量に含む。体部外面に刻印1重枠「天下一堺ミなど藤左衛門」。外面荒れている。	ほぼ完形	
[58-4a~d]	焼塩壺・身	土 器	手づくね成形(輪積み2段)。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。断面は縞状を呈し、粗砂・礫を大量に含む。体部外面に刻印2重枠「天下一堺ミなど藤左衛門」。	ほぼ完形
128-5	土 器	手づくね成形(輪積み2段)。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。粗砂・礫を大量に、赤色粗砂を含む。体部外面に刻印2重枠「天下一堺ミなど藤左衛門」(下部欠損)。	体部上半1/2	
128-6	土 器	手づくね成形(輪積み2段)。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。粗砂・礫を大量に、赤色粗砂を含む。体部外面に刻印2重枠「天下一堺ミなど藤左衛門」(下部欠損)。	体部上半1/2	
128-7	土 器	手づくね成形(輪積み2段)。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。粗砂・礫を大量に、赤色粗砂を含む。体部外面に刻印2重枠「天下一堺ミなど藤左衛門」(下部欠損)。	体部上半1/2	
128-8	土 器	手づくね成形(輪積み2段)。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。断面は縞状を呈し、粗砂・礫を大量に、赤色粗砂を多く含む。	1/2	

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
128-9	土 器 焼塩壺・身	手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。断面は縞状を呈し、粗砂を大量に、赤色粗砂を多く含む。外面荒れている。	1/2	
128-10	土 器 焼塩壺・身	手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。断面は縞状を呈し、粗砂・礫を大量に含む。	体部1/2欠	
128-11 〔60-5〕	土 器 焼塩壺・身	手づくね成形。胎土は浅黄橙色で、粉質。	完形	
128-12	土 器 焼塩壺・蓋	手づくね成形。胎土は橙色で、内面はピンク色。断面は縞状を呈し、粗砂を多く、赤色粗砂を含む。	ほぼ完形	
128-13	土 器 焼塩壺・蓋	手づくね成形。胎土は橙色で、内面はピンク色。断面は縞状を呈し、粗砂を多く含む	ほぼ完形	
128-14	土 器 焼塩壺・蓋	手づくね成形。胎土は橙色で、粗砂を大量に赤色粗砂を多く含む	完形	
128-15	土 器 かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。	完形	
128-16 〔62-11〕	土 器 かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。	完形	
128-17	土 器 かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい黄橙色。	体部一部欠	
128-18	土 器 かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	ほぼ完形	
128-19	土 器 かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	体部1/4欠	
128-20	土 器 かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。体部外面荒れている部分あり。口唇部煤付着（一部）。	完形	
128-21	土 器 かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着（1/4）。	底部一部欠	
128-22	土 器 かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。底部焼成後穿孔。	ほぼ完形	
128-23	土 器 かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切りの後、蓆状痕。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/3欠	
128-24	土 器 かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	体部1/3欠	
128-25	土 器 かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	ほぼ完形	
128-26	土 器 かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	体部1/2欠	
128-27	土 器 かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい黄橙色。	体部1/4欠	
128-28	土 器 かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	1/3	
128-29	土 器 かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/6欠	
128-30	土 器 かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。	1/2	

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特	徴	残存部位
128—31	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい黄橙色。内外面半分は黒色。口唇部煤付着（1/2）。	完形	
128—32	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土断面は黒褐色，器面は黒褐色・にぶい橙色。全面黒色処理？ 内面剥落部分多い。口唇部煤付着。	体部1/3欠	
128—33	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は褐灰色。全面黒色処理。口唇部煤付着。	体部1/3欠	
128—34	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい黄橙色。	1/3	
128—35	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。	1/2	
128—36	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部一部欠	
128—37	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。3/4		
128—38	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。	体部1/6欠	
128—39	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。一部灰褐色。体内面一部黒色。口唇部煤付着。	体部1/4欠	
128—40	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/3	
129—1	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。体部2/3欠		
129—2	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。2/3		
129—3	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	2/3	
129—4	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/2欠	
129—5	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。内面剥落部分多い。口唇部煤付着（全周）。	完形	
129—6 [62—12]	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	ほぼ完形	
129—7	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着（全周）。	完形	
129—8	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	1/3	
129—9	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。体部一部欠		
129—10	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。剥落部分あり。体部1/3欠		
129—11	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。内部斑状に煤付着？	体部1/3欠	
129—12	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	一部欠	
129—13	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色，一部褐灰色。	体部1/4欠	

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
		かわらけ	体部内面一部黒色。口唇部煤付着。	
129—14	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。底部内面剥落。口唇部煤付着。	1/3
129—15	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	ほぼ完形
129—16	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	1/2
129—17	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面剥落部分あり。口唇部煤付着。	体部1/3欠
129—18	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/4欠
129—19	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/4欠
129—20	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は黒褐色。全面黒色処理。口唇部煤付着。	体部1/2欠
129—21	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部特殊左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。底体部内外面に斑状の黒色付着物（煤？）あり。口唇部煤付着。	体部1/2欠
129—22	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	完形
129—23	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切りの後、席状痕。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	体部一部欠
129—24	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/2欠
129—25	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は黒褐色。全面黒色処理。口唇部煤付着	2/3
129—26	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	1/2
129—27	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/3欠
129—28	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	1/2
129—29	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。外面灰褐色。内面の一部に煤付着？	1/2
129—30	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。断面灰褐色。器面はにぶい橙色。全面黒色処理？	体部2/3欠
129—31	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。一部に煤付着（あるいは黒色処理？）。	体部1/3
129—32	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部内面浅黄橙色。	体部2/3欠
129—33 〔62—13〕	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は黒色、一部にぶい黄橙色。ほぼ全面黒色。口唇部煤付着。	体部1/6欠
129—34	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	体部1/2欠
129—35	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	1/2

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特 徴	残存部位
129-36	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	体部1/2欠
129-37	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	体部一部欠
129-38	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部2/3欠
129-39	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部外面剥落部分あり。口唇部煤付着。	体部1/4欠
129-40	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部内面の一部煤付着。	体部3/5欠
129-41	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。体部内外面煤付着。	2/3
129-42	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。底部外面に墨書「二」。	体部1/4欠
129-43	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。底部外面に墨書「二」。	体部1/2欠
130-1 [66-5a.b]	土 器	焙 烙	土師質。ロクロ紐作り成形。体部内外面横位のナデ。内耳は団子状粘土の貼付か、円板状粘土の貼付か不明。穴は棒状工具による左右からの刺突。底部外面ちぢれ目。体部内面下半黒ずむ。外面全面煤付着。	底部欠
130-2 [67-2a.b]	土 器	焙 烙	土師質。ロクロ紐作り成形。体部内外面横位のナデ。体部外面下位にケズリ痕が残る。底部外面ちぢれ目。底部内外面黒ずむ。	底部1/2欠
130-3	土 器	焙 烙	土師質。ロクロ紐作り成形。体部内外面横位のナデ。体部外面下位ケズリ痕が残る。底部外面ちぢれ目。底部外面黒ずむ。	体部片
130-4	土 器	焙 烙	土師質。ロクロ紐作り成形。体部内外面横位のナデ。体部外面下位ケズリ痕が残る。底部外面ちぢれ目。内面黒ずむ部分あり。外面煤付着している部分あり。	体部片
130-5 [62-2]	土 器	瓦 灯・身	瓦質。ロクロ輪積成形（突起部は粘土板成形）。底部・体部・受け部・突起部・受皿部をそれぞれ接合。底部内面同心円状の、体部内外面・突起部横位のナデ。底部外面未調整？ 器面は灰褐色で、断面はにぶい橙色。体部・突起部外面銀彩？	完形
130-6	土 器	瓦 灯・身	瓦質。ロクロ輪積成形（突起部は板おこし成形）。底部・体部・受け部・突起部・受皿部をそれぞれ接合。底・体部内面指による雑なナデ。突起部外面・受け部横位のナデ。体部外面横位のミガキ、底部外面未調整？ スダレ状痕。器面は黒褐色で、断面にぶい橙色。体部外面銀彩？	体部1/5欠
130-7	土 器	瓦 灯・蓋？	瓦質。ロクロ輪積成形。体部中位に開口部あり（ごく一部が残存）。内面輪積みを指頭で整えた後、横位のナデ。天井部は輪積みをすぼめていって、最後に上方から塞ぐ。外面丁寧なミガキ、外面黒色（黒色処理）、内面灰褐色。断面も灰褐色。	天井部全部 と体部1/4
130-8	土 器	火 鉢	瓦質。ロクロ輪積成形。体部内面横位のヘラナデ。体部外面横位の雑なミガキ。底部外面スダレ状痕？ 器面は灰褐色で、断面はにぶい橙色。口唇部・体部外面銀彩？ 口唇部内側煤付着。	体部1/4
130-9	土 器	火 鉢	瓦質。ロクロ輪積成形。体部内面横位のヘラナデ。口唇部・体部内面横位の丁寧なミガキ。底部外面スダレ状痕？ 足（1個残存）は貼付。器面は灰褐色で、断面はにぶい橙色。	1/6
130-10	土 器		瓦質。ロクロ輪積成形。体部内面横位のヘラナデ。口唇部・体部外面横位	体部1/3

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
	火	鉢	の丁寧なミガキ。口唇内側の突出部は貼付。底部外面ちぢれ目？ スグレ？ 状痕。器面は黒褐色で、断面は灰褐色。口唇部・体部外面銀彩。	
130-11 〔70-4〕	土 火	器 鉢	瓦質。ロクロ輪積成形。体部内面横位のヘラナデ。口唇部・体部外面横位 の丁寧なミガキ。底部外面ちぢれ目。足（1個残存，2個は痕跡）は貼付。 胎土は灰褐色。口唇部・体部外面銀彩。	体部1/4欠
131-1	土 壺	器	土師質。ロクロ輪積成形。体部内面横位の雑なナデ。口縁部・体部外面横 位の丁寧なナデ。口縁部外面から内面黒褐色，体部外面橙色，断面は橙色。 口唇部煤付着。	口縁部一部
131-2	土 焔 炉 ？	器	土師質。ロクロ輪積成形。体部内面横位のヘラナデ。口縁部は横位の丁寧 なミガキ。胎土は灰褐色。514号遺構と接合。	口縁部一部
131-3	土 火	器 鉢	瓦質。ロクロ輪積成形。底部周囲は粘土を足して厚くしている。体部内面 横位のヘラナデ。体部外面櫛歯状工具による縦位の条線。底部外面ちぢれ 目。器面は黒褐色で，断面はにぶい橙色。	体部下半一 部
131-4	土 火	器 鉢	瓦質。粘土板成形。体部内面指による横位のナデ。口唇部雑なミガキ。体 部外面器面があまり乾燥していない状態でのナデ（あるいは未調整？）。体 部外面の底部際横位の強いナデで面取り。底部外面スグレ状痕？ 蓆状痕？ 足（1個残存）は貼付。器面は黒褐色で，断面はにぶい橙色。	コーナー部 分片
131-5 〔71-3a.b〕	土 火	器 鉢	瓦質。粘土板成形。体部内面横位のヘラナデ。口唇部はミガキ。体部外面 横位の丁寧なミガキ。底部外面蓆状痕・板状痕。足は4個で貼付。器面は 灰褐色からにぶい橙色で，断面はにぶい黄橙色。口唇部・体部外面銀彩？	一部欠

第21表 252号遺構出土陶磁器類観察表

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
132-1	磁 染 付 碗	器	肥前。体部外面草に水鳥文。高台内に1重圈線あり。被熱。	体部1/4欠
132-2	磁 染 付 碗	器	肥前。体部外面水鳥に草花文。高台内に1重圈線あり。被熱により溶着。 また溶着物あり。他に同一文様・器形のもの1個体あり。	2/3
132-3	磁 白 磁 碗	器	肥前。口銹。被熱。	体部1/3
132-4	磁 白 磁 碗	器	肥前。全面に細かい貫入が入る。見込不定方向の擦痕顕著。被熱。他に同 一器形の個体あり。	1/3
132-5	磁 染 付 碗	器	肥前。体部外面一重網目文。高台内に1重圈線あり。	体部2/3
132-6	磁 白 磁 碗	器	肥前。口銹。被熱。	体部1/2
132-7	磁 染付小杯	器	肥前。口銹。体部外面花虫文。被熱。他に同一文様・器形もの1個体あり。	体部1/5欠
132-8	磁 白 磁 蓋	器	肥前。口銹	体部2/3欠
132-9	磁 白 磁 蓋	器	肥前。	体部1/2欠
132-10 〔44-3〕	磁 青磁香炉	器	肥前。体部外面から体部内面上位青磁釉（明緑色）。被熱。	1/3

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特	徴	残存部位
132—11	磁 器	肥前。体部外面花唐草文。被熱。			2/3
132—12	磁 器	肥前。体部外面花唐草文。被熱。			1/2
132—13	磁 器	肥前。体部外面花鳥文。被熱。溶着物あり。			1/2
132—14	磁 器	体部外面岩に果実・虫文。高台内に1重圈線あり。被熱し、変形。溶着物あり。			2/3
132—15	磁 器	肥前。胴部外面草花文。被熱。包含層と接合。			口縁～胴部1/2欠
[43—9]	磁 器	肥前。胴部外面網干文。被熱し、溶着。604号遺構と接合			胴部下半1/2欠
133—1	磁 器	肥前。外面青磁釉（明緑色）。被熱。			胴部下半～ 底部1/2欠
133—2	磁 器	肥前。口縁部輪花状に型打。ハリ支え痕。被熱。他に同一器形あり。			1/2
133—3	磁 器	肥前。口縁部輪花状に型打。ハリ支え痕。全面青磁釉（水色）。被熱し、貫入する。畳付は溶着。他にも同一文様・器形の皿が重なった状態で溶着して出土（8個体以上）。			1/2
133—4	磁 器	肥前。ハリ支え痕。体部内面雷文・紅葉文，体部外面唐草文。高台内に1重圈線あり。被熱。他に同一文様・器形のもの1個体あり。			3/4
133—5	磁 器	肥前。口唇部輪花状に型打。見込折枝椿文。高台内に2重圈線あり。被熱。体部1/2欠			1/2
133—6	磁 器	肥前。口唇部輪花状に型打。見込折枝椿文。高台内に2重圈線あり。被熱。体部1/2欠			1/2
133—7	磁 器	肥前。口唇部輪花状に型打。見込折枝椿文。高台内に2重圈線あり。被熱。体部1/2欠			1/2
133—8	磁 器	肥前。口唇部輪花状に型打。見込折枝椿文。高台内に2重圈線あり。被熱。体部1/2欠			1/2
133—9	磁 器	肥前。口唇部輪花状に型打。見込折枝椿文。高台内に2重圈線あり。被熱。体部1/2欠			1/2
134—1	磁 器	肥前。口唇部輪花状に型打。見込折枝椿文。高台内に2重圈線あり。被熱。体部1/2欠			1/2
134—2	磁 器	肥前。口唇部輪花状に型打。見込折枝椿文。高台内に2重圈線あり。被熱。体部1/2欠			1/2
135—1	磁 器	肥前。口唇部輪花状に型打。見込折枝椿文。高台内に2重圈線あり。被熱。体部1/2欠			1/2
135—2	磁 器	肥前。口唇部輪花状に型打。見込折枝椿文。高台内に2重圈線あり。被熱。体部1/2欠			1/2
135—3	磁 器	肥前。口唇部輪花状に型打。見込折枝椿文。高台内に2重圈線あり。被熱。体部1/2欠			1/2
135—4	磁 器	肥前。口唇部輪花状に型打。見込折枝椿文。高台内に2重圈線あり。被熱。体部1/2欠			1/2

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特 徴	残存部位
135-5	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。被熱により、変色している可能性あり。	体部一部欠
135-6	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。被熱により、変色している可能性あり。	完形
135-7	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい黄橙色。被熱により、変色部分あり。	体部1/2欠
135-8	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。被熱により、変色している可能性あり。口唇部煤付着。	1/2
135-9	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部内面黒色。被熱により、変色部分あり。	体部1/2欠
135-10	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は明赤褐色。被熱により、変形。また変色の可能性あり。	体部1/5欠
135-11	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい赤褐色。被熱し、変形・溶着。変色の可能性あり。	体部2/3欠
136-1	陶 碗	器	京焼系。胎土は灰色。緻密で堅緻。内面から体部外面灰釉か透明釉に近いものをかけた後、内外面とも上半部は再度施釉(にぶい褐色)? 高台部周囲無釉。被熱。	1/3
136-2	陶 碗	器	肥前。胎土は淡黄色で、緻密。透明釉。畳付無釉。全面に貫入入る。	1/4
136-3	陶 碗	器	京焼系。胎土は明橙色～灰白色、緻密。体部内面に文様あり(鉄?)。内面から体部外面灰釉(灰白色)。全面に貫入入る。高台部無釉。見込に目痕3箇所あり。	1/2
136-4	陶 碗	器	京焼系。体部に窪み1箇所あり。胎土は灰白色。体部内面鉄(黒褐色)と呉須(灰青色)で草文? 体部内外面灰釉(灰白色)。全面に貫入入る。被熱により釉の一部溶着。	体部1/2
136-5	陶 香 炉	器	京焼風(肥前)。高台内に円圈(直径1.3cm)あり。胎土は灰白色(変色)。体部外面に文様あり。口縁部内面から体部外面透明釉(にぶい褐色)。体部内面・高台部周囲無釉。全面に貫入入る。高台内に刻印「雲」(右記)。被熱により全面変色。部分的に溶着、溶着物あり。	1/3
136-6 [47-14] 口絵9-6	陶 鉢	器	京焼系。六角形で、体部外面に透し(ハート形)2箇所あり。高台は蛇ノ目状で削り出し。胎土は灰褐色、緻密で堅緻。内面から体部外面透明釉に灰釉(黄褐色)流しがけ? 高台部周囲無釉。見込に小さい目痕4箇所あり。被熱により無釉部変色。釉溶着部分あり。他に同一器形2個体あり。包含層と接合。	体部一部欠
136-7 [48-7]	陶 香 炉	器	瀬戸・美濃。足は3個(2個残存)で貼付。胎土は灰白色で、かなり粗い。体部外面鉄(黒褐色)で草花文(型紙摺)。内面から体部外面灰釉(灰白色)。被熱により、溶着している部分あり。	体部1/2欠
136-8	陶 皿	器	肥前。見込蛇ノ目釉ハギ。胎土は灰白色で、粗砂を大量に含む。体部外面透明釉で、内面銅緑釉(変色して赤くなっている)。高台部周囲無釉。釉ハギ部・畳付部に砂目痕各4箇所ずつあり。被熱により胎土・釉とも変色、釉は溶着。	体部上半1/ 2欠
136-9	陶 皿	器	肥前。見込蛇ノ目釉ハギ。胎土は灰白色? で、粗砂を大量に含む。体部外面透明釉で、内面銅緑釉(変色して赤くなっている)。高台部周囲無釉。釉ハギ部・畳付部に砂目痕各1箇所ずつあり。被熱により胎土・釉とも変色、釉は溶着。	体部上半1/ 2欠

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特	徴	残存部位
136-10 (51-7)	陶 壺	器	肥前。胎土は灰色で、緻密。内面・胴部下半鉄釉（黒釉）で、口縁部内面から胴部上半透明釉（緑灰色）？あるいは緑釉の上から透明釉？被熱により変色、溶着部分あり。畳付周囲に粗砂付着。		1/3
136-11	陶 鉢	器	肥前。胎土は黒灰色・にぶい赤褐色（変色している可能性大きい）で、緻密。内面刷毛目。刷毛目の上に緑釉流しがけ、その後透明釉。体部外面下半から高台部無釉。見込・畳付に砂・胎土目痕各7箇所ずつあり。被熱により胎土・釉とも変色。釉は溶着、溶着物あり。		体部1/3欠
136-12	陶 壺	器	信楽。四耳壺。胎土は白色、緻密で堅緻。白色粗砂を多く含む。口縁部内面から外面飴釉（黒褐色から褐色）。		口縁～肩部 1/2
137-1	陶 皿	器	肥前。胎土は灰白色で、緻密。内面鉄（黒褐色）で草文？全面透明釉（灰白色）。見込に胎土目痕4箇所あり。被熱により胎土・釉とも変色、釉は溶着部分あり。		1/2
137-2 (57-2a.b)	陶 擂鉢	器	備前系（堺）。ロクロ輪積成形。全面横位のナデの後、擂目が施される。擂目12本1単位。被熱により変色。		体部片
137-3	陶 擂鉢	器	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部外面横位の雑なナデ。擂目5本1単位。胎土は灰色で、白色・透明粗砂を大量に含む。内面自然釉がかかる。被熱。		1/3
137-4	陶 擂鉢	器	瀬戸・美濃。ロクロ水挽き成形。体部外面下半横位のロクロケズリ。底部回転糸切り痕。擂目9本1単位。胎土は淡黄色。全面鉄釉（黒色）。体部外面下半釉ふきとり。見込際重ね焼きの痕あり。内外面擦れている。被熱。		体部3/4欠
137-5	陶 擂鉢	器	瀬戸・美濃。ロクロ水挽き成形。体部下半横位のロクロケズリ。底部回転糸切り痕。擂目9本1単位。胎土は灰白色。全面鉄釉（極暗褐色）。内面擦れている。被熱。		1/4

第22表 255a号遺構出土陶磁器類観察表

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特	徴	残存部位
138-1	磁 染付碗	器	肥前。体部外面松文。体部外面黄味がかる。高台内に2重圏線あり。		1/2
138-2	磁 染付碗	器	肥前。見込宝珠文、体部外面宝珠と鳳凰文。高台内に銘「宣明年製」。		1/2
138-3	磁 染付碗	器	肥前。体部外面草本文？（体部上半の呉須は流れている）高台内に銘「宣明年製」。見込不定方向の、体部内外面横位の擦痕顕著。		1/3
138-4	磁 染付碗	器	肥前。体部外面山水文？高台内に2重圏線あり。255号遺構出土。		2/5
138-5	磁 染付碗	器	肥前。体部外面一重網目文。全面に貫入入る。高台内銘あり。見込不定方向の、体部内外面横位の擦痕顕著。見込は擦れている部分あり。		1/3
138-6	磁 染付型打碗	器	肥前。見込に2重圏線あり。体部内面陽刻で桐の葉文、体部外面花卉文。		1/3
138-7	磁 染付小杯	器	肥前。体部外面山水文。		1/2
138-8	磁 染付小杯	器	肥前。体部外面花卉文。255号遺構出土。		1/2

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
138-9	磁器	肥前。見込・体部外面草文。 染付小杯		体部1/2と 高台部欠
138-10	磁器	肥前。体部内面陽刻で樹木文。包含層と接合。 白磁型打小杯		体部3/4欠
138-11	磁器	肥前。体部外面網干文。高台内銘あり。 染付小杯		体部1/2欠
138-12	磁器	肥前。高台内銘あり。 染付小杯		体部1/2欠
138-13	磁器	肥前。胎土は灰白色。内面山に柳文，体部外面唐草文？ 染付皿	高台内1重圈線 内に銘あり。見込に擦痕あり。	1/2
139-1	磁器	肥前。内面貝文（墨弾き使用），体部外面花卉文。高台内に1重圈線あり。 染付皿	見込不定方向の擦痕あり。	1/2
139-2	磁器	肥前。胎土は灰白色。見込草花文。見込擦れている部分あり。 染付皿		体部1/5欠
139-3	磁器	肥前。脚台部下半無釉。胎土は灰白色（焼成不良）。体部外面抽象文（呉須 [44-9] 染付仏飯具 の発色悪い）。		体部1/3欠
139-4	陶器	瀬戸・美濃。体部に窪み4箇所以上あり。胎土は淡黄色，粘土質で粗い。 碗	口縁部外面を除く外面錆釉（赤褐色，疊付ふきとり）の後，内面から口縁部外面灰釉（灰白色）。体部外面長石斑。疊付に刻印「 本山 」。見込に不定方向の擦痕あり。832号遺構・包含層と接合。	体部1/3欠
139-5	陶器	京焼風（肥前）。高台内中央部に円圈（直径1.5cm）あり。胎土はに 碗	ぶい淡黄色で，緻密。体部外面呉須（灰青色）で楼閣山水文。内面から体部外面透明釉。全面に貫入する。高台部周囲無釉。高台内に刻印「雲」（右記）。255・259号遺構と接合。	体部2/3欠
139-6	陶器	京焼風（肥前）。高台内中央部に円圈（直径1.1cm）あり。胎土は淡黄色で， 碗	緻密。体部外面鉄（黒色）で楼閣山水文。内面から体部外面透明釉。全面に貫入する。高台部周囲無釉。高台内に刻印「伊原」。264号遺構と接合。	1/3
139-7	陶器	京焼風（肥前）。高台内中央部に円圈（直径1.1cm）あり。胎土はにぶい淡 色絵碗	黄色で，緻密。体部外面鳥と草花文（鳥は輪郭黒色で，他は青色，雲は赤色，草は輪郭黒色で，花は赤色，葉は緑色，地面は青色）。内面から体部外面透明釉。全面に貫入する。高台部周囲無釉。釉際に炎色（橙色）出る。高台内に刻印「 松小 」。327号遺構と接合。	体部1/2欠
139-8	陶器	京焼風（肥前）。高台内中央部に円圈（直径2cm）あり。胎土はにぶい淡黄 碗	色で，緻密。体部外面に鉄（黒緑色）？で文様あり。内面から体部外面透明釉。全面に貫入する。高台部周囲無釉。高台内に刻印「清水」。244号遺構と接合。	体部3/4欠
139-9	陶器	肥前。胎土はにぶい赤褐色で，緻密。全面白泥で横位・回るような刷毛目 碗	の後，全面透明釉。体部外面霧状に白濁している部分あり。見込擦れている部分あり。	1/2
139-10	陶器	肥前。胎土は淡黄色で，緻密。疊付を除く全面透明釉。全面に貫入する。 碗	疊付に粗砂付着。表面無光沢（被熱によるものではないと思われる）。見込に不定方向の擦痕あり。	1/3
139-11	陶器	肥前。胎土は淡黄色。疊付を除く全面透明釉。全面に貫入する。見込に不 碗	定方向の擦痕あり。	体部3/4欠
139-12	陶器	肥前。胎土断面はにぶい淡黄色で，無釉部は赤褐色。胴部外面上半鉛釉（黒 碗		胴部下半？

挿図番号 (写真番号)	種器	別種	特	徴	残存部位
			壺?	褐色)で、胴部下半・内面無釉。胴部上位より欠いて、切り込みを2箇所 つくり、二次使用。胴部外面(施釉部分)は、不定方向の細かい擦痕顕著。 畳付周囲磨滅している。	
140-1 (48-5)	陶 香	器 炉	瀬戸・美濃。足は3個(1個残存)?	胎土は灰白色、粘土質で重い。内面 から体部外面灰釉(にぶい淡黄色)。口唇部釉ふきとり。見込に目痕あり(1 箇所残存)。	1/2
140-2 (48-8)	陶 片	器 口	瀬戸・美濃。削り出し高台。胎土断面は灰白色。無釉部は褐色で、粗い。	胴部2/3欠 体部外面柿釉(褐色と黒色が斑状)。口唇部釉ふきとり。内面無釉。	
140-3	陶 徳	器 利	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。外面灰釉(灰白色)の上に、緑釉斑、	肩部以下 肩部うのふ釉がけ。底部周囲釉ふきとり。底部外面に墨書あり。	
140-4	陶 蓋	器	瀬戸・美濃。底部回転糸切り痕。胎土は灰色で、無釉部は赤褐色。上面鉄 釉(黒色、部分的に褐色)。下半部無釉。口縁部下半に輪状(直径8.2cm) の目痕あり。	口縁部一部 欠	
140-5	陶 徳	器 利	瀬戸・美濃。胎土は灰白色。緻密で粘土質。外面飴釉(黄褐色)に、うの ふ釉がけ。	首部と肩部 1/2	
140-6	陶 器種不明	器	瀬戸・美濃。袋物。底部回転糸切り痕。胎土断面淡黄色で、無釉部は褐色。胴部下半 胴部上半柿釉(褐色と黒色が点状に混在)。胴部下半から底部外面無釉。内 面に鉄釉(黒褐色)かかる。底部外面磨滅。	胴部下半	
140-7	陶 皿	器	瀬戸・美濃。見込に突帯巡る。胎土は淡黄色で、かなり粗い。粗砂・礫(3 mm大)を多く含む。内面から体部外面柿釉(褐色)。見込の突帯部周囲釉ふ きとり。	体部3/4欠	
140-8	陶 皿	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色。畳付を除く全面灰釉(灰白色)。見込・畳付内 側に目痕各3箇所ずつあり。見込擦れている部分顕著。255号遺構出土。	体部1/6と 底部全部	
140-9	陶 皿	器	肥前。見込蛇ノ目釉ハギ。胎土は灰白色で、緻密。透明釉(明緑灰色)の 後に、体部内面緑釉(緑釉と透明釉が混ざってうのふ釉のようになってい る)。高台部周囲無釉。見込釉ハギ部・畳付に砂目痕4箇所ずつあり。見込 に不定方向の細かい擦痕顕著。255号遺構出土。	体部3/4欠	
140-10	陶 皿	器	肥前。見込蛇ノ目釉ハギ。胎土は灰白色で、緻密。透明釉(明緑灰色)の 後、体部内面緑釉(青緑色)。高台部周囲無釉。見込擦痕・擦れている部分 顕著。	体部1/5欠	
140-11	陶 鉢	器	肥前。胎土にぶい黒褐色。体部内面白泥の刷毛目の後、鉄釉(黒褐色)・緑 釉流しがけ。体部外面上半透明釉(黒褐色)。	体部2/3	
140-12	土 焙	器 烙	土師質。ロクロ紐作り成形。体部内外面横位のナデ。内耳は団子状粘土の 貼付か、円板状粘土の貼付か不明。穴は棒状工具による左右からの刺突。 底部外面ちぢれ目。255号遺構出土。	体部片	
140-13	土 焙	器 烙	土師質。ロクロ紐作り成形。体部内外面横位のナデ。内耳は円板状粘土を 貼付。穴は棒状工具による左右からの刺突。底部外面ちぢれ目。外面黒ず む(体部より底部の方が黒い)。	体部1/3	
140-14	土 焙	器 烙	土師質。ロクロ紐作り成形。体部内外面横位のナデ。体部外面下位にケズ リ痕が残る。内耳は円板状粘土を貼付。穴は棒状工具による左右からの刺 突。底部外面ちぢれ目。外面(特に底部)・底部内面黒ずむ。また煤ける。	体部1/2	
140-15	土 火	器 鉢	土師質。ロクロ輪積成形。体部内面指による横位のナデ。体部外面器面の 荒れが著しい。足(1個残存)は貼付。胎土は橙色。口唇部内側磨滅。	1/3	
140-16	土 火	器 鉢	瓦質。ロクロ輪積成形。体部内面木口状工具による横位のナデ。口唇部ミ ガキ。体部外面丁寧な横位のミガキ。足(1個残存)は貼付。器面は灰褐	1/4	

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
			色からにぶい橙色で、断面は黒灰色が灰褐色をサンドイッチ状に挟む。口唇部内側磨滅。	
140—17	土 火	器 鉢	瓦質。ロクロ輪積成形。体部内面指による横位のナデ。口唇部ナデ。体部外面横位のナデ。器面の荒れ著しい。足（2個残存）は貼付。器面は灰色から黒色で、断面は黒灰色が灰褐色をサンドイッチ状に挟む。口唇部内側磨滅。内面煤付着。	1/3
140—18	土 壺	器	瓦質。ロクロ輪積成形。体部内面指による横位のナデ。体部外面ミガキの後、押圧文（円形文）を施す。口唇部ミガキ。口縁部外面横位のミガキ。器面は外面黒色（黒色処理）。内面黒灰色で、断面は黒灰色が灰褐色をサンドイッチ状に挟む。外面銀彩？	口縁～体部片
141—1	陶 擂	器 鉢	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部片体部外面横位の雑なナデ（指頭痕残る）。擂目6本1単位。胎土は灰色で、白色・透明礫（1～3mm大）・赤色粗砂を大量に含む。内面自然釉がかかる。	
141—2	陶 擂	器 鉢	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。底体部1/4体部外面横位の雑なナデ。擂目7本1単位。体部内面下位に目痕あり（2箇所残存。この部分変色している）。胎土は浅黄橙色で、白色・透明粗砂を含む。全面銹釉（赤褐色）。内面から体部外面上位自然釉が一面にかかる。内面擦れている。	
141—3	陶 擂	器 鉢	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。口縁部1/6体部外面横位の雑なナデ。擂目7本1単位。胎土は灰色で、白色・透明粗砂を大量に含む。体部内外面銹釉（にぶい赤褐色）。自然釉が斑状にかかる。	
141—4 (55—1a.b)	陶 擂	器 鉢	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部上位2/3体部外面横位の雑なナデ。擂目7本1単位。体部外面上半銹釉（暗褐色）。3欠体部内面下位に目痕5箇所あり（この部分変色している）。胎土はにぶい橙色から橙色で、白色・透明粗砂・礫（4～5mm大）を大量に含む。	
141—5 (55—3a.b)	陶 擂	器 鉢	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部一部欠体部外面横位の雑なナデ（指頭痕残る）。擂目8本1単位。胎土は灰色で、白色・透明粗砂・礫（1～4mm大）を大量に含む。体部外面自然釉が斑点状にかかる。内面擦れている。	
141—6	陶 擂	器 鉢	瀬戸・美濃。ロクロ水挽き成形。体部外面下半横位のロクロケズリ。底部回転糸切り痕。擂目14本1単位。胎土は浅黄橙色。全面柿釉（暗褐色）。体部外面下半から底部外面釉ふきとり。内面擦れている。	底部2/3と 体部の一部
141—7	陶 擂	器 鉢	瀬戸・美濃。ロクロ水挽き成形。体部外面下半横位のロクロケズリ。擂目16本1単位。胎土は浅黄橙色。内外面柿釉（褐色）。	体部片
142—1	舶載磁器 染付碗		中国。見込文様あり。高台内カンナケズリ痕。255号遺構出土。	底部
142—2	土 焼塩壺・身	器	手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。断面は縞状を呈し、粗砂を大量に含む。	体部1/3
142—3 (61—3a.b)	土 焼塩壺・蓋	器	胎土は浅黄橙色で、粗砂・赤色粗砂を含む。天井部外面に刻印「イツミ花焼塩ツタ」（陽刻）。	ほぼ完形
142—4	土 焼塩壺・蓋	器	手づくね成形。胎土は橙色で、内面はピンク色。断面は縞状を呈し、粗砂・赤色粗砂を多く含む。	ほぼ完形
142—5	土 焼塩壺・蓋	器	内面布目痕。胎土は橙色で粉質、赤色粗砂を多く含む。	3/5

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
142-6	土 焼塩壺・蓋	器	内面布目痕。胎土は浅黄橙色で、粗砂・赤色粗砂を多く含む。	完形
142-7	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。255号遺構出土。	体部1/3欠
142-8	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	1/2
142-9	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は黒褐色。全面黒色処理。口唇部煤付着。255号遺構出土。	体部一部欠
142-10	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。内面剥落部分多い。	体部1/4欠
142-11	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	体部一部欠
142-12	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部回転糸切り。胎土はにぶい橙色。器面荒れている。口唇部煤付着。	体部1/2
142-13	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。内外面とも荒れている部分多い。口唇部煤付着。	体部2/3欠
142-14	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。外面荒れている。口唇部煤付着。	体部1/2欠
142-15	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。荒れている部分多い。口唇部煤付着。	体部1/2欠
142-16	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。外面荒れている。口唇部煤付着。	体部1/2欠
142-17	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。荒れている部分多い。口唇部煤付着。255号遺構出土。	1/2
142-18	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/2欠
142-19	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/3欠
142-20	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着（全周）。	ほぼ完形
142-21	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	1/2
142-22	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部回転糸切りの後、蓆状痕が一部に残る。胎土は橙色。口唇部煤付着。	2/3
142-23	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	1/2
142-24	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい黄橙色。荒れている部分多い。口唇部煤付着。	1/2
142-25	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。剥落部分多い。口唇部煤付着。	一部欠
142-26	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は黒褐色。全面黒色処理。口唇部煤付着。	体部1/3
142-27	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	2/3
142-28	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。内面荒れている。口唇部煤付着。	体部3/4欠

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
142-29	土 器	かわらけ	唇部煤付着。255号遺構出土。 ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。器面荒れている。口	1/2
142-30	土 器	かわらけ	唇部煤付着。 ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。255号遺構出土。	1/2
142-31	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	1/3
142-32	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/2欠
142-33	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。内面左回りのロクロナデ。体部外面から底部外面は右	1/4
142-34	土 器	かわらけ	回りのロクロナデ。胎土はにぶい橙色。底部内面黒色処理。口唇部煤付着。	体部1/2欠
[82-8a.b]	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。底部外面の周囲左回りのロクロケ	体部1/2欠
142-35	土 器	かわらけ	ズリ。胎土は橙色で、緻密。内面赤彩。255号遺構出土。	体部1/3欠
142-36	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。	体部1/3
142-36	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	体部1/3

第23表 271号遺構出土陶磁器類観察表

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
143-1	磁 器	染付碗	肥前。体部外面草花文。高台内1重圏線内に銘「大明年製」。	体部一部欠
143-2	磁 器	染付碗	肥前。体部外面芋葉文。ほぼ全面に貫入入る。高台内1重圏線内に銘「大	ほぼ完形
143-3	磁 器	染付皿	明元年製」。全面に不定方向の擦痕あり。	
143-4	磁 器	染付碗	肥前。体部内面窓絵鳥文・笹文（3単位）、体部外面唐草文。外面貫入入る。高台内1重圏線内に銘「 <input type="text"/> 明 <input type="text"/> 製」。被熱。	1/3
143-5	磁 器	染付皿	肥前。体部外面草花文。高台内1重圏線内に銘「大明年製」。被熱し、貫入	完形
[39-5a.b]	磁 器	染付皿	入る。他に同一文様・器形のもの1個体あり（この口縁部が、体部外面に溶着している）。	
143-6	磁 器	青磁鉢	肥前。見込五弁花。体部内面区画割椿文・変形字文（4単位。型紙摺の中	一部欠
143-7	磁 器	色絵油壺	をダミを施す）、体部外面花唐草文（3単位。型紙摺の中をダミを施す）。高台内1重圏線内に銘「 <input type="text"/> 大明年製」。見込不定方向の擦痕あり。被熱。164・678号遺構と接合。	
143-8	磁 器	染付皿	肥前。蛇ノ目高台。畳付にチャツ痕あり。見込・体部内面線彫草文。畳付	ほぼ完形
144-1	磁 器	染付鉢	を除く全面青磁釉（水色）。全面に貫入入る。	
144-2	陶 器	碗	肥前。胎土は灰白色。外面圏線文。被熱。111号遺構・包含層と接合。	口縁部欠
144-3	磁 器	染付鉢	肥前。口縁部輪花状（8単位）に型打。体部内面岩と草文（3単位）。体部	1/2
144-4	磁 器	染付鉢	外面唐草文。高台内に1重圏線あり。被熱。内外面に付着物あり。	
144-5	磁 器	染付鉢	肥前。体部外面花（菊・牡丹）虫文。体部内外面に回るような擦痕顕著。	体部2/3
144-6	陶 器	碗	肥前。胎土はにぶい淡黄色で、粗い。畳付を除く全面透明釉。全面に貫入	1/3
144-7	陶 器	碗	入る。被熱により全面黒ずみ、溶着。	

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特	徴	残存部位
144-3 [46-2]	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。内面から体部外面灰釉（灰白色）。高台部周囲無釉。見込擦れている部分顕著。被熱により変色・溶着。		体部1/3欠
144-4	陶 皿	器	京焼風（肥前）。高台内中央部に円圈（直径1cm）あり。胎土はにぶい淡黄色で、緻密。内面鉄（黒褐色）で楼閣山水文。内面から体部外面透明釉。全面に貫入する。高台内に刻印「 <small>本</small> 下」。		体部上半3/4欠
144-5	陶 皿	器	京焼風（肥前）。高台内中央部に円圈（直径8mm）あり。胎土は淡黄色で、緻密。内面鉄（黒色）で楼閣山水文。内面から体部外面透明釉。全面に貫入する。高台部周囲無釉。高台内に刻印「 <small>本</small> 下」。		完形
144-6	陶 鉢	器	京焼風（肥前）。体部に窪み4箇所あり。高台内中央部に円圈（直径2cm）あり。胎土は褐灰色、緻密で堅緻。内面鉄（黒緑色）？で山水楼閣文。内面から体部外面透明釉。全面に貫入する。釉際に炎色（橙色）出る。高台内に墨書「山」。		体部上半1/4欠
144-7	陶 鉢	器	肥前。見込蛇ノ目釉ハギ。胎土はにぶい淡黄色で、緻密。体部外面透明釉の後、内面銅緑釉（緑色）。		口縁部一部欠
145-1	陶 壺	器	瀬戸・美濃。二耳壺。胎土はにぶい橙色で、粗い。口縁部内面から胴部外面にかかる釉は変色しており、何釉か不明。被熱により全面溶着・変色。溶着物あり。		1/3
145-2 [41-8]	陶 壺	器	志戸呂胎土は黒灰色で、緻密。口縁部内面から胴部外面上半鉛釉（黒褐色）。内面透明釉（緑灰色）？ 胴部外面下半錆釉？ 被熱により外面ほぼ全面溶着・変色。		胴部1/4欠
145-3 [48-9]	陶 片	器	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、粗い。内面灰釉（灰白色）。口縁部内面から体部外面鉄釉（黒色）。高台部周囲無釉。被熱によりほぼ全面溶着・変色。内面黒ずんでいる部分あり。		体部一部欠
145-4 [48-6]	陶 香	器	瀬戸・美濃。足は3個と思われる（1個残存）。胎土はにぶい淡黄色で、粗い。体部外面へう彫で半菊文。内面から体部外面鉛釉（黄褐色）。底部外面無釉。口唇部釉がはがれている部分あり。		1/3
145-5	陶 徳	器	備前。胎土は赤褐色、緻密で堅緻。底部外面に刻印あり（右記）。 見寺		胴部1/2欠
145-6	陶 徳	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。外面鉛釉（黒褐色）の後、首部から肩部にかけてうのふ釉がけ。高台部周囲釉ふきとり。被熱により施釉部溶着・変色部分多い。無釉部も変色？		胴部1/3欠
145-7	陶 徳	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色。外面鉛釉（黒褐色）の後、首部から肩部にかけてうのふ釉がけ。被熱。		胴部上半2/3
145-8	陶 搦	器	瀬戸・美濃。ロクロ水挽き成形。口縁部は内側に折返す。体部外面ロクロケズリ。底部外面静止糸切り痕。搦目は16本1単位。胎土は灰白色。全面錆釉（黒褐色）。被熱。		1/4

第24表 391号遺構出土陶磁器類観察表

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特	徴	残存部位
146-1	磁 染	器	肥前。体部外面アヤメ文。見込に放射状の擦痕あり。472号遺構と接合。		体部一部欠
146-2	磁 器	器	肥前。体部外面木橋と草文。高台内に銘「太明成化年製」。		ほぼ完形

插图番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
[35-12]	染付碗			
146-3	磁器	肥前。体部外面草花文。高台内に2重圏線あり。		2/3
	染付碗			
146-4	磁器	肥前。体部外面若杉文。高台内に2重圏線あり。		体部1/6欠
	染付碗			
146-5	磁器	肥前。体部外面に圏線のみ、高台内1重圏線内に銘「宣明年製」。体部内外		一部欠
	染付碗	面横位の擦痕あり。		
146-6	磁器	肥前。体部外面菊唐草文(3単位)。高台内に1重圏線あり。		体部1/4欠
[35-13]	染付碗			
146-7	磁器	肥前。畳付を除く全面錆釉(黄褐色・褐色が斑状)。		体部1/2欠
口絵9-3	錆釉碗			
146-8	磁器	肥前。体部外面草花文。		完形。
[36-17]	染付小杯			
146-9	磁器	肥前。体部外面山水文。		完形
[36-16]	染付小杯			
146-10	磁器	肥前。体部外面窓絵扇文・樹木文(2単位ずつ)。体部下半に貫入入。高		体部一部欠
	染付小杯	台内1重圏線内に角福銘。他に同一文様・器形のもの1個体あり。		
146-11	磁器	肥前。体部外面山水文。体部内面黄褐色の付着物あり。		完形
	染付小杯			
146-12	磁器	肥前。体部外面花文(呉須はにじんではいる?)。釉は黄味がかる。		体部2/3欠
	染付小杯			
146-13	磁器	肥前。内面のほぼ全面に褐色の付着物(鉄分?)あり。		体部3/4欠
	白磁小杯			
146-14	磁器	肥前。体部外面松葉と花卉文。		口縁部一部欠
	染付小杯			
146-15	磁器	肥前。口錆。口唇部輪花状(6単位)に型打。体部内面も陽刻文型打。見		体部1/2欠
[36-4]	染付鉢	込七宝文、口縁部内面七宝繋ぎ文、体部外面桐と雪輪文。外面は黄味がかる。高台内1重圏線内に渦福銘。474号遺構・包含層と接合。		
147-1	磁器	肥前。見込菊花文、体部外面松葉文(2単位)。高台内に1重圏線あり。見		完形
[38-8a.b]	染付皿	込不定方向の擦痕あり。		
147-2	磁器	肥前。胎土は灰白色。内面松葉と折紙文。高台内に1重圏線あり。		体部一部欠
	染付皿			
147-3	磁器	肥前。ハリ支え痕。胎土は灰白色。芙蓉手・見込花籠文(輪郭は黒色、赤・		体部一部欠
口絵2-1	色絵皿	緑・青色で上絵付)、体部外面唐草文(輪郭は黒色、緑色で上絵付)、高台部赤色の圏線。釉は生がけ。体部外面下半に回るようなカンナケズリ痕が残る。他に同一文様・器形のもの2個体あり。163号遺構と接合。		
147-4	磁器	肥前。内面型紙摺で草花文。高台内に2重圏線あり。		体部1/4欠
[38-7a.b]	染付手塩皿			
147-5	磁器	肥前。見込草花文、体部外面窓絵花卉文。見込不定方向の擦痕顕著。		体部2/3欠
	染付鉢			
148-1	磁器	肥前。見込草蝶文、体部内面松・梅樹と草文、体部外面花唐草文。全面に		体部1/3欠
	染付鉢	細かい貫入入る。高台内に銘「太明成化年製」。		
148-2	磁器	肥前。体部外面松に鳥文。全面に細かい貫入入る。		体部1/2欠
	染付蓋			
148-3	磁器	肥前。外面菊花・花卉文を型打の後薄瑠璃釉。		体部1/5

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特	徴	残存部位
			薄瑠璃釉蓋		
148—4 [44—2]	磁	器	肥前。蛇ノ目高台。高台無釉。体部外面から口縁部内面青磁釉（緑灰色）。		体部上半1/2 欠
148—5	磁	器	肥前。体部外面紅葉と樹木文。全面に貫入入る。第148図6と組。		ほぼ完形
148—6	磁	器	肥前。蛇ノ目高台（畳付のみ無釉）。体部外面紅葉と樹木文（2単位）。外		完形
148—7	土	器	手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク		完形
148—8	土	器	手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク		ほぼ完形
148—9	土	器	手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク		一部欠
148—10	土	器	手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク		ほぼ完形
148—11	土	器	手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク		1/2
148—12	土	器	手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で、粗砂を多く含		完形
148—13 [59—1a～d]	土	器	手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク		完形
148—14	土	器	手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク		ほぼ完形
149—1	土	器	手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク		体部上半1/2
149—2	土	器	板作り成形。体部内面縦位の縫目3本、また底体部際に横位の縫目あり。		体部1/2
149—3	土	器	板作り成形。体部内面縦位の縫目3本、また底体部際に横位の縫目あり。		ほぼ完形
149—4 [60—1a～d]	土	器	板作り成形。体部内面縦位の縫目3本、また底体部際に横位の縫目あり。		完形
149—5	土	器	板作り成形。体部内面縦位の縫目3本、また底体部際に横位の縫目あり。		ほぼ完形

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
			生」。	
149-6	土 焼塩壺・身	器	板作り成形。体部内面縦位の縫目3本、また底体部際に横位の縫目あり。胎土は淡橙色で、内面はピンク色。粗砂・赤色粗砂を多く含む。体部外面に刻印2重杵「泉州麻生」。体部外面荒れている。体部内面上半黒色付着物あり。	完形
149-7 (60-2a~d)	土 焼塩壺・身	器	板作り成形。体部内面下半縦位の縫目2本、また底体部際に横位の縫目あり。肩部には横位のケズリ。胎土は浅黄橙色で、粗砂を含み、赤色粗砂を多く含む。体部外面に刻印2重杵「泉州麻生」。	完形
149-8	土 焼塩壺・身	器	板作り成形。体部内面下半縦位の縫目2本、また底体部際に横位の縫目あり。肩部には横位のケズリ。胎土は淡橙色で、粗砂・赤色粗砂を多く含む。体部外面に刻印2重杵「泉州麻生」。	完形
149-9	土 焼塩壺・身	器	板作り成形。体部内面下半縦位の縫目2本、また底体部際に横位の縫目あり。肩部には横位のケズリ。胎土は浅黄橙色で、粗砂を多く、赤色粗砂を含む。体部外面に刻印2重杵「泉州麻生」。	完形
149-10	土 焼塩壺・身	器	板作り成形。体部内面下半縦位の縫目2本、また底体部際に横位の縫目あり。胎土は浅黄橙色。断面は縞状を呈し、粗砂・赤色粗砂を含む。体部外面に刻印2重杵「泉州麻生」。	完形
149-11	土 焼塩壺・身	器	板作り成形。体部内面縦位の縫目3本、また底体部際に横位の縫目あり。胎土は浅黄橙色で、粗砂・赤色粗砂を含む。	1/2
149-12	土 焼塩壺・身	器	板作り成形。体部内面縦位の縫目3本、また底体部際に横位の縫目あり。体部外面上位には工具による横位のクロコナデ。胎土は淡橙色で、底部内面はピンク色。粗砂・赤色粗砂を多く含む。	1/2
149-13	土 焼塩壺・蓋	器	手づくね成形。天井部内面中央部目痕。胎土は橙色で、粗砂を多く、赤色粗砂を含む。	1/2
149-14	土 焼塩壺・蓋	器	手づくね成形。天井部内面一部布目痕。胎土は橙色で、粗砂を多く、赤色粗砂を含む。	ほぼ完形
149-15	土 焼塩壺・蓋	器	手づくね成形。胎土は橙色で、粗砂を多く含む。	ほぼ完形
149-16	土 焼塩壺・蓋	器	手づくね成形。天井部内面一部布目痕。胎土は橙色。断面は縞状を呈し、粗砂を多く含む。	ほぼ完形
149-17 (61-5)	土 焼塩壺・蓋	器	内面布目痕。胎土は浅黄橙色で、粗砂を含む。	完形
149-18	土 焼塩壺・蓋	器	内面布目痕。胎土は淡橙色。断面は縞状を呈し、粗砂・赤色粗砂を含む。	体部1/2欠
149-19	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。被熱により変色。	ほぼ完形
149-20	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部特殊右回転糸切り。胎土は橙色。内面明赤褐色の付着物あり。	体部1/3欠
149-21	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/2欠
149-22	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	体部2/3欠
149-23	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/3欠
149-24	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部一部欠

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特 徴	残存部位
149—25	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/6欠
149—26	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	1/3
149—27	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/3欠
149—28	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は明褐色。口唇部煤付着。	体部一部欠
[62—14]	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部一部欠
149—29	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	2/3
149—30	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/2欠
149—31	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/3欠
149—32	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/3欠
149—33	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	完形
[62—15]	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/3欠
149—34	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。外側は黒色、内面はにぶい橙色。体部外面黒色処理。底部焼成後穿孔。	体部1/2欠
149—35	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	1/2
149—36	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/2欠
150—1	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着（全周）。	完形
150—2	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/4欠
150—3	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	3/4
150—4	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	1/2
150—5	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色で、表面は淡黄色。口唇部煤付着。体部外面荒れている。	一部欠
150—6	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部2/3欠
150—7	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	1/3
150—8	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	1/2
150—9	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	
150—10	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	

插图番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
			かわらけ	
150-11	土 器		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。口唇部煤付着。	1/2
			かわらけ	
150-12	土 器		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部一部欠
			かわらけ	
150-13	土 器		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	2/3
			かわらけ	
150-14	土 器		ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/6欠
			かわらけ	
150-15	土 器		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色で、表面は淡黄色。口唇部煤付着。	1/2
			かわらけ	
150-16	土 器		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	体部1/2欠
			かわらけ	
150-17	土 器		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色で、表面は淡黄色。口唇部煤付着。	2/3
			かわらけ	
150-18	土 器		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	体部1/3欠
			かわらけ	
150-19	土 器		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。底部周囲左回りの手持ちケズリ。胎土は橙色。	1/2
			かわらけ	
150-20	土 器		ロクロ水挽き成形。内面左回りのロクロナデ。体部外面から底部外面は右回りのロクロナデ。胎土はにぶい橙色。底部内外面黒色処理。	体部1/2欠
			かわらけ	
150-21	土 器		ロクロ水挽き成形。内面左回りのロクロナデ。体部外面から底部外面は右回りのロクロナデ。胎土はにぶい橙色。底部内外面黒色処理。	体部2/3欠
			かわらけ	
150-22	土 器		ロクロ水挽き成形。内面左回りのロクロナデ。体部外面から底部外面は右回りのロクロナデ。胎土は浅黄橙色。底部内外面黒色処理。口唇部煤付着。	2/3
[63-11ab]			かわらけ	
150-23	土 器		ロクロ水挽き成形。内面左回りのロクロナデ。体部外面から底部外面は右回りのロクロナデ。胎土はにぶい橙色。底部内外面黒色処理。口唇部煤付着。	体部1/2欠
			かわらけ	
150-24	土 器		ロクロ水挽き成形。内面底部と体部の境に沈線。底部ほぼ一定方向の手持ちケズリ。胎土は灰白色で、緻密。体部下半から底部内外面黒色処理。体部内面に墨書「八十六 廿四日 □ 十六廿五 五十六」。	2/3
[65-7a.b]			かわらけ	
150-25	土 器		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	体部1/2
			耳かわらけ	
150-26	舶載磁器		中国。体部外面草花文。	体部一部欠
			染付小杯	
151-1	陶 器		備前。胴部の窪みは4箇所。胎土は暗赤褐色、緻密で堅緻。断面は層状をなす。銹釉系（赤褐色）を刷毛塗（横位）。	口縁部4/5と 胴部一部欠
	徳 利			
151-2	陶 器		瀬戸・美濃。胎土はにぶい淡黄色で、粗い。外面柿釉（褐色に黒色が混在）。底部外面は釉ふきとり。	胴部下半
	徳 利			
151-3	陶 器		瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、粗い。内面柿釉（暗褐色）の上に灰釉（灰色）斑。外面無釉。底部回転糸切り痕。	完形
	蓋			
151-4	陶 器		備前。胎土は黒灰色、緻密で堅緻、重たい。外面鉄釉系（赤褐色）。口縁部外面には火襷き。	口縁～肩部 1/3
	徳 利			
151-5	陶 器		京焼風（肥前）。胎土はにぶい淡黄色で、緻密。体部外面鉄（黒褐色）で楼閣山水文。内面から体部外面透明釉（白濁部多い）。全面に貫入。高台部周囲無釉。高台部に刻印あり（右記）。高台内中央部に	体部1/2欠
	碗			

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特	徴	残存部位
151-6	陶 鉢	器	円圈（直径9mm）あり。 京焼風（肥前）。胎土はにぶい淡黄色，緻密で堅緻。内面呉須（灰青色）で 楼閣山水文。内面から体部外面透明釉。釉際には炎色（橙色）出る。全面 に貫入する。高台部周囲無釉。高台内に刻印「㊥義」。高台内中央部に円圈 （直径3.4cm）あり。		体部3/4欠
151-7	陶 播鉢	器	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部片 体部外面横位の雑なナデ（指頭痕残る）。播目6本1単位。胎土はにぶい橙 色で，白色・透明礫（1～3mm大）・礫（5mm大）を大量に含む。内面自然 釉が斑状にかかる。内面擦れている。		
151-8	陶 播鉢	器	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部片 体部外面横位の雑なナデ。播目5本1単位。胎土は灰色で，白色・透明粗 砂を大量に含む。内面自然釉が斑状にかかる。		
151-9 〔67-5a.b〕	土 焙	器 烙	土師質。ロクロ紐作り成形。体部内外面横位のナデ。体部外面下位にケズ り痕が残る。内耳は円板状粘土を貼付。穴は棒状工具による左右からの刺 突。底部外面ちぢれ目。底部内外面黒ずむ。体部外面煤付着。		1/2
151-10	土 焙	器 烙	土師質。ロクロ紐作り成形。体部内外面横位のナデ。内耳は円板状粘土を 貼付。穴は棒状工具による左右からの刺突。底部外面ちぢれ目。		体部片

第25表 395号遺構出土陶磁器類観察表

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特	徴	残存部位
152-1	陶 甕	器	肥前。胎土は黒灰色～褐灰色で緻密。体部外面白泥で刷毛目文様の後，緑 釉・飴釉流しがけ。		体部上半1/3
152-2	陶 碗	器	肥前。胎土は黒灰色で，緻密。内面三島手で印花文・波状文・丸文。全面 透明釉（オリブ褐色）。畳付粗砂付着。包含層と接合。		体部上半3/4 欠
152-3	陶 皿	器	瀬戸・美濃。削り出し高台。胎土は淡褐色で，粗い。内面から体部外面上 半灰釉（淡黄色）・高台部周囲無釉。見込に重ね焼きの痕あり。		完形
152-4 〔47-5〕	陶 皿	器	瀬戸・美濃。削り出し高台。体部菊花状に型打。内面に布目痕残る。胎土 は淡黄色で，かなり粗い。内面から体部外面上半灰釉（淡黄色）の後，体 部内面の一部緑釉がけ。高台部周囲無釉。見込に目痕3箇所あり。		体部1/2欠
152-5	陶 皿	器	肥前。見込蛇ノ目ハギ。胎土は灰白色。無釉部には黒色粗砂が多量に混在。体部一部欠 灰釉（緑灰色）の後，内面銅緑釉（緑青色）。高台部周囲無釉。見込・畳付 に砂目痕4箇所あり。		体部一部欠
152-6	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。		2/3
152-7	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部焼成後穿孔。		ほぼ完形
152-8	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。		ほぼ完形
152-9	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。		3/4
152-10	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。		ほぼ完形
152-11	土 器	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部焼成後穿孔。		3/4

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
152-12	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。	完形
152-13	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。	体部1/3欠
152-14	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部焼成後穿孔。	ほぼ完形
152-15	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土はにぶい橙色。	体部2/5欠
152-16	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	完形
152-17	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	体部1/3欠
152-18	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	一部欠
152-19	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	一部欠
152-20	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着（一部）。	完形
152-21	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	完形
152-22	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部焼成後穿孔。	ほぼ完形
152-23	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部焼成後穿孔。	ほぼ完形
152-24	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	底部一部欠
152-25	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部焼成後穿孔。底部内面の穿孔部周囲に煤付着。	体部一部欠
152-26	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	ほぼ完形
152-27	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	1/2
152-28	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。	ほぼ完形
152-29	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	完形
152-30	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	完形
152-31	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	体部一部欠
152-32	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	1/2
152-33	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	2/3

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特	微	残存部位
152—34	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。		ほぼ完形
	かわらけ				
152—35	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。		体部1/6欠
	かわらけ				
152—36	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。		1/2
	かわらけ				
152—37	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。		体部2/3欠
	かわらけ				
152—38	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。		体部2/3
	かわらけ				
152—39	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。		体部1/4欠
	かわらけ				
152—40	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。		体部1/2欠
	かわらけ				
152—41	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。		体部1/4欠
	かわらけ				
152—42	土	器	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。		ほぼ完形
	かわらけ				
152—43	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。		体部1/4欠
	かわらけ				
153—1	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。		体部一部欠
	かわらけ				
153—2	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。		体部一部欠
	かわらけ				
153—3	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。		2/3
	かわらけ				
153—4	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。		一部欠
	かわらけ				
153—5	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。		3/4
	かわらけ				
153—6	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着		体部1/4欠
	かわらけ				
153—7	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着(3/4)。		底部一部欠
	かわらけ				
153—8	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。		ほぼ完形
	かわらけ				
153—9	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部外面に墨書あり。体部1/4欠		
	かわらけ				
153—10	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部外面に墨書あり。底部1/2欠		
	かわらけ				
153—11	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部外面に墨書「廿		体部一部欠
	かわらけ		四日 廿日 廿三日」。		
153—12	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。底部外面に墨		1/3欠
	かわらけ		書「廿二日 日」。		
153—13	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「御		ほぼ完形

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特 徴	残存部位
		かわらけ	十三日」。	
153-14	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「御 廿三日」。	体部1/6欠
153-15	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書あり。体部1/4欠	
153-16	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書あり。体部一部欠	
153-17	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「□ (おか) てい□ めう□」。	体部1/3欠
153-18	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書あり。ほぼ完形	
153-19	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「て い□」。	ほぼ完形
153-20	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「八 □ (日カ)」。	体部1/4欠
153-21	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書あり。ほぼ完形	
153-22	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「□ □ (ほし印カ) □」。	ほぼ完形
153-23	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「□ 十日□」。	体部1/4欠
153-24	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面の2箇所に墨書あり。	2/3
153-25	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書あり。体部2/3欠	
153-26	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「□ □ (局カ) □」。	ほぼ完形
153-27 (64-5a.b)	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部外面に墨書「五 日 十八日 廿 (カ) 八日」。	完形
153-28	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部外面に墨書「御 廿二日」。	体部1/4欠
153-29	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部外面に墨書「御 五日」。	完形
153-30 (64-2a.b)	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部外面に「□ (おか) うかい」。	ほぼ完形
153-31	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部外面に墨書「九 日□ (十カ) □ □ (日カ) 廿三日」。	体部一部欠
153-32	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部外面に墨書「御 十二日」。	ほぼ完形
153-33	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部外面に墨書あり。ほぼ完形	
154-1 (64-1a.b)	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部外面に墨書「御 十五」。	体部1/6欠
154-2	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部外面に墨書あり「□ (御カ) □ (十カ) 一日」。	1/4欠

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
154-3	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部外面に墨書「十 かわらけ 八日」。	完形
154-4	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部外面に墨書「廿 かわらけ 五日 廿日 廿八日」。	体部1/6欠
154-5	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。底部外面に墨 かわらけ 書あり。	体部一部欠
154-6	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「廿 かわらけ □ 日」。	底部一部欠
154-7	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「御 かわらけ 十二日」。	完形
154-8	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「十 かわらけ 六日」。	完形
154-9	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「□ かわらけ 六日 □」。	1/3欠
154-10	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「□ かわらけ (こくカ) 印 □ (御カ) □」。	体部一部欠
154-11	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「十 かわらけ 一日」。	ほぼ完形
154-12	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「□ かわらけ (たカ) う □ □ 廿 □ (ハカ) 三 □」。	ほぼ完形
154-13	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「御 かわらけ 廿三日」。	完形
155-1	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「□ かわらけ ち □」。	完形
155-2	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「廿 かわらけ 三日」。	体部1/6欠
155-3	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「十 かわらけ 六 □ (日カ)」。	完形
155-4	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。体部外面に墨 かわらけ 書「ほうかい」。	ほぼ完形
155-5	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「五 (64-6a.b) かわらけ □ 五 □ 六 □ 廿 □ 廿一日」。	完形
155-6	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「□ かわらけ □ (局カ) 御けうい □」。	体部1/6欠
155-7	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「□ かわらけ ち □ □」。	完形
155-8	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「御 かわらけ 六(?)日」。	完形
155-9	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「こ かわらけ く印御(カ)局」。	完形
155-10	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「た かわらけ いは □」。	完形
155-11	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「御 かわらけ 五 □」。	体部一部欠
155-12	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「十 かわらけ	完形

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
156-1	土 器	かわらけ	六日」。	体部1/2欠
156-2	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「六日」。	1/3欠
156-3	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「十日十九日十日」。	体部1/4欠
(64-4a.b)	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「天□うい□□□□いの□」。	完形
156-4	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「三□」。	完形
156-5	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「こくしるし」。	ほぼ完形
(64-3a.b)	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「こくし」。	ほぼ完形
156-6	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「こくし」。	ほぼ完形
156-7	土 器	焙 烙	土師質。ロクロ紐作り成形。体部内外面横位のナデ。体部外面下位にケズリ痕が残る。底部外面ちぢれ目。底部内外面黒ずむ。	体部2/3欠
156-8	土 器	焙 烙	土師質。ロクロ紐作り成形。体部内外面横位のナデ。内耳は円板状粘土を貼付。穴は左右からの棒状工具による刺突。底部外面ちぢれ目。底部外面黒ずむ。	1/5

第26表 537号遺構出土陶磁器類観察表

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
157-1	磁 器	染 付 碗	肥前。体部外面型紙摺で桐文。見込不定方向の擦痕あり。	完形
(35-15)	磁 器	染 付 碗	肥前。体部外面草花文。	完形
157-2	磁 器	染 付 碗	肥前。胎土は灰白色。体部外面草花文。	1/2
(35-14)	磁 器	染 付 碗	肥前。体部内面桐文（輪郭黒色，他に赤・青・緑・橙色），体部外面流水に梅文（呉須）・桐文（輪郭黒色，他に赤・青・緑・橙色）。	ほぼ完形
157-3	磁 器	染 付 碗	肥前。体部外面人物山水文・花唐草文。体部内外面横位の擦痕あり。391号遺構・包含層と接合。	1/2
157-4	磁 器	染 付 小杯	肥前。体部外面草花と雪輪文（コンニャク版）。高台内に1重圏線あり。見込に褐色の付着物あり。	完形
(36-18)	磁 器	染 付 小杯	肥前。体部外面草花文。高台内に1重圏線あり。	完形
157-5	磁 器	染 付 小杯	肥前。体部外面若杉文（2単位）。高台内に1重圏線に銘「大明年製」。見込回るような擦痕顕著。	完形
157-6	磁 器	染 付 小杯	肥前。内面菊花文，体部外面紅葉文。高台内に2重圏線あり。他に同一文様・器形のもの2個体あり。	完形
157-7	磁 器	染 付 小杯	肥前。碗の蓋。体部外面桜花文（コンニャク版）。全面貫入入る。被熱。他に同一文様・器形のもの8個体あり。	完形
157-8	磁 器	色絵油壺	肥前。胎土は灰白色。胴部外面圏線文（赤色）。被熱し，色絵変色。	胴部一部欠
(43-4)	磁 器	色絵油壺		

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特 徴	残存部位
157-12	磁 色 絵 皿	器	肥前。口銹。ハリ支え痕。体部内面松葉・紅葉文（松葉は呉須と赤色、紅葉は呉須・緑・赤色）、体部外面唐草文。高台内に1重圏線内に銘あり。見込不定方向の、体部内外面横位の擦痕顕著。308号遺構・包含層と接合。	1/4
158-1	磁 染 付 皿	器	肥前。ハリ支え痕。見込五弁花、体部内面矢羽に丸文、体部外面唐草文。高台内に1重圏線あり。見込を除いて貫入する。被熱。	体部一部欠
158-2	磁 染 付 皿	器	肥前。ハリ支え痕。見込五弁花、体部内面矢羽に丸文、体部外面唐草文。高台内に1重圏線あり。被熱。他に同一文様・器形のもの8個体あり。	完形
(39-4a.b)	磁 染 付 皿	器	肥前。口銹。ハリ支え痕。見込鳥文、体部内面雲文（墨弾き）？高台内に1重圏線あり。見込不定方向の擦痕あり。他に同一文様・器形のもの12個体以上あり。	完形
158-3	磁 染 付 皿	器	肥前。ハリ支え痕（1個）。見込鳥文（コンニャク版）、体部内面雲文（墨弾き）？高台内に1重圏線あり。見込不定方向の擦痕あり。第158図4と同一器形だが、鳥の向きが逆。	完形
(38-9a.b)	磁 染 付 皿	器	肥前。口銹。口縁部は輪花状（8単位）に型打。見込五弁花、体部内面牡丹唐草文、体部外面唐草文。高台内1重圏線内に渦福銘。他に同一文様・器形のもの4個体あり。	完形
158-5	磁 染 付 皿	器	肥前。胎土は灰白色。見込五弁花（コンニャク版）、体部内面草花文、体部外面紐文？高台内に1重圏線あり。	1/3
159-1	磁 染 付 皿	器	肥前。ハリ支え痕。内面桐散らし文、体部外面花唐草文。高台内銘あり。見込不定方向の擦痕顕著。	体部1/4欠
(39-3a.b)	磁 染 付 皿	器	肥前。ハリ支え痕。内面草に水鳥文、体部外面花唐草文（2単位）。高台内に1重圏線あり。全面に貫入する。見込不定方向の擦痕顕著。被熱。	体部1/4欠
159-3	磁 染 付 皿	器	肥前。口唇部波状に型打。ハリ支え痕（1個）。見込五弁花（コンニャク版）、内面松竹文、体部外面唐草文。高台内1重圏線内に銘「大明年製」。被熱し、体部外面溶着。	ほぼ完形
(41-1a.b)	磁 染 付 皿	器	肥前。外面貫入する。見込不定方向の、体部内面下半回するような擦痕あり。体部一部欠	
159-4	磁 染 付 皿	器	肥前。体部外面丸文（中に草花文・帆かけ舟文）。被熱。	つまみと体部一部欠
(39-6a.b)	磁 染 付 皿	器	肥前。口銹。口縁部は輪花状（8単位）に型打。内面牡丹唐草文、体部外面山水文。高台内1重圏線内に渦福銘。他に同一文様・器形のもの9個体あり。	完形
160-1	磁 白磁蓋物	器	肥前。体部外面丸文（中に草花文）。被熱。第160図5と組。	完形
160-2	磁 染 付 蓋	器	肥前。体部外面丸文（中に草花文）。高台内に1重圏線あり。第160図4と組。	体部上半1/2欠
160-3	磁 染 付 皿	器	肥前。つまみは兔。外面流水に水鳥文。被熱。第160図7と組。	完形
(39-2a.b)	磁 染 付 皿	器	肥前。蛇ノ目高台。体部外面流水に菊文。全面に貫入する。高台内に銘「大明成化年製」。被熱によって剥離している。第160図6と組。	完形
160-4	磁 染 付 蓋	器	肥前。被熱。	体部一部欠
(43-5)	磁 染 付 蓋	器	肥前。全面貫入する。被熱し、胴部外面の一部は溶着。	胴部2/3
160-5	磁 染 付 蓋	器	肥前。全面貫入する。被熱。	つまみ欠
(43-6)	磁 染 付 蓋	器		
160-6	磁 染 付 蓋	器		
(43-6)	磁 染 付 蓋	器		
160-7	磁 染 付 蓋	器		
(43-6)	磁 染 付 蓋	器		
161-1	磁 白磁壺	器		
(43-11)	磁 白磁壺	器		
161-2	磁 白磁壺	器		
161-3	磁 白磁壺	器		

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
	白磁蓋			
161-4 〔43-11〕	磁器	肥前。		ほぼ完形
161-5	磁器	肥前。全面に貫入入る。		体部1/6欠
	白磁蓋			
161-6 〔43-7〕	磁器	肥前。体部外面斜格子に草花文。第161図7と組。		ほぼ完形
161-7 〔43-7〕	染付蓋			
161-7	磁器	肥前。体部外面斜格子に葉文(2単位)。被熱。第160図6と組。		完形
161-8 〔44-6〕	染付蓋物			
161-8	磁器	肥前。疊付を除く外面青磁釉(緑灰色)。疊付鉄釉(褐色)。		底部1/3欠
161-9	青磁瓶			
161-9	磁器	肥前。		胴部下半1/2 と底部
	白磁瓶			
162-1 〔43-8〕	磁器	肥前。体部外面山水文。被熱。第162図2と組。		完形
162-2 〔43-8〕	染付蓋			
162-2	磁器	肥前。胴部外面山水文。被熱。第162図1と組。		完形
162-3 〔43-10〕	染付壺			
162-3	磁器	肥前。体部外面牡丹文。一部に細かい貫入入る。口縁部(受け部) 焼けて		体部一部欠
162-4 口絵5-2	染付蓋	いる部分あり。第162図4と組。		
162-4 〔43-10〕	磁器	肥前。外面は口縁部縦線文, 肩部唐草文, 胴部牡丹文。被熱。第162図3と組。		体部一部欠
163-1	染付壺			
163-1	磁器	肥前。一部に呉須の文様あり(唐草文の端部と思われる)。被熱。第162図		首部
163-2	染付瓶	2と同一個体と思われる。		
163-2	磁器	肥前。胴部外面唐草文。内面は無釉。外面部分的に貫入入る。被熱し, 剥		胴部~底部
163-3 〔43-2〕	染付瓶	落した部分多い。第163図1と同一個体と思われる。		
163-3	磁器	肥前・胎土は灰白色。見込2重圈線内に草文, 体部内面草花文, 体部外面		底部一部欠
164-1	染付鉢	唐草文。高台内に1重圈線あり。被熱し, 貫入入る。		
164-1	陶器	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色, 緻密で粘土質。外面灰釉(淡黄色)の上に,		完形
	蓋	鉄釉(暗褐色)斑。		
164-2	陶器	肥前。胎土は黄灰色, 緻密で堅緻, 粘土質。内面・体部外面白泥で横位の		体部一部欠
	碗	刷毛目文の後, 透明釉。見込不定方向の, 体部内面横位の擦痕顕著。		
164-3 〔45-7〕	陶器	肥前。胎土は灰白色, 緻密で粘土質。疊付を除く全面透明釉(黄灰色)。全		体部1/2欠
164-4	碗	面に貫入入る。		
164-4	陶器	肥前。胎土は淡黄色で, 緻密。疊付を除く全面透明釉(淡黄色)。全面に貫		体部3/4欠
	碗	入入る。見込不定方向の擦痕あり。		
164-5	陶器	肥前。胎土は淡黄色で, 緻密。疊付を除く全面透明釉(黄灰色)。全面に貫		体部3/5欠
	碗	入入る。疊付粗砂付着。		
164-6	陶器	瀬戸・美濃。肩部外面に横位の沈線が5条巡る。胎土は淡黄色で, 粗い。		完形
	蓋	外面鉄釉(黒褐色)の後, うのふ釉(青白色)がけ(斑状)。内面無釉。釉		
164-7	陶器	際には一部炎色(橙色)出る。体部内面墨書「シイ」。		
164-7	徳利	瀬戸・美濃。肩部外面に横位の沈線が8条巡る。胎土は灰白色。外面鉛釉		胴部上半1/5
		(暗褐色)の後, 肩部うのふ釉(黄灰色)。高台部周囲無釉。被熱により肩		欠
		部釉溶着。		

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
164-8 〔49-1〕	陶 徳	器 利	瀬戸・美濃。肩部外面に横位の沈線が7条巡る。胎土は灰白色。外面飴釉（暗褐色）の後、肩部うのふ釉（にぶい黄褐色）。高台部周囲無釉。被熱により口縁部から肩部釉溶着。	体部一部欠
164-9 〔49-2〕	陶 徳	器 利	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色。外面飴釉（暗褐色）の後、首部から胴部上半にかけてうのふ釉（にぶい黄褐色）。高台部周囲は釉ふきとり。被熱により肩部から上釉溶着。	ほぼ完形
164-10	陶 徳	器 利	瀬戸・美濃。胎土は灰白色。外面飴釉（黒褐色）の後、口縁から胴部上半うのふ釉（黄灰色）。高台部周囲無釉。	胴部1/3欠
165-1	陶 徳	器 利	志戸呂。胎土は灰色、緻密で均質。胴部外面銹釉（赤褐色）の後、首部鉄釉（黒色）。底部外面無釉。底部外面墨書あり。胴部中位に輪状の窯道具痕あり。被熱により鉄釉溶着。	胴部下半～ 底部1/2欠
165-2 〔49-7〕	陶 徳	器 利	志戸呂。胎土は灰色、緻密で均質。外面銹釉（赤褐色）の後、首部鉄釉（黒褐色）。底部外面無釉。被熱により首部の釉溶着。	胴部1/3欠
165-3	陶 徳	器 利	志戸呂。胎土は灰色。無釉部はにぶい赤褐色、緻密で均質。外面銹釉（にぶい赤褐色）の後、首部鉄釉（黒褐色）。被熱。	口縁部～肩 部
165-4	陶 徳	器 利	志戸呂。胎土はにぶい赤褐色～灰色、緻密で均質。胴部外面銹釉（赤褐色）。底部外面無釉。底部外面に輪状（直径13cm）の窯道具痕あり。被熱。	胴部下半1/2
166-1	陶 徳	器 利	志戸呂。胎土はにぶい赤褐色～灰色、無釉部はにぶい赤褐色、緻密で均質。外面銹釉（にぶい赤褐色）の後、首部鉄釉（黒褐色）。被熱により溶着。	胴部上半1/3
166-2	陶 徳	器 利	志戸呂。胎土はにぶい赤褐色～灰色、無釉部はにぶい赤褐色、緻密で均質。外面銹釉（赤褐色）。底部外面無釉。被熱。	1/3
166-3	陶 徳	器 利	志戸呂。胎土は灰色、緻密で均質。外面銹釉（黒褐色）。	首部
166-4	陶 徳	器 利	志戸呂。胎土はにぶい赤褐色、緻密で均質。外面銹釉（にぶい赤褐色）の後、首部鉄釉（黒色）。被熱により釉溶着。	胴部上半1/2
166-5	陶 徳	器 利	志戸呂。胎土はにぶい赤褐色、緻密で均質。胴部外面銹釉（赤褐色）。底部外面無釉。底部外面輪状（直径11.5cm）の窯道具痕あり。被熱により、内面剥落している部分あり。	底部
166-6	陶 徳	器 利	志戸呂。胎土はにぶい赤褐色、緻密で均質。胴部外面銹釉（赤褐色）。底部外面無釉。被熱。	1/3
166-7	陶 片	器 口	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。内面から体部外面飴釉（暗褐色）。高台部周囲無釉。見込に目痕3箇所あり。被熱により釉溶着。	体部一部欠
167-1 〔50-4〕	陶 壺	器 壺	信楽。四耳壺。胎土は白色、緻密で堅緻。白色礫（3mm大）多く含む。口縁部内面から胴部外面上半鉄釉（黒色）の上に、肩部灰釉（緑灰色）がけ。胴部外面下半透明釉。底部外面無釉。被熱により釉溶着。	胴部1/5欠
167-2	陶 壺	器 壺	信楽。四耳壺。胎土は白色、緻密で堅緻。白色粗砂を多く含む。口縁部内面から胴部外面上半鉄釉（黒色）の後、肩部灰釉（灰緑色）がけ。胴部外面下半透明釉。被熱により釉溶着。	口縁～胴部 上半
167-3	陶 搦	器 鉢	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部片体部外面横位の雑なナデ（指頭痕残る）。搦目7本1単位。胎土は灰色で、白色、透明粗砂を大量に含む。内外面銹釉（暗赤褐色）。	体部片
167-4	陶 搦	器 鉢	瀬戸・美濃。ロクロ水挽き成形。体部外面下半横位のロクロケズリ。底部回転糸切り痕。搦目21本1単位。胎土は浅黄橙色。全面銹釉（暗褐色）。焼成不良で釉が斑状になっている部分あり。内面擦れている。	1/3
168-1	土 器	器 板	板作り成形。内面布目痕（ただし体部と底部は別々の布目痕）。胎土はにぶ	底部と体部

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
	焼塩壺・身		い橙色で、内面はピンク色。砂質で粗砂を多く含む。体部外面に刻印「御 壺塩師堺湊伊織」。	の一部欠
168-2 (59-4a~d)	土 器 焼塩壺・身		板作り成形。内面布目痕(ただし体部と底部は別々の布目痕)。胎土はにぶ い黄橙色で、内面はピンク色。粗砂を多く含む。体部外面に刻印「御壺塩 師堺湊伊織」。	完形
168-3 (61-6)	土 器 焼塩壺・蓋		内面布目痕。胎土はにぶい黄橙色。被熱により外面に煤付着。	体部1/3欠
168-4	土 器 焼塩壺・蓋		内面布目痕。胎土は橙色。被熱。	体部1/3欠
168-5 (63-2)	土 器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。	体部一部欠
168-6	土 器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	体部上1/3欠
168-7	土 器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。内外面とも大部分荒 れている。口唇部煤付着。	体部一部欠
168-8	土 器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	一部欠
168-9	土 器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。内面荒れている部分 あり。口唇部煤付着。	一部欠
168-10	土 器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。内外面とも大部分荒 れている。口唇部煤付着 (1/3)。	完形
168-11	土 器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい褐色、一部橙色。底 部焼成後穿孔。被熱?	ほぼ完形
168-12	土 器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着 (1/3)。	完形
168-13	土 器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	ほぼ完形
168-14	土 器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部一部欠
168-15	土 器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。内外面とも大部分荒 れている。口唇部煤付着。	体部1/2欠
168-16	土 器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/2欠
168-17	土 器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。	体部1/3欠
168-18	土 器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部回転糸切り。胎土は橙色。器面荒れている。口唇 部煤付着。	ほぼ完形
168-19	土 器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部一部欠
168-20	土 器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部一部欠
168-21	土 器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。内外面とも大部分荒 れている。	1/3
168-22	土 器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。	体部1/3欠

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特	徴	残存部位
168-23	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。器面荒れている。口唇部煤付着 (3/4)。		ほぼ完形
168-24	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。内面荒れている部分あり。口唇部煤付着。		3/4
168-25	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。被熱し、変色部分あり。口唇部煤付着 (一部)。		完形
168-26	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着 (全周)。		完形
168-27 [63-3]	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着 (1/4)。		完形
168-28	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。内面荒れている。口唇部煤付着 (1/2)。		完形
168-29	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。内外面とも荒れている部分あり。		1/2
168-30	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。内外面とも荒れている部分あり。口唇部煤付着。		体部一部欠
168-31	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。内外面とも大部分荒れている。口唇部煤付着。		体部1/4欠
168-32	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面荒れている部分あり。口唇部煤付着。		体部1/4欠
168-33	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部回転糸切り。胎土は橙色。器面荒れている。口唇部煤付着。		体部一部欠
168-34 [63-1]	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色・暗褐色。口唇部煤付着 (一部)。		完形
168-35	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は黒褐色。全面黒色処理。		2/3
168-36	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は灰褐色・にぶい橙色。中央から半分黒色処理。		体部上半1/2欠
168-37	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部内外面に帯状に黒色の部分あり。		1/2
169-1	土 火鉢	器	土師質。ロクロ輪積成形。体部内面横位のナデ。体部外面横位のミガキ・赤彩。器面の荒れが著しい。底部外面ちぢれ目がみられるが凹凸が顕著。胎土は橙色。		1/6
169-2 [72-4a.b]	土 焔	器	瓦質。ロクロ輪積成形。口縁部内面工具による横位のナデ。体部内面指による横位のナデ。体部に貼付・切り込みを施し、窓・火口部等をつくり出す。口唇部雑なミガキ。底部外面はちぢれ目。足 (2個残存) は貼付。器面は灰色で、断面は黒灰色が浅黄橙色をサンドイッチ状に挟む。		1/3

第27表 886号遺構出土陶磁器類観察表

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特	徴	残存部位
170-1	磁 染付碗	器	肥前。胎土は灰白色。体部外面草花文。見込擦れている部分あり。		体部2/3欠
170-2	磁 器	器	肥前。体部外面松文。見込不定方向の擦痕あり。		1/2

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
170—3	磁器	染付碗	肥前。高台無釉。胎土は灰白色。体部外面山水文。	体部上半1/2 欠
170—4	磁器	染付小杯 白磁小杯	肥前。体部花卉状に型打。	体部1/2欠
170—5 〔44—12〕	磁器	色絵蓋物	肥前。体部外面線彫菊文。その上に緑・黄色で上絵付。口唇部から体部内 面上半無釉。底部無釉。	1/2
170—6	磁器	色絵香油壺	肥前。焼成不良で橙色の部分あり。胴部外面区画割文（圏線は赤色，輪郭 は黒色，他に色もあるも剥落していて不明）。器面白濁。外面細かい貫入入る。	体部1/2
170—7 〔36—3〕	磁器	染付小鉢	肥前。胎土は緻密。見込三弁花。口縁部内面雷文，体部外面花唐草文（4 単位）。高台内に銘「宣嘉年製」。	体部1/4欠
170—8	磁器	染付皿	肥前。ハリ支え痕（1個）。見込ザクロ文。全面に細かい貫入入る。高台内 角福銘。	1/4欠
170—9	磁器	碗	肥前。胎土は灰白色。緻密で堅緻，均質。畳付周囲を除く全面透明釉（浅 黄色）。全面に貫入入る。見込回るような擦痕あり。	体部一部底 部1/2
170—10	陶器	碗	肥前。胎土は淡黄色で，均質。畳付を除く全面透明釉。全面に貫入入る。 畳付粗砂付着。見込回るような擦痕顕著。	1/2
170—11 〔45—2a.b〕	陶器	碗	京焼風（肥前）。胎土は灰白色，緻密で均質。内面から体部外面透明釉（灰 白色）。全面に貫入入る。釉際には炎色（橙色）出る。高台内に刻印「清 水」。高台内中央部に円圈（直径2.3cm）あり。見込不定方向の細かい擦痕 あり。	体部1/5欠
170—12	陶器	壺	備前。胎土は灰色，緻密で均質。全面錆釉（赤紫色）。内面黒色の付着物あ り。	体部一部と 底部全部
170—13	土器	焼塩壺・身	手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で，内面はピンク 色。断面は縞状を呈し，粗砂を多く含む。体部外面に刻印1重杵「天下一 堺ミナと藤左衛門」。	ほぼ完形
170—14	土器	焼塩壺・身	手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で，内面はピンク 色。断面は縞状を呈し，粗砂を多く含む。体部外面に刻印1重杵「天下一 堺ミナと藤左衛門」。	体部一部欠
170—15	土器	焼塩壺・身	手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で，内面はピンク 色。断面は縞状を呈し，粗砂を多く含む。体部外面に刻印1重杵「天下一 堺ミナと藤左衛門」。	体部下半1/4 欠
170—16	土器	焼塩壺・身	手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で，内面はピンク 色。粗砂を多く，赤色粗砂を含む。体部外面に刻印1重杵「天下一堺ミナ と藤左衛門」。	1/2
171—1	土器	焼塩壺・蓋	手づくね成形。胎土は橙色で，内面はピンク色。粗砂を多く含む。	体部1/3欠
171—2	土器	焼塩壺・蓋	手づくね成形。天井部内面中央部布目痕。胎土は橙色で，内面はピンク色。 粗砂を多く含む。	ほぼ完形
171—3	土器	焼塩壺・蓋	手づくね成形。天井部内面中央部布目痕。胎土は橙色で，内面はピンク色。 断面は縞状を呈し，粗砂を多く含む。	体部一部欠
171—4	土器	焼塩壺・蓋	手づくね成形。天井部内面中央部布目痕。胎土は橙色で，内面はピンク色。 粗砂を多く含む。	体部1/4欠
171—5	土器	焼塩壺・蓋	手づくね成形。天井部内面中央部布目痕。胎土は橙色で，内面はピンク色。 断面は縞状を呈し，粗砂を多く含む。	1/5欠

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特	徴	残存部位
171-6	陶 播	器 鉢	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部片		
			体部外面横位の雑なナデ（指頭痕残る）。播目7本1単位。胎土は灰色で、 白色・透明粗砂を大量に、黒色粗砂を多く含む。内外面銹釉（暗赤褐色）。 内面自然釉が斑状にかかる。		
171-7	陶 播	器 鉢	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部片		
			体部外面横位の雑なナデ（指頭痕残る）。播目の単位は不明。胎土は灰色・ 明黄褐色で、白色・透明礫（1～3mm大）を大量に含む。内外面銹釉（暗 赤褐色）。内面自然釉が斑状にかかる。		
171-8 (54-4a.b)	陶 播	器 鉢	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部1/2欠		
			体部外面横位の雑なナデ（指頭痕残る）。播目7本1単位。胎土は褐灰色 で、白色・透明粗砂・礫（3～4mm大）を大量に含む。内面全面と体部外 面上半（?）銹釉（赤褐色）。		
171-9	土 火	器 鉢	瓦質。ロクロ輪積成形。体部内面指による横位のナデ。口唇部ミガキ？ 体		1/4
			部外面横位の雑なミガキ。底部外面ちぢれ目。足（1個残存）は貼付。胎 土は褐灰色で、断面にぶい橙色。口唇部内側磨滅。体部外面煤付着。		

第28表 焼土溜り出土陶磁器類観察表

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特	徴	残存部位
172-1	磁 染付	器 碗	肥前。胎土は緻密。体部外面斜格子文に窓絵花卉文？	高台内1重圏線内	1/3
			に渦福銘。被熱により溶着。包含層と接合。		
172-2	磁 色絵	器 碗	肥前。体部外面橋に草花文（草花文の一部が色絵、花は赤色、葉の輪郭は		体部2/3欠
			黒色、中は緑色）。高台内1重圏線内に銘「大明年製」。見込不定方向の擦 痕あり。包含層と接合。		
172-3	磁 色絵	器 碗	肥前。体部外面四方繡文（呉須・赤色）・菊花文（色は変色）。被熱により		1/4
			色絵変色。第172図4と同一文様・器形。他に同一文様・器形のもの2個体 あり。160号遺構と接合。		
172-4	磁 色絵	器 碗	肥前。体部外面四方繡文（呉須・赤色）・菊花文（花は赤色、葉・輪郭は呉		体部1/2
			須・緑色）。被熱により色絵変色。体部内面には斑状の付着物（煤?）あ り。第172図3と同一文様・器形。他に同一文様・器形のもの2個体あり。 869号遺構と接合。		
172-5	磁 青磁香炉	器	肥前。蛇ノ目凹形高台。口縁部内面から外面青磁釉（明緑灰色）。内面無		1/3
			釉。被熱により溶着。		
172-6	磁 染付	器 蓋	肥前。体部外面菊花文（コンニャク版）。被熱。第172図7と組。		1/2
172-7	磁 染付蓋物	器	肥前。体部外面菊花文（コンニャク版）。被熱。第172図6と組。		体部1/2
172-8	磁 染付	器 蓋	肥前。体部外面雲気と笹文。一部に貫入入る。被熱。斑状の付着物（褐色）		1/3
			あり。		
172-9	磁 染付	器 蓋	肥前。体部外面雲気と笹文。ほぼ全面に貫入入る。体部外面の一部白濁。		体部1/3欠
			内面一部にしみ状の付着物（黒・褐色）あり。第172図8と組。		
173-1	磁 染付	器 蓋	肥前。第172図9と組。胎土は緻密。体部外面折枝桜・折枝菊花文。被熱？		1/3
			一部に斑状の付着物あり。第172図2と組。		
173-2	磁	器	肥前。蛇ノ目高台。胎土は緻密。体部外面折枝桜・折枝菊文。全面に貫入		1/2

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
173-3	磁器	染付蓋物	入る。第173図1と組。包含層と接合。	
173-4	磁器	染付蓋物	肥前。体部外面草花文。被熱。第173図4と組。	2/3
173-5	磁器	染付蓋物	肥前。体部外面牡丹文。ほぼ全面に貫入する。被熱。第173図3と組。	2/3
173-6	磁器	染付蓋物	肥前。体部外面菊花文。被熱。第173図6と組。	体部一部欠
174-1	磁器	色絵蓋物	肥前。体部外面牡丹文。被熱。付着物(しみ状・褐色)あり。第173図5と組。	2/3
174-2	磁器	色絵蓋物	肥前。体部外面菊花文(被熱により色絵は変色)。全面に細かい貫入する。被熱。第174図2と同一個体の可能性あり。	体部1/4
[43-1]	磁器	色絵蓋物	肥前。体部外面アジサイ文(輪郭は黒色、花は赤色、他の色は被熱により変色)。全面に細かい貫入する。被熱。第174図1と同一個体の可能性あり。	体部1/3
口絵9-2				
174-3	磁器	染付蓋物	肥前。体部外面山水文(組になる身の方とほぼ同様の文様と思われる)。被熱により表面溶着。第174図4と組。	一部
174-4	磁器	染付壺	肥前。胴部外面山水文。被熱。第174図3と組。	1/2
175-1	磁器	白磁瓶	肥前。細かい貫入が一部に入る。被熱により剥落している部分あり。	胴部上半
175-2	磁器	白磁碗	肥前。被熱。	胴部下半2/3
175-3	磁器	染付瓶	肥前。胴部外面唐草文。外面部分的に細かい貫入する。被熱により溶着している部分あり、また内面剥落部分あり。	2/3
口絵5-1				
176-1	磁器	染付瓶	肥前。胴部外面牡丹文。一部に貫入する。被熱により内面剥落(下部はもとの器面残らず)。160b号遺構と接合。	胴部以下2/3
176-2	陶器	瓶	備前。胴部外面上位から中位・細かいロクロ目あり。胎土は灰色、緻密で堅緻、均質・炆器。無釉焼締め。底部外面刻印あり。被熱により溶着物あり。包含層と接合。	胴部3/4欠
176-3	陶器	壺	瀬戸・美濃。四耳壺。耳は貼付で4箇所。胎土は灰色で、粗い。口縁部内面から外面全面鉄釉(黒色)。被熱により外面施釉部全面溶着。口唇部磨滅して釉が剥がれている。	口縁部～胴部上半1/3

第29表 416号遺構出土陶磁器類観察表

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
177-1	磁器	染付碗	肥前。体部外面草花文。	体部1/3欠
177-2	磁器	染付碗	肥前。胎土は灰白色。体部外面梅花文。高台内銘あり。	体部3/4欠
177-3	磁器	染付皿	肥前。口唇部輪花状(8単位)に型打。胎土は灰白色。見込五弁花(コンニャク版)、体部内面窓絵果実文?、体部外面唐草文。高台内渦福銘。見込不定方向の、体部内面回るような擦痕顕著。見込擦れている部分あり。体	1/2

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特 徴	残存部位
			部外面下半横位の擦痕あり。	
177-4 [44-4]	磁 瓶	器	肥前。畳付を除く外面全面青磁釉（緑灰色）。表面はほぼ全体が無光沢化。口唇部内面付着物（黒灰色）が一周。高台部外面釉際も黒くなっており、あるいは使いこまれた痕？	完形
177-5	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。内面から体部外面灰釉（灰白色）。畳付から高台内無釉。高台内墨書あり。見込不定方向の、体部内外面横位の擦痕顕著。	体部1/3欠
177-6	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。内面から体部外面灰釉（灰白色）。高台部周囲無釉。見込・体部内面回るような、体部外面不定方向の擦痕顕著。	体部1/3欠
177-7	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰色で、粗い。内面から体部外面灰釉（灰白色）。高台部周囲無釉。体部内面横位の擦痕あり。被熱により釉溶着。	体部一部欠
177-8	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。内面から体部外面灰釉（灰白色）。高台部周囲無釉。見込一定方向の、体部内面横位の、体部外面不定方向の擦痕顕著。被熱。	体部1/4欠
177-9 [46-3a.b]	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰色で、粗い。内面から体部外面灰釉（灰白色）。高台部周囲無釉。高台内墨書あり。	ほぼ完形
177-10	陶 碗	器	瀬戸・美濃。体部外面に横位の沈線が2条巡る。胎土は灰白色で、粗い。内面から体部外面灰釉（灰白色）の後、柿釉（褐色）斑。高台部無釉。見込・体部外面不定方向の、体部内面横位の擦痕あり。	体部3/4欠
177-11	陶 碗	器	瀬戸・美濃。体部外面に横位の沈線が2条巡る。内面から体部外面灰釉（灰白色）の後、鉄釉（黒褐色）斑。高台部周囲無釉。見込・体部内面回るような擦痕あり。	完形
177-12	陶 碗	器	瀬戸・美濃。体部外面横位の沈線が2条巡る。内面から体部外面灰釉（灰白色）の後、柿釉（褐色）斑。高台内墨書あり（花押?）。	体部一部と 底部全部
177-13 [46-7a.b]	陶 碗	器	瀬戸・美濃。体部外面に横位の沈線が2条巡る。胎土は灰白色で、粗い。内面から体部外面灰釉（灰白色）の後、鉄釉（黒褐色）斑。高台部内墨書あり。	体部一部欠
177-14	瀬戸・美濃 碗		瀬戸・美濃。体部外面横位の沈線が2条巡る。胎土は灰白色。内面から体部外面灰釉（灰白色）の後、体部外面柿釉（褐色）斑。高台部周囲無釉。	体部2/3欠
177-15	陶 仏花器	器	瀬戸・美濃。胴部中位2箇所貼付文。底部外面回転切り痕。胎土は白色で、粗い。口縁部内面から胴部外面上半灰釉（灰白色）、胴部外面下半から底部外面鉄釉（黒褐色）。被熱により施釉部溶着部分あり。	底部1/2欠
177-16	陶 蓋物	器	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、粗い。体部外面灰釉（灰白色）。内面から受け部・高台部周囲無釉。	1/3
178-1 [51-4]	陶 片口土鍋	器	瀬戸・美濃。口縁部に把手のつく可能性あり（2箇所）。胎土は灰白色、緻密で堅緻。内面から体部外面灰釉（灰白色）。底部外面周囲無釉。底部内面に目痕3箇所あり。底部の無釉部は煤ける。	一部欠
178-2	陶 香炉	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。体部外面灰釉（灰白色）。高台部周囲・内面無釉。	完形
178-3	陶 仏飯具	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色、碗部内面から脚台部下半灰釉（灰白色）。脚台部下半以下無釉。	完形
178-4	陶 甕	器	瀬戸・美濃。胎土は黄灰色で、粗い。黒色粗砂を多く含む。内面・体部外面柿釉（暗赤褐色）。高台部周囲無釉。高台内墨書あり。	底部周辺
178-5	陶 甕	器	瀬戸・美濃。胎土はにぶい黄灰色で、かなり粗い。内面から体部外面鉄釉か柿釉（黒色～褐色。被熱のため変色している可能性あり）。底部周囲無釉。口唇部に目痕（粗砂混入）4箇所あり。被熱により釉溶着。	2/3

插图番号 [写真番号]	種 器	別 種	特 徴	残存部位
178-6	陶 徳 利	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、緻密。外面灰釉（緑灰色）。白濁部分あり。	首部
178-7	陶 徳 利	器	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、粗い。外面灰釉（黄褐色）。	首部
178-8	陶 徳 利	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白～にぶい淡黄色。外面灰釉（緑灰～黄褐色）。	首部
178-9	陶 徳 利	器	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、粗い。外面灰釉（黄褐色）。底部周囲は釉ふきとり。胴部外面焼成時の他個体との溶着痕1箇所あり。	1/2
178-10 [49-3]	陶 徳 利	器	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、粗い。外面灰釉（黄褐色）の後、首部うのふ釉（淡黄色）がけ。胴部外面釘書き「山本」。	胴部1/3欠
178-11	陶 徳 利	器	瀬戸・美濃。胎土はにぶい淡黄色で、粗い。黒色粗砂多く含む。外面灰釉（黄褐色）。口唇部磨滅し、釉が剥れている。	口縁～肩部 1/4
178-12	陶 徳 利	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。外面灰釉（緑灰色）。底部外面周囲は釉ふきとり。	胴部下半
178-13	陶 徳 利	器	志戸呂。胎土はにぶい赤褐色～灰色、緻密で均質。外面錆釉（赤紫色）。底部外面無釉。	胴部下半1/3
179-1 [49-3]	陶 徳 利	器	志戸呂。胎土はにぶい赤褐色、緻密で均質。外面錆釉（赤紫色）の後、首部灰釉（灰黄褐色）。肩部に輪状の窯道具痕。肩部歪む。	口縁部～胴 部上半1/3
179-2	陶 徳 利	器	志戸呂。胎土はにぶい橙色、緻密で均質。外面錆釉（赤紫色）の後、首部灰釉（黄褐色）。	首部～肩部 一部
179-3	陶 徳 利	器	志戸呂。胎土はにぶい橙色、緻密で均質。外面錆釉（赤紫色）。底部外面無釉。胴部外面に1箇所墨書あり。底部外面に墨書「久〇」。底部焼成後穿孔。	胴部下半1/3
179-4	陶 徳 利	器	志戸呂。胎土はにぶい橙色、緻密で均質。外面錆釉（赤紫色）。底部外面無釉。底部外面に墨書「久〇」。	胴部下半1/2
179-5 [49-3]	陶 徳 利	器	志戸呂。胎土はにぶい赤褐色、緻密で均質。外面錆釉（赤紫色）の後、首部灰釉（黄褐色）。底部外面無釉。胴部外面に墨書あり。底部外面に墨書「久〇」。肩部に輪状の窯道具痕。	2/3
179-6 [49-9]	陶 徳 利	器	志戸呂。胎土はにぶい赤褐色、緻密で均質。外面錆釉（赤紫色）。底部外面無釉。胴部外面に2箇所に墨書あり。底部外面に墨書「久〇」？。	胴部下半2/3
180-1	陶 徳 利	器	志戸呂。胎土は赤橙色、緻密で均質。外面錆釉（赤紫色）。底部外面の一部無釉。胴部外面2箇所に墨書あり。	胴部下半～ 底部1/3
180-2	土 器	器	ロクロ水挽き成形。底部回転糸切り。胎土は橙色。内面荒れている。外面剥落している部分あり。口唇部煤付着。	体部1/6欠
180-3	土 器	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。荒れている部分あり。口唇部煤付着。	体部一部欠
180-4 [63-4]	土 器	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。荒れている部分あり。ほぼ完形。口唇部煤付着。	
180-5	土 器	器	ロクロ水挽き成形。底部回転糸切り。胎土はにぶい橙色。外面剥落している部分あり。口唇部煤付着。	体部一部欠
180-6	土 器	器	ロクロ水挽き成形。底部回転糸切り。胎土は橙色。体部外面剥落している部分あり。口唇部煤付着。	体部1/3
180-7	土 器	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。剥落している部分あり。	体部1/3欠
180-8	土 器	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。外面剥落して	体部1/4欠

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特	徴	残存部位
180-9	土 器	かわらけ	いる部分あり。口唇部煤付着。 ロクロ水挽き成形。体部内面には沈線が1条巡る。体部外面下半左回りの ロクロケズリ。胎土は浅黄橙色。口縁部焼成後穿孔(1個所)。口唇部平ら に削って二次使用。		体部1/4
180-10	土 器	受付き灯明皿	土師質。切り込みは逆アーチ状。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。 全面銀彩?		ほぼ完形
180-11	土 器	灯明具	土師質。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。		ほぼ完形
180-12 (68-2a.b.c)	土 器	焙 烙	土師質。ロクロ紐作り成形。体部内外面横位のナデ。体部外面下位にケズ リ痕が残る。内耳は円板状粘土を貼付。穴は棒状工具による左右からの刺 突。底部内面に刻印「㊦」。底部外面ちぢれ目。底部内外面黒ずむ。		1/4欠
180-13 (68-1a.b)	土 器	焙 烙	土師質。ロクロ紐作り成形。体部内外面横位のナデ。体部外面下位にケズ リ痕が残る。内耳は円板状粘土を貼付。穴は棒状工具による左右からの刺 突。底部内面に刻印あり。底部外面ちぢれ目。底部内外面黒ずむ。		底部一部欠
180-14	土 器	焙 烙	土師質。ロクロ紐作り成形。体部内外面横位のナデ。体部外面下位にケズ リ痕が残る。内耳は円板状粘土を貼付。穴は棒状工具による左右からの刺 突。底部内面に刻印「㊦」。底部外面ちぢれ目。底部内外面黒ずむ。		1/4欠
180-15	陶 器	備前系(堺) 鉢	備前系(堺)。ロクロ輪積成形。口縁部擂目を施した後に横位のナデ。体部 外面横位のロクロケズリ。擂目8本1単位。内面擦れている。被熱。		体部片
180-16 (69-1)	土 器	火 鉢	土師質。ロクロ輪積成形。体部内面指による横位のナデ。体部外面ナデの 後、口縁部横位のナデ。底部外面ちぢれ目。足(3個のうち2個残存)貼 付。器面はにぶい橙色で、断面は灰褐色をにぶい橙色がサンドイッチ状に 挟む。体部外面銀彩? 口唇部磨滅。口唇部内側煤付着。		体部一部欠
180-17 (60-7a~d)	土 器	火 鉢	土師質。ロクロ輪積成形。体部内面指による横位のナデ。体部外面ナデの 後、口縁部横位のナデ。底部外面ちぢれ目。足(3個のうち2個残存)貼 付。胎土は橙色。体部外面銀彩? 口唇部内側磨滅。体部内面上半煤付着。 体部外面に刻書「吉□九九諸道」, 口唇部に「九」。		一部欠

第30表 233号遺構出土陶磁器類観察表

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特	徴	残存部位
181-1	磁 器	青磁染付皿	肥前。蛇ノ目凹形高台。見込樹木文? 口縁部内面四方禪文。呉須は白濁。 畳付を除く外面青磁釉(明緑灰色)。高台内銘あり。見込擦れている部分あり。		1/3
181-2 (39-9a.b)	磁 器	青磁染付皿	肥前。蛇ノ目凹形高台。見込草花文、口縁部内面四方禪文。畳付を除く外 面青磁釉(明緑灰色)。高台内渦福銘。内面回るような擦痕顕著。包含層と 接合。		体部1/4欠
181-3	磁 器	青磁染付皿	肥前。蛇ノ目凹形高台。見込家屋文。畳付を除く外面青磁釉(明緑灰色)。 高台内銘あり。見込・体部内外面擦痕あり。245号遺構・包含層と接合。		2/3
181-4	磁 器	青磁染付皿	肥前。口唇部輪花状に型打。蛇ノ目凹形高台。見込草文。畳付を除く外面 青磁釉(明緑灰色)。高台内渦福銘。106・245号遺構・包含層と接合。		体部2/3欠
181-5	磁 器	染付皿	肥前。蛇ノ目凹形高台。見込三方割文、体部内面区画割人物文、体部外面 唐草文。内面体部外面回るような擦痕顕著。包含層と接合。		体部1/2欠
181-6 (39-8a.b)	磁 器	青磁染付皿	肥前。蛇ノ目凹形高台。見込三方割イチョウ文、体部内面丸文。畳付を除 く外面青磁釉(明緑灰色)。高台内銘あり。245号遺構と接合。		体部1/3欠

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	微	残存部位
181-7	磁 器	肥前。蛇ノ目凹形高台。見込草花文、体部内面亀甲文・花文、体部外面唐 染付皿 草文。見込は不定方向の、体部内外面回るような擦痕顕著。他に同一文様・ 器形のもの1個体あり。245・106号遺構・包含層と接合。			体部1/2欠
181-8	磁 器	肥前。口唇部輪花状に型打。蛇ノ目凹形高台。見込三方割イチョウ文、体 染付型打皿 部内面丸文、体部外面唐草文。高台内渦福銘。			体部上半5/6 欠
182-1	磁 器	肥前。見込蛇ノ目釉ハギ。体部内面唐草文。見込不定方向の擦痕、擦れて 染付皿 いる部分顕著。			1/2
182-2	磁 器	肥前。口銹。体部輪花状に型打。内面草花文。 染付型打手施皿			1/2
182-3	磁 器	肥前。見込松竹梅文、口縁部内面四方襷文、体部外面草花文。 染付鉢			1/3
182-4	磁 器	肥前。見込・体部外面（2単位）蕪文。245号遺構・包含層と接合。 染付碗			体部1/2
182-5	磁 器	肥前。見込五弁花。口縁部内面四方襷文、体部外面七宝文他。見込不定方 染付碗 向の、体部内面回るような擦痕顕著。106号遺構・包含層と接合。			体部1/3欠
182-6	磁 器	肥前。体部外面四方襷文・斜格子文。106・115・245号遺構と接合。 染付蓋物(身)			体部3/4欠
182-7	陶 器	瀬戸・美濃。体部外面中位に横位の沈線が4本巡る。胎土は浅黄色で、粗 碗 い。畳付を除く外面下半鉄釉（黒・褐色）の後、内面から体部外面上半灰 釉（淡黄色）。			体部上半3/4 欠
182-8	陶 器	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、粗い。体部外面呉須（灰青色）?で松文。全 染付碗 面灰釉（淡黄色）。見込回るような体部内面横位の、体部外面不定方向の擦 痕顕著。			体部2/3欠
182-9	陶 器	瀬戸・美濃。胎土はにぶい淡黄色で、粗い。内面から体部外面灰釉（にぶ 碗 い淡黄色から灰色、口縁部内面の釉溜り白濁）。高台部周囲無釉。高台内に 墨書あり。見込回るような、体部内面横位の、体部外面不定方向の擦痕顕 著。見込は擦れている部分顕著。包含層と接合。			体部下半1/4 欠
182-10	陶 器	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、粗い。内面から体部外面灰釉（淡黄色）。高 碗 台部周囲無釉。高台内に墨書「卒」。見込・体部内外面不定方向の擦痕あり。			体部1/2欠
182-11	陶 器	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、かなり粗い。内面から体部外面灰釉（淡黄 碗 色）。高台部周囲無釉。高台内に墨書「伊」。			1/3
182-12	陶 器	瀬戸・美濃。胎土は灰色で、粗い。内面から体部外面灰釉（明緑灰色）。高 碗 台部周囲無釉。高台内に墨書あり。内外面に細かい不定方向の擦痕あり。 245号遺構・包含層と接合。			体部一部欠
182-13	陶 器	瀬戸・美濃。胎土はにぶい淡黄色で、粗い。内面から体部外面灰釉（明緑 碗 灰色）。高台部周囲無釉。高台内に墨書あり（花押?）。包含層と接合。			体部上半4/5 欠
182-14	陶 器	瀬戸・美濃。胎土は灰色、無釉部は灰黄白色で、粗い。内面から体部外面 碗 灰釉（灰色）。高台部周囲無釉。高台内に墨書「厩紋右」。包含層と接合。			体部3/4欠
182-15 〔46-5〕	陶 器	瀬戸・美濃。胎土は灰色からにぶい淡黄色で、粗い。内面から体部外面灰 碗 釉（灰色で、斑状に黄白色）。高台部周囲無釉。高台内に墨書「厩紋」。106 号遺構・包含層と接合。			体部1/2欠
183-1	陶 器	瀬戸・美濃。胎土は灰色。内面から体部外面灰釉（明緑灰色）。釉ムラ顕 碗 著。高台部周囲無釉。			体部1/2欠
183-2	陶 器	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、粗い。内面から体部外面灰釉（淡黄色）。高 碗 台部周囲無釉。高台内に墨書あり。見込不定方向の、体部内面横位の擦痕			体部上半2/3 欠

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特	徴	残存部位
			顕著。106号遺構と接合。		
183-3	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土はにぶい淡黄色で、粗い。内面から体部外面灰釉（にぶい淡黄色から灰色が斑状）。高台部周囲無釉。高台内に墨書あり。見込に一定方向の、体部内外面横位の擦痕顕著。包含層と接合。		ほぼ完形
183-4	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰色で、粗い。内面から体部外面灰釉（明緑灰色）。高台部周囲無釉。高台内に墨書あり。体部内外面横位の擦痕顕著。包含層と接合。		2/3
183-5	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。内面から体部外面灰釉（灰白色）。高台部周囲無釉。見込に輪状（直径3cm）の目痕あり。245号遺構・包含層と接合。		体部上半ほぼ全部欠
183-6	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰色、露胎部は淡黄色で、粗い。内面から体部外面灰釉（灰色）。高台部周囲無釉。見込・体部外面不定方向の、体部内面横位の擦痕あり。擦れている部分顕著。		体部1/3欠
183-7	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土はにぶい淡黄色で、粗い。内面から体部外面灰釉（にぶい淡黄色、一部灰色）。高台部周囲無釉。高台内に墨書あり（高台内黒く塗る?）。見込に回るような、体部内外面横位の擦痕顕著。		体部一部欠
183-8	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰色で、粗い。内面から体部外面灰釉（灰色）。高台部周囲無釉。内面に回るような、体部外面不定方向の擦痕顕著。内面擦れている部分あり。包含層と接合。		1/2
183-9	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰色で、粗い。内面から体部外面灰釉（緑灰色）。釉ムラ顕著。高台部周囲無釉。見込・体部外面不定方向の、体部内面横位の擦痕顕著。見込・体部外面擦れている部分あり。		体部4/5欠
183-10	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰色。無釉部は灰黄白色。内面から体部外面灰釉（灰色）。高台部周囲無釉。高台内に墨書「□右衛門 六右衛門」。見込・体部外面不定方向の、体部内面横位の擦痕顕著。106号遺構・包含層と接合。		体部1/3欠
183-11	陶 染付碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。体部外面呉須（灰青色）で文様あり。内面から体部外面灰釉（灰白色）。高台部周囲無釉。高台内に墨書あり（花押?）。見込に不定方向の擦痕あり。115号遺構・包含層と接合。		体部一部欠
183-12	陶 碗	器	瀬戸・美濃。体部外面に横位の沈線が2本巡る。胎土は灰白色で、粗い。内面から体部外面灰釉（明緑灰色）の後、鉛釉斑（褐緑色）。高台部周囲無釉。高台内に墨書「吉」。見込に不定方向の、体部内面横位の擦痕あり。245号遺構・包含層と接合。		体部下半2/3欠
183-13	陶 碗	器	瀬戸・美濃。体部外面に横位の沈線が2本巡る。胎土は灰白色で、粗い。内面から体部外面灰釉（灰白色）の後、鉄釉斑（黒褐色）。高台部周囲無釉。見込・体部外面不定方向の、体部内面横位の細かい擦痕あり。		体部1/2欠
183-14	陶 碗	器	瀬戸・美濃。体部外面に横位の沈線が2本巡る。胎土は淡黄色・灰色で、粗い。灰釉（淡黄色で、斑状に灰色）の後、鉄釉斑（褐・黒色）。高台部周囲無釉。見込不定方向の、体部内面横位の擦痕顕著。106号遺構・包含層と接合。		体部1/3欠
183-15 [46-6]	陶 碗	器	瀬戸・美濃。体部外面に横位の沈線が2本巡る。胎土は灰色で、粗い。内面から体部外面灰釉（灰白色で、霧状に白濁）の後、鉄釉斑（黒褐色）。高台部周囲無釉。包含層と接合。		体部1/3欠
183-16 [46-11]	陶 碗	器	瀬戸・美濃。体部に窪み7箇所あり。胎土は灰白色で、粗い。高台部外面から畳付を除く全面鉄釉（黒色）の後、体部外面長石斑。見込は釉が無光沢になっており、使用痕と思われる。		体部一部欠

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
183—17	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。体部外面鉄（黒褐色）で松文。内面から体部外面灰釉（灰白色）。高台部周囲無釉。体部内面横位の擦痕顕著。245号遺構と接合。	体部1/3欠
183—18 〔46—14〕	陶 碗	器	生産地不明。胎土はにぶい橙色。無釉部は赤褐色で、かなり粗い。内面と体部外面透明釉（黒褐色）？の後、口縁部内外面呉須釉（水色）。	体部1/3欠
184—1	陶 碗	器	京焼系。胎土は白色で、磁器質、緻密で堅緻。体部外面下半から高台部銹釉の上に、内面から体部外面透明釉（灰白色）。結果的には、体部外面下半は透明釉がかかったことにより鉄釉（黒褐色）になり、高台部は銹釉（赤紫色）となる。182号遺構・包含層と接合。	1/3
184—2	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土はにぶい橙色で、粗い。畳付を除く全面透明釉？（長石釉？）の後、口縁部内外面呉須釉（水色）。106・115号遺構・包含層と接合。	1/3
184—3	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰色で、粗い。体部外面回転押印文。灰釉（内面は緑灰色、外面は灰色）の後、口縁部内外面鉄釉（黒褐色）。内面に不定方向の擦痕あり。245号遺構と接合。	1/3
184—4	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰色で、粗い。体部外面鉄（黒色）で柳文。内面から体部外面灰釉（灰色）。高台部周囲無釉。高台内に墨書あり。内面・体部外面不定方向の擦痕あり。	1/2
184—5	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰色で、粗い。体部外面鉄絵（黒褐色）。内面から体部外面灰釉（明緑灰色）。高台部周囲無釉。内面・体部外面不定方向の擦痕あり。160号遺構と接合。	1/3
184—6	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色。体部外面鉄（黒褐色）で柳文。内面から体部外面灰釉（灰白色）。高台部周囲無釉。内面体部外面不定方向の擦痕あり。117号遺構・包含層と接合。	体部1/2欠
184—7	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、粗い。内面・体部外面白泥の乱文様の後、灰釉（明緑灰色）。高台部周囲無釉。高台内に墨書「キ」。見込・体部内面に擦痕あり。包含層と接合。	1/5
184—8	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、かなり粗い。体部外面白泥の横縞文様、内面白泥の乱文様の後、灰釉（淡黄色）。高台部周囲無釉。241・245号遺構と接合。	体部上半3/4欠
184—9	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土はにぶい淡黄色で、かなり粗い。体部外面回転押印文。外面灰釉（黄褐色、畳付のみ無釉）の後、内面から口縁部外面緑釉。体部内面横位の擦痕あり。	1/4欠
184—10 〔46—13〕	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、かなり粗い。内面・体部外面から高台部外面灰釉（淡黄色）の後、口縁部内外面呉須釉（水色）。畳付から高台内無釉	1/2
184—11	陶 碗	器	京焼系（信楽？）。胎土は淡黄色で、緻密。体部外面鉄（黒褐色）と呉須（黒青色）で小杉文。内面から体部外面透明釉。高台部無釉。高台内に墨書「兵」。245号遺構と接合。	体部1/2欠
184—12	陶 碗	器	京焼系（信楽？）。胎土は灰白色、緻密で堅緻。内面から体部外面透明釉。高台部無釉。高台内に墨書「吉？」。	1/3
184—13	陶 碗	器	京焼系（信楽？）。胎土は白色で、磁器質。緻密で堅緻。内面から体部外面透明釉（灰白色）。高台部無釉。	体部1/2欠
184—14	陶 碗	器	京焼系（信楽？）。胎土は淡黄色、緻密で堅緻。内面から体部外面透明釉。高台部無釉。	2/3
184—15	陶 徳	器 利	瀬戸・美濃。胎土は灰色。灰釉（緑灰色）。釉ムラ顕著。底部周囲釉ふきとり。胴部外面に釘書き「山川」。胴部外面に焼成時の他個体との溶着痕2箇所	一部欠

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
			所あり。また底面には輪トチが溶着している。口唇部磨滅。	
184—16	陶 徳	器 利	瀬戸・美濃。胎土は灰色で、粗い。外面灰釉（灰色）。底部周囲無釉。外面に釘書き「高サキ」。胴部外面に焼成時の他個体との溶着痕 2 箇所あり。	胴部2/3と 底部1/2
184—17	陶 徳	器 利	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、粗い。外面灰釉（明緑灰色）。底部周囲釉ふきとり。胴部外面に釘書きあり。	胴部下半
185—1	陶 徳	器 利	瀬戸・美濃。胎土はにぶい淡黄色で、粗い。外面灰釉（緑灰色）。底部周囲釉ふきとり。245号遺構と接合。	胴部下半1/2
185—2	陶 徳	器 利	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色。外面灰釉（黄褐色）。底部周囲釉ふきとり（無釉部は赤褐色）。	胴部下半
185—3	陶 徳	器 利	瀬戸・美濃。胎土は灰白色から淡黄色。外面灰釉（灰白色）。	首部
185—4	陶 徳	器 利	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色からにぶい橙色で、粗い。外面灰釉（黄灰色）。口唇部磨滅。	口縁部～肩 部一部
185—5	陶 土 瓶 蓋	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、かなり粗い。外面灰釉（灰白色）に、呉須釉（青色）流しがけ。内面無釉。第185図6と組。	体部3/4
185—6	陶 土 瓶	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、かなり粗い。内面から胴部上半灰釉（灰白色）に、呉須釉（青色）流しがけ。胴部下半無釉。無釉部（胴部下半）は黒く煤ける。胴部下半に近い部分、注口の下半分も黒くなっている。また全面に貫入が入り、すき間は黒くなっている。第185図5と組。	1/2
185—7	陶 受付灯明皿	器	志戸呂。底部外面糸切り痕残るが、その後に体部外面はロクロ削りが入り、周囲は消される。切り込みは一方向から緩い「V」の字状。受部外側と体部外面に輪状の窯道具痕あり。胎土は灰色、緻密で均質。全面銕釉（極暗褐色）。	1/2
185—8	土 受付き灯明皿	器	土師質。切り込みは逆アーチ状。底部左回転糸切り。胎土は橙色。全面透明釉（暗赤褐色）。釉が剥落している部分あり。	完形
185—9	土 受付き灯明皿	器	土師質。切り込みは逆アーチ状。底部左回転糸切り。胎土は橙色。全面透明釉（赤褐色）。	完形
185—10	陶 鉢	器	瀬戸・美濃。胎土はにぶい淡黄色で、かなり粗い。全面灰釉（にぶい淡黄色）の後、緑釉流しがけ。釉は部分的に白濁。	体部1/4
185—11	土 焙	器 烙	土師質。ロクロ紐作り成形。体部外面横位のナデ。内耳は円板状粘土を貼付。穴は棒状工具による左右からの刺突。底部外面ちぢれ目。内耳部に焼成後穿孔（内耳が破損した後に、二次使用）。底部外面黒ずむ。	体部片
185—12	土 焙	器 烙	土師質。ロクロ紐作り成形。体部外面横位のナデ。内耳は円板状粘土を貼付。穴は棒状工具による左右からの刺突。底部外面ちぢれ目。体部外面下半から底部外面黒ずむ。体部外面下半煤付着。	体部片
185—13	陶 擂 鉢	器	備前系（堺）。ロクロ輪積成形。口縁部擂目を施した後に横位のナデ。外面横位のロクロケズリ。擂目11本1単位。器面は赤褐色から赤橙色。	体部片
185—14	陶 擂 鉢	器	備前系（堺）。ロクロ輪積成形。口縁部擂目を施した後に横位のナデ。外面横位のロクロケズリ。擂目9本1単位。器面は赤褐色から暗赤褐色。	体部片
185—15	陶 擂 鉢	器	備前系（堺）。ロクロ輪積成形。口縁部擂目を施した後に横位のナデ。外面横位のロクロケズリ。擂目8本1単位。器面は赤褐色から赤橙色。口縁部作りは折り返しによる。	体部片
185—16	陶 擂 鉢	器	備前系（堺）。ロクロ輪積成形。体部外面横位のロクロケズリ。擂目7本1単位。器面は赤褐色から赤橙色。見込脇に焼台痕あり。	底部1/2

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
185—17 〔69—5a~c〕	土 火	器 鉢	瓦質。ロクロ輪積成形。体部内面指による横位のナデ。体部外面回転押圧文(「く」の字文または斜格子文)を施した後、横位の雑なミガキ。底部外面ナデ(ちぢれ目が残る)。足(3個)は貼付。胎土は黒褐色。口唇部の磨滅。口唇部内側煤付着。体部外面に刻書あり。106号遺構と接合。	1/3欠
185—18	土 火	器 鉢	瓦質。ロクロ輪積(水挽き?)成形。体部内面指による横位のナデ。体部外面回転押圧文(斜格子文)を施した後、横位の雑なミガキ、赤彩? 底部外面ナデ(ちぢれ目が残る)。足(2個痕跡が残存)は貼付。器面は褐灰色で、断面はにぶい橙色。口唇部磨滅。口縁部外面に刻書あり。	体部2/3欠
185—19 〔69—6〕	土 火	器 鉢	瓦質。ロクロ輪積成形。体部内面指による横位のナデ。体部外面回転押圧文(縦位の短沈線文)を施した後、縦位の雑なミガキ。底部外面ナデ(ちぢれ目が残る)。器面は灰褐色で、断面は黒褐色を灰褐色がサンドイッチ状に挟む。口唇部磨滅。口唇部内側煤付着。	体部下半
185—20	土 火	器 鉢	瓦質。ロクロ輪積成形。体部内面指による横位のナデ。体部外面回転横位の雑なミガキ。底部外面ナデ(ちぢれ目が残る)。足(3個のうち2個残存)は貼付。器面は橙色で、断面は灰白色を橙色がサンドイッチ状に挟む。口唇部磨滅。口縁部内側煤付着。	1/3
185—21	土 火	器 鉢	瓦質。ロクロ輪積成形。体部内面指による横位のナデ。体部外面回転押圧文(席目)を施した後、縦位の雑なミガキ。底部外面ナデ(ちぢれ目が残る)。足(3個)は貼付。器面は黒褐色で、断面は黒褐色をにぶい赤褐色がサンドイッチ状に挟む。口唇部磨滅。口唇部内側煤付着。体部外面に刻書あり。	体部1/3欠

第31表 245号遺構出土陶磁器類観察表

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
186—1	磁 染付	器 碗	肥前。見込五弁花、口縁部内面四方禪文、体部外面草と蝶文。	体部上半部 一部欠
186—2	磁 染付	器 碗	肥前。見込五弁花、口縁部内面四方禪文、体部外面矢羽文・氷裂文。内面霧状に白濁。見込回のような擦痕あり。245号遺構・包含層と接合。	体部1/2
186—3 〔39—7a.b〕	磁 染付	器 皿	肥前。蛇ノ目凹形高台。内面栗文、体部外面源氏香文(3単位)。全面に貫入。他に同一文様・器形のもの1個体あり。	2/3
186—4	磁 染付	器 皿	肥前。口唇部輪花状に型打。蛇ノ目凹形高台。見込花卉文、体部内面蛸唐草文、体部外面唐草文。高台内に銘「筒江」。見込・体部外面不定方向の、体部内面横位の擦痕顕著。見込は擦れている部分あり。245号遺構と接合。	1/2
186—5	磁 染付	器 皿	肥前。芙蓉手・見込花虫文。釉は生掛け?	1/4
186—6	磁 青磁染付	器 皿	肥前。口唇部輪花状に型打。蛇ノ目凹形高台。見込草文。疊付を除く外面青磁釉(明緑灰色)。高台内渦福銘。見込・体部外面不定方向回のような、体部内面横位の擦痕顕著。見込は擦れている部分顕著。32・245号遺構と接合。	体部2/3欠
186—7	陶 碗	器	瀬戸・美濃。体部外面に横位の沈線が2本巡る。胎土はにぶい淡黄色で、かなり粗い。内面から体部外面灰釉(灰白色)の後、口縁部内外面呉須釉(青色)・柿釉(褐色)がけ。見込不定方向の、体部内面横位の擦痕あり。106号遺構と接合。	体部1/2欠

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
186—8	陶 碗	器	瀬戸・美濃。体部外面に横位の沈線が2本巡る。胎土は灰白色で粗い。内面から体部外面灰釉（明緑色）の後、体部外面柿釉（褐色）斑。高台部周囲無釉。見込・体部内面回るような擦痕顕著。	体部1/2欠
186—9	陶 碗	器	瀬戸・美濃。体部外面に横位の沈線が2本巡る。胎土は灰色で、粗い。内面から体部外面灰釉（灰色）。高台部周囲無釉。高台内に墨書あり。包含層と接合。	体部上半3/4 欠
186—10	陶 碗	器	瀬戸・美濃。体部外面に横位の沈線が2本巡る。胎土は灰白色。内面から体部外面灰釉（灰白色）の後、体部外面柿釉（褐色）斑。高台内に墨書「勘（助？）人」。見込・体部外面不定方向の、体部内面横位の細かい擦痕顕著。115号遺構・包含層と接合。	体部1/2欠
187—1	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰色で、粗い。内面から体部外面灰釉（灰色）。高台部周囲無釉。見込不定方向の擦痕あり。	2/3
187—2	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色。内面から体部外面灰釉（淡黄色・灰色）。高台部周囲無釉。高台内に墨書あり。見込不定方向の、体部内面横位の擦痕あり。	完形
187—3	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰色で、かなり粗い。内面から体部外面灰釉（灰色）。高台部周囲無釉。見込から体部内面回るような擦痕顕著。	体部1/2欠
187—4	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰色で、粗い。内面から体部外面灰釉（明緑灰色）。高台部周囲無釉。高台内に墨書あり。内面・体部外面不定方向の擦痕あり。	2/3
187—5	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色・淡黄色。内面から体部外面灰釉（灰色・淡黄色）。高台部周囲無釉。内面・体部外面不定方向の擦痕あり。115号遺構・包含層と接合。	体部2/3欠
187—6	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。内面から体部外面灰釉（明緑灰色）。高台部周囲無釉。高台内に墨書あり。内面・体部外面不定方向の擦痕あり。底部全部	体部一部と 底部全部
187—7	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土はにぶい淡黄色。内面から体部外面灰釉（灰白色）。全面白濁、表面ざらつく。高台部周囲無釉。高台内に墨書「勘一」？	体部2/3欠
187—8	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、粗い。内面から体部外面灰釉（淡黄色）。白濁部分多い（焼成不良）。高台部周囲無釉。高台内に墨書あり。包含層と接合。	体部一部と 底部全部
187—9	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰色で、粗い。内面から体部外面灰釉（灰色）。高台部周囲無釉。高台内に墨書「伊」。見込不定方向の擦痕あり。	体部一部欠
187—10	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、粗い。内面から体部外面灰釉（体部上半灰色、他は淡黄色）。高台部周囲無釉。見込・体部外面不定方向の細かい、体部内面横位の擦痕顕著。見込擦れている部分あり。	ほぼ完形
187—11	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。内面から体部外面灰釉（明緑灰色、釉溜りあり）。高台部周囲無釉。見込・体部外面不定方向の、体部内面横位の細かい擦痕顕著。233号遺構・包含層と接合。	体部3/4欠
187—12 [46—4a.b]	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。内面から体部外面灰釉（灰白色）。高台部周囲無釉。高台内に墨書「厩？方？ 仁印（花押カ）」。見込に目痕3箇所あり。376号遺構・包含層と接合。	体部2/3欠
187—13	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色。内面から体部外面灰釉（灰白色）。高台部周囲無釉。高台内に墨書「卒」。見込に輪状（直径2.5cm）の目痕あり。包含層と接合。	1/3
187—14	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土はにぶい淡黄色で、粗い。内面から体部外面灰釉（灰白色）。高台部周囲無釉。106・233号遺構と接合。	体部一部欠
188—1	陶 器	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。内面から体部外面灰釉（緑灰色で透	体部1/2欠

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
		碗	明感あり。高台部周囲・見込は厚い。高台部周囲無釉。見込不定方向の、 体部内外面横位の擦痕あり。106・233号遺構・包含層と接合。	
188-2	陶 器	碗	肥前。胎土は淡黄色で、褐色粗砂を含む。畳付を除く全面透明釉。全面に 貫入する。見込回るような、不定方向の擦痕顕著。	1/4
188-3	陶 器	碗	瀬戸・美濃。胎土はにぶい淡黄色で、かなり粗い。内面から体部外面灰釉 (淡黄色)の後、口縁部内外面呉須釉(灰青色)・柿釉(褐色)。高台内に墨 書あり。見込不定方向の、体部内面横位の擦痕あり。233号遺構と接合。	体部1/4欠
188-4	陶 器	碗	瀬戸・美濃。胎土は灰色で、粗い。体部外面鉄(緑褐色)で柳文。内面か ら体部外面灰釉(明緑灰色)。高台部周囲無釉。見込に不定方向の擦痕あり。	体部1/5欠
188-5	陶 器	碗	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。体部外面鉄(黒褐色)で柳文。内面 から体部外面灰釉(灰白色)。高台部周囲無釉。体部内外面不定方向の擦痕 あり。233号遺構・包含層と接合。	体部3/4欠
188-6	陶 器	碗	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で粗い。体部外面鉄(緑褐色)で柳文。内面か ら体部外面灰釉(明緑灰色)。高台部周囲無釉。体部内面横位の、体部外面 縦位の擦痕あり。	体部1/2欠
188-7	陶 器	碗	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。体部外面鉄(褐色)で柳文。内面か ら体部外面灰釉(灰色)。高台部周囲無釉。高台内に墨書あり。体部外面不 定方向の、体部内面横位の擦痕顕著。見込擦れている部分あり。	体部2/3欠
188-8 [46-10]	陶 器	碗	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、かなり粗い。体部外面横位の回転押印文。 畳付を除く体部外面灰釉(黄褐色)の後、内面から口縁部外面緑釉(黄緑 色)。見込不定方向の擦痕あり。	体部1/3欠
188-9	陶 器	碗	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、かなり粗い。体部外面横位の回転押印文。 畳付を除く外面灰釉(黄褐色)の後、内面から体部外面緑釉(白濁部分多 い)。見込不定方向の細かい擦痕あり。	体部一部欠
188-10	陶 器	碗	瀬戸・美濃。体部に窪み11箇所あり(ただし残存部)。無釉部は明淡黄色、 断面は灰白色で、粗い。高台部周囲を除く全面鉄釉(黒色)の後、体部外 面長石斑。畳付に墨書・刻印(丸の中に崩し字)あり。体部内面立ち上がり 際横位の擦痕あり。	体部上半1/4 欠
188-11 [46-9]	陶 器	碗	瀬戸・美濃。体部に窪みあり。胎土は灰白色で、粗い。高台部を除く全面 鉄釉(黒色)の後、体部外面長石斑。畳付に墨書「寛政七 文蔵 二月□(吉カ 十カ)日」。見込・体部内面下半に回るような擦痕あり。233号遺構と接合。	体部下半
188-12	陶 器	碗	京焼系。体部外面蛇腹状で、窪み3箇所あり。胎土は白色、緻密で堅緻。 内面から体部外面長石釉(白色)。全面に貫入する。高台内中央部に工具で つけた渦巻あり。	体部1/2欠
188-13	陶 器	碗	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、かなり粗い。内面から体部外面灰釉(黄灰 色)に、体部外面柿釉(褐色)斑。	体部3/4欠
188-14	陶 器	碗	京焼系。胎土は白色で、緻密。内面から体部外面透明釉(厚く、全面に貫 入する)。高台部周囲無釉。高台内に朱書「徳」。	体部2/3欠
188-15 [46-12a.b]	陶 器	碗	京焼系。胎土は淡黄色で、緻密。体部下半から高台部銹釉の上に、内面か ら体部外面透明釉。結果的には体部下半は透明釉がかかったことより鉄釉 (黒色)になり、高台部は銹釉(赤紫色)となる。高台内に墨書「ヤタ(ナ タ?)」。115号遺構・包含層と接合。	体部1/4欠
188-16	陶 器	碗	京焼系。胎土は淡黄色で、緻密。体部下半から高台部銹釉の上に、内面か ら体部外面透明釉。結果的には体部下半は透明釉がかかったことより鉄釉 (黒色)になり、高台部は銹釉(紫色)となる。125号遺構・包含層と接合。	体部1/5欠

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特	徴	残存部位
189—1	陶 碗	器	京焼系(信楽?)。胎土は淡黄色で、緻密。体部外面鉄(黒褐色)と呉須(灰青色)で小杉文。内面から体部外面透明釉。高台部無釉。高台内に墨書あり。		体部上半1/3 欠
189—2	陶 碗	器	京焼系(信楽?)。胎土は淡黄色で、緻密。体部外面鉄(黒褐色)と呉須(灰青色)で小杉文。内面から体部外面透明釉。高台部無釉。		体部1/5欠
189—3	陶 碗	器	京焼系(信楽?)。胎土は淡黄色で、緻密。体部外面鉄(黒褐色)と呉須(灰青色)で小杉文。内面から体部外面透明釉(灰白色)。高台部無釉。釉際に炎色(橙色)出る。		体部1/4欠
189—4	陶 香 炉	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。体部内外面錆釉(褐色、光沢なし)。見込・高台部周囲無釉。		体部1/3欠
189—5	陶 徳 利	器	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、粗い。外面灰釉(淡黄色)。胴部外面に釘書きあり。		口縁～胴部 上半2/3
189—6	陶 徳 利	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。外面灰釉(灰白色)。底部周囲無釉。胴部外面に釘書き「久〇」。		2/3
189—7	陶 徳 利	器	瀬戸・美濃。胎土はにぶい淡黄色で、粗い。外面灰釉(緑灰色)。胴部外面に釘書き「久〇」。106号遺構と接合。		口縁～胴部 上半1/2
189—8 [49—4]	陶 徳 利	器	瀬戸・美濃。胎土は灰色で、粗い。外面灰釉(黄白色)。底部周囲無釉ふきとり。胴部外面に釘書き「いせや」。胴部外面に焼成時の他個体との溶着痕あり。		首部・胴部 1/6欠
189—9	陶 徳 利	器	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、粗い。外面灰釉(緑灰色)。		首部
189—10	陶 徳 利	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。外面灰釉(緑灰色)。底部周囲無釉ふきとり。胴部外面に釘書き「[t]」。胴部外面に焼成時の他個体との溶着痕1箇所あり。胴部に成形時に穴のあいた部分があり、そこに粘土をつめて穴をふさいでいる(2箇所)。233号遺構と接合。		首部欠と接 合
189—11	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。		1/3
189—12	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。底部内面に墨書あり。口唇部煤付着。		1/2
190—1	陶 摺 鉢	器	備前系(堺)。ロクロ輪積成形。口縁部擂目を施した後に横位のナデ。外面横位のロクロケズリ。擂目の単位は不明。器面は赤褐色から赤橙色。		体部片
190—2 [69—9]	土 蓋?	器	土師質。粘土板成形。全面ナデ。胎土はにぶい橙色。内面に煤付着。		不明
190—3	土 火 鉢	器	土師質。ロクロ輪積成形。体部内面指による横位の強いナデ。口唇部指による横位のナデ。体部外面雑な横位のミガキ。底部外面ナデ。足(1個残存)は貼付。胎土はにぶい橙色。口唇部外側磨滅。口唇部内側煤付着。体部外面に刻書「八」。		1/3
190—4 [69—2]	土 火 鉢	器	土師質。ロクロ輪積成形。体部内面指による横位の強いナデ。口縁部指による横位のナデ。体部外面雑な横位のミガキ。底部外面ちぢれ目。足(3個のうち2個は痕跡)は貼付。胎土は橙色。体部外面銀彩? 口唇部磨滅。口唇部内側煤付着。		ほぼ完形
190—5	土 火 鉢	器	土師質。ロクロ輪積成形。体部内面指による横位の強いナデ。口縁部指による横位のナデ。体部外面雑な横位のミガキ。底部外面ナデ、板状痕? 足(1個残存)は貼付。胎土は橙色。口唇部磨滅。口唇部内側煤付着。体部外面に刻書あり。		1/6
190—6	土 器	器	土師質。ロクロ輪積成形。体部内面指による横位の強いナデ。口縁部指による横位のナデ。体部外面雑な横位のミガキ。底部外面ナデ、板状痕? 足(1個残存)は貼付。胎土は橙色。口唇部磨滅。口唇部内側煤付着。体部外面に刻書あり。		体部2/3欠

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
	火	鉢	よる横位のナデ。体部外面雑な横位のミガキ。底部外面ナデ。足（3個のうち2個残存）は貼付。胎土は橙色。口唇部磨滅。口唇部内側煤付着。底部内面に墨書「 <input type="text"/> 左衛門 正 <input type="text"/> <input type="text"/> 七 <input type="text"/> <input type="text"/> 」。底部外面には「 <input type="text"/> 左衛門 <input type="text"/> 半」	
190-7	土	器	瓦質。ロクロ輪積（水挽き？）成形。体部内面指による横位の強いナデ。	1/2
[69-3a.b]	火	鉢	体部外面回転押圧文（蓆目）を施した後、横位の雑なミガキ。底部外面左回転糸切り痕。足（2個痕跡残存）は貼付。器面は黒色で、断面にぶい橙色。	
190-8	土	器	瓦質。成形方法不明。体部内面指による横位の強いナデ。体部外面回転押	口縁部欠
	火	鉢	圧文（蓆目）を施した後、横位の雑なミガキ、赤彩。底部外面雑なナデ。足（3個）は貼付。胎土は灰色で、黒色をサンドイッチ状に挟む。口唇部磨滅。底部外面に刻書「十蔵」。	
190-9	土	器	瓦質。ロクロ輪積成形。体部内面指による横位の強いナデ。体部外面回転	1/4
	火	鉢	押圧文（曲線文）を施した後、横位の雑なミガキ、赤彩。底部外面スグレ状痕。足（2個残存）は貼付。器面は黒灰色で、断面は褐灰色。口唇部磨滅。	
190-10	土	器	瓦質。ロクロ輪積成形。体部内面指による横位の強いナデ。体部外面回転	1/6
	火	鉢	押圧文（蓆目）を施した後、横位の雑なミガキ、赤彩？ 底部外面ナデ。足（1個残存）は貼付。器面は黒灰色で、断面は黒灰色を灰褐色がサンドイッチ状に挟む。口唇部磨滅。口唇部内側煤付着。底部外面に刻書「七 <input type="text"/> 」	
190-11	土	器	土師質。ロクロ紐作り成形。体部外内面指横位のナデ。体部外面下位にケ	1/3
	焙	烙	ズリ痕が残る。底部外面ちぢれ目。底部内面・体部外面下半から底部外面煤ける。	

第32表 1号遺構出土陶磁器類観察表

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
191-1	磁	器	肥前。ハリ支え痕。見込松竹梅文，体部内面宝尽し文，体部外面唐草文。	体部2/3欠
	染	付皿	高台内1重圏線内に銘「太明年成」。見込は不定方向の，体部内面回ような擦痕顕著。見込擦れている部分あり。焼継ぎ。49号遺構・築山・包含層・山上会議所地点と接合。	
191-2	磁	器	肥前。ハリ支え痕（1個は溶着したまま）。内面松竹梅文，体部外面唐草	底体部下半
	染	付皿	文。高台内1重圏線内に銘「太明年製」。築山・包含層と接合。	2/3
192-1	磁	器	肥前。ハリ支え痕。内面松竹梅文，体部外面唐草文。高台内1重圏線内に	体部上半2/3
	染	付皿	銘「吉」。見込不定方向の擦痕あり。	欠
192-2	磁	器	肥前。ハリ支え痕。内面牡丹文，体部外面唐草文。高台内1重圏線内に銘	2/3
	染	付皿	「富貴長春」。見込不定方向の擦痕あり。	
193-1	磁	器	肥前。ハリ支え痕。内面墨弾き雲文・牡丹文（牡丹の蕾？），体部外面宝	1/3
	染	付皿	文。高台内1重圏線内に銘「太 <input type="text"/> 年製」。見込不定方向，体部内面回ような擦痕顕著。焼継ぎ。築山・包含層と接合。	
193-2	磁	器	肥前。見込松竹梅文，体部内面蛸唐草文，体部外面唐草文。高台内に1重	1/2
[41-46]	染	付皿	圏線あり。見込擦痕あり。築山・包含層と接合。	
194-1	磁	器	肥前。ハリ支え痕。見込松竹梅文，体部内面蛸唐草文，体部外面唐草文。	体部1/2欠

插图番号 [写真番号]	種 器	別 種	特	微	残存部位
	染付皿		高台内1重圈線内に銘「太明成化年製」。見込不定方向の擦痕あり。49号遺構・包含層・山上会館地点と接合。		
194-2	磁器		肥前。見込楼閣山水文、口縁部内面四方禪文、体部外面花唐草文。高台内		1/3
	染付鉢		に1重圈線あり。焼継ぎ。包含層と接合。		
195-1	磁器		肥前。蛇ノ目凹形高台。見込縁側と植木文、口縁部内面雲と花卉文、体部		1/4欠
	青磁染付鉢		外面唐草文。体部内面青磁釉(明緑色)。高台内渦福銘。畳付が出っ尻になっ		
			ていて安定しない。		
195-2	磁器		肥前。見込草に鳥文、体部内面区画割草花文・山水文(墨弾き使用)。高台		体部2/3欠
	染付鉢		内1重圈線内に角福銘。焼継ぎ。築山・包含層と接合。		
195-3	磁器		肥前。外面草花文。		完形
	染付蓋				
195-4	磁器		肥前。全面白濁しており、一部に貫入入る。		1/2
	白磁小杯				
195-5	磁器		肥前。体部外面橋と柳文。		1/2
	染付碗				
195-6	舶載磁器		中国。角皿と思われるが、全形不明。見込草花文(輪郭は黒色、葉・植木		底部1/4
口絵8-6	色絵皿		鉢は緑色、太胡石は黄色、他に紫色)。高台内具須で銘あり。高台内粗砂付		
			着。高台内回るような擦痕顕著。被熱により色絵部分溶着物あり。		
196-1	陶器		瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、粗い。内面鉄(褐色の枝)と具須(灰青色		体部1/3欠
	皿		の葉)で柳文。内面から体部外面上半灰釉(黄白色)。体部外面下半から高		
			台内無釉。見込に目痕6箇所あり。		
196-2	陶器		信楽・四耳壺。胎土は白色、緻密で堅緻。白色礫(5mm大)を多量に含む。胴部1/3欠		
[50-5]	壺		口縁部内面から胴部外面中位鉄釉(暗褐色)の後、胴部上位灰釉(灰オリ		
			ーブ色)がけ。胴部下半から底部外面透明釉。底部外面釉ふきとり。底部外		
			面砂付着。築山と接合。		
197-1	陶器		瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、粗い。体部外面具須(灰青色)で文様あり。体部一部と		底部全部
	碗		高台部を除く全面灰釉(灰白色)。高台部周囲無釉。		
197-2	陶器		瀬戸・美濃。体部に窪み1箇所以上あり。胎土は淡黄色で、粗い。内面か		体部一部と
	碗		ら体部外面鉄釉(黒色・黒褐色)の後、体部外面長石斑。高台部周囲無釉。底部全部		
197-3	陶器		京焼系(信楽?)胎土は灰白色で、緻密。高台部を除く全面透明釉。高台		1/3
	碗		部無釉。		
197-4	陶器		瀬戸・美濃。胎土は灰色、緻密で堅緻。口縁部外面から内面灰釉(オリ		完形
	蓋		ーブ灰色)。一部白濁。体部・底部外面無釉。		
197-5	陶器		瀬戸・美濃。つまみは貼付。胎土は淡黄色。口縁部外面から内面柿釉。底		1/2
	蓋		体部外面無釉。		
197-6	陶器		瀬戸・美濃。高台部に透し3箇所あり。胎土は淡黄色で、粗い。口縁部内		体部1/4欠
	植木鉢		面から体部外面灰釉(灰白色)。内面・高台内無釉。底部焼成前穿孔。74号		
			遺構と接合。		
197-7	陶器		瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、緻密。口縁部内面から外面灰釉(灰白色)。		口縁部～肩部
	徳利		全面霧状に白濁。		
197-8	陶器		瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。胴部外面灰釉(灰白色)。底部外面無		1/2
	徳利		釉。胴部外面に釘書き「八上」。		
197-9	陶器		瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。口縁部内面から外面灰釉(明緑灰		口縁部～肩
	徳利		色)。口唇部磨滅。		部一部
197-10	陶器		瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、緻密。外面灰釉(灰白色)。胴部外面に釘書		口縁部～胴

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
197-11	徳 陶 器	利 器	きあり。口唇部細かく割れており、使用痕と思われる。 瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、粗い。外面灰釉（黄色）。底部外面周囲釉ふ	部一部 2/3
197-12	徳 陶 器	利 器	きとり。胴部外面に釘書きあり。 瀬戸・美濃。胎土は淡黄色。外面から口縁部内面灰釉（淡黄色）。口唇部磨	口縁部～肩部
197-13	徳 陶 器	利 器	減。 瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、粗い。外面灰釉（淡黄色）。底部外面周囲釉	胴部2/3欠
197-14	徳 陶 器	利 器	ふきとり。胴部外面に釘書きあり。 瀬戸・美濃。胎土は黄白色。外面灰釉（灰緑白色）。底部外面周囲釉ふきと	1/2
198-1	徳 陶 器	利 器	り。胴部外面に釘書きあり。首部を欠いて二次使用。内面は全面に鉄錆状 の褐色の付着物あり。 瀬戸・美濃。胎土断面は灰色、無釉部はにぶい黄橙色で、粗い。内面から 体部外面上・中位柿釉（斑状に黒色部分あり）。体部外面下位から底部外面 無釉。口唇部に砂目痕3箇所あり。	2/3
198-2	陶 器	器	志戸呂。胎土断面は灰色、無釉部は明褐色、緻密で堅緻。体部外面上半か ら内面錆釉（赤紫色）。	受部1/2欠
198-3	陶 器	器	瀬戸・美濃。胎土は灰色で、粗い。全面錆釉。体部下半から底部釉ふきと	1/2
198-4	陶 器	器	り。見込に重ね積み痕残る。 瀬戸・美濃。把手は2箇所で貼付。胎土は灰白色で、粗い。全面柿釉（褐 色）。	口縁部～体 部上半1/3
198-5	陶 器	器	瀬戸・美濃。把手は2箇所で貼付。胎土は灰色、緻密で堅緻、均質。全面 柿釉（褐色）。	口縁部～体 部上半1/3
198-6	陶 器	器	京焼系。胎土は浅黄橙色、緻密で均質。体部外面梅樹文（花は白泥・鉄・ 呉須、枝は鉄）。全面透明釉。口縁部内面と体部底部際から量付無釉。口縁 部内面釉際炎色（橙色）出る。	1/3
198-7	土 器	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部焼成前穿孔。	ほぼ完形
198-8	土 器	器	かわらけ ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	体部1/2欠
198-9	土 器	器	かわらけ ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	1/2
198-10	土 器	器	ロクロ水挽き成形。体部外面から底部はロクロナデ（滑らかになってい る）。胎土は橙色。	体部1/2欠
〔65-1〕	土 器	器	かわらけ 土師質。切り込みは逆アーチ状。底部左回転糸切り。胎土は橙色。全面透 明釉（暗赤色）。	口縁部1/4欠
198-11	土 器	器	受付き灯明皿 土師質。切り込みは逆アーチ状。底部左回転糸切り。胎土は橙色。全面透 明釉（暗赤色）。	体部1/4欠
198-12	土 器	器	受付き灯明皿 土師質。切り込みは逆アーチ状。胎土は橙色。全面透明釉（橙色）。	1/2
198-13	土 器	器	灯明具 土師質。底部左回転糸切り。胎土は橙色。受部の口唇部煤付着。	完形
198-14	土 器	器	灯明具 土師質。底部左回転糸切り。胎土は橙色。全面透明釉（暗赤色）。受部の口 唇部煤付着。透明釉は剥落部分多い。	体部上半1/3 欠
198-15	土 器	器	灯明具 土師質。底部左回転糸切り。胎土は橙色。全面透明釉（暗赤色）。受部の口 唇部煤付着。透明釉剥落部分多い。	ほぼ完形
198-16	土 器	器	灯明具 瀬戸・美濃縮。口唇部「T」字状。胎土は淡黄色で、粗い。体部外面工具	体部上半1/3

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特	徴	残存部位
198-18	土 鉢	甕 器	による流水文。全面灰釉（灰白色）の後、緑釉・鉛釉がけ。 瓦質。ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り痕。器面は黒灰色。胎土は灰 色で、黒灰色をサンドイッチ状に挟む。		1/4
198-19	土 火鉢	土師 鉢	土師質。ロクロ水挽き成形？ 体部内面上半から体部外面赤彩。赤彩部分 はミガキが施されたように器面が平滑になっている。体部外面桜花の押印。1/5残 胎土は橙色。口唇部磨滅。		口縁～体部

第33表 49号遺構出土陶磁器類観察表

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特	徴	残存部位
199-1	磁 白磁	器 蓋	肥前		完形
199-2	磁 染付	器 蓋	肥前。体部外面唐草文、つまみ縦線文。		完形
199-3	磁 染付	器 蓋	肥前。体部外面草文。		完形
199-4	磁 色絵	器 蓋	肥前。体部上面丸文（呉須）、四方襷文（赤・金色）、雷文（赤色）、つまみ は金色。		口縁部一部欠
199-5	磁 染付	器 蓋	瀬戸・美濃。胎土はガラス質。体部外面松竹梅文。		体部1/4欠
199-6	磁 色絵	器 小杯	肥前。体部内面草花文（輪郭は黒色・花は緑色・葉は青色）、口縁部内面波 濤文（青色）、見込花卉文（緑・赤色）。		体部一部欠
199-7	磁 染付	器 碗	肥前。胎土はガラス質。体部外面浮草文。		体部1/4欠
199-8	磁 染付	器 碗	瀬戸・美濃。胎土はガラス質。体部外面鶴文。		2/3
199-9 口絵2-2ab	磁 色絵	器 碗	再興九谷民山窯。胎土は半磁胎で、ザクザクしている。見込草花文（輪郭 は黒色、葉は緑色、花は赤色の線描き）、体部内面如意頭文で、丸文の中に 「福」「寿」幾何学文・花唐草文（以上赤、金色）、体部外面如意頭文・幾何 学文（赤・金色）・窓絵草花文（輪郭線は黒色、緑色の塗り、赤色の線書 き）。高台内に銘「民山」。他に同一文様・器形のもの1個体あり。		ほぼ完形
199-10	磁 染付	器 碗	瀬戸・美濃。胎土はガラス質。見込雲文、体部外面蝙蝠と雲文（輪郭線線 彫の上をダミ書き）。高台内に銘「キ」。		完形
199-11 〔44-10〕	舶載磁器 染付銅入れ？		中国。体部外面草花文（ペンシル・ドローイング）。つまみ？が2個つくと 思われる。口縁部は無釉。		2/3
199-12	磁 白磁	器 皿	瀬戸・美濃。胎土はガラス質。		体一部欠
199-13	磁 白磁	器 鉢	肥前。型打成形。目の部分のみ鉄釉（褐色）。		一部欠
199-14	陶 香炉	器	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で粗い。口唇部から体部外面灰釉（黄褐色）。内 面・高台部周囲無釉。内面は自然釉がかかる。体部の高台部際に重ね積み 痕残る。口唇部細かい磨滅痕あり。		体部1/2欠
199-15	陶 香炉	器	瀬戸・美濃。胎土はにぶい橙色で粗い。口唇部から体部外面灰釉（灰黄 色）。内面・高台部周囲無釉。口唇部磨滅痕あり。		1/2

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特 徴	残存部位
199—16 [51—2a.b]	陶 餌 入 れ	器	瀬戸・美濃。底部外面中央部に回転糸切り痕残る。胎土は淡黄色。内面から体部外面灰釉（灰黄白色）。口唇部・底部外面無釉。底部外面に墨書「御鳥 御用」。	把手欠
199—17	陶 餌 入 れ	器	瀬戸・美濃。把手は帯状粘土を貼付。底部外面中央部に回転糸切り痕残る。胎土は淡黄色。内面から体部外面灰釉（灰黄白色から灰白色，斑状）。口唇部・底部外面無釉。	体部一部欠
199—18	陶 餌 入 れ	器	瀬戸・美濃。底部外面中央部に回転糸切り痕残る。胎土は淡黄色。内面から体部外面灰釉（灰白色）。底部外面無釉。	完形
199—19	陶 餌 入 れ	器	瀬戸・美濃。把手は帯状粘土を貼付。底部外面中央部に回転糸切り痕残る。胎土は淡黄色。内面から体部外面灰釉（黄白色）。底部外面無釉。	ほぼ完形
199—20	陶 餌 入 れ	器	瀬戸・美濃。把手は帯状粘土を貼付。底部外面中央部に回転糸切り痕残る。胎土は淡黄色。内面から体部外面灰釉（明黄白色）。底部外面無釉。	完形
199—21	陶 餌 入 れ	器	瀬戸・美濃。把手は帯状粘土を貼付。底部外面中央部に回転糸切り痕残る。胎土は淡黄色で粗い。内面から体部外面灰釉（淡黄色）。底部外面無釉。	体部1/2欠
199—22	陶 餌 入 れ	器	瀬戸・美濃。把手は帯状粘土を貼付。胎土は淡黄色で粗い。灰釉（淡黄色）。底部外面無釉。底部外面に墨書あり。	1/2
199—23	陶 餌 入 れ	器	瀬戸・美濃。底部外面中心部に回転糸切り痕残る。胎土は淡黄色。内面から体部外面灰釉（淡黄色）。口唇部・底部外面無釉。	把手部と体部一部欠
199—24	陶 餌 入 れ	器	瀬戸・美濃。底部外面中心部に回転糸切り痕残る。胎土は淡黄色。内面から体部外面灰釉（灰白色・白濁）。底部外面無釉。	把手部と体部一部欠
199—25	陶 餌 入 れ	器	瀬戸・美濃。底部外面ロクロケズリ。把手は帯状粘土を貼付。胎土は淡黄色で粗い。内面から体部外面灰釉（灰黄白色から灰白色，斑状）。口唇部・底部外面無釉。	完形
199—26	陶 餌 入 れ	器	瀬戸・美濃。把手はついていたと思われる。底部外面中央部に回転糸切り痕残る。胎土は淡黄色で粗い。内面から体部外面灰釉（淡黄色）。底部外面無釉。底部外面に墨書「纏」。	体部2/3欠
199—27 [51—1a.b]	陶 餌 入 れ	器	瀬戸・美濃。把手は帯状粘土を貼付。底部外面中央部に回転糸切り痕残る。胎土は淡黄色。内面から体部外面灰釉（淡黄色）。口唇部・底部外面無釉。底部外面に墨書「纏」。	体部1/3欠
199—28	陶 餌 入 れ	器	瀬戸・美濃。把手は帯状粘土を貼付。底部外面中央部に回転糸切り痕残る。胎土は淡黄色。内面から体部外面灰釉（灰白色）。口唇部・底部外面無釉。底部外面に墨書「纏」。	体部1/2欠
199—29	陶 餌 入 れ	器	瀬戸・美濃。把手はついていたと思われる。底部外面中央部に回転糸切り痕残る。胎土は淡黄色で粗い。内面から体部外面灰釉（灰白色，白濁）。口唇部・底部外面無釉。底部外面に墨書「纏」。	1/2
200—1	陶 土 瓶	器	信楽？ 底部に突起3個あり。胎土は灰白色，緻密で堅緻。口縁部から胴部外面上半上野釉（緑灰色）。胴部外面下半から底部外面無釉。内面透明釉。無釉部黒ずんでいる。	底部と胴部一部欠
200—2 [51—3a.b]	陶 片 口	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で，かなり粗い。内面から体部外面上半灰釉（灰白色）。体部外面下半から高台部無釉。体部外面下位と高台内に墨書「松の間溜り三ツの内 纏印」。見込に目痕5箇所あり。	体部1/3欠
200—3	陶 徳 利	器	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色。外面灰釉（灰緑色）。口唇部磨滅。	口縁部全部と胴部上半1/3
200—4	陶 徳 利	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で，粗い。胴部外面灰釉（明緑灰色）。底部周囲釉ふきとり。胴部外面に釘書きあり。胴部外面に焼成時の他個体との溶着	胴部下半

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特	徴	残存部位
			あり（1箇所）。		
200—5 〔49—5〕	陶 器	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色。外面灰釉（灰白色）。底部周囲無釉。胴部外面	徳 利	に釘書き「大」。胴部中位に他個体との溶着痕あり（1箇所）。	完形
200—6	土 器	土師質。底部左回転糸切り。胎土は橙色。全面透明釉（赤褐色）。口唇部煤	灯 明 皿	付着。	3/4
200—7	土 器	土師質。切り込みは逆アーチ状。胎土は橙色。脚部内面を除く、全面透明	灯 明 具	釉（赤褐色・緑灰色）。脚部内面無釉。	受皿部と脚部上半
200—8	土 器	土師質。切り込みは逆アーチ状。胎土は橙色。脚部内面を除く、全面透明	灯 明 具	釉（赤褐色）。脚部内面無釉。	裾部5/6欠
200—9 〔51—13〕	軟質陶器	生産地不明。体部外面には把手が2箇所つく。体部上位には透しが入る。	香 炉 ？	胎土は浅黄褐色でかなり粗い。体部外面椿文（輪郭は黒色、花は白色、葉は白・緑色でいずれも光沢なし）。透明釉（雲母のような光沢あり）が外面にかかっていたと思われるが、ほとんど剥落している。内面黒斑がつく。	体部一部と把手片側欠
200—10	舶載磁器	中国。かなり粗い。台部外面幾何学文。畳付粗砂付着。	染付器種不明		台部1/2
200—11	舶載磁器	中国。見込丸文（中に唐草文？ 色絵）、地は紗綾形文他（呉須・赤色？）、体部外面文様あり。高台内カンナケズリ痕。高台部内面粗砂付着。被熱により色絵部分変色。	色 絵 皿		底部1/4
201—1	陶 器	備前系（堺）。ロクロ輪積成。口縁部撞目を施した後に横位のナデ。体部外面横位のロクロケズリ。撞目8本1単位。器面は赤褐色から赤橙色。体部外面口縁部直下に重ね焼きの痕あり。	鉢		体部片
201—2	土 器	瓦質。ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り痕。胎土・内面は灰白色。外面黒灰色。	植 木 鉢		1/4欠
201—3	土 器	土師質。ロクロ水挽き成形。底部特殊左回転糸切り痕。胎土は橙色。	鉢		体部上半2/3欠
201—4	土 器	瓦質。ロクロ水挽き成形。しきりは貼付。底部左回転糸切り痕。器面は黒色で、断面は黒色を灰白色がサンドイッチ状に挟む。	鉢		1/3
201—5	土 器	瓦質。ロクロ輪積成形。全形不明。口縁部内面に把手の痕跡あり（1箇所）。体部内面ナデ。口唇部雑なミガキ。体部外面ナデ（鐳部はナデツケで接合）。底部際横位のケズリ。底部外面ちぢれ目。器面は黒灰色で、断面は黒色を灰白色がサンドイッチ状に挟む。	鉢		1/2？



第34表 遺構・包含層出土陶磁器類観察表

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特	徴	残存部位	出土遺構 出土層位
202—1	磁 器	肥前。胎土は灰白色、見込荒磯文、体部内面魚文、体部外面	染 付 碗	竜と鳳凰文（呉須は青灰色）。器面霧状に白濁。見込擦れている部分あり。包含層と接合。	体部1/2欠	278号遺構 VI期
202—2	磁 器	肥前。口縁部内面波濤文（緑色？）、体部内面如意頭文（黄色？）、内面竹林文？（輪郭は黒色で、中は黄色、他の色は被熱により変色・溶着）。体部外面花卉文（花は黄色、葉は青色？）。高台内に2重圈線あり。被熱。包含層と接合。	色 絵 皿		1/6	264号遺構 III期
202—3	磁 器	肥前。獣脚は3個と思われる（1個残存）。内面線彫草文。全	青 磁 皿	面（畳付を除く）青磁釉（透明感のある水色）。畳付粗砂付	1/4	192b号遺構 III期

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位	出土遺構 出土層位
			着。見込不定方向の擦痕顯著。		
203-1	磁 青 磁 皿	器	肥前。体部内面篇文。獣脚は3個(2個残存)。高台部蛇ノ目 釉ハギ(釉ハギ部は鉄釉塗付)。見込呉須で菊に流水文。釉ハ ギ部を除く全面青磁釉(透明感のある水色)。体部外面貫入入 る。釉ハギ部にチャツ痕跡あり。獣脚の底面擦れている。包 含層を接合。	体部7/8欠	496号遺構 III期
203-2	磁 青 磁 皿	器	肥前。体部花卉状に型打。高台部蛇ノ目釉ハギ(釉ハギ部は 鉄釉塗付)。内面線彫草花文。釉ハギ部を除く全面青磁釉(や や透明感のある緑灰色)。釉ハギ部にチャツ痕あり。見込不定 方向の擦痕あり。被熱により溶着部分あり。包含層と接合。	体部1/6欠	326号遺構 III期
204-1	磁 染 付 皿	器	肥前。芙蓉手・見込花鳥文。釉は生がけで外面に貫入入る。 高台際・高台虫食い顯著。高台内1重圈線内に銘あり。802号 遺構と接合。	底部2/3	603号遺構 IV期
204-2	磁 青 磁 皿	器	肥前。口唇部花卉状に型打。高台部蛇ノ目釉ハギ(釉ハギ部 は鉄釉塗付)。内面陽刻蓮葉文(あるいは芋葉?)。体部内面 は口縁部にかけて開く蛇腹状(葉脈あるいは花卉の表現?)。 釉ハギ部を除く全面青磁釉(黄緑色)。全面に貫入入る。内面 虫食い顯著。釉ハギ部にチャツ痕あり。196号遺構・包含層を 接合。	1/8	244号遺構 III期
204-3	陶 甕	器	常滑? 内面には輪積時の指頭痕残る。口縁部は横位のナデ 調整。胎土は断面明赤褐色、外面暗赤褐色。断面縞状、緻密 で堅緻。白色粗砂・礫(3mm大)を多く含む。	口縁部1/4	539号遺構 III期
204-4	陶 甕	器	常滑? 内面横位のナデツケ、口縁部は横位のナデ調整。胎 土は断面明赤褐色、外面暗赤褐色、緻密で堅緻。底部焼成後 穿孔?	体部一部欠	567号遺構 III期
205-1	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で粗い。内面から体部外面灰釉(明 緑灰色)。高台部周囲無釉。高台内墨書あり。包含層と接合。	体部上半5/ 6欠	115号遺構 VI期
205-2	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で粗い。内面から体部外面灰釉(灰 白色)。全面霧状に白濁。高台部周囲無釉。高台内墨書「勘 七」。包含層と接合。	体部5/6欠	115号遺構 VI期
205-3	陶 碗	器	胎土は灰白色で粗砂を多く含む。内面から体部外面灰釉(明 緑灰色)。高台部周囲無釉。高台内に墨書「三十」。	ほぼ完形	534号遺構 IV期
205-4	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰色で粗い。内面から体部外面灰釉(明 緑灰色)。高台部周囲無釉。高台内に墨書「九」。見込回るよ うな、体部内面横位の、体部外面不定方向の細かい擦痕顯著。	体部1/2欠	106号遺構 VI期
205-5	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰色で粗い。内面から体部外面灰釉(灰 色)。高台部周囲無釉。高台内に墨書「吉□(郎ヵ原ヵ)」。体 部内面横位の擦痕あり。	体部2/3欠	106号遺構 VI期
205-6	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色・灰白色で粗い。内面から体部外 面灰釉(灰色)。高台部周囲無釉。高台内に墨書「半佐衛門 花 押」、高台部周囲に墨書。「半佐衛門 □」。体部外面不定方向 の擦痕、見込擦れている部分顯著。包含層と接合。	体部2/3欠	106号遺構 VI期
205-7	陶 碗	器	瀬戸・美濃。体部外面横位の沈線が2条巡る。胎土は灰色で 粗い。内面から体部外面灰釉(明緑灰色)に鉄釉斑(オリ ブ褐色)。高台内に墨書「宇右衛門?」。見込不定方向の、体	体部一部欠	106号遺構 VI期





挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位	出土遺構 出土層位
205-8	陶 器 碗		部内面横位の擦痕あり。 京焼系。体部外面中位と下位にそれぞれ沈線が巡る。胎土は灰白色、緻密で堅緻。体部外面松文（松葉は白泥、枝は黒褐色の鉄）。内面から体部外面灰釉（明緑灰色）。全面に貫入入る。高台内に墨書「由」。見込に目痕3箇所あり。また高台部の体部際には工具による斜位の鑄が入る。	体部1/4欠	234号遺構 Ⅲ期
205-9	陶 器 碗		信楽。胎土は灰白色、緻密で堅緻。内面から体部外面灰釉（明緑灰色）。全面に貫入入る。釉際には炎色（橙色）出る。高台部周囲無釉。高台内に墨書「ヤタ」。	体部4/5欠	125号遺構 Ⅴ～Ⅵ期
205-10	陶 器 碗		瀬戸・美濃。胎土は灰白色。体部外面鉄（黒褐色）で柳文。内面から体部外面灰釉（明緑灰色）。高台部周囲無釉。高台内に墨書「中」。見込不定方向の擦痕、擦れている部分あり。	体部上半1/ 2欠	42号遺構 Ⅷ期
205-11	陶 器 碗		瀬戸・美濃。胎土は灰色・浅黄褐色で粗い。体部外面鉄（黒灰色）で柳文（焼成悪く、文様が沈んでいる）。内面から体部外面灰釉（灰白色）。外面釉ムラ目立つ。高台内に墨書「○加平」。体部内面下半横位の擦痕あり。	1/2	125号遺構 Ⅴ～Ⅵ期
205-12	陶 器 碗		信楽。胎土は白色、緻密で堅緻。内面から体部外面長石釉。全面に貫入入り、白濁。高台内に墨書あり。	体部一部欠	106号遺構 Ⅵ期
206-1	陶 器 碗		京焼風（肥前）。胎土は灰黄色で緻密。体部外面呉須で楼閣山水文。内面から体部外面透明釉。全面に貫入入る。高台部周囲無釉。高台内に刻印「雲」（右記）。高台内中央部に円圈（直径1.2cm）あり。	体部1/2欠	736号遺構 Ⅰ期
206-2	陶 器 碗		京焼風（肥前）。胎土は灰黄色で緻密。体部外面呉須で楼閣山水文。内面から体部外面透明釉。全面に貫入入る。釉際には炎色（橙色）出る。高台部周囲無釉。高台内に刻印「雲」（右記）。高台部中央部に円圈（直径1.5cm）あり。	体部3/4欠	736号遺構 Ⅰ期
206-3	陶 器 碗		京焼風（肥前）。胎土は淡黄色で緻密。内面から体部外面透明釉（にぶい黄橙色）。全面に貫入入る。高台部周囲無釉。高台内に刻印「清」。高台内中央部に円圈（直径1cm）あり。	体部2/3欠	236号遺構 Ⅲ期
206-4	陶 器 碗		京焼風（肥前）。胎土は白色、緻密で粉質。体部外面呉須（黒青色）で馬文。内面から体部外面透明釉（灰白色）。全面に貫入入る。高台部周囲無釉。高台内に刻印「警」。高台内中央部に円圈（直径1.1cm）あり。包含層を接合。	体部3/4欠	包含層 Ⅲ期
206-5	陶 器 碗		京焼風（肥前）。胎土は淡黄色で緻密。体部外面呉須による文様あり。内面から体部外面透明釉。全面に貫入入る。高台部周囲無釉。高台内に刻印「雲」（右記）。高台内中央部に円圈（直径1.6cm）あり。	体部1/2欠	539号遺構 Ⅲ期
206-6	陶 器 碗		京焼風（肥前）。胎土は淡黄色で緻密。見込呉須で文字書くも判読不能。内面から体部外面透明釉。全面に貫入入る。高台部周囲無釉。高台内に墨書「一八」、刻印「寶」。高台内中央部に円圈（直径2.5cm）あり。	底部	39号遺構 Ⅲ期
206-7	陶 器 碗		京焼風（肥前）。胎土は淡黄色で緻密。内面から体部外面透明釉。全面に貫入入る。釉際には炎色（橙色）出る。高台内に刻印「清水」。高台内中央部に円圈（直径2.5cm）あり。	底部	539号遺構 Ⅲ期

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位	出土遺構 出土層位
206—8	陶 碗	器	京焼風(肥前)。胎土は灰白色で緻密。内面から体部外面透明釉。全面に貫入入る。高台部周囲無釉。高台内に刻印「信?」(右記)。高台内中央部に工具による渦巻あり	底部と底部 下半一部	162号遺構 VI期
206—9	陶 皿	器	京焼風(肥前)。胎土は灰白色、緻密で堅緻。見込鉄(黒褐色)で楼閣山水文。内面から体部外面透明釉。全面に貫入入る。高台部周囲無釉、高台内刻印あり。高台内中央部に円圈(直径8mm)あり。	底部	162号遺構 VI期
206—10	陶 皿	器	京焼風(肥前)。胎土は灰白色で緻密。見込鉄(黒褐色)で楼閣山水文。内面から体部外面透明釉。全面に貫入入る。高台部周囲無釉。高台内に刻印「福次」。高台内中央部に円圈(直径1.1cm)あり。	底部1/3	162号遺構 VI期
206—11	陶 碗	器	京焼系。胎土はにぶい橙色、灰白色で緻密。黒色粗砂を多く含む。体部内面に呉須で描かれた文様あり。内面から体部外面灰釉(灰白色で不透明、内面は刷毛塗りの痕残る)。釉際には炎色(橙色)出る。高台部周囲無釉。高台内に刻印「清水」。高台内中央部に円圈(直径1.3cm)あり。	底部	590号遺構 II期
206—12 (45—4a・b)	陶 碗	器	京焼系。胎土は灰白色で、粗砂を多く含む。体部外面紅葉に鳥文(紅葉は赤・金色、鳥は赤色、他にも色はあったと思われるが剥落)。内面から体部外面灰釉(灰白色で不透明)。全面に貫入入る。高台内に刻印「榮」。871号遺構と接合。	体部1/4欠	848号遺構 I期
206—13 (45—3a・b)	陶 碗	器	京焼系。胎土は灰白色。体部外面ブドウ文(呉須と黒色の鉄)。内面から体部外面灰釉(灰白色で不透明、刷毛塗りの痕残る)。全面に貫入入る。釉際には炎色(橙色)出る。高台部周囲無釉。高台内に刻印「(徳)」。包含層を接合。	体部1/2欠	902号遺構 III期
206—14	陶 碗	器	京焼系。胎土は灰白色で堅緻。体部内面草文(呉須と黒褐色の鉄)。体部内外面灰釉(灰白色)。244号遺構と接合。	体部1/3	444号遺構 III期
206—15	陶 碗	器	京焼系。体部外面1箇所縦位の筧状工具による押圧痕あり。胎土は橙色、軟質で粉質、混入物少ない。内面から体部外面透明釉。割れ口から釉が剥れている部分多い。押圧痕の中に白泥がたまる。高台内に刻印「V」。	体部下半から 底部	444号遺構 III期
206—16	陶 碗	器	瀬戸・美濃。蛇ノ目高台。胎土は灰白色で粗い。内面灰釉(灰白色)、外面柿釉(褐色)に長石斑。畳付は釉ふきとり。畳付刻印あり。	底部	464号遺構 III期
207—1	陶 蓋	器 物	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で粗い。体部内外面灰釉(明緑灰色)。内面の釉はうすい。高台部周囲・口縁部内外面・底部内面無釉。高台内に墨書「徳」。	完形	106号遺構 VI期
207—2 (51—6)	陶 花	器 生	生産地不明。内面に布目痕が残ることから、板作り成形?。胎土はにぶい赤褐色、緻密で均質。内面黄釉(透明感あり)、外面黒灰色の釉(金属的な光沢があり、表面は凸凹している)。外面は剥落部分あり。体部外面焼成時に刻書「寛政十一 未 五月 幽泉」。口縁部内面二次使用(ケズリで滑らかに整形されている)。また口縁部に焼成後の穿孔あり。	1/3	87号遺構 不明
207—3 (51—10)	陶 鉢	器	瀬戸・美濃。織部。全形不明。高台は基筒底で円形。内面布目痕。胎土はにぶい橙色で粗砂を含む。体部外面幾何学文(暗	底部体下半	包含層 III期

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特 徴	残存部位	出土遺構 出土層位
207-4 {51-9} 口絵9-7	陶 壺	器	褐色の鉄、白色)。灰釉(透明釉)の上に鉛釉がけ(透明感のある暗褐色)。高台内無釉。包含層を接合。 生産地不明。胴部外面中位に2条の突帯が巡る。突帯には斜位の刻み目がつけられる。胎土は黒色・橙色で、粗い。黒色粗砂を大量に、白色粗砂を多く含む。胴部外面鉄(黒褐色)で木葉文? 内面から胴部外面上・中位灰釉?(光沢なく緑灰色。胴部は横位の、底部内面は不定方向の刷毛目で塗られる)。胴部外面下位から底部外面鉄釉(黒褐色)。底部外面に貝目痕3箇所あり。206号遺構・包含層と接合。	胴部以下2/3	621号遺構 III期
207-5	陶 皿	器	瀬戸・美濃。胎土はかなり粗く、黒色粗砂を多く含む。見込鉄(褐色)で変形文字。全面長石釉。見込・高台内に目痕3箇所あり。	体部1/4欠	包含層 I期
207-6	陶 皿	器	瀬戸・美濃。口唇部小さな段あり。胎土は灰白色で、堅緻。内面鉄(褐色)で抽象文。畳付を除く全面灰釉(灰白色)。全面に貫入入る。畳付際粗砂付着。	体部1/4欠	包含層 I期
207-7	陶 片	器 口	瀬戸・美濃。胎土は浅黄橙色で緻密。内面から体部外面灰釉(黄褐色)。釉際には炎色(橙色)出る。高台部周囲無釉。高台内に墨書「梅□□十二月改」。見込に目痕3箇所あり。	体部1/5欠	42号遺構 VIII期
207-8 (50-1a・b)	陶 練	器 鉢	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で粗い。内面から体部外面灰釉(灰白色)に口縁部外面緑釉斑。高台部周囲・目痕無釉。底部外面に墨書「梅御殿 福印 御□□」。見込目痕(楕円形、5×4cm位)あり(4箇所残存)。包含層と接合。	1/2	築山 IX期
208-1 {50-2}	陶 練	器 鉢	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で粗い。内面から体部外面灰釉(灰色)に体部外面緑釉がけ。高台部周囲・目痕無釉。底部外面に墨書「梅殿 福印 膳所」。見込に目痕(楕円形、6×4cm位)5箇所あり。包含層と接合。	体部5/6欠	築山 IX期
208-2	陶 甕	器	瀬戸・美濃。胎土は白色で粗い。内面から体部外面柿釉(褐色)に体部外面は鉄釉(黒色)がけ。高台内に墨書「八上□刈」。見込に目痕6箇所あり(白色粗砂溶着)。	体部上半1/2欠	42号遺構 VIII期
209-1	陶 徳	器 利	瀬戸・美濃。胎土は灰色。外面鉛釉に、口縁部から肩部外面のふ釉がけ。底部外面周囲釉ふきとり。胴部外面下位に釘書き「  」。	完形	953号遺構 III期
209-2	陶 徳	器 利	瀬戸・美濃。胎土は浅黄色。外面灰釉(黄褐色)にうのふ釉斑、底部外面周囲は釉ふきとり。胴部外面に釘書き「山」。	肩部以下	464号遺構 III期
209-3	陶 徳	器 利	瀬戸・美濃。胎土は灰白色。外面灰釉(灰白色)。底部外面周囲は釉ふきとり。胴部外面に釘書き「小二」。	完形	736号遺構 I期
209-4	陶 徳	器 利	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、粗い。外面灰釉(淡黄色)。底部周囲ふきとり。胴部外面に釘書き「久〇」。	ほぼ完形	106号遺構 VI期
209-5	陶 徳	器 利	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で緻密。外面灰釉(灰白色)。底部外面周囲無釉。胴部外面に釘書き「  半」。胴部外面中位に焼成時の他固体との溶着痕あり(1箇所)。胴部中位1箇所へこんでいる(成形時)。	ほぼ完形	36号遺構 IX期
209-6	陶 徳	器 利	瀬戸・美濃。胎土は浅黄橙色。外面灰釉(灰白色)。底部外面周囲釉ふきとり。胴部外面に釘書き「久上七」。	完形	128号遺構 VI期
209-7	陶 器	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色。全面灰釉(灰白色)。胴部外面に	胴部下半以	464号遺構

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位	出土遺構 出土層位
209-8 〔60-4a~c〕	土 器	德利 焼塩壺・身	釘書き「や」。 板作り成形。体部内面下半縦位の縫目2本、また底体部際に 横位の縫目あり。胎土は橙色で、断面中側はピンク色。粗砂・ 赤色粗砂を多く含む。体部外面に指痕多く残る。	下 ほぼ完形	Ⅲ期 701号遺構 Ⅲ期
209-9 〔60-3a~d〕	土 器	焼塩壺・身	板作り成形。体部内面布目痕、体部内面下半縦位の縫目2本、 また底体部際に横位の縫目あり。胎土は橙色で、粗砂・礫を 多く含む。体部外面に刻印2重枠の内側2段角「泉州麻生」。	体部一部欠	162号遺構 Ⅵ期
209-10 〔61-2〕	土 器	焼塩壺・身	ロクロ成形。底部回転糸切り痕。体部外面の底部際に指痕残 る。底部ぶ厚い。胎土は橙色で、表面ザラザラする。	体部下半以 下	972号遺構 Ⅰ期
209-11 〔61-4〕	土 器	焼塩壺・蓋	内面布目痕。胎土は橙色で、粗砂・赤色粗砂を含む。	体部1/4欠	701号遺構 Ⅲ期
209-12 〔61-9〕	土 器	焼塩壺・蓋	胎土断面は灰白色、器面はにぶい黄橙色。軟質。上面に刻印 「なんばん □」。内面にはなれ砂（雲母？）付着。	1/3	包含層 層位不明
210-1 〔63-7〕	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。	完形	920号遺構 Ⅰ期
210-2 〔63-6〕	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部 煤付着。	ほぼ完形	920号遺構 Ⅰ期
210-3 かわらけ	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は明赤褐色。	ほぼ完形	920号遺構 Ⅰ期
210-4 〔63-5〕	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。口唇部 煤付着。	口縁部一部 欠	920号遺構 Ⅰ期
210-5 かわらけ	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。	1/4	1087号遺構 Ⅰ期
210-6 〔63-9〕	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。	完形	1087号遺構 Ⅰ期
210-7 〔63-8〕	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。口唇部 煤付着。	ほぼ完形	1087号遺構 Ⅰ期
210-8 かわらけ	土 器	かわらけ	手づくね成形。体部外面下半は指頭圧痕のまま。体部内面か ら口縁部外面はナデ。胎土は浅黄橙色。	1/4	701号遺構 Ⅲ期
210-9 かわらけ	土 器	かわらけ	手づくね成形。体部外面下半から底部外面は指頭痕のまま。 内面から体部外面上半はナデ。胎土は浅黄橙色で、白色針状 物質を含む。	体部1/2欠	包含層 Ⅶ期
210-10 かわらけ	土 器	かわらけ	手づくね成形。口唇部内面に沈線が巡る。体部外面下半から 底部外面は指頭痕のまま。底部内面木口状工具による一定方 向のナデ。体部内面から体部外面は上半横位のナデ。胎土は にぶい赤褐色。白色針状物質を含む。口唇部煤付着。	1/2	448号遺構 Ⅲ期
210-11 かわらけ	土 器	かわらけ	手づくね成形。底部内面の体部際に沈線が巡る。体部外面下 半から底部外面は指頭痕のまま。体部内面から体部外面上半 は横位のナデ。胎土は浅黄橙色。	1/4欠	527号遺構 時期不明
210-12 かわらけ	土 器	かわらけ	手づくね成形。口縁部内面に緩やかな段あり。体部外面下半 から底部外面は指頭痕のまま。底部内面に一定方向のナデ。 体部内面から体部外面上半は横位のナデ。底部外面蔭状痕。 胎土は浅黄橙色。	1/2	527号遺構 時期不明
210-13 かわらけ	土 器	かわらけ	手づくね成形。口縁部内面に小さな段あり。体部外面下半か ら底部外面は指頭痕のまま。内面から体部外面上半は横位の	体部3/4欠	築山 Ⅸ期

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位	出土遺構 出土層位
			ナデ。底部内面の体部際に段あり。胎土は橙色で白色針状物質を含む。		
210-14	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部焼成前穿孔。	ほぼ完形	築山 IX期
210-15 (65-9a・b)	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形の後、体部から底部外面ロクロナデ。外面にはさらにその後に、工具による渦巻。胎土は橙色。	体部1/3欠	626号遺構 III期
210-16	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部回転糸切り。胎土は浅黄橙色。器面剥落している。	体部1/4欠	356号遺構 IV期
210-17	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色、底部内外面は黒褐色。全面に施釉（にぶい赤褐色の光沢のある釉が部分的に残る）？ 口唇部煤付着。	体部3/4欠	419号遺構 IV期
210-18	陶 擂鉢	器 鉢	生産地不明。ロクロ水挽き成形。口縁部内面に小さな段あり。体部外面横位のケズリ。口縁部外面から内面横位のナデ。擂目7本1単位。胎土は灰白色。畳付から高台内を除く全面黄白色の釉（光沢なしでうすい）。272号遺構・包含層と接合。	1/2	125号遺構 V・VI期
210-19	陶 擂鉢	器 鉢	瀬戸・美濃。ロクロ水挽き成形。口縁部やや内側へ突出。体部外面横位のロクロケズリ。擂目10本1単位。胎土は灰白色。全面銹釉（暗褐色）。	体部1/3	917号遺構 III期
210-20 (56-2)	陶 擂鉢	器 鉢	信楽系。ロクロ輪積成形？ 底部脇に粘土板を貼り付け台部を作っている。擂目7本？1単位。底部外面に焼成時の溶着痕あり。胎土は灰黄褐色で、白色・透明粗砂を多量に含む。見込に無釉部（目痕）あり。	底部1/4	496号遺構 III期
210-21 (55-2a・b)	陶 擂鉢	器 鉢	信楽系。ロクロ輪積成形。口唇部は内側に突出する。外面横位の強いロクロナデ。擂目6本1単位。胎土は灰赤色で、白色・透明粗砂を多く含む。内外面銹釉（暗褐色）。口唇部自然釉がかかる。	1/2	645号遺構 III期
210-22 (57-1a・b)	陶 擂鉢	器 鉢	生産地不明。ロクロ輪積成形。体部下半横位のロクロケズリ。口唇部から体部上位横位のナデ。口縁部は折縁に近く外反。底部外面煤付着。台付（欠損）。擂目8本1単位。見込際重ね焼きの痕あり。胎土は暗赤色で粘土質。緻密で堅緻。断面は層状。全面銹釉（暗赤色）？ 築山と接合。	1/4	124号遺構 VI期
210-23	陶 擂鉢	器 鉢	瀬戸・美濃。ロクロ水挽き成形。口縁部やや外湾。擂目の単位は不明。胎土は淡黄色。全面銹釉（暗褐色）。	体部片	106号遺構 VI期
210-24	陶 擂鉢	器 鉢	瀬戸・美濃。ロクロ水挽き成形。口縁部折りつまみあげ。擂目の単位は不明。胎土は淡黄色。全面銹釉（暗褐色）。	体部片	464号遺構 III期
211-1 (56-5a・b)	陶 擂鉢	器 鉢	瀬戸・美濃。ロクロ水挽き成形。体部外面下半横位のロクロケズリ。底部回転糸切り痕。擂目は10本1単位。胎土は浅黄橙色。全面柿釉（暗褐色）。体部外面半釉ふきとり。底部焼成後穿孔。	体部1/3欠	444号遺構 III期
211-2	陶 擂鉢	器 鉢	備前系（堺）。ロクロ輪積成形？ 体部外面は横位のケズリ。擂目11本1単位。器面は赤色。	1/5	164号遺構 V期
211-3 (57-7)	陶 擂鉢	器 鉢	備前系（堺）。ロクロ輪積成形。内面擂目を施した後、口縁部は横位のロクロナデ。体部外面横位のロクロケズリ。口縁部（片口部）内側に刻印あり（右記）。擂目8本1単位。器面は赤褐色。包含層と接合。	体部片	包含層 III期？

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位	出土遺構 出土層位
211-4	陶 擂	器 鉢	備前系(堺)。ロクロ輪積成形。口縁部横位のナデ。口縁部内側に刻印あり(右記)。擂目の単位は不明。器面は赤褐色から赤橙色。	 体部片	築山 IX期
211-5 (57-5)	陶 擂	器 鉢	備前系(堺)。ロクロ輪積成形。内面擂目を施した後に、口縁部は横位のロクロナデ。口縁部(片口部)内側に刻印あり(右記)。擂目6本1単位。器面は暗赤褐色。	 口縁部	196号遺構 IV期
211-6 (57-6)	陶 擂	器 鉢	備前系(堺)。ロクロ輪積成形。内面擂目を施した後に、口縁部は横位のロクロナデ。口縁部(片口部)内側に刻印あり(右記)。擂目8本1単位。器面は赤褐色。内面擦れている。	 体部上半1/4	101号遺構 V~VI期
211-7 (57-8)	陶 擂	器 鉢	備前系(堺)。ロクロ輪積成形。内面擂目を施した後に、口縁部は横位のロクロナデ。体部外面横位のロクロケズリ。口縁部(片口部)内側に刻印あり(右記)。擂目10本1単位。器面は明赤褐色。内面擦れている。包含層と接合。	 体部片	包含層 III期
211-8 (57-4a・b)	陶 擂	器 鉢	備前系(堺)。ロクロ輪積成形。内面擂目を施した後に、口縁部は横位のロクロナデ。体部外面横位のロクロケズリ。擂目8本1単位。器面は赤橙色。内面擦れている。	1/3	119号遺構 VI期
211-9 (57-3a・b)	陶 擂	器 鉢	備前系(堺)。ロクロ輪積成形。内面擂目を施した後に、口縁部は横位のロクロナデ。体部外面横位のロクロケズリ。擂目9本1単位。器面は赤色。	底部一部欠	259号遺構 III期
212-1 (67-3a・b)	土 焙	器 烙	土師質。ロクロ紐作り成形。体部内外面横位のナデ。体部外面下位にケズリ痕が残る。内耳は円板状粘土を貼付。穴は左右からの棒状工具による刺突。底部外面ちぢれ目。底部内外面黒ずむ。包含層と接合。	1/5	444号遺構 III期
212-2 (68-4a・b)	土 焙	器 烙	土師質。ロクロ紐作り成形。体部内外面横位のナデ。体部外面下位にケズリ痕が残る。内耳は円板状粘土を貼付。穴は棒状工具による左右からの刺突。底部外面ちぢれ目。底部内外面黒ずむ。	1/3	259号遺構 III期
212-3	土 焙	器 烙	土師質。ロクロ紐作り成形。体部内外面横位のナデ。体部外面下位にケズリ痕が残る。内耳は円板状粘土を貼付。穴は棒状工具による左右からの刺突。底部外面ちぢれ目。底部内面・体部外面から底部外面煤付着。	1/4欠	429号遺構 VI期
212-4	土 焙	器 烙	土師質。ロクロ紐作り成形。体部内外面横位のナデ。体部外面下位に部分的にケズリ痕が残る。内耳は円板状粘土を貼付。穴は左右からの棒状工具による刺突。底部外面ちぢれ目。底部外面黒ずむ。	体部1/3	322号遺構 I期
212-5 (66-1a・b)	土 焙	器 烙	瓦質。ロクロ紐作り成形。体部内外面横位の指ナデ。内耳は橋状。口唇部は平坦・内面から体部外面黒色(黒色処理)。底部外面浅黄橙色。胎土は灰白色が灰色をサンドイッチ状に挟む。	内耳部	包含層 VII期
212-6 (66-2a・b)	土 焙	器 烙	瓦質。ロクロ紐作り成形。体部内外面横位のナデ。体部外面下半横位のナデツケ。内耳は団子状粘土を貼付。穴は指による左右からの刺突(体部外面への突出が大きい)。	1/4	包含層 II~III期

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特 徴	残存部位	出土遺構 出土層位
212-7 [66-3a・b]	土 焙	器 烙	土師質。ロクロ紐作り成形。体部内外面横位のナデ。体部外面下半横位のケズリ。底部外面は未調整。内耳は団子状粘土を貼付。穴は指による左右からの刺突（体部外面への突出が大きい）。底部外面スグレ？状痕。	1/4	包含層 II期
212-8	土 焙	器 烙	土師質。ロクロ紐作り成形。体部内外面横位のナデ。内耳は団子状粘土を貼付。穴は棒状工具による左右からの刺突。外面の底体部際ミガキ。外面黒ずむ。	内耳部	194号遺構 時期不明
212-9	土 焙 烙 ?	器	土師質。ロクロ紐作り成形。体部内面から体部外面上位横位のナデ。体部外面下位は木口状工具による横位のケズリ。体部外面中位は指頭痕残る（未調整と思われる）。底部外面ちぢれ目、スグレ？状痕。外面・底部内面黒ずむ。	1/3	包含層 層位不明
212-10 [68-5a・b]	土 焙	器 烙	土師質。非在地。ロクロ紐作り成形。体部下半部から底部にかけて右上がりの平行タキ調整。体部上半と内面は横位のナデ。胎土は橙色。二次的被熱で部分的に変色。	体部下半～ 底部	627号遺構 I期
212-11 [71-1]	土 壺 ?	器	土師質。ロクロ水挽き成形。体部内外面横位のナデの後、口縁部は強いナデ。体部外面下位は横位のロクロナデ。底部外面は一方のケズリ。胎土はにぶい橙色。内面煤付着。	1/5欠	23号遺構 IX期
212-12	土 火	器 鉢	土師質。ロクロ水挽き成形。体部外面横位のロクロケズリの後、横位のナデ。底部削り出し高台で、切り欠きあり（2箇所残存）。胎土は橙色。体部外面胡粉で草花文（花は白色、葉は緑白色）。	1/4	106号遺構 VI期
212-13 [71-2a・b]	土 器種不明	器	土師質。粘土板成形。内面ナデ調整。口唇部・体部外面ミガキ（部分的に残る）。底部外面木口状工具による調整、もしくは板状圧痕。足は4個で貼付。	口縁部2/3 欠	668号遺構 III期
213-1 [69-7a～c]	土 火	器 鉢	瓦質。ロクロ水挽き成形。体部外面回転押圧文（「く」の字もしくは斜格子文）の後、横位の雑なミガキ。底部外面は雑なナデ。足は3個で貼付。器面は褐灰色。胎土はにぶい橙色で、褐灰色をサンドイッチ状に挟む。口唇部磨滅・煤付着。体部外面に刻書「大刀 三右エ門」、底部外面に刻書「小三右エ門」。包含層と接合。	体部2/5欠	106号遺構 VI期
213-2	土 火	器 鉢	瓦質。ロクロ輪積成形。体部内面横位のロクロナデ。体部外面回転押圧文（半菊・斜格子文）の後、横位のミガキ。底部外面雑なナデ。足（2個残存）は貼付。器面は灰褐色。胎土はにぶい橙色で、灰褐色をサンドイッチ状に挟む。体部外面に刻書あり。包含層と接合。	1/2	429号遺構 VI期
213-3 [69-4]	土 火	器 鉢	土師質。ロクロ輪積成形。体部内面は横位、底部内面は不定方向のナデ。体部外面はミガキの後、横位の沈線を3本巡らし、沈線間を押印文が巡る。底体部接合部外面面取りが施される。底部外面は雑なナデ、スグレ状痕。足は3個で貼付。胎土はにぶい橙色。体部外面銀彩。口唇部磨滅。	底部と体部 一部欠	464号遺構 III期
213-4	土 火	器 鉢	土師質。ロクロ輪積成形。体部内面横位のヘラナデ。体部外面丁寧なナデ。底体部接合部外面面取り的ケズリと横位の強いナデ。底部外面ちぢれ目。足は（3個のうち2個残存）は貼付。胎土はにぶい橙色で、褐灰色をサンドイッチ状に挟む。体部外面銀彩？ 口唇部磨滅・煤付着。	1/2強	429号遺構 VI期








写真番号	器	種	特	徴	残存部位
213-5	土 火	器 鉢	土師質。ロクロ輪積成形。体部内外面横位のナデ。体部外面ちぢれ目。足（1個残存）は貼付。胎土はにぶい橙色で、褐色をサンドイッチ状に挟む。	1/2	627号遺構 I期
213-6	土 火	器 鉢	土師質。ロクロ輪積成形。体部内面横位のナデ。口唇部・体部外面横位のミガキ。口唇部の内側への突出部は、口縁部成形時の折り返しによる。体部内面下位布痕と思われる縦じわあり。足（1個残存）は貼付。胎土は橙色で、一部に灰赤色をサンドイッチ状に挟む。口唇部内側磨滅。	1/5	429号遺構 VI期
213-7	土 火	器 鉢	瓦質。粘土板成形。体部内面横位のナデ。接合部は工具による強いナデ。口唇部・体部外面ミガキ。底体部接合部外面面取り。足（2個残存）は貼付。器面は黒褐色。胎土は黒褐色で、にぶい橙色をサンドイッチ状に挟む。	1/4	373号遺構 II期
214-1 〔70-2〕	土 火	器 鉢	瓦質。ロクロ輪積成形。体部内面工具による横位のナデ。体部外面横位の丁寧なミガキ。底部外面スグレ状痕。足は3個で貼付。器面・胎土は黒褐色。	体部1/6欠	475号遺構 I期
214-2 〔71-4〕	土 火	器 鉢	瓦質。粘土板成形。口唇部の内側への突出部は口縁部につけあして作出。底体部接合部外面面取り、内面工具によるナデ。口唇部・体部外面はミガキ。底部外面スグレ状痕。足は4個で貼付。器面は灰色。胎土はにぶい黄橙色。	底部一部欠	904号遺構 III期
215-1 〔70-6〕	土 火	器 鉢	土師質。ロクロ輪積成形。体部内面横位のナデ。接合部は工具による横位の強いナデ。体部外面横位のミガキ。底部外面スグレ状痕。足（1個残存）は貼付。胎土は橙色。底部・体部下半に煤付着。	1/3	749号遺構 IV期
215-2 〔71-6a・b〕	土 火	器 鉢	瓦質。粘土板成形。鐺部は板状粘土を貼付。鐺部のみミガキ。体部・底部は工具によるナデ。底体部接合部外面面取り。胎土はにぶい褐色で、灰色をサンドイッチ状に挟む。	1/3	373号遺構 II期
216-1 〔70-3〕	土 火	器 鉢	土師質。ロクロ輪積成形。底体部内面ナデ。口唇部・体部外面ミガキの後赤彩。底部外面無調整。器面の荒れが顕著。足は3個で貼付。口唇部内側の一部に煤付着。	体部1/2欠	736号遺構 I期
216-2 〔71-5〕	土 火	器 鉢	土師質。非在地。口縁部は内側へ屈曲。内面横位のナデ。体部外面平行タタキ目の後、横位の強いナデ。口縁部外面格子状タタキ目。足（1個残存）は貼付。胎土は灰白色で、粗い。	1/5	192号遺構 IIかIII期
216-3	土 火	器 鉢	土師質。粘土板成形。鐺部は板状粘土を貼付。コーナー部・底体部接合部・鐺・体部接合部は工具による強いナデ。胎土は赤橙色で、灰色をサンドイッチ状に挟む。体部内面上半の一部に煤付着。被熱。	底部一部	419号遺構 IV期
217-1 〔72-5a・b〕	土 焜	器 炉	瓦質、粘土板（火口部）+ロクロ輪積成形。本体接合部内面は木口状工具による。火口部接合部内面は指による横位のナデ。内面は雑な横位のナデ。火口部の口唇部ミガキ。外面は雑なナデ。火口部の底部外面スグレ状痕。本体底部外面ちぢれ目・ケズリ。足（2個残存）は貼付。器面は褐色。胎土はにぶい黄橙色で、褐色をサンドイッチ状に挟む。	火口部と本体一部	包含層 III期以前
217-2	土 焜	器 炉	瓦質。ロクロ輪積成形。底体部接合部内面木口状工具による横位のナデ。体部内面は横位のナデ。口縁部・底体部接合部外面横位の、開口部縦位の強いナデ。口唇部ミガキ。底部外	体部1/3	269号遺構 III期以降

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特 徴	残存部位	出土遺構 出土層位
			面未調整。足は貼付(痕跡が1個)。体部内面上位に把手(1個残存)を貼付。器面は灰色。胎土はにぶい橙色で、灰色をサンドイッチ状に挟む。包含層と接合。		
218-1	土 焜	器 炉	土師質。粘土板(火口部)+ロクロ輪積成形。体部内面主に横位のナデ。口縁部・底体部接合部外面横位の、開口部縦位の強いナデ。火口部・本体の口唇部ミガキ。底部外面未調整。足(1個残存)は貼付。胎土は橙色。体部外面上位に刻書あり。口唇部銀彩?	1/4	包含層 III期
218-2	土 焜	器 炉	瓦質。粘土板成形(火口部)。内面工具による縦・横位のナデ(底体部接合部は横位のナデ)。外面雑な横位のケズりに近いナデ。火口部・口唇部ミガキ。底部外面ちぢれ目。器面は褐灰色。胎土はにぶい橙色で、灰褐色をサンドイッチ状に挟む。口唇部銀彩?	火口部一部	444号遺構 III期
218-3	土 瓦灯・蓋	器	瓦質。手づくね成形。内面指による同心円状のナデ。外面横位のロクロナデ。口唇部ミガキ。器面は褐灰色。胎土はにぶい橙色。底部焼成前穿孔。皿部内面に焼成前に刻書「卅二」。外面煤付着。	皿部	373号遺構 II期
218-4	土 瓦灯・身	器	瓦質。ロクロ輪積成形。突起部は粘土板成形。受部・突起部は貼付。体部内面・受部横位のナデ。体部外面雑なミガキ。器面は褐灰色から黒褐色。胎土はにぶい橙色。	突起部と受 皿部欠	749号遺構 IV期
218-5	土 植木鉢	器 鉢	土師質。ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。底部焼成前穿孔(内側から外側)。胎土は黄橙色。包含層と接合。	1/3欠	築山 IX期
218-6	土 五徳 (脚台)	器 徳	土師質。ロクロ輪積成形。外面から内面上半横位のナデの後、内面下半やや乾燥した後に横位のナデ。同時に切り欠き部をつくる?。切り欠き部は4箇所と思われる(3箇所残存)。	2/3	築山 IX期
219-1 (76-4a~c)	舶載磁器 染付碗		中国。胎土は灰白色で、やや透明感がある。無釉部は灰褐色、体部外面漢文が書かれる。釉は灰白色。見込・高台部周囲無釉。口禿。体部内外面虫食い顕著。釉際には炎色(橙色)出る。畳付周囲にアルミナを塗付?。見込重ね焼きの痕あり。	1/2	包含層 III期
219-2	舶載磁器 染付碗		中国。内外面山水文。高台内に1重圈線あり。体部内面横位の、体部外面不定方向の細かい痕顕著。532号遺構と接合。	1/5	164号遺構 V期
219-3	舶載磁器 染付碗		中国。見込花卉文?、体部外面唐草文。高台内1重圈線内に銘「玉堂」。被熱。	体部~底部 1/6	包含層 III期
219-4	舶載磁器 染付碗		中国。見込文様あり、体部内面魚文、体部外面鳳凰文。	体部1/6	包含層 III期
219-5	舶載磁器 染付碗		中国。胎土は淡黄色。見込・体部外面草花文。釉は胎土の色が透けて灰白色で、厚くかかる。全面に貫入入る。畳付から高台内無釉。包含層と接合。	底部1/2と 体部1/6	289号遺構 III期
219-6	舶載磁器 染付碗		中国。口縁部内面連続文、体部外面雷文・靈枝文。小さい虫食いあり。被熱。	体部1/6	包含層 層位不明
219-7	舶載磁器 染付碗		中国。口縁部外面変形唐草文、体部外面火災文。口禿。	体部1/5	包含層 I期
219-8	舶載磁器 染付碗		中国。見込蟠螭文。高台内に2重圈線あり。見込不定方向の細かい擦痕あり。	底部	包含層 I期
219-9	舶載磁器		中国。見込捻花文・線彫唐草文、体部外面唐草文。高台内1	底部2/3	包含層

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	徴	残存部位	出土遺構 出土層位
219—10	染 付 碗 舶載磁器 色絵小杯	重圈線内に銘「大明宣徳年製」。 中国。見込捻花文（呉須で描いた上に赤色で要所を上絵付）、 体部外面？文（呉須で描いた上に緑・赤色で上絵付）。高台内 銘あり。高台内カンナケズリ痕。被熱により溶着物あり。色 絵変色。	底部1/3	VII期 包含層 VIII期		
219—11	舶載磁器 色絵小杯	中国。見込草花文（色絵）、体部外面文様あり（呉須で描いた 上に緑・赤色で上絵付。高台内に銘「松石□」。被熱により 色絵変色。この個体より残りの悪い同一器形・文様のもの包 含層のIV期より出土。	底部1/2	山上会館地 点 不明		
219—12	舶載磁器 染 付 碗	中国。見込菊花文。高台内に 1 重圈線あり。見込・高台内不 定方向の擦痕あり。	底部1/3	273号遺構 V期		
219—13	舶載磁器 染 付 碗	中国。見込に銘「明成□年製」。高台内に 1 重圈線あり。小 さい虫食いあり。	底部1/3	包含層 III期		
219—14	舶載磁器 染 付 碗	中国。見込唐子文。高台内 1 重圈線内に銘「大明成年製」。	底部1/2	包含層 III期		
219—15	舶載磁器 染 付 碗	中国。器面にはゴマが顕著。見込「貴」の字。釉は青味がか り、細かい気泡が多く入る。	体部下半～ 底部1/3	264号遺構 III期		
219—16	舶載磁器 染 付 碗	中国。見込荒磯文？ 高台内に 2 重圈線あり。釉は青味がか る。被熱により内面は変色し、溶着。	底部1/3	包含層 攪乱		
219—17	舶載磁器 染 付 碗	中国。見込菊花文。高台内に 1 重圈線あり。	底部1/2	500号遺構 III期		
219—18	舶載磁器 色 絵 碗	中国。見込牡丹文（花は赤色、葉は緑色）、体部外面連続文（赤 色）。高台内 1 重圈線内に銘「玉堂佳器」。高台部内側から見 込にかけてカンナケズリ痕。見込不定方向の擦痕顕著。被熱 により色絵変色。	底部1/2	包含層 III期		
219—19	舶載磁器 染 付 碗	中国。見込唐子文。高台内に 1 重圈線あり。見込不定方向の 細かい擦痕あり。	底部	845号遺構 I 期		
219—20	舶載磁器 染 付 碗	中国。芙蓉手・見込水鳥文。	底部1/2	366号遺構 III期		
220—1 (76—5a・b)	舶載磁器 染 付 碗	中国。碁筈底。胎土は灰白色。無釉部は灰褐色。見込三木文、 体部外面縦線文（呉須は青灰色でうすい）。釉は明青灰色で外 面虫食いあり。高台部外面から高台内無釉。高台内カンナケ ズリ痕。高台部粗砂付着。見込回のような擦痕顕著。包含層 と接合。	体部4/5欠	498号遺構 IV期		
220—2	舶載磁器 白 磁 皿	中国。碁筈底。見込線彫草花文？ 見込擦れている部分あり。	底部1/4	包含層 I 期		
220—3	舶載磁器 色 絵 皿	中国。碁筈底。胎土は灰色。無釉部はにぶい黄褐色。緻密で 堅緻。内面草文（輪郭は黒色で中は緑色、他に赤色）？釉は厚 くかかり、全面に貫入する。高台部無釉。釉剥落している部 分あり。被熱。	底部1/4	82号遺構 IV期		
220—4	舶載磁器 瑠璃釉小杯	中国。体部・高台部外面瑠璃釉。高台内 1 重圈線内に銘「 花年製」。	1/5	包含層 I 期		
220—5	舶載磁器 染付小杯	中国。体部外面笹と草文。高台内 1 重圈線内に銘「大明成化 年製」。	体部1/2欠	873号遺構 I 期		
220—6	舶載磁器	中国。胎土はやや透明感がある。体部外面唐草文（呉須はに	1/3	2号遺構		

挿図番号 (写真番号)	種 別	特 徴	残存部位	出土遺構 出土層位
220-7	染付小杯 舶載磁器	じむ)。釉には細かい気泡が入る。包含層と接合。 中国。体部内外面 1 重網目文。	体部1/4	明治時代 264号遺構
220-8	染付小杯 舶載磁器	中国。体部外面草花文。体部の高台部際虫食いあり。畳付か ら高台内無釉。	体部3/4欠	III期 289号遺構
220-9	染付小杯 舶載磁器	中国。胎土粗い。口唇部呉須で青く塗る。胎土内外面区画割 草花文。高台内に 1 重圈線あり。釉は青味がかり、表面霧状 に白濁。	1/4	包含層 III期
220-10	染付小杯 舶載磁器	中国。体部外面牡丹文。口禿。被熱。	体部1/4	包含層 III期
220-11	染付碗 舶載磁器	中国。体部外面蝶文。小さい虫食いあり。	体部1/6	攪乱
220-12	染付小杯 舶載磁器	中国。体部外面山水文。高台内 1 重圈線内に銘「大明成化年 製」。	体部2/3欠	包含層 II期
220-13 〔76-8〕	染付小杯 舶載磁器	中国。胎土はやや透明感がある。体部外面「喜」の字文。釉 には細かい気泡が入る。高台内銘あり。	体部1/4欠	7号遺構 明治時代
220-14	染付小杯 舶載磁器	中国。見込草花文、体部外面草花文(2単位)。高台内カンナ ケズリ痕。	体部5/6欠	264号遺構 III期
220-15 〔78-5a・b〕	染付小杯 舶載磁器	中国。体部内面梅と竹文、体部外面漢文と丸文。第220図16・ 17と同一個体の可能性あり。	体部上半1/6	包含層 VIII期
220-16 〔78-6a・b〕	染付小杯 舶載磁器	中国。体部内面梅樹文、体部外面漢文と丸文。第220図15・17 と同一個体の可能性あり。	体部1/6	包含層 不明
220-17 〔78-7a・b〕	染付小杯 舶載磁器	中国。体部と高台部際に突帯があり、この部分鉄釉が塗られ る。見込菊花文、体部外面丸文、高台部外面渦卷文？ 高台 内に銘「五良大甫吳祥瑞造」。第220図15・16同一個体の可能 性あり。	底部	包含層 III+VII期
220-18	黄釉小杯 舶載磁器	中国。内面から体部・高台部外面黄釉。高台内 1 重圈線内に 銘「大明成化年製」(呉須の発色悪く青黒色)。見込細かい擦 痕顕著。	底部	包含層 III期
220-19	染付小杯 舶載磁器	中国。畳付の幅広い。体部外面文様あり。畳付から高台内無 釉。	底部	包含層 III期
220-20	染付小杯 舶載磁器	中国。見込草花文、体部外面不明文。畳付から高台内無釉。	底部1/2	包含層 III期
220-21	染付小杯 舶載磁器	中国。釉には虫食いあり。高台内 1 重圈線内に銘「大明成化 □□」。	底部1/2	包含層 III期
220-22	染付小杯 舶載磁器	中国。見込草花文？ 体部外面不明文。高台内に銘「正徳年 製」。被熱。	底部2/3	包含層 I期
220-23	染付小杯 舶載磁器	中国。見込文字文？ 畳付から高台内無釉。高台内カンナケ ズリ痕。	底部	590号遺構 II期
220-24	染付碗 舶載磁器	中国。見込雲枝文、体部外面唐草文。外面虫食いあり。高台 内に銘「玉堂佳器」。高台内カンナケズリ痕	底部	包含層 II期
220-25	染付小杯 舶載磁器	中国。体部内面花卉状に型打。高台内角福銘。被熱。	体部下半か ら底部1/3	包含層 III期
220-26	染付小杯 舶載磁器	中国。蛇ノ目高台。見込山水文。畳付から高台内無釉。見込 不定方向の擦痕あり。	底部	包含層 II期？

挿図番号 (写真番号)	種 別	特 徴	残存部位	出土遺構 出土層位
220-27	舶載磁器 染付小杯	中国。見込不明文。高台内カンナケズリ痕。	底部1/2	包含層 VII期以前
220-28	舶載磁器 色 絵 碗	中国。内面蟠螭文（呉須），体部外面抽象文（輪郭は黒色で中を緑色と黄色に交互に上絵付する涙滴文。他に赤色の圏線）。高台内銘あり。見込不定方向の細かい擦痕あり。	底部1/4	包含層 VII期
220-29	舶載磁器 染付多角形皿	中国。体部多角形（六角形？）に型打。見込花文。高台内1重圏線内に角福銘。高台内カンナケズリ痕。畳付粗砂付着。	底部1/4	包含層 III期
221-1	舶載磁器 染付小杯	中国。口唇部輪花状に型打。芙蓉手・内面獸面文。被熱。	体部1/6	405号遺構 IV期
221-2	舶載磁器 染付小杯	中国。口唇部輪花状に型打。芙蓉手。被熱により内面溶着。溶着物あり。	体部1/6	包含層 表土
221-3	舶載磁器 染 付 皿	中国。体部内面波濤文・見込竜文。高台内に2重圏線あり。口禿。	1/3	築山 IX期
221-4	舶載磁器 染 付 皿	中国。口唇部輪花状に型打。内面線彫牡丹文，体部外面靈枝文（3単位）。高台内小さい虫食いあり。高台内1重圏線内に銘「大明成化年製」。畳付際粗砂付着。見込不定方向の細かい，高台内回るような擦痕顕著。	1/2	464号遺構 III期
221-5 (77-4a・b)	舶載磁器 染 付 皿	中国。体部内面上半蝶文，見込鷹文。口禿。高台内カンナケズリ痕。見込不定方向の擦痕あり。339・534号遺構・包含層と接合。	体部1/2欠	544号遺構 不明
221-6 (77-3a～c)	舶載磁器 染 付 皿	中国。見込鹿文，体部内面草花文。体部外面唐草文。釉は青味がかかる。高台内銘あり。高台内カンナケズリ痕。焼継ぎ。	1/2	包含層 VIII期
221-7 (77-5)	舶載磁器 色 絵 皿	中国。内面騎馬武者と漢詩文（呉須で絵付した後に，補足的に樹木黒色に緑色，他に赤色で上絵付）。高台内カンナケズリ痕。見込不定方向の細かい擦痕あり。	底部1/3	188号遺構 V～VI期
221-8 (77-6)	舶載磁器 染 付 皿	中国。見込呉須（青灰色）で人物文。小さい虫食いあり。高台内カンナケズリ痕。638号遺構と接合。	底部	373号遺構 II期
222-1	舶載磁器 染 付 皿	中国。見込に小さな段あり。見込捻花文。畳付際粗砂付着。見込不定方向の，高台内回るような擦痕顕著。	底部1/3	包含層 III期
222-2	舶載磁器 染 付 皿	中国。見込唐子文。高台内カンナケズリ痕。畳付粗砂付着。見込不定方向の擦痕顕著。擦れている部分もあり。	底部1/4	包含層 表土
222-3	舶載磁器 染 付 皿	中国。見込鹿文，体部外面文様あり。高台内小さい虫食いあり。高台部粗砂付着。見込不定方向の，高台内・体部の高台部際回るような擦痕顕著。	底部1/4	Rライン 試掘溝
222-4	舶載磁器 色 絵 皿	中国。見込ザクロ文（呉須，他に赤色，その他にもあるが変色していて不明）。高台内虫食い顕著。被熱により色絵変色。	底部1/2	160号遺構 VI期
222-5	舶載磁器 染 付 碗	中国。見込菊花文。小さい虫食いあり。高台内カンナケズリ痕。高台部粗砂付着。見込細かい擦痕あり。	底部1/5	包含層 III期
222-6	舶載磁器 染 付 皿	中国。体部内面菊花状（もしくは亀甲状）に型打。見込菊花文（呉須）。この外側菊花状に型打の上を線彫。釉際に炎色（橙色）出る。虫食いあり。高台内1重圏線内に銘「 <input type="text"/> 明成化年製」。畳付際粗砂付着。見込不定方向の細かい擦痕。また擦れている部分顕著。	底部1/4	包含層 II期
222-7	舶載磁器 染 付 皿	中国。見込捻花文・線彫唐草文？ 高台内小さい虫食いあり。被熱。	底部1/6	包含層 IV～V期

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	微	残存部位	出土遺構 出土層位
222—8	舶載磁器 染付碗		中国。見込牡丹文。高台内2重圈線内に銘「  宣  製」。高台内カンナケズリ痕。		底部1/6	包含層 Ⅲ期
222—9	舶載磁器 染付皿		中国。内面菊花散らし文。疊付粗砂付着。高台内回るような擦痕顕著。被熱?		底部1/6	包含層 表土
222—10	舶載磁器 染付皿		中国。緻密で堅緻。見込花卉文, 体部外面松と竹文。高台部粗砂多く付着。高台内回るような, 体部外面下半斜立の擦痕顕著。		底部1/6	包含層 Ⅳ期
222—11	舶載磁器 白磁皿		中国。見込線彫菊花文。内面から体・底部外面青白磁釉(水色)。高台内に銘「  成  製」(呉須)。疊付際粗砂付着。		底部1/8	包含層 Ⅲ期
222—12	舶載磁器 染付皿		中国。内面菊花散らし文。高台内カンナケズリ痕。高台部粗砂付着。見込不定方向の擦痕あり。被熱。		底部1/6	包含層 Ⅲ期
222—13	舶載磁器 染付皿		中国。内面陽刻草花文。小さい虫食いあり。高台内呉須による銘あり。高台内カンナケズリ痕。高台部粗砂付着。		底部～体部 1/6	包含層 Ⅳ期
222—14	舶載磁器 染付皿		中国。内面花散らし文, 体部外面花文。高台内カンナケズリ痕。疊付粗砂付着。被熱。		底部1/4	包含層 Ⅶ期
222—15	舶載磁器 染付皿		中国。胎土は粗く器面にはゴマが出る。見込人物文。高台内小さい虫食いあり。高台内カンナケズリ痕。高台部粗砂付着。		底部1/6	包含層 Ⅳ～Ⅴ期
222—16	舶載磁器 染付皿		中国。内面呉須(線彫)で花唐草文, 体部外面唐草文? 高台内・体部の高台部際回るような擦痕顕著。被熱。		底部1/6	包含層 Ⅶ期
222—17	舶載磁器 染付皿		中国。見込呉須(線彫)で草花文。高台内に1重圈線あり。		底部1/6	28号遺構 Ⅷ期
223—1	舶載磁器 染付皿		中国。内面吹墨草文(草文は墨弾き)。高台内に1重圈線あり。高台部粗砂付着。高台内回るような擦痕顕著。被熱。		底部1/6	包含層 Ⅲ期
223—2	舶載磁器 染付皿		中国。内面陽刻霊枝文? 高台内小さい虫食いあり。高台内に銘「  明成化年製」(呉須)。被熱により溶着物あり。		底部1/6	包含層 層位不明
223—3	舶載磁器 染付皿		中国。見込菊花文・捻花文。高台内1重圈線内に銘あり。高台内カンナケズリ痕。高台部粗砂付着。被熱。		底部1/5	包含層 Ⅱ期
223—4	舶載磁器 染付皿		中国。疊付は尖る。見込唐草文, 体部外面線彫縦線文。釉は青味がかり, 細かい気泡が入る。高台部粗砂付着。		底部1/4	包含層 Ⅶ期以前
223—5	舶載磁器 瑠璃釉皿		中国。口鏽(内面は口縁部まで)。体部内外面瑠璃釉。被熱により溶着物あり。		体部1/8	包含層 Ⅰ期
223—6	舶載磁器 染付皿		中国。口鏽。口唇部輪花状に型打。体部内面区画割草花文, 体部外面渦卷文。被熱。		体部1/6	包含層 層位不明
223—7	舶載磁器 口絵8—7	黄緑釉皿	中国。疊付を除く全面淡黄緑釉。全面に貫入入る。被熱により溶着物あり。		底部1/3	736号遺構 Ⅰ期
223—8 (77—2a・b) 口絵7—3	舶載磁器 色絵皿		中国。見込丸文(中は草花文, 花は赤色, 葉の輪郭は黒色で中は緑色), 地文は四方擧文(呉須, 赤色)。体部外面花唐草文(花は赤色, 唐草は緑色, 呉須)? 高台内に2重圈線あり。高台部内側粗砂多く付着。高台内回るような擦痕あり。		底部1/4	665号遺構 Ⅳ期
223—9	舶載磁器 色絵皿		中国。見込花文(地文とも呉須と上絵付併用, 上絵付の色は変色しているが赤色?)。高台内に2重圈線あり。被熱。		底部1/4	包含層 Ⅳ～Ⅶ期
223—10	舶載磁器 染付皿		中国。体部型打だが欠損のため全形不明。見込竜文, 体部内外面幾何学文。高台内に銘「  徳  」。被熱により, 溶着物あり。また橙色に変色している部分あり。		底部1/3	包含層 表土

挿図番号 (写真番号)	種 別 器 種	特 徴	残存部位	出土遺構 出土層位
223-11	舶載磁器 染付皿	中国。胎土は焼成悪く灰白色・にぶい橙色。内面草花文。釉は全面白濁。外面虫食い多くあり。釉際炎症（橙色）出る。高台内カンナケズリ痕。	底部1/4	264号遺構 III期
223-12	舶載磁器 染付皿	中国。胎土は灰白色。内面草花文。釉は青味がかり、器面霧状に白濁。畳付から高台内無釉。釉際には炎症（橙色）出る。高台内カンナケズリ痕。	底部1/3	464号遺構 III期
223-13	舶載磁器 染付皿	中国。見込に小さな段あり。見込笹文？ 高台内カンナケズリ痕。高台部から高台内粗砂多く付着。	底部1/4	162号遺構 VI期
223-14	舶載磁器 白磁皿	中国。器面にはゴマ顯著。畳付から高台内無釉。虫食いあり。底部畳付際粗砂付着。高台内カンナケズリ痕。	底部	339号遺構 III期
223-15	舶載磁器 染付皿	中国。見込草花文。畳付から高台部無釉。高台内カンナケズリ痕。畳付粗砂付着。被熱。	底部1/3	築山 IX期
223-16	舶載磁器 染付碗	中国。見込梅枝文？ 釉は青味がかる。畳付から高台内無釉。高台内カンナケズリ痕。高台部粗砂付着。見込不定方向の、体部の高台部際回るような擦痕顯著。見込擦れている部分あり。	底部1/2	包含層 I期
223-17	擦 痕 染付碗	中国。見込不明文、体部外面文様あり。釉際には炎症（橙色）出る。高台内カンナケズリ痕。見込・高台内回るような、体外面斜位の擦痕顯著。	底部1/4	475号遺構 I期
223-18	舶載磁器 染付皿	中国。芙蓉手。畳付粗砂付着。被熱。	底部1/8	包含層 III期
224-1	舶載磁器 染付皿	中国。口唇部輪花状に型打。体部も型打。芙蓉手・見込宝尽し文。高台内小さい虫食いあり。高台部粗砂付着。	1/3	959号遺構 I期
224-2	舶載磁器 染付皿	中国。芙蓉手・見込宝尽し文。高台内・高台部外面カンナケズリ痕。畳付際粗砂付着。	底部2/3	包含層 II期
224-3	舶載磁器 染付皿	中国。体部型打だが欠損のため全形不明。芙蓉手・見込花籠文。被熱。	底部1/3	959号遺構 I期
224-4	舶載磁器 染付皿	中国。芙蓉手・見込花虫文。高台部内外面・高台内カンナケズリ痕。被熱。見込不定方向の擦痕顯著。	底部1/5	包含層 I期
224-5	舶載磁器 染付手塩皿	中国。口鏽。口唇部型打だが欠損のため全形不明。内面吹墨草花文（文様は線彫か墨弾き）。高台内銘あり。高台内虫食いあり。見込不定方向の擦痕あり。	体部4/5欠	475号遺構 I期
224-6	舶載磁器 染付手塩皿	中国。口唇部輪花状に型打。内面蛇文。高台内に1重圈線あり。高台内カンナケズリ痕。617号遺構・包含層と接合。	体部1/6欠	590号遺構 II期
225-1	舶載磁器 染付皿	中国。呉須手。胎土は灰白色で、やや透明感がある。無釉部は灰褐色。見込呉須（青灰色）で鳳凰文。釉は胎土の色が透けて灰白色。高台内無釉部あり。高台部粗砂多く付着。高台内部にも付着。見込不定方向の擦痕顯著。	底部1/6	包含層 I期
224-8 (78-1a~c)	舶載磁器 染付皿	中国。呉須手。胎土は灰白色で、やや透明感あり。体部内面三木文、見込樹木文（伝世品では鳳凰が配される）？ 呉須の色は灰緑色。釉は胎土の色が透けて灰白色。見込は釉やや白濁。高台内無釉部あり。畳付から高台内粗砂多く付着。見込・体部外面不定方向の擦痕顯著。	1/6	築山 IX期
224-9	舶載磁器 染付皿	中国。体部花卉状？ に型打。内面区画内に魚文・剣菱文他。体部の高台部際虫食いあり。高台内2重圈線に銘「大明嘉	底部1/4	803号遺構 III期

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特 徴	残存部位	出土遺構 出土層位
			<p>□]。高台内カンナケズリ痕。写真75—8と同一の器形・文様と思われる。</p>		
224—10	舶載磁器 染付皿		中国。変形貼付高台。全形不明。内面漁夫文，体部外面唐草文。口禿。畳付際粗砂付着。被熱。内面稜の部分擦れている。	底体部片	包含層 III期以前
224—11	舶載磁器 変形皿		中国。円錐台状の足1個残存。胎土は粗い。口唇部変形唐草文，見込魚文。口禿。足の底面無釉。被熱。	コーナー部 片	包含層 III期
225—1 (77—10a・b) 口絵7—6	舶載磁器 色絵角皿		中国。型打成形？ 口鏤。見込花鳥文（花は赤色・黄色，葉・茎は輪郭黒色で緑・紫色），体部内面コーナー部に牡丹文（赤色）・亀甲文・青海波文（赤・黒・緑色）。高台内銘あり。被熱により溶着。溶着物あり。色絵も変色。	体部1/3欠	包含層 VI期
225—2 (77—9a・b)	舶載磁器 染付角皿		中国。型打成形？ 平面形は正方形か菱形を呈する。高台の平面形は菱形で，一部変形。胎土はやや透明感があり，器面にゴマ顕著。見込菊花散らし文。口禿。釉はぼつてりとかかり虫食いあり。高台部粗砂付着。被熱。	1/2	包含層 IV～V期
225—3 (77—11a～c)	舶載磁器 染付角皿		中国。型打成形。胎土はややガラス質。見込鶴文。釉ぼつてりとかかる。高台内虫食いあり。畳付・高台内にモミ殻痕。	1/3	807号遺構 II期
225—4 口絵7—1	舶載磁器 色絵 筒形容器		中国。口鏤。体部外面窓絵山水文（山・帆かけ舟は呉須，山・草は黒色で輪郭，その上に緑色，水は赤色，地文も赤色）。体部内面の口縁部以下無釉。被熱により色絵変色。	体部1/4	包含層 III期
225—5	舶載磁器 染付 筒形容器		中国。全形は不明。体部外面草花文。口唇部から口縁部内面無釉。釉際には炎色（橙色）出る。漆継ぎ。361・481・795号遺構・包含層と接合。	体部5/6	467号遺構 IV期
225—6	舶載磁器 染付変形壺		中国。口は小さく体部に段がつく。体部外面地文の上に「吉」の字。口唇部・口縁部内面無釉。被熱により溶着物あり。	体部上半1/6	包含層 IV期
225—7	舶載磁器 染付蓋		中国。体部外面花卉状に型打。天井部外面草文？ 口唇部から口縁部内面無釉。被熱。	1/3	包含層 II期
225—8	舶載磁器 白磁蓋		中国。体部外面花卉状に型打。天井部外面菊花文（陽刻）。口唇部から口縁部内面無釉。天井部外面（菊花文部分）無釉。その上に赤褐色顔料塗付。全面に貫入る。漆継ぎ。内面に赤色顔料付着。	1/2	包含層 III期
225—9	舶載磁器 染付蓋		中国。胎土は粗い。体部外面山水文？ 口禿。口縁部から内面無釉。口縁部に黒色の付着物あり。	口縁部～体 部下半1/3	包含層 VII期
225—10 (78—2a・b)	舶載磁器 染付面盆		中国。口唇部呉須で青く塗る。口縁部内面竜文，口縁部外面霊枝文。被熱。	口縁部片	842号遺構 III期
225—11	舶載磁器 色絵鉢		中国。呉須赤絵。胎土は灰白色で，やや透明感がある。見込「福」の字文（赤色），体部外面草花文（赤色と緑色）？ 釉は胎土の色が透けて灰白色。高台内無釉。畳付粗砂多く付着（砂はとれているものもある）。見込不定方向の，体部内面横位の，体部の高台部際回るような擦痕顕著。見込は擦れている部分顕著。	底部1/2	包含層 VII期以前
225—12	舶載磁器 染付鉢		中国。内面笹文他。高台部・高台無釉。釉際には炎色（橙色）出る。	底部片	包含層 IV期
225—13	舶載磁器 青磁壺		中国。酒会壺？ 胎土は灰白色，無釉部は明赤褐色。緻密で堅緻。体部外面縦位の鐫。内外面青磁釉（緑灰色。枯青磁）。畳付無釉。畳付擦れて，平滑になっている。	底部1/4	包含層 II期

挿図番号 [写真番号]	種 別 器 種	特 徴	残存部位	出土遺構 出土層位
225-14	舶載磁器 染付鉢	中国。無釉部はにぶい橙色。胎土は緻密で堅緻。見込梅樹文、体部下半～ 体部外面唐草文。高台部内面粗砂多く付着。被熱。	高台部1/4	106号遺構 VI期

第35表 532号遺構出土舶載磁器観察表

写真番号	器 種	特 徴	残存部位
73-1	染付碗	中国。内外面割菊文。口禿。第77図10の口縁部の可能性あり。	口縁部片
73-2	染付鉢	中国。口唇部輪花状に、体部も型打。芙蓉手。口禿。	口縁部片
73-3	染付小杯	中国。体部外面蝶文。体部外面不定方向の細かい擦痕あり。	口縁部 ～体部片
73-4	染付碗	中国。口縁部内面1重圏線、体部外面草花文？ 虫食いあり。	口縁部 ～体部片
73-5	染付碗	中国。見込2重圏線内に文様あり、体部外面牡丹文。高台内2重圏線。高 台部外面カンナケズリ痕。	下半1/4
73-6	染付碗	中国。口縁部内面1重圏線、体部外面「寿」散らし。口禿。	口縁部 ～体部片
73-7	染付碗	中国。端反り。口縁部内面2重圏線。体部外面丸文。写真73-8～11は1 個体の中に展開する文様と思われる。	口縁部 ～体部片
73-8	染付碗	中国。端反り。口縁部内面2重圏線。体部外面竜文？ 写真73-7・9～11 は1個体の中に展開する文様と思われる。	口縁部 ～体部片
73-9	染付碗	中国。端反り。口縁部内面2重圏線。体部外面丸文（中は竜文？）。写真 73-7・8・10・11は1個体の中に展開する文様と思われる。	口縁部 ～体部片
73-10	染付碗	中国。端反り。口縁部内面2重圏線。体部外面文様あり。写真73-7～9・ 11は1個体の中に展開する文様と思われる。	口縁部 ～体部片
73-11	染付碗	中国。端反り。口縁部内面2重圏線。体部外面丸文（中は竜文？）。写真73-7 ～10は1個体の中に展開する文様と思われる。	口縁部片
73-12	染付碗	中国。端反り。口縁部内面2重圏線。体部外面草花文。口禿。	口縁部片
73-13	染付碗	中国。端反り。口縁部内面2重圏線。体部外面花蝶文。	口縁部 ～体部片
73-14	染付碗	中国。端反り。口縁部内面2重圏線。体部外面草花文。	口縁部 ～体部片
73-15	染付碗	中国。端反り。口縁部内面2重圏線。見込際1重圏線。体部外面草花文。	口縁部 ～体部片
73-16	染付碗	中国。端反り。口縁部内面2重圏線。体部外面草文。	口縁部片
73-17	染付小杯	中国。端反り。口縁部内面2重圏線。見込際2重圏線。体部外面花蝶文。 口禿。	口縁部 ～体部片
73-18	染付碗	中国。端反り。口縁部内面2重圏線。体部外面人物文。口禿。	口縁部片
73-19	染付碗	中国。端反り。口縁部内面2重圏線。体部外面文様あり。口禿。	口縁部片
73-20	染付碗	中国。端反り。口縁部内面2重圏線。体部外面山水文。	口縁部片
73-21	染付碗	中国。端反り。口縁部内面2重圏線。体部外面山水文。	口縁部 ～体部片
73-22	染付碗	中国。端反り。口縁部内面2重圏線。見込際1重圏線。体部外面草花文。 器面やや白濁。	口縁部 ～体部片
73-23	色絵鉢	中国。胎土は灰白色で粗い。口縁部内面1重圏線（赤色）。体部外面草花文	口縁部片

写真番号	器 種	特	徴	残存部位
		(一部の輪郭黒色, 他に緑・赤色)? 口禿。		
73-24	染付皿	中国。体部内面上半如意頭文, 体部外面文様あり。口禿。虫食いあり。被熱。		一部
73-25	染付皿	中国。見込文様あり。高台部際粗砂付着。内面不定方向の擦痕あり。		一部
73-26	染付皿	中国。口縁部緩く屈曲する。内外面縦線文。		体部片
73-27	染付皿	中国。口唇部輪花状に型打。芙蓉手。口禿。		体部片
74-1	染付皿	中国。口唇部輪花状に型打。芙蓉手。口禿。内外面斜位の擦痕あり。		口縁部片
74-2	染付皿	中国。体部内面如意頭文。口禿。虫食いあり。被熱し, 溶着。		体部片
74-3	染付皿	中国。芙蓉手 (外面にも文様あり)。口禿。		体部片
74-4	染付皿	中国。端反り。体部内面連続文。口禿。		体部片
74-5	染付皿	中国。口鏽, 内面瑠璃釉の地の上に掻き落として魚文。外面青白磁釉? 内面霧状に白濁。被熱。		体部片
74-6	色絵皿	中国。内面草花文 (輪郭は黒色で, 他に緑・紫色)? 高台部粗砂付着。体部の高台部際回るような擦痕顕著。被熱。		体部片
74-7	染付皿	中国。内面文様あり。高台部粗砂付着。被熱し, 溶着。		一部
74-8	染付変形皿	中国。折縁。体部は花卉状。胎土は粗い。虫食いあり。		体部片
74-9	染付変形皿	中国。折縁。体部は花卉状に型打。胎土は粗い。内面山水文。被熱し, 溶着。		体部片
74-10	瑠璃釉皿	中国。口鏽。内外面瑠璃釉。被熱。		体部片
74-11	染付皿	中国。胎土は赤橙色・浅黄橙色。体部内面草文。体部外面2重圈線。釉は厚く, 化粧がけをした上に呉須で絵付。全面に貫入する。		体部片
74-12	染付皿	中国。見込染付と陰刻で草花文・幾何学文。高台内虫食い顕著。高台内カシナケズリ痕。疊付際粗砂付着。被熱。		底部片
74-13	黄釉鉢?	中国。体部外面瑞獸文 (輪郭は陰刻)。内外面黄釉。瑞獸文は緑色他。被熱し, 溶着物顕著。		体部片
74-14	染付蓋	中国。上面如意雲・七宝文? 側面唐草文崩れ? 体部内面無釉。被熱し, 溶着。また溶着物あり。		一部
74-15	色絵皿	中国。胎土は灰白色。体部内面文様あり (黒色, 他は変色していて不明)。口鏽。体部外面小さい虫食いあり。		体部片


第36表 678号遺構出土胎載磁器観察表





写真番号	器 種	特	徴	残存部位
75-1	染付小杯	中国。口縁部に透しあり。口縁部外面亀甲繋ぎ。口唇部外面無釉。		口縁部片
75-2	染付碗	中国。胎土は灰白色で粗い。口唇部内面2重圈線。体部外面唐草文。釉中には細かい気泡生じる。		口縁部 ~体部片
75-3	染付碗	中国。口縁部内面2重圈線。見込際1重圈線。体部外面円の中に「万」の字。口禿。内外面とも霧状に白濁。		口縁部 ~体部片
75-4	染付皿	中国。折縁の部分? 胎土は灰白色で粗い。口縁部外面1重圈線。内面七宝文。		体部片
75-5	色絵皿	中国。内面霊枝文 (輪郭は赤, 黒色で, 緑, 黄色で充填)。外面2重圈線と他に文様あり (呉須)。		体部片
75-6	染付角皿	中国。内面唐草文。虫食いあり。疊付際・高台内粗砂付着。被熱。		底部片
75-7	染付皿	中国。胎土は灰白色。内面草花文, 体部外面唐草文。釉際には炎色 (褐色)		一部





写真番号	器 種	特 徴	残存部位
75-8	染 付 皿	出る。内面・体部外面不定方向の長い擦痕顕著。被熱。 中国。見込四角の中に山水文。高台内2重圈線に銘「  明嘉靖  製」 と渦福。第224図9と同一の器形・文様のものと思われる。包含層と接合。	底部片
75-9	染 付 皿	中国。内面区画割内に七宝文，体部外面文様あり。高台内1重圈線。高台 内虫食い。カンナケズリ痕あり。畳付際粗砂付着。	底部片
75-10	染 付 皿	中国。体部は波状に型打？ 見込四方襷・剣菱文。体部外面文様あり。高 台内2重圈線。畳付砂付着。見込不定方向の擦痕あり。被熱し，溶着物あ り。	底部片
75-11	染 付 壺	中国。口縁部は接合で，その部分から割れている。外面波濤文？ 内外面 施釉。外面釉は厚くかかり，文様が沈んでいる。貫入も入る。	肩部片
75-12	青 磁 碗	中国。見込印花文，体部外面は蓮弁文。内外面青磁釉（透明感のある緑灰 色）。高台内無釉。内外面とも不定方向の擦痕顕著。	下半片
75-13	青 磁 瓶	中国。筍形瓶。体部外面に横位の沈線が4条巡る。内外面青磁釉（水色。 枯青磁）で，貫入入る。外面不定方向の擦痕顕著。被熱。116号遺構と接 合。	体部片
75-14	白 磁 皿	中国。体部波状に型打。胎土は灰白色で粗い。口鏽。釉は胎土の色が透け て灰白色（厚い）。貫入入る。	体部片
75-15	染 付 皿	中国。内面卍文。高台内2重圈線。	一部
75-16	染付鉢？	中国。体部内面松文。体部外面山水文。外面の底体部際は釉が剥がれてい る。被熱。	体部片
75-17	黄釉鉢？	中国。体部外面陰刻（あるいは型打？）で草花文。内外面黄釉，草花文は 葉が緑・空色釉，花が紫釉。被熱し，貫入入る	体部片
75-18	黄釉鉢？	中国。体部外面瑞獸文（輪郭は陰刻）。内外面黄釉，瑞獸文は緑・紫釉。被 熱し，貫入入る。	体部片
75-19	黄釉鉢？	中国。体部外面瑞獸文（輪郭は陰刻）。内外面黄釉，瑞獸文は緑・紫釉。被 熱し，貫入入る。釉溶着，変色。	体部片










第37表 7号遺構出土陶磁器類観察表




() 推定値 < > 残存値 [] 蓋をした状態の器高










写真番号	種 別 器 種 生産地	法 量 (cm)	特 徴	残存部位
79-1	磁 器 飯 碗 瀬戸・美濃	口径 11.5 底径 3.7 器高 4.8	青磁色絵。口鏽。胎土はガラス質。人工具須で体部内面草花 文と漢詩(うす赤紫色の釉下絵具による銘あり)。体部から高 台部外面クローム青磁釉(黄緑色)。高台内1重圈線内に銘「其 王軒製」。見込不定方向の擦痕あり。	体部1/5欠
79-2	磁 器 飯 碗 瀬戸・美濃	口径 12.0 底径 4.2 器高 5.0	色絵。胎土はガラス質。人工具須で口青，体部内面草花文(1 箇所)，体部外面花草文(花はうす赤紫色，葉は緑色の釉下絵 具を一部使う)。高台内1重圈線内に「其王軒製」。見込・体 部外面不定方向の，体部内面横位の擦痕顕著。	完形
79-3	磁 器 鉢 肥 前	口径 14.6 底径 4.8 器高 6.7	染付。胎土はやや粉質。人工具須で見込2重圈線内に松竹梅 文，口縁部内面四方襷文，体部外面鶴文。内面・体部外面不 定方向の擦痕あり。	体部1/4欠
79-4	磁 器 飯 碗 瀬戸・美濃	口径 10.1 底径 3.4 器高 3.9	染付。胎土はガラス質。人工具須で口青，体部外面楼 閣山水文。高台内1重圈線内に銘あり(右記)。見込擦 れている部分あり。	 体部1/5欠







写真番号	種別 器生産地	法	量 (cm)	特	徴	残存部位
79-5	磁器 瀬戸・美濃	口径 底径 器高	9.8 3.6 5.0	染付。胎土はガラス質。人工具須で見込2重圈線内に文様あり(右記)。口縁部内面2重圈線、体部外面笹文。		体部1/4欠
79-6	磁器 瀬戸・美濃	口径 底径 器高	9.9 3.2 4.2	染付。胎土はガラス質。人工具須で体部外面草花文。他に同一文様・器形のもの2個体あり。		体部一部欠
79-7	磁器 肥前	口径 底径 器高	11.2 4.2 4.5	染付。胎土は粉質。人工具須で口青、口縁部内面瓔珞文、体部内面丸文の中に鶴亀・草花文。内面・体部外面不定方向の擦痕あり。		1/2
79-8	磁器 肥前	口径 底径 器高	10.4 3.9 4.1	染付。胎土は粉質。人工具須で口青、内面山水文、体部外面列点文(型紙摺)。焼継ぎ(高台内には○印)。		体部1/5欠
79-9	磁器 肥前	口径 底径 器高	10.8 4.0 4.5	染付。胎土は粉質。人工具須で口青、口縁部内面瓔珞文、体部外面蛸唐草文(型紙摺)。内面・体部外面不定方向の擦痕あり。		体部一部欠
79-10	磁器 鉢	口径 底径 器高	15.6 5.4 5.7	染付。胎土はややガラス質。人工具須で見込2重圈線内に松竹梅文、口縁部内面瓔珞文(型紙摺)、体部外面列点文に花唐草文(4単位・型紙摺)。見込不定方向の擦痕あり。		体部一部欠
79-11	磁器 瀬戸・美濃	口径 底径 器高	11.0 4.0 5.2	染付。胎土はガラス質。人工具須で見込2重圈線内に文様あり(右記)、口縁部内面松葉文?、体部外面縦線文内に笹文(3単位)? 疊付の幅広い(3mm)。		完形
79-12	磁器 瀬戸・美濃	口径 底径 器高	11.2 3.6 4.4	染付。胎土はガラス質。人工具須で口青、体部外面草花文。高台内1重圈線内に銘あり(右記)。見込不定方向の擦痕あり。		完形
79-13	磁器 瀬戸・美濃	口径 底径 器高	11.4 3.8 4.5	染付。胎土はガラス質。人工具須で口青、体部内面草花文(1箇所)、体部外面よろけ縞文、高台内1重圈線内に銘あり(右記)。見込擦れている部分あり。他に同一文様・器形のもの1個体あり。		体部1/4欠
79-14	磁器 小瀬戸・美濃	口径 底径 器高	9.9 5.3 2.2	白磁。腰部に段をもち、体部は外反する。胎土はガラス質。見込型打で「寿」文。他に同一文様・器形のもの14個体あり。		ほぼ完形
79-15	磁器 小瀬戸・美濃	口径 底径 器高	9.8 5.4 1.8	白磁。胎土はガラス質。		ほぼ完形
79-16	磁器 小瀬戸・美濃	口径 底径 器高	(10.6) 7.0 2.0	白磁。口錆。胎土はガラス質。見込不定方向の擦痕、擦れている部分あり。		2/3
79-17	磁器 手塩瀬戸・美濃	口径 底径 器高	7.1 4.4 1.8	染付。腰部に段をもち、体部は外反する。胎土はガラス質。見込型打で「寿」文の上にダミを施す(具須は青灰色)。		完形
79-18	磁器 小瀬戸・美濃	口径 底径 器高	11.6 5.6 1.6	染付。腰部に段をもち、体部は外反する。胎土はガラス質。見込型打で獅子文の上にダミを施す(人工具須)。		体部一部欠
80-1	磁器 小	口径 底径	14.2 6.4	白磁。口錆。蛇ノ目凹形高台。胎土はガラス質。見込・体部菊花状に型打。疊付から凹形高台内無釉。見込擦れている部		体部1/3欠


写真番号	種別 器種 生産地	法	量 (cm)	特	徴	残存部位
80-2	瀬戸・美濃 磁器 小皿	器高 口径 底径	3.4 13.6 6.2	分あり。 染付。蛇ノ目凹形高台。胎土はガラス質。呉須（青灰色）で見込丸文、体部内面螺旋文、体部外面崩れた唐草文。畳付から凹形高台部無釉。見込不定方向の擦痕、擦れている部分あり。		ほぼ完形
80-3	瀬戸・美濃 磁器 小皿	器高 口径 底径	3.3 13.8 6.0	染付。口銹。蛇ノ目凹形高台。胎土はガラス質。見込型打で、楼閣山水に雀文の上にダミを施す（人工呉須）。畳付から凹形高台部無釉。他に同一文様・器形のもの2個体、同一器形で見込の文様が楼閣山水文のもの1個体あり。		体部一部欠
80-4	瀬戸・美濃 磁器 小皿 肥前	器高 口径 底径 器高	2.6 17.0 9.1 2.6	染付。ハリ支え痕。胎土は粉質。内面折枝花文・蝙蝠文（墨弾き使用）、体部外面唐草文（4単位）、高台内1重圏線。釉は体部外面の一部白濁。内面・体部外面不定方向の細かい擦痕顕著。		体部1/4欠
80-5	瀬戸・美濃 磁器 小皿	器高 口径 底径	2.3 12.2 7.2	染付。胎土はガラス質。人工呉須で口青、内面笹に月文（吹墨）、体部外面折枝文（3単位）。高台内1重圏線内に銘あり（右記）。見込不定方向の擦痕あり。		体部一部欠
80-6	瀬戸・美濃 磁器 小皿	器高 口径 底径	2.9 12.4 6.4	染付。胎土はガラス質。人工呉須で口青、内面・体部外面区画割草花文。高台内1重圏線内に銘あり（右記）。見込不定方向の擦痕、擦れている部分あり。		体部一部欠
80-7	瀬戸・美濃 磁器 小皿	器高 口径 底径	2.7 (13.6) 7.2	染付。体部上半輪花状に型打。蛇ノ目凹形高台。胎土はガラス質。人工呉須で見込松竹梅文、体部内面条線文、体部外面崩れた竜文。畳付から凹形高台部無釉。他に同一文様・器形のもの2個体あり。		体部1/2欠
80-8	瀬戸・美濃 磁器 小皿	器高 口径 底径	2.2 12.0 6.2	染付。胎土はガラス質。人工呉須で内面から体部外面捻文。高台内1重圏線内に銘あり（右記）。		1/4欠
80-9	瀬戸・美濃 磁器 小皿	器高 口径 底径	2.6 15.8 8.2	青磁染付。胎土はガラス質。人工呉須で見込竜文、体部外面唐草文崩れ。内面から底体部外面クローム青磁釉（うす緑色）。高台内1重圏線内に銘「萬曆年製」。見込に釘書き「八中」畳付は内削ぎ状で幅が広い（8mm）。見込は不定方向の擦痕、擦れている部分顕著。他に同一文様・器形のもの1個体あり（ただし銘だけ相違）。		体部1/3欠
80-10	瀬戸・美濃 磁器 小杯	器高 口径 底径	3.7 5.6 2.0	白磁。胎土はガラス質。釉は外面青味がかる。		完形
80-11	瀬戸・美濃 磁器 小杯	器高 口径 底径	4.3 7.1 2.7	染付。胎土はガラス質。人工呉須で口縁部外面1重圏線。体部外面高台部際3重圏線。見込細かい擦痕、擦れている部分あり。		ほぼ完形
80-12	瀬戸・美濃 磁器 小杯	器高 口径 底径	4.0 6.2 2.7	染付。体部外面下半「〇」型の型打で平らにした後（7単位）、鋭い工具による縦位の線彫。胎土はガラス質。人工呉須（色うすい）で体部外面草花文と漢詩。高台内1重圏線内に銘「大明」？		完形
80-13	瀬戸・美濃 磁器 小杯	器高 口径 底径	4.1 5.9 2.6	染付。胎土はガラス質。人工呉須で体部外面松とザクロ文と漢詩。高台内1重圏線内に銘あり（右記）。他に同一文様・器形のもの1個体あり。		完形


写真番号	種別 器種 生産地	法	量 (cm)	特	徴	残存部位
80-14	磁器 瀬戸・美濃	口径 底径 器高	6.8 2.8 4.4	染付。胎土はガラス質。人工呉須で体部外面人物文と漢詩（横書き）。高台内1重圏線内に銘あり（右記）。		体部1/4欠
80-15	磁器 瀬戸・美濃	口径 底径 器高	6.3 2.6 2.7	染付。胎土はガラス質。人工呉須で体部外面松竹梅文。高台内1重圏線内に銘あり（右記）		ほぼ完形
80-16	磁器 瀬戸・美濃	口径 底径 器高	6.7 2.8 3.9	染付。体部外面「0」型の型打（8単位）。胎土はガラス質。青味がかかる。人工呉須で体部外面梅樹と草花文（ダミを施した後に葉脈線彫）。釉はやや厚くかかり、文様が沈んでいる。高台内1重圏線内に銘あり（右記） 外面鉄分が付着。		体部一部欠
80-17	磁器 瀬戸・美濃	口径 底径 器高	6.4 3.4 4.7	染付。体部外面「0」型の型打（7単位）。胎土はガラス質。人工呉須で体部外面草花文と漢詩。高台内2重圏線内に銘「棲碧亭笈閑造」。上げ底。		体部1/4欠
80-18	磁器 瀬戸・美濃	口径 底径 器高	7.0 2.8 4.5	染付。胎土はガラス質。人工呉須で体部外面楼閣山水文		体部1/4欠
80-19	磁器 瀬戸・美濃	口径 底径 器高	6.5 2.9 4.6	染付。胎土はガラス質で黒ずむ。人工呉須で体部外面篋と草花文。高台1重圏線内に銘あり（右記）。		完形
80-20	磁器 瀬戸・美濃	口径 底径 器高	6.6 3.1 4.6	染付。胎土はガラス質。人工呉須（色うすい）で体部外面鳳凰文（羽根の部分ダミを施した後に線彫。2単位）。釉はほぼ全面に貫入する。高台内1重圏線内に銘角福。		完形
80-21	磁器 瀬戸・美濃	口径 底径 器高	5.8 2.6 4.8	染付。体部外面下半「0」型の型打で平らにする（8単位）。胎土はガラス質。人工呉須で体部外面松竹梅文と漢詩。高台内1重圏線内に銘あり（右記）。		完形
80-22	磁器 瀬戸・美濃	口径 底径 器高	6.0 3.0 4.3	色絵。体部外面「0」型の型打（7単位）。胎土はガラス質。体部外面草花文（花・枝は人工呉須，葉は釉下絵具で緑色）。高台内1重圏線内に銘あり（右記）。		体部一部欠
80-23	磁器 瀬戸・美濃	口径 底径 器高	6.5 3.2 4.5	染付。胎土はガラス質。人工呉須で体部外面草花文と漢詩。高台内2重圏線。		ほぼ完形
80-24	磁器 瀬戸・美濃	口径 底径 器高	6.4 2.7 4.4	染付。胎土はガラス質。人工呉須で体部外面樹下人物文と漢詩。高台内1重圏線内に銘あり（右記）。		完形
80-25	磁器 瀬戸・美濃	口径 底径 器高	6.5 2.8 4.4	色絵。体部外面下半に「00」で1単位の鐮状の型打（6単位）。胎土はガラス質。体部外面縦縞文（人工呉須・緑色の釉下絵具）。高台内1重圏線内に銘あり（右記）。		体部一部欠
81-1	磁器 瀬戸・美濃	口径 底径 器高	6.4 2.3 3.1	白磁。体部外面中位に横位の隆線巡る。胎土はガラス質。他に同一器形のもの2個体あり。		完形
81-2	磁器 瀬戸・美濃	口径 底径 器高	5.8 2.4 2.8	色絵。疊付内側は屈曲し，高台部外面下半は突出する。体部上半は器厚うすい。胎土はガラス質。呉須（水色）で高台部外面幾何学文。高台内呉須で銘あり（右記）。 見込青色の白玉で「えつ弥」。写真98-6と同一器形（他		完形

写真番号	種別 器生産地	法	量 (cm)	特	徴	残存部位
				にも同一器形1個体あり)。		
81-3	磁器	口径	6.3	色絵。器厚うすい。胎土はガラス質。内面丸く松竹梅それぞれの絵を描く(黒・褐?・金・白色)が剥落している部分もあり。		体部1/3欠
	小杯	底径	2.8			
	瀬戸・美濃	器高	2.7			
81-4	磁器	口径	7.0	染付。胎土はガラス質で青味がかかる。人工呉須で体部外面草文。高台内1重圏線内に銘あり(右記)。		完形
	小杯	底径	3.2			
	瀬戸・美濃	器高	3.9			
81-5	磁器	口径	5.8	色絵。口唇部内側に窪ませて輪花状。器厚うすい。胎土はガラス質。呉須(青色)で高台部外面幾何学文、見込花卉文(花卉は青色の白玉,他に赤・金色)?高台内呉須で銘あり(右記)他に同一器形のもの1個体あり。		体部一部欠
	小杯	底径	2.3			
	瀬戸・美濃	器高	2.4			
81-6	磁器	口径	(6.3)	色絵。疊付内側は内湾し,高台部外面下半は突出する。体部上半器厚うすい。胎土はガラス質。呉須(水色)で高台部外面幾何学文。高台内呉須で銘「吉」。見込青色の白玉で「松京橋」。写真98-2と同一器形(他にも同一器形1個体あり)。		体部1/3欠
	小杯	底径	2.2			
	瀬戸・美濃	器高	2.9			
81-7	磁器	口径	6.1	染付。口縁部輪花状に型打。胎土は粉質。呉須で見込2重圏線内に松竹梅文。口縁部内面四方繡文。体部外面上半列点文,下半如意頭文崩れ。高台内に銘「成化年製」。		完形
	小杯	底径	3.4			
	肥前	器高	4.5			
81-8	磁器	口径	6.0	染付。上げ底。胎土はガラス質。人工呉須で体部外面草花文と漢詩(欠損のため不明)?高台内1重圏線内に銘あり(右記)。		体部上半1/4欠
	小杯	底径	2.8			
	瀬戸・美濃	器高	4.7			
81-9	磁器	口径	(5.7)	青磁色絵。型打成形で口縁部波状。体部外面指頭痕?全周。胎土はガラス質。人工呉須で口縁部内面1重圏線。体部外面釉下絵具でクワガタムシ文(クワガタムシは黒色,葉は緑色)。体部から高台部外面クローム青磁釉(うす緑色)。疊付から高台内無釉(釉ふきとり?)。高台内に刻印「春花」。他に同一文様・器形のもの1個体あり。		体部1/3欠
	小杯	底径	2.8			
	瀬戸・美濃	器高	(4.0)			
81-10	磁器	口径	8.4	色絵。胎土はガラス質。人工呉須で見込2重圏線内に草文,口縁部内面2重圏線,体部外面花鳥文(文様はおそらく板状のものでフチどりした中に絵具(ガラスか?)を流し込む(色は白・ピンク・赤・青・黄・紫・暗青・黄緑色)。高台内1重圏線内に「大日本半介製」銘。焼継ぎ。		体部1/4欠
	口絵小杯	底径	3.4			
	瀬戸・美濃	器高	4.6			
81-11	陶器	口径	6.0	疊付には3箇所の切り込みが入る。高台内には工具でつけた渦巻きあり。胎土は灰白色,緻密で堅緻。体部外面菱形文(鉄で黒色)。釉は内面から体部外面灰釉(灰白色)。高台部無釉。		完形
	小杯	底径	2.7			
	信楽	器高	4.3			
81-12	陶器	口径	6.4	手づくね成形?胎土は灰白色で緻密。底部外面から体部外面葉脈状に粘土を貼付。その後文字を彫り込む。内面から体部外面灰釉(灰白色)。底部外面無釉。他に同一器形のもの1個体あり。		体部一部欠
	小杯	底径	(3.4)			
	信楽	器高	4.2			
81-13	磁器	口径	8.2	青磁染付。口銹。体部外面縦位の線彫文,疊付は内側が内湾しており(この部分まで無釉),上げ底になる。胎土はガラス質。人工呉須で口縁部内面2重圏線。体部外面青磁釉(明緑灰色)。高台内1重圏線内に銘「山哲」。見込2重圏線内に「福寿永昌」。		体部一部欠
	茶碗	底径	2.9			
	瀬戸・美濃	器高	4.3			
81-14	磁器	口径	8.9	染付。胎土はガラス質。人工呉須で口縁部内面2重圏		完形


写真番号	種別 器生産地	法 量 (cm)	特	徴	残存部位
81-15	茶碗	底径 3.6	線。体部外面山水文。釉は全面白濁。高台内1重圏線内に銘あり(右記)。		完形
	瀬戸・美濃	器高 4.2			
	磁器	口径 8.8			
	茶碗	底径 3.1			
81-16	瀬戸・美濃	器高 4.2	写真98-16と同一器形(他にも4個体あり)。同一器形・文様のもの他に1個体あり。		完形
	磁器	口径 8.5			
	茶碗	底径 2.9			
	瀬戸・美濃	器高 4.1			
81-17	磁器	口径 7.6	染付。口銹(色うすい)。胎土はガラス質。人工具須で口縁部内面・見込2重圏線, 体部外面草花文と漢詩(横書き1行)。高台内1重圏線内に銘あり(右記)。畳付は内側が内湾している(この部分まで無釉)。		完形
	茶碗	底径 3.1			
	瀬戸・美濃	器高 3.9			
	磁器	口径 8.8			
81-18	茶碗	底径 4.3	染付。蛇ノ目高台。胎土はガラス質。人工具須で口青。見込花様の文様, 体部外面草花文, 高台内1重圏線。見込細かい不定方向の擦痕, 擦れている部分顕著。		体部一部欠
	瀬戸・美濃	器高 3.7			
	磁器	口径 9.1			
	茶碗	底径 3.6			
81-19	瀬戸・美濃	器高 4.2	染付。畳付の幅広い(3mm)。胎土はガラス質。人工具須で見込1重圏線内に草花文, 口縁部内面雷文崩れ, 体部外面牡丹と蝙蝠文, 高台内1重圏線。焼成不良で全面白濁, 見込不定方向の細かい擦痕あり。		完形
	磁器	口径 (8.5)			
	茶碗	底径 3.2			
	瀬戸・美濃	器高 3.9			
81-20	茶碗	底径 3.2	染付。胎土はガラス質。人工具須で口縁部内面崩れた連続文, 体部1/2欠体部外面区画割草花文。見込1重圏線内に「開化年制」銘。畳付の幅広い(5mm)。他に同一文様・器形のもの1個体あり。		完形
	瀬戸・美濃	器高 3.9			
	陶器	口径 6.9			
	茶碗	底径 4.4			
81-21	瀬戸・美濃	器高 6.5	染付。胎土はガラス質。人具須で口青, 体部外面人物文, 高台内1重圏線。見込・体部外面不定方向の, 体部内面横位の擦痕顕著。		ほぼ完形
	磁器	口径 7.6			
	茶碗	底径 4.4			
	瀬戸・美濃	器高 6.5			
81-22	磁器	口径 5.6	染付。器厚厚く, 上げ底。胎土はガラス質。人具須で体部内面上半山水文, 体部外面草花文と漢詩。高台内に銘「奇陶軒榭吉製」。		完形
	茶碗	底径 3.6			
	瀬戸・美濃	器高 5.9			
	磁器	口径 5.9			
81-23	茶碗	底径 3.6	青磁色絵。胎土はガラス質。口縁部内面人工具須で2重圏線。体部外面釉下絵具で松文(枝は黒色, 葉は緑色)。外面青磁釉(うす緑色)。高台内1重圏線内に銘あり(右記)。		完形
	瀬戸・美濃	器高 6.3			
	磁器	口径 5.3			
	茶碗	底径 3.7			
81-24	瀬戸・美濃	器高 6.0	染付。胎土はガラス質。人工具須で口青, 体部外面よろけ縞文。高台内1重圏線。		ほぼ完形
	磁器	口径 5.4			
	茶碗	底径 3.5			
	瀬戸・美濃	器高 6.3			
81-25	磁器	口径 5.4	染付。胎土はガラス質。人具須(水色)で体部内面上半山水文, 体部一部欠体部外面区画割文(四方禪文・市松文・七宝文)。高台内1重圏線内に銘「大明年製」。		体部一部欠
	茶碗	底径 3.5			
	瀬戸・美濃	器高 6.3			
	磁器	口径 5.3			
81-26	茶碗	底径 3.6	染付。器厚厚く, 高台内挟り込んで上げ底。胎土はガラス質。ほぼ完形人工具須で口青, 体部外面笹文と漢詩。畳付粗砂付着。		ほぼ完形
	瀬戸・美濃	器高 5.9			
	磁器	口径 5.3			
	茶碗	底径 3.6			
81-27	瀬戸・美濃	器高 5.9			
	磁器	口径 5.3			
	茶碗	底径 3.6			
	瀬戸・美濃	器高 5.9			

写真番号	種別 器種 生産地	法量 (cm)	特	徴	残存部位
81-28	磁器 茶碗 瀬戸・美濃	口径 5.6 底径 3.0 器高 6.3	染付。体部の高台部際に線彫文。高台内挟り込んで上げ底。胎土はガラス質で藤色(胎土自体に色がついている)。人工呉須で体部外面草花文と漢詩。高台部周囲粗砂付着。		ほぼ完形
81-29	磁器 茶碗 瀬戸・美濃	口径 5.0 底径 3.0 器高 6.1	高台内挟り込んで上げ底。胎土はガラス質。人工呉須で体部外面から高台部外面瑠璃釉。高台内1重圏線内に銘あり(右記)。		ほぼ完形
82-1	磁器 蓋 瀬戸・美濃	口径 9.6 器高 2.5	青磁染付。飯碗の蓋。胎土はガラス質。口縁部内面2重圏線。見込呉須(青灰色)で霊枝文。体部・高台部外面青磁釉(うす緑色)。高台内1重圏線内に銘あり(右記)。		ほぼ完形
82-2	磁器 蓋 肥前	口径 9.8 器高 2.5	染付。飯碗の蓋。胎土は粉質。人工呉須で口青。口縁部内面瑠璃文, 体部外面花蝶文(型紙摺)。高台内1重圏線内に銘あり(右記)。		体部一部欠
82-3	磁器 蓋 肥前	口径 9.5 器高 2.3	染付。飯碗の蓋。胎土は粉質。人工呉須で口青。型紙摺で内面唐字文(2単位)。体部外面列点文(3単位)。高台内1重圏線内に銘「本平製」。		体部1/4欠
82-4	陶器 蓋 肥前	口径 8.9 器高 2.3	染付。飯碗の蓋。胎土は粉質。人工呉須で見込2重圏線内に松竹梅文, 口縁部内面雷文, 体部外面列点文。		ほぼ完形
82-5	磁器 蓋 瀬戸・美濃	口径 9.6 器高 2.7	染付。飯碗の蓋。胎土はガラス質。人工呉須で口青。口縁部内外面瑠璃文, 体部外面草花文。高台内1重圏線内に銘あり(右記)。見込不定方向の擦痕, 擦れている部分あり。		体部一部欠
82-6	磁器 蓋 瀬戸・美濃	口径 9.5 器高 2.5	染付。飯碗の蓋。胎土はガラス質。人工呉須で口青。口縁部内面草花文。高台内1重圏線内に銘あり(右記)。見込擦痕あり。		体部一部欠
82-7	磁器 蓋 瀬戸・美濃	口径 10.5 器高 2.4	染付。胎土はガラス質。人工呉須で口青。体部外面より稿文。高台内1重圏線内に銘あり(右記)。見込・口唇部擦れている部分顕著。		体部一部欠
82-8	磁器 蓋 瀬戸・美濃	口径 7.4 器高 2.2	染付。飯碗の蓋。胎土はガラス質。人工呉須で体部外面草花文(高台内にも文様の続きあり)。		完形
82-9	磁器 蓋物 瀬戸・美濃	蓋長さ 7.4 器高 2.0 身長さ 8.6 器高 4.1 (5.8)	染付。平面形は正方形。底部の重ねの部分高台状。胎土は蓋・身ともガラス質。蓋・身とも人工呉須で体部外面草花文(絵付けした後に線彫)。蓋は口唇部無釉。身は口縁部内面・高台部際の重ねの部分無釉。		蓋 1/2 身体部1/4欠
82-10	磁器 蓋物・身 肥前	口径 9.1 底径 8.6 器高 5.2	染付。胎土は粉質。人工呉須で体部外面列点文(型紙摺)。口縁部内面・底部外面無釉。底部内面盛り上がっている。		体部一部欠
82-11	磁器 蓋物・身 肥前	口径 10.7 底径 9.7 器高 6.5	染付。胎土は粉質。呉須で体部外面花唐草文。口唇部・底部外面無釉。見込不定方向の擦痕あり。		体部1/6欠
82-12	磁器 蓋物・身 瀬戸・美濃	口径 11.6 底径 11.7 器高 4.8	染付。胎土はガラス質。人工呉須で体部外面稿文。口縁部外面・底部外面無釉。		体部一部欠
82-13	磁器	口径 11.6	染付。胎土は粉質。呉須で体部外面草文(3単位)。口縁部・		1/4欠



写真番号	種別 生産地	法 量 (cm)	特	徴	残存部位
82-14	蓋物・身	底径 7.6	疊付無釉。体部外面釉霧状に白濁。見込・体部外面不定方向の擦痕あり。	染付。基筭底。胎土は粉質。人工具須で体部外面山水文。口縁部内面・疊付無釉。	1/2
	肥 前	器高 6.5			
	磁 器	口径(14.4)			
82-15	蓋物・身	底径 (6.0)	染付。胎土は蓋・身ともガラス質。人工具須で上面から体部外面楼閣山水文(蓋と身と文様は一体)。蓋は口唇部から体部内面無釉。身は受け部無釉。	完形	
	肥 前	器高 6.4			
	磁 器	口径 6.3 器高 0.7			
82-16	蓋物	口径 5.2 器高 5.8	胎土は半ガラス質で緻密。疊付を除く全面緑釉。口唇部不定方向の細かい擦痕顕著。	1/6欠	
	瀬戸・美濃	口径 1.6 器高 [2.2]			
	磁 器	口径 9.8			
82-17	鉢	底径 8.4	染付。口唇部は内削ぎ状、底体部際小さな段あり(重ね物)、底部は内側に盛り上がる。胎土はガラス質。人工具須で体部外面列点文(型紙摺)。口唇部・底体部際の段無釉。	体部1/3欠	
	肥 前 ?	器高 4.0			
	磁 器	口径 5.7			
82-18	蓋物・身	底径 5.2	染付。蓋物の蓋。胎土は粉質。具須で外面花卉文。口縁部無釉。	完形	
	瀬戸・美濃	器高 1.4			
	陶 器	口径 9.5			
83-1	蓋	器高 4.5	青磁。胎土はガラス質。外面クローム青磁釉(うすい緑色)の上に口縁部外面・注口周囲黄褐色の釉かかる。底部外面・口縁部内面無釉。	完形	
	肥 前	口径 7.1			
	磁 器	口径 7.2			
83-2	急 須	器高 8.6	青磁色絵。胎土は蓋・身ともガラス質。蓋は外面草花文(釉下絵具。花はイチチン、葉は緑色、枝は黒色)。身は体部外面笹文と漢詩(釉下絵具。雪はイチチン、笹は緑色、漢詩は黒色)。外面クローム青磁釉(明緑灰色)。蓋は口縁部無釉。身は底部外面・口縁部内面無釉。底部の釉際炎色(橙色)出る。	蓋 完形 身 体部1/2欠	
	瀬戸・美濃	口径 6.9 器高 2.2 (7.6) 口径 5.9 器高 7.5 [9.0]			
	磁 器	口径 6.8			
83-3	急 須	底径 5.8	染付。胎土はガラス質。人工具須で体部外面山水文。底部外面・口縁部内面無釉。注口部のすぐ横が欠損しているためこの角度から撮影。	体部一部欠	
	瀬戸・美濃	器高 6.7			
	磁 器	口径 7.0			
83-4	急 須	底径 6.8	染付。胎土はガラス質。人工具須で体部外面草花文(ダミを施した後に葉脈は線彫)。底部外面・口縁部内面無釉。注口部横に銘あり。焼継ぎ。	完形	
	瀬戸・美濃	器高 7.0			
	磁 器	口径 5.6 器高 1.7			
83-5	急 須	口径 6.3 器高 5.8 器高 5.6 [7.0]	染付。胎土はガラス質。蓋・身一体の文様、人工具須で蝙蝠文(イチチンで輪郭を書く。蝙蝠ダミ書き。霞? は黒色)。蓋は口縁部無釉。身は口縁部内面・底部内面無釉。注口付近に銘あり(右記)。	 蓋 完形 身 把手欠	
	瀬戸・美濃	口径 4.4			
	磁 器	口径 4.4			
83-6	水差し ?	底径 5.5	染付。器厚が厚く、底部中央が盛り上がる。蓋がつく器形。胎土はガラス質。人工具須で体部外面よりけ縞文。口縁部内面・底部外面無釉。	ほぼ完形	
	瀬戸・美濃	器高 4.6			
	磁 器	口径 5.9			
83-7	蓋	器高 2.1	青磁色絵。急須の蓋。体部穿孔。胎土はガラス質。外面草花文(釉下絵具で花はイチチン、葉は緑色、枝は黒色)。外面クローム青磁釉(うす緑色)。口唇部無釉。	完形	
	瀬戸・美濃	口径 8.8			
	磁 器	口径 8.8			
83-8	蓋	器高 2.5	染付。急須の蓋。体部穿孔。胎土はガラス質。人工具須で体部外面草花文。口縁部無釉。	完形	
	瀬戸・美濃	口径 6.4			
	磁 器	口径(6.4)			
83-9	磁 器	口径(6.4)	染付。急須の蓋。体部穿孔。胎土はガラス質。人工具須で体	完形	

写真番号	種別 器種 生産地	法 量 (cm)	特	徴	残存部位
	蓋	器高 1.9	部外面草本文。口唇部無釉。		
	瀬戸・美濃				
83-10	磁器	口径 6.5	染付。急須の蓋。体部穿孔。胎土はガラス質。人工具須で体	完形	
	蓋	器高 2.8	部外面草花文(花の一部にうす赤色の釉下絵具を使う)。口唇		
	瀬戸・美濃		部無釉。		
83-11	磁器	口径 5.0	染付。急須の蓋。体部穿孔。胎土はガラス質。人工具須で体	完形	
	蓋	器高 1.9	部外面山水文。口唇部無釉。		
	瀬戸・美濃				
83-12	磁器	口径 5.8	染付。急須の蓋。体部穿孔。胎土はガラス質。人工具須で体	完形	
	蓋	器高 1.7	部外面山水文。口唇部無釉。		
	瀬戸・美濃				
83-13	磁器	長さ 9.5	染付。型打成形。胎土はガラス質。内面条線文・幾何学文の	完形	
	蓮華	幅 5.2	上に人工具須でダミを施す。底部外面無釉。底部外面縦位の		
	瀬戸・美濃	器高 5.0	長い擦痕顕著。他に同一文様・器形のもの1個体あり。		
83-14	磁器	長さ 10.8	染付。型打成形。胎土はガラス質。人工具須で体部内面3重	完形	
	蓮華	幅 4.6	圈線。釉は表面霧状に白濁。柄のつけ根外面に刻印あり(写		
	瀬戸・美濃	器高 3.2	真参照)。底部外面に3箇所が目痕あり。他に同一文様・器形		
			のもの10個体あり。		
83-15	磁器	長さ 11.1	染付。型打成形。器形は上からみると瓢箪形に型打。胎土は	完形	
	蓮華	幅 5.3	ガラス質。人工具須で口青、内面蕪文(葉の絵が体部外面に		
	瀬戸・美濃	器高 4.5	一部はみ出す)。底部外面無釉。		
83-16	磁器	口径 7.2	色絵。突起(3箇所)は貼付。胎土はガラス質。体部外面花	体部1/4欠	
	香炉	底径 3.2	卉文(輪郭は黒色、その中を赤・緑・青色で塗る。口唇部赤		
	瀬戸・美濃	器高 3.7	色)。体部下半から見込高台部無釉。		
83-17	磁器	口径(11.0)	胎土は白色で粉質。底部外面「一」刻印。内面擦れて平滑に	体部1/2欠	
	乳鉢	底径 7.2	なっている。		
	不明	器高(6.9)			
83-18	磁器	口径(3.4)	染付。首部外面につまみが2箇所貼付される。薄手。胎土は	口縁部一部欠	
	燗徳利	底径 4.7	ガラス質。人工具須で胴部外面雀と稲穂文。		
	瀬戸・美濃	器高 16.2			
83-19	磁器	口径(3.3)	染付。薄手。胎土はガラス質。人工具須で口縁外面・	ほぼ完形	
	燗徳利	底径 5.9	肩部際外面圈線。底部外面・首部以外無釉。胴部外面		
	瀬戸・美濃	器高 18.1	に銘あり(右記。1箇所)。他に同一文様・器形のもの		
			3個体あり。		
83-20	磁器	口径(3.2)	白磁。薄手。胎土はガラス質。底部外面・首部以外無釉。	ほぼ完形	
	燗徳利	底径 5.8			
	瀬戸・美濃	器高 15.5			
83-21	磁器	口径 8.6	染付。上げ底。底部内面には砂目痕5箇所あり。他に溶着物	胴部一部欠	
	花生	底径 7.8	もあり。胎土はガラス質。人工具須で体部外面桜と牡丹文・		
	瀬戸・美濃	器高 21.7	菊と草花文(型紙摺)。		
83-22	磁器	口径 4.7	白磁。胎土はガラス質。外面無釉。底部外面に刻印あり(写	完形	
	筒形容器	底径 4.5	真参照)。		
	瀬戸・美濃	器高 7.4			
84-1	陶器	口径 9.0	胎土はにぶい黄橙色、白色粗砂・透明粗砂多く含む。内面か	完形	
	飯碗	底径 3.0	ら体部外面白化粧の後(白化粧には虫食いが多い)、体部外面		

写真番号	種器 生産地	法	量 (cm)	特	徴	残存部位
	不	明	器高 3.5	に人工具須で草花文、口青、その上に透明釉がけ。全面に貫入する。高台内に刻印「周平」。内面ほぼ全面に褐色の付着物あり。		
84-2	陶器 瀬戸・美濃	口径	8.2	平面形・高台は正方形。胎土は灰白色。内面型打で見込花卉文。体部内面波濤文・斜格子文(4単位)。全面(骨付を除く)錆釉(黄褐色と暗褐色が斑状)。他に同一器形で文様が違うのもの3個体あり。	完形	
		底径	3.7			
		器高	2.4			
84-3	陶器 瀬戸・美濃	口径	8.5	胎土は灰色。粗砂を大量に含む。内面、体部外面灰釉(灰色)。口縁部・底部外面無釉。	完形	
		底径	6.7			
		器高	4.8			
84-4	陶器 瀬戸・美濃	口径	10.6	胎土は灰白色。内面から体部外面灰釉(灰白色)。口唇部・底部外面無釉。底部外面に墨書あり(文様?)。他に同一器形のもの3個体あり。	完形	
		底径	7.6			
		器高	4.5			
84-5	陶器 瀬戸・美濃	口径	7.0	底部回転糸切り痕。胎土はにぶい橙色。内面から体部外面灰釉(暗オリーブ色。胎土の色が透けている)。白濁している部分あり。口唇部・体部外面下半から底部外面無釉。	完形	部1/3欠
		底径	4.2			
		器高	3.2			
84-6	陶器 瀬戸・美濃	口径	4.8	胎土は浅黄橙色、緻密で堅緻。粘土質。体部外面に鉄のイッチン描き(周囲は赤色になる)? 他に同一器形のもの13個体あり。	ほぼ完形	
		底径	5.0			
		器高	3.5			
84-7	陶器 瀬戸・美濃	口径	5.3	胎土は淡黄色、緻密で堅緻。粘土質。他に同一器形のもの2個体あり。	完形	
		底径	5.0			
		器高	4.5			
84-8	陶器 瀬戸・美濃	口径	6.7	胎土は淡黄色、緻密で堅緻。粘土質。内面に褐色の付着物あり。他に同一器形のもの12個体あり。	完形	
		底径	7.0			
		器高	6.2			
84-9	陶器 瀬戸・美濃	口径	5.2	胎土は断面黒灰色、表面灰赤色。緻密で堅緻。粘土質。体部外面に十数個の刻印を押し、それが文様になっている。他に同一器形のもの1個体あり。	把手欠	
		底径	5.5			
		器高	6.6			
84-10	陶器 瀬戸・美濃	口径	4.8	胎土は断面灰色。表面灰赤色。緻密で堅緻。粘土質。把手の下に刻印「萬古陽桐軒 □」。他に同一器形のもの1個体あり。	把手欠	
		底径	4.4			
		器高	5.5			
84-11	陶器 瀬戸・美濃	口径	5.5	胎土は断面黒灰色。器面灰赤色。体部外面梅樹文(梅花は白地にピンク・黄・暗褐色。幹は白地に黄・暗褐色、枝は赤色。他に青色も使用)。把手横に刻印「萬古」。	把手欠	
		底径	6.0			
		器高	7.0			
84-12	陶器 瀬戸・美濃	口径	7.3	胎土は浅黄橙色。緻密で堅緻。粘土質。体部外面中位に横位の鉄のイッチン描き(周囲は赤色になる)? 他に同一器形のもの13個体あり。	完形	
		底径	7.8			
		器高	6.3			
84-13	陶器 瀬戸・美濃	口径	7.2	胎土はにぶい橙色と赤色の練込み。緻密で堅緻。粘土質。体部外面縦位の、注口は身から注口方向の、柄はつけ根から先端方向への鐫。他に同一器形のもの4個体あり。	完形	
		底径	7.2			
		器高	5.8			
84-14	陶器 瀬戸・美濃	口径	6.8	胎土はにぶい橙色と赤色の練込み。緻密で堅緻。粘土質。体部外面縦位の、柄はつけ根から先端方向への鐫。底部外面に墨書「東京第一病院内科第六号用」。他に同一器形のもの4個あり。	注口欠	
		底径	7.9			
		器高	6.7			
85-1	陶器	口径 器高	5.6 2.5	胎土は蓋身とも淡黄色。身の体部外面上半横位の細い		蓋 体部一

写真番号	種別 器生産地	法量 (cm)	特	徴	残存部位
	土 瓶 瀬戸・美濃	口径 7.8 器高 8.3 身底器高 10.4 〔12.2〕	条線施す。蓋外面身内面・体部外面柿釉（暗褐色）。蓋内面・身底部外面・口唇部無釉。蓋内面に刻印あり「ダチ八本」（右記）。内面の釉は光沢ない。蓋は他に同一器形のもの3個体あり。		部欠 身 ほぼ完形
85-2	陶 器 土 瓶 益 子	口径 6.3 器高 3.3 口径 8.4 器高 7.0 身底器高 10.2 〔12.2〕	胎土は灰白色。緻密で均質。蓋外面・身体部外面緑釉（緑色）。蓋・身の内面・底部外面無釉。底部外面煤ける。		蓋 完形 身 完形
85-3	陶 器 土 瓶 益 子	口径 6.2 器高 0.9 口径 7.2 器高 7.4 身底器高 8.7 〔9.2〕	胎土はにぶい橙色。緻密で均質。蓋外面・身内面・体部外面灰釉（灰オリーブ色）。底部外面無釉。蓋は他に同一器形のもの8個体あり。身は他に同一器形のもの1個体あり。		蓋 つまみ 欠 身 ほぼ完形
85-4	陶 器 土 瓶 益 子	口径 (2.6) 器高 1.4 口径 9.0 器高 8.2 身底器高 11.6 〔11.6〕	蓋は穿孔あり、底部回転糸切り痕。胎土は蓋・身とも浅黄橙色。緻密で均質。蓋は外面白泥の上に草文（深緑色）。身は体部外面上半イッチンで縦線文の上に梅花文（人工具須）。蓋は外面灰釉（浅黄橙色）。内面無釉。身は体部外面灰釉（浅黄橙色）。内面・底部外面無釉。底部外面黒ずむ。		蓋 完形 身 ほぼ完形
85-5	陶 器 土 瓶 益 子	口径 3.0 器高 1.8 口径 9.7 器高 8.6 身底器高 11.0 〔11.0〕	蓋・底部篋切り？ 胎土は蓋は灰白色、緻密で均質。身は浅黄橙色、緻密で均質。蓋は外面イッチンで斜格子文の上に梅花文（深緑色）。身は体部外面上半イッチンで縦線文の上に梅花文（人工具須）。蓋は外面灰釉（灰白色）で、内面無釉。身は体部外面灰釉（灰白色）で、内面・底部外面無釉。底部外面煤ける。蓋被熱。身は他に同一文様・器形のもの1個体あり。		蓋 体部一 部欠 身 ほぼ完形
85-6	陶 器 土 瓶 信 楽	口径 2.2 器高 1.7 口径 6.8 器高 6.8 身底器高 7.6 〔7.6〕	蓋は底部回転糸切り痕。穿孔あり。胎土は蓋・身とも浅黄色。緻密で均等。外面白化粧の上に、蓋は鉄（黒色）・黄緑色の釉下絵具で放射状の文様。身は鉄（暗褐色）・呉須で山水文。蓋外面・身内面から体部外面透明釉。蓋内面・身口縁部内面・底部外面無釉。身の内面褐色の付着物あり。底部外面黒ずむ。		蓋 完形 身 完形
85-7	陶 器 土 瓶 益 子 ?	口径 9.1 器高 3.1 口径 11.5 器高 10.4 身底器高 12.6 〔15.3〕	胎土は蓋は灰白色、緻密で均質、身は白色、緻密で均質。外面白化粧の上に人工具須で蓋は外面篋に菊花文、身は胴部外面上半篋に菊花文・梅樹に草文、下半如意頭文。蓋は外面透明釉。内面無釉。身は体部内面から体部外面透明釉。口唇部から口縁部内面・底部外面無釉。底部は黒ずんでおり、上げ底。蓋は他に同一文様・器形のもの1個体あり。		蓋 完形 身 完形
85-8	陶 器 土 瓶 益 子 ?	口径 7.2 器高 3.7 口径 8.7 器高 (18.7) 身底器高 (21.3)	胎土は灰白色。緻密で均質。蓋・身とも外面化粧がけの上に人工具須で草花文。蓋内面・身内面・底部外面無釉。身は他に同一文様のもの3個体あり、蓋は他に同一文様・器形のもの2個体あり。		蓋 完形 身 底部欠
85-9	陶 器 土 瓶 益 子	口径 2.6 器高 1.7 口径 6.9 器高 6.5 身底器高 8.3 〔8.3〕	蓋は底部は回転糸切り痕。胎土は蓋・身とも明赤褐色。緻密で均質。蓋は外面白泥の上に草文（深緑色）。身は体部外面窓絵山水文（白泥の上に深緑色・褐色絵具）。蓋は外面灰釉（灰白色）、内面無釉。身は体部外面灰釉（灰白色で、白濁している部分あり）。内面・底部外面無釉。底部外面黒ずむ。蓋は他に同一文様・器形のもの8個体あり。身は他に大きさは違うが同一器形のもの6個体あり。		蓋 完形 身 把手片 方欠

写真番号	種別 器生産地	法	量 (cm)	特	徴	残存部位
85-10	陶器	口径	8.4	胎土は浅黄橙色で、緻密。体部外面窓絵山水文（白泥の上に人工呉須で山水文）。体部外面灰釉（透明釉）。内面・底部外面無釉。底部外面に墨書「一」。底部外面黒ずむ。		一部欠
	土瓶	底径	7.4			
	益子	器高	20.5			
85-11	陶器	口径	7.0	外面底部際に突起あり（3箇所）。胎土は白色。緻密で均質。体部外面鉄（オリーブ黒色）で笹文。内面から体部外面灰釉（淡黄色）。全面に細かい貫入入る。口縁部内面・底部外面無釉。底部外面に刻印「帯山」。底部外面黒ずむ。		ほぼ完形
	土瓶	底径	6.1			
	京都	器高	8.9			
85-12	陶器	口径	5.8	胎土は灰白色で、緻密。外面灰釉（淡黄色）。写真102-13と組。他に同一器形のもの1個体あり。		完形
	蓋	器高	1.6			
	信楽					
85-13	陶器	口径	7.8	胎土は灰白色で、緻密。体部内面上半から体部外面灰釉（灰白色）。内面には灰釉うすくかかる。口唇部・底部外面無釉。見込白色粗砂付着。写真102-12と組。他に同一器形のもの1個体あり。		完形
	水注	底径	7.7			
	信楽	器高	8.9			
85-14	陶器	口径	(6.4)	胎土は灰白色で、緻密で堅緻。天井部外面花卉文(型打)。内面から体部外面灰釉（灰白色）。		完形
	水注	底径	4.0			
	信楽	器高	4.0			
85-15	陶器	口径	16.1	胎土は淡黄色、緻密で均質。体部外面上半白化粧の上に、人工呉須で漢詩。内面灰釉（灰白色）。体部外面上半灰釉（透明釉）。口唇部体部外面・下半から底部外面無釉。外面無釉部・見込煤ける。		ほぼ完形
	土鍋	底径	7.8			
	益子	器高	6.7			
85-16	陶器	口径	16.2	胎土は灰白色で、緻密。体部外面鉄（褐色）で唐草文崩れ。内面灰釉（灰白色。刷毛塗り）。体部外面灰釉（灰白色）。把手部は緑釉、口唇部・底部外面無釉。体部外面黒ずむ。写真106-10と組。		把手片方欠
	土鍋	底径	7.2			
	瀬戸・美濃	器高	6.2			
85-17	陶器	長さ	<9.0>	型打成形。底部外面に3箇所目痕あり。胎土は白色。見込竜文(型打)。全面黄釉。底面は擦れている部分顕著。他に同一個体のもの1個体あり。		柄先端欠
	蓮華	幅	5.7			
	不明	器高	<3.5>			
86-1	陶器	口径	2.7	口縁部は折返し。胎土は灰白色で、白色粗砂を多く含む。口縁部から胴部外面灰釉（灰白色）。底部外面周囲無釉。胴部外面に釘書き「八サ」。		完形
	徳利	底径	6.8			
	瀬戸・美濃	器高	19.6			
86-2	陶器	口径	4.1	口縁部は折返し。胎土は灰色で、粗砂を多く含む。口縁部から胴部外面灰釉（灰白色）。底部外面周囲無釉。胴部外面に釘書き「へ半」。胴部外面中位には焼成時の他個体との溶着痕1箇所あり。口唇部・胴部外面に不定方向の細かい擦痕顕著。		ほぼ完形
	徳利	底径	7.0			
	瀬戸・美濃	器高	20.2			
86-3	陶器	口径	3.5	口縁部は折返し。胎土は灰白色。口縁部から胴部外面灰釉（灰白色）。全面白濁している。底部外面周囲釉ふきとり。胴部外面に釘書き「㊥」。		完形
	徳利	底径	7.9			
	瀬戸・美濃	器高	20.7			
86-4	陶器	口径	3.4	口縁部は折返し。胎土は灰白色で、粗い。外面灰釉（灰白色）。底部外面周囲無釉。底部外面に墨書「本」。口唇部磨減している。		完形
	徳利	底径	6.4			
	瀬戸・美濃	器高	20.4			
86-5	陶器	口径	3.3	口縁部は折返し。胎土は浅黄橙色で、白色粗砂を多く含む。口縁部から胴部外面・中位灰釉（浅黄橙色）。胴部外面下位から底部外面無釉。胴部外面「◇□」釘書き。底部外面に墨書「◇」。口唇部磨減。		完形
	徳利	底径	6.5			
	瀬戸・美濃	器高	20.1			

写真番号	種別 器生産地	法 量 (cm)	特	徴	残存部位
86—6	陶器 徳利 瀬戸・美濃	口径 3.0 底径 7.1 器高 20.5	口縁部は折返し。胎土は淡黄色で、粗い。粗砂・礫（3mm大）を多く含む。口縁部から胴部外面灰釉（淡黄色）。底部外面周囲は釉ふきとり。胴部外面釘書きあり。胴部外面上位に焼成時の他の個体との溶着痕1箇所あり。口唇部磨滅して、地肌みえる。		ほぼ完形
86—7	陶器 徳利 瀬戸・美濃	口径 3.0 底径 7.2 器高 19.7	口縁部は折返し。胎土は灰白色。白色粗砂を多く含む。口縁部から胴部外面灰釉（灰白色）。底部外面周囲無釉。胴部外面に鉄釉書き「  」近啓 浅草 三間町。胴部外面に焼成時の他の個体との溶着痕2箇所あり。		完形
86—8	陶器 燗徳利 信楽	口径 6.3 底径 6.2 器高 15.4	胎土は淡黄色で、緻密。胴部外面格子文（黒色の鉄・緑釉）。口縁部内面から胴部外面灰釉（淡黄色）。底部外面無釉。		完形
86—9	陶器 変形徳利 志戸呂？	口径 2.0 底径 5.7 器高 15.4	胴部3箇所窪む。胎土は灰色。緻密で均質。口縁部から胴部外面錆釉（褐色）。底部外面に刻印「  」。		完形
86—10	陶器 変形徳利 瀬戸・美濃	口径 4.4 底径 8.3 器高 19.5	胎土は灰色で、粗い。黒色粗砂を多く含む。胴部外面上半横位の条線文。胴部を3箇所窪ませてその中に大黒天像を貼付。外面全面錆釉（暗褐色）。上半部には自然釉が斑状にかかる。他に同一器形のもの4個体あり。		完形
86—11	陶器 瓶 不明	口径 2.2 底径 8.9 器高 30.0	底部回転糸切り痕。胎土は灰色で、緻密。全面錆釉系（明褐色で光沢あり）。		完形
86—12	陶器 壺 不明	口径 3.0 底径 4.6 器高 19.0	胎土は灰色。胴部外面上半透明釉（オリーブ黒色）。胴部外面下半から底部外面暗褐色（施釉してあるのか否かは不明）。胴部外面焼成時の他個体との溶着痕あり。底部外面輪状の窯道具痕あり。他に同一器形のもの1個体あり。		完形
86—13	陶器 壺 不明	口径 (3.0) 底径 7.4 器高 9.1	胎土は灰白色。口縁部内面・底部外面柿釉（褐色）。口縁部から胴部外面鉄釉（黒色）。外面細かい不定方向の擦痕顕著。		口縁部1/2 欠
86—14	陶器 壺 不明	口径 2.2 底径 4.3 器高 4.6	胎土は断面灰色、外面にぶい黄褐色。粘土質で重たい。		完形
86—15	陶器 変形壺 瀬戸・美濃	口径 (2.0) 底径 3.8 器高 9.0	胴部2箇所窪む。胎土は灰色。外面柿釉（褐色）。		ほぼ完形
86—16	陶器 灯明皿 信楽	口径 7.2 底径 2.6 器高 1.5	胎土は灰白色、緻密で堅緻。内面灰釉（淡黄色）。全面に貫入する。		完形
86—17	陶器 灯明皿 信楽	口径 11.6 底径 4.1 器高 2.2	胎土は灰白色、緻密で堅緻。内面から体部外面上半灰釉（灰白色）。体部外面下半から底部外面無釉。		完形
86—18	土器 ひょうそく 在地	口径 (2.6) 底径 (2.3) 器高 1.5	土師質。底部回転糸切り痕。胎土は橙色。灯芯立て部の口唇部剥付着。		体部1/2欠
86—19	陶器	口径 6.8	胎土は灰白色、緻密で堅緻。受皿部内外面・脚台部外面灰釉		完形










写真番号	種別 器生産地	法量 (cm)	特	徴	残存部位
86-20	有脚受付灯皿	底径 4.0	(灰白色)。受部口唇部・脚台部内面・底部外面無釉。受部は低く、切り込みは逆アーチ状。		胎土は灰白色。内面から体部外面上半灰釉(灰白色)。全面に貫入する。体部外面下半から底部外面無釉。受部の切り込みは「U」の字状。
	信楽	器高 4.5			
	陶器	口径 11.3			
	受付き灯明皿	底径 4.1			
86-21	瀬戸・美濃	器高 2.0	胎土は灰白色、緻密で堅緻。内面灰釉(浅黄色)。全面に貫入する。受部口唇部・外面無釉。受部の切り込みは逆アーチ状。		胎土は灰白色。内面から体部外面上半灰釉(灰白色)。全面に貫入する。体部外面下半から底部外面無釉。受部の切り込みは「U」の字状。
	陶器	口径 10.0			
	受付き灯明皿	底径 3.8			
	信楽	器高 1.6			
86-22	陶器	口径 7.9	朝日焼? 口があったと思われる。退化した把手2箇所あり。口縁部1/4胎土は灰白色、緻密で堅緻。均質。内面・体部外面上・中位灰釉(灰白色)。口縁部内面・体部外面下位から底部外面無釉。底部際外面に刻印「朝日」。		胎土は灰白色。内面から体部外面上半灰釉(灰白色)。全面に貫入する。体部外面下半から底部外面無釉。受部の切り込みは逆アーチ状。
	鍋	底径 3.6			
	京都	器高 3.6			
	陶器	口径 (9.6)			
86-23	変形鉢	底径 4.0	碁笥底。把手のついていた痕あり。胎土は灰褐色。白色粗砂を大量に含む(ガラガラしている)。体部外面鉄(黒褐色)で走馬文。内面長石釉(貫入入)の後、外面灰釉(灰白色)。胎土は灰色、緻密で堅緻。粘土質で重い。口縁部から胴部外面自然釉がかかる(口唇部・胴部の一部は剝落)。		胎土は灰白色。内面から体部外面上半灰釉(灰白色)。全面に貫入する。体部外面下半から底部外面無釉。受部の切り込みは逆アーチ状。
	相馬大堀	器高 4.0			
	陶器	口径 4.0			
	壺	底径 3.8			
86-24	不明	器高 3.3	胎土は外面に赤褐色、緻密で堅緻。粗砂を多く含む。内面灰釉(透明感のない黄褐色)。他に同一器形のもの4個体あり。		胎土は灰白色。内面から体部外面上半灰釉(灰白色)。全面に貫入する。体部外面下半から底部外面無釉。受部の切り込みは逆アーチ状。
	陶器	口径 10.5			
	壺	底径 7.8			
	不明	器高 7.4			
87-1	陶器	口径 5.8	胎土は灰白色で、粗い。粗砂を含む。胴部外面柿釉(褐色)の上に、鉄釉(黒色)流しがけ。底部外面無釉。他に同一器形3個体あり。		胎土は灰白色。内面から体部外面上半灰釉(灰白色)。全面に貫入する。体部外面下半から底部外面無釉。受部の切り込みは逆アーチ状。
	漫瓶	底径 14.4			
	瀬戸・美濃	器高(15.5)			
	土器	口径 11.2			
87-2	植木鉢	底径 6.0	土師質。底部左回転糸切り痕。底部焼成前穿孔。胎土は橙色。底部焼成前穿孔。高台部に2箇所透しあり。胎土は橙色・灰褐色、緻密で堅緻。均質。全面赤色釉? 体部外面下位横位の擦痕顕著。		胎土は灰白色。内面から体部外面上半灰釉(灰白色)。全面に貫入する。体部外面下半から底部外面無釉。受部の切り込みは逆アーチ状。
	在地	器高 6.2			
	陶器	口径(17.2)			
	植木鉢	底径 9.8			
87-3	不明	器高 15.2	土師質。底部焼成前穿孔。底部回転糸切り痕。足は3個で貼付。胎土は橙色で、粗い。釉は外面白化粧(体部は貫入する)。底部外面に墨書「八上」。		胎土は灰白色。内面から体部外面上半灰釉(灰白色)。全面に貫入する。体部外面下半から底部外面無釉。受部の切り込みは逆アーチ状。
	土器	底径 2.8			
	植木鉢	器高 <3.7>			
	在地				
87-4	土器	口径 (9.0)	土師質。底部焼成前穿孔。足は3個で貼付。胎土は橙色で、粗い。内面・底部外面極暗褐色釉を刷毛塗りの後、黒色釉を厚くかける(全面に貫入する)。		胎土は灰白色。内面から体部外面上半灰釉(灰白色)。全面に貫入する。体部外面下半から底部外面無釉。受部の切り込みは逆アーチ状。
	植木鉢	底径 5.0			
	在地	器高 5.8			
	陶器	口径 9.9			
87-5	土器	口径 9.9	瓦質。底部焼成前穿孔。底部回転糸切りでの切離しを失敗したのが、その後静止糸切りで切離している。胎土は灰色で、粗い。		胎土は灰白色。内面から体部外面上半灰釉(灰白色)。全面に貫入する。体部外面下半から底部外面無釉。受部の切り込みは逆アーチ状。
	植木鉢	底径 5.8			
	在地	器高 5.7			
	陶器	口径 13.6			
87-6	鉢	底径 13.0	土師質。底部外面クロケズリ。胎土は橙色で、粗い。全面赤色絵具塗付の後、内面から体部外面透明釉(底部外面は無釉)。口唇部内側磨滅が顕著で、地肌がみえる。口縁部外面不定方向の擦痕顕著で地肌がみえる。		胎土は灰白色。内面から体部外面上半灰釉(灰白色)。全面に貫入する。体部外面下半から底部外面無釉。受部の切り込みは逆アーチ状。
	在地	器高 4.6			
	土器	口径 13.8			
	火鉢	底径 13.7			

写真番号	種別 器生産地	法量 (cm)	特	徴	残存部位
	在 地	器高 9.4	ミガキ。底部外面に刻印「大平」。口唇部内側磨滅。他に同一器形のもの2個体あり（ただし刻印はなし）。		
87-9	土 器 五 徳	底径 14.6	瓦質。台部は型打で、腕を貼付（腕部も型打?）。腕は3本で、断面は三角形。台部の断面は台形。他に同一器形のもの2個体あり。		腕部2本上 半欠
87-10	在 地 土 器 五 徳 京 都	器高 9.1 底径(13.2) 器高<4.6>	手づくね成形。腕は3本（2本残存）で断面は丸。台部の断面も丸。腕は3本（2本残存）。土は白色で、粗い。腕部外側に刻印「ふかくさ清和堂」。他に同一器形のもの1個体あり（同一刻印）。		台部1/2と腕 部下半（2本）
87-11	土 器 焼 塩 関 西	蓋 口径 5.2 器高 0.5 身 口径 5.6 底径 3.2 器高 5.5 (6.0)	蓋は型打成形で、片面指頭痕、片面未調整。身はロクロ水挽き成形。底部回転糸切り痕。蓋は橙色で粉質。白色針状物質を含む。身は橙色で、粉質。他に蓋同一器形のもの75個体。身同一器形のもの83個体あり。		蓋・身とも 完形
87-12	土 器 焼 塩 関 西	蓋 口径 5.9 器高 0.7 身 口径 6.4 底径 4.0 器高 6.1 (6.7)	蓋は型打成形、片面指頭痕、片面布目痕。身はロクロ水挽き形成。底部回転糸切り痕。胎土はにぶい橙色。他に蓋同一器形のもの12個体、身同一器形のもの12個体あり。		蓋 ほぼ完 形 身 完形
87-13	土 器 五 徳 京 都	底径(14.4) 器高 (9.6)	手づくね成形。腕は3本（2本残存）で断面は丸。台部の断面も丸。胎土は白色で粗い。腕部外側に刻印「ふか草松? 楽?」。		台部2/3と 腕部2本
87-14	舶載磁器 蓋 物 不 明	口径 7.4 底径 8.8 器高 4.6	白磁。胎土は白色で、粉質。白釉? 全面に貫入する。畳付釉ふきとり。底部外面に刻印「NAW 4」。		ほぼ完形
87-15	舶載陶器 筒形容器 イギリス	底径(25.2) 器高<15.4>	胎土は灰白色、緻密で堅緻、均質。内外面透明釉。底部外面釉ふきとり。体部外面刻印あり（写真参照）。		体部1/4残
87-16	舶載陶器 瓶 不 明	底径 7.3 器高<19.8>	胎土は灰白色、緻密で堅緻、均質。外面透明釉。底部外面釉ふきとり。胴部外面に刻印「N・KENNEDY BARROW-FIELD 14. POTTERY」		口縁部欠

第38表 2号遺構出土陶磁器類観察表

() 推定値 < > 残存値 [] 蓋をした状態の器高

写真番号	種別 器生産地	法量 (cm)	特	徴	残存部位
88-1	磁 器 飯 碗 瀬戸・美濃	口径 11.6 底径 4.0 器高 4.4	染付。体部外面下半に縦位の鎬が入る。胎土はガラス質。人工呉須で口青。口縁部内面1重圏線。体部外面草花文。高台内1重圏線内に銘「角福」。		体部1/6欠
88-2	磁 器 飯 碗 瀬戸・美濃	口径 9.8 底径 3.6 器高 4.8	染付。胎土はガラス質。人工呉須で見込1重圏線内に崩れた文様。口縁部内面2重圏線。体部外面草花文。釉際には炎色（橙色）出る。		体部一部欠
88-3	磁 器 飯 碗 瀬戸・美濃	口径(10.0) 底径 3.4 器高 (5.0)	染付。胎土はガラス質。人工呉須で松竹梅文(型紙摺)。口縁部内面環珞文。体部外面列点に花卉文(3単位)。見込擦れている部分顕著。		体部1/3欠
88-4	磁 器 小 皿 瀬戸・美濃	口径(14.6) 底径 7.2 器高 3.6	染付。口銹。体部輪花状に型打。蛇ノ目凹形高台。胎土はガラス質。呉須(紺色)で、見込型打(陽刻)菊花に波濤文の上にダミを施す。体部内面松文。見込不定方向の細かい擦痕あり。		体部1/2欠

写真番号	種別 器生産地	法量 (cm)	特	徴	残存部位
88-5	磁器 鉢	口径 12.6 底径 11.8	染付。高台部あり。胎土は粉質。人工呉須で口青。内面から		体部1/4欠
	肥前	器高 3.9	体部外面花卉文。高台内無釉。口唇部・見込擦痕あり。		
88-6	磁器 小杯	口径 6.2 底径 3.3	染付。胎土はガラス質。呉須（水色）で口縁部内面松		完形
	瀬戸・美濃	器高 4.2	葉状の連続文。体部外面漢詩。高台内に銘あり（右記）。		
88-7	磁器 茶碗	口径 5.1 底径 3.4	染付。体部外面下半鎗が入る。胎土はガラス質。人工		体部一部欠
	瀬戸・美濃	器高 5.5	呉須で口青。体部外面一重網目に魚文。高台内1重圈		
88-8	磁器 茶碗	口径 (5.4) 底径 3.8	染付。体部外面下半鎗が入り、器厚が厚い。胎土はガ		完形
	瀬戸・美濃	器高 6.0	ラス質。人工呉須で口青。体部外面草花文。高台内1		
88-9	磁器 茶碗	口径 7.3 底径 4.7	染付。胎土はガラス質。人工呉須で口青。口縁部内面		完形
	瀬戸・美濃	器高 7.4	1重圈線。体部外面草花文。高台内1重圈線内に銘あ		
			り（右記）。焼継ぎ（高台内に赤で「大」と「〇」とあ		
88-10	磁器 茶碗	口径 7.3 底径 4.0	胎土はガラス質。人工呉須で体部内外面菊文（葉の部分ダミ		完形
	瀬戸・美濃	器高 6.6	書きの後に線彫）と漢詩。高台際蓮華文。高台内無釉（放射		
88-11	磁器 仏花器	口径 (1.4) 底径 (3.0)	底部は挟り込み。胎土はガラス質。人工呉須で口縁部から胴		口縁部欠
	瀬戸・美濃	器高 (4.9)	部外面瑠璃釉。釉際には炎色（橙色）出る。畳付粗砂付着。		
88-12	磁器 蓋	口径 8.8	染付。飯碗の蓋。胎土はガラス質。人工呉須で体部外面花卉		完形
	瀬戸・美濃	器高 2.1	文（3単位。高台内にも文様の続きが描かれる）。内面霧状に		
88-13	磁器 蓋	口径 9.4	染付。飯碗の蓋。胎土は粉質。人工呉須で口縁部内面		ほぼ完形
	肥前	器高 2.5	幾何学連続文。体部外面松竹梅文。高台内1重圈線内		
88-14	磁器 蓋	口径 8.6	染付。飯碗の蓋。胎土はガラス質。人工呉須で口青。		ほぼ完形
	瀬戸・美濃	器高 2.2	体部外面人物文に漢詩。高台内1重圈線内に銘あり（右		
88-15	磁器 蓋	口径 9.6	染付。飯碗の蓋。胎土はガラス質。人工呉須で口青。		体部1/3欠
	瀬戸・美濃	器高 2.2	口縁部内外面瓔珞文。体部外面草花文。高台内1重圈		
88-16	磁器 蓋	口径 10.5	染付。飯碗の蓋。胎土はガラス質。人工呉須で口青。		ほぼ完形
	瀬戸・美濃	器高 2.5	体部内面花蝶文。体部外面草花文。高台内1重圈線内		
88-17	磁器 蓋	口径 10.1	染付。飯碗の蓋。胎土は粉質に近いガラス質。人工呉須で口		体部1/4欠
	肥前	器高 2.8	縁部内面雷文。体部外面唐草文（3単位）。見込擦れている部		
88-18	磁器 蓋	口径 7.7	染付。飯碗の蓋。胎土はガラス質。人工呉須で口青。		完形
	瀬戸・美濃	器高 2.2	体部内面笹文（1箇所）。体部外面月夜に笹文。高台内		
89-1	磁器 急須	口径 6.3 底径 6.7	染付。体部4箇所に窪みあり。平面形はやや角ばる。底部外		体部一部欠
			面工具による渦巻。胎土は粉質。人工呉須で体部外面ブドウ		

写真番号	種別 器種 生産地	法量 (cm)	特	徴	残存部位
	瀬戸・美濃	器高 7.3	文 (葉の部分はダミ書きの後線彫)。口縁部内面・底部外面無釉。		
89-2	磁器 急須	口径 7.1 底径 7.6	染付。体部外面横位の沈線型打の後、型打を削る工具による縦位の沈線。底部外面工具による渦巻文。胎土はガラス質。	把手と底部	1/2欠
	瀬戸・美濃	器高 8.1	人工具須で体部外面山水文。口縁部内面・底部外面無釉。		
89-3	磁器 土瓶	口径 7.1 底径 (6.6)	胎土はガラス質。人工具須で体部外面上半縦縞文。口縁部内面・底部外面周囲無釉。	完形	
	瀬戸・美濃	器高 7.6			
89-4	陶器 急須 万古系	口径 7.5 器高 1.9 口径 8.2 底径 6.0 口径 4.3 (5.5)	手づくね成形。胎土は灰白色。緻密で均質な粘土。蓋・身とも梅樹文 (型打陽刻)。自然釉 (褐色)? が部分的にかかる。つまみは回るようになっている。底部外面布目痕。	蓋 把手欠 身 完形	
89-5	陶器 水注 ?	口径 4.3 底径 3.8	注口・把手貼付。胎土は明褐色。緻密で均質。内面透明釉。外面灰釉 (明褐色)。全面に細かい貫入入る。白濁し剝離している部分もあり。底部外面周囲・口縁部内面無釉。釉際には炎色 (橙色) 出る。底部は挟り込み。あるいは油壺?	完形	
	瀬戸・美濃	器高 3.4			
89-6	陶器 小皿	口径 13.8 底径 6.7	胎土は灰白色で、粗いが均質。見込五弁花崩れ? 松文。体部外面も文様あり (すべて具須で絵付)。畳付を除く全面灰釉 (灰白色)。	体部内面	体部1/2欠
	瀬戸・美濃	器高 3.6			
89-7	陶器 蓋	口径 13.2	体部外面に3条の沈線が巡る。胎土は灰白色、緻密で堅緻。全面灰釉 (灰白色)。釉際には炎色 (橙色) 出る。口縁部・畳付無釉。高台内焼成時のひび割れあり。	体部一部欠	
	信楽	器高 3.7			
89-8	陶器 土鍋 信楽	口径 (13.8) 底径 (4.6) 器高 5.0	底部近くの外面に突起3箇所貼付。胎土は灰白色、緻密で堅緻。内面・体部外面上位灰釉 (灰白色)。口唇部・体部外面中・下位から底部外面無釉。	体部1/4欠	
89-9	陶器 蓋 不 明	口径 15.3 器高 4.2	土鍋の蓋。口唇部は幅広く (1.5cm)、内側に突出するかえりがある。高台部に3箇所切り込みあり。胎土は浅黄褐色で、堅緻。白色粗砂を大量に含む。体部外面白泥を円形に刷毛塗り? の後、鉄 (暗褐色) で松葉文と人工具須で松ぼっくり文 (3単位)。体部内面灰釉 (にぶい橙色)。口唇部無釉。釉際には炎色 (橙色) 出る。	完形	
89-10	陶器 蓋 瀬戸・美濃	口径 15.3 器高 2.5	土鍋の蓋。胎土は灰白色で粗い。外面円形文・菱形文 (暗褐色の鉄の上に灰白色の灰釉刷毛塗りの後、緑釉斑)。内面灰釉 (灰白色) 回るように刷毛塗り (見込無釉)。写真102-16と組。	体部一部欠	
89-11	陶器 蓋 不 明	口径 15.6 器高 3.1	土鍋の蓋。口唇部の幅広く (1.3cm)、内側に突出するかえりがある。胎土はにぶい赤褐色で堅緻。粗砂を多く、白色針状物質を含む。外面工具による放射状の条線文。口唇部を除く内面灰釉 (暗オリーブ色)。口唇部に輪状の窯道具痕あり。	完形	
89-12	陶器 蓋 不 明	口径 12.8 器高 2.7	土鍋の蓋。口唇部の幅広く (1.3cm)、内側に突出するかえりがある。胎土はにぶい赤褐色で堅緻。粗砂を多く、白色針状物質を含む。体部外面梅花文 (白泥で簡書き)。体部内外面灰釉 (暗オリーブ褐色)。口唇部無釉。	完形	
89-13	陶器 花瓶 不 明	口径 2.9 底径 6.0 器高 18.8	四角く型打。本来の胎土みえず。外面全面白化粧の後、透明釉。底部外面は白化粧のまま。底部外面に墨書「和」。	完形	
89-14	土器	口径 9.4	土師質。樽を形どる (口縁部・体部上半竹のタガ状の突起)。	完形	

写真番号	種別 器生産地	法	量 (cm)	特	徴	残存部位
	鉢	底径	7.8	上げ底。胎土は橙色で、粉質。全面白化粧の上に、タガ状突起はうす緑色。体部外面と山水文（帆かけ舟は赤色。松は黒色。山は黄褐色）・橋の欄干（黒色で輪郭。黄褐色で充填）。絵具の材質は不明（全面に貫入する）。高台内墨書あり（写真参照）。体部外面の文様内に「日本」「木や」とある		
	不 明	器高	6.9			
89—15	陶 器	口径	(19.7)	注口部貼付。胎土は灰白色（無釉部はにぶい橙色）、緻密で堅緻、均質。全面灰釉（灰白色）。高台部周囲無釉。見込に5箇所目痕あり。		
	片 口	底径	9.6			
	益 子	器高	10.5			
89—16	土 器	口径	4.1	土師質。底部左回転糸切り痕。底部焼成前穿孔。胎土は橙色。完形		
	植 木 鉢	底径	2.7			
	在 地	器高	2.9	土師質。底部左回転糸切り痕。胎土は橙色。全面白化粧と思われるが剥落部分が多い。植木鉢？		
89—17	土 器	口径	6.2			
	鉢	底径	2.9			
	在 地	器高	3.5	瓦質。口唇部には内側に突出する突起（2箇所残存）あり。1/2底部外面はケズリ。足（2個残存）は貼付。器面は外面黒色。内面黒灰色。断面は黒灰色が灰白色をサンドイッチ状に挟む。体部外面中・下位回転押圧文（細かい網目）の後、口唇部から体部外面横位のミガキ。		
89—18	土 器	口径	(18.6)			
	七 厘	底径	(13.6)			
	在 地	器高	15.4			